

平成25年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

[Web報告書もくじ](#) > [はじめに](#)

はじめに ～学習状況調査を生かした指導改善までのプロセス～

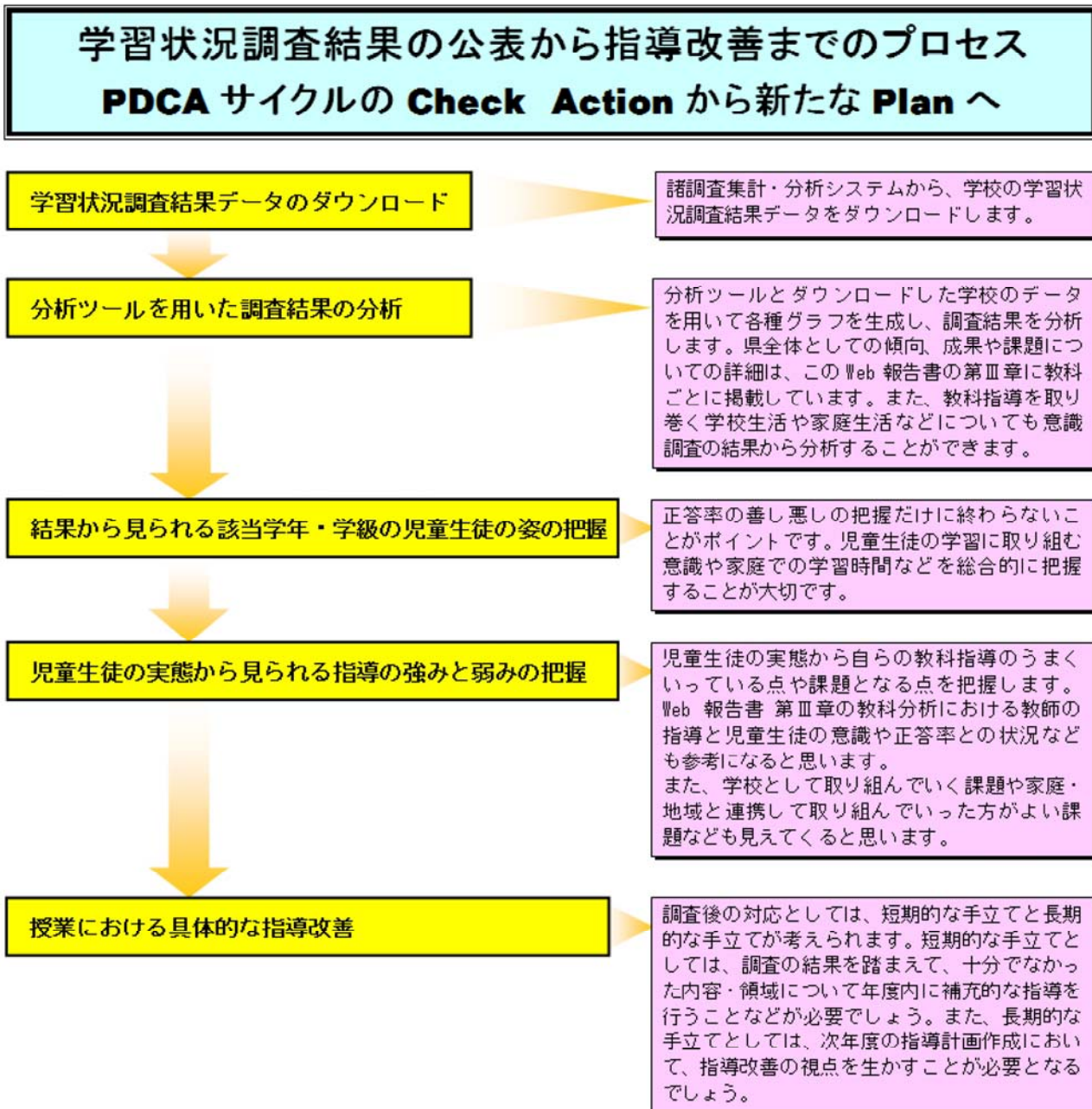
1 学習状況調査Web報告書公開の趣旨

佐賀県では、平成14年度から小・中学校学習状況調査を抽出調査で実施し、佐賀県の学力に関する課題の把握に努めてきた。平成18年度からは県全体の把握に加えて、各学校の教師が児童生徒一人一人の学習状況や学習・生活に対する意識等の実態を具体的に把握し、改善を図ることができるように、全数調査を実施してきた。また、調査結果をできるだけ学校現場の教師が生かしやすいように返却することに努めてきた。平成19年度より調査報告書をWeb発信することにより、より多くの教師が必要に応じて、必要な部分を活用できるようにした。また、平成21年度より調査時期を4月に変更することにより、年度中の早い時期に調査結果を各学校に返却できるようにした。平成25年度は、佐賀県小・中学校学習状況調査を4月24日・25日に、全国学力・学習状況調査を活用した調査を4月24日に実施した。5月16日には県正答率を公表し、個票をダウンロードできるようにした。各学校の調査結果を自動的にグラフ化する分析ツール及び分析ツールに必要な学校のデータについては、6月25日に公開した。

Web報告書では、佐賀県における今回の調査の結果概要や小学校・中学校の各教科における学習状況について詳細に分析し、学習指導及び児童生徒の学校生活・家庭生活の見直しに向けての示唆となるように努めた。

ここでまとめた分析を参考に、各学校における児童生徒の学習状況や生活状況を把握し、よさや課題を見付け出してほしい。さらに、課題解決の一つのアイデアとして、Web報告書の関係ページを学校全体で活用してほしい。よさや課題はそれぞれの地域や学校によって異なる。また、学校においても学年・学級、更には児童生徒の一人一人によさもあれば、課題を抱えている場合もある。教師がよさや課題に目を向けて指導を行っていくためにも、このWeb報告書を積極的に活用してほしい。

2 学習状況調査を生かした指導改善までのプロセス



上の図は「学習状況調査結果の公表から指導改善までのプロセス」を図式化したものである。多くの学校において、既に調査結果の分析が進んでいるものと推察される。分析を進めていく中で、今年度中に早急に手立てを取る必要がある短期的課題や、次年度の教育課程編成や年間の指導計画作成に当たって考慮すべき長期的課題などが見付かるであろう。今年度内に見極めと具体的なアクションを起こしてほしい。

小学校であれば、調査対象である第5・6学年だけのこととして捉えるのではなくて、中学年、低学年での指導はどうであったかというような視点をもって取り組むことが大切である。中学校であれば、第2学年での結果が最終学年である3年生でどのようになっているのかという視点をもって、義務教育修了までの指導の在り方について考えることも必要であろう。さらには、小学校第6学年から中学校第1学年というつながりの部分についても、校区内での連携を図ることを期待する。大切なことは、教師一人一人の取組とともに、学校や地域が組織的、継続的に取組を進めることにあるのではないだろうか。

3 報告書の概要と活用に向けて

第Ⅰ章は「調査の概要」についてまとめている。児童生徒意識調査と教師意識調査における設問の意図やカテゴリについても説明をしているので、各学校での分析の参考にしてほしい。また、平成19年度から導入した到達基準の設定と到達基準との比較による調査結果の分析方法についてもまとめている。各学校における目標設定の参考にしてほしい。

第Ⅱ章は、「調査結果の概要」についてまとめている。各教科の県正答率、評価の観点別正答率など県全体の傾向を把握することができるようになっている。各学校の調査結果と県の状況とを重ねてみることで、各学校のよさや課題が見えてくるであろう。また、児童生徒意識調査から見た佐賀県の子ども像(主に子どもの学校生活・家庭生活の様子が概観できる)、佐賀県の学習者像(学習に対する意識や取り組む態度などが概観できる)、教師意識調査から見た佐賀県の教師像(教師の指導の様子や指導に対する意識などが概観できる)をまとめている。

第Ⅲ章は、「各教科の調査結果の分析」についてまとめている。各教科における学習と指導の状況や成果と課題、さらには、具体的な設問を取り上げての指導改善の視点などをまとめているので、参考になる点については、指導に生かしてほしい。

第Ⅳ章は、「意識調査の結果の分析」についてまとめている。児童生徒意識調査については、児童生徒の学校生活・家庭生活など学習を取り巻く生活の状況について分析している。正答率等との関連が見られる部分については、その結果を記載している。学校生活におけるよさや課題の把握を進める上での参考になるであろう。また、家庭への協力を依頼する場合においても参考となるデータが得られるであろう。教師意識調査については、教師の意識と正答率等との関連について記載している。複数の教科に関係する内容や総合的な学習の時間の取組、学校組織マネジメントに関わることなどについてまとめている。グラフなども示しているので、各学校の状況と照らし合わせながら、指導に生かしてほしい。

第Ⅴ章は、「2つの課題」の改善に向けてまとめている。到達基準における「要努力」に位置する児童生徒の増加の要因と、各教科の記述式の設問に関する課題について、資料を基にまとめている。

4 指導改善のヒント

まずは、一人一人の教師が、自分の目の前にいる児童生徒の様子を思い浮かべながら、報告書を読んでほしい。「自分の学校の子どもはどうなのか？」とか「自分が指導している子どもたちはちゃんとできているのか？」など思ったことについて、分析ツールを使って調べてみてはどうだろうか。そこで見付かったよさや課題について、報告書の中の提言などをヒントにししながら、よりよい指導方法を自校の学習環境や自分の授業に取り入れることが指導改善の第一歩であろう。

しかしながら、個々の教師の取組だけでは、学校全体としての指導改善には至らないことが多い。一人の教師が6年間(中学校では3年間)を通して指導するということはまれであるし、中規模以上の学校では、学級集団も毎年変わるのが一般的である。系統的、継続的な指導を進めていくためには、どうしても学校としての共通理解・共通実践が必要であろう。また、様々な取組が行われてはいても、取組の教育的な意義や取り組む際の留意点などを指導する側の全ての教師が認識していなければ、数年で形骸化してしまうこともある。

問題を解決するためには、調査の結果や、日々の指導から得た経験知の中から、自校の課題となることを、全ての教師が共通に認識することが第一歩であろう。学校内での校内研修や教科部会等において、分析を行い自校の児童生徒の状況について考えてみるのが大切であろう。

よさについては、自校の成果として保護者や地域に対してもアピールすることができるし、更に伸ばすための手立てを考えていけば、ますますよい結果をもたらすであろう。課題については、改善に向けて、何らかの共通実践が必要であろう。どのような実践が望ましいかということについては、報告書の中でも多岐にわたって、提言をしている。これらを参考にしつつ、目の前の児童生徒のことをしっかりとイメージして、必要な実践内容を導き出してほしい。その際、関係する全ての教師が、継続的に共通実践できる内容であることをしっかり確認することが大切であろう。

課題となることは、国語、算数(数学)、理科、社会、英語の教科だけに関わる場合ではない場合もあろう。調査の対象とはなっていない教科においても、授業の進め方や宿題の出し方、学習形態の工夫など共通に取り組むべきことが多くある。関係教科だけの課題とせずに、学校全体として取り組むことが大切であろう。

教科指導における課題だけでなく、学校生活に関わることや家庭生活に関わることについても課題は見付かるであろう。課題の解決に向けては、生徒指導担当や教育相談担当などが中心となって手立てを考えていくことや、保護者会などを通して保護者に協力を求めていくことなども考えられる。分析ツールから出力される意識調査などの資料などが有効に活用できるであろう。

採点・入力と多くの教師の尽力によって実施された学習状況調査だが、得たデータには無限の可能性がある。教師一人一人のアイデアや学校の創意工夫によって、指導改善が実現し、佐賀県の児童生徒によりよい指導がなされることを望みたい。

最終更新日:2013-10-21

平成25年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

[Web報告書もくじ](#) > I 調査の概要

I 調査の概要

1 調査の趣旨

学習指導要領に示されている目標や内容の実現状況、学習に対する意識・態度や生活習慣及び教師の指導に関する意識を把握し、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
各学校は、児童生徒一人一人の調査結果を踏まえた指導改善を行うとともに、教育委員会は、課題解決に向けた施策の見直しや充実を図る。
なお、調査にあたっては、市町教育委員会と県教育委員会が協力し、一体となって実施する。

2 調査の対象

(1) 調査対象

[児童生徒]

調査対象は、小学校5年生・6年生、中学校1年生・2年生・3年生のそれぞれ全員とする。
ただし、特別支援学校及び特別支援学級に在籍している児童生徒のうち、対象教科にかかる当該学年の目標及び内容等の指導を受けていない場合、調査対象としない。

[教職員]

上記の調査対象児童生徒のうち、平成24年度に小学校第4・5・6学年、中学校第1・2学年を担当した教職員。ただし、平成24年5月以降に採用された講師については対象としない。

(2) 調査対象学校数及び調査対象人数

[児童生徒]

小学校	163校	第5学年	7,994人
		第6学年	8,334人
中学校	91校	第1学年(県立学校を含む)	8,157人
		第2学年(県立学校を含む)	8,045人
		第3学年(県立学校を含む)	7,808人
特別支援学校	6校	小学部第5学年	2人
		小学部第6学年	2人
		中学部第1学年	4人
		中学部第2学年	9人
		中学部第3学年	7人
		計	40,362人

[教職員]

(各学年担当者の延べ人数を表記)

小学校	第5学年(平成24年度)	小学校第4学年担当	439人
	第6学年(平成24年度)	小学校第5学年担当	504人
中学校	第1学年(平成24年度)	小学校第6学年担当	526人
	第2学年(平成24年度)	中学校第1学年担当	682人
	第3学年(平成24年度)	中学校第2学年担当	637人

3 調査の実施方法

(1) 調査実施日及び実施教科

	平成25年4月24日(水)	平成25年4月25日(木)
小学校第5学年	国語・算数	社会・理科
小学校第6学年	国語A・国語B・算数A・算数B	社会・理科
中学校第1学年	国語・数学(算数)	社会・理科
中学校第2学年	国語・数学	社会・理科・英語
中学校第3学年	国語A・国語B・数学A・数学B	社会・理科・英語

※ 小学校第6学年、中学校第3学年の国語、算数・数学は、平成25年度全国学力・学習状況調査の問題を使用し、全国学力・学習状況調査を活用した調査として実施。

※ 全国学力・学習状況調査(以下、全国調査)を活用した調査においても、佐賀県小・中学校学習状況調査と同様に、「修正エーベル法(橋本エーベル法)」に示されている手法を用いて到達基準(本章「7 到達基準の設定」参照)を設定する。

※ 学習や生活習慣等に関する児童生徒意識調査(以下、児童生徒意識調査)については別途時間を設けて実施。小学校第6学年、中学校第3学年は全国調査の質問紙調査を24日(水)に実施。

※ 学習指導等に関する教師意識調査(以下、教師意識調査)については平成24年度末に別途時間を設けて実施。

※ 中学校第1学年数学の調査問題については、小学校第6学年の学習範囲を中心に出題しているため、内容は算数となる。

(2) 調査時間

ア 教科に関する調査

小学校 各教科とも45分 各学校で時間を設定して実施。

中学校 各教科とも50分 各学校で時間を設定して実施。

※ 小学校第6学年、中学校第3学年については、全国調査のマニュアルに沿って実施。

イ 児童生徒意識調査

小学校・中学校とも20～30分程度、各学校で時間を設定して実施

※ 小学校第6学年、中学校第3学年については、全国調査のマニュアルに沿って実施。

ウ 教師意識調査

10～20分程度、各学校で随時実施

4 調査結果の処理

(1) 採点・入力

教科に関する調査については、各学校において採点を行い、教育センター諸調査集計・分析システムを利用して、Web上から採点結果を入力する。教師意識調査・児童生徒意識調査についても、同様にその回答状況をWeb上から入力する。

(2) 集計・分析

集計作業により教科ごとの設問別正答率、内容・領域別正答率、評価の観点別正答率を求め、本県において設定した到達基準(第7節を参照)との比較により、その実現状況を測る。また、意識調査の回答状況と正答率の相関に着目した分析を行う。その際、各学校における指導の状況を数値化するために学校スコア(※3参照)を算出して分析に用いる。

これらの集計結果を基に、各教科における傾向及び成果と課題を明らかにし、今後の指導に向けての提言を行う。なお、分析については、教育センターにおいて行う。

5 調査結果の返却方法

- (1) 集計・分析システムによる返却
調査対象となった各学校に対しては、諸調査集計・分析システムを介して、当該校の調査結果を返却するとともに、今後の指導改善に生かすことができる情報を提供する。調査結果個票は、各学校を通して、児童生徒に返却する。
- (2) 調査報告書による返却
調査結果から見られる県全体の傾向、各教科における成果と課題、これからの指導に向けての提言などをまとめた調査報告書を、佐賀県教育センターホームページから配信する。

6 調査の内容

- (1) 教科に関する調査
- ア 実施教科
小学校第5・6学年は国語、社会、算数、理科の4教科
中学校第1学年は国語、社会、数学(算数)、理科の4教科
中学校第2・3学年は国語、社会、数学、理科、英語の5教科
※ 中学校第1学年数学の調査問題については、小学校第6学年の学習範囲を中心に出题しているため、内容は算数となる。
- イ 調査問題
県が独自に作成した問題によって構成する。
※ 小学校第6学年、中学校第3学年の国語、算数・数学は、全国調査を活用した調査として実施。
- 「活用」に関する問題について
本県学習状況調査においては、全国調査の解説資料において示されている次の2つの出題範囲・内容のうち、〔主として「活用」〕に関わる問題作成の枠組みを基にして、各教科の「活用」に関する問題を作成している。
- ・〔主として「知識」〕…国語A、算数・数学A
身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など
 - ・〔主として「活用」〕…国語B、算数・数学B
知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容
- ウ 出題範囲
前学年で学習した内容を中心に出题する。
※ 小学校第6学年、中学校第3学年の国語、算数・数学は、全国調査の各教科解説資料に示してある。

(2) 児童生徒意識
調査

ア 意識調査の目的

本県児童生徒の学校生活・学習動機・学習活動やそれを取り巻く生活習慣・家族関係・地域における生活などについて広く調査し、その実態を把握する。学習に関わっては、更に詳細に各教科の学習に対する意識や学習に臨む態度の実態を把握する。また、それらが児童生徒の正答率(※1参照)とどのように関わっているのかということを明らかにする。

※ 小学校第6学年、中学校第3学年は全国調査の質問紙調査を実施。

イ 調査方法

児童生徒を対象とした質問紙法による調査を行う。

ウ 質問項目の構成

- (ア) 学校生活
- (イ) 学習動機
- (ウ) 学習活動(教科全般)
- (エ) 学習活動(各教科)
- (オ) 家庭学習
- (カ) 生活習慣等

質問項目とそれぞれの設問との関係は以下の表のとおりである。

質問項目	小学校 [全46問]	中学校 [全49問]
(7) 学校生活	1・2・3・4	1・2・3・4
(イ) 学習動機	5・18(ア・イ・ウ・エ)・20 (ア・イ・ウ・エ)・35・36	5・18(ア・イ・ウ・エ・ オ)・20(ア・イ・ウ・エ・ オ)・38・39 ※18(オ)・20(オ)は中2のみ
(ウ) 学習活動 (教科全般)	15・16・17・37	15・16・17・40
(エ) 学習活動 (各教科)	国語	19ア・22・23・24・25
	社会	19イ・26・27・28
	算数 数学	19ウ・29・30・31
	理科	19エ・32・33・34
	英語	19オ・35・36・37 ※中2のみ
(オ) 家庭学習	6・7・8・9・10・11・ 12・13・14	6・7・8・9・10・11・ 12・13・14
(カ) 生活習慣等	21・38・39・40・41・42・ 43・44・45・46	21・41・42・43・44・45・ 46・47・48・49

エ 質問の意図

(7) 学校生活

学校生活の楽しさ、好きな授業の有無などについて問うことにより、児童生徒の学校生活の実態を把握する。

(イ) 学習動機

勉強に対する興味や有用性、将来の夢や目標の有無について問うことにより、学習動機の高さについての実態を把握する。

(ウ) 学習活動(教科全般)

自分の考えを发表する機会や児童生徒の間で話し合う活動の頻度、自分の考えの表現に対する抵抗感について問うことにより、児童生徒の学習活動全般の実態について把握する。

(エ) 学習活動(各教科)

各教科の内容の理解度についての自己評価、各教科の特性に応じた学習内容や学習方法についての児童生徒の興味・関心・意欲・態度について問うことにより、それぞれの教科についての学習活動の実態について把握する。

(オ) 家庭学習

授業以外の勉強時間や勉強の内容、塾や家庭教師の有無など児童生徒の学習方法全般について問うことにより、児童生徒の家庭学習の実態について把握する。

(カ) 生活習慣等

読書時間、テレビやゲームなどの時間、就寝時刻、朝食や家の手伝いの頻度、地域における行事などへの参加の頻度などについて問うことにより、児童生徒の家庭における生活習慣の実態について把握する。

(3) 教師意識調査

ア 教師意識調査の目的

本県教師の指導理念や指導法についての意識、日々の授業における指導の実際を把握することを目的とする。また、それらが児童生徒の正答率とどのように関わっているのかを明らかにすることを目的とする。

イ 調査方法

調査対象学年を指導している教職員を対象とした質問紙法(教職員ポータルを介してWeb上から該当者が直接入力する方法)による調査を行う。

ウ 質問項目の構成

カテゴリ	小学校	中学校
(ア) 家庭学習への関与状況	設問2～8	設問2～8
(イ) 学習環境の活用	設問9～12	設問9～12
(ウ) 教科等全般における指導法の工夫	設問13～16 設問18～21	設問13～16 設問18～21
(エ) 教科等の特性に応じた指導法の工夫	設問17 設問22～31	設問17 設問22～34
(オ) 学校組織マネジメントに対する意識	設問32～34	設問35～37

エ 質問の意図

(ア) 家庭学習への関与状況

宿題を出している頻度や出している宿題の内容(予習的宿題・復習的宿題など)、宿題に関する指導状況について問うことにより、家庭学習への関与状況を把握する。

(イ) 学習環境の活用

授業におけるICT機器の活用頻度や活用場面、学校図書館の活用頻度とその活用内容を把握する。

(ウ) 教科等全般における指導法の工夫

発展的な課題を取り入れた授業の実施状況、理解が十分でない児童生徒に対する授業外での対応状況、書いて表現する活動や話し合い活動を取り入れた授業の実施(教科の授業・総合的な学習の時間)、身に付けさせたい力を意識した総合的な学習の時間の指導、学習方法についての指導状況、学習形態の工夫、目標や評価規準を明確にした授業の実施について問うことにより、発展的学習・補充的指導・表現力の育成、総合的な学習の時間の指導、学習方法の指導、学習形態の工夫、目標を明確にした指導などの状況を把握する。

(エ) 教科の特性に応じた指導法の工夫

国語における言語活動、読書指導、社会における調査学習を生かした発表・討論、算数・数学における算数(数学)的活動、問題解決的な学習、理科における見通しをもった観察や実験とそのまとめ、英語におけるコミュニケーション能力を高める指導や書く活動などについて問うことにより、各教科の特性に応じた指導法の工夫の状況を把握する。

(オ) 学校組織マネジメントに対する意識

教育活動方針の理解、方針や内容についての共通理解、職員間の雰囲気について問うことにより、学校組織マネジメントが児童生徒の正答率や児童生徒の学習に対する意識に及ぼす影響を把握する。

7 到達基準の設定について

(1) 調査結果の解釈に当たって

調査問題の作成に当たり、事前に設定した設問ごとの難易度に適合したものとなるよう、複数の委員が本県の児童生徒の実態を踏まえながら、指導に当たってきた経験に基づいて、問題内容を協議し、検討を重ねている。

問題の難易度は、調査した児童生徒のうち正答することが期待される者の人数の割合で示し、これを「期待正答率」と呼ぶ。本調査では、「期待正答率」として、各設問に「十分達成」「おおむね達成」という2つの基準値を設定している。

「おおむね達成」は、最低限これを上回る児童生徒が正答することが期待される人数の割合であり、下回っている場合は、学習内容の定着に課題があり、早急に改善の手立てが取られる必要があると考える。また、「十分達成」は、学習内容の定着が十分満足できると判断される基準であり、上回っている場合は、各地域・学校における取組の成果として評価できるものとする。

「期待正答率」を基にして算出した「到達基準」と調査結果の「正答率」を比較することにより、到達度を測ることができる。また、経年的な調査結果の比較により、定着に係る動向を知ることができる。各学校においては、調査結果に基づいて自校の取組を検証し、課題に応じた重点目標を設定し、解決に向けた指導改善を図っていくことが期待される。

(2) 基準設定方法の選択

到達基準の設定に当たっては、1972年にエーベルが提唱した「エーベル法」に橋本重治が修正を加えて考案した「修正エーベル法(橋本エーベル法)」(※2参照)を基本的な考え方として採用する。採用の理由として、個々の小問の判断に基づく設定方法として理論的に優れている「エーベル法」をより簡略化して利用できるようにしたものであること、この方法は実際に「教研式標準学力検査CRT」などにも採用されていることなどが挙げられる。

(3) 設定方法の概要

各小問(著書の中では「アイテム」と表現)を、関連性と困難度のマトリックスにおいて分類する。関連性は、「基礎的・基本的」(後への関連性が高い目標を測る問題)と「発展的・応用的」(比較的高度で、後の学習への関連性がそれほど高くない目標を測る問題)の2区分とし、困難度は「平易」「普通」「困難」の3区分とする。(表1のとおり)ただし、基礎・基本に分類される困難な目標は現実的ではないので、除外する。全ての小問は、表1中の(A)(B)(C)(D)(E)のいずれかに割り振られる。

表1 修正エーベル法におけるアイテム分類表

	平易	普通	困難
基礎的・基本的	(A)	(B)	—
発展的・応用的	(C)	(D)	(E)

また、それぞれの分類欄ごとの期待正答率は表2のように定められている。

表2 修正エーベル法における五つの分類ごとの期待正答率表

	平易	普通	困難
基礎的・基本的	0. 85(85%) (A)	0. 80(80%) (B)	—
	0. 65(65%)	0. 60(60%)	
発展的・応用的	0. 75(75%) (C)	0. 70(70%) (D)	0. 65(65%) (E)
	0. 55(55%)	0. 50(50%)	0. 45(45%)

(注) 上の数字は「十分達成」、下の数字は「おおむね達成」の場合を示している。

この表に基づいて、到達基準が算出される。

(4) 設定に当たっての具体的な手続き

- ① 調査問題を小問単位で、評価の観点別及び内容・領域別に分類する。
- ② 評価の観点別(もしくは内容・領域別)に分類された小問を表1に沿って、(A)～(E)に振り分ける。「知識・理解」「技能」「言語事項」などの観点についての小問の多くは「基礎的・基本的」に属するが、一部に「発展的・応用的」に属するものもあると考えられる。また、「思考」「資料の解釈・利用能力」「観察・実験の能力」「読解力」などの観点については、「発展的・応用的」に属する小問が多いと考えられるが、一部「基礎的・基本的」に属するものも含まれることが考えられる。
- ③ 分類が終わったら、評価の観点(もしくは内容・領域)ごとに分類表の各欄の小問数を確認する。
- ④ あらかじめ定められた期待正答率表(表2)の値を基にして、評価の観点(もしくは内容・領域)ごとに「十分達成」「おおむね達成」それぞれの到達基準を算出する。

表3 修正エーベル法による到達度基準の算出例

分類欄	小問数	十分達成		おおむね達成	
		期待正答率	小問数 ×期待正答率	期待正答率	小問数 ×期待正答率
(A)	4	0.85	3.40	0.65	2.60
(B)	3	0.80	2.40	0.60	1.80
(C)	2	0.75	1.50	0.55	1.10
(D)	2	0.70	1.40	0.50	1.00
(E)	1	0.65	0.65	0.45	0.45
合計	12	合計	9.35 (77.9%)	合計	6.95 (57.9%)

表3は、ある評価の観点(もしくは内容・領域)において(A)～(E)に分類される小問がそれぞれ4問・3問・2問・2問・1問であった場合の計算例である。それぞれの期待正答率と小問数の積の合計から導き出した得点を全小問数で割った数値(合計欄の下に示している%)がこの観点(もしくは内容・領域)の到達基準ということになる。

(5)本調査で設定した期待正答率表

本調査では、前に述べた理論を参考に、小学校と中学校の学習内容の違いなどを考慮して、次の表4と表5のように期待正答率を設定した。

表4 小学校における期待正答率表

	平易	普通	困難
基礎的・基本的	0. 85(85%) (A) 0. 65(65%)	0. 80(80%) (B) 0. 60(60%)	—
発展的・応用的	0. 75(75%) (C) 0. 55(55%)	0. 70(70%) (D) 0. 50(50%)	0. 65(65%) (E) 0. 45(45%)

表5 中学校における期待正答率表

	平易	普通	困難
基礎的・基本的	0. 75(75%) (A) 0. 55(55%)	0. 70(70%) (B) 0. 50(50%)	—
発展的・応用的	0. 65(65%) (C) 0. 45(45%)	0. 60(60%) (D) 0. 40(40%)	0. 55(55%) (E) 0. 35(35%)

8 到達基準による判定と今後の指導に向けて

(1) 到達基準を設定することの効用

従前、佐賀県小・中学校学習状況調査においては、国立教育政策研究所が平成15年度までに実施した教育課程実施状況調査の調査問題を使用して、その全国平均正答率を一つの指標として用いてきた。

国が公表した全国平均正答率はあくまでも設問ごとのものであって、評価の観点別、内容・領域別については公表されていなかった。そのため、評価の観点別、内容・領域別については、県が便宜的に、国が公表した設問ごとの全国平均正答率を束ねて算出した。また、平成15年度以前に実施された調査の結果との比較という点において、調査実施年の隔たりは年々大きくなっており、その信頼性や客観性についても課題があった。

平成19年度には調査問題の6～7割を、平成20年度より調査問題の全てを県が独自に作成し、設問ごと、評価の観点別、内容・領域別に到達基準を設定した。

本調査では、県があらかじめ設定した到達基準との比較において、県としての成果と課題を明確にすることができるとともに、各学校においても、到達基準との関係において、自校の学習指導の成果と課題を把握することが可能となっている。

(2) 到達基準の「十分達成」と「おおむね達成」のラインについて

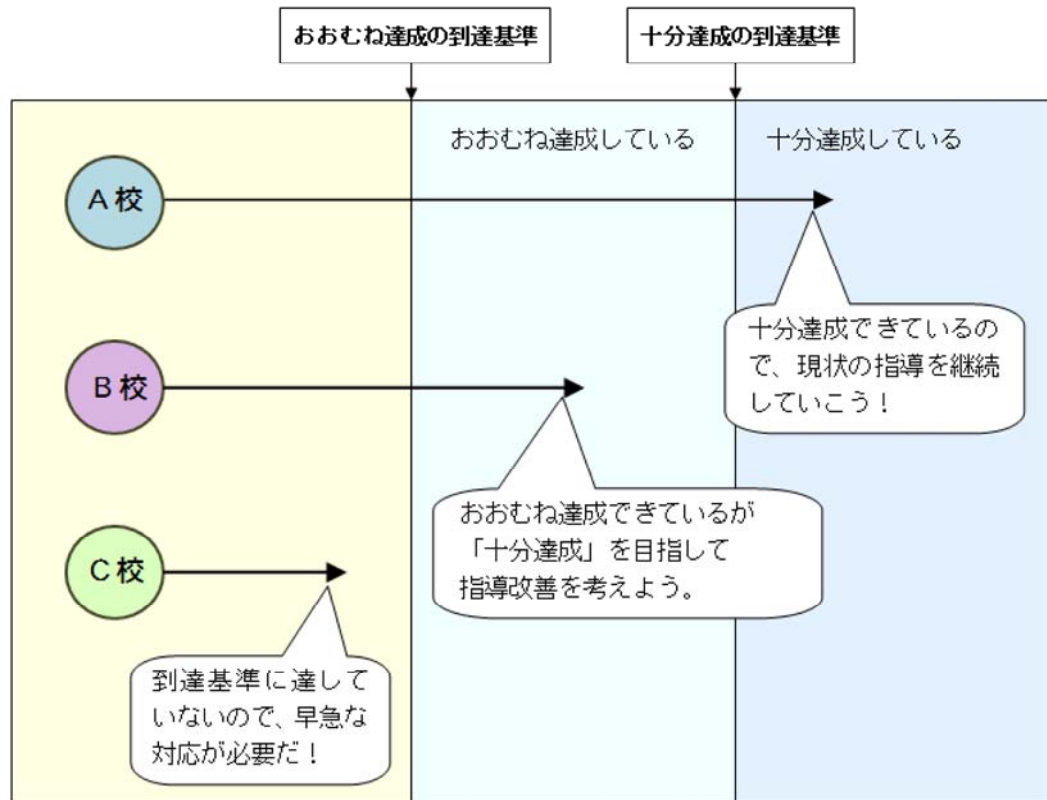
到達基準は、「おおむね達成」と「十分達成」の2つの分割点を設定することにより、各学校における到達の状況が明確となり、目標の設定が容易となった。

「おおむね達成」に到達していない教科や評価の観点、内容・領域については、緊急の課題であり、早急の対応が望まれる。必要に応じて年度内の補足的な指導などを施した上で、新年度につなげる必要があるであろう。

「おおむね達成」には到達しているが、「十分達成」には到達していない教科や評価の観点、内容・領域については、県が示す最低基準は達成していると考えられるが、更なる向上が望まれる。新年度の教育課程編成に関わって、指導改善に取り組むことが望ましい。

「十分達成」に到達している教科や評価の観点・内容・領域については、現状の指導が効果的に働いていることの表われであり、十分に成果が見られると考えられる。現状の指導を継続して差し支えないであろう。

到達状況についてイメージ図



図の中では、便宜上、A校、B校、C校としているが、校内においては、A、B、Cを、学級や一人一人の児童生徒とイメージして考えてほしい。また、矢印(→)を教科正答率としてとらえるだけでなく、教科内における特定の評価の観点や内容・領域の正答率と考えることにより、分析の幅が広がるであろう。

以上のように、各学校、各学年、各教科の到達状況を把握し、今後の短期的、または長期的なビジョンの中で、児童生徒への対応や教師による指導改善が図られることを期待したい。

(3) 今後の指導に向けて

到達基準との比較により、各学校において、教科、学年、学級などにおける指導の実現状況を把握することができたら、そのよさを更に伸ばし、課題を克服するために、個々の教師が指導改善に取り組むこととなる。

諸調査集計・分析システムから自校及び県全体の結果を集計したデータ及び分析ツールがダウンロードできるようになっている。また、県全体の成果と課題、及びこれからの指導に向けては調査報告書の第三章において教科ごとにまとめている。指導改善に向けての提言については、各学校の現状と照らし合わせながら、参考となる点を活用してほしい。

註

※1 正答率

正答率とは、学習の定着状況を示すために用いる、各設問における正答者数(準正答者数を含む)の解答者数に対する割合である。本報告書では、下記の方法で設問ごと正答率を算出している。

設問ごと正答率＝正答者数の合計÷(解答者数の合計－その他の数の合計)

県正答率	算出の方法
教科正答率	当該教科全ての設問を対象として、 各設問の正答数の合計÷(各設問の解答数の合計－各設問のその他の数の合計)
内容・領域別正答率	当該内容・領域に関わる設問を対象として、 各設問の正答数の合計÷(各設問の解答数の合計－各設問のその他の数の合計)
評価の観点別正答率	当該評価の観点に関わる設問を対象として、 各設問の正答数の合計÷(各設問の解答数の合計－各設問のその他の数の合計)

[→児童生徒意識調査へもどる](#)

※2 修正エーベル法

修正エーベル法(橋本エーベル法)の詳細については、下記の文献等を参考にいただきたい。

橋本 重治 『到達度評価の研究 その方法と技術』 1981年 図書文化社

橋本 重治 『続・到達度評価の研究 到達基準の設定の方法』 1983年 図書文化社

[→基準設定方法の選択へもどる](#)

※3 学校スコア

学校スコアとは、教師意識調査及び児童生徒意識調査の結果から、各学校における教師の指導や児童生徒の意識等に関する回答状況を数値化することを目的として、質問項目に対する回答選択肢ごとにポイントをつけて重み付けを行うことにより、独自に算出した値である。

(例) 宿題を出していますか。

1 多くの時間を出している → 100ポイント

2 どちらかといえば出している → 67ポイント

3 どちらかといえば出していない方が多い → 33ポイント

4 全く出していない → 0ポイント

各学校の教師、又は児童生徒の回答状況を上記のようなポイントに換算して、その学校の平均値を求めたものを学校スコアとして、分析に用いている。

[→集計・分析へもどる](#)

最終更新日:2013-10-21

平成25年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > II 調査結果の概要 > 全体の概要

II 調査結果の概要

教科に関する調査及び児童生徒意識調査の概要

1 教科に関する調査 全体の概要

- 県で設定した「到達基準」に対して「おおむね達成」の基準を上回ったものは、26教科中19教科であり、本県児童生徒の学習内容の習得状況は概ね良好であった。
- このうち、「十分達成」の基準を上回ったものは、中学3年国語Aであり、学習内容が十分習得されていた。
- 中学1年は、全教科とも「おおむね達成」の基準を上回った。
- 社会は、5学年のうち2学年で、理科は、5学年のうち3学年で、「おおむね達成」を下回った。

■各学年・教科の到達状況

教科	平成24年度の到達状況				平成25年度の到達状況			
	県正答率(A)	到達基準		「十分達成」に対する割合(A/B)	県正答率(A)	到達基準		「十分達成」に対する割合(A/B)
		十分達成(B)	おおむね達成			十分達成(B)	おおむね達成	
小5国語	86.6	80.0	80.0	0.83	59.3	80.2	80.2	0.74
小5社会	73.3	78.2	78.2	0.94	88.7	78.5	58.5	0.88
小5算数	65.0	79.5	59.5	0.82	66.6	79.1	59.1	0.84
小5理科	64.1	79.4	59.4	0.81	63.4	79.4	59.4	0.80
小6国語A	※1 82.6	※3 82.6	※3 82.6	1.00	※2 61.4	※3 80.6	※3 80.6	0.76
小6国語B	※1 52.6	※3 73.2	※3 53.2	0.72	※2 40.0	※3 72.0	※3 52.0	0.56
小6社会	69.3	78.0	58.0	0.89	53.0	79.5	59.5	0.73
小6算数A	※1 73.5	※3 82.9	※3 62.9	0.89	※2 77.2	※3 83.7	※3 63.7	0.92
小6算数B	※1 60.7	※3 71.9	※3 51.9	0.84	※2 59.9	※3 71.5	※3 51.5	0.84
小6理科	※1 63.7	※3 79.0	※3 59.0	0.81	58.0	79.4	59.4	0.73
中1国語	77.6	80.8	80.8	0.96	63.5	80.8	80.8	0.85
中1社会	61.6	78.8	58.8	0.78	59.6	79.2	59.2	0.75
中1数学	66.9	78.4	58.4	0.85	72.7	78.9	58.9	0.92
中1理科	68.1	79.3	59.3	0.83	61.4	79.4	59.4	0.77
中2国語	72.5	88.7	48.7	※4 1.05	61.6	69.8	49.8	0.88
中2社会	46.9	68.4	48.4	0.69	53.1	68.9	48.9	0.77
中2数学	43.7	69.5	49.5	0.63	53.8	69.4	49.4	0.78
中2理科	53.6	68.8	48.8	0.78	47.5	69.7	49.7	0.68
中2英語	63.4	66.2	46.2	0.96	60.2	64.8	44.8	0.93
中3国語A	※1 74.4	※3 72.3	※3 52.3	※4 1.03	※2 76.3	※3 72.7	※3 52.7	※4 1.05
中3国語B	※1 65.3	※3 62.2	※3 42.2	※4 1.05	※2 63.2	※3 64.4	※3 44.4	0.98
中3社会	49.7	68.7	48.7	0.72	46.2	69.1	49.1	0.67
中3数学A	※1 61.4	※3 74.3	※3 54.3	0.83	※2 62.1	※3 73.2	※3 53.2	0.85
中3数学B	※1 49.3	※3 65.0	※3 45.0	0.76	※2 42.7	※3 61.9	※3 41.9	0.69
中3理科	※1 50.1	※3 66.7	※3 46.7	0.75	45.9	69.0	49.0	0.67
中3英語	67.2	64.8	44.8	※4 1.04	59.3	64.2	44.2	0.92

※1 H24年度の小6国語A・B、小6算数A・B、小6理科、中3国語A・B、中3数学A・B、中3理科については、全国調査問題を県独自の基準で採点しているため正答率は参考値である。

※2 H25年度の小6国語A・B、小6算数A・B、中3国語A・B、中3数学A・Bについては、全国調査問題を県独自の基準で採点しているため正答率は参考値である。

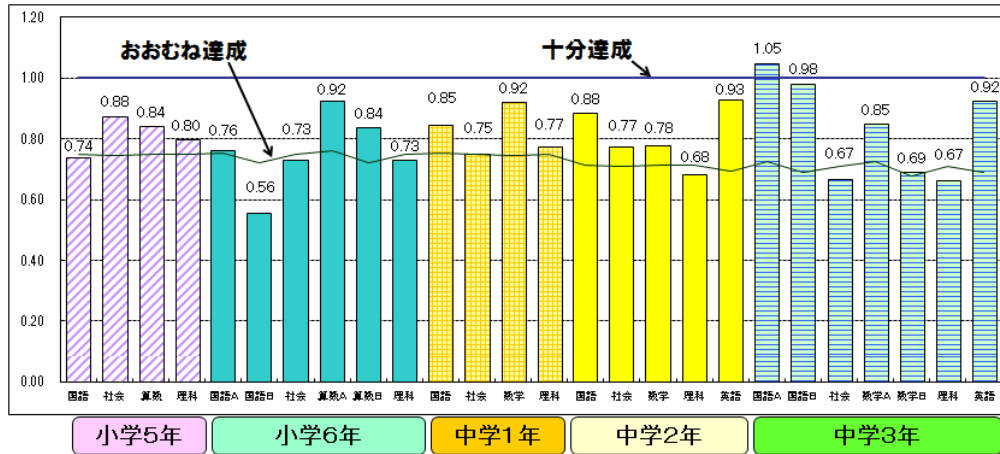
※3 H24年度の小6国語A・B、小6算数A・B、小6理科、中3国語A・B、中3数学A・B、中3理科及びH25年度の小6国語A・B、小6算数A・B、中3国語A・B、中3数学A・Bについては、全国調査問題を利用しているが、参考のために、県独自に到達基準を設定している。

※4 網掛けについては「十分達成」に対する割合が1.0を上回っている教科を示している。

※到達基準は、十分達成／おおむね達成のラインを示している → [到達基準の設定について](#)

県の各教科正答率の「十分達成」に対する割合をグラフに表すと次のようになる。「十分達成」を1.00としたときの、各教科正答率の比率を示している。「おおむね達成」の基準は各教科で若干異なる。

■各学年・教科正答率の「十分達成」に対する割合（十分達成=1.00）



2 教科に関する調査 教科ごとの概要

① 国語

- 学年別正答率では、小学5年、6年B以外は、「おおむね達成」の基準に到達していた。
- 小中学校ともに、伝えたいことを相手に分かるように話したり、適切な言葉遣いで話したりするなど、話す・聞く能力については、一部基準に満たない学年があるが、昨年までと同様、おおむね良好であった。
- 書く能力において、小学校では、目的に応じて必要な事項をまとめることに課題が見られた。また、中学校では、「おおむね達成」の状況であったが、書いた文章を読み返し、読みやすく分かりやすい文章にすることに課題が見られた。
- 読む能力については、小学5年、小学6年Bにおいて、「おおむね達成」の基準に到達していない。目的に応じて、要点をまとめたり、表現を比べたりすることには課題が見られた。

《指導改善のポイント》

- ◎ 6年間または9年間の指導事項を整理し、系統性を明らかにした上で、身に付けたい力に合った言語活動を位置付けた効果的な指導
- ◎ 国語での学びが日常生活で役に立つことを、児童生徒に実感させる学習指導の工夫
- ◎ 「書くこと」と「読むこと」とを関連付けた学習指導の充実

② 社会

- 教科正答率では、小学校6年生、中学校3年生以外は、「おおむね達成」に到達している。
- 小学校では、設問に合わせて必要な資料から必要な情報を読み取り、解答を導き出すことはおおむねできていたが、複数の資料を関連づけて解答を導き出すことについては、課題が見られた。また、中学校では、小学校同様必要な資料から必要な情報を読み取り解答を導き出すことはおおむね良好であったが、社会的事象について、資料から読み取ったこと、自分で解釈したことを文章で説明することに課題が見られた。
- 内容・領域別に見ると、小中学校ともに、地理的分野については、「おおむね達成」に到達している学年が多い。しかし、歴史的分野では、どの学年(小学校6年生、中学校1、2年の学習内容)も、「おおむね達成」に到達しておらず、学習内容の定着に課題が見られた。

《指導改善のポイント》

- ◎ 社会的事象の意味を説明したり、自分の考えをまとめたりする学習活動や、社会的な問題について解決策の有効性について話し合っていくことで自分の考えを作り上げていくような学習活動の工夫
- ◎ 確実な知識・概念の習得のために、既習の知識や資料から読み取った情報を関連付けて社会的事象の意味を説明する学習活動や、作業的、体験的な学習活動を取り入れた授業の工夫
- ◎ 習得した知識・概念や技能を活用して、自分が考えたことを説明したり、論述したりする学習活動の工夫

③ 算数・数学

- 小中学校ともに、四則計算や算数、数学に係る基礎的な知識など、基礎的・基本的な事項の定着はおおむね良好であった。
- 提示された条件を整理し、問題の解答方法を式や言葉で説明することなど、数学的な見方や考え方については、引き続き課題が見られた。
- 中学校では、「一次関数の表から変化の割合を求めると」「関数」の領域に課題が見られた。また、学習指導要領が変わり、新しく追加された指導内容(球の体積など「図形」に関わるもの、最頻値など「資料の活用」に関わるものなど)については、昨年同様課題が見られた。

《指導改善のポイント》

- ◎ 小集団活動などを通して、考えたことを言葉、式、図、表などを用いて根拠を明らかにして表現させ、それを基に筋道を立てて説明させる活動の充実
- ◎ 言葉や数、式、図、表、グラフなどを適切に用いて問題を解決したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりする指導の工夫

④ 理科

- 小学校・中学校ともに、自然の事象に関する基礎的な知識の定着については、一部の学年に「おおむね達成」の基準を満たしていない学年があるが、おおむね良好であった。
- 小学校・中学校ともに観察・実験の基礎的・基本的な技能の定着については、改善の傾向にあるが、まだ課題が見られる。
- 小学校では、例えば、「ペットボトルの周りに水滴がつくことを説明すること、また、中学校では、「資料を基に、冬の日本海側が太平洋側と比べて雪が多く降る理由を説明することなど、身の回りの自然現象を、学習した事項と関連づけて説明することに課題が見られた。

《指導改善のポイント》

- ◎ 知識・技能を確実に習得させ、それらを日常生活に活用させる指導の工夫
- ◎ 問題解決学習(中学校では探究活動)を充実させていくような指導の継続

⑤ 英語

- 2年生、3年生ともに、すべての観点で、「おおむね達成」の基準を上回っていたが、「複数の情報を関連付けて理解し、判断する力」には、課題が見られた。
- 内容・領域別に見ると、これまで課題であった「書くこと」では、テーマに合わせたまとまりのある英語の文章(複数センテンスを述べる)を書くことについては、改善の傾向が見られた。
- 理解の領域では、「疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して書く」など、基本的な文の構造を理解し、正しく書くことに課題が見られた。

《指導改善のポイント》

- ◎ 聞く活動において、様々な談話形式の英文を聞かせることや目的意識をもって聞かせることなど、多様な学習活動の充実
- ◎ 読解の際に、挿絵、写真、グラフ、及び表などの視覚的な情報を読み取らせることと本文の内容を関連付けていく指導の充実
- ◎ 文法指導を言語活動と一体的に行い、言語材料の定着を図る指導の工夫

3 児童生徒意識調査及び児童生徒質問紙の概要

※意識調査は県調査の児童生徒意識調査及び全国調査の児童生徒質問紙の回答を分析したもの。(共に、各学校で入力を行ったデータに基づいている。)

※平均正答率とのクロス集計は、全教科の平均正答率を示す。

(1) 授業への関心・理解度

○「各教科の学習が好き」という問いにして「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合の変化(同学年)を見ると、次の教科、学年において改善が見られる。

- ◇国語—中学1年、2年
- ◇社会—中学1年、2年
- ◇算数・数学—小学6年、中学1年、2年、3年
- ◇理科—中学1年

○国語科では、小学校5年、6年生、中学3年生で「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合が減少している。

また、同一児童生徒の意識の変化(経年変化)を見ると、学年進行に伴い、「当てはまる」と回答する児童が減少する傾向にある。

○「各教科の授業の内容はよく分かる」という問いに対して「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合の変化(同学年)を見ると、次の教科、学年において改善が見られる。

- ◇国語—中学1年、2年
- ◇社会—小学5年、中学1年、2年
- ◇算数・数学—全学年
- ◇理科—中学1年、2年

○同一学年児童生徒の意識の変容を見ると、小学校6年国語においては、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合が減少している。

《指導改善のポイント》

◎他教科や日常生活とのつながりを意識させる授業づくりを

児童生徒が教科の学習を好きになる理由の1つに、各教科の学習が「他教科や日常生活に生かせる」「将来役立つ」などの有用感がある。そこで、学習課題(学習問題)を日常生活から設定したり、他教科において学習した内容を生かさせるような学習の場を設定したりして、学習したことが他教科や日常生活と結び付いていることを意識付けることが大切である。

(2) 学習活動に関する意識

○「普段の授業では、自分の考えを発表する機会があたえられていると思う」の質問については、昨年度課題だった中学3年についても改善が見られ、全ての学年で、「当てはまる」と回答している児童生徒の割合が増加している。さらに、「普段の授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思う」の質問についても同様の傾向が見られた。

○「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのは難しい」の質問については、小学校5年で改善の兆しが見られるものの、他の学年では、昨年同様、「当てはまる」と回答している児童生徒の割合が減少している。

《指導改善のポイント》

◎自分の考えと他者の考えを比較する場の設定を

自分の考えを発表し交流する活動は、自分の考えと他者の考えとを比較する活動であり、児童生徒の思考力・判断力・表現力等を育成していく上で大切な活動である。考えを発表する場では、聞き手に相似点や相違点を考えながら聞かせたり、発表者に相似点や相違点を示しながら発表させたりするなどの工夫も大切である。

◎自分の考えを記述する活動を

自分の考えを文章に書いて表現する活動は、自分の考えを整理することにつながるだけでなく、自分の考えを明確にする効果も期待できる。自分の考えを書き表すための指導を丁寧にしていくことが大切である。

(3) 家庭学習に関する意識

○家庭での勉強時間は、月～金曜日、及び学校が休みの日のともに、1時間以上取り組んでいる児童生徒の割合が増加している。

○家庭学習の取組については、「自分で計画を立てて勉強している」「学校の授業の復習をしている」の質問に対して、一部の学年を除いて、「している」と回答した児童生徒の割合が増加している。

○「学校の宿題をしている」の質問に対しては、昨年度、改善の傾向にあったが、本年度は、中学1年以外の学年で「している」と回答した児童生徒の割合が減少している。

○全教科平均正答率との相関を見ると、「自分で計画を立てて勉強している」「学校の授業の復習をしている」の質問に対して、「している」、「どちらかといえばしている」と回答した児童生徒の正答率が高い傾向にある。

《指導改善のポイント》

◎家庭との連携を図り、家庭学習の定着を

家庭学習への意識を定着させるためには、年度当初に示すだけでなく、定期的に意識付けを図る必要がある。意識付けを図る方法の1つとして、児童生徒やその保護者を対象とした意識調査を行うことが考えられる。意識調査を定期的に行っていくことで、児童生徒に家庭学習の状況を振り返らせながら意識の定着を図るだけでなく、その保護者に対しても家庭での児童生徒の学習状況について考えてもらう機会としたい。

◎家庭での過ごし方に計画性を

学習時間を延ばすことも大切であるが、限られた時間をどのように活用していくかについて児童生徒に考えさせることも大切であるとする。1日の過ごし方や1週間の過ごし方について考えさせる時間を学校または家庭で確保し、計画的な過ごし方を意識させ、効率のよい学習習慣を身に付けさせることが大切である。

(4) 学校生活、家庭生活に係る意識

○学校生活については、「学校での生活は楽しい」の質問に対して、「そう思う」と回答した児童生徒は、小学5年は昨年並みだが、中学1年ではやや減少している。逆に、中学2年では増加している。

○「学校では落ち着いて勉強することができる」の質問に対して、小学5年は、昨年並みだが、中学2年で「そう思う」と回答した児童生徒の割合が増加している。逆に、中学1年では減少している。(県調査のみの質問であるため、小学6年、中学3年の結果はない。)

○家庭生活については、平日1日あたりのテレビやビデオ・DVDを視聴する時間が2時間以上の児童生徒の割合が、全ての学年で減少している。逆に、平日1時間以上テレビゲームをする児童生徒の割合は、全ての学年で増加している。また、テレビの視聴時間、ゲームをする時間が長いほど、教科平均正答率が低く、短いほど高い傾向がある。

○「朝食を毎日食べている」の質問については、「している」と回答した児童生徒の割合が、小学5年、6年、中学3年では増加しているが、中学1年、2年では減少している。

○「新聞やテレビのニュースなどに関心がある」の質問については、中学1年は昨年度並みだが、小学5年、中学2年では、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合が増加している。

※全国調査の項目が変更されたため、小学6年、中学3年は該当データなし。

○「将来の夢や目標をもっている」の質問については、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合が、全ての学年で増加している。

《指導改善のポイント》

◎ 支持的風土から安心して学習に取り組める環境づくりを

友達同士が、互いに認め合ったり励まし合ったりすることは、安心して学習に取り組める環境へとつながる。この安心して学習に取り組める環境が、学習者同士で互いの考えを安心して伝え合うことにつながる。つまり、安心して考えを伝え合うことは、安心して学び合うことであり、学力の向上へとつながっていくのではないかと考える。そのため、学級経営を基盤とした授業づくりが大切である。

◎ 家庭との連携を図り、計画的な過ごし方を

家庭での過ごし方についても家庭学習と同様に、計画性をもたせる必要がある。学校外での過ごし方について計画を立てさせることで、児童生徒にこれまでの過ごし方を振り返らせると共に、家庭でのよりよい過ごし方について考えさせることも大切である。

最終更新日：2013-10-21

平成25年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > II 調査結果の概要

児童生徒意識調査から見た佐賀県の子ども像(小学校第5学年) → [小学校第6学年](#) [中学校第1学年](#)
[中学校第2学年](#) [中学校第3学年](#)

児童生徒意識調査から見た佐賀県の子ども像 (小学校第5学年)

数値は、小数第1位を四捨五入している。

学校生活	
(「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」を合わせた割合)	
■学校での生活は楽しい……………91%	■学校では落ち着いて勉強できている……………87%
■友だちに会うのは楽しい……………97%	■好きな授業がある……………97%

学習動機	
(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合)	
■将来の夢や目標をもっている……………91%	
■各教科等の勉強は好きですか	
・国語……………82%	
・社会……………56%	
・算数……………87%	
・理科……………83%	
・総合的な学習の時間……………82%	
■各教科等の学習は、社会に出たときに役に立つ	
・国語……………90%	
・社会……………90%	
・算数……………93%	
・理科……………83%	
・総合的な学習の時間……………84%	

家庭学習	
■学校の授業以外に勉強をする時間 (月から金曜日)	
2時間以上……………22%	
1時間以上、2時間より少ない……………35%	
1時間より少ない……………39%	
全くしない……………4%	
■学校の授業以外に勉強をする時間 (土・日曜日)	
2時間以上……………22%	
1時間以上、2時間より少ない……………32%	
1時間より少ない……………35%	
全くしない……………11%	
■学習塾で勉強をしていますか(家庭教師を含む)	
学習塾に通っていない……………57%	
学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を勉強している……………17%	
学校の勉強でよく分からなかった内容を勉強している……………11%	
(「している」「どちらかといえば、している」を合わせた割合)	
■自分で計画を立てて勉強している……………63%	
■学校の宿題をしている……………94%	
■学校の授業の予習をしている……………50%	
■学校の授業の復習をしている……………56%	
■苦手な教科の勉強をしている……………58%	
■テストで間違えた問題について勉強をしている……………60%	



学習活動	
(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合)	
■普段の授業で、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う……………76%	
■普段の授業で、学級の友だちとの間で話し合う活動をよく行っていると思う……………81%	
(「難しい」「どちらかといえば、難しい」を合わせた割合)	
■学校の授業などで、自分の考えを説明したり、文章に書いたりするのは難しい……………61%	
(「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」を合わせた割合)	
■授業で電子黒板や大型テレビなどが使われるようになって、今までより授業の内容が分かりやすくなった。……………80%	

生活習慣等	
■読書は好きだ……………85% (「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合)	
■家や図書館で、ふだん1日あたりどれくらい読書しますか	
30分以上、1時間より少ない……………25%	10分以上、30分より少ない……………27%
10分より少ない……………14%	全くしない……………11%
■昼休みや放課後、学校が休みの日に学校図書室や地域の図書館へどれくらい行きますか	
週に1～3回……………24%	月に1～3回……………23%
年に数回程度……………19%	ほとんど行かない……………22%
■朝食を毎日食べている……………94% (「している」「どちらかといえば、している」を合わせた割合)	
■ふだん(月～金曜日)、何時頃に寝ますか	
午後9時以降、10時より前……………49%	午後10時以降、11時より前……………29%
	午後11時以降、午前0時より前……………7%
■ふだん(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、テレビやビデオ、DVDを見たり、聞いたりしますか	
3時間以上……………30%	2時間以上、3時間より少ない……………23%
1時間以上、2時間より少ない……………27%	1時間より少ない……………17%
■ふだん(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、テレビゲームをしますか	
2時間以上……………26%	1時間以上、2時間より少ない……………23%
1時間より少ない……………32%	全くしない……………22%
■家の手伝いをしていますか	
よくしている……………46%	ときどきしている……………41%
	あまりしていない……………10%
(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合)	
■新聞やテレビのニュースなどに関心がある……………65%	
■今住んでいる地域の行事に参加している……………76%	

最終更新日:2013-10-21

平成25年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > II 調査結果の概要

児童生徒意識調査から見た佐賀県の子ども像(小学校第6学年) → [小学校第5学年](#) [中学校第1学年](#)
[中学校第2学年](#) [中学校第3学年](#)

児童生徒意識調査から見た佐賀県の子ども像 (小学校第6学年)

学校生活

数値は、小数第1位で四捨五入している。

(「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」を合わせた割合)

- 学校に行くのは楽しい ……85%
- 友だちに会うのは楽しい ……95%

学習動機

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合)

- 将来の夢や目標をもっている ……88%
- 各教科の勉強は好きですか
 - 国語 ……55%
 - 算数 ……66%
 - 英語 ……79%
- 各教科の学習は、社会に出たときに役に立つ
 - 国語 ……88%
 - 算数 ……90%
 - 総合的な学習の時間 ……87%

家庭学習

■ 学校の授業以外に勉強をする時間 (月から金曜日)

- 2時間以上 ……22%
- 1時間以上、2時間より少ない ……39%
- 1時間より少ない ……36%
- 全くしない ……3%

■ 学校の授業以外に勉強をする時間 (土・日曜日)

- 2時間以上 ……23%
- 1時間以上、2時間より少ない ……34%
- 1時間より少ない ……33%
- 全くしない ……10%

学習活動

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合)

- 普通の授業で、自分の考えを发表する機会が与えられていると思う ……78%
- 普通の授業で、学級の友だちとの間で話し合う活動をよく行っていると思う ……76%

(「難しい」「どちらかといえば、難しい」を合わせた割合)

- 学校の授業などで、自分の考えを説明したり、文章に書いたりするのは難しい ……65%

(「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」を合わせた割合)

- コンピュータや電子黒板を使った授業は分かりやすいと思いますか ……88%



■ 学習塾で勉強をしていますか(家庭教師を含む)

- 学習塾に通っていない ……58%
- 学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を勉強している ……17%
- 学校の勉強でよく分からなかった内容を勉強している ……9%

(「している」「どちらかといえば、している」を合わせた割合)

- 自分で計画を立てて勉強している ……59%
- 学校の宿題をしている ……96%
- 学校の授業の予習をしている ……39%
- 学校の授業の復習をしている ……49%

生活習慣等

- 読書は好きだ ……76% (「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合)

■ 家や図書館で、ふだん1日あたりどれくらい読書しますか

- 30分以上、1時間より少ない ……23%
- 10分以上、30分より少ない ……29%
- 10分より少ない ……15%
- 全くしない ……16%

■ 昼休みや放課後、学校が休みの日に学校図書室や地域の図書館へどれくらい行きますか

- 週に1～3回 ……30%
- 月に1～3回 ……22%
- 年に数回程度 ……16%
- ほとんど行かない ……21%

- 朝食を毎日食べている ……96% (「している」「どちらかといえば、している」を合わせた割合)

■ 普段(月～金曜日)、何時頃に寝ますか

- 午後9時以降、10時より前 ……43%
- 午後10時以降、11時より前 ……39%
- 午後11時以降、午前0時より前 ……9%

■ 普段(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、テレビやビデオ、DVDを見たり、聞いたりしますか

- 3時間以上 ……36%
- 2時間以上、3時間より少ない ……25%
- 1時間以上、2時間より少ない ……25%
- 1時間より少ない ……12%

■ 普段(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、テレビゲームをしますか

- 2時間以上 ……24%
- 1時間以上、2時間より少ない ……23%
- 1時間より少ない ……34%
- 全くしない ……19%

■ 家の手伝いをしていますか

- よくしている ……36%
- ときどきしている ……47%
- あまりしていない ……14%

(「よく見る」「時々見る」を合わせた割合)

- テレビやインターネットのニュースを見ますか ……82%

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合)

- 今住んでいる地域の行事に参加している ……76%

平成25年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > Ⅱ 調査結果の概要

児童生徒意識調査から見た佐賀県の子ども像(中学校第1学年) → [小学校第5学年](#) [小学校第6学年](#)
[中学校第2学年](#) [中学校第3学年](#)

児童生徒意識調査から見た佐賀県の子ども像(中学校第1学年)

学校生活 数値は、小数第1位を四捨五入している。

(「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」を合わせた割合)

■ 学校での生活は楽しい……………95%	■ 学校では落ち着いて勉強できている……………91%
■ 友だちに会うのは楽しい……………98%	■ 好きな授業がある……………93%

学習動機

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合)

- 将来の夢や目標を持っている……………86%
- 各教科等の勉強は好きですか
 - ・ 国語……………63%
 - ・ 社会……………68%
 - ・ 数学……………67%
 - ・ 理科……………75%
 - ・ 総合的な学習の時間……………82%
- 各教科等の学習は、社会に出たときに役に立つ
 - ・ 国語……………95%
 - ・ 社会……………90%
 - ・ 数学……………96%
 - ・ 理科……………78%
 - ・ 総合的な学習の時間……………85%

家庭学習

- 学校の授業以外に勉強をする時間(月から金曜日)
 - 2時間以上……………28%
 - 1時間以上、2時間より少ない……………38%
 - 1時間より少ない……………32%
 - 全くしない……………2%
- 学校の授業以外に勉強をする時間(土・日曜日)
 - 2時間以上……………27%
 - 1時間以上、2時間より少ない……………33%
 - 1時間より少ない……………34%
 - 全くしない……………8%
- 学習塾で勉強をしていますか(家庭教師も含む)
 - 学習塾で勉強していない……………57%
 - 学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を勉強している……………19%
 - 学校の勉強でよく分からなかった内容を勉強している……………8%

(「している」「どちらかといえば、している」を合わせた割合)

- 自分で計画を立てて勉強している……………66%
- 学校の宿題をしている……………97%
- 学校の授業の予習をしている……………60%
- 学校の授業の復習をしている……………63%
- 苦手な教科の勉強をしている……………70%
- テストで間違えた問題について勉強をしている……………65%



学習活動

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合)

- 普段の授業で、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う……………84%
- 普段の授業で、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思う……………82%

(「難しい」「どちらかといえば、難しい」を合わせた割合)

- 学校の授業などで、自分の考えを説明したり、文章に書いたりするのは難しい……………71%

(「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」を合わせた割合)

- 授業で電子黒板や大型テレビなどが使われるようになって、今までより授業の内容が分かりやすくなった。……………77%

生活習慣等

- 読書は好きだ……………79% (「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合)
- 家や図書館で、ふだん1日あたりどれくらい読書しますか
 - 30分以上、1時間より少ない……………24%
 - 10分以上、30分より少ない……………28%
 - 10分より少ない……………14%
 - 全くしない……………17%
- 昼休みや放課後、学校が休みの日に学校図書室や地域の図書館へどれくらい行きますか
 - 週に1～3回……………23%
 - 月に1～3回……………23%
 - 年に数回程度……………21%
 - ほとんど行かない……………28%
- 朝食を毎日食べている……………95% (「している」「どちらかといえば、している」を合わせた割合)
- ふだん(月～金曜日)、何時頃に寝ますか
 - 午後10時以降、11時より前……………45%
 - 午後11時以降、午前0時より前……………22%
 - 午前0時以降……………7%
- ふだん(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、テレビやビデオ、DVDを見たり、聞いたりしますか
 - 3時間以上……………32%
 - 2時間以上、3時間より少ない……………26%
 - 1時間以上、2時間より少ない……………26%
 - 1時間より少ない……………15%
- ふだん(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、テレビゲームをしますか
 - 2時間以上……………24%
 - 1時間以上、2時間より少ない……………23%
 - 1時間より少ない……………34%
 - 全くしない……………19%
- 家の手伝いをしていますか
 - よくしている……………39%
 - ときどきしている……………45%
 - あまりしていない……………13%

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合)

- 新聞やテレビのニュースなどに関心がある……………68%
- 今住んでいる地域の行事に参加している……………74%

平成25年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > II 調査結果の概要

児童生徒意識調査から見た佐賀県の子ども像(中学校第2学年) → [小学校第5学年](#) [小学校第6学年](#)
[中学校第1学年](#) [中学校第3学年](#)

児童生徒意識調査から見た佐賀県の子ども像 (中学校第2学年)

数値は、小数第1位で四捨五入している。

学校生活	(「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」を合わせた割合) ■学校での生活は楽しい……………91% ■学校では落ち着いて勉強できている……………87% ■友だちに会うのは楽しい……………97% ■好きな授業がある……………90%	
学習動機	(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合) ■将来の夢や目標を持っている……………75% ■各教科等の勉強は好きですか ・国語……………86% ・社会……………64% ・数学……………82% ・理科……………89% ・英語……………85% ・総合的な学習の時間……………81% ■各教科等の学習は、社会に出たときに役に立つ ・国語……………94% ・社会……………75% ・数学……………89% ・理科……………64% ・英語……………87% ・総合的な学習の時間……………78%	家庭学習
学習活動	(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合) ■普段の授業で、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う……………83% ■普段の授業で、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思う……………80% (「難しい」「どちらかといえば、難しい」を合わせた割合) ■学校の授業などで、自分の考えを説明したり、文章に書いたりするのは難しい……………75% (「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」を合わせた割合) ■授業で電子黒板や大型テレビなどが使われるようになって、今までより授業の内容が分かりやすくなった。……………69%	■学校の授業以外に勉強をする時間 (月から金曜日) 2時間以上……………28% 1時間以上、2時間より少ない……………35% 1時間より少ない……………33% 全くしない……………4% ■学校の授業以外に勉強をする時間 (土・日曜日) 2時間以上……………33% 1時間以上、2時間より少ない……………33% 1時間より少ない……………26% 全くしない……………8% ■学習塾で勉強をしていますか(家庭教師も含む) 学習塾で勉強していない……………54% 学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を勉強している……………15% 学校の勉強でよく分からなかった内容を勉強している……………10% (「している」「どちらかといえば、している」を合わせた割合) ■自分で計画を立てて勉強している……………53% ■学校の宿題をしている……………92% ■学校の授業の予習をしている……………46% ■学校の授業の復習をしている……………61% ■苦手な教科の勉強をしている……………57% ■テストで間違えた問題について勉強をしている……………58%
生活習慣等	(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合) ■読書は好きだ……………78% ■家や図書館で、ふだん1日あたりどれくらい読書しますか 30分以上、1時間より少ない……………21% 10分以上、30分より少ない……………24% 10分より少ない……………13% 全くしない……………24% ■昼休みや放課後、学校が休みの日に学校図書室や地域の図書館へどれくらい行きますか 週に1～3回……………15% 月に1～3回……………18% 年に数回程度……………24% ほとんど行かない……………38% ■朝食を毎日食べている……………93% (「している」「どちらかといえば、している」を合わせた割合) ■普段(月～金曜日)、何時頃に寝ますか 午後10時以降、11時より前……………38% 午後11時以降、午前0時より前……………35% 午前0時以降……………16% ■普段(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、テレビやビデオ、DVDを見たり、聞いたりしますか 3時間以上……………30% 2時間以上、3時間より少ない……………27% 1時間以上、2時間より少ない……………27% 1時間より少ない……………15% ■普段(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、テレビゲームをしますか 2時間以上……………26% 1時間以上、2時間より少ない……………21% 1時間より少ない……………30% 全くしない……………23% ■家の手伝いをしていますか よくしている……………30% ときどきしている……………46% あまりしていない……………19% (「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合) ■新聞やテレビのニュースなどに関心がある……………87% ■今住んでいる地域の行事に参加している……………58%	



平成25年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > II 調査結果の概要

児童生徒意識調査から見た佐賀県の子ども像(中学校第3学年) → [小学校第5学年](#) [小学校第6学年](#)
[中学校第1学年](#) [中学校第2学年](#)

児童生徒意識調査から見た佐賀県の子ども像 (中学校第3学年)

学校生活

数値は、小数第1位で四捨五入している。

(「「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」を合わせた割合)

- 学校に行くのは楽しい……………82%
- 友だちに会うのは楽しい……………95%

学習動機

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合)

- 将来の夢や目標をもっている……………74%
- 各教科の勉強は好きですか
 - 国語……………60%
 - 数学……………59%
 - 英語……………54%
- 各教科の学習は、社会に出たときに役に立つ
 - 国語……………86%
 - 数学……………71%
 - 総合的な学習の時間……………76%

家庭学習

■学校の授業以外に勉強をする時間 (月から金曜日)

- 2時間以上……………31%
- 1時間以上、2時間より少ない……………35%
- 1時間より少ない……………30%
- 全くしない……………4%

■学校の授業以外に勉強をする時間 (土・日曜日)

- 2時間以上……………35%
- 1時間以上、2時間より少ない……………32%
- 1時間より少ない……………24%
- 全くしない……………9%

■学習塾で勉強をしていますか(家庭教師も含む)

- 学習塾で勉強していない……………50%
- 学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を勉強している……………13%
- 学校の勉強でよく分からなかった内容を勉強している……………10%

(「している」「どちらかといえば、している」を合わせた割合)

- 自分で計画を立てて勉強している……………46%
- 学校の宿題をしている……………92%
- 学校の授業の予習をしている……………34%
- 学校の授業の復習をしている……………55%



学習活動

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合)

- 普段の授業で、自分の考えを発表する機会があたえられていると思う……………79%
- 普段の授業で、学級の友だちとの間で話し合う活動をよく行っていると思う……………72%

(「難しい」「どちらかといえば、難しい」を合わせた割合)

- 学校の授業などで、自分の考えを説明したり、文章に書いたりするのは難しい……………74%

(「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」を合わせた割合)

- コンピュータや電子黒板を使った授業は分かりやすいと思いますか……………69%

生活習慣等

- 読書は好きだ……………72% (「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合)

■家や図書館で、ふだん1日あたりどれくらい読書しますか

- 30分以上、1時間より少ない……………17%
- 10分以上、30分より少ない……………23%
- 10分より少ない……………12%
- 全くしない……………33%

■昼休みや放課後、学校が休みの日に学校図書室や地域の図書館へどれくらい行きますか

- 週に1～3回……………13%
- 月に1～3回……………17%
- 年に数回程度……………20%
- ほとんど行かない……………45%

- 朝食を毎日食べている……………95% (「している」「どちらかといえば、している」を合わせた割合)

■普段(月～金曜日)、何時頃に寝ますか

- 午後10時以降、11時より前……………30%
- 午後11時以降、午前0時より前……………45%
- 午前0時以降……………20%

■普段(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、テレビやビデオ、DVDを見たり、聞いたりしますか

- 3時間以上……………30%
- 2時間以上、3時間より少ない……………28%
- 1時間以上、2時間より少ない……………27%
- 1時間より少ない……………13%

■普段(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、テレビゲームをしますか

- 2時間以上……………24%
- 1時間以上、2時間より少ない……………20%
- 1時間より少ない……………29%
- 全くしない……………26%

■家の手伝いをしていますか

- よくしている……………24%
- ときどきしている……………43%
- あまりしていない……………25%

(「よく見る」「時々見る」を合わせた割合)

- テレビやインターネットのニュースを見ますか……………82%

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合)

- 今住んでいる地域の行事に参加している……………47%

平成25年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > II 調査結果の概要

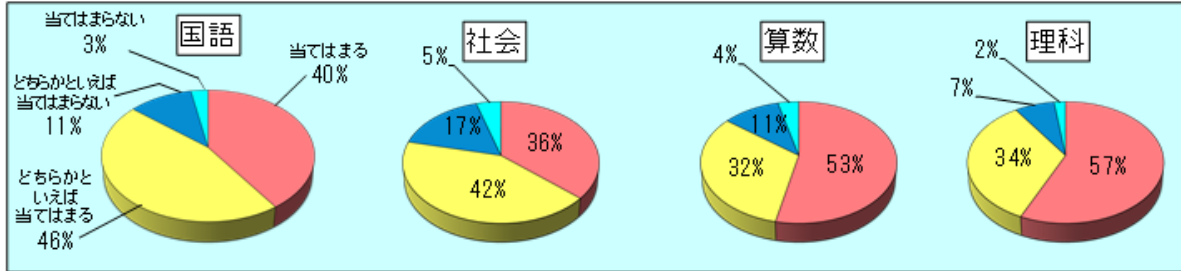
児童生徒意識調査から見た佐賀県の学習者像(小学校第5学年) → [小学校第6学年](#) [中学校第1学年](#)
[中学校第2学年](#) [中学校第3学年](#)

児童生徒意識調査から見た佐賀県の学習者像 (小学校第5学年)

※数値は、小数第1位で四捨五入している。

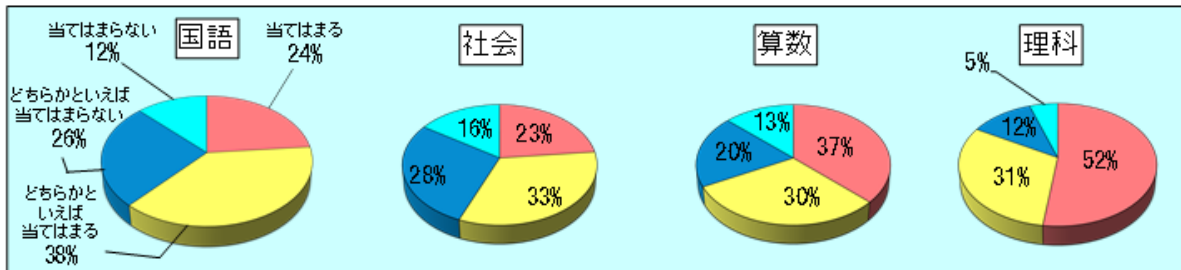
各教科の授業の内容はよく分かりますか。

※円グラフの数値は、自動的に100%になるように調整してある。



各教科の勉強は好きですか。

※円グラフの数値は、自動的に100%になるように調整してある。



各教科の特性に応じた学習内容や学習方法についての興味・関心・意欲・態度

国語	社会	算数	理科
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている ……62%	社会の授業で自分が考えたことや調べたことを、新聞のような形でノートや応用紙にまとめることは楽しい ……73%	算数の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考える ……71%	理科の授業で、自分の考えを発表したり友達に話したりするのは楽しい ……71%
国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てをくふうしている ……62%	社会の授業で調べたことをもとにして、発表したり話し合ったりすることは楽しい ……65%	算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている ……77%	理科の授業で、観察や実験について図や文字で記録をしていくことは好きだ ……83%
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている ……71%	博物館や図書館、郷土資料館などで、自分の興味・関心をもったことについて調べることは好きだ ……78%	算数の授業で、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている ……84%	理科の授業で、自分が何を調べるのかははっきり分かって観察や実験を行っている ……88%
国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいる ……75%			



※図中の数値は「当てはまる」「そう思う」と回答した割合と「どちらかといえば、○○○」と回答した割合を合わせた数値である。

平成25年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > II 調査結果の概要

児童生徒意識調査から見た佐賀県の学習者像(小学校第6学年) → [小学校第5学年](#) [中学校第1学年](#)
[中学校第2学年](#) [中学校第3学年](#)

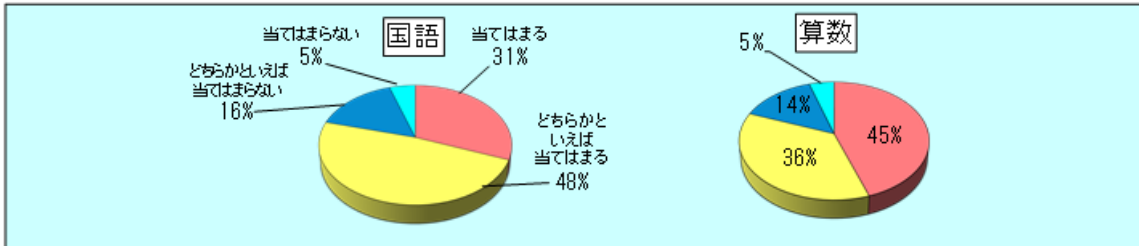
※小学校第6学年は全国調査の質問紙調査を実施しているため、社会と理科に対する意識調査は行っていない。

児童生徒意識調査からみた佐賀県の学習者像(小学校第6学年)

※数値は、小数第1位で四捨五入している。

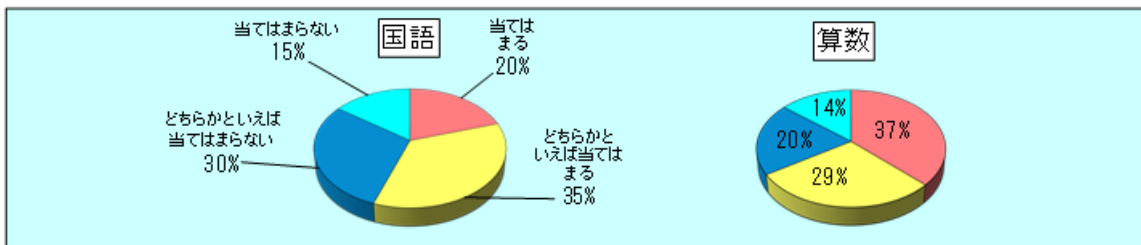
各教科の授業内容はよく分かりますか。

※円グラフの数値は、自動的に100%になるように調整してある。



各教科の勉強は好きですか。

※円グラフの数値は、自動的に100%になるように調整してある。



各教科の特性に応じた学習内容や学習方法についての興味・関心・意欲・態度

国語	算数
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている60%	算数の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考える68%
国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てをくふうしている58%	算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている81%
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている69%	算数の授業で、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている85%
国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいる72%	

※図中の数値は「当てはまる」「そう思う」と回答した割合と「どちらかといえば、○○○」と回答した割合を合わせた数値である。

平成25年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

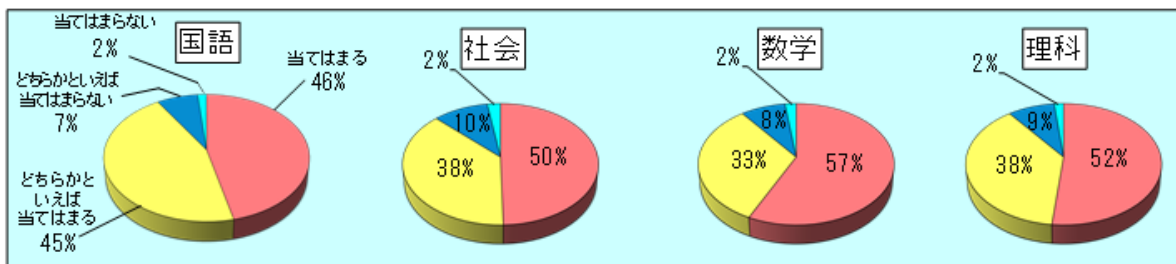
Web報告書もくじ > Ⅱ 調査結果の概要

児童生徒意識調査から見た佐賀県の学習者像(中学校第1学年) → [小学校第5学年](#) [小学校第6学年](#)
[中学校第2学年](#) [中学校第3学年](#)

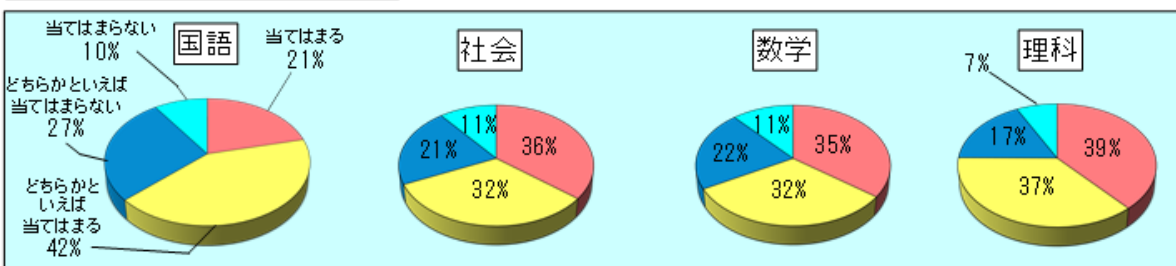
児童生徒意識調査から見た佐賀県の学習者像 (中学校第1学年)

※数値は、小数第1位で四捨五入している。

各教科の授業の内容はよく分かりますか。 ※円グラフの数値は、自動的に100%になるように調整してある。



各教科の勉強は好きですか。 ※円グラフの数値は、自動的に100%になるように調整してある。



各教科の特性に応じた学習内容や学習方法についての興味・関心・意欲・態度

<p>国語 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている ……63% 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している ……63% 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている ……75% 国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめりとともに内容を理解しながら読んでいる ……75%</p>	<p>社会 社会の授業で自分が考えたことや調べたことを、新聞のような形でノートや応用紙にまとめることは楽しい ……70% 社会の授業で調べたことをもとに考え、話し合いをすること(討論すること)は楽しい ……64% 博物館や図書館、郷土資料館などで、自分の興味・関心をもったことについて調べることは好きだ ……74%</p>		<p>数学 数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える ……66% 数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしている ……80% 数学の授業で、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている ……88%</p>	<p>理科 理科の授業で、自分の考えを文章や図を使って表現したり発表したりしている ……54% 理科の授業で、問題を解決するために、自分で観察や実験を計画し実施したいと思う ……70% 理科の授業で、自分が何を調べるのかははっきり分かって観察や実験を行っている ……88%</p>
---	--	--	---	---

※図中の数値は「当てはまる」「そう思う」と回答した割合と「どちらかといえば、○○」と回答した割合を合わせた数値である。

平成25年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > II 調査結果の概要

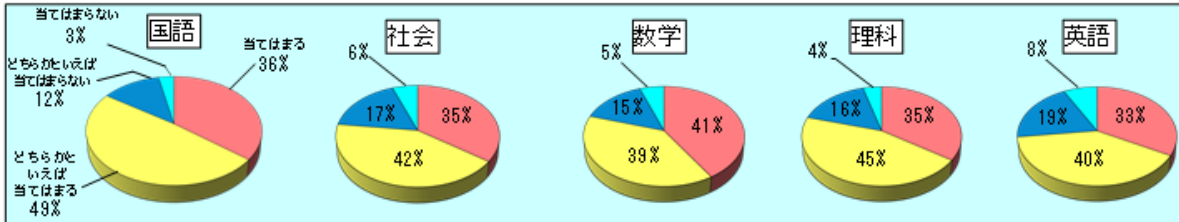
児童生徒意識調査から見た佐賀県の学習者像(中学校第2学年) → [小学校第5学年](#) [小学校第6学年](#)
[中学校第1学年](#) [中学校第3学年](#)

児童生徒意識調査から見た佐賀県の学習者像 (中学校第2学年)

※数値は、小数第1位で四捨五入している。

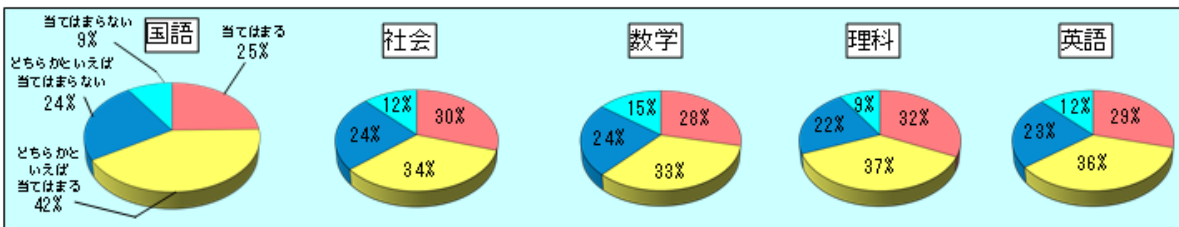
各教科の授業の内容はよく分かりますか。

※円グラフの数値は、自動的に100%になるように調整してある。



各教科の勉強は好きですか。

※円グラフの数値は、自動的に100%になるように調整してある。



各教科の特性に応じた学習内容や学習方法についての興味・関心・意欲・態度

国語	社会	数学	理科	英語
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている59%	社会の授業で自分が考えたことや調べたことを、新聞のような形でノートや応用紙にまとめることは楽しい61%	数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える51%	理科の授業で、自分の考えを文章や図を使って表現したり発表したりしている43%	英語の授業で、あたえられたテーマについて、英語で簡単なスピーチをすることは好きだ42%
国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している59%	社会の授業で調べたことをもとに考え、話し合いをすること(討論すること)は楽しい59%	数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしている72%	理科の授業で、問題を解決するために、自分で観察や実験を計画し実施したいと思う61%	英語の授業で、身近な話題について自分の考えや気持ちなどを英語で書くことは難しい74%
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている70%	博物館や図書館、郷土資料館などで、自分の興味・関心をもったことについて調べることは好きだ68%	数学の授業で、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている84%	理科の授業で、自分が何を調べるのかはっきり分かって観察や実験を行っている81%	英語の授業で英語を聞いたり読んだりするとき、大まかな流れや大切な部分をつかみながら聞いたり読んだりしている73%
国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめりごとに内容を理解しながら読んでいる68%				



※図中の数値は「当てはまる」「そう思う」「難しいと思う」と回答した割合と「どちらかといえば、○○○」と回答した割合を合わせた数値である。

平成25年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > II 調査結果の概要

児童生徒意識調査から見た佐賀県の学習者像(中学校第3学年) → [小学校第5学年](#) [小学校第6学年](#)
[中学校第1学年](#) [中学校第2学年](#)

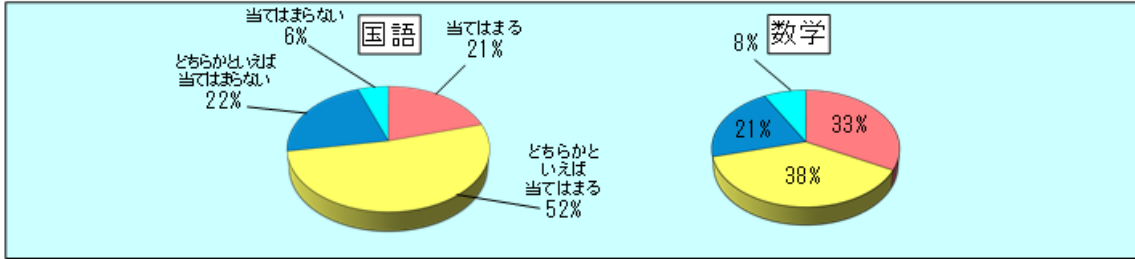
※中学校第3学年は全国調査の質問紙調査を実施しているため、社会と理科と英語に対する意識調査は行っていない。

児童生徒意識調査からみた佐賀県の学習者像(中学校第3学年)

※数値は、小数第1位で四捨五入している。

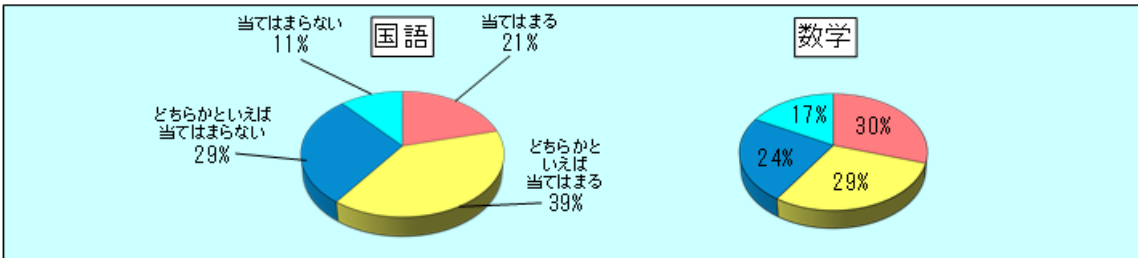
各教科の授業内容はよくわかりますか。

※円グラフの数値は、自動的に100%になるように調整してある。



各教科の勉強は好きですか。

※円グラフの数値は、自動的に100%になるように調整してある。



各教科の特性に応じた学習内容や学習方法についての興味・関心・意欲・態度

国語	数学
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている …… 54%	数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える …… 41%
国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している …… 52%	数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしている …… 73%
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている …… 63%	数学の授業で、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている …… 83%
国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいる …… 66%	



※図中の数値は「当てはまる」「そう思う」「難しいと思う」と回答した割合と「どちらかといえば、○○○」と回答した割合を合わせた数値である。

最終更新日: 2013-10-21

平成25年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > Ⅱ 調査結果の概要

全国学力・学習状況調査を活用した調査のみの質問共通グラフ

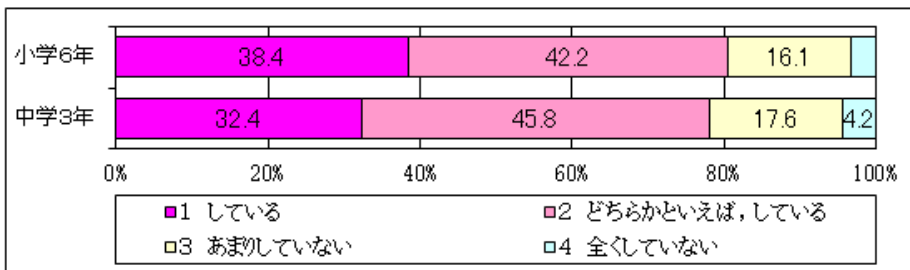
※数値は小数第二位で四捨五入している。
 ※グラフにおいては、4.0%未満の値については表示していない。

1 児童質問紙Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ及び生徒質問紙Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ共通質問

全国:Ⅰ(2)Ⅱ(2)Ⅲ(2)

毎日、同じくらいの時刻にねている。

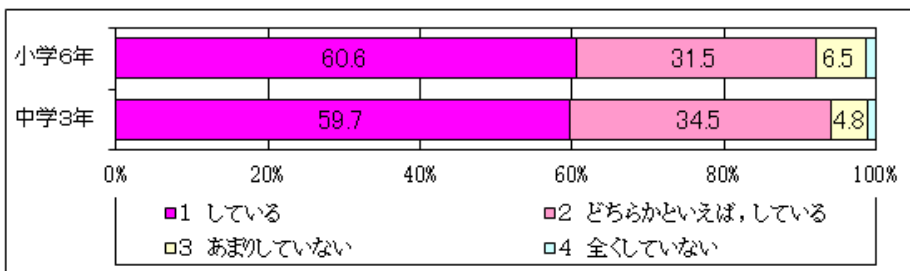
	小学6年	中学3年
1 している	38.4	32.4
2 どちらかといえば、している	42.2	45.8
3 あまりしていない	16.1	17.6
4 全くしていない	3.3	4.2



全国:Ⅰ(3)Ⅱ(3)Ⅲ(3)

毎日、同じくらいの時刻に起きている。

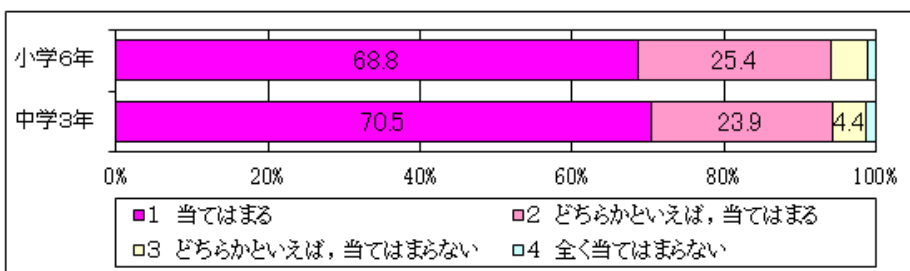
	小学6年	中学3年
1 している	60.6	59.7
2 どちらかといえば、している	31.5	34.5
3 あまりしていない	6.5	4.8
4 全くしていない	1.4	1.1



全国:Ⅰ(4)Ⅱ(4)Ⅲ(4)

ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。

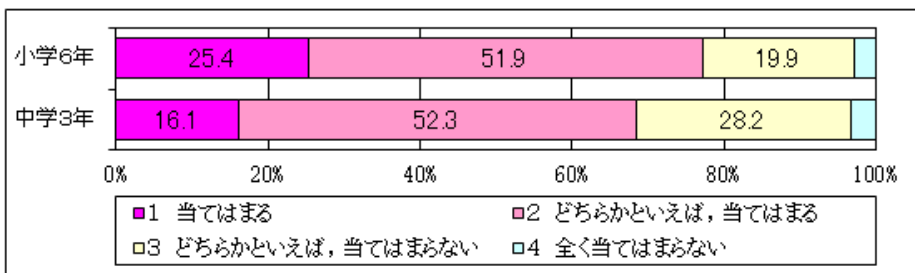
	小学6年	中学3年
1 当てはまる	68.8	70.5
2 どちらかといえば、当てはまる	25.4	23.9
3 どちらかといえば、当てはまらない	4.7	4.4
4 全く当てはまらない	1.1	1.2



全国: I(5) II(5) III(5)

難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している。

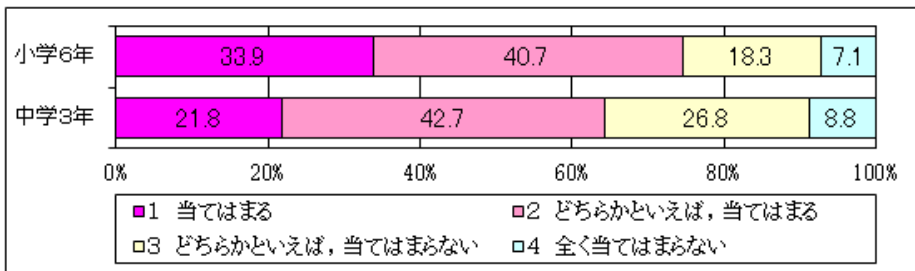
	小学6年	中学3年
1 当てはまる	25.4	16.1
2 どちらかといえば、当てはまる	51.9	52.3
3 どちらかといえば、当てはまらない	19.9	28.2
4 全く当てはまらない	2.8	3.3



全国: I(6) II(6) III(6)

自分には、よいところがあると思う。

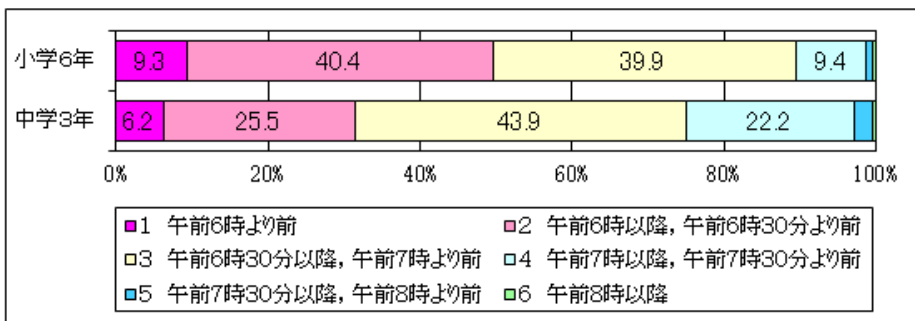
	小学6年	中学3年
1 当てはまる	33.9	21.8
2 どちらかといえば、当てはまる	40.7	42.7
3 どちらかといえば、当てはまらない	18.3	26.8
4 全く当てはまらない	7.1	8.8



全国: I(8) II(8) III(18)

普段(月曜日から金曜日)、何時ごろに起きますか。

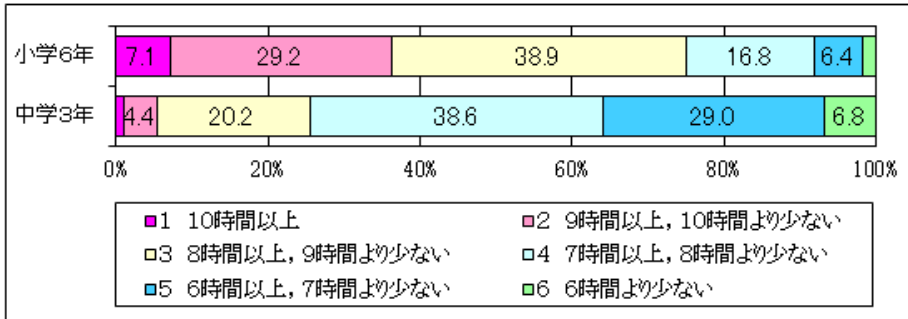
	小学6年	中学3年
1 午前6時より前	9.3	6.2
2 午前6時以降、午前6時30分より前	40.4	25.5
3 午前6時30分以降、午前7時より前	39.9	43.9
4 午前7時以降、午前7時30分より前	9.4	22.2
5 午前7時30分以降、午前8時より前	0.9	2.5
6 午前8時以降	0.3	0.4



全国: I(10) II(10) III(20)

普段(月曜日から金曜日), 1日にどれくらいの時間, すいみんをとることが最も多いですか。

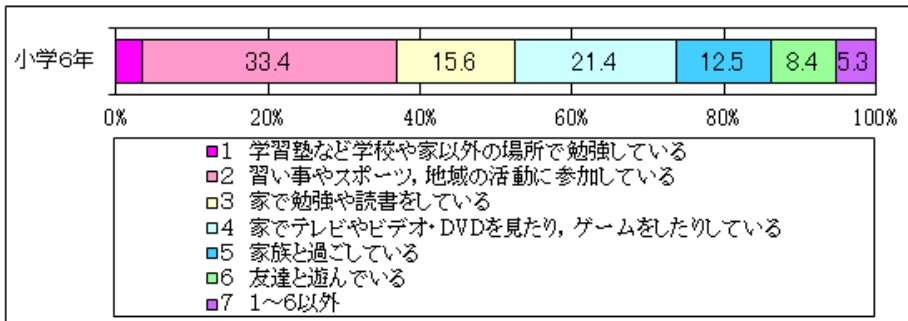
	小学6年	中学3年
1 10時間以上	7.1	0.9
2 9時間以上, 10時間より少ない	29.2	4.4
3 8時間以上, 9時間より少ない	38.9	20.2
4 7時間以上, 8時間より少ない	16.8	38.6
5 6時間以上, 7時間より少ない	6.4	29.0
6 6時間より少ない	1.7	6.8



全国: I 小(18) II 小(16) III 小(26)

土曜日の午前は, 何をしておこなうことが多いですか。

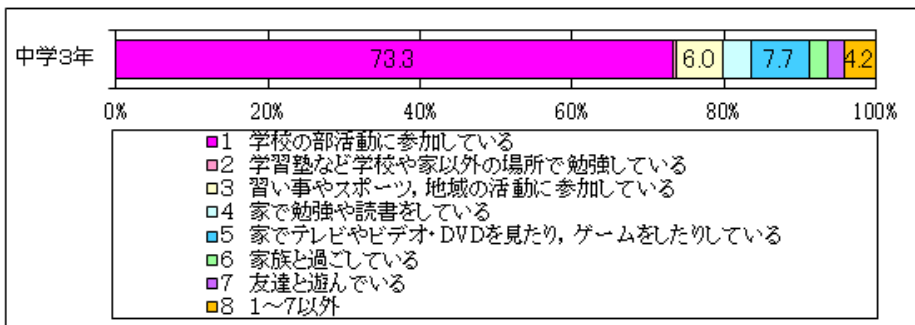
	小学6年
1 学習塾など学校や家以外の場所で勉強している	3.4
2 習い事やスポーツ, 地域の活動に参加している	33.4
3 家で勉強や読書をしている	15.6
4 家でテレビやビデオ・DVDを見たり, ゲームをしたりしている	21.4
5 家族と過ごしている	12.5
6 友達と遊んでいる	8.4
7 1~6以外	5.3



全国: I 中(18) II 中(16) III 中(26)

土曜日の午前は、何をしておごすことが多いいですか。

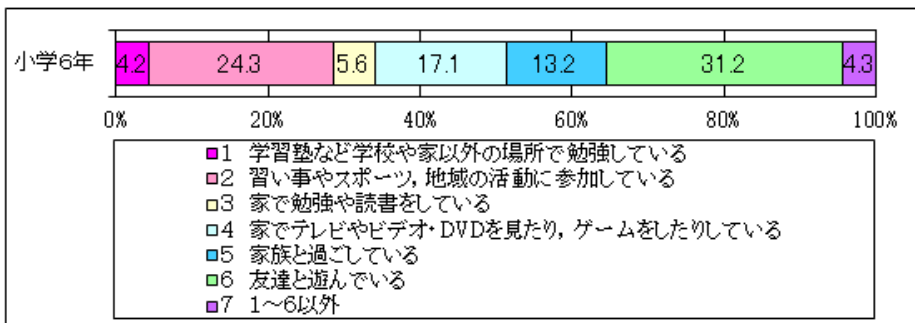
	中学3年
1 学校の部活動に参加している	73.3
2 学習塾など学校や家以外の場所で勉強している	0.6
3 習い事やスポーツ、地域の活動に参加している	6.0
4 家で勉強や読書をしている	3.7
5 家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたりしている	7.7
6 家族とおごしている	2.4
7 友達とおごしている	2.2
8 1~7以外	4.2



全国: I 小(19) II 小(17) III 小(27)

土曜日の午後は、何をしておごすことが多いいですか。

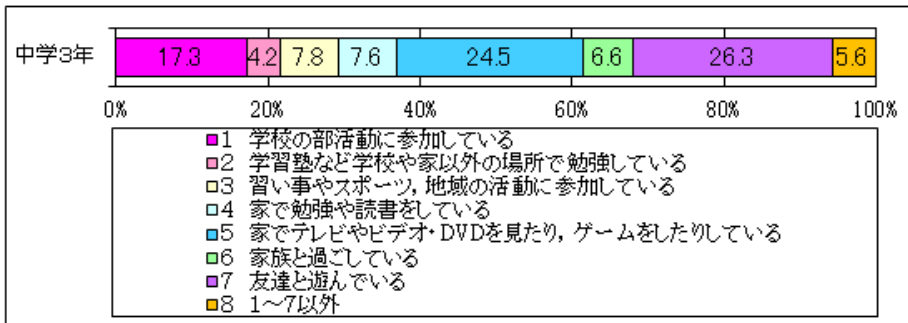
	小学6年
1 学習塾など学校や家以外の場所で勉強している	4.2
2 習い事やスポーツ、地域の活動に参加している	24.3
3 家で勉強や読書をしている	5.6
4 家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたりしている	17.1
5 家族とおごしている	13.2
6 友達とおごしている	31.2
7 1~6以外	4.3



全国: I 中(19) II 中(17) III 中(27)

土曜日の午後は、何をしてお過ごすことが多いですか。

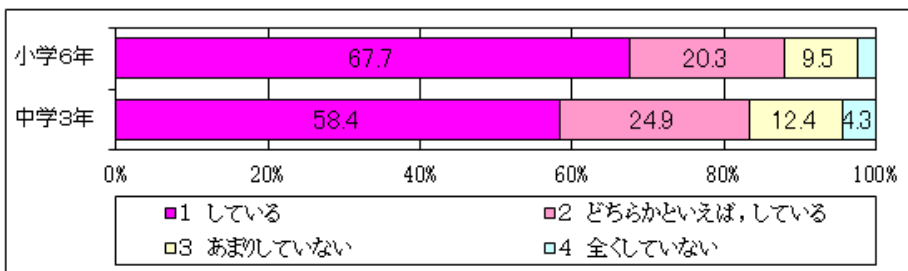
	中学3年
1 学校の部活動に参加している	17.3
2 学習塾など学校や家以外の場所で勉強している	4.2
3 習い事やスポーツ、地域の活動に参加している	7.8
4 家で勉強や読書をしている	7.6
5 家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたりしている	24.5
6 家族と過ごしている	6.6
7 友達と遊んでいる	26.3
8 1~7以外	5.6



全国: I (23) II (20) III (30)

普段(月曜日から金曜日)、夕食を一緒に食べる。

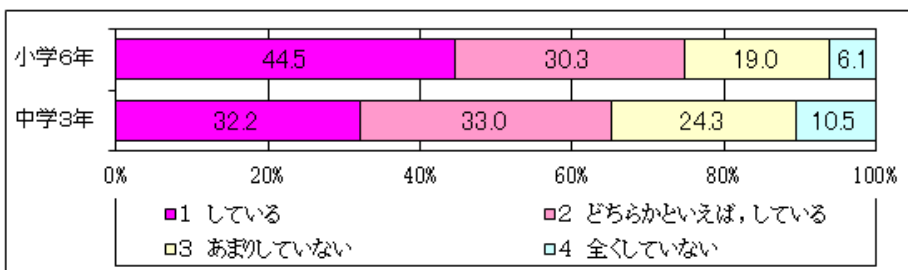
	小学6年	中学3年
1 している	67.7	58.4
2 どちらかといえば、している	20.3	24.9
3 あまりしていない	9.5	12.4
4 全くしていない	2.4	4.3



全国: I (24) II (21) III (31)

学校での出来事について話をする。

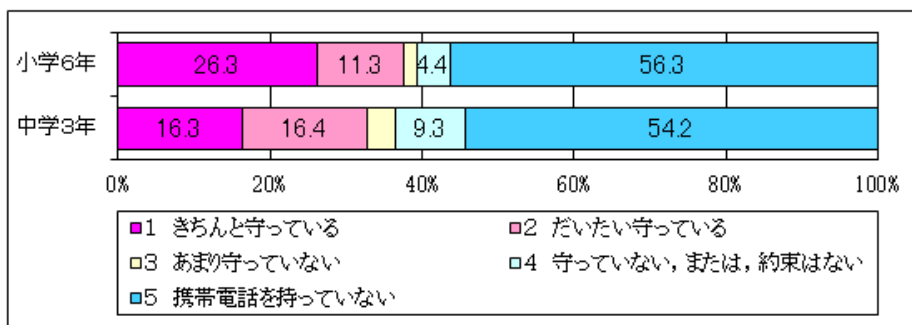
	小学6年	中学3年
1 している	44.5	32.2
2 どちらかといえば、している	30.3	33.0
3 あまりしていない	19.0	24.3
4 全くしていない	6.1	10.5



全国: I (26) II (23) III (33)

携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか

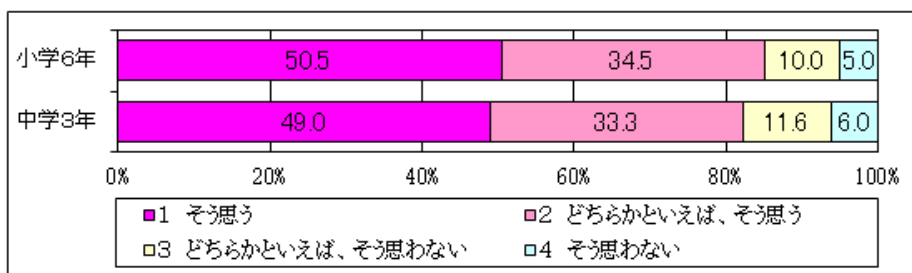
	小学6年	中学3年
1 きちんと守っている	26.3	16.3
2 だいたい守っている	11.3	16.4
3 あまり守っていない	1.8	3.8
4 守っていない、または、約束はない	4.4	9.3
5 携帯電話を持っていない	56.3	54.2



全国: 全国: I (35) II (28) III (38)

学校に行くのは楽しい

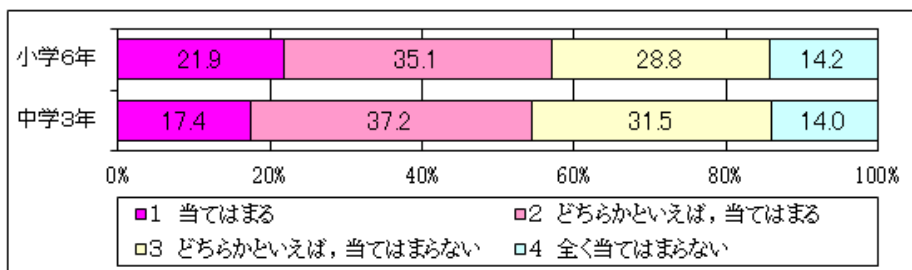
	小学6年	中学3年
1 そう思う	50.5	49.0
2 どちらかといえば、そう思う	34.5	33.3
3 どちらかといえば、そう思わない	10.0	11.6
4 そう思わない	5.0	6.0



全国: I (38) II (32) III 小(42) 中(43)

地域や社会で起きている問題や出来事に関心がある

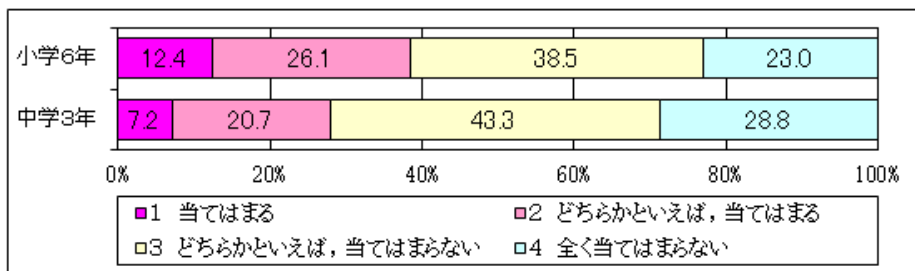
	小学6年	中学3年
1 当てはまる	21.9	17.4
2 どちらかといえば、当てはまる	35.1	37.2
3 どちらかといえば、当てはまらない	28.8	31.5
4 全く当てはまらない	14.2	14.0



全国: I (39) II (33) III 小(43) 中(44)

地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある

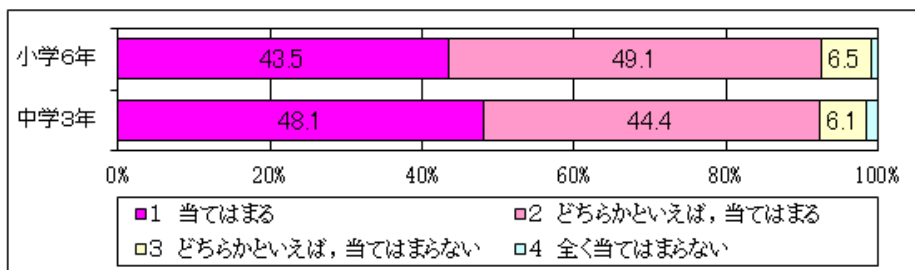
	小学6年	中学3年
1 当てはまる	12.4	7.2
2 どちらかといえば、当てはまる	26.1	20.7
3 どちらかといえば、当てはまらない	38.5	43.3
4 全く当てはまらない	23.0	28.8



全国: I (44) II (41) III 小(44) 中(45)

学校のきまりを守っている。

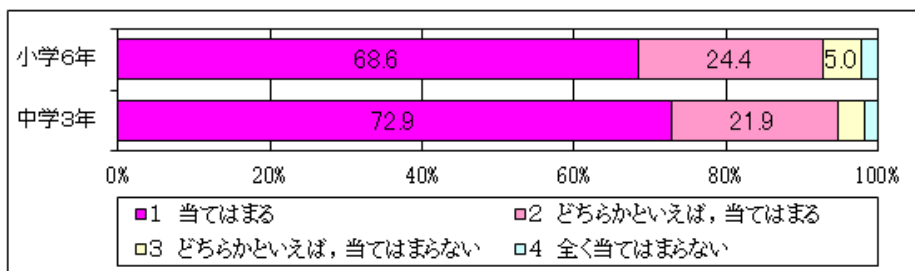
	小学6年	中学3年
1 当てはまる	43.5	48.1
2 どちらかといえば、当てはまる	49.1	44.4
3 どちらかといえば、当てはまらない	6.5	6.1
4 全く当てはまらない	0.9	1.4



全国: I (45) II (43) III 小(46) 中(47)

人の気持ちが分かる人間になりたいと思う。

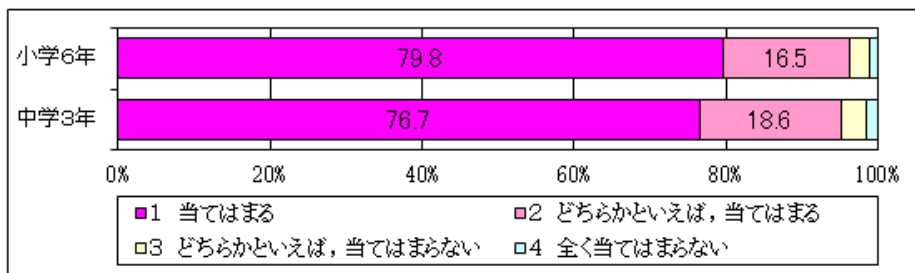
	小学6年	中学3年
1 当てはまる	68.6	72.9
2 どちらかといえば、当てはまる	24.4	21.9
3 どちらかといえば、当てはまらない	5.0	3.6
4 全く当てはまらない	2.1	1.7



全国: I (46) II (44) III 小(47) 中(48)

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う

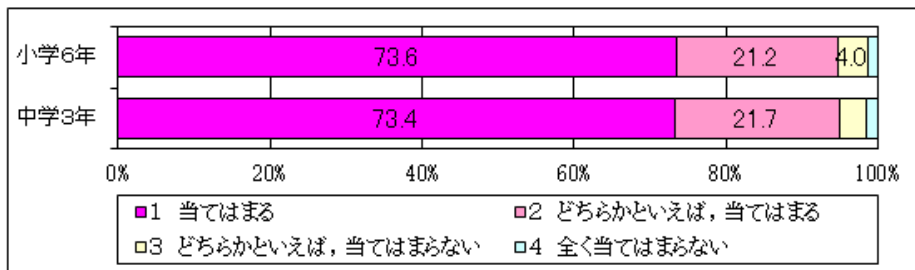
	小学6年	中学3年
1 当てはまる	79.8	76.7
2 どちらかといえば、当てはまる	16.5	18.6
3 どちらかといえば、当てはまらない	2.6	3.1
4 全く当てはまらない	1.1	1.6



全国: I (47) II (45) III 小(48) 中(49)

人の役に立つ人間になりたいと思う

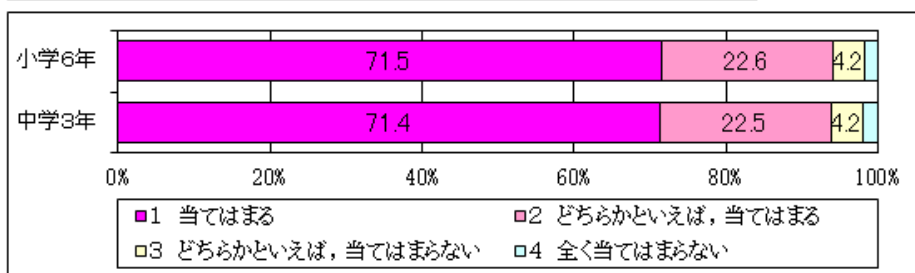
	小学6年	中学3年
1 当てはまる	73.6	73.4
2 どちらかといえば、当てはまる	21.2	21.7
3 どちらかといえば、当てはまらない	4.0	3.6
4 全く当てはまらない	1.3	1.4



全国: I (48) II (46) III 小(54) 中(55)

普段の授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていると思う

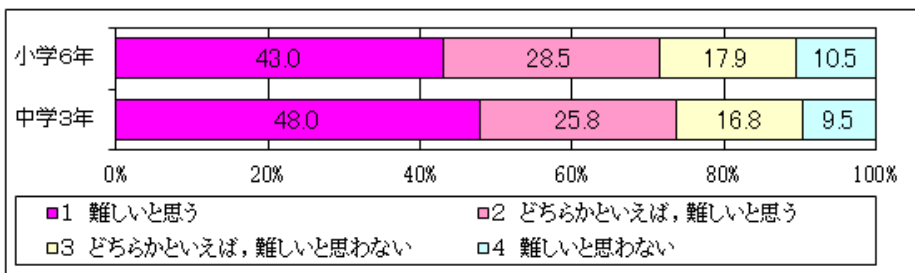
	小学6年	中学3年
1 当てはまる	71.5	71.4
2 どちらかといえば、当てはまる	22.6	22.5
3 どちらかといえば、当てはまらない	4.2	4.2
4 全く当てはまらない	1.8	1.9



全国: I (51) II (50) III小(59) 中(60)

400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しい。

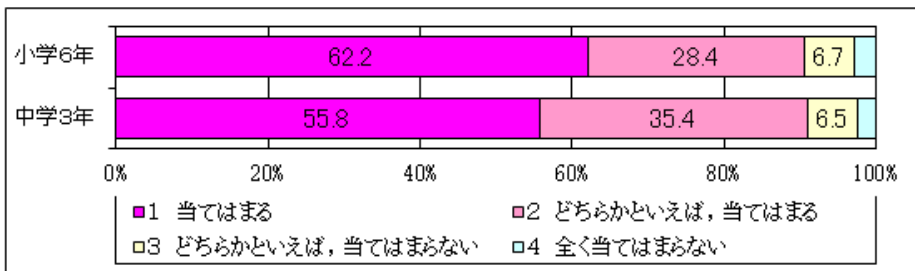
	小学6年	中学3年
1 難しいと思う	43.0	48.0
2 どちらかといえば、難しいと思う	28.5	25.8
3 どちらかといえば、難しいと思わない	17.9	16.8
4 難しいと思わない	10.5	9.5



全国: I (54) II (53) III小(63) 中(64)

国語の勉強は大切だ。

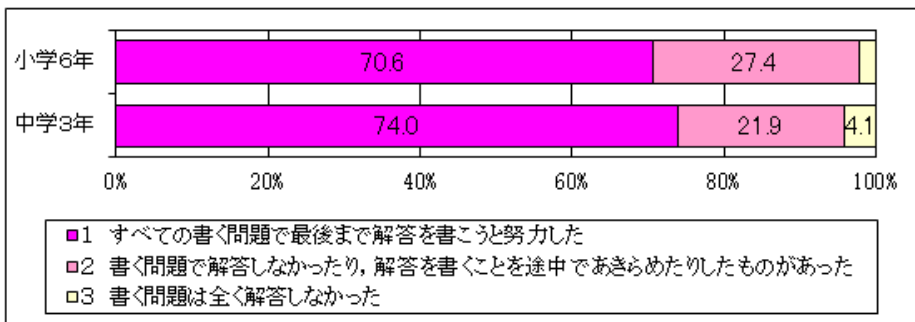
	小学6年	中学3年
1 当てはまる	62.2	55.8
2 どちらかといえば、当てはまる	28.4	35.4
3 どちらかといえば、当てはまらない	6.7	6.5
4 全く当てはまらない	2.7	2.4



全国: I (67) II (61) III小(71) 中(72)

解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。

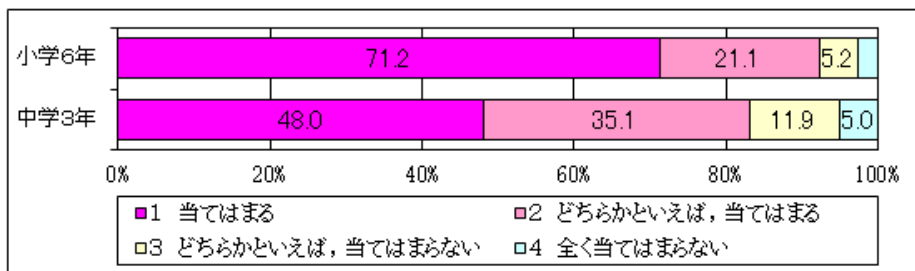
	小学6年	中学3年
1 すべての書く問題で最後まで解答を書くことを努力した	70.6	74.0
2 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあった	27.4	21.9
3 書く問題は全く解答しなかった	2.1	4.1



全国: I (74) II (63) III小(73) 中(74)

算数(数学)の勉強は大切だ。

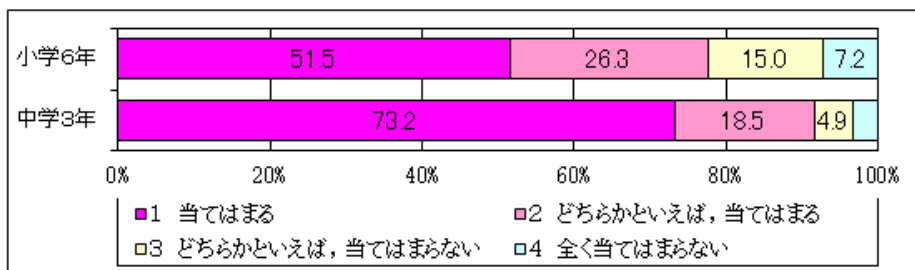
	小学6年	中学3年
1 当てはまる	71.2	48.0
2 どちらかといえば、当てはまる	21.1	35.1
3 どちらかといえば、当てはまらない	5.2	11.9
4 全く当てはまらない	2.5	5.0



全国: I (76) II (65) III小(75) 中(76)

算数(数学)の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたい。

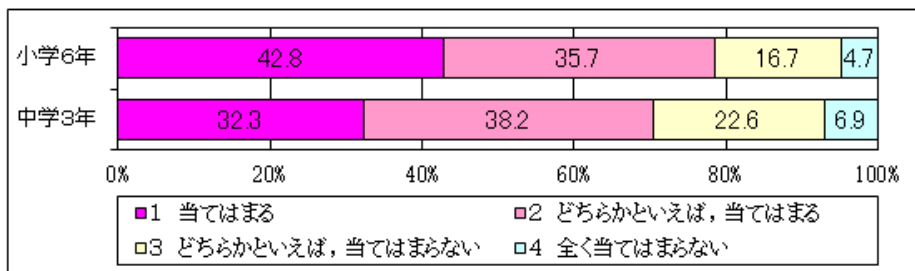
	小学6年	中学3年
1 当てはまる	51.5	73.2
2 どちらかといえば、当てはまる	26.3	18.5
3 どちらかといえば、当てはまらない	15.0	4.9
4 全く当てはまらない	7.2	3.3



全国: I (77) II (66) III小(75) 中(76)

算数(数学)の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える。

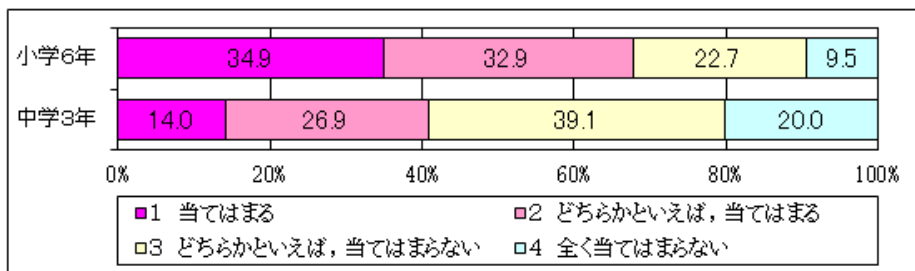
	小学6年	中学3年
1 当てはまる	42.8	32.3
2 どちらかといえば、当てはまる	35.7	38.2
3 どちらかといえば、当てはまらない	16.7	22.6
4 全く当てはまらない	4.7	6.9



全国: I (78) II (67) III小(77)中(78)

算数(数学)の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える

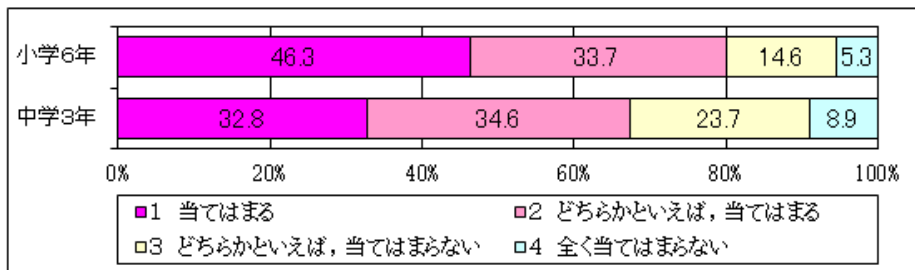
	小学6年	中学3年
1 当てはまる	34.9	14.0
2 どちらかといえば、当てはまる	32.9	26.9
3 どちらかといえば、当てはまらない	22.7	39.1
4 全く当てはまらない	9.5	20.0



全国: I (80) II (69) III小(79)中(80)

算数(数学)の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える。

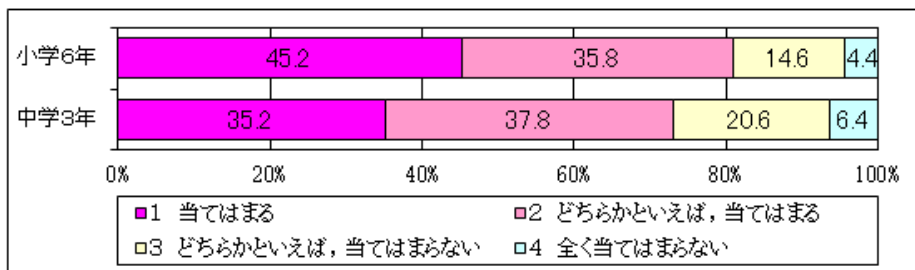
	小学6年	中学3年
1 当てはまる	46.3	32.8
2 どちらかといえば、当てはまる	33.7	34.6
3 どちらかといえば、当てはまらない	14.6	23.7
4 全く当てはまらない	5.3	8.9



全国: I (81) II (70) III小(80)中(81)

算数(数学)の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけ(根拠)を理解するようにしている

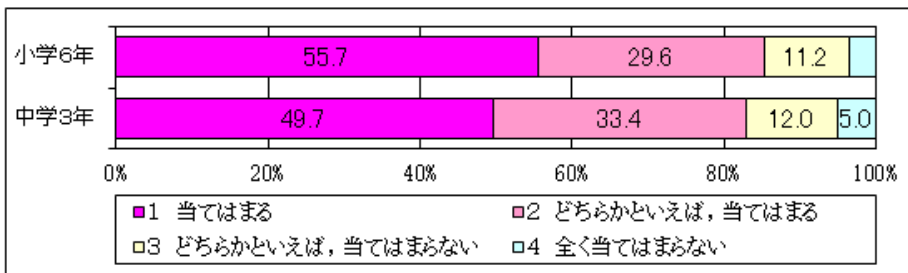
	小学6年	中学3年
1 当てはまる	45.2	35.2
2 どちらかといえば、当てはまる	35.8	37.8
3 どちらかといえば、当てはまらない	14.6	20.6
4 全く当てはまらない	4.4	6.4



全国: I (82) II (71) III 小(81) 中(82)

算数(数学)の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている

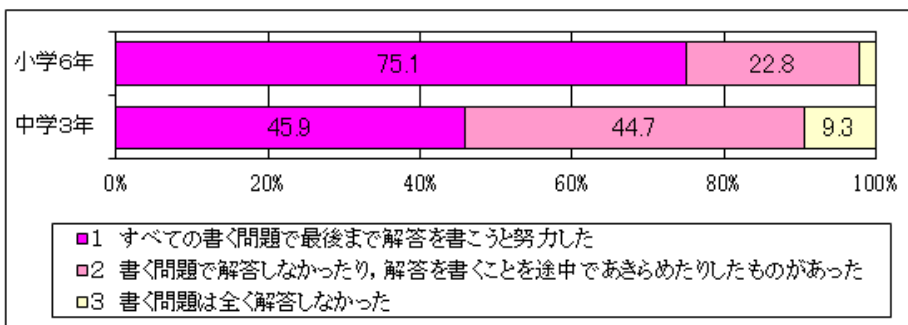
	小学6年	中学3年
1 当てはまる	55.7	49.7
2 どちらかといえば、当てはまる	29.6	33.4
3 どちらかといえば、当てはまらない	11.2	12.0
4 全く当てはまらない	3.5	5.0



全国: I (83) II (77) III 小(82) 中(83)

言葉や式を使って、わけや求め方を書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。

	小学6年	中学3年
1 すべての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	75.1	45.9
2 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあった	22.8	44.7
3 書く問題は全く解答しなかった	2.1	9.3



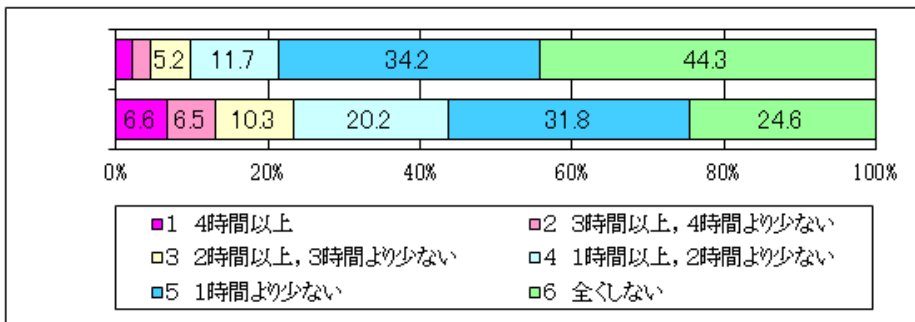
2 児童質問紙 I 及び生徒質問紙 I のみの質問

※対象人数 小学校 2756人/8334人 中学校 2364人/7813人

全国: I (13)

普段(月曜日から金曜日), 1日あたりどれくらいの時間, インターネット(携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットをする場合もふくみます。)をしますか。

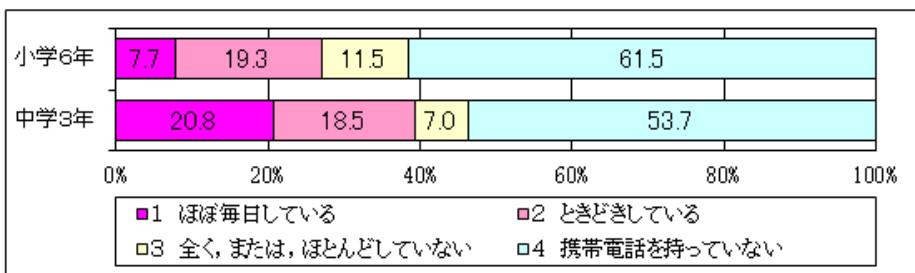
	小学6年	中学3年
1 4時間以上	2.0	6.6
2 3時間以上, 4時間より少ない	2.5	6.5
3 2時間以上, 3時間より少ない	5.2	10.3
4 1時間以上, 2時間より少ない	11.7	20.2
5 1時間より少ない	34.2	31.8
6 全くしない	44.3	24.6



全国: I (14)

携帯電話やスマートフォンで通話やメールをしていますか。

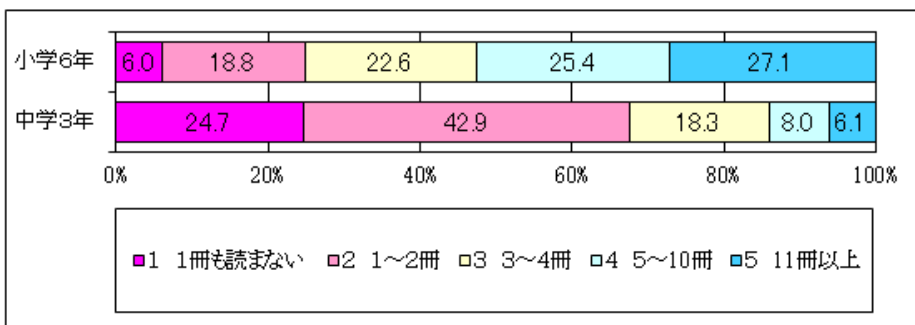
	小学6年	中学3年
1 ほぼ毎日している	7.7	20.8
2 ときどきしている	19.3	18.5
3 全く, または, ほとんどしていない	11.5	7.0
4 携帯電話を持っていない	61.5	53.7



全国: I (22)

1か月に, 何冊くらい本を読みますか。(教科書や参考書, 漫画や雑誌は除きます。)

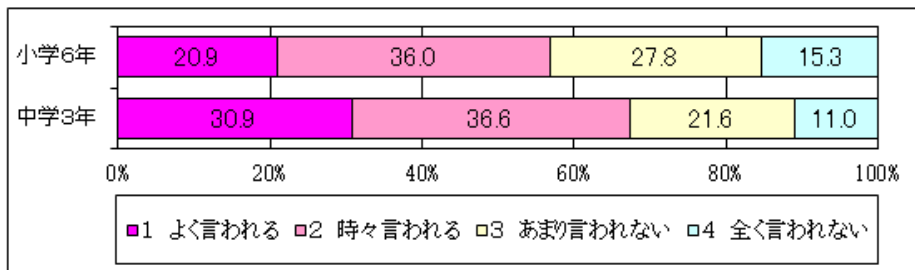
	小学6年	中学3年
1 1冊も読まない	6.0	24.7
2 1~2冊	18.8	42.9
3 3~4冊	22.6	18.3
4 5~10冊	25.4	8.0
5 11冊以上	27.1	6.1



全国: I (27)

家の人(兄弟姉妹は含みません)に「勉強しなさい」と言われますか。

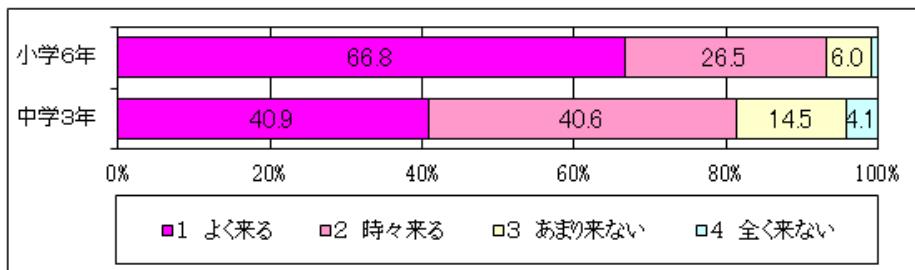
	小学6年	中学3年
1 よく言われる	20.9	30.9
2 時々言われる	36.0	36.6
3 あまり言われない	27.8	21.6
4 全く言われない	15.3	11.0



全国: I (28)

家の人(兄弟姉妹は含みません。)は、授業参観や運動会などの学校行事に来ますか。

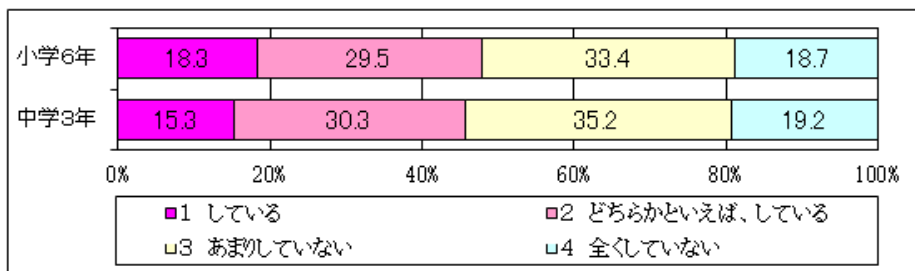
	小学6年	中学3年
1 よく来る	66.8	40.9
2 時々来る	26.5	40.6
3 あまり来ない	6.0	14.5
4 全く来ない	0.7	4.1



全国: I (33)

苦手な教科の勉強をしている。

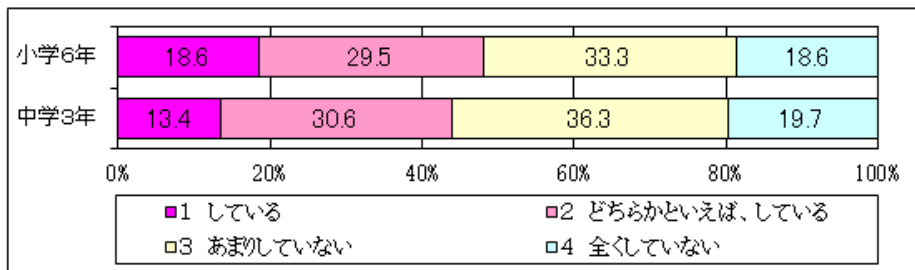
	小学6年	中学3年
1 している	18.3	15.3
2 どちらかといえば、している	29.5	30.3
3 あまりしていない	33.4	35.2
4 全くしていない	18.7	19.2



全国: I (34)

テストで間違えた問題について勉強している

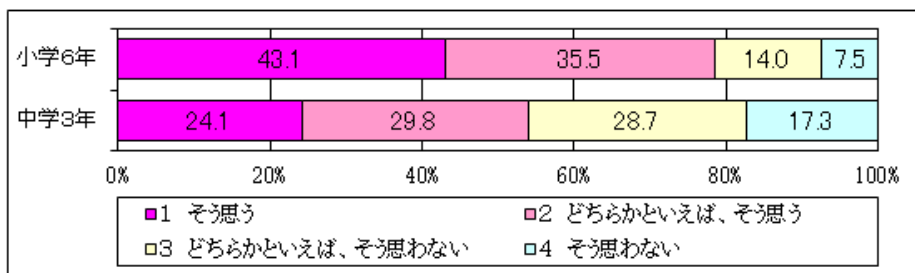
	小学6年	中学3年
1 している	18.6	13.4
2 どちらかといえば、している	29.5	30.6
3 あまりしていない	33.3	36.3
4 全くしていない	18.6	19.7



全国: I (40)

英語の学習は好きですか

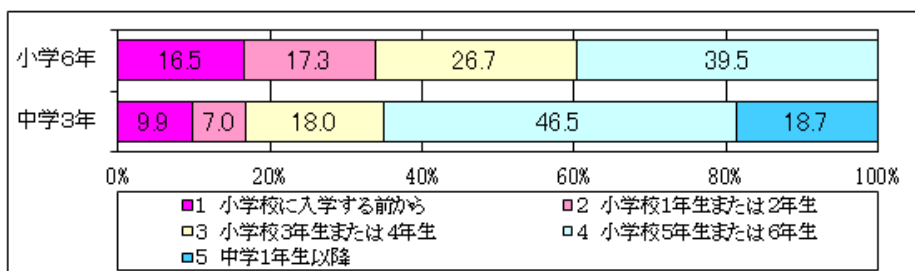
	小学6年	中学3年
1 そう思う	43.1	24.1
2 どちらかといえば、そう思う	35.5	29.8
3 どちらかといえば、そう思わない	14.0	28.7
4 そう思わない	7.5	17.3



全国: I (41)

学校の授業や英会話教室で英語を学び始めたのはいつからですか

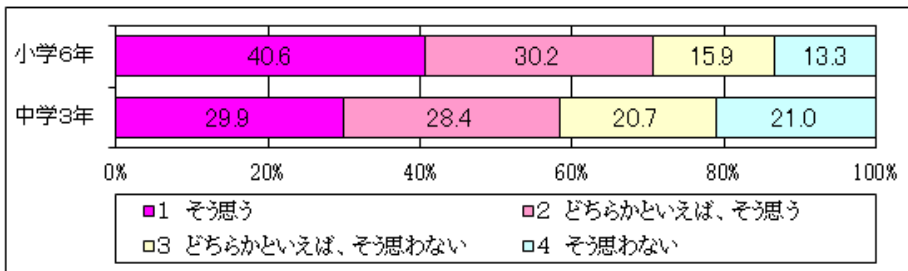
	小学6年	中学3年
1 小学校に入学する前から	16.5	9.9
2 小学校1年生または2年生	17.3	7.0
3 小学校3年生または4年生	26.7	18.0
4 小学校5年生または6年生	39.5	46.5
5 中学1年生以降		18.7



全国: I (42)

外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思っていますか

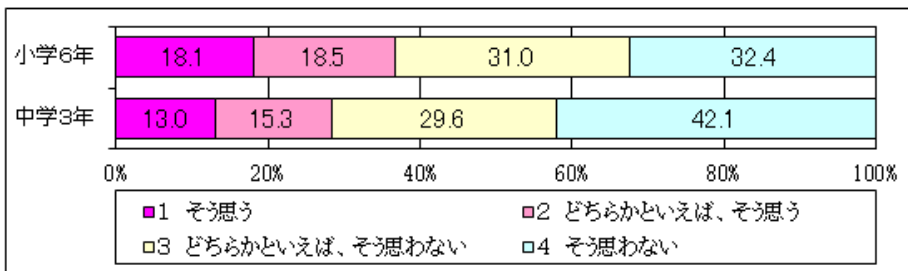
	小学6年	中学3年
1 そう思う	40.6	29.9
2 どちらかといえば、そう思う	30.2	28.4
3 どちらかといえば、そう思わない	15.9	20.7
4 そう思わない	13.3	21.0



全国: I (43)

将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いたりしてみたいと思いますか

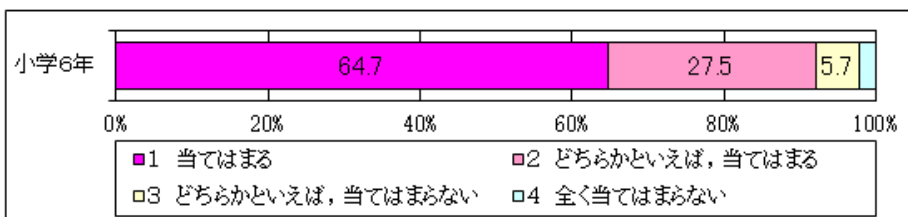
	小学6年	中学3年
1 そう思う	18.1	13.0
2 どちらかといえば、そう思う	18.5	15.3
3 どちらかといえば、そう思わない	31.0	29.6
4 そう思わない	32.4	42.1



全国: I 小(62)

国語の授業で話し合いをするときに、司会者として発言を整理してまとめたり、参加者として立場や理由を明らかにして発言したりしている

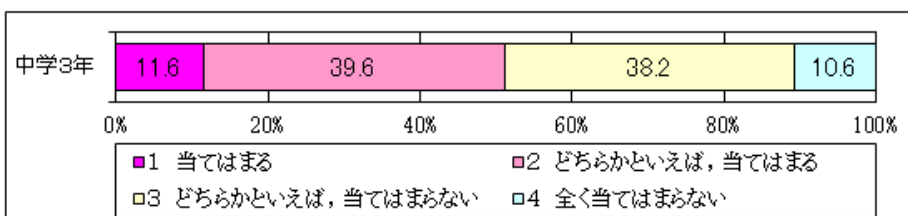
	小学6年
1 当てはまる	64.7
2 どちらかといえば、当てはまる	27.5
3 どちらかといえば、当てはまらない	5.7
4 全く当てはまらない	2.1



全国: I 中(62)

国語の授業で調べたことなどを発表するとき、聞き手のことを考えて資料の作り方を工夫している

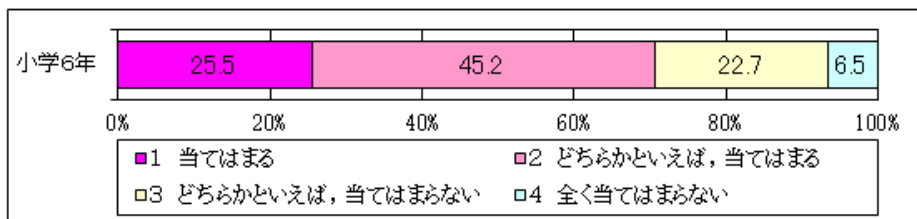
	中学3年
1 当てはまる	11.6
2 どちらかといえば、当てはまる	39.6
3 どちらかといえば、当てはまらない	38.2
4 全く当てはまらない	10.6



全国: I 小(63)

国語の授業で、調べたことや自分の考えたことを読み手に伝わるように気を付けながら書いている

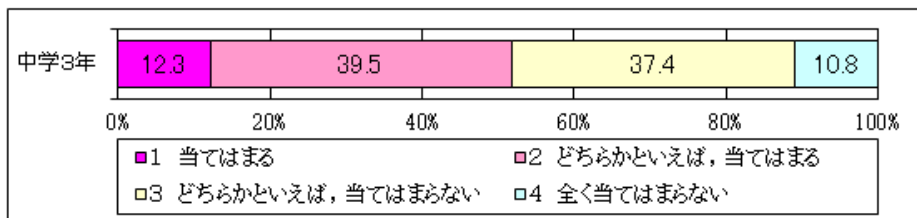
	小学6年
1 当てはまる	25.5
2 どちらかといえば、当てはまる	45.2
3 どちらかといえば、当てはまらない	22.7
4 全く当てはまらない	6.5



全国: I 中(63)

国語の授業で、意見を書くとき、意見の根拠として取り上げる資料や具体例が適切かどうかをよく考えて使っている

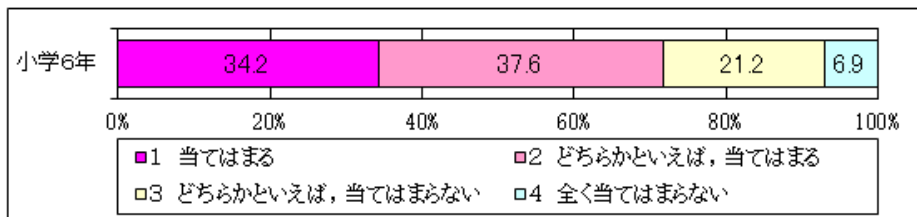
	中学3年
1 当てはまる	12.3
2 どちらかといえば、当てはまる	39.5
3 どちらかといえば、当てはまらない	37.4
4 全く当てはまらない	10.8



全国: I 小(64)

国語の授業で物語を読むときに、目的に応じて登場人物の気持ちを考えている

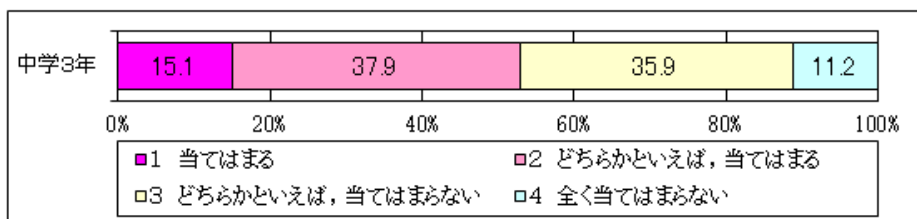
	小学6年
1 当てはまる	34.2
2 どちらかといえば、当てはまる	37.6
3 どちらかといえば、当てはまらない	21.2
4 全く当てはまらない	6.9



全国: I 中(64)

国語の授業で本や資料を読むとき、書かれている内容が事実か意見かにきを付けて読んでいる

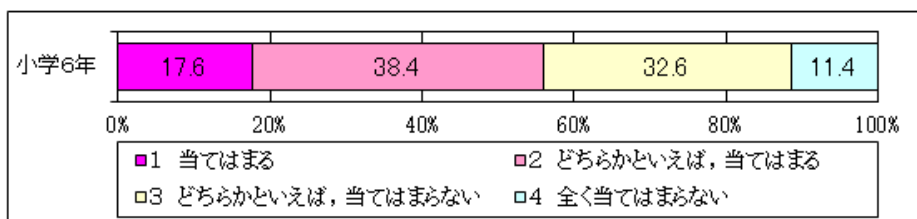
	中学3年
1 当てはまる	15.1
2 どちらかといえば、当てはまる	37.9
3 どちらかといえば、当てはまらない	35.9
4 全く当てはまらない	11.2



全国: I 小(65)

国語の授業で、必要な情報を得るために、文章の内容とグラフなどを合わせて考えている

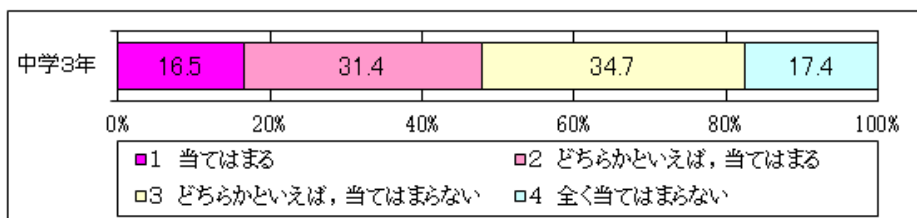
	小学6年
1 当てはまる	17.6
2 どちらかといえば、当てはまる	38.4
3 どちらかといえば、当てはまらない	32.6
4 全く当てはまらない	11.4



全国: I 中(65)

日常生活や国語の授業で分からない言葉に出合ったとき、辞書を引いて言葉の意味を理解するようにしている

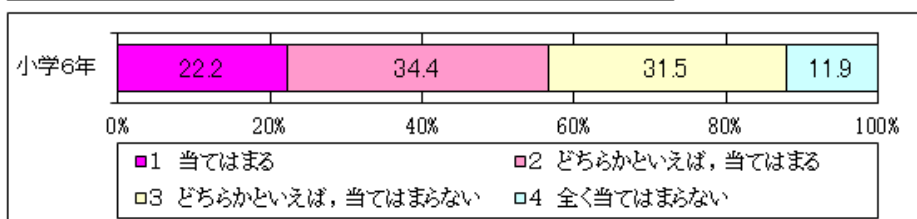
	中学3年
1 当てはまる	16.5
2 どちらかといえば、当てはまる	31.4
3 どちらかといえば、当てはまらない	34.7
4 全く当てはまらない	17.4



全国: I 小(66)

国語の授業で、分かりやすい文章を書くために、2つ以上の文を1つの文にまとめて書いたり、1つの長い文を2つの文に書き分けたりしている

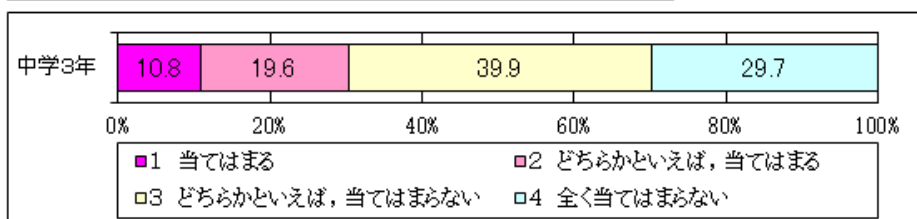
	小学6年
1 当てはまる	22.2
2 どちらかといえば、当てはまる	34.4
3 どちらかといえば、当てはまらない	31.5
4 全く当てはまらない	11.9



全国: I 中(66)

古典は好きだ

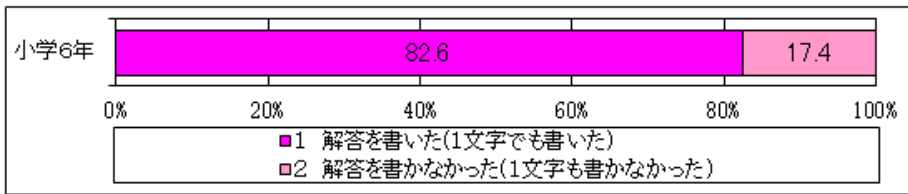
	中学3年
1 当てはまる	10.8
2 どちらかといえば、当てはまる	19.6
3 どちらかといえば、当てはまらない	39.9
4 全く当てはまらない	29.7



全国: I 小(68)

この問題(小国B 大問2)の解答を書きましたか。

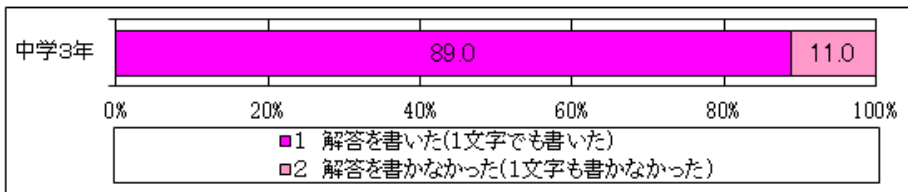
	小学6年
1 解答を書いた(1文字でも書いた)	82.6
2 解答を書かなかった(1文字も書かなかった)	17.4



全国: I 中(68)

この問題(中国B 大問3)の解答を書きましたか。

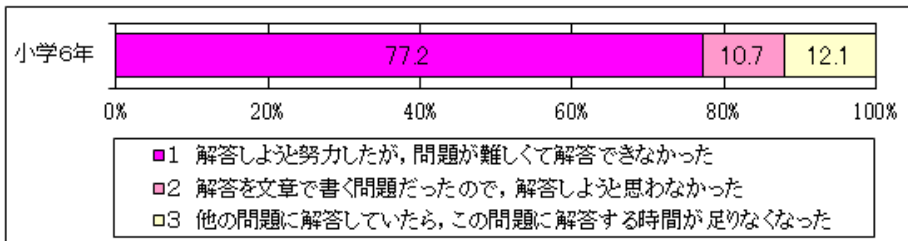
	中学3年
1 解答を書いた(1文字でも書いた)	89.0
2 解答を書かなかった(1文字も書かなかった)	11.0



全国: I 小(69)

この問題(小国B 大問2)について解答しなかった理由は何ですか。最も近いものを選んでください。

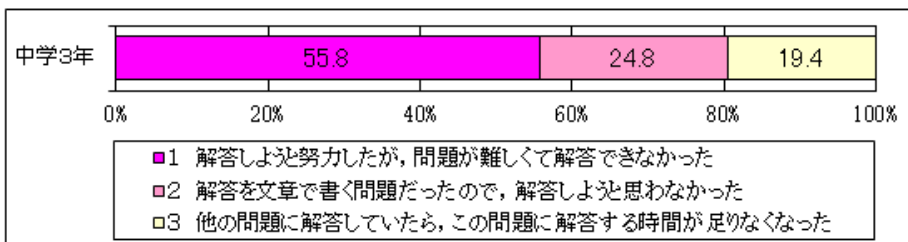
	小学6年
1 解答しようとしたが、問題が難しく解答できなかった	77.2
2 解答を文章で書く問題だったので、解答しようと思わなかった	10.7
3 他の問題に解答していたら、この問題に解答する時間が足りなくなった	12.1



全国: I 中(69)

この問題(中国B 大問3)について解答しなかった理由は何ですか。最も近いものを選んでください。

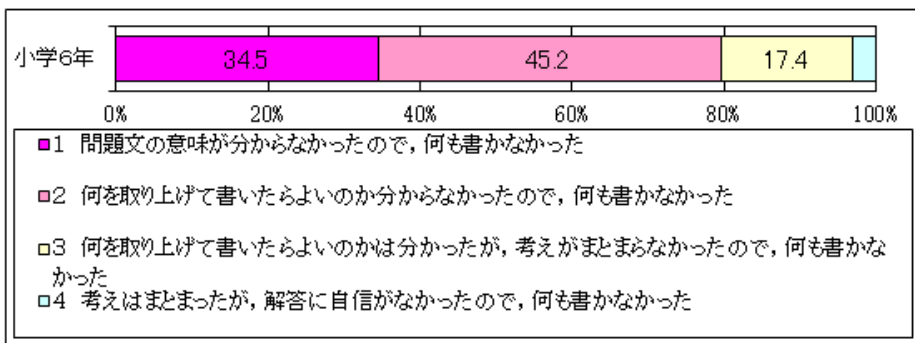
	中学3年
1 解答しようとしたが、問題が難しく解答できなかった	55.8
2 解答を文章で書く問題だったので、解答しようと思わなかった	24.8
3 他の問題に解答していたら、この問題に解答する時間が足りなくなった	19.4



全国: I 小(70)

この問題(小国B 大問2)に解答しようとしたとき、あなたはどのように考えましたか。最も近いものを選んでください。

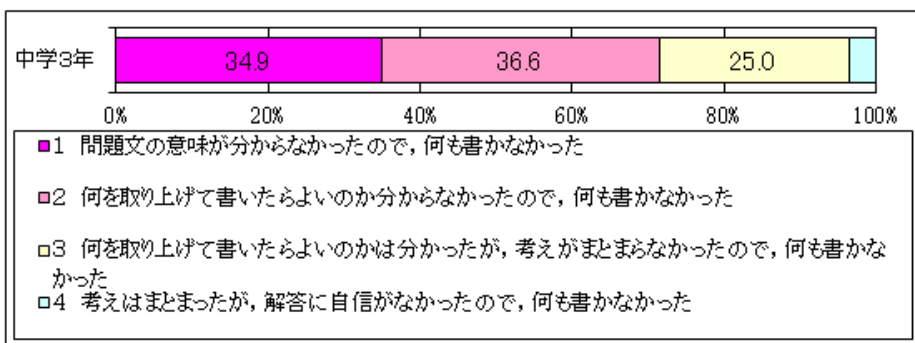
	小学6年
1 問題文の意味が分からなかったので、何も書かなかった	34.5
2 何を取り上げて書いたらよいか分からなかったので、何も書かなかった	45.2
3 何を取り上げて書いたらよいかは分かったが、考えがまとまらなかったため、何も書かなかった	17.4
4 考えはまとまったが、解答に自信がなかったため、何も書かなかった	3.0



全国: I 中(70)

この問題(中国B 大問3)に解答しようとしたとき、あなたはどのように考えましたか。最も近いものを選んでください。

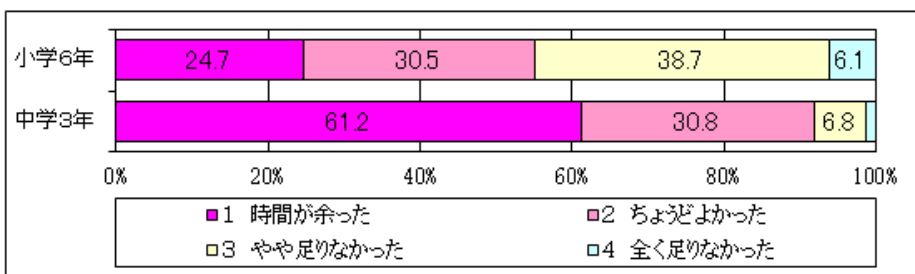
	中学3年
1 問題文の意味が分からなかったため、何も書かなかった	34.9
2 何を取り上げて書いたらよいか分からなかったため、何も書かなかった	36.6
3 何を取り上げて書いたらよいかは分かったが、考えがまとまらなかったため、何も書かなかった	25.0
4 考えはまとまったが、解答に自信がなかったため、何も書かなかった	3.5



全国: I 小(71) 中(71)

小: 国語A(20分) 中:(45分)

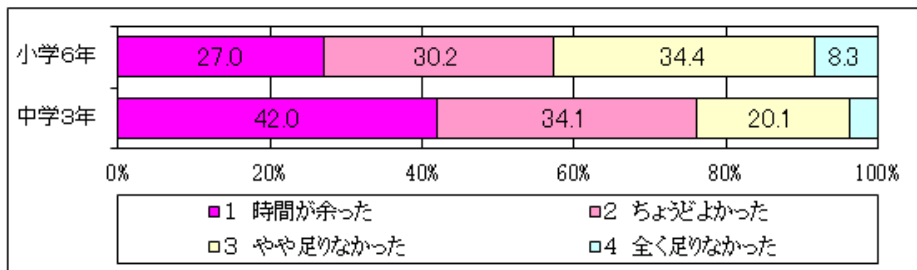
	小学6年	中学3年
1 時間が余った	24.7	61.2
2 ちょうどよかった	30.5	30.8
3 やや足りなかった	38.7	6.8
4 全く足りなかった	6.1	1.2



全国: I 小(72) 中(72)

小: 国語B(40分) 中:(45分)

	小学6年	中学3年
1 時間が余った	27.0	42.0
2 ちょうど良かった	30.2	34.1
3 やや足りなかった	34.4	20.1
4 全く足りなかった	8.3	3.8



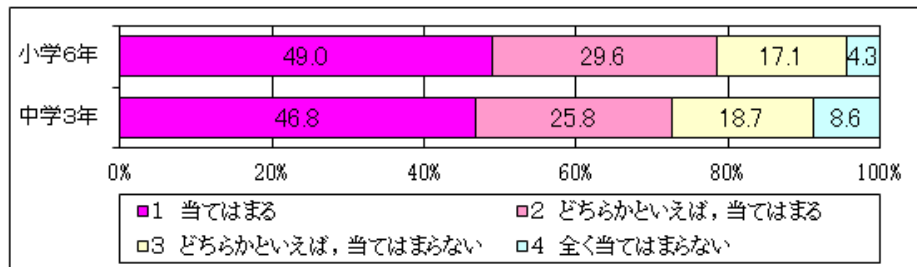
3 児童質問紙Ⅱ及び生徒質問紙Ⅱのみの質問

※対象人数 小学校 2717人/8334人 中学校 2736人/7813人

全国:Ⅱ(30)

自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある

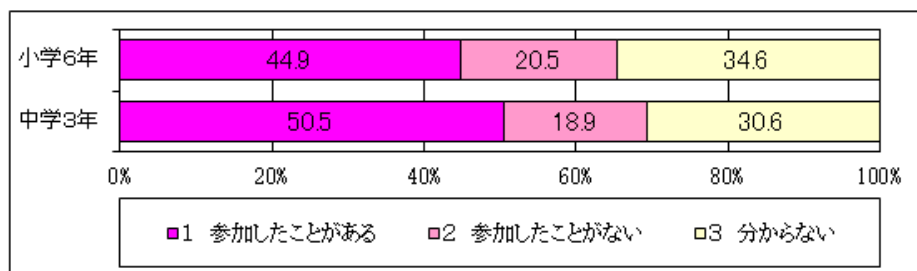
	小学6年	中学3年
1 当てはまる	49.0	46.8
2 どちらかといえば、当てはまる	29.6	25.8
3 どちらかといえば、当てはまらない	17.1	18.7
4 全く当てはまらない	4.3	8.6



全国:Ⅱ(34)

地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか

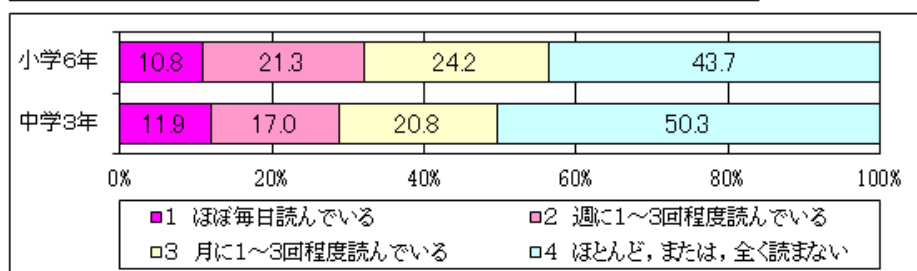
	小学6年	中学3年
1 参加したことがある	44.9	50.5
2 参加したことがない	20.5	18.9
3 分からない	34.6	30.6



全国:Ⅱ(35)

新聞を読んでいますか

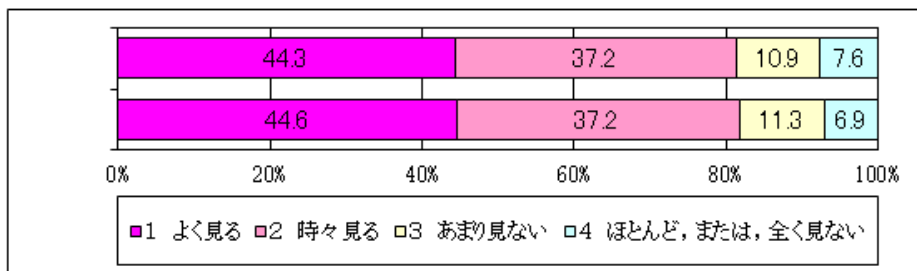
	小学6年	中学3年
1 ほぼ毎日読んでいる	10.8	11.9
2 週に1～3回程度読んでいる	21.3	17.0
3 月に1～3回程度読んでいる	24.2	20.8
4 ほとんど、または、全く読まない	43.7	50.3



全国: II (36)

テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか(携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットをする場合も含まれます。)

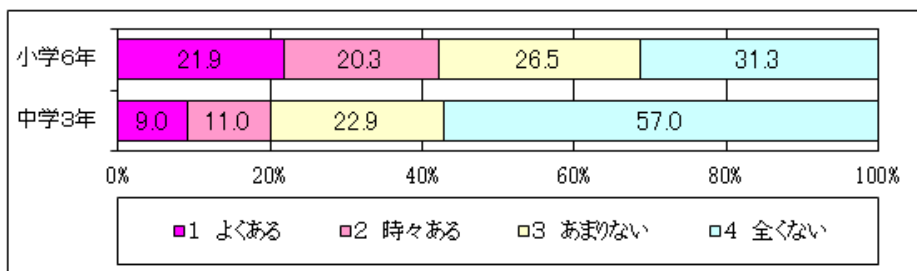
	小学6年	中学3年
1 よく見る	44.3	44.6
2 時々見る	37.2	37.2
3 あまり見ない	10.9	11.3
4 ほとんど、または、全く見ない	7.6	6.9



全国: II (37)

地域の大人(学校や塾・習い事の先生は除きます。)に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがある

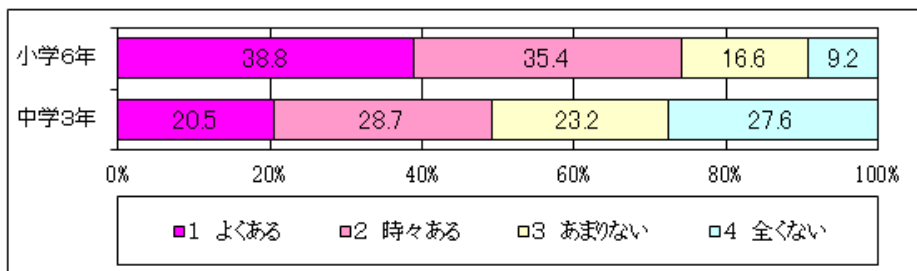
	小学6年	中学3年
1 よくある	21.9	9.0
2 時々ある	20.3	11.0
3 あまりない	26.5	22.9
4 全くない	31.3	57.0



全国: II (38)

年上や年下の友達と一緒に遊んだり、勉強したりすることがある

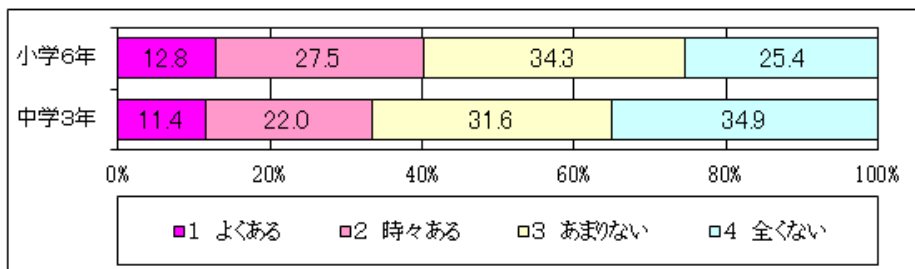
	小学6年	中学3年
1 よくある	38.8	20.5
2 時々ある	35.4	28.7
3 あまりない	16.6	23.2
4 全くない	9.2	27.6



全国: II (39)

地域の大人(学校や塾・習い事の先生は除きます。)から注意されたことや、友達や他の子どもが注意されているところを見たことがある

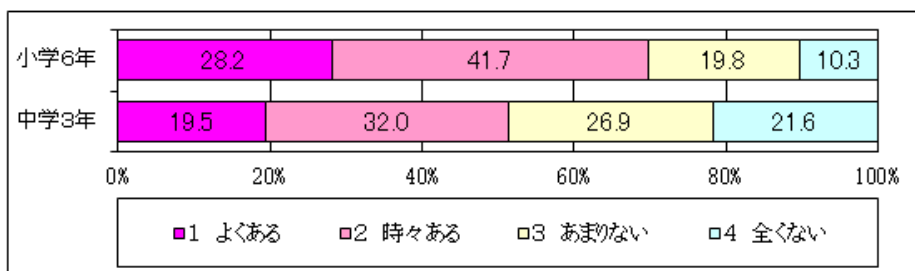
	小学6年	中学3年
1 よくある	12.8	11.4
2 時々ある	27.5	22.0
3 あまりない	34.3	31.6
4 全くない	25.4	34.9



全国: II (40)

地域の大人(学校や塾・習い事の先生は除きます。)から褒められたことがある

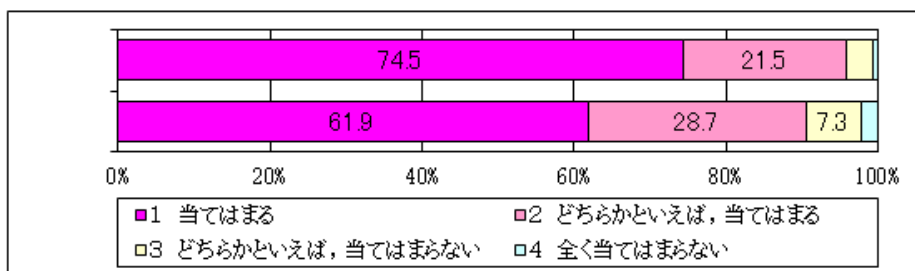
	小学6年	中学3年
1 よくある	28.2	19.5
2 時々ある	41.7	32.0
3 あまりない	19.8	26.9
4 全くない	10.3	21.6



全国: II (42)

近所の人に出会ったときは、挨拶をしている

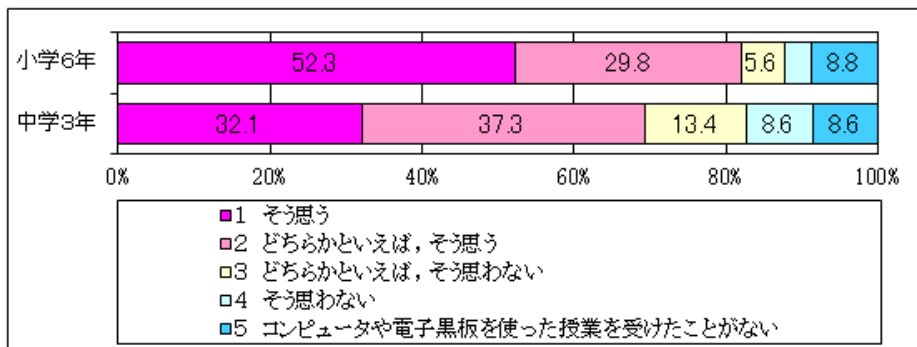
	小学6年	中学3年
1 当てはまる	74.5	61.9
2 どちらかといえば、当てはまる	21.5	28.7
3 どちらかといえば、当てはまらない	3.5	7.3
4 全く当てはまらない	0.6	2.2



全国: II (49)

コンピュータや電子黒板を使った授業は分かりやすいと思いますか

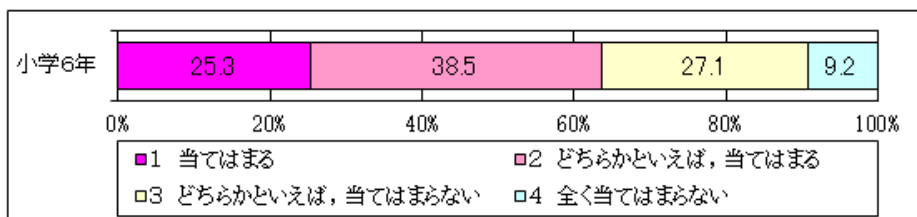
	小学6年	中学3年
1 そう思う	52.3	32.1
2 どちらかといえば、そう思う	29.8	37.3
3 どちらかといえば、そう思わない	5.6	13.4
4 そう思わない	3.5	8.6
5 コンピュータや電子黒板を使った授業を受けたことがない	8.8	8.6



全国: II 小(72)

算数の授業で問題を解くとき、なぜこの式に表したのかという理由を考えている

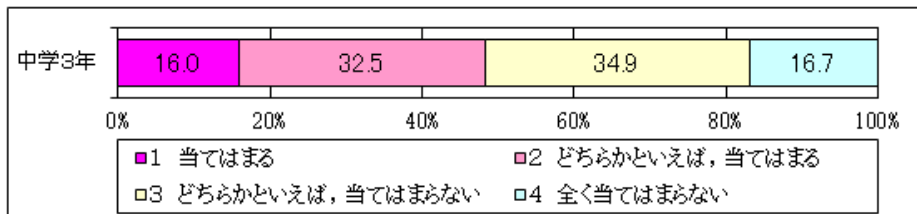
	小学6年
1 当てはまる	25.3
2 どちらかといえば、当てはまる	38.5
3 どちらかといえば、当てはまらない	27.1
4 全く当てはまらない	9.2



全国: II 中(72)

数学の授業で方程式を使って問題を解くために、数量の関係を、表や線分図などで確かめながら式をつくらしている

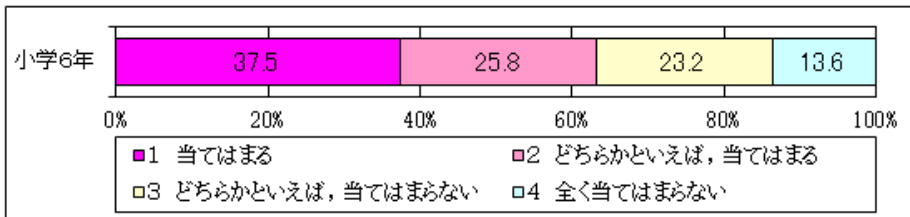
	中学3年
1 当てはまる	16.0
2 どちらかといえば、当てはまる	32.5
3 どちらかといえば、当てはまらない	34.9
4 全く当てはまらない	16.7



全国: I 小(73)

算数の授業で身のまわりにある長方形や正方形などの図形の面積を求めたことがある

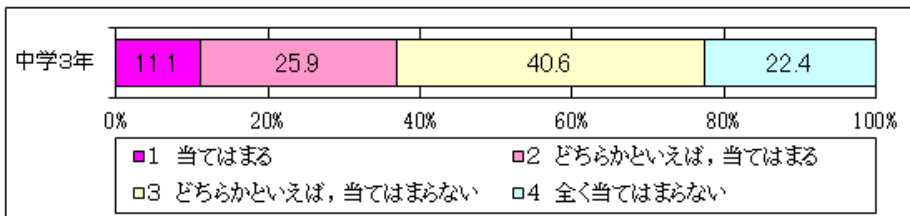
	小学6年
1 当てはまる	37.5
2 どちらかといえば、当てはまる	25.8
3 どちらかといえば、当てはまらない	23.2
4 全く当てはまらない	13.6



全国: II 中(73)

数学の授業で図形の証明について学習をするとき、1つの図だけでなく、いくつかの図について証明したことが成り立つかどうかを調べるようにしている

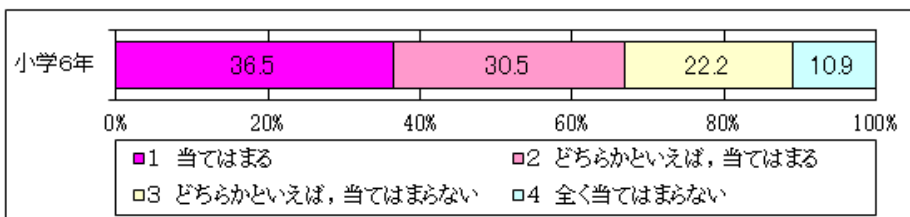
	中学3年
1 当てはまる	11.1
2 どちらかといえば、当てはまる	25.9
3 どちらかといえば、当てはまらない	40.6
4 全く当てはまらない	22.4



全国: II 小(74)

普段の生活で、学習した図形の性質(例えば、辺の長さが等しい、平行であるなど)をもとに、身のまわりのものを観察し、二等辺三角形や長方形円などの図形を見付けたことがある

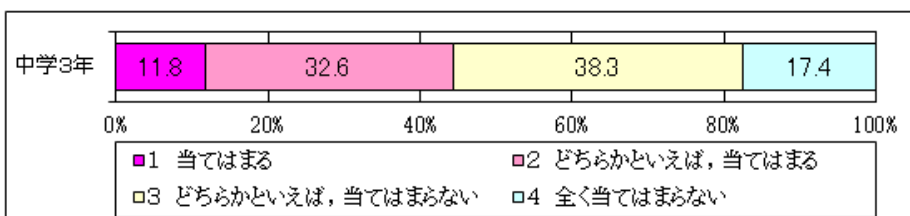
	小学6年
1 当てはまる	36.5
2 どちらかといえば、当てはまる	30.5
3 どちらかといえば、当てはまらない	22.2
4 全く当てはまらない	10.9



全国: II 中(74)

数学の授業で関数も問題を考えるとき、2つの数量の関係を、表、式、グラフを使って考えるようにしている

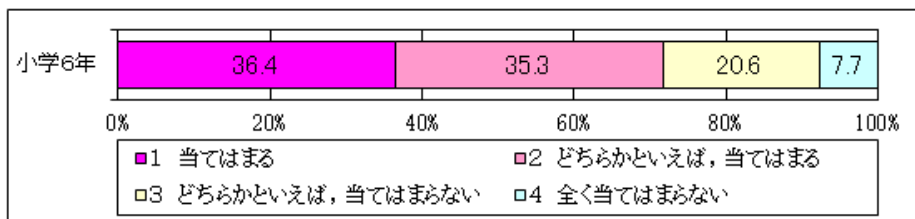
	中学3年
1 当てはまる	11.8
2 どちらかといえば、当てはまる	32.6
3 どちらかといえば、当てはまらない	38.3
4 全く当てはまらない	17.4



全国: II 小(75)

算数の授業で計算をするときに、もっと簡単に計算することができるように工夫をしたことがある

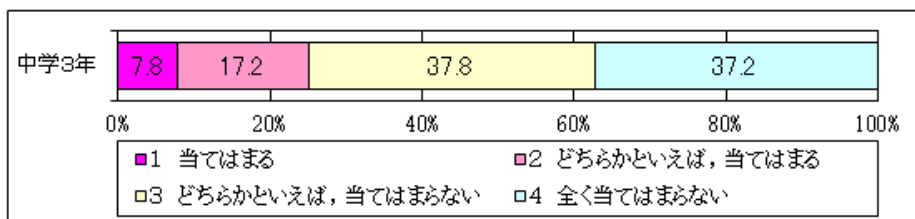
	小学6年
1 当てはまる	36.4
2 どちらかといえば、当てはまる	35.3
3 どちらかといえば、当てはまらない	20.6
4 全く当てはまらない	7.7



全国: II 中(75)

数学の授業でヒストグラムなどから分かることを説明したことがある

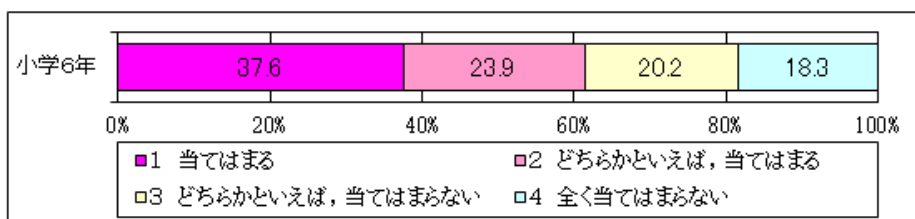
	中学3年
1 当てはまる	7.8
2 どちらかといえば、当てはまる	17.2
3 どちらかといえば、当てはまらない	37.8
4 全く当てはまらない	37.2



全国: II 小(76)

普段の生活で、身のまわりにある割合の表現(例えば、2割引)について、実際に計算をしたことがある

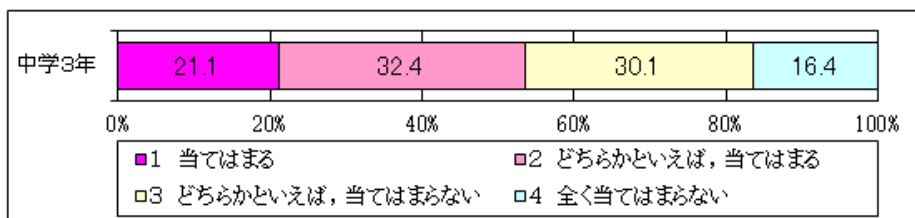
	小学6年
1 当てはまる	37.6
2 どちらかといえば、当てはまる	23.9
3 どちらかといえば、当てはまらない	20.2
4 全く当てはまらない	18.3



全国: II 中(76)

数学の授業で文字を使った式について学習するとき、表した式が何を意味しているかを考えようとしている(例えば、式(a+b)÷2は、aとbの平均を表しているなど)

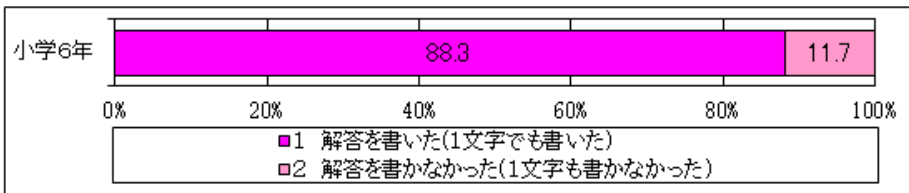
	中学3年
1 当てはまる	21.1
2 どちらかといえば、当てはまる	32.4
3 どちらかといえば、当てはまらない	30.1
4 全く当てはまらない	16.4



全国: I 小(78)

この問題(小算B 大問4)の解答を書きましたか。

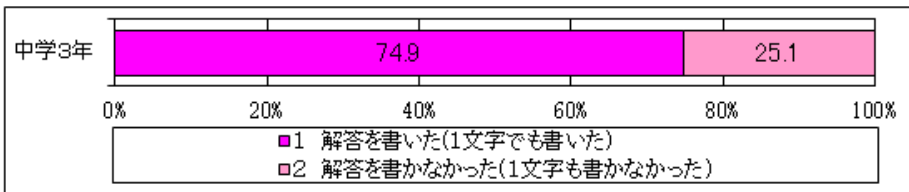
	小学6年
1 解答を書いた(1文字でも書いた)	88.3
2 解答を書かなかった(1文字も書かなかった)	11.7



全国: I 中(78)

この問題(中数B 大問4)の解答を書きましたか。

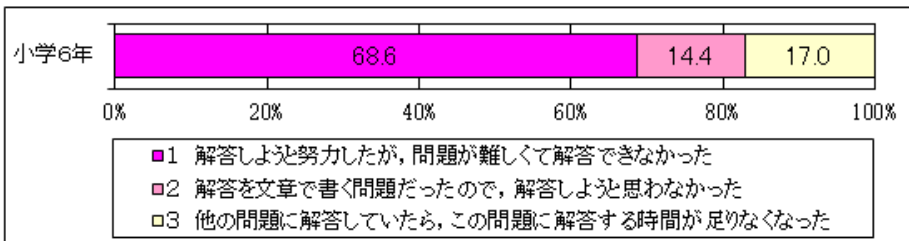
	中学3年
1 解答を書いた(1文字でも書いた)	74.9
2 解答を書かなかった(1文字も書かなかった)	25.1



全国: I 小(79)

この問題(小算B 大問4)について解答しなかった理由は何ですか。最も近いものを選んでください。

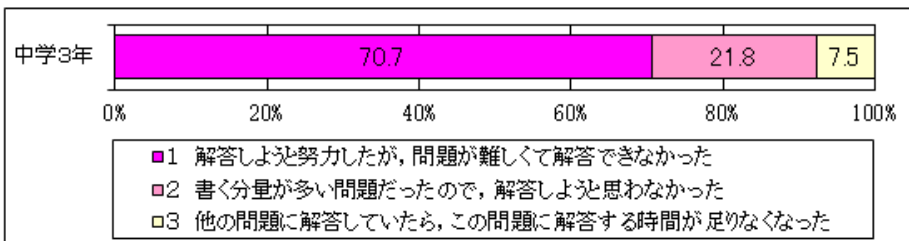
	小学6年
1 解答しようと努力したが、問題が難しく解答できなかった	68.6
2 解答を文章で書く問題だったので、解答しようと思わなかった	14.4
3 他の問題に解答していたら、この問題に解答する時間が足りなくなった	17.0



全国: I 中(79)

この問題(中数B 大問4)について解答しなかった理由は何ですか。最も近いものを選んでください。

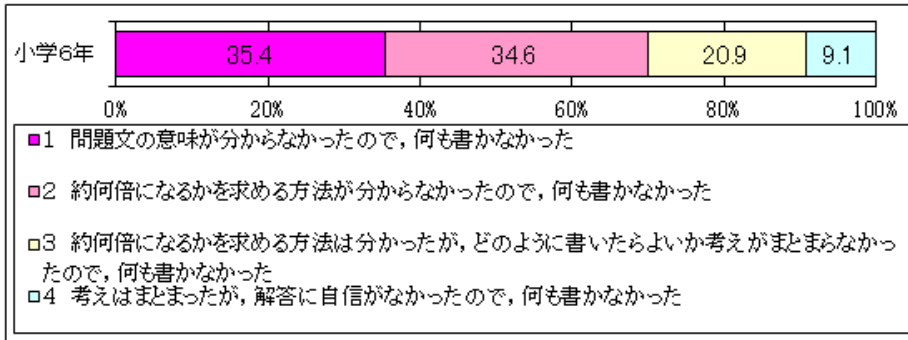
	中学3年
1 解答しようと努力したが、問題が難しく解答できなかった	70.7
2 書く分量が多い問題だったので、解答しようと思わなかった	21.8
3 他の問題に解答していたら、この問題に解答する時間が足りなくなった	7.5



全国：Ⅱ 小(80)

この問題(小算B 大問4)に解答しようとしたとき、あなたはどのように考えましたか。最も近いものを選んでください。

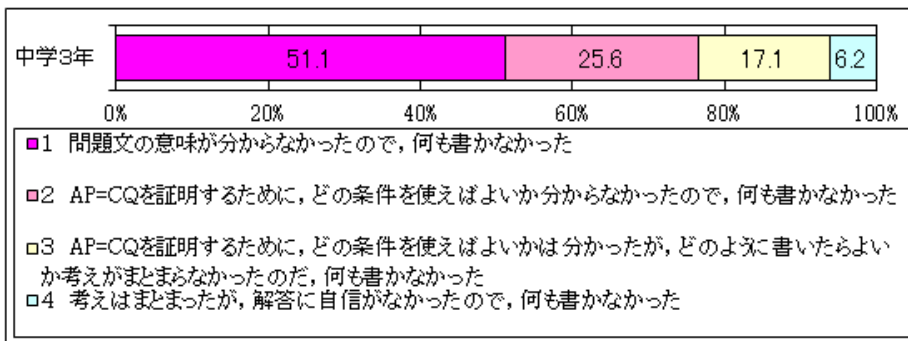
	小学6年
1 問題文の意味が分からなかったので、何も書かなかった	35.4
2 約何倍になるかを求める方法が分からなかったので、何も書かなかった	34.6
3 約何倍になるかを求める方法は分かったが、どのように書いたらよいか考えがまとまらなかった	20.9
4 考えはまとまったが、解答に自信がなかった	9.1



全国：Ⅱ 中(80)

この問題(中数B 大問4)に解答しようとしたとき、あなたはどのように考えましたか。最も近いものを選んでください。

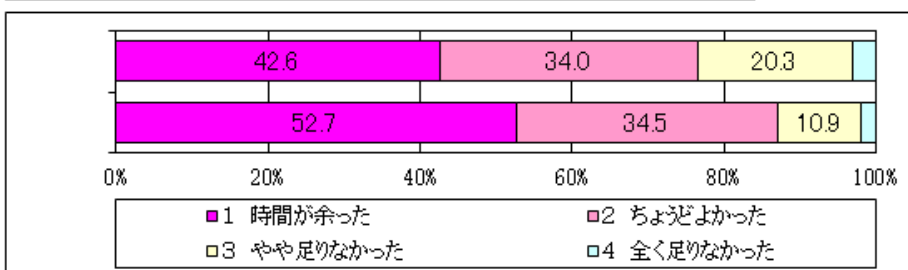
	中学3年
1 問題文の意味が分からなかった	51.1
2 AP=CQを証明するために、どの条件を使えばよいか分からなかった	25.6
3 AP=CQを証明するために、どの条件を使えばよいかは分かったが、どのように書いたらよいか考えがまとまらなかった	17.1
4 考えはまとまったが、解答に自信がなかった	6.2



全国：Ⅱ (81)

算数A(20分)・数学A(45分)

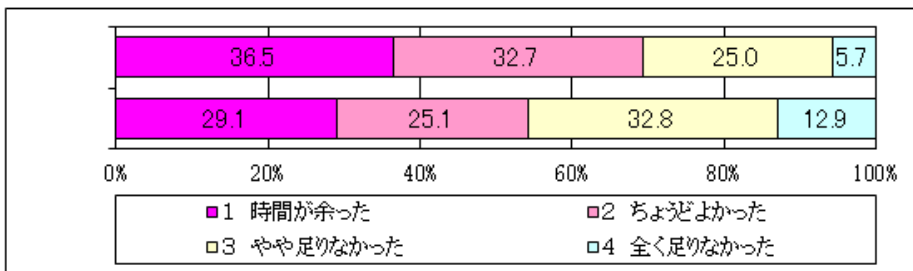
	小学6年	中学3年
1 時間が余った	42.6	52.7
2 ちょうどよかった	34.0	34.5
3 やや足りなかった	20.3	10.9
4 全く足りなかった	3.1	1.9



全国: II (82)

算数B(40分)・数学B(45分)

	小学6年	中学3年
1 時間が余った	36.5	29.1
2 ちょうどよかった	32.7	25.1
3 やや足りなかった	25.0	32.8
4 全く足りなかった	5.7	12.9



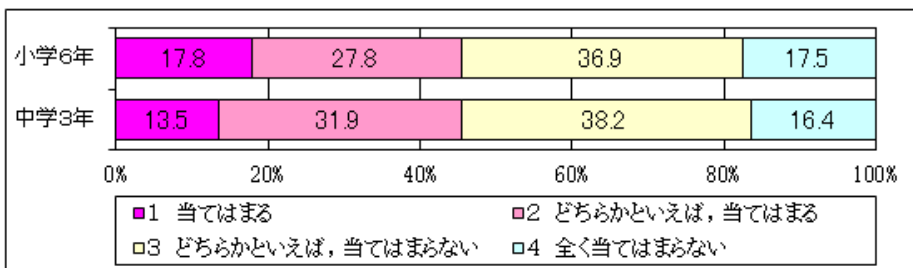
4 児童質問紙Ⅲ及び生徒質問紙Ⅲのみの質問

※対象人数 小学校 2861人/8334人 中学校 2713人/7813人

全国: III (7)

友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だ

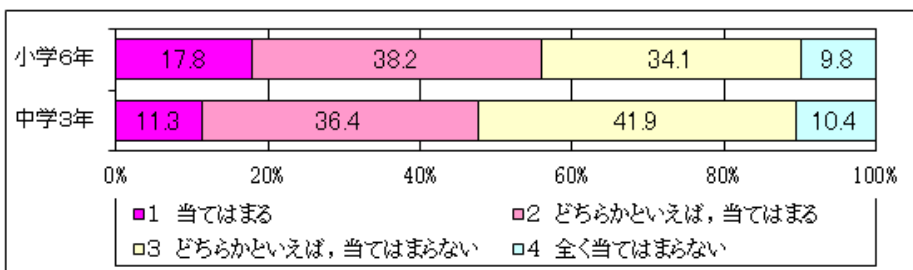
	小学6年	中学3年
1 当てはまる	17.8	13.5
2 どちらかといえば、当てはまる	27.8	31.9
3 どちらかといえば、当てはまらない	36.9	38.2
4 全く当てはまらない	17.5	16.4



全国: III (8)

自分の行動や発言に自信を持っている

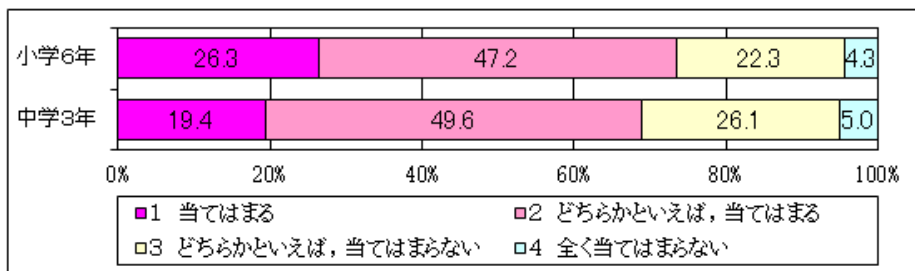
	小学6年	中学3年
1 当てはまる	17.8	11.3
2 どちらかといえば、当てはまる	38.2	36.4
3 どちらかといえば、当てはまらない	34.1	41.9
4 全く当てはまらない	9.8	10.4



全国:Ⅲ(9)

友達に伝えたいことをうまく伝えることができる

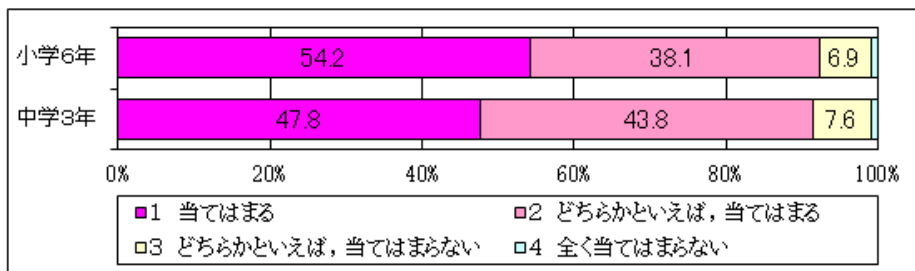
	小学6年	中学3年
1 当てはまる	26.3	19.4
2 どちらかといえば、当てはまる	47.2	49.6
3 どちらかといえば、当てはまらない	22.3	26.1
4 全く当てはまらない	4.3	5.0



全国:Ⅲ(10)

友達を話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている

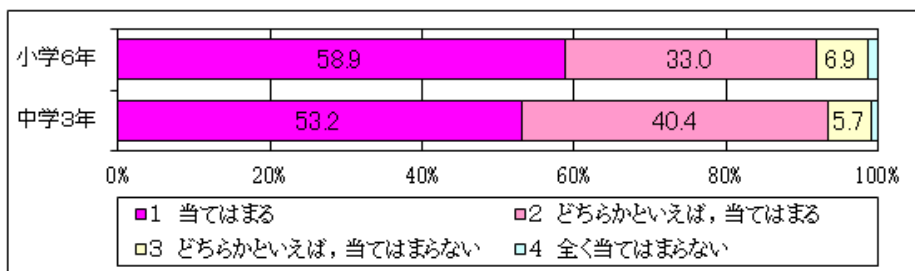
	小学6年	中学3年
1 当てはまる	54.2	47.8
2 どちらかといえば、当てはまる	38.1	43.8
3 どちらかといえば、当てはまらない	6.9	7.6
4 全く当てはまらない	0.8	0.8



全国:Ⅲ(11)

一人一人の人間には考えや性格などに違いがあるということを大切にしている

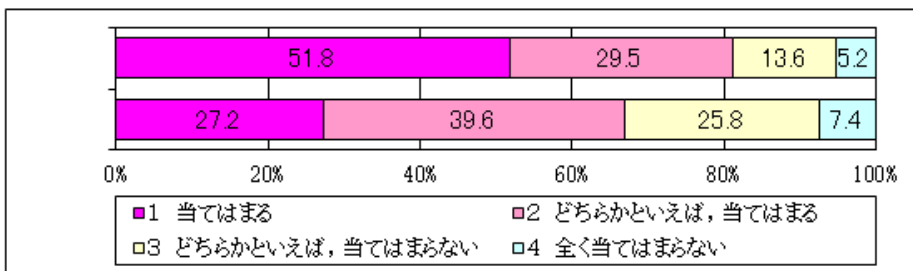
	小学6年	中学3年
1 当てはまる	58.9	53.2
2 どちらかといえば、当てはまる	33.0	40.4
3 どちらかといえば、当てはまらない	6.9	5.7
4 全く当てはまらない	1.3	0.7



全国:Ⅲ(13)

将来の夢や目標を実現するために努力している

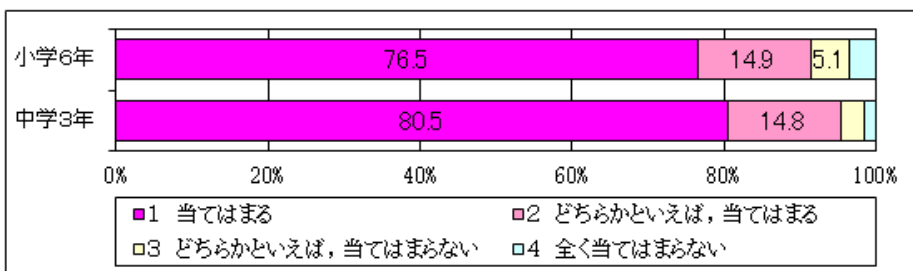
	小学6年	中学3年
1 当てはまる	51.8	27.2
2 どちらかといえば、当てはまる	29.5	39.6
3 どちらかといえば、当てはまらない	13.6	25.8
4 全く当てはまらない	5.2	7.4



全国:Ⅲ(14)

将来何かの職業や仕事に就いて働きたいと思う

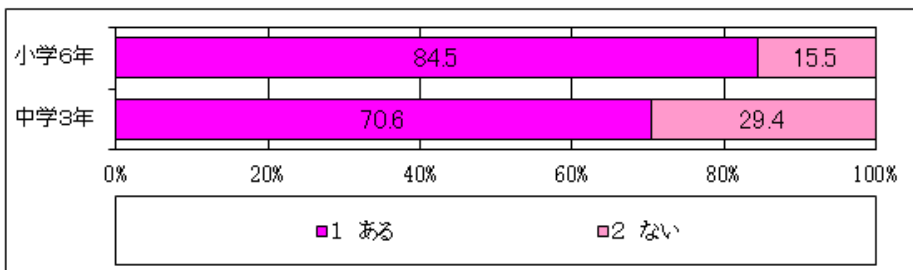
	小学6年	中学3年
1 当てはまる	76.5	80.5
2 どちらかといえば、当てはまる	14.9	14.8
3 どちらかといえば、当てはまらない	5.1	3.1
4 全く当てはまらない	3.4	1.5



全国:Ⅲ(15)

将来なりたい職業はありますか

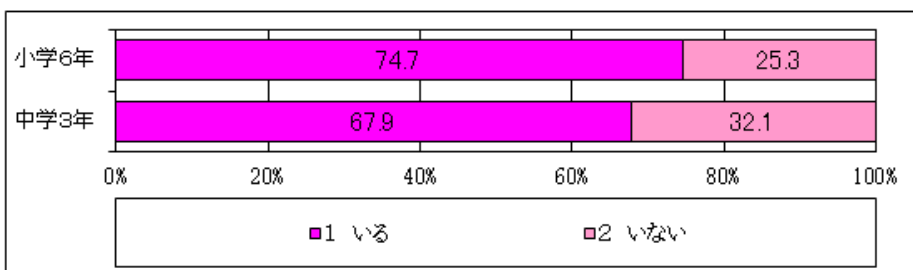
	小学6年	中学3年
1 ある	84.5	70.6
2 ない	15.5	29.4



全国:Ⅲ(16)

あなたには「あのような人になりたい」と思う人はいますか

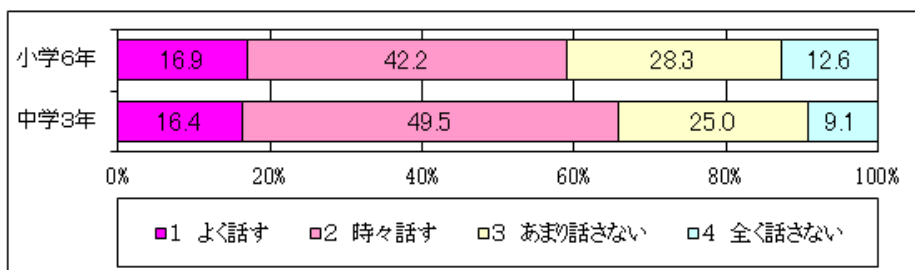
	小学6年	中学3年
1 いる	74.7	67.9
2 いない	25.3	32.1



全国: III(17)

家の人(兄弟姉妹は含みません)と将来のことについて話すことがありますか

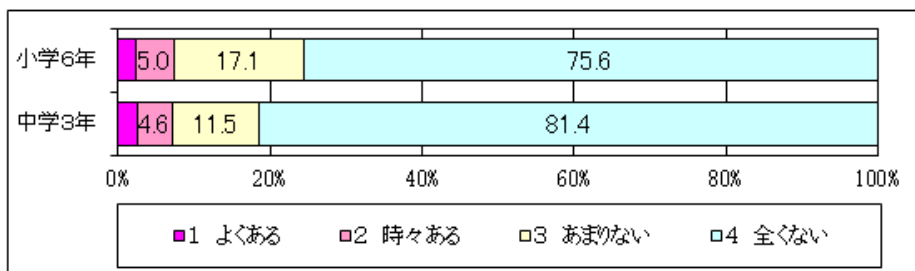
	小学6年	中学3年
1 よく話す	16.9	16.4
2 時々話す	42.2	49.5
3 あまり話さない	28.3	25.0
4 全く話さない	12.6	9.1



全国: III(40)

学校で、気持ちが沈んだときや、落ち着かないときなどに、保健室の先生のところに相談に行くことはありますか

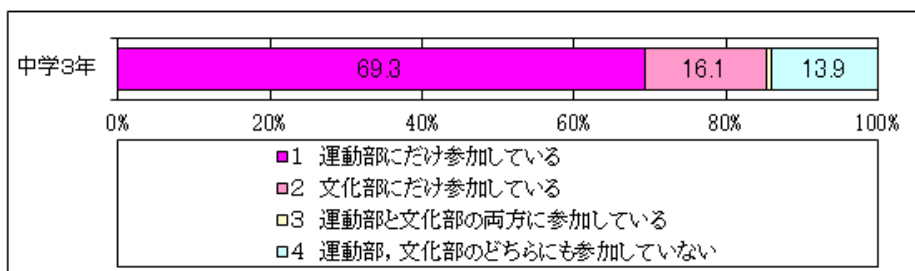
	小学6年	中学3年
1 よくある	2.4	2.5
2 時々ある	5.0	4.6
3 あまりない	17.1	11.5
4 全くない	75.6	81.4



全国: III(41)

学校の部活動に参加していますか。

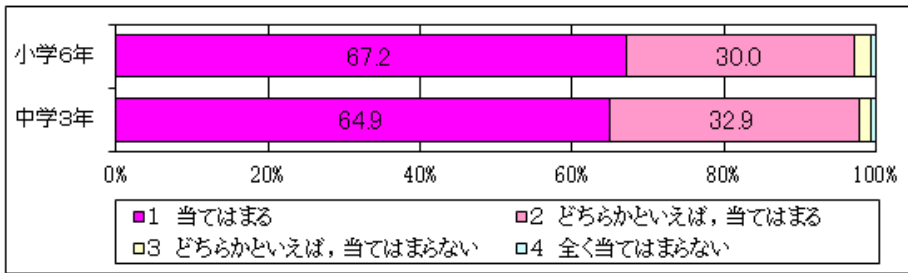
	中学3年
1 運動部にだけ参加している	69.3
2 文化部にだけ参加している	16.1
3 運動部と文化部の両方に参加している	0.7
4 運動部, 文化部のどちらにも参加していない	13.9



全国: Ⅲ小(45) 中(46)

友達との約束を守っている

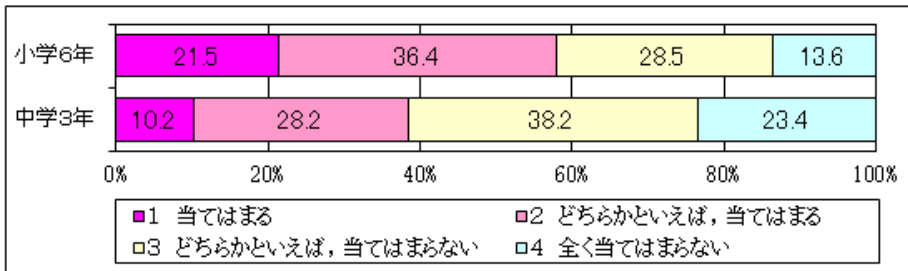
	小学6年	中学3年
1 当てはまる	67.2	64.9
2 どちらかといえば、当てはまる	30.0	32.9
3 どちらかといえば、当てはまらない	2.2	1.7
4 全く当てはまらない	0.6	0.6



全国: Ⅲ小(49) 中(50)

リーダーとして周りの人をまとめて引っ張っていける自信がある

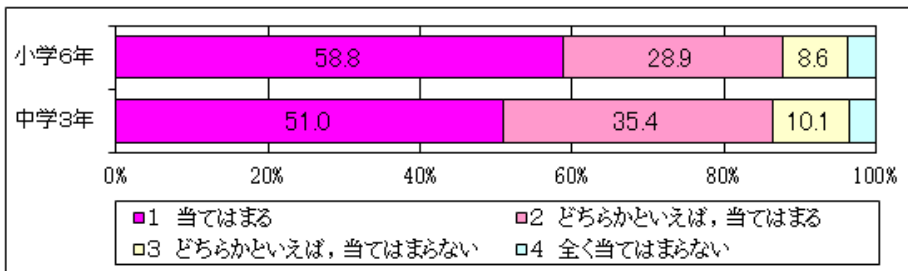
	小学6年	中学3年
1 当てはまる	21.5	10.2
2 どちらかといえば、当てはまる	36.4	28.2
3 どちらかといえば、当てはまらない	28.5	38.2
4 全く当てはまらない	13.6	23.4



全国: Ⅲ小(50) 中(51)

自分の考えや気持ちを理解してくれる友達がいる

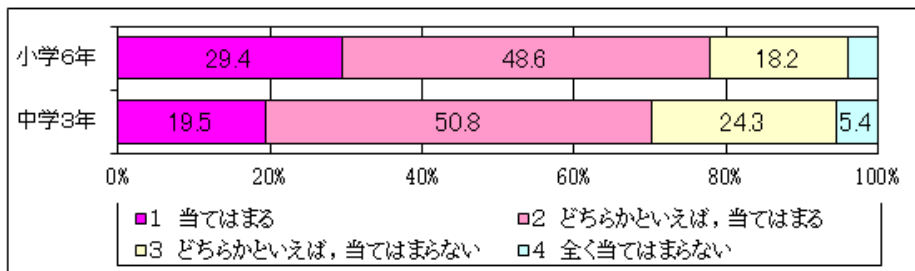
	小学6年	中学3年
1 当てはまる	58.8	51.0
2 どちらかといえば、当てはまる	28.9	35.4
3 どちらかといえば、当てはまらない	8.6	10.1
4 全く当てはまらない	3.6	3.5



全国: Ⅲ小(51) 中(52)

友達が悪いことをしたときは注意する

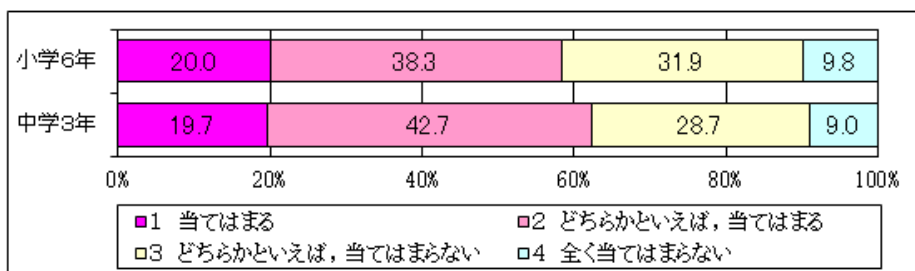
	小学6年	中学3年
1 当てはまる	29.4	19.5
2 どちらかといえば、当てはまる	48.6	50.8
3 どちらかといえば、当てはまらない	18.2	24.3
4 全く当てはまらない	3.8	5.4



全国: Ⅲ小(53) 中(54)

「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる

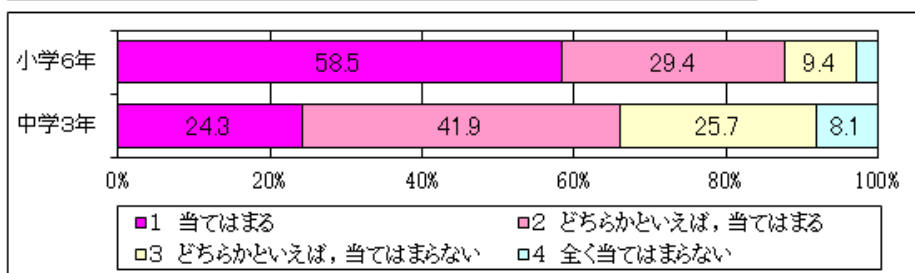
	小学6年	中学3年
1 当てはまる	20.0	19.7
2 どちらかといえば、当てはまる	38.3	42.7
3 どちらかといえば、当てはまらない	31.9	28.7
4 全く当てはまらない	9.8	9.0



全国: Ⅲ小(57) 中(58)

普通の授業では、はじめに授業の目標(めあて・ねらい)が示されていると思う

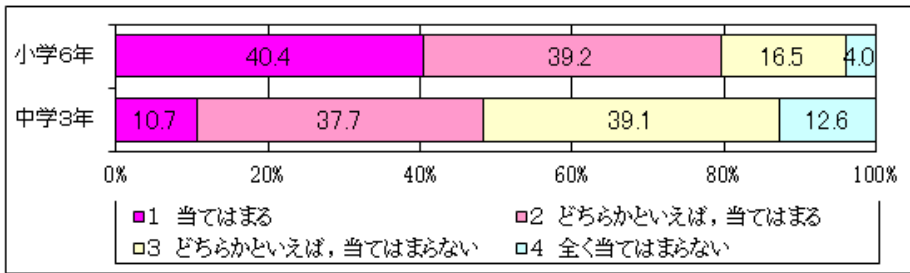
	小学6年	中学3年
1 当てはまる	58.5	24.3
2 どちらかといえば、当てはまる	29.4	41.9
3 どちらかといえば、当てはまらない	9.4	25.7
4 全く当てはまらない	2.8	8.1



全国: Ⅲ小(58) 中(59)

普段の授業では、最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていると思う

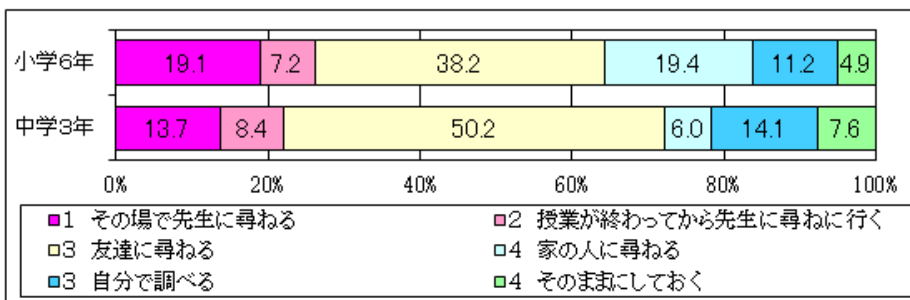
	小学6年	中学3年
1 当てはまる	40.4	10.7
2 どちらかといえば、当てはまる	39.2	37.7
3 どちらかといえば、当てはまらない	16.5	39.1
4 全く当てはまらない	4.0	12.6



全国: Ⅲ小(61) 中(62)

授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか

	小学6年	中学3年
1 その場で先生に尋ねる	19.1	13.7
2 授業が終わってから先生に尋ねに行く	7.2	8.4
3 友達に尋ねる	38.2	50.2
4 家の人に尋ねる	19.4	6.0
3 自分で調べる	11.2	14.1
4 そのまゝにしておく	4.9	7.6



最終更新日: 2013-10-21

平成25年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > II 調査結果の概要

教師意識調査から見た佐賀県の教師像(小学校)※数値は小数第一位で四捨五入している。

→ [中学校はこちら](#)

教師意識調査から見た佐賀県の小学校教師像（平成25年2月実施）

数値は、小数第1位で四捨五入している。

教科全般における指導法の工夫

- **発展的課題を取り入れた授業**
 多くの単元で行っている……………9%
 半分程度の単元で行っている……………20%
- **理解が十分でない児童への補足的指導**
 多くの単元で行っている……………41%
 半分程度の単元で行っている……………19%
- **レポートや作文など、表現する活動を取り入れた授業**
 多くの単元で行っている……………18%
 半分程度の単元で行っている……………27%
- **表現し、考えを広げたり深めたりする活動を取り入れた授業**
 多くの単元で行っている……………51%
 半分程度の単元で行っている……………25%
- **身に付けさせたい力を意識した総合的な学習における指導**
 行っている……………38%
 どちらかといえば行っている……………56%
- **学習目標や評価規準を明確化した指導**
 行っている……………38%
 どちらかといえば行っている……………58%
- **学習内容や学習方法についてのきめ細やかな指導**
 行っている……………33%
 どちらかといえば行っている……………59%
- **学習形態を工夫したメリハリのある授業**
 多くの単元で行っている……………46%
 半分程度の単元で行っている……………33%
- **P D C A サイクルを踏まえた実践**
 行っている……………22%
 どちらかといえば行っている……………65%

教科の特性に応じた指導法の工夫 小学校実施回答数 1203人

- **国語**
- **話したり聞いたりしたことを基に、自分の考えをもつ活動を取り入れた授業**
 多くの単元で……………34% 半分程度の単元で……………34%
- **自分の考えを書いて表現する活動を取り入れた授業**
 多くの単元で……………29% 半分程度の単元で……………39%
- **文章の内容や表現の仕方について、自分の考えをもつ活動を取り入れた授業**
 多くの単元で……………35% 半分程度の単元で……………40%
- **授業で学んだ言葉の特徴やきまりなどを、日常生活に生かすような指導**
 多くの単元で……………56% 半分程度の単元で……………41%
- **社会**
- **資料などから読み取ったことをまとめる活動を取り入れた授業**
 多くの単元で……………19% 半分程度の単元で……………30%
- **資料などから読み取ったことを基に話し合うような授業**
 多くの単元で……………14% 半分程度の単元で……………27%
- **算数**
- **算数的活動を通して、自分の考えをもつ活動を取り入れた授業**
 多くの単元で……………60% 半分程度の単元で……………24%
- **様々な考えを出し合い、話し合うような活動を取り入れた授業**
 多くの単元で……………58% 半分程度の単元で……………25%
- **理科**
- **児童が見通しをもち、観察や実験をするような授業**
 多くの単元で……………72% 半分程度の単元で……………21%
- **実験結果やまとめにおいて、いろいろな考えを出し合う授業**
 多くの単元で……………41% 半分程度の単元で……………36%

学習環境の活用

- **I C T 機器を活用した授業**
 年20回以上……………62%
 年10～19回程度……………20%
- **【活用場面】(複数回答による)**
 興味・関心を高めたり、課題を明確につかませたりする場面……………89%
 分かりやすく説明したり、理解や思考を促したりする場面……………75%
 情報を収集したり選択したりする場面……………60%
 授業の効率化を図る場面……………57%
- **学校図書館を活用した授業**
 年20回以上……………24%
 年10～19回程度……………22%
- **【活用内容】**
 読書指導・読書活動の場……………42%
 調べ学習の場……………47%



学校組織マネジメントに対する意識

- **学力向上や生徒指導など学校の方針を理解しているか**
 理解している……………66%
 どちらかといえば理解している……………33%
- **方針や教育内容についての共通理解が図られているか**
 そう思う……………54%
 どちらかといえばそう思う……………49%
- **学校内に気軽に話し合える雰囲気があるか**
 そう思う……………68%
 どちらかといえばそう思う……………29%

家庭学習への関与状況

- **宿題を出しているか**
 多くの時間で宿題を出している……………58% どちらかといえば出している方が多い……………22%
- **【宿題の内容】(「多くの時間で」「どちらかといえば出している」を合わせた割合)**
 予習的な内容の宿題を出している……………12% 復習的な内容の宿題を出している……………85%
 調べたり書いたりする内容の宿題を出している……………45%
- **家庭での学習方法について、指導をしているか**
 行っている……………34% どちらかといえば行っている……………47%
- **宿題の出し方について、共通理解を図っているか**
 図っている……………31% どちらかといえば行っている……………49%
- **出した宿題について、評価・指導を行い返却しているか**
 行っている……………78% どちらかといえば行っている……………20%

平成25年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > II 調査結果の概要

教師意識調査から見た佐賀県の教師像(中学校)※数値は小数第一位で四捨五入している。

→ [小学校はこちら](#)

教師意識調査から見た佐賀県の中学校教師像（平成25年2月実施）

数値は、小数第1位で四捨五入している。

教科全般における指導法の工夫

<p>■発展的課題を取り入れた授業 多くの単元で行っている……………14% 半分程度の単元で行っている……………14%</p> <p>■理解が十分でない生徒への補足的指導 多くの単元で行っている……………14% 半分程度の単元で行っている……………13%</p> <p>■レポートや作文など、表現する活動を取り入れた授業 多くの単元で行っている……………15% 半分程度の単元で行っている……………14%</p> <p>■表現し、考えを広げたり深めたりする活動を取り入れた授業 多くの単元で行っている……………27% 半分程度の単元で行っている……………16%</p> <p>■身に付けさせたい力を意識した総合的な学習における指導 行っている……………33% どちらかといえば行っている……………57%</p> <p>■学習目標や評価規準を明確化した指導 行っている……………31% どちらかといえば行っている……………60%</p> <p>■学習内容や学習方法についてのきめ細やかな指導 行っている……………23% どちらかといえば行っている……………58%</p> <p>■学習形態を工夫したメリハリのある授業 多くの単元で行っている……………36% 半分程度の単元で行っている……………22%</p> <p>■P D C Aサイクルを踏まえた実践 行っている……………16% どちらかといえば行っている……………60%</p>

教科の特性に応じた指導法の工夫

中学校実施回答数 962人

<p>■話したり聞いたりしたことを基に、自分の考えをまとめる活動を取り入れた授業 多くの単元で……………22% 半分程度の単元で……………23%</p> <p>■自分の思いや考えを書いて表現する活動を取り入れた授業 多くの単元で……………31% 半分程度の単元で……………30%</p> <p>■文章の内容や表現の仕方について、自分の考えをもつ活動を取り入れた授業 多くの単元で……………34% 半分程度の単元で……………26%</p> <p>■授業で学んだ言葉の特徴やきまりなどを、日常生活に生かすような指導 多くの単元で……………36% 半分程度の単元で……………52%</p>
<p>■資料などから読み取ったことをまとめる活動を取り入れた授業 多くの単元で…………… 5% 半分程度の単元で…………… 9%</p> <p>■資料などから読み取ったことを基に話し合うような授業 多くの単元で……………11% 半分程度の単元で……………11%</p>
<p>■数学的活動を通して、自分の考えをもつ活動を取り入れた授業 多くの単元で……………39% 半分程度の単元で……………21%</p> <p>■様々な考えを出し合い、話し合うような活動を取り入れた授業 多くの単元で……………33% 半分程度の単元で……………14%</p>
<p>■生徒が見通しをもち、観察や実験をするような授業 多くの単元で……………53% 半分程度の単元で……………33%</p> <p>■実験結果やまとめにおいていろいろな考えを出し合う授業 多くの単元で……………34% 半分程度の単元で……………31%</p>
<p>■スピーチをする活動を取り入れた授業 多くの単元で…………… 9% 半分程度の単元で……………14%</p> <p>■自分の考えや気持ちなどを書く活動を取り入れた授業 多くの単元で……………22% 半分程度の単元で……………16%</p> <p>■目的をもって読んだり、読んだ感想や質問などを出し合ったりする活動を取り入れた授業 多くの単元で……………16% 半分程度の単元で……………18%</p>

学習環境の活用

<p>■I C T機器を活用した授業 年20回以上……………40% 年10～19回程度……………11%</p> <p>[活用場面] (複数回答による) 興味・関心を高めたり、課題を明確につかませたりする場面……………78% 分かりやすく説明したり、理解や思考を促したりする場面……………51% 情報を収集したり選択したりする場面……………21% 授業の効率化を図る場面……………50%</p> <p>■学校図書館を活用した授業 年20回以上…………… 1% 年10～19回程度…………… 3%</p> <p>[活用内容] 読書指導・読書活動の場……………13% 調べ学習の場……………44%</p>



学校組織マネジメントに対する意識

<p>■学力向上や生徒指導など学校の方針を理解しているか 理解している……………51% どちらかといえば理解している……………47%</p> <p>■方針や教育内容についての共通理解が図られているか そう思う……………37% どちらかといえばそう思う……………56%</p> <p>■学校内に気軽に話し合える雰囲気があるか そう思う……………55% どちらかといえばそう思う……………39%</p>
--

家庭学習への関与状況

<p>■宿題を出しているか 多くの時間で宿題を出している……………33% どちらかといえば出している方が多い……………32%</p> <p>[宿題の内容] (「多くの時間で「どちらかといえば出している」を合わせた割合) 予習的な内容の宿題を出している……………29% 復習的な内容の宿題を出している……………71% 調べたり書いたりする内容の宿題を出している……………29%</p> <p>■家庭での学習方法について、指導をしているか 行っている……………30% どちらかといえば行っている……………52%</p> <p>■宿題の出し方について、共通理解を図っているか 図っている……………21% どちらかといえば行っている……………38%</p> <p>■出した宿題について、評価・指導を行い返却しているか 行っている……………62% どちらかといえば行っている……………31%</p>
--

平成25年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > II 調査結果の概要

児童生徒意識調査から見た佐賀県の子ども像

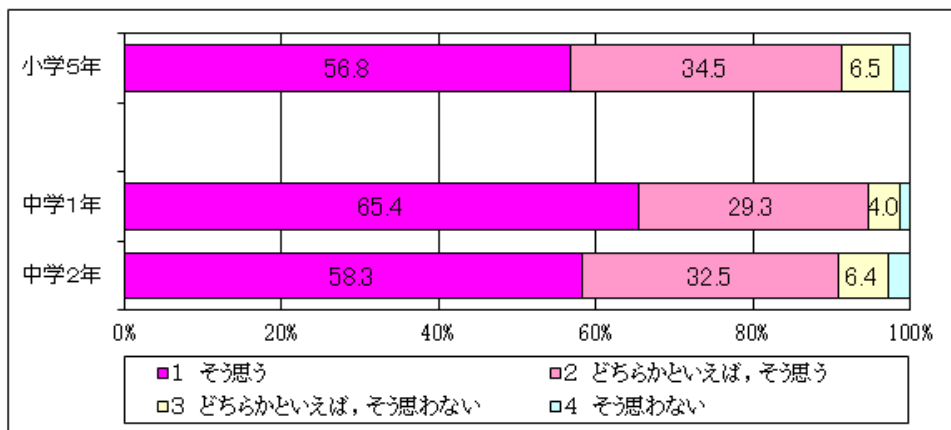
※数値は小数第二位で四捨五入している。
 ※グラフにおいては、4.0未満の値については表示していない。

1 学校生活

県:(1)

学校での生活は楽しい。

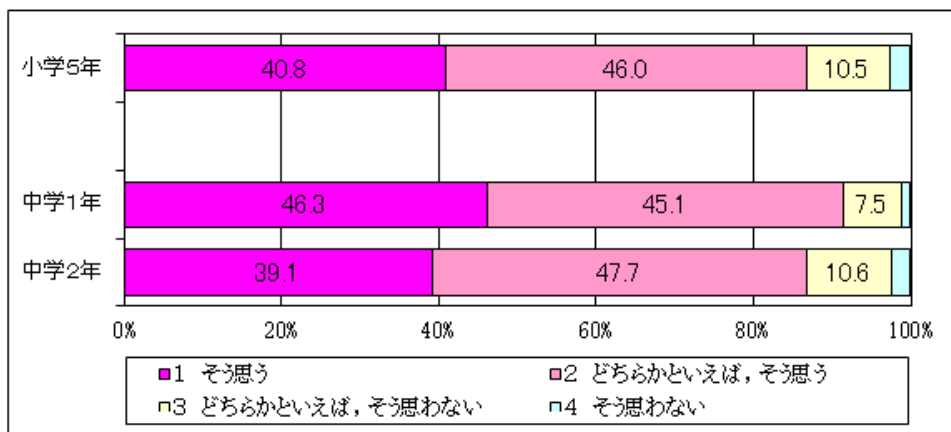
	小学5年	中学1年	中学2年
1 そう思う	56.8	65.4	58.3
2 どちらかといえば、そう思う	34.5	29.3	32.5
3 どちらかといえば、そう思わない	6.5	4.0	6.4
4 そう思わない	2.2	1.3	2.9



県:(2)

学校では落ち着いて勉強することができる。

	小学5年	中学1年	中学2年
1 そう思う	40.8	46.3	39.1
2 どちらかといえば、そう思う	46.0	45.1	47.7
3 どちらかといえば、そう思わない	10.5	7.5	10.6
4 そう思わない	2.7	1.1	2.5

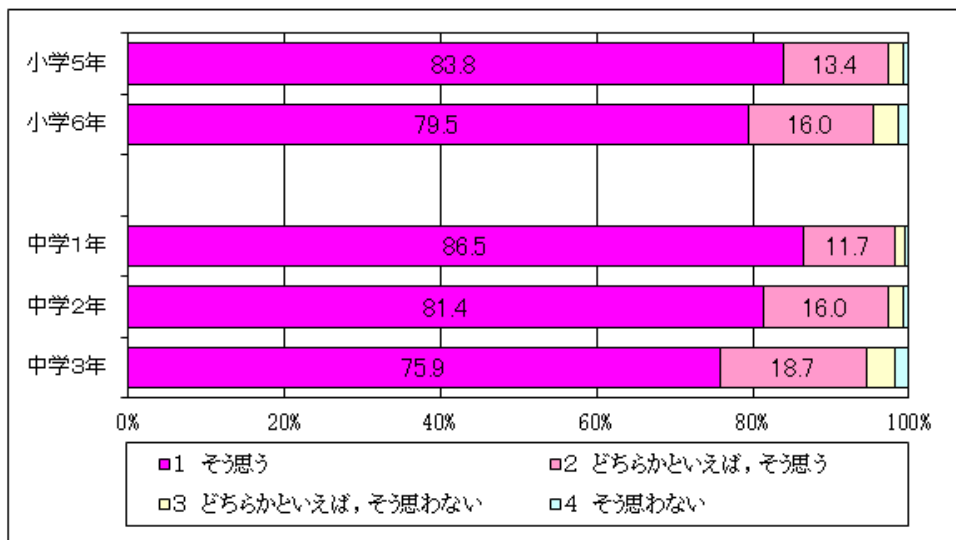


県:(3)

全国: I(36) II(29) III(39)

友達に会うのは楽しい。

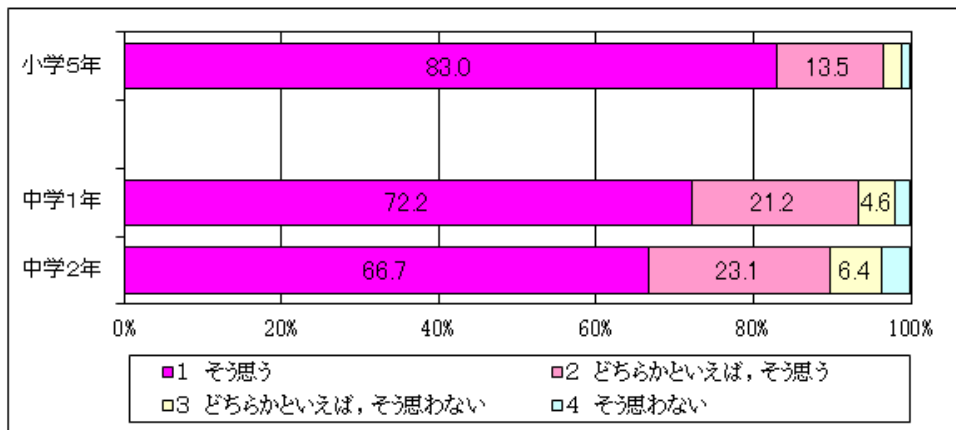
	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 そう思う	83.8	79.5		86.5	81.4	75.9
2 どちらかといえば、そう思う	13.4	16.0		11.7	16.0	18.7
3 どちらかといえば、そう思わない	2.0	3.1		1.3	1.8	3.6
4 そう思わない	0.7	1.4		0.5	0.8	1.8



県:(4)

好きな授業がある。

	小学5年		中学1年	中学2年
1 そう思う	83.0		72.2	66.7
2 どちらかといえば、そう思う	13.5		21.2	23.1
3 どちらかといえば、そう思わない	2.4		4.6	6.4
4 そう思わない	1.2		2.0	3.8



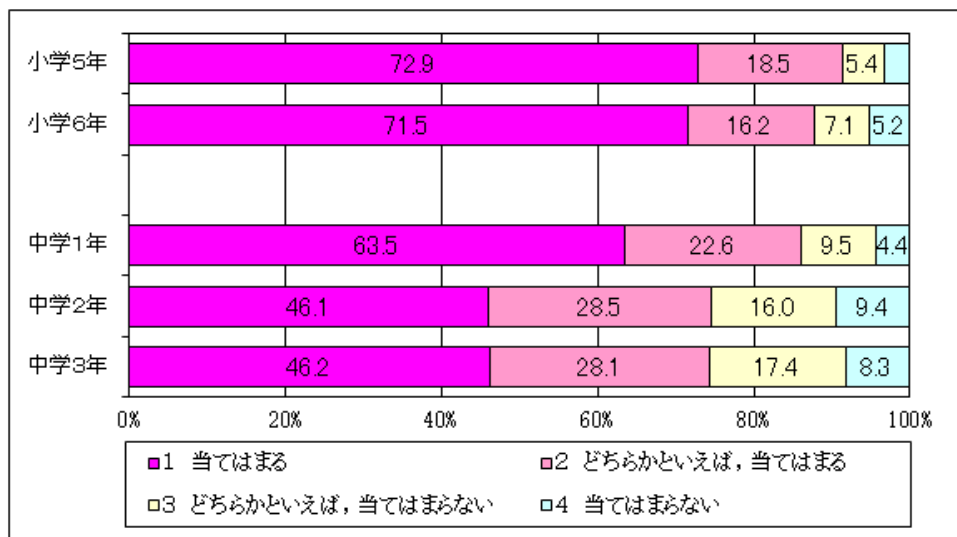
2 学習動機

県:(5)

全国: I(7) II(7) III(12)

将来の夢や目標をもっている。

	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	72.9	71.5		63.5	46.1	46.2
2 どちらかといえば、当てはまる	18.5	16.2		22.6	28.5	28.1
3 どちらかといえば、当てはまらない	5.4	7.1		9.5	16.0	17.4
4 当てはまらない	3.3	5.2		4.4	9.4	8.3

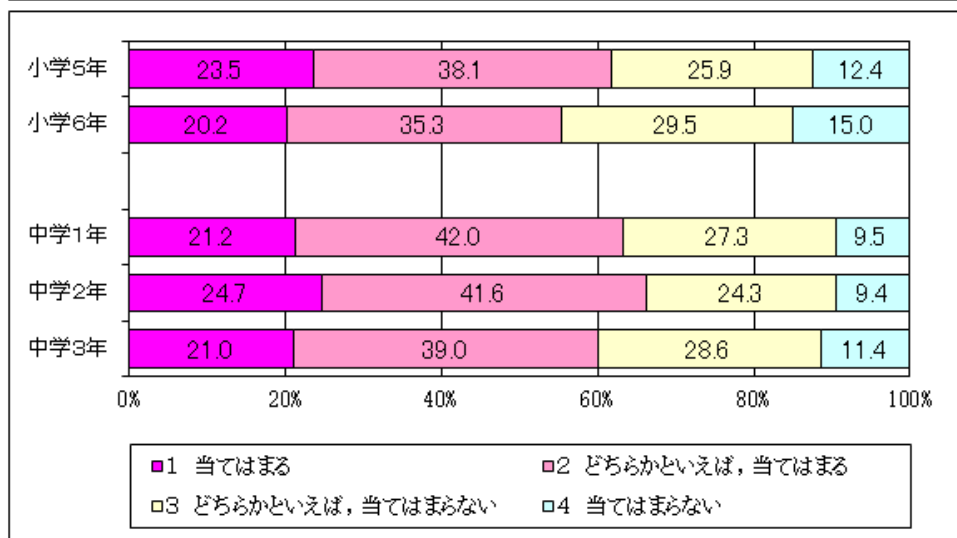


県:(18)ア

全国: I(53) II(52) III小(60) 中(61)

国語の勉強は好きだ

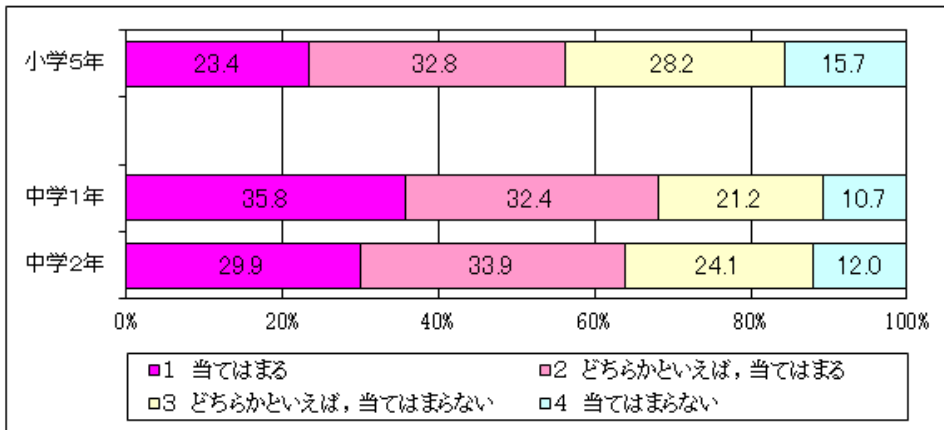
	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	23.5	20.2		21.2	24.7	21.0
2 どちらかといえば、当てはまる	38.1	35.3		42.0	41.6	39.0
3 どちらかといえば、当てはまらない	25.9	29.5		27.3	24.3	28.6
4 当てはまらない	12.4	15.0		9.5	9.4	11.4



県:(18)イ

社会の勉強は好きだ。

	小学5年	中学1年	中学2年
1 当てはまる	23.4	35.8	29.9
2 どちらかといえば、当てはまる	32.8	32.4	33.9
3 どちらかといえば、当てはまらない	28.2	21.2	24.1
4 当てはまらない	15.7	10.7	12.0

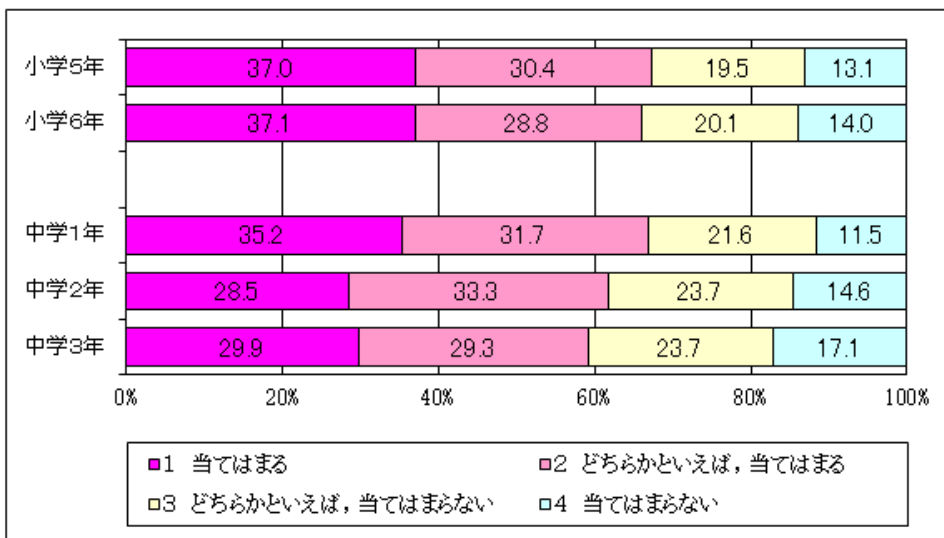


県:(18)ウ

全国: I (73) II (62) III 小(72) 中(73)

算数・数学の勉強は好きだ。

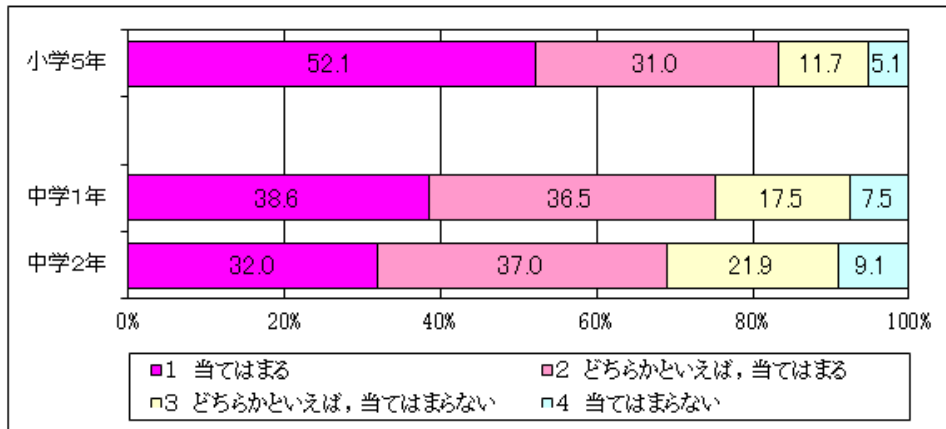
	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	37.0	37.1	35.2	28.5	29.9
2 どちらかといえば、当てはまる	30.4	28.8	31.7	33.3	29.3
3 どちらかといえば、当てはまらない	19.5	20.1	21.6	23.7	23.7
4 当てはまらない	13.1	14.0	11.5	14.6	17.1



県:(18)エ

理科の勉強は好きだ。

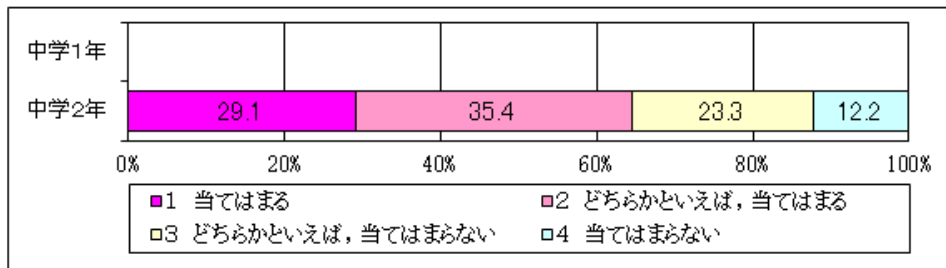
	小学5年	中学1年	中学2年
1 当てはまる	52.1	38.6	32.0
2 どちらかといえば、当てはまる	31.0	36.5	37.0
3 どちらかといえば、当てはまらない	11.7	17.5	21.9
4 当てはまらない	5.1	7.5	9.1



県:中(18)オ

英語の勉強は好きだ。 ※2年生だけ教えてください。あとの質問も同じです。

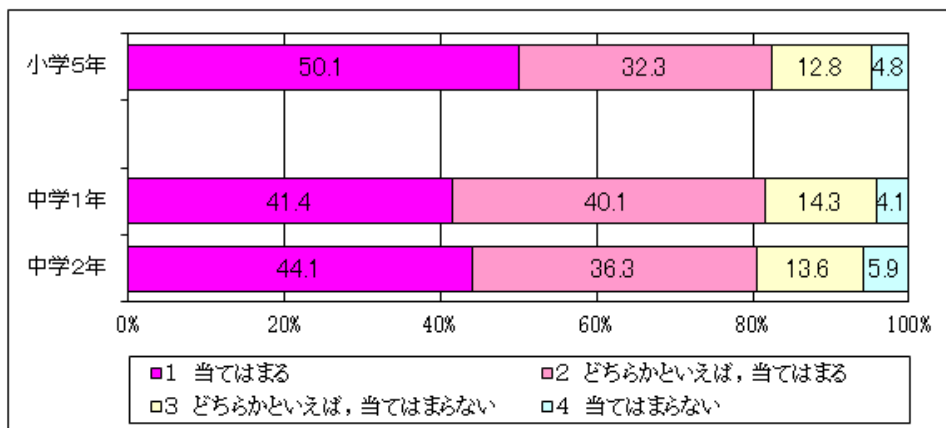
	小学5年	中学1年	中学2年
1 当てはまる			29.1
2 どちらかといえば、当てはまる			35.4
3 どちらかといえば、当てはまらない			23.3
4 当てはまらない			12.2



県:小(35) 中(38)

「総合的な学習の時間」の勉強は好きだ。

	小学5年	中学1年	中学2年
1 当てはまる	50.1	41.4	44.1
2 どちらかといえば、当てはまる	32.3	40.1	36.3
3 どちらかといえば、当てはまらない	12.8	14.3	13.6
4 当てはまらない	4.8	4.1	5.9

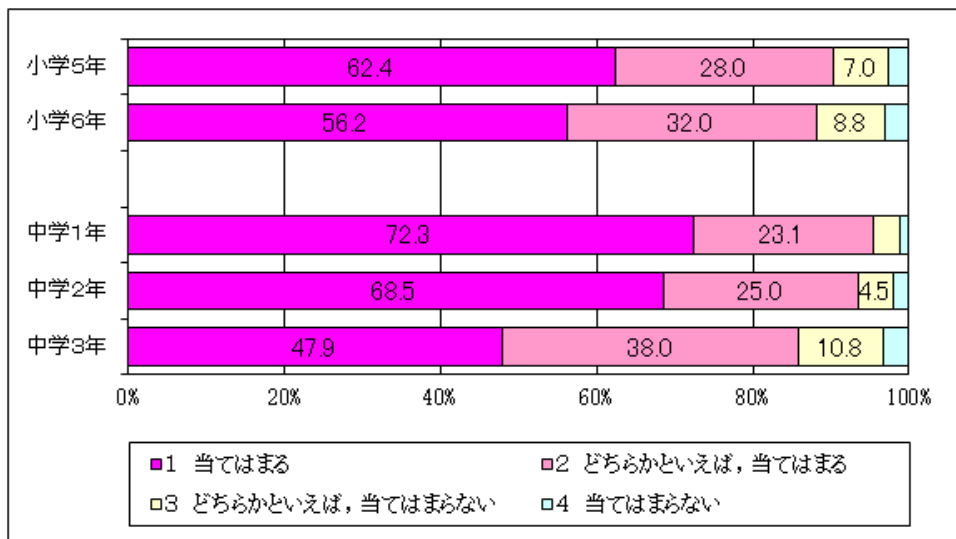


県:(20)ア

全国: I (57) II (56) III小(66) 中(67)

国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ

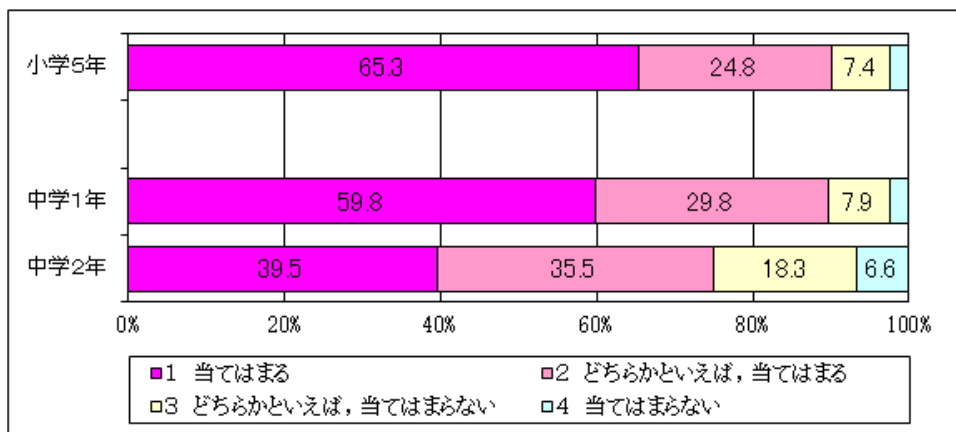
	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	62.4	56.2	72.3	68.5	47.9
2 どちらかといえば、当てはまる	28.0	32.0	23.1	25.0	38.0
3 どちらかといえば、当てはまらない	7.0	8.8	3.5	4.5	10.8
4 当てはまらない	2.7	3.1	1.1	2.0	3.2



県:(20)イ

社会の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。

	小学5年	中学1年	中学2年
1 当てはまる	65.3	59.8	39.5
2 どちらかといえば、当てはまる	24.8	29.8	35.5
3 どちらかといえば、当てはまらない	7.4	7.9	18.3
4 当てはまらない	2.5	2.5	6.6

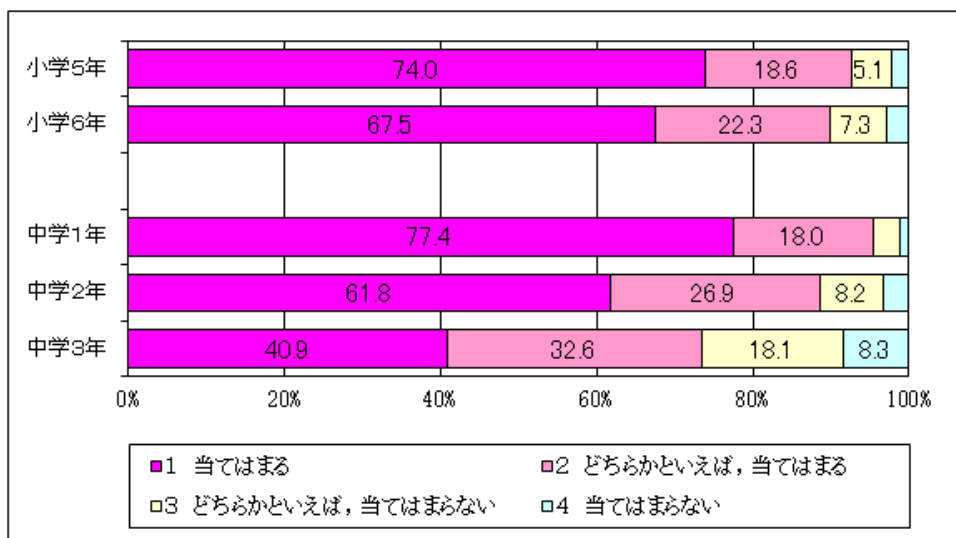


県:(20)ウ

全国: I(79) II(68) III小(78)中(79)

算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ

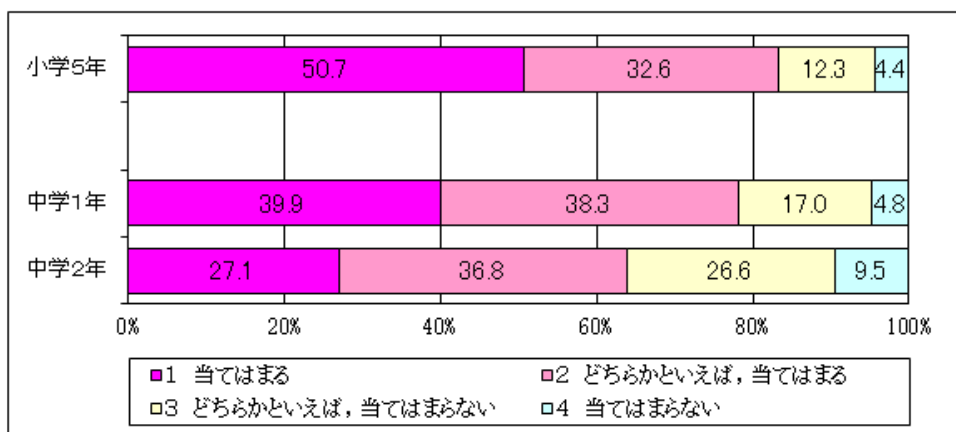
	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	74.0	67.5	77.4	61.8	40.9
2 どちらかといえば、当てはまる	18.6	22.3	18.0	26.9	32.6
3 どちらかといえば、当てはまらない	5.1	7.3	3.4	8.2	18.1
4 当てはまらない	2.3	2.9	1.1	3.2	8.3



県:(20)エ

理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。

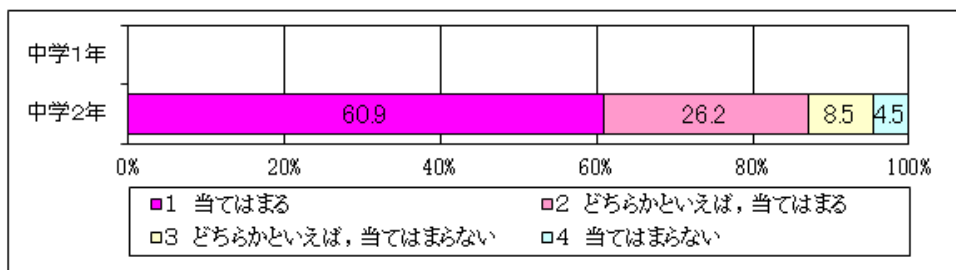
	小学5年	中学1年	中学2年
1 当てはまる	50.7	39.9	27.1
2 どちらかといえば、当てはまる	32.6	38.3	36.8
3 どちらかといえば、当てはまらない	12.3	17.0	26.6
4 当てはまらない	4.4	4.8	9.5



県:(20)オ

英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。

	小学5年	中学1年	中学2年
1 当てはまる			60.9
2 どちらかといえば、当てはまる			26.2
3 どちらかといえば、当てはまらない			8.5
4 当てはまらない			4.5

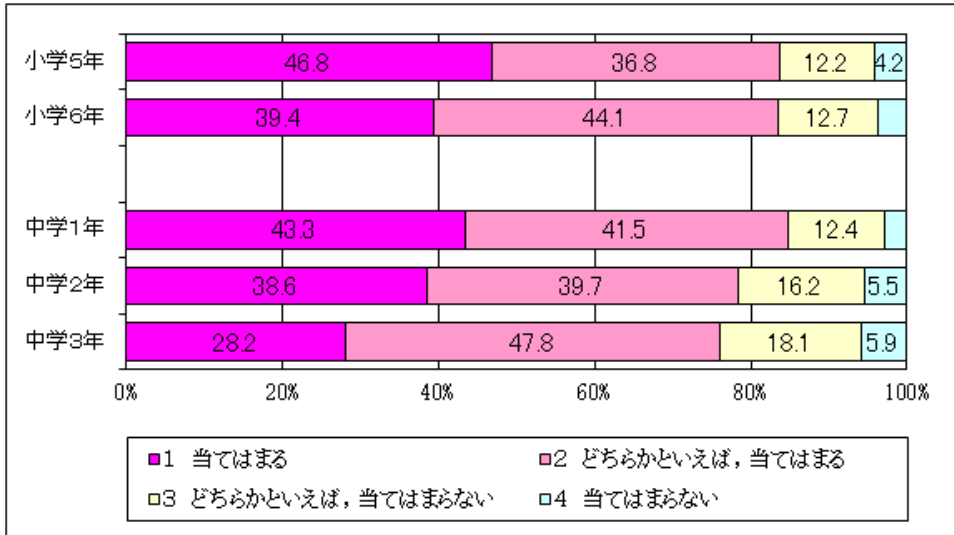


県:小(36) 中(39)

全国:Ⅲ(53) (対象人数 小学校:2861人/8334人 中学校:2713人/7813人)

「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つ。

	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	46.8	39.4		43.3	38.6	28.2
2 どちらかといえば、当てはまる	36.8	44.1		41.5	39.7	47.8
3 どちらかといえば、当てはまらない	12.2	12.7		12.4	16.2	18.1
4 当てはまらない	4.2	3.7		2.8	5.5	5.9



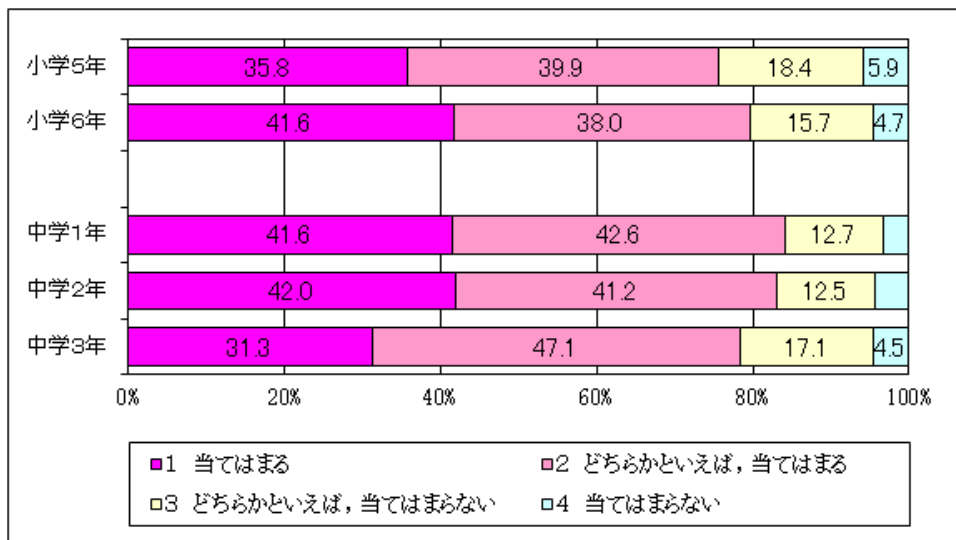
3 学習活動(教科全般)

県:(15)

全国: I(49) II(47) III小(55) 中(56)

普段の授業では、自分の考えを発表する機会があたえられていると思う。

	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	35.8	41.6		41.6	42.0	31.3
2 どちらかといえば、当てはまる	39.9	38.0		42.6	41.2	47.1
3 どちらかといえば、当てはまらない	18.4	15.7		12.7	12.5	17.1
4 当てはまらない	5.9	4.7		3.2	4.3	4.5

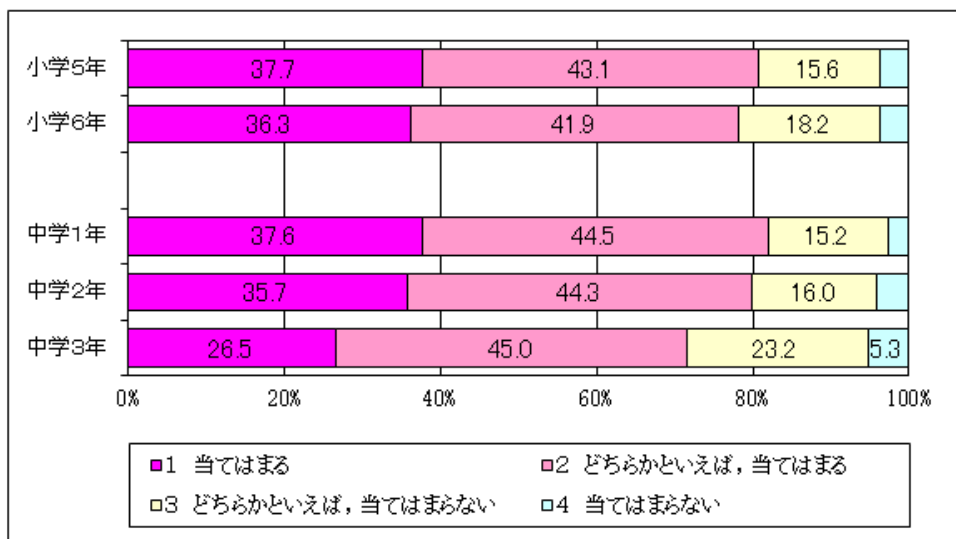


県:(16)

全国: I(50) II(48) III小(56) 中(57)

普段の授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思う。

	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	37.7	36.3		37.6	35.7	26.5
2 どちらかといえば、当てはまる	43.1	41.9		44.5	44.3	45.0
3 どちらかといえば、当てはまらない	15.6	18.2		15.2	16.0	23.2
4 当てはまらない	3.6	3.7		2.7	4.1	5.3

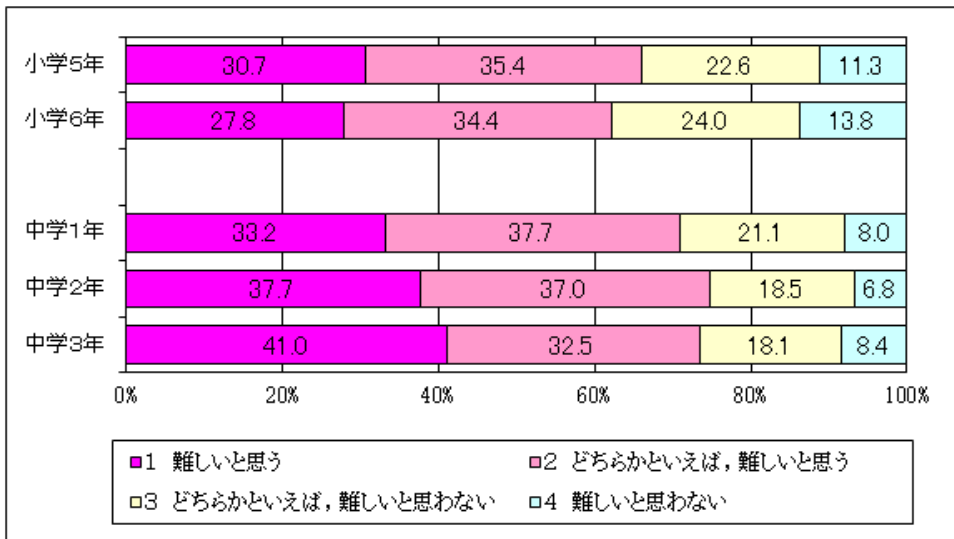


県:(17)

全国: I (52) II (51) III小(60) 中(61)

学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのは難しい。

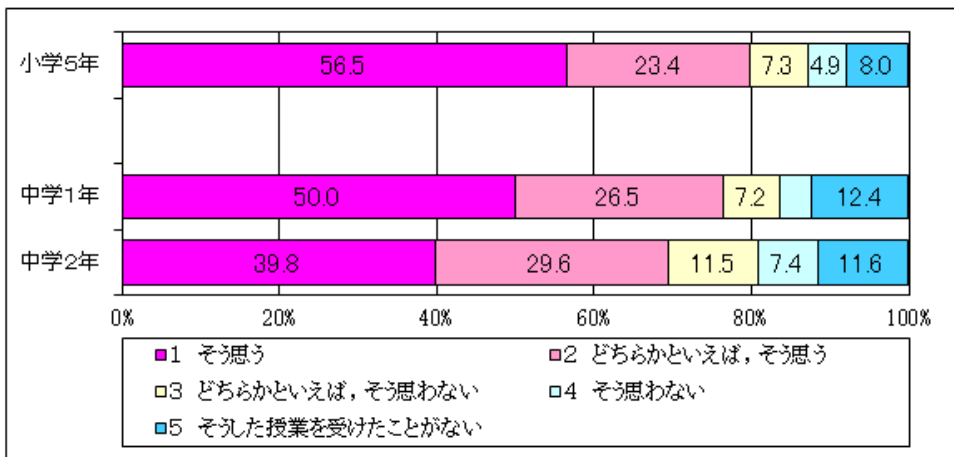
	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 難しいと思う	30.7	27.8		33.2	37.7	41.0
2 どちらかといえば、難しいと思う	35.4	34.4		37.7	37.0	32.5
3 どちらかといえば、難しいと思わない	22.6	24.0		21.1	18.5	18.1
4 難しいと思わない	11.3	13.8		8.0	6.8	8.4



県:小(37) 中(40)

授業で電子黒板や大型テレビなどが使われるようになって、今までより授業の内容が分かりやすくなった。

	小学5年		中学1年	中学2年
1 そう思う	56.5		50.0	39.8
2 どちらかといえば、そう思う	23.4		26.5	29.6
3 どちらかといえば、そう思わない	7.3		7.2	11.5
4 そう思わない	4.9		3.9	7.4
5 そろした授業を受けたことがない	8.0		12.4	11.6



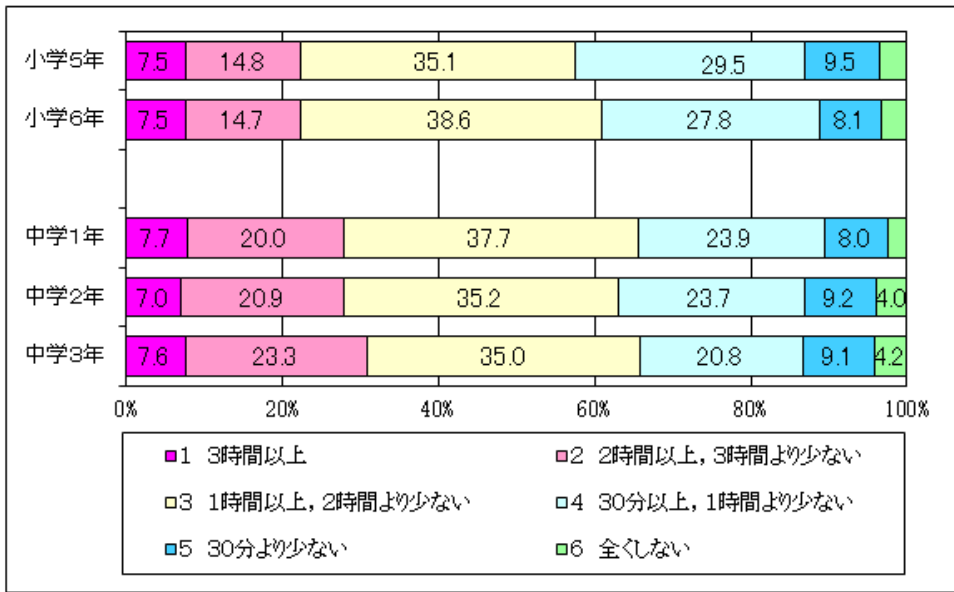
4 家庭学習

県: (6)

全国: I(15) II(13) III(23)

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間もふくみます。)

	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
1 3時間以上	7.5	7.5	7.7	7.0	7.6
2 2時間以上, 3時間より少ない	14.8	14.7	20.0	20.9	23.3
3 1時間以上, 2時間より少ない	35.1	38.6	37.7	35.2	35.0
4 30分以上, 1時間より少ない	29.5	27.8	23.9	23.7	20.8
5 30分より少ない	9.5	8.1	8.0	9.2	9.1
6 全くしない	3.6	3.2	2.5	4.0	4.2

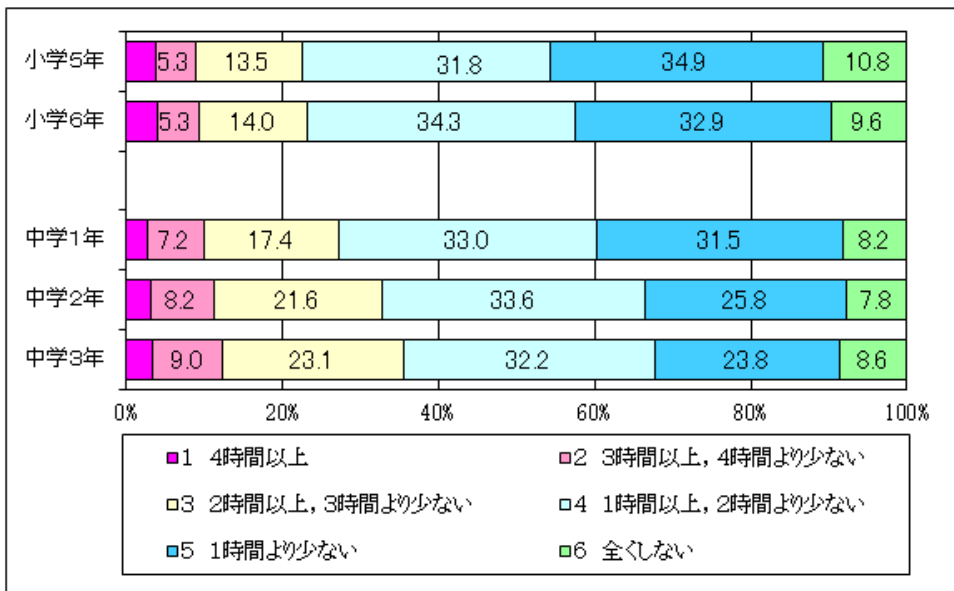


県: (7)

全国: I(16) II(14) III(24)

土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間もふくみます。)

	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
1 4時間以上	3.7	3.9	2.7	3.1	3.4
2 3時間以上, 4時間より少ない	5.3	5.3	7.2	8.2	9.0
3 2時間以上, 3時間より少ない	13.5	14.0	17.4	21.6	23.1
4 1時間以上, 2時間より少ない	31.8	34.3	33.0	33.6	32.2
5 1時間より少ない	34.9	32.9	31.5	25.8	23.8
6 全くしない	10.8	9.6	8.2	7.8	8.6

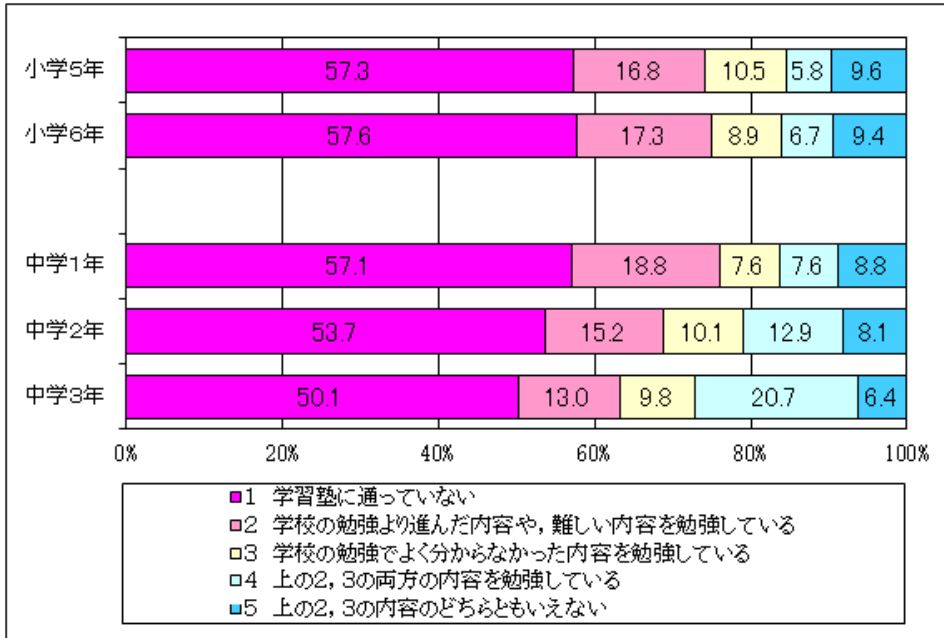


県: (8)

全国: I(17) II(15) III(25)

学習塾(家庭教師の先生に教わっている場合もふくみます。)で勉強をしていますか。

	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 学習塾に通っていない	57.3	57.6		57.1	53.7	50.1
2 学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を勉強している	16.8	17.3		18.8	15.2	13.0
3 学校の勉強でよく分からなかった内容を勉強している	10.5	8.9		7.6	10.1	9.8
4 上の2, 3の両方の内容を勉強している	5.8	6.7		7.6	12.9	20.7
5 上の2, 3の内容のどちらともいえない	9.6	9.4		8.8	8.1	6.4

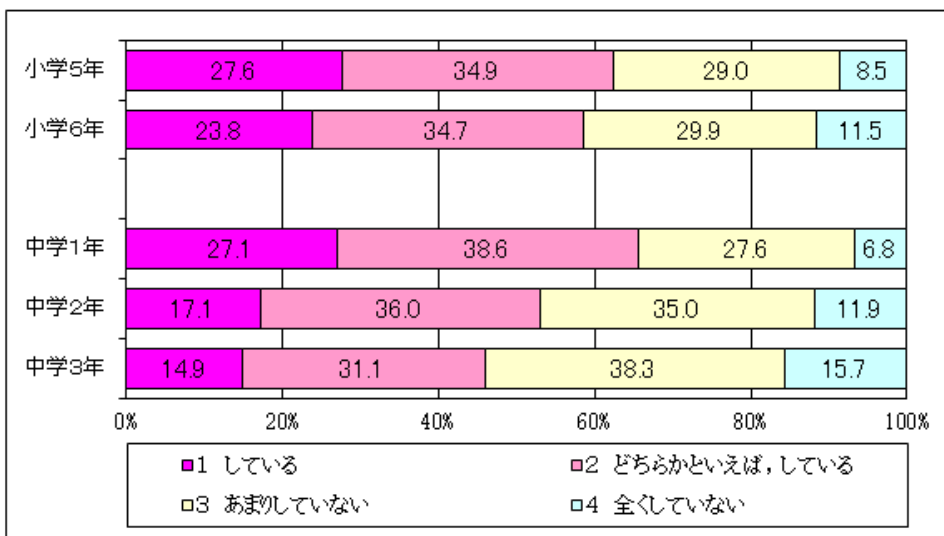


県: (9)

全国: I(29) II(24) III(34)

自分で計画を立てて勉強をしている。

	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 している	27.6	23.8		27.1	17.1	14.9
2 どちらかといえば、している	34.9	34.7		38.6	36.0	31.1
3 あまりしていない	29.0	29.9		27.6	35.0	38.3
4 全くしていない	8.5	11.5		6.8	11.9	15.7

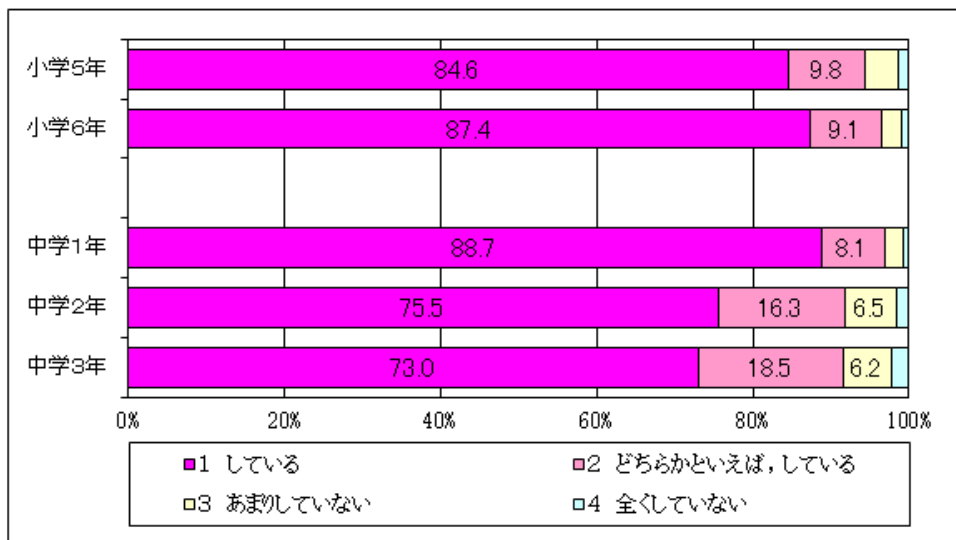


県:(10)

全国: I (30) II (25) III (35)

学校の宿題をしている。

	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 している	84.6	87.4		88.7	75.5	73.0
2 どちらかといえば、している	9.8	9.1		8.1	16.3	18.5
3 あまりしていない	4.3	2.5		2.4	6.5	6.2
4 全くしていない	1.3	1.0		0.8	1.7	2.3

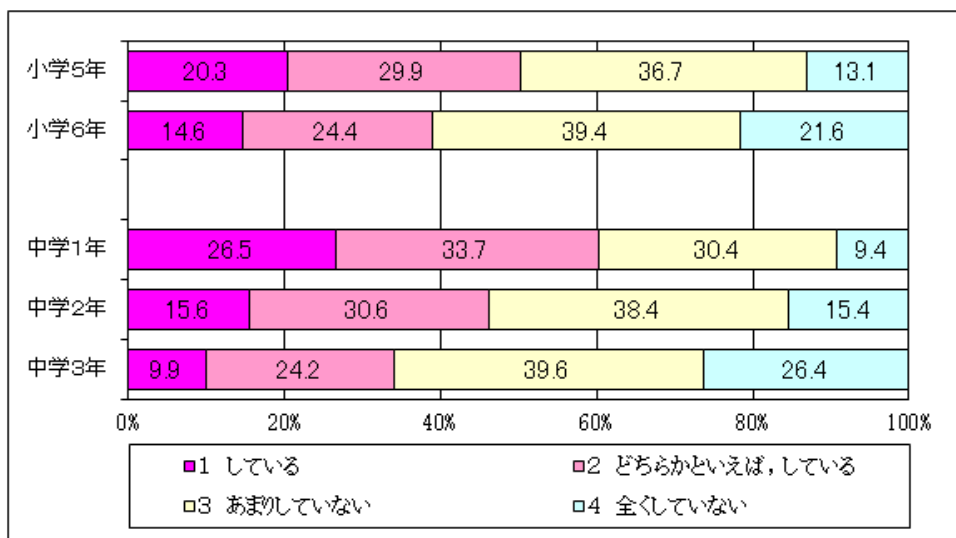


県:(11)

全国: I (31) II (26) III (36)

学校の授業の予習をしている。

	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 している	20.3	14.6		26.5	15.6	9.9
2 どちらかといえば、している	29.9	24.4		33.7	30.6	24.2
3 あまりしていない	36.7	39.4		30.4	38.4	39.6
4 全くしていない	13.1	21.6		9.4	15.4	26.4

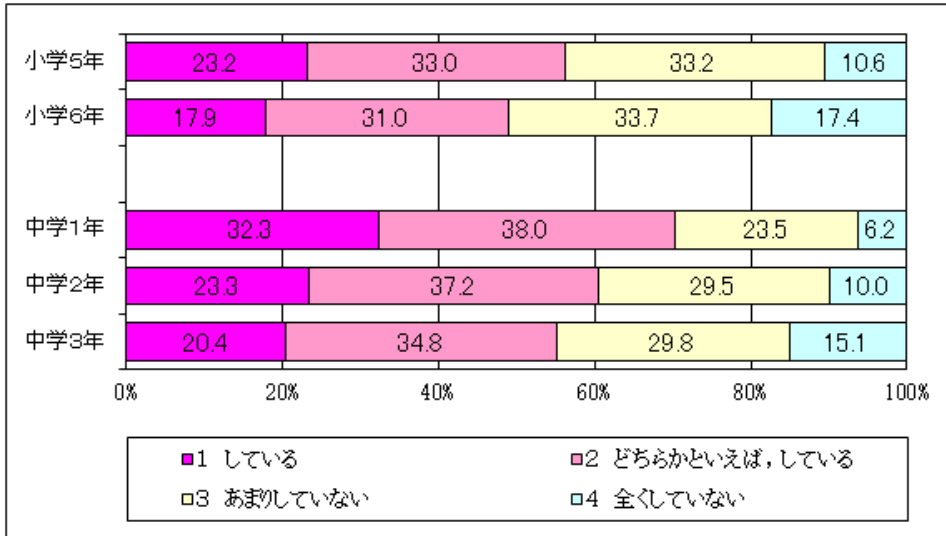


県:(12)

全国: I(32) II(27) III(37)

学校の授業の復習をしている。

	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 している	23.2	17.9		32.3	23.3	20.4
2 どちらかといえば、している	33.0	31.0		38.0	37.2	34.8
3 あまりしていない	33.2	33.7		23.5	29.5	29.8
4 全くしていない	10.6	17.4		6.2	10.0	15.1

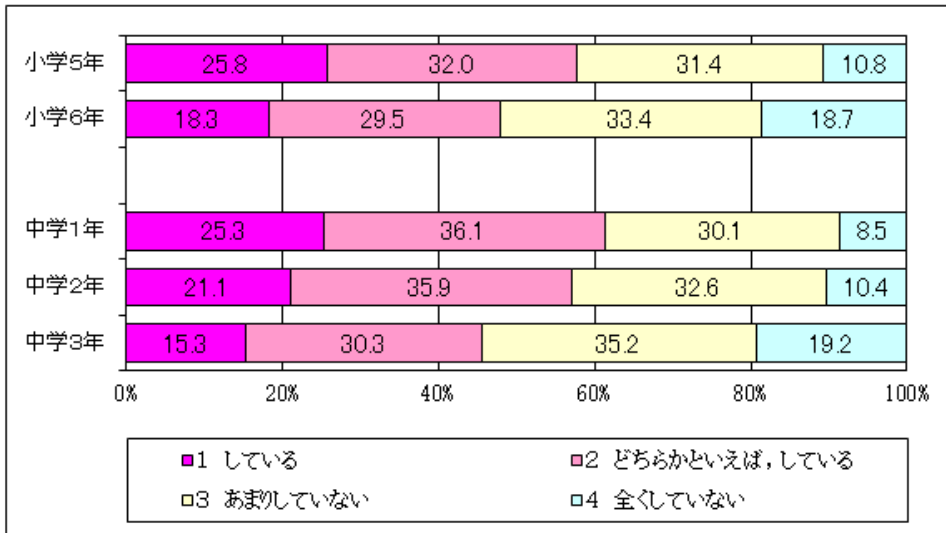


県:(13)

全国: I(33) (対象人数 小学校:2756人/8334人 中学校:2364人/7813人)

苦手な教科の勉強をしている。

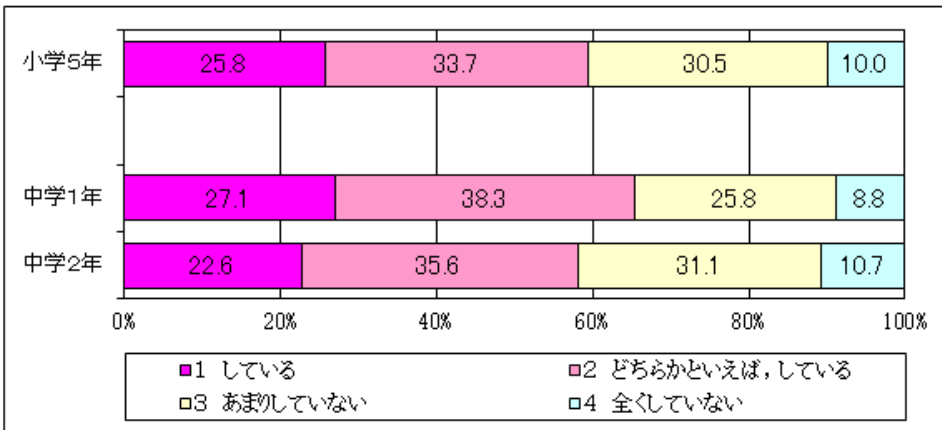
	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 している	25.8	18.3		25.3	21.1	15.3
2 どちらかといえば、している	32.0	29.5		36.1	35.9	30.3
3 あまりしていない	31.4	33.4		30.1	32.6	35.2
4 全くしていない	10.8	18.7		8.5	10.4	19.2



県:(14)

テストで間違えた問題について、間違えたところを後で勉強している。

	小学5年	中学1年	中学2年
1 している	25.8	27.1	22.6
2 どちらかといえば、している	33.7	38.3	35.6
3 あまりしていない	30.5	25.8	31.1
4 全くしていない	10.0	8.8	10.7



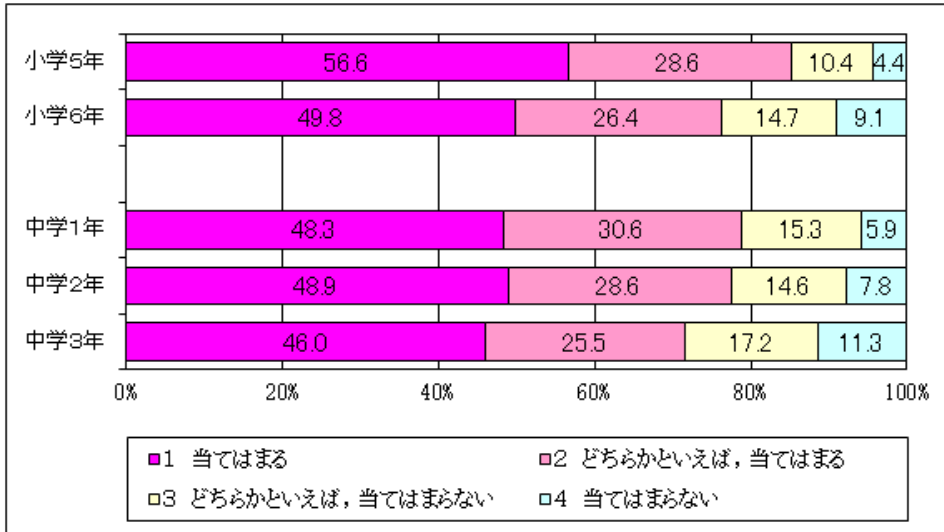
5 生活習慣等

県:(21)

全国: I(56) II(55) III小(65) 中(66)

読書は好きだ。

	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	56.6	49.8		48.3	48.9	46.0
2 どちらかといえば、当てはまる	28.6	26.4		30.6	28.6	25.5
3 どちらかといえば、当てはまらない	10.4	14.7		15.3	14.6	17.2
4 当てはまらない	4.4	9.1		5.9	7.8	11.3

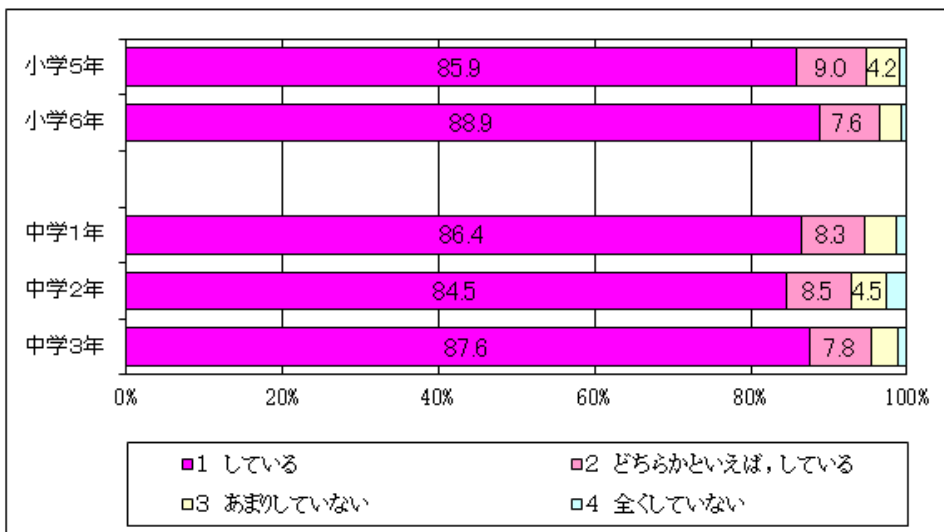


県 : 小(38) 中(41)

全国: I(1) II(1) III(1)

朝食を毎日食べている。

	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 している	85.9	88.9		86.4	84.5	87.6
2 どちらかといえば、している	9.0	7.6		8.3	8.5	7.8
3 あまりしていない	4.2	2.9		3.9	4.5	3.4
4 全くしていない	0.9	0.6		1.4	2.6	1.1

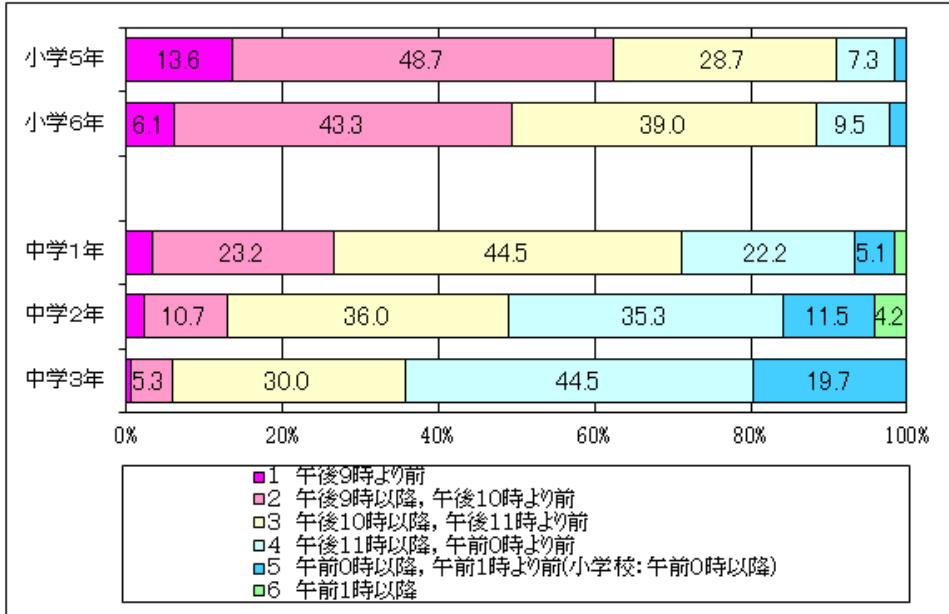


県: 小(39) 中(42)

全国: I(9) II(9) III(19)

普段(月曜日から金曜日), 何時ごろにねますか。

	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 午後9時より前	13.6	6.1		3.3	2.3	0.5
2 午後9時以降, 午後10時より前	48.7	43.3		23.2	10.7	5.3
3 午後10時以降, 午後11時より前	28.7	39.0		44.5	36.0	30.0
4 午後11時以降, 午前0時より前	7.3	9.5		22.2	35.3	44.5
5 午前0時以降, 午前1時より前(小学校: 午前0時以降)	1.6	2.2		5.1	11.5	19.7
6 午前1時以降				1.6	4.2	

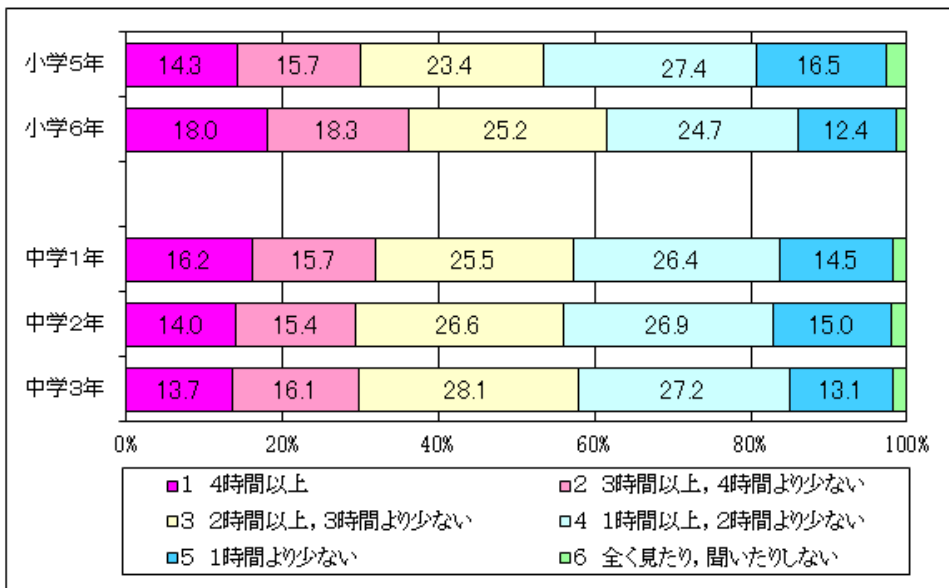


県: 小(40) 中(43)

全国: I(11) II(11) III(21)

普段(月曜日から金曜日), 1日あたりどれくらいの時間, テレビやビデオ・DVDを見たり, 聞いたりしますか。(テレビゲームをする時間は除きます。)

	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 4時間以上	14.3	18.0		16.2	14.0	13.7
2 3時間以上, 4時間より少ない	15.7	18.3		15.7	15.4	16.1
3 2時間以上, 3時間より少ない	23.4	25.2		25.5	26.6	28.1
4 1時間以上, 2時間より少ない	27.4	24.7		26.4	26.9	27.2
5 1時間より少ない	16.5	12.4		14.5	15.0	13.1
6 全く見たり, 聞いたりしない	2.7	1.4		1.7	2.1	1.8

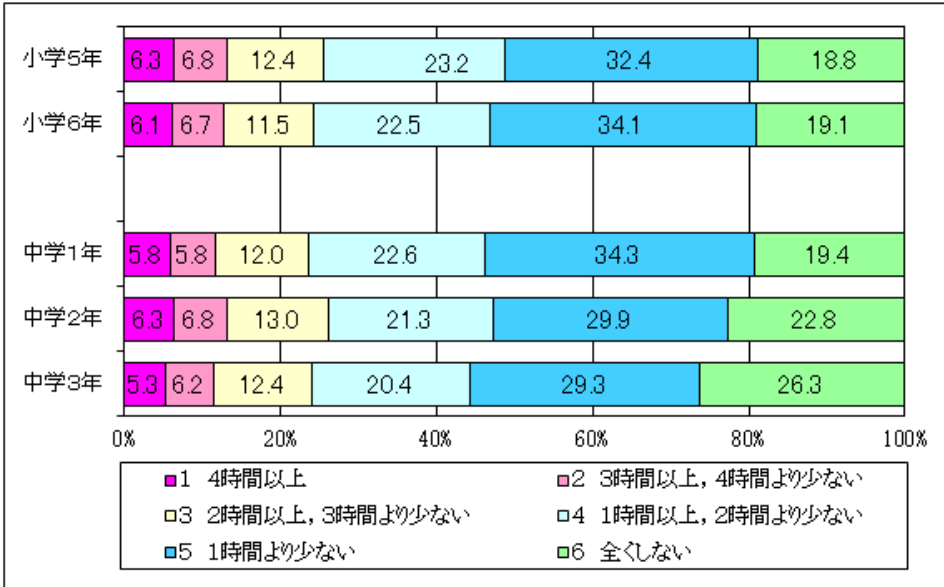


県: 小(41) 中(44)

全国: I(12) II(12) III(22)

普段(月曜日から金曜日), 1日あたりどれくらいの時間, テレビゲーム(コンピュータゲーム, 携帯式のゲームをふくみます。)をしますか。

	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
1 4時間以上	6.3	6.1	5.8	6.3	5.3
2 3時間以上, 4時間より少ない	6.8	6.7	5.8	6.8	6.2
3 2時間以上, 3時間より少ない	12.4	11.5	12.0	13.0	12.4
4 1時間以上, 2時間より少ない	23.2	22.5	22.6	21.3	20.4
5 1時間より少ない	32.4	34.1	34.3	29.9	29.3
6 全くしない	18.8	19.1	19.4	22.8	26.3

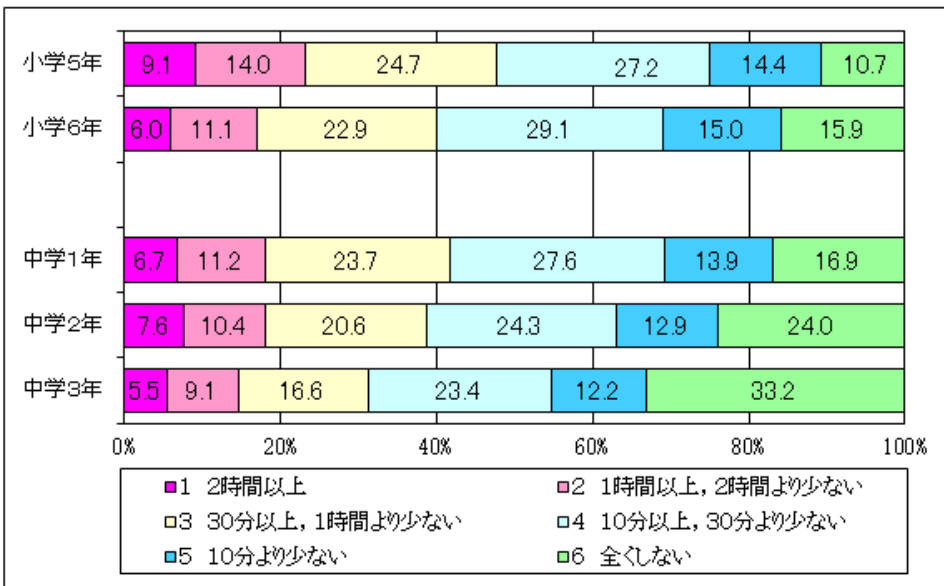


県: 小(42) 中(45)

全国: I(20) II(18) III(28)

家や図書館で, 普段(月曜日から金曜日), 1日あたりどれくらいの時間, 読書をしますか。
(教科書や参考書, 漫画や雑誌は除きます。)

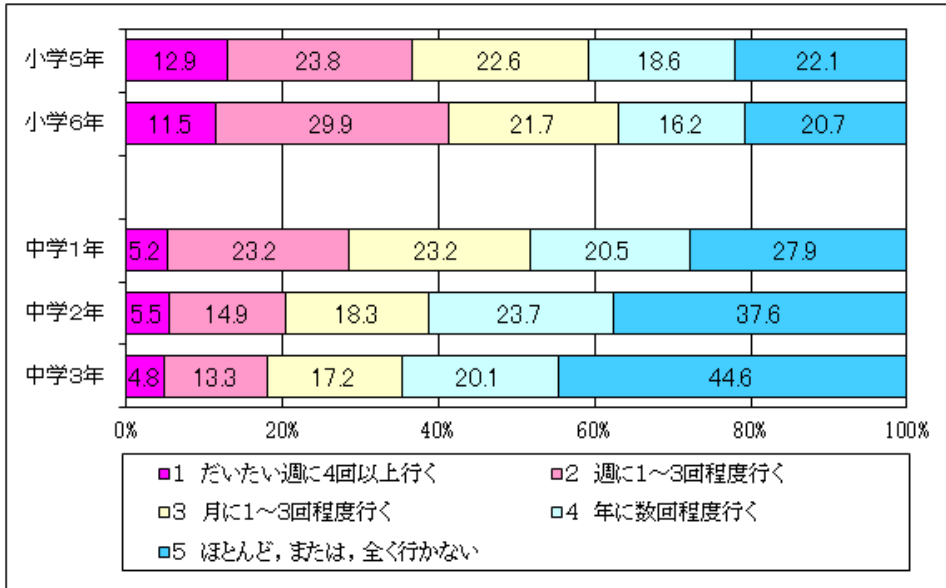
	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
1 2時間以上	9.1	6.0	6.7	7.6	5.5
2 1時間以上, 2時間より少ない	14.0	11.1	11.2	10.4	9.1
3 30分以上, 1時間より少ない	24.7	22.9	23.7	20.6	16.6
4 10分以上, 30分より少ない	27.2	29.1	27.6	24.3	23.4
5 10分より少ない	14.4	15.0	13.9	12.9	12.2
6 全くしない	10.7	15.9	16.9	24.0	33.2



県: 小(43) 中(46)
 全国: I(21) II(19) III(29)

昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館へどれくらい行きますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)(一つ選んでください。)

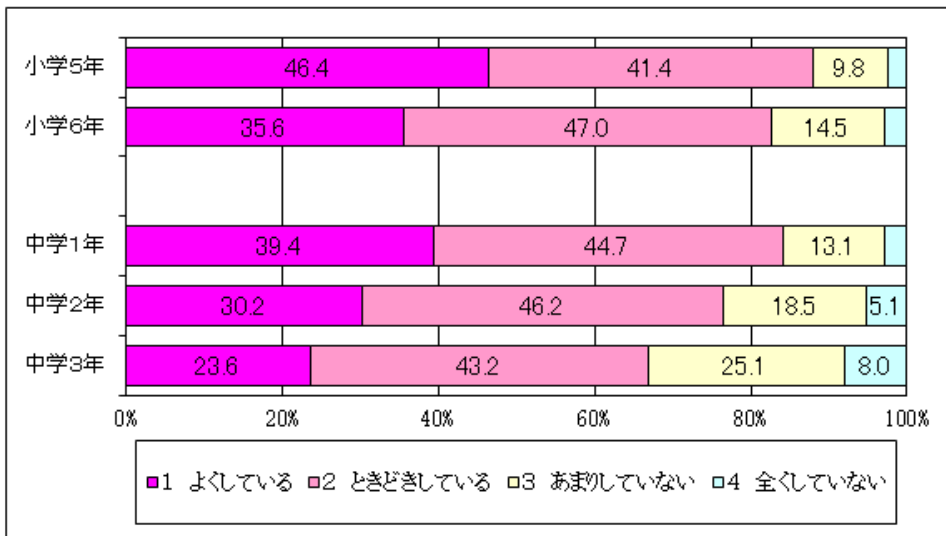
	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
1 だいたい週に4回以上行く	12.9	11.5	5.2	5.5	4.8
2 週に1~3回程度行く	23.8	29.9	23.2	14.9	13.3
3 月に1~3回程度行く	22.6	21.7	23.2	18.3	17.2
4 年に数回程度行く	18.6	16.2	20.5	23.7	20.1
5 ほとんど、または、全く行かない	22.1	20.7	27.9	37.6	44.6



県: 小(44) 中(47)
 全国: I(25) II(22) III(32)

家の手伝いをしていますか。

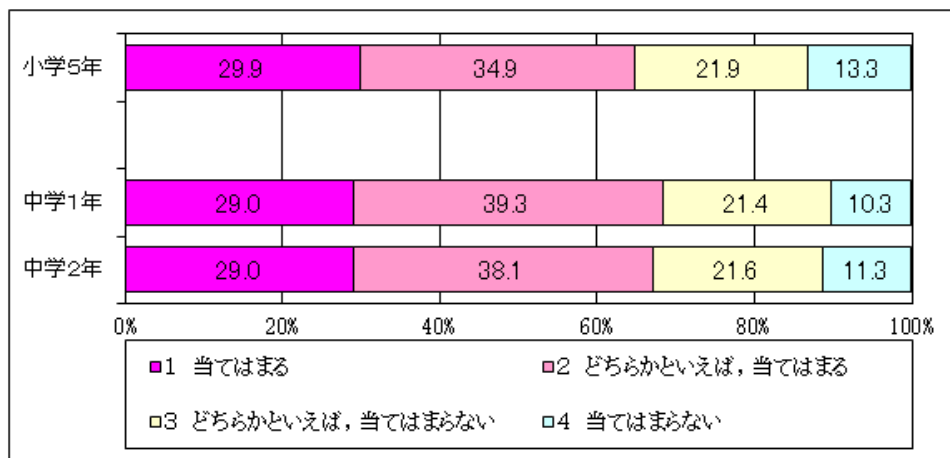
	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
1 よくしている	46.4	35.6	39.4	30.2	23.6
2 ときどきしている	41.4	47.0	44.7	46.2	43.2
3 あまりしていない	9.8	14.5	13.1	18.5	25.1
4 全くしていない	2.4	2.9	2.9	5.1	8.0



県: 小(45) 中(48)

新聞やテレビのニュースなどに関心がある。

	小学5年	中学1年	中学2年
1 当てはまる	29.9	29.0	29.0
2 どちらかといえば、当てはまる	34.9	39.3	38.1
3 どちらかといえば、当てはまらない	21.9	21.4	21.6
4 当てはまらない	13.3	10.3	11.3

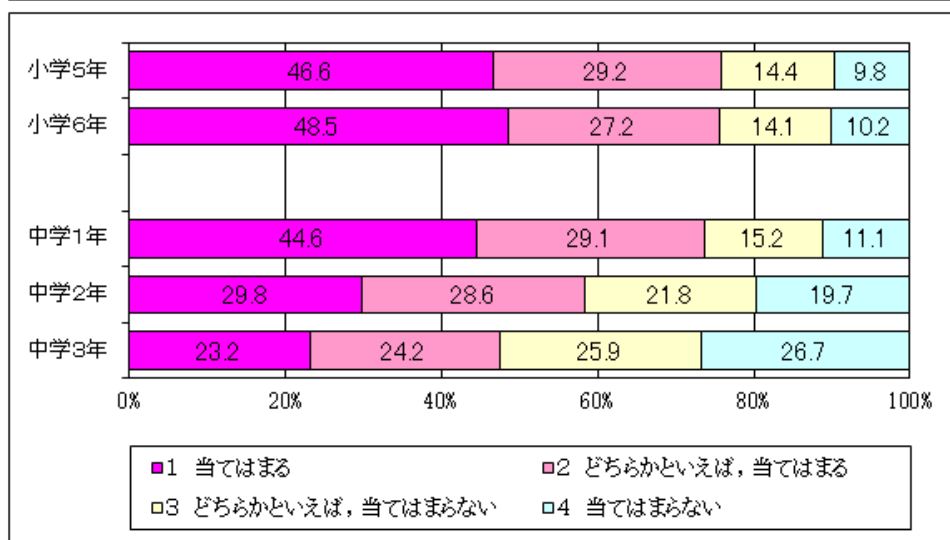


県: 小(46) 中(49)

全国: I (37) II (31) III 小(41) 中(42)

今住んでいる地域の行事に参加している。

	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	46.6	48.5	44.6	29.8	23.2
2 どちらかといえば、当てはまる	29.2	27.2	29.1	28.6	24.2
3 どちらかといえば、当てはまらない	14.4	14.1	15.2	21.8	25.9
4 当てはまらない	9.8	10.2	11.1	19.7	26.7



最終更新日: 2013-10-21

平成25年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > II 調査結果の概要

児童生徒意識調査から見た佐賀県の学習者像

※数値は小数第二位で四捨五入している。

※グラフにおいては、4.0%未満の値については表示していない。

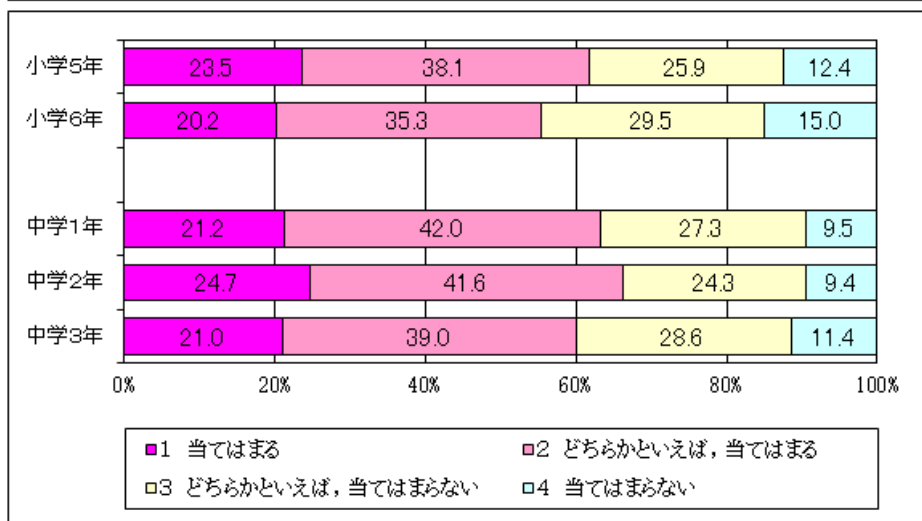
国語

県:(18)ア

全国: I (53) II (52) III 小(60) 中(61)

国語の勉強は好きだ

	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	23.5	20.2	21.2	24.7	21.0
2 どちらかといえば、当てはまる	38.1	35.3	42.0	41.6	39.0
3 どちらかといえば、当てはまらない	25.9	29.5	27.3	24.3	28.6
4 当てはまらない	12.4	15.0	9.5	9.4	11.4

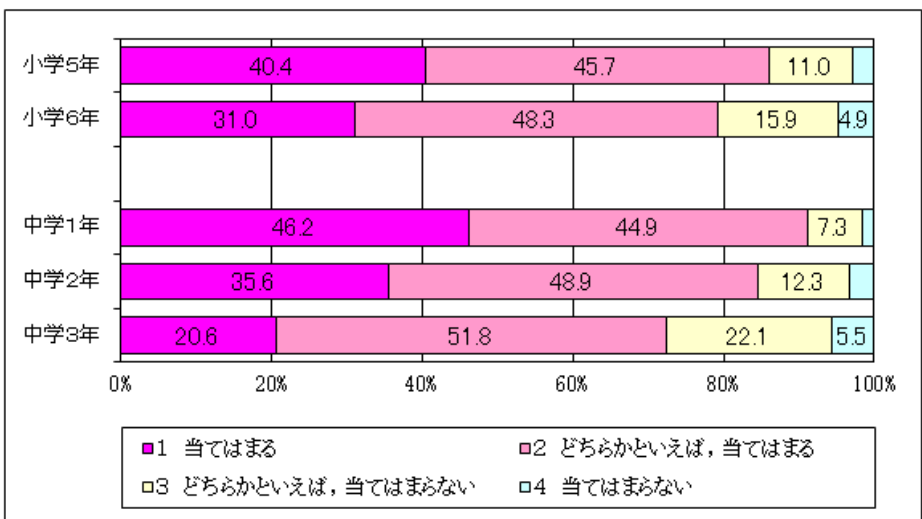


県:(19)ア

全国: I (55) II (54) III 小(64) 中(65)

国語の授業の内容はよく分かる。

	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	40.4	31.0	46.2	35.6	20.6
2 どちらかといえば、当てはまる	45.7	48.3	44.9	48.9	51.8
3 どちらかといえば、当てはまらない	11.0	15.9	7.3	12.3	22.1
4 当てはまらない	2.9	4.9	1.6	3.2	5.5

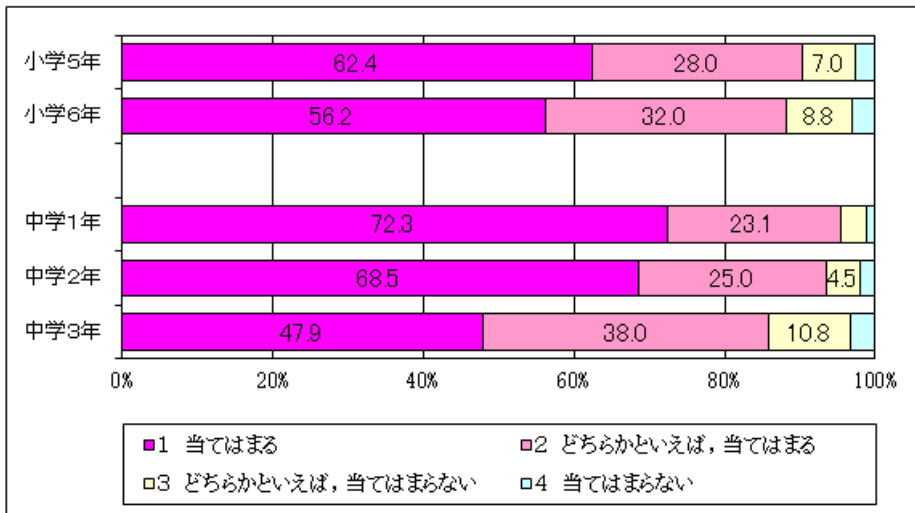


県:(20)ア

全国: I (57) II (56) III 小(66) 中(67)

国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ

	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	62.4	56.2		72.3	68.5	47.9
2 どちらかといえば、当てはまる	28.0	32.0		23.1	25.0	38.0
3 どちらかといえば、当てはまらない	7.0	8.8		3.5	4.5	10.8
4 当てはまらない	2.7	3.1		1.1	2.0	3.2

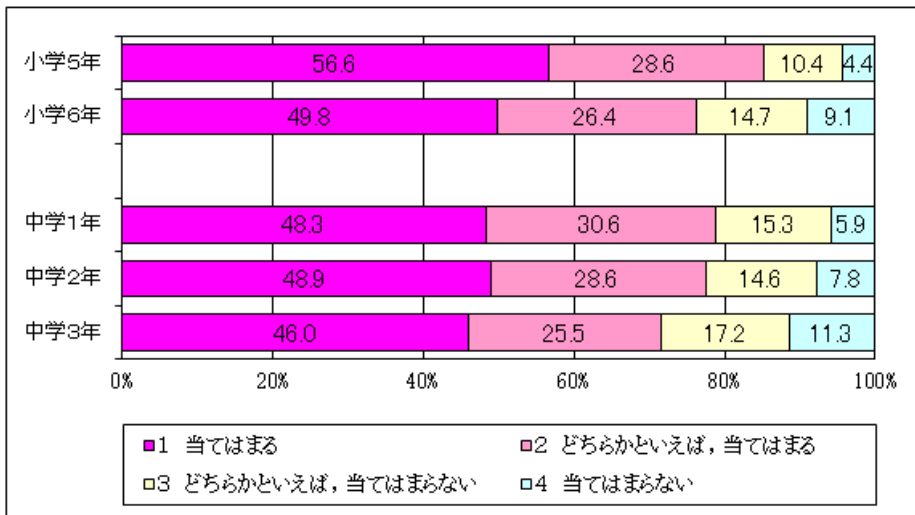


県:(21)

全国: I (56) II (55) III 小(65) 中(66)

読書は好きだ。

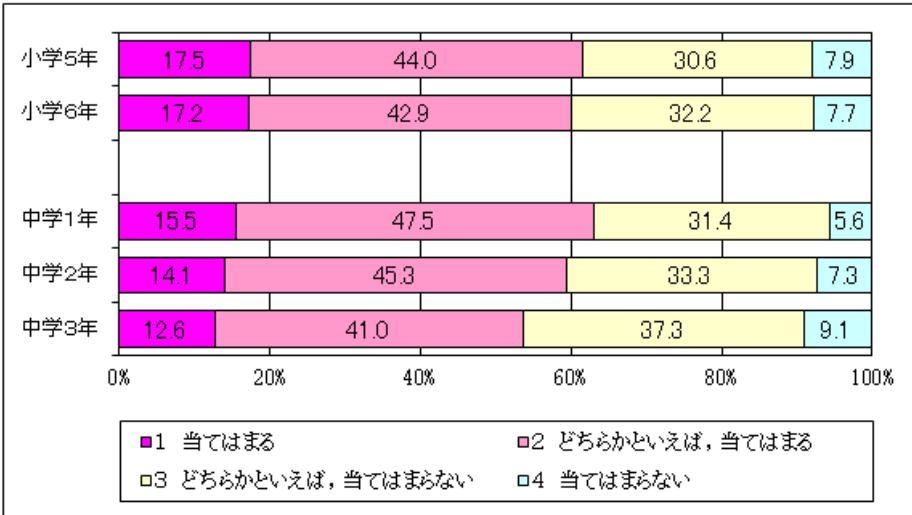
	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	56.6	49.8		48.3	48.9	46.0
2 どちらかといえば、当てはまる	28.6	26.4		30.6	28.6	25.5
3 どちらかといえば、当てはまらない	10.4	14.7		15.3	14.6	17.2
4 当てはまらない	4.4	9.1		5.9	7.8	11.3



県:(22)
 全国: I (58) II (57) III小(67)中(68)

国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている。

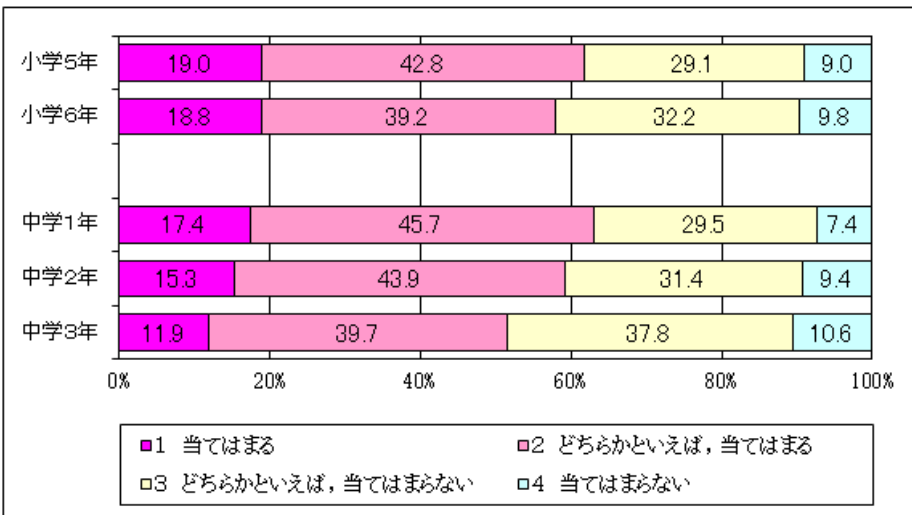
	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	17.5	17.2		15.5	14.1	12.6
2 どちらかといえば、当てはまる	44.0	42.9		47.5	45.3	41.0
3 どちらかといえば、当てはまらない	30.6	32.2		31.4	33.3	37.3
4 当てはまらない	7.9	7.7		5.6	7.3	9.1



県:(23)
 全国: I (59) II (58) III小(68)中(69)

国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように話の組み立てを工夫している。

	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	19.0	18.8		17.4	15.3	11.9
2 どちらかといえば、当てはまる	42.8	39.2		45.7	43.9	39.7
3 どちらかといえば、当てはまらない	29.1	32.2		29.5	31.4	37.8
4 当てはまらない	9.0	9.8		7.4	9.4	10.6

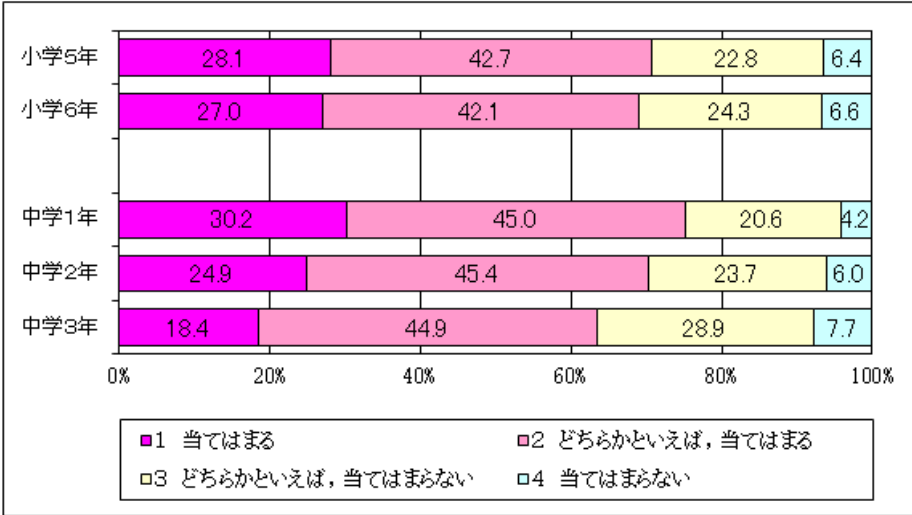


県:(24)

全国: I (60) II (59) III 小(69) 中(70)

国語の授業で自分の考えを書くと、考えの理由が分かるように気をつけて書いている。

	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	28.1	27.0		30.2	24.9	18.4
2 どちらかといえば、当てはまる	42.7	42.1		45.0	45.4	44.9
3 どちらかといえば、当てはまらない	22.8	24.3		20.6	23.7	28.9
4 当てはまらない	6.4	6.6		4.2	6.0	7.7

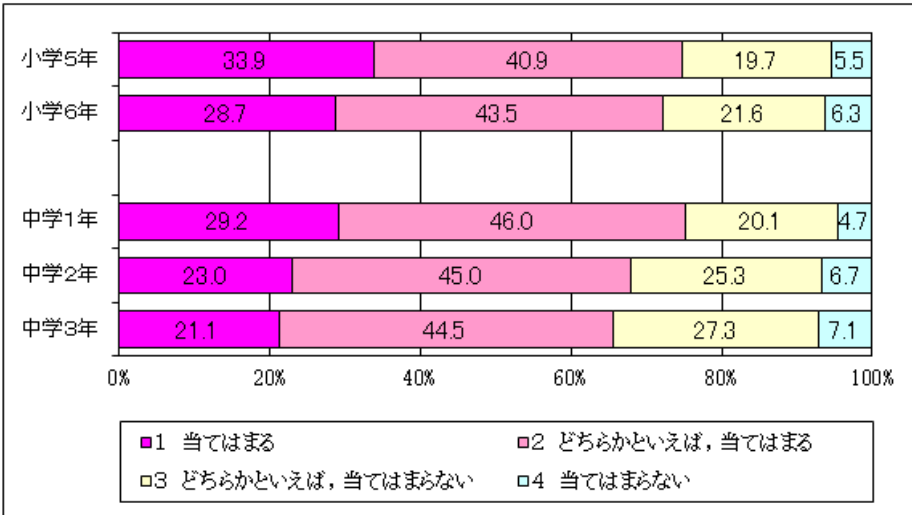


県:(25)

全国: I (61) II (60) III 小(70) 中(71)

国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいる。

	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	33.9	28.7		29.2	23.0	21.1
2 どちらかといえば、当てはまる	40.9	43.5		46.0	45.0	44.5
3 どちらかといえば、当てはまらない	19.7	21.6		20.1	25.3	27.3
4 当てはまらない	5.5	6.3		4.7	6.7	7.1

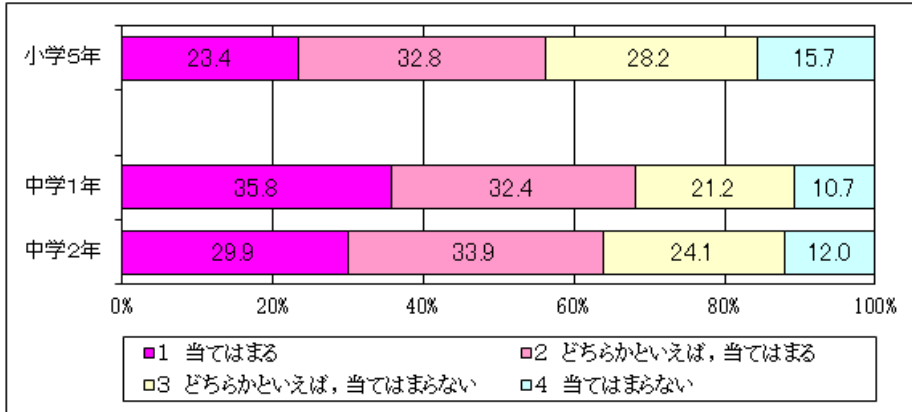


社会

県:(18)イ

社会の勉強は好きだ。

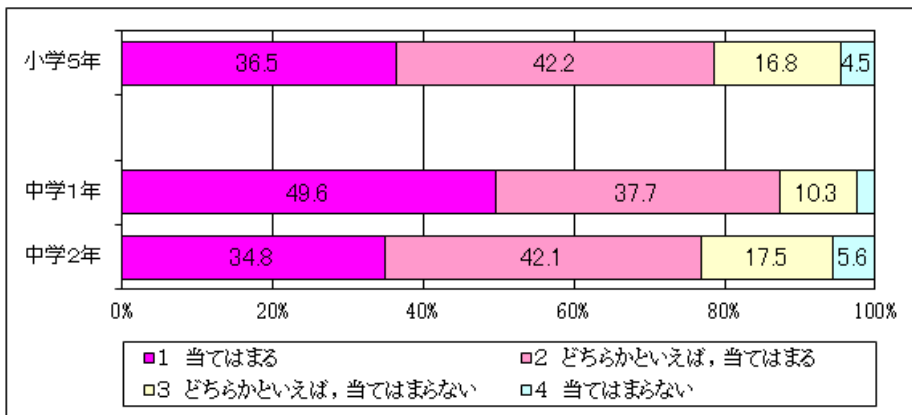
	小学5年		中学1年	中学2年
1 当てはまる	23.4		35.8	29.9
2 どちらかといえば、当てはまる	32.8		32.4	33.9
3 どちらかといえば、当てはまらない	28.2		21.2	24.1
4 当てはまらない	15.7		10.7	12.0



県:(19)イ

社会の授業の内容はよく分かる。

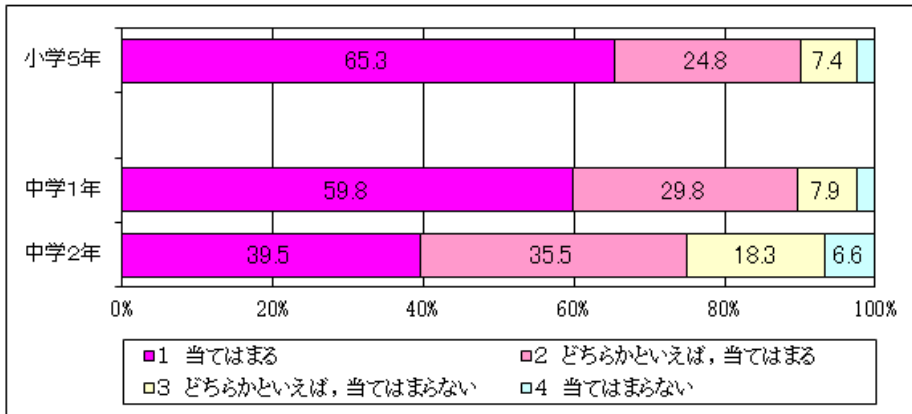
	小学5年		中学1年	中学2年
1 当てはまる	36.5		49.6	34.8
2 どちらかといえば、当てはまる	42.2		37.7	42.1
3 どちらかといえば、当てはまらない	16.8		10.3	17.5
4 当てはまらない	4.5		2.4	5.6



県:(20)イ

社会の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。

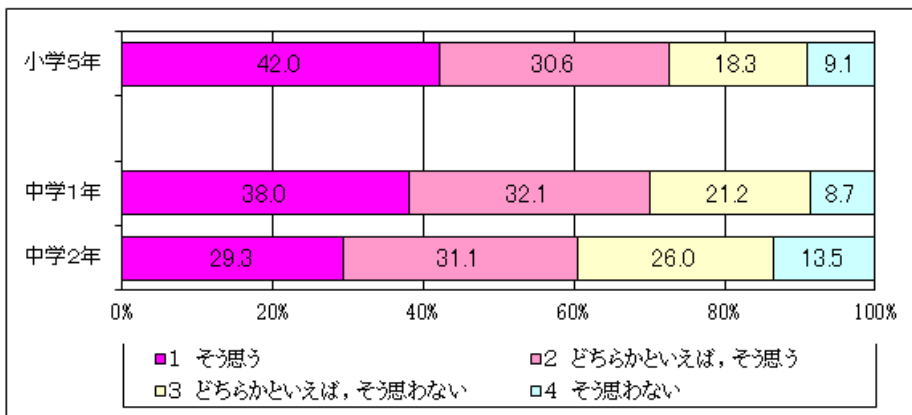
	小学5年	中学1年	中学2年
1 当てはまる	65.3	59.8	39.5
2 どちらかといえば、当てはまる	24.8	29.8	35.5
3 どちらかといえば、当てはまらない	7.4	7.9	18.3
4 当てはまらない	2.5	2.5	6.6



県:(26)

社会の授業で自分が考えたことや調べたことを、新聞のような形でノートや広用紙にまとめることは楽しい。

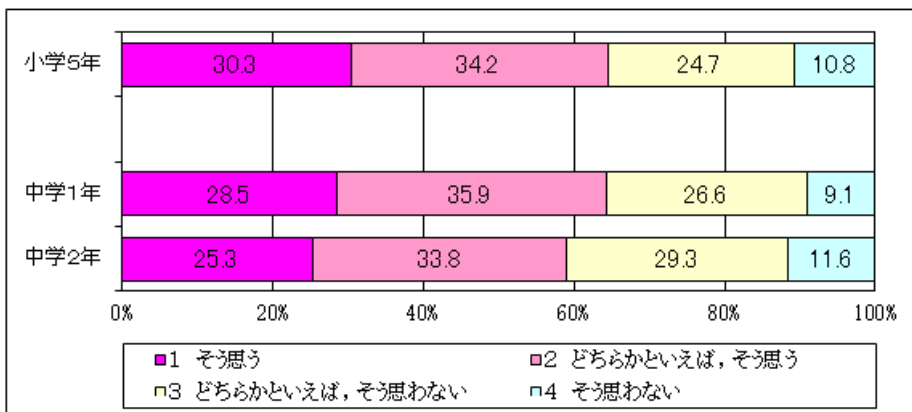
	小学5年	中学1年	中学2年
1 そう思う	42.0	38.0	29.3
2 どちらかといえば、そう思う	30.6	32.1	31.1
3 どちらかといえば、そう思わない	18.3	21.2	26.0
4 そう思わない	9.1	8.7	13.5



県:(27)

社会の授業で調べたことをもとに考え、話し合いをすること(討論すること)は楽しい。

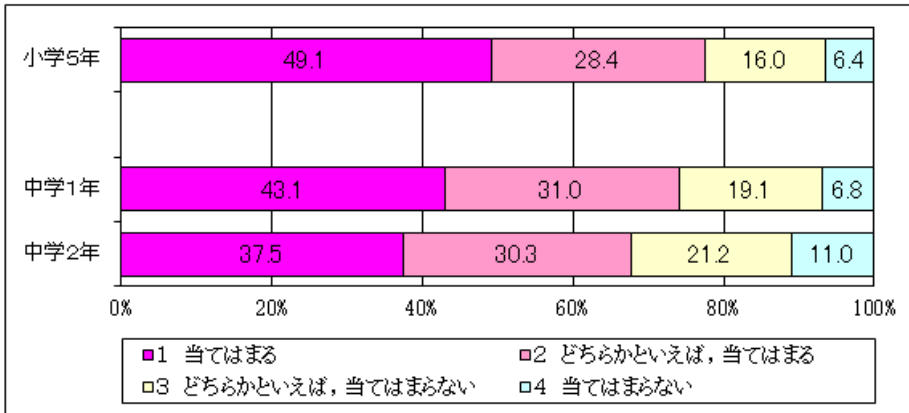
	小学5年	中学1年	中学2年
1 そう思う	30.3	28.5	25.3
2 どちらかといえば、そう思う	34.2	35.9	33.8
3 どちらかといえば、そう思わない	24.7	26.6	29.3
4 そう思わない	10.8	9.1	11.6



県:(28)

博物館や図書館、郷土資料館などで、自分の興味・関心をもったことについて調べることは好きだ。

	小学5年	中学1年	中学2年
1 当てはまる	49.1	43.1	37.5
2 どちらかといえば、当てはまる	28.4	31.0	30.3
3 どちらかといえば、当てはまらない	16.0	19.1	21.2
4 当てはまらない	6.4	6.8	11.0



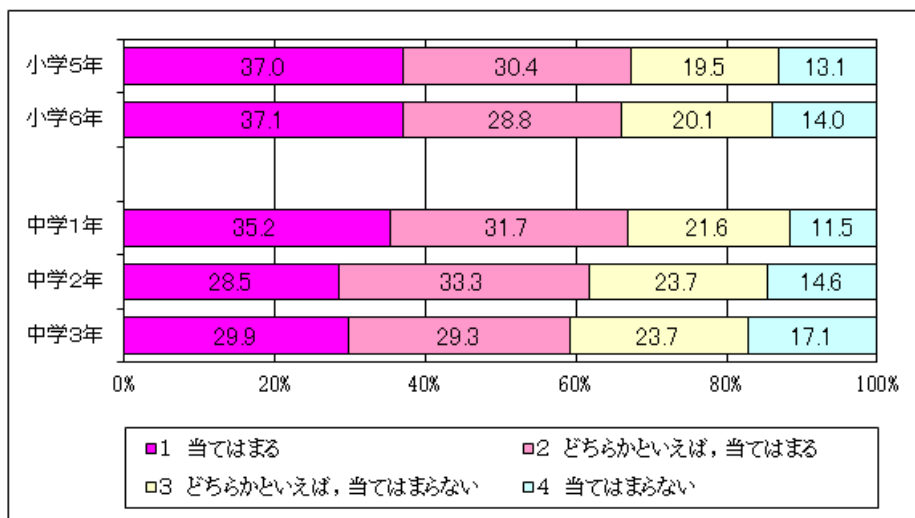
算数・数学

県:(18)ウ

全国: I (73) II (62) III小(72)中(73)

算数・数学の勉強は好きだ。

	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	37.0	37.1		35.2	28.5	29.9
2 どちらかといえば、当てはまる	30.4	28.8		31.7	33.3	29.3
3 どちらかといえば、当てはまらない	19.5	20.1		21.6	23.7	23.7
4 当てはまらない	13.1	14.0		11.5	14.6	17.1

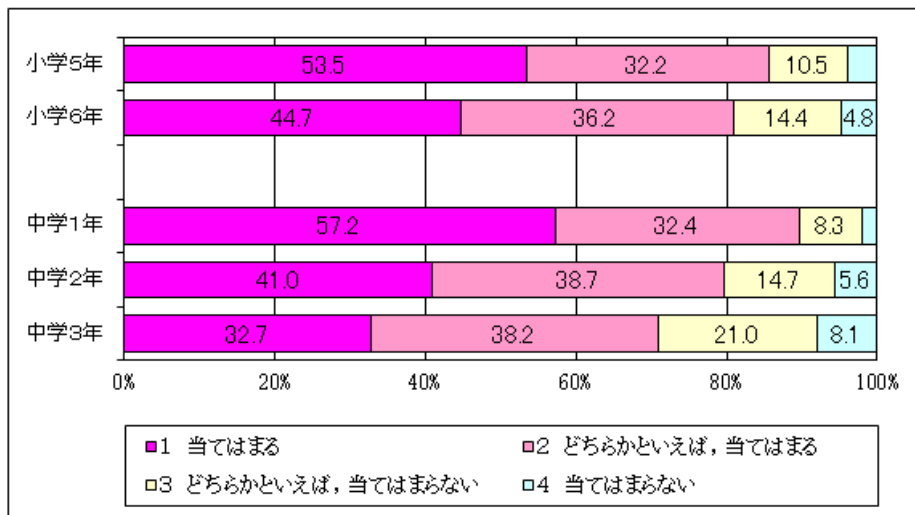


県:(19)ウ

全国: I (75) II (64) III小(74)中(75)

算数・数学の授業の内容はよく分かる。

	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	53.5	44.7		57.2	41.0	32.7
2 どちらかといえば、当てはまる	32.2	36.2		32.4	38.7	38.2
3 どちらかといえば、当てはまらない	10.5	14.4		8.3	14.7	21.0
4 当てはまらない	3.8	4.8		2.1	5.6	8.1

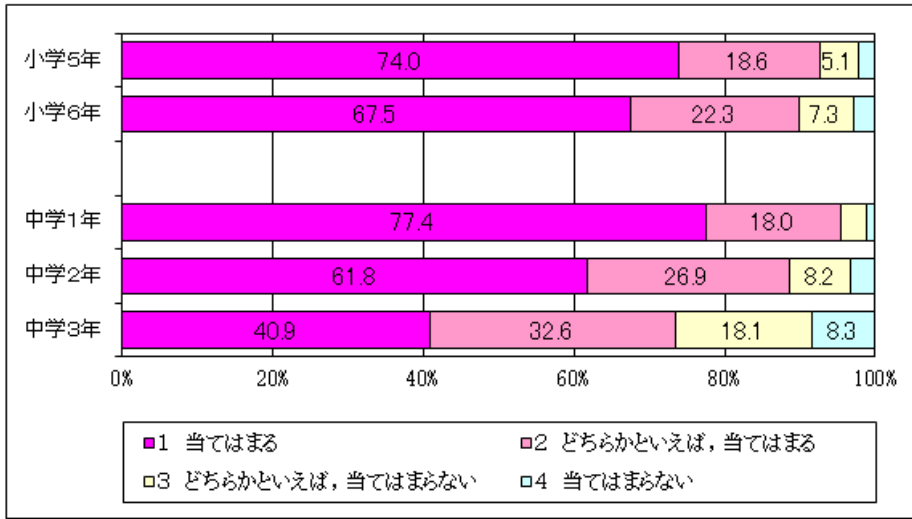


県:(20)ウ

全国: I (79) II (68) III 小(78) 中(79)

算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ

	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	74.0	67.5		77.4	61.8	40.9
2 どちらかといえば、当てはまる	18.6	22.3		18.0	26.9	32.6
3 どちらかといえば、当てはまらない	5.1	7.3		3.4	8.2	18.1
4 当てはまらない	2.3	2.9		1.1	3.2	8.3

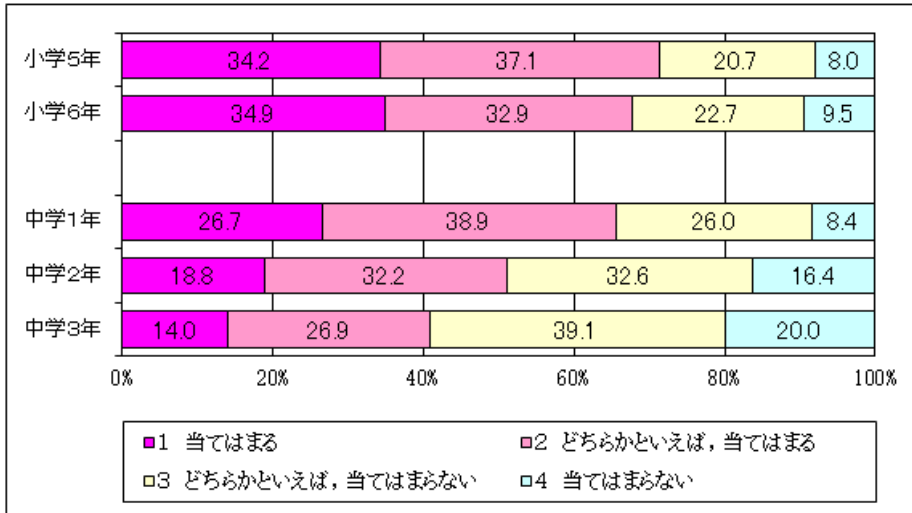


県:(29)

全国: I (78) II (67) III 小(77) 中(78)

算数・数学の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考える。

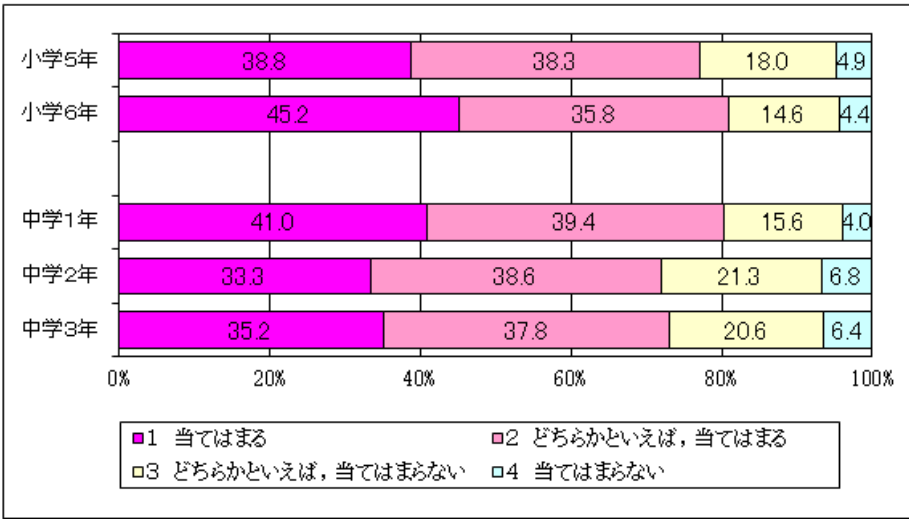
	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	34.2	34.9		26.7	18.8	14.0
2 どちらかといえば、当てはまる	37.1	32.9		38.9	32.2	26.9
3 どちらかといえば、当てはまらない	20.7	22.7		26.0	32.6	39.1
4 当てはまらない	8.0	9.5		8.4	16.4	20.0



県:(30)
 全国: I (81) II (70) III小(80)中(81)

算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけ・根拠を理解するようにしている。

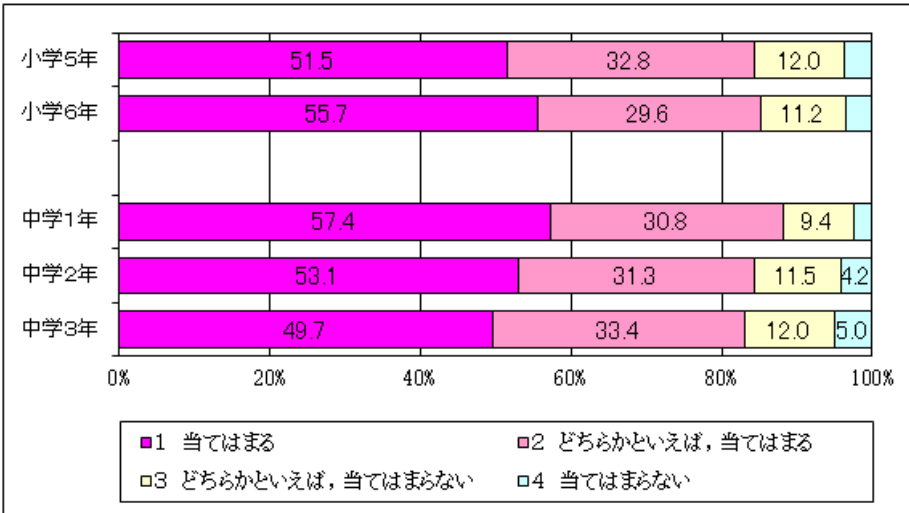
	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	38.8	45.2		41.0	33.3	35.2
2 どちらかといえば、当てはまる	38.3	35.8		39.4	38.6	37.8
3 どちらかといえば、当てはまらない	18.0	14.6		15.6	21.3	20.6
4 当てはまらない	4.9	4.4		4.0	6.8	6.4



県:(31)
 全国: I (82) II (71) III小(81)中(82)

算数・数学の授業で、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている。

	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	51.5	55.7		57.4	53.1	49.7
2 どちらかといえば、当てはまる	32.8	29.6		30.8	31.3	33.4
3 どちらかといえば、当てはまらない	12.0	11.2		9.4	11.5	12.0
4 当てはまらない	3.6	3.5		2.5	4.2	5.0

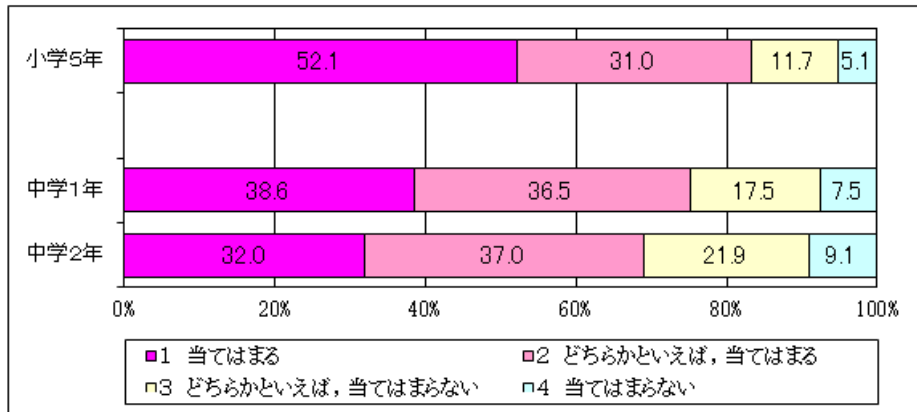


理科

県:(18)エ

理科の勉強は好きだ。

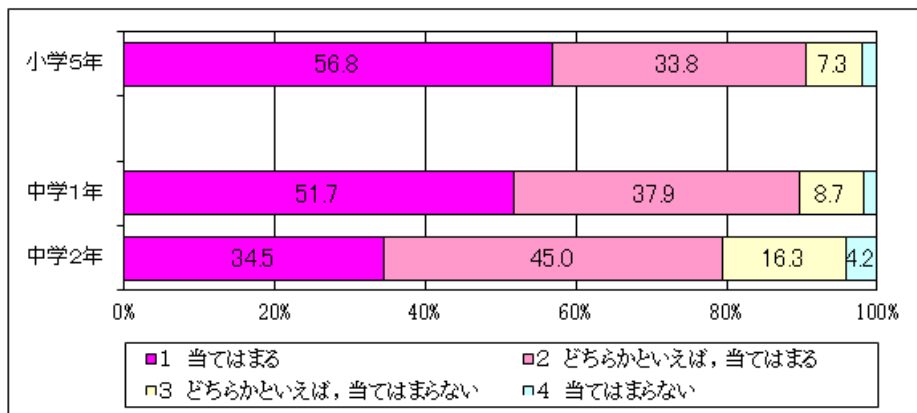
	小学5年	中学1年	中学2年
1 当てはまる	52.1	38.6	32.0
2 どちらかといえば、当てはまる	31.0	36.5	37.0
3 どちらかといえば、当てはまらない	11.7	17.5	21.9
4 当てはまらない	5.1	7.5	9.1



県:(19)エ

理科の授業の内容はよく分かる。

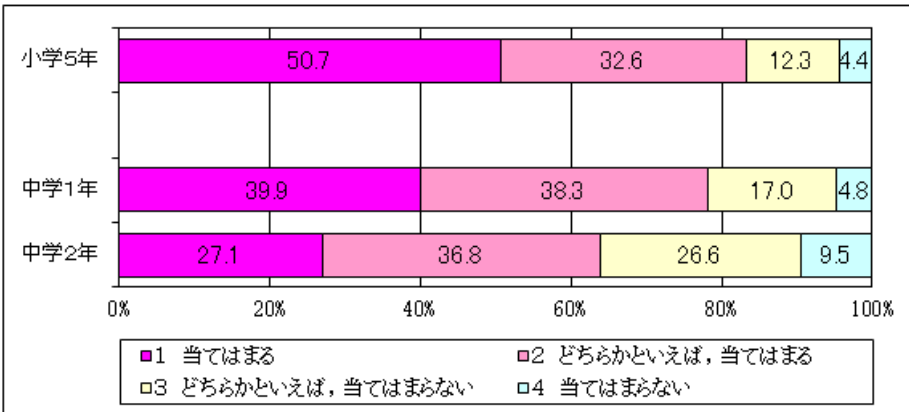
	小学5年	中学1年	中学2年
1 当てはまる	56.8	51.7	34.5
2 どちらかといえば、当てはまる	33.8	37.9	45.0
3 どちらかといえば、当てはまらない	7.3	8.7	16.3
4 当てはまらない	2.1	1.7	4.2



県:(20)エ

理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。

	小学5年	中学1年	中学2年
1 当てはまる	50.7	39.9	27.1
2 どちらかといえば、当てはまる	32.6	38.3	36.8
3 どちらかといえば、当てはまらない	12.3	17.0	26.6
4 当てはまらない	4.4	4.8	9.5



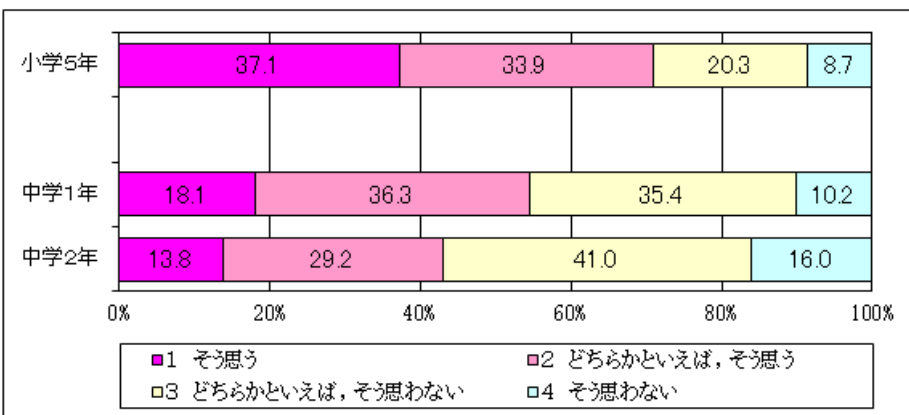
県:小(32)

理科の授業で、自分の考えを発表したり友達に話したりするのは楽しい。

県:中(32)

理科の授業で、自分の考えを文章や図を使って表現したり発表したりしている。

	小学5年	中学1年	中学2年
1 そう思う	37.1	18.1	13.8
2 どちらかといえば、そう思う	33.9	36.3	29.2
3 どちらかといえば、そう思わない	20.3	35.4	41.0
4 そう思わない	8.7	10.2	16.0



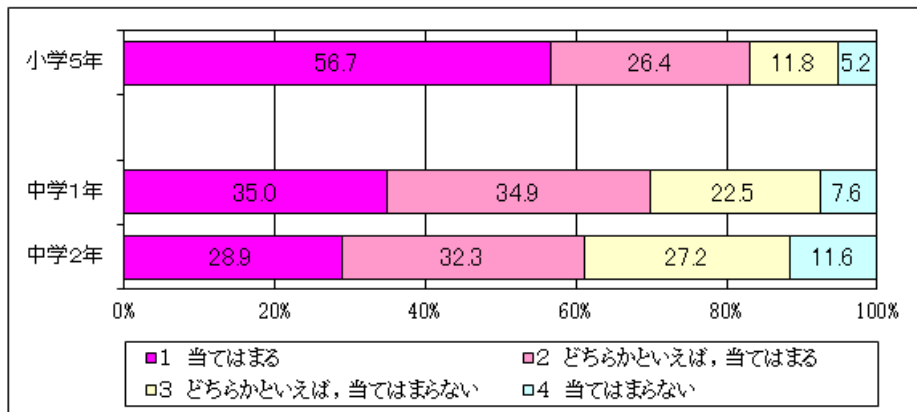
県:小(33)

理科の授業で、観察や実験について図や文字で記録をしていくことは好きだ。

県:中(33)

理科の授業で、問題を解決するために、自分で観察や実験を計画し実施したいと思う。

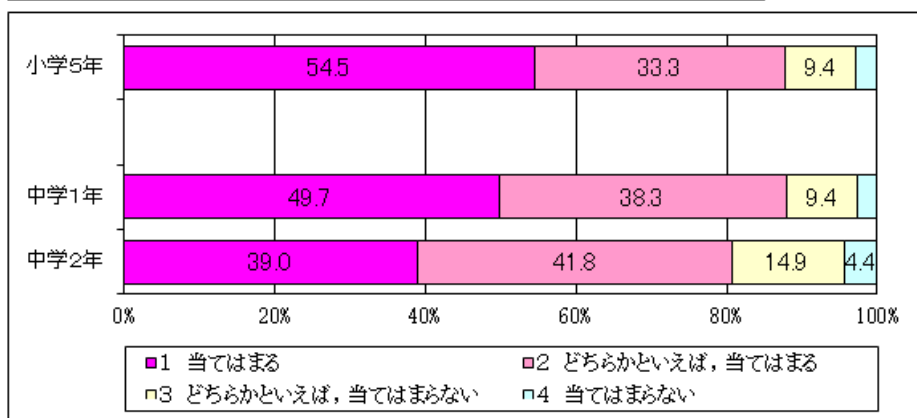
	小学5年	中学1年	中学2年
1 当てはまる	56.7	35.0	28.9
2 どちらかといえば、当てはまる	26.4	34.9	32.3
3 どちらかといえば、当てはまらない	11.8	22.5	27.2
4 当てはまらない	5.2	7.6	11.6



県:(34)

理科の授業で、自分が何を調べるのかはっきり分かって観察や実験を行っている。

	小学5年	中学1年	中学2年
1 当てはまる	54.5	49.7	39.0
2 どちらかといえば、当てはまる	33.3	38.3	41.8
3 どちらかといえば、当てはまらない	9.4	9.4	14.9
4 当てはまらない	2.8	2.6	4.4

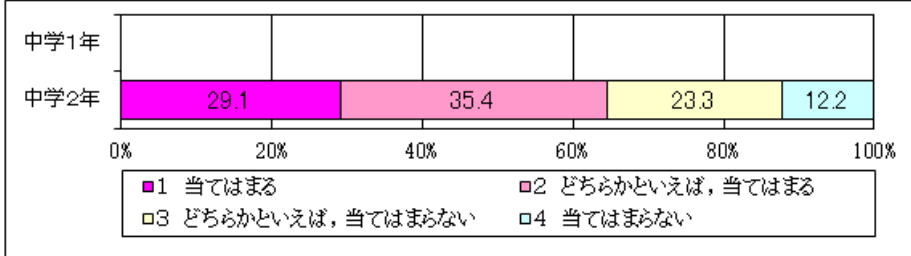


英語

県: 中(18)才

英語の勉強は好きだ。 ※2年生だけ答えてください。あとの質問も同じです。

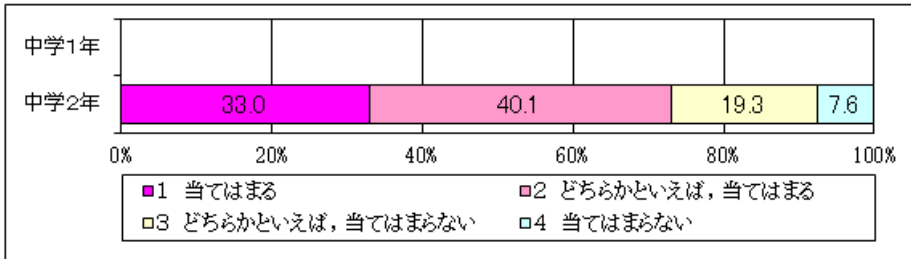
	小学5年	中学1年	中学2年
1 当てはまる			29.1
2 どちらかといえば、当てはまる			35.4
3 どちらかといえば、当てはまらない			23.3
4 当てはまらない			12.2



県: 中(19)才

英語の授業の内容はよく分かる。

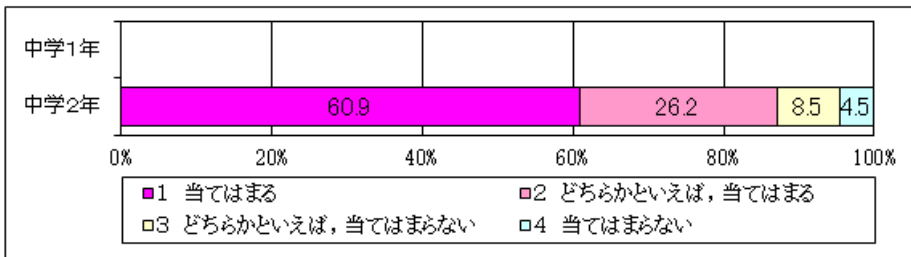
	小学5年	中学1年	中学2年
1 当てはまる			33.0
2 どちらかといえば、当てはまる			40.1
3 どちらかといえば、当てはまらない			19.3
4 当てはまらない			7.6



県: (20)才

英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。

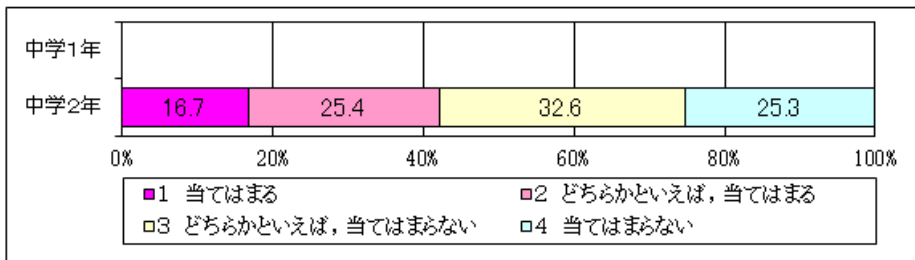
	小学5年	中学1年	中学2年
1 当てはまる			60.9
2 どちらかといえば、当てはまる			26.2
3 どちらかといえば、当てはまらない			8.5
4 当てはまらない			4.5



県: 中(35)

英語の授業で、あたえられたテーマについて、英語で簡単なスピーチをすることは好きだ。

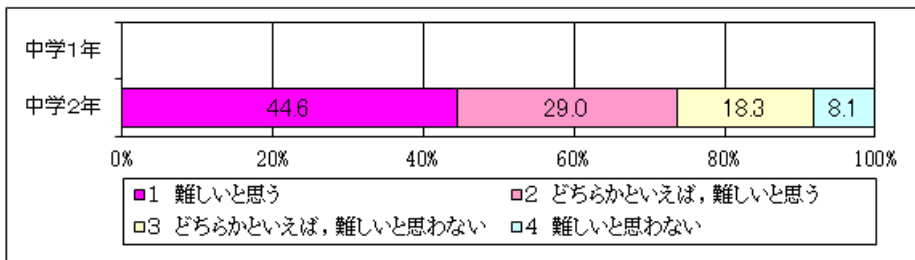
	小学5年	中学1年	中学2年
1 当てはまる			16.7
2 どちらかといえば、当てはまる			25.4
3 どちらかといえば、当てはまらない			32.6
4 当てはまらない			25.3



県: 中(36)

英語の授業で、身近な話題について自分の考えや気持ちなどを英語で書くことは難しい。

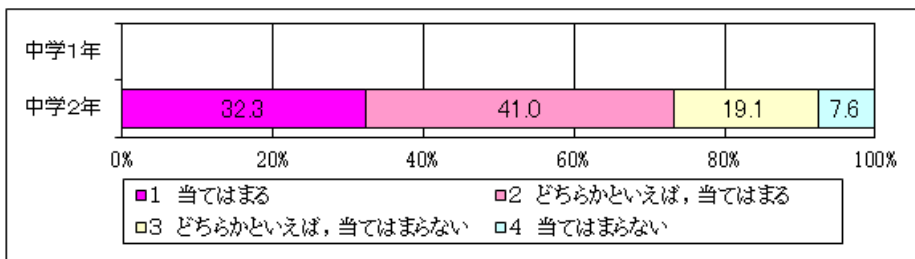
	小学5年	中学1年	中学2年
1 難しいと思う			44.6
2 どちらかといえば、難しいと思う			29.0
3 どちらかといえば、難しいと思わない			18.3
4 難しいと思わない			8.1



県: 中(37)

英語の授業で英語を聞いたり読んだりするとき、大まかな流れや大切な部分をつかみながら聞いたり読んだりしている。

	小学5年	中学1年	中学2年
1 当てはまる			32.3
2 どちらかといえば、当てはまる			41.0
3 どちらかといえば、当てはまらない			19.1
4 当てはまらない			7.6



最終更新日: 2013-10-21

平成25年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > II 調査結果の概要

教師意識調査から見た佐賀県の教師像

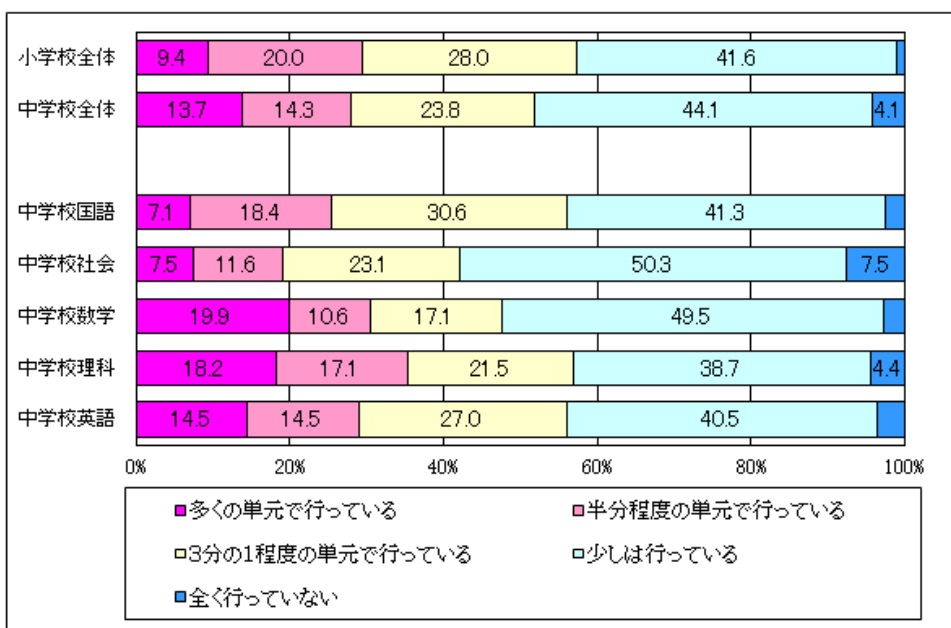
※数値は小数第二位で四捨五入している。
 ※グラフにおいては、4.0%未満の値については表示していない。

小学校実施回答数 1,203人 中学校実施回答数 962人

教科全般における指導法の工夫

- (13) 発展的な課題を取り入れた授業を行っていますか。(一部の児童を対象に発展的な課題を与える場合も含めてください。)(小学校)
 (13) 発展的な課題を取り入れた授業を行っていますか。(一部の生徒を対象に発展的な課題を与える場合も含めてください。)(中学校)

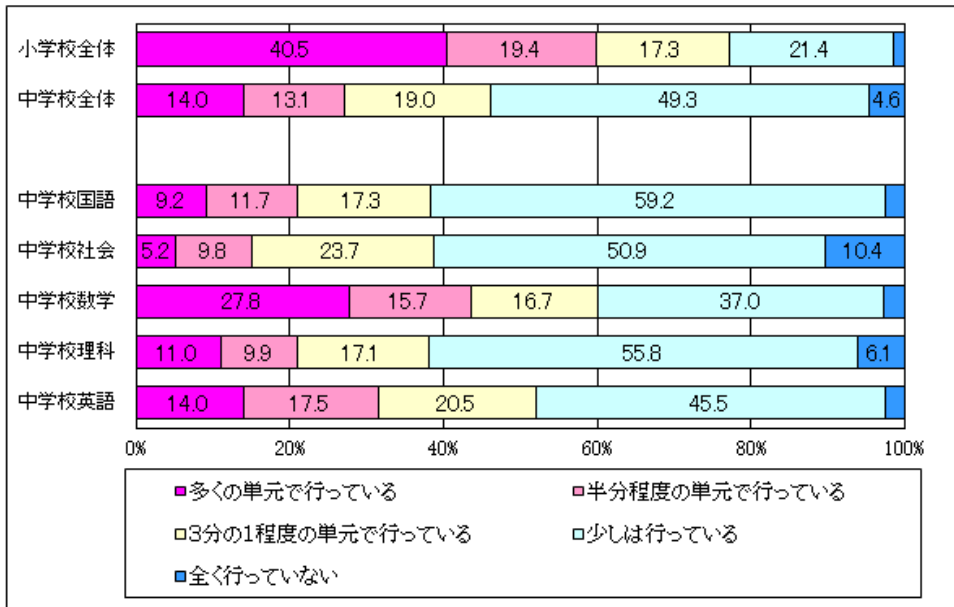
	小学校全体	中学校全体	中学校国語	中学校社会	中学校数学	中学校理科	中学校英語
多くの単元で行っている	9.4	13.7	7.1	7.5	19.9	18.2	14.5
半分程度の単元で行っている	20.0	14.3	18.4	11.6	10.6	17.1	14.5
3分の1程度の単元で行っている	28.0	23.8	30.6	23.1	17.1	21.5	27.0
少しは行っている	41.6	44.1	41.3	50.3	49.5	38.7	40.5
全く行っていない	0.9	4.1	2.6	7.5	2.8	4.4	3.5



(14) 理解が十分でない児童に対し、授業の合間や放課後などに更に指導していますか。(小学校)

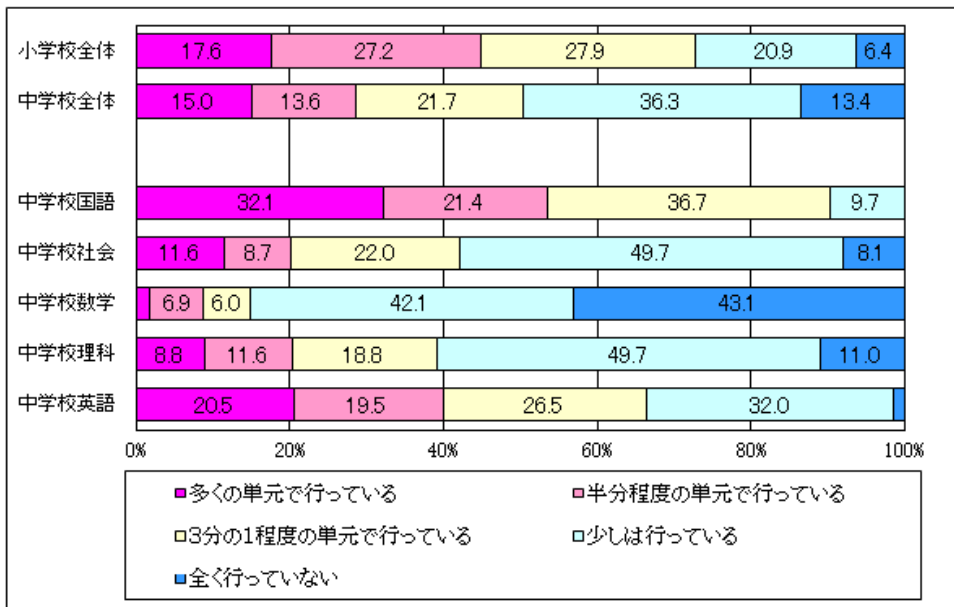
(14) 理解が十分でない生徒に対し、授業の合間や放課後などに更に指導していますか。(中学校)

	小学校 全体	中学校 全体	中学校 国語	中学校 社会	中学校 数学	中学校 理科	中学校 英語
多くの単元で行っている	40.5	14.0	9.2	5.2	27.8	11.0	14.0
半分程度の単元で行っている	19.4	13.1	11.7	9.8	15.7	9.9	17.5
3分の1程度の単元で行っている	17.3	19.0	17.3	23.7	16.7	17.1	20.5
少しは行っている	21.4	49.3	59.2	50.9	37.0	55.8	45.5
全く行っていない	1.4	4.6	2.6	10.4	2.8	6.1	2.5



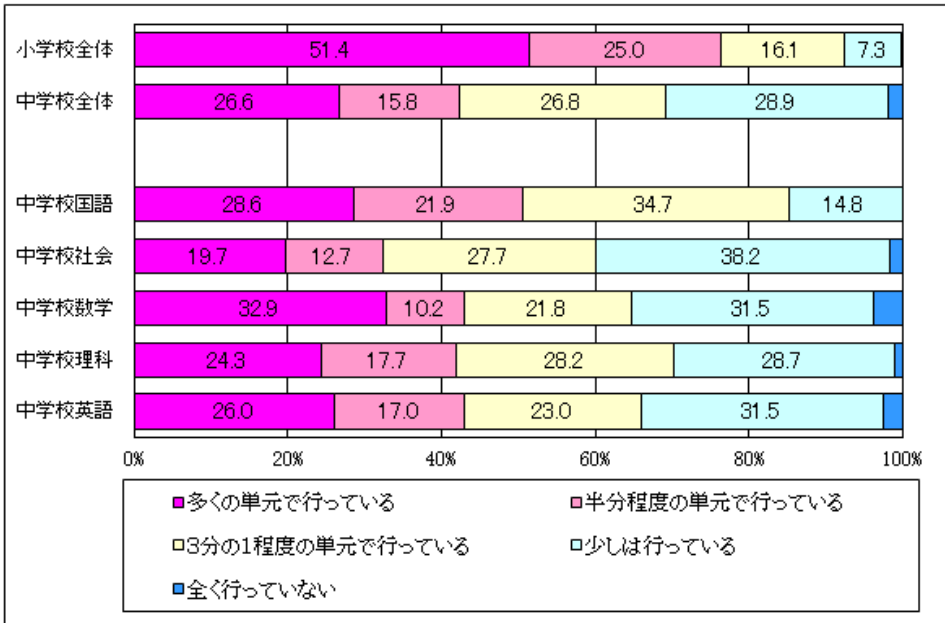
(15) レポートや作文など書いて表現する活動を取り入れた授業を行っていますか。

	小学校 全体	中学校 全体	中学校 国語	中学校 社会	中学校 数学	中学校 理科	中学校 英語
多くの単元で行っている	17.6	15.0	32.1	11.6	1.9	8.8	20.5
半分程度の単元で行っている	27.2	13.6	21.4	8.7	6.9	11.6	19.5
3分の1程度の単元で行っている	27.9	21.7	36.7	22.0	6.0	18.8	26.5
少しは行っている	20.9	36.3	9.7	49.7	42.1	49.7	32.0
全く行っていない	6.4	13.4	0.0	8.1	43.1	11.0	1.5



(16) 発表や話し合い活動など表現し、考えを広げたり深めたりする活動を取り入れた授業を行っていますか。

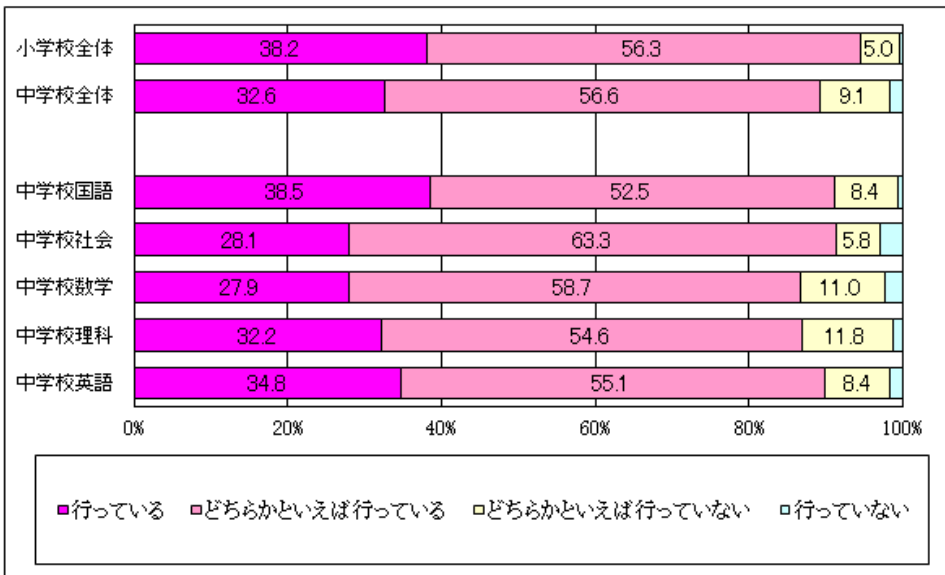
	小学校 全体	中学校 全体	中学校 国語	中学校 社会	中学校 数学	中学校 理科	中学校 英語
多くの単元で行っている	51.4	26.6	28.6	19.7	32.9	24.3	26.0
半分程度の単元で行っている	25.0	15.8	21.9	12.7	10.2	17.7	17.0
3分の1程度の単元で行っている	16.1	26.8	34.7	27.7	21.8	28.2	23.0
少しは行っている	7.3	28.9	14.8	38.2	31.5	28.7	31.5
全く行っていない	0.2	1.9	0.0	1.7	3.7	1.1	2.5



(17) 総合的な学習の時間においては、児童にどのような力を身に付けさせるのかを意識した指導を行っていますか。(小学校)

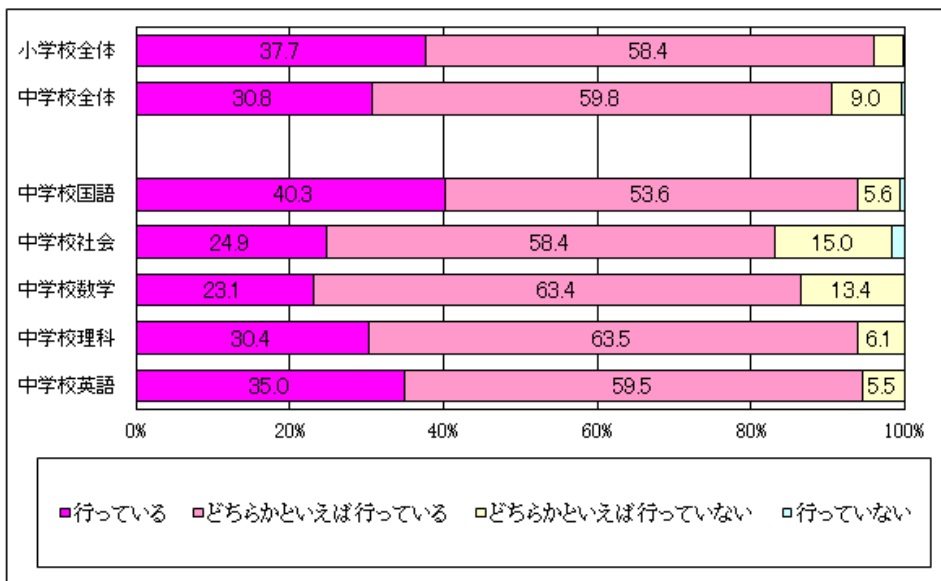
(17) 総合的な学習の時間においては、生徒にどのような力を身に付けさせるのかを意識した指導を行っていますか。(中学校)

	小学校 全体	中学校 全体	中学校 国語	中学校 社会	中学校 数学	中学校 理科	中学校 英語
行っている	38.2	32.6	38.5	28.1	27.9	32.2	34.8
どちらかといえば行っている	56.3	56.6	52.5	63.3	58.7	54.6	55.1
どちらかといえば行っていない	5.0	9.1	8.4	5.8	11.0	11.8	8.4
行っていない	0.5	1.7	0.6	2.9	2.3	1.3	1.7



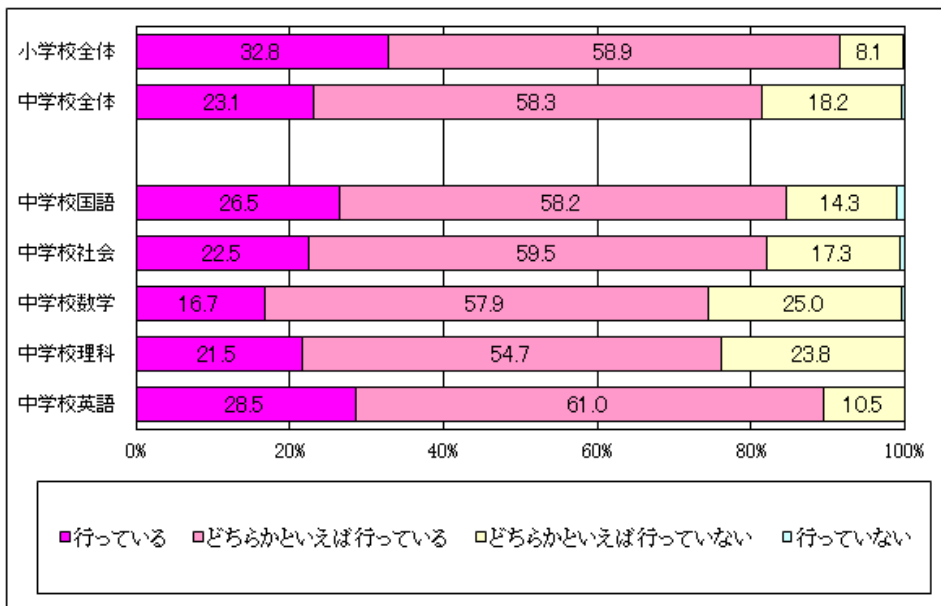
(18) 単元における学習目標や評価規準を明確にした上で、その目標を達成するために必要な教材や学習活動を指導計画に取り入れて指導を行っていますか。

	小学校 全体	中学校 全体	中学校 国語	中学校 社会	中学校 数学	中学校 理科	中学校 英語
行っている	37.7	30.8	40.3	24.9	23.1	30.4	35.0
どちらかといえば行っている	58.4	59.8	53.6	58.4	63.4	63.5	59.5
どちらかといえば行っていない	3.7	9.0	5.6	15.0	13.4	6.1	5.5
行っていない	0.2	0.4	0.5	1.7	0.0	0.0	0.0



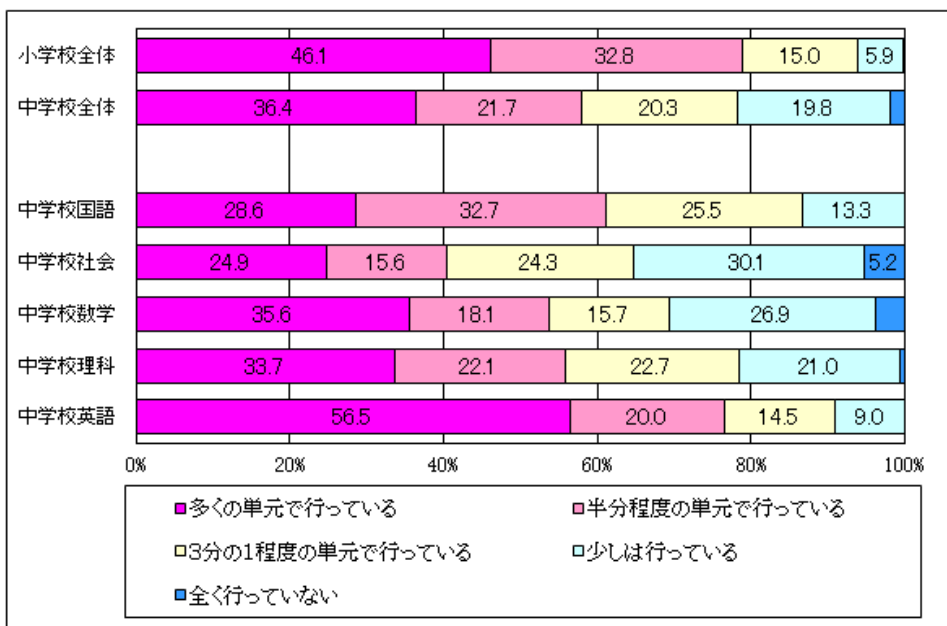
(19) ノートのまとめ方や話し合いの進め方など学習内容だけでなく学習方法についてもきめ細やかに指導を行っていますか。

	小学校 全体	中学校 全体	中学校 国語	中学校 社会	中学校 数学	中学校 理科	中学校 英語
行っている	32.8	23.1	26.5	22.5	16.7	21.5	28.5
どちらかといえば行っている	58.9	58.3	58.2	59.5	57.9	54.7	61.0
どちらかといえば行っていない	8.1	18.2	14.3	17.3	25.0	23.8	10.5
行っていない	0.2	0.4	1.0	0.6	0.5	0.0	0.0



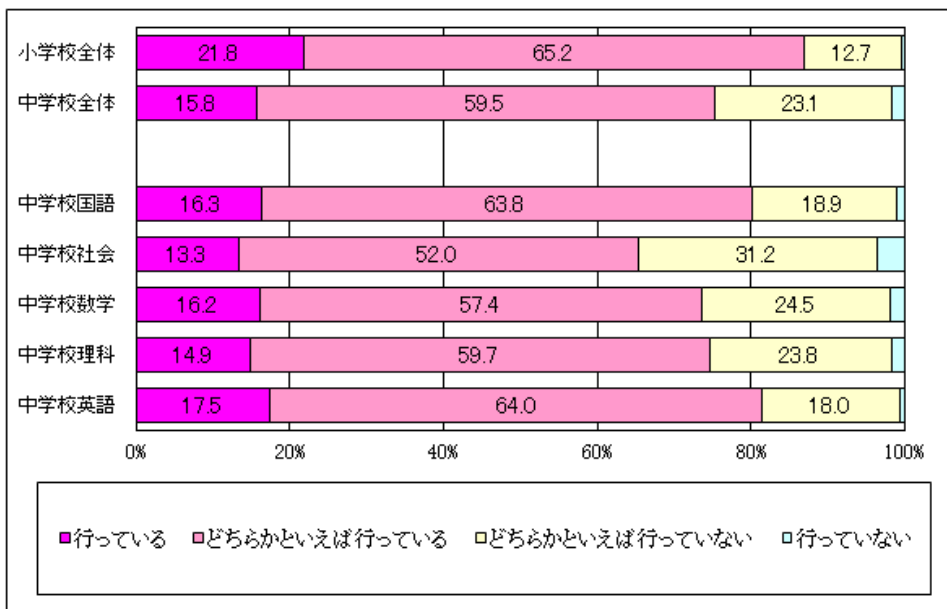
- (20) 教師による指導を通して確実に学習内容を身に付けさせる場面と、グループ活動やペア活動の形態を取り入れ、児童の学び合い活動を通して学習内容を身に付けさせる場面を意識したメリハリのある授業を行っていますか。
- (20) 教師による指導を通して確実に学習内容を身に付けさせる場面と、グループ活動やペア活動の形態を取り入れ、生徒の学び合い活動を通して学習内容を身に付けさせる場面を意識したメリハリのある授業を行っていますか。

	小学校 全体	中学校 全体	中学校 国語	中学校 社会	中学校 数学	中学校 理科	中学校 英語
多くの単元で行っている	46.1	36.4	28.6	24.9	35.6	33.7	56.5
半分程度の単元で行っている	32.8	21.7	32.7	15.6	18.1	22.1	20.0
3分の1程度の単元で行っている	15.0	20.3	25.5	24.3	15.7	22.7	14.5
少しは行っている	5.9	19.8	13.3	30.1	26.9	21.0	9.0
全く行っていない	0.1	1.9	0.0	5.2	3.7	0.6	0.0



- (21) 日常の授業や単元等の指導、学校における教育活動において、PDCAサイクル(計画→実施→評価→改善)を踏まえた実践を行っていますか。

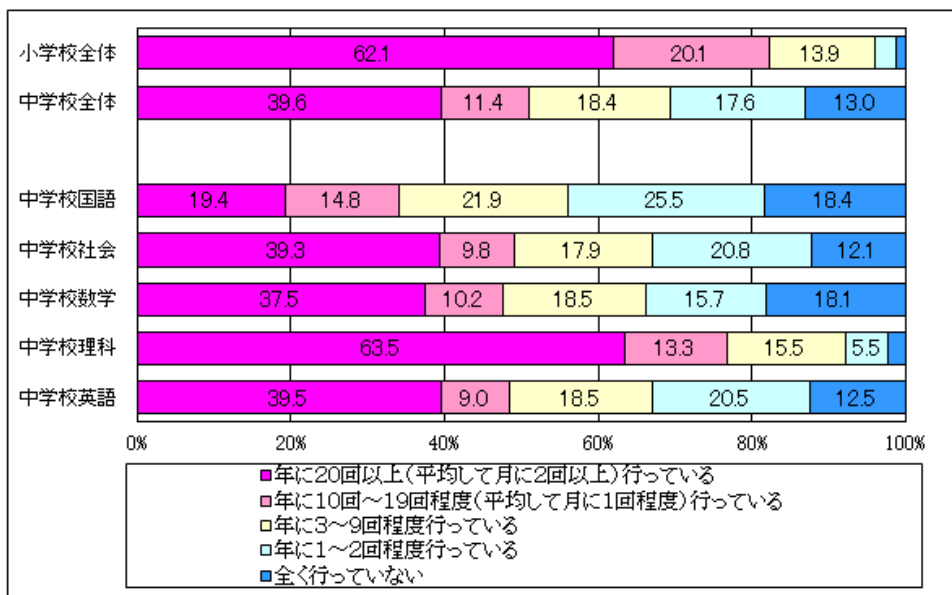
	小学校 全体	中学校 全体	中学校 国語	中学校 社会	中学校 数学	中学校 理科	中学校 英語
行っている	21.8	15.8	16.3	13.3	16.2	14.9	17.5
どちらかといえば行っている	65.2	59.5	63.8	52.0	57.4	59.7	64.0
どちらかといえば行っていない	12.7	23.1	18.9	31.2	24.5	23.8	18.0
行っていない	0.3	1.7	1.0	3.5	1.9	1.7	0.5



学習環境の活用

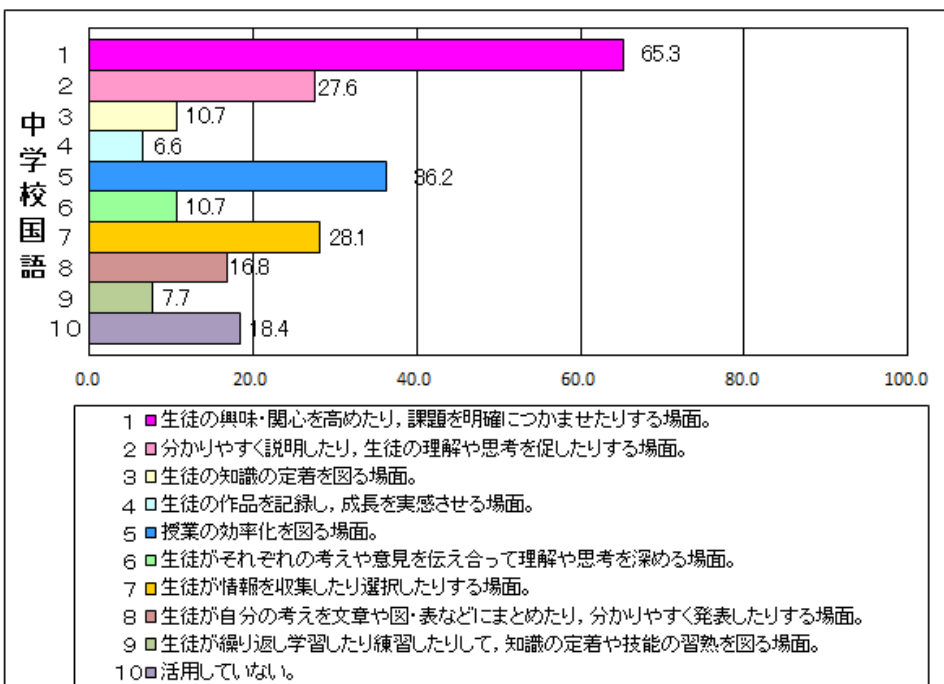
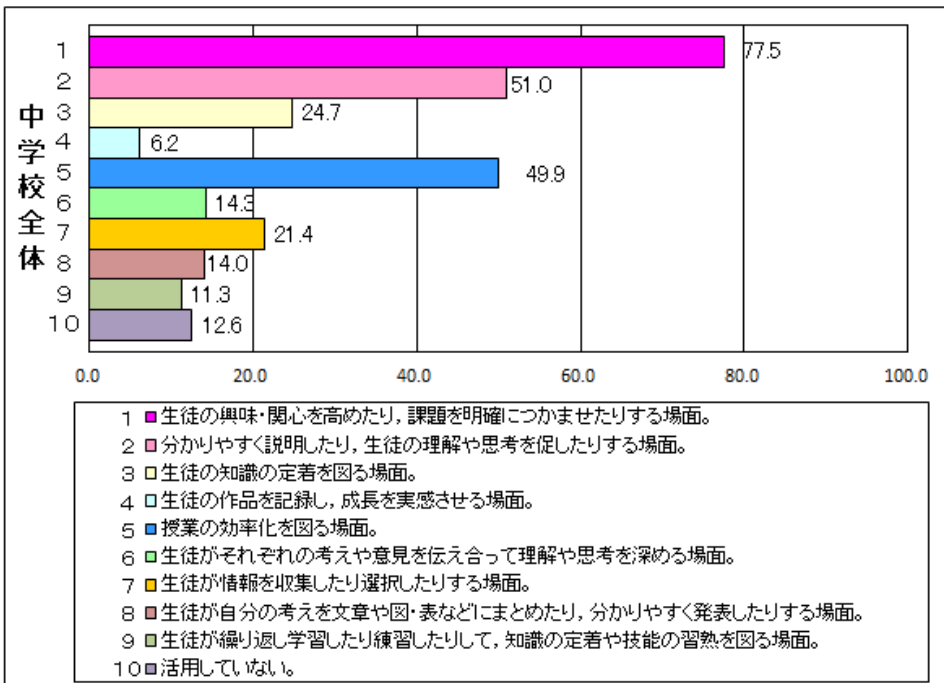
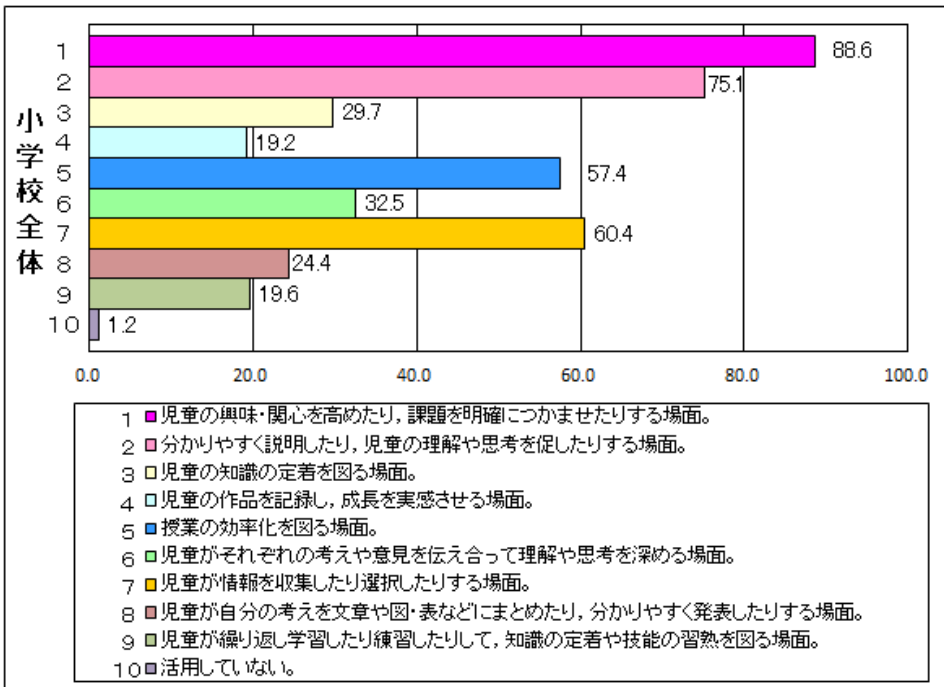
(9) ICT機器を活用した授業を行っていますか。(本調査におけるICT機器とは、コンピュータ、プロジェクター、電子黒板、実物投影機、書画カメラ、タブレットPC、デジタルビデオカメラなどを指します。)

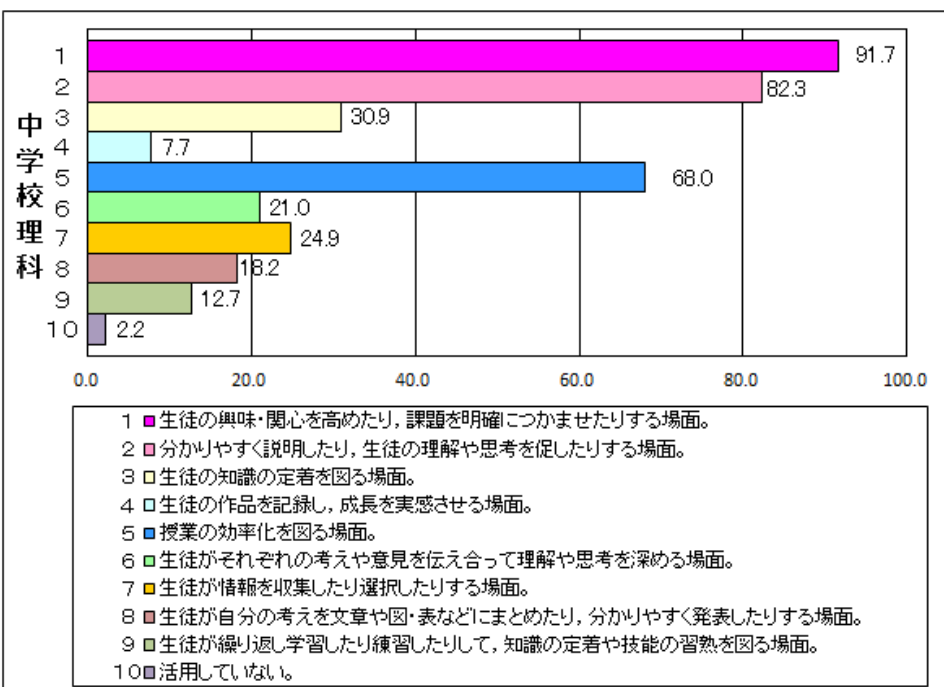
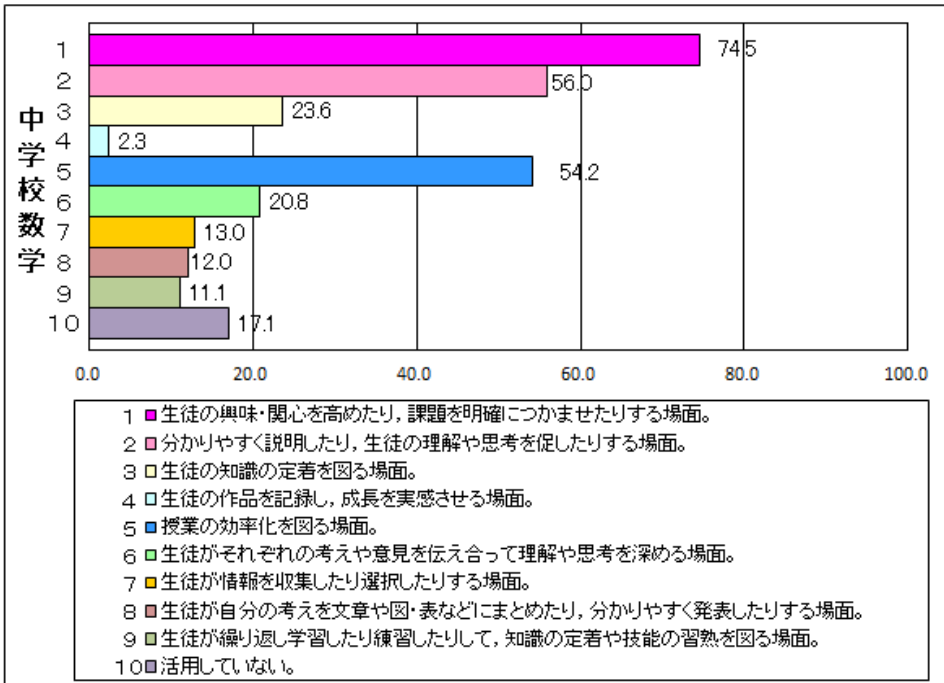
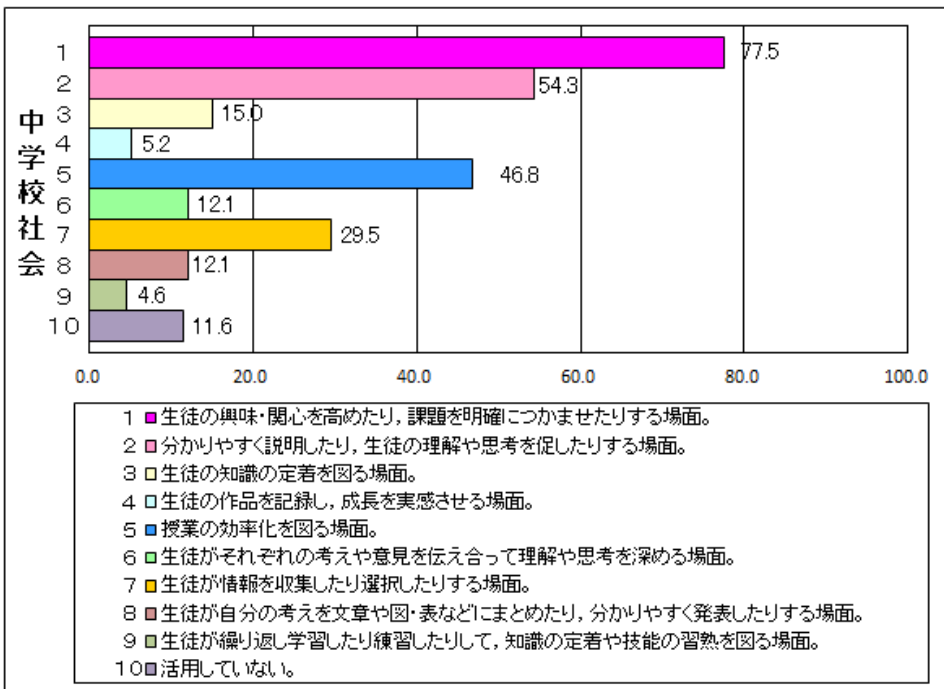
	小学校 全体	中学校 全体	中学校 国語	中学校 社会	中学校 数学	中学校 理科	中学校 英語
年に20回以上(平均して月に2回以上)行っている	62.1	39.6	19.4	39.3	37.5	63.5	39.5
年に10回～19回程度(平均して月に1回程度)行っている	20.1	11.4	14.8	9.8	10.2	13.3	9.0
年に3～9回程度行っている	13.9	18.4	21.9	17.9	18.5	15.5	18.5
年に1～2回程度行っている	2.7	17.6	25.5	20.8	15.7	5.5	20.5
全く行っていない	1.2	13.0	18.4	12.1	18.1	2.2	12.5

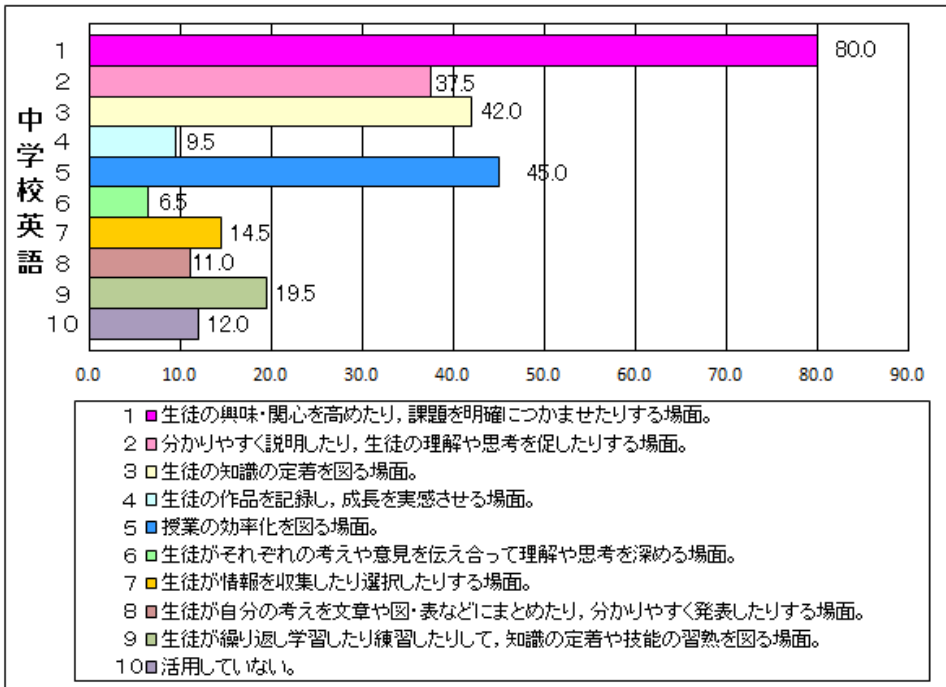


(10) ICT機器を授業のどのような場面で活用していますか。(複数回答可)

	小学校 全体	中学校 全体	中学校 国語	中学校 社会	中学校 数学	中学校 理科	中学校 英語
児童(生徒)の興味・関心を高めたり、課題を明確につかませたりする場面。	88.6	77.5	65.3	77.5	74.5	91.7	80.0
分かりやすく説明したり、児童(生徒)の理解や思考を促したりする場面。	75.1	51.0	27.6	54.3	56.0	82.3	37.5
児童(生徒)の知識の定着を図る場面。	29.7	24.7	10.7	15.0	23.6	30.9	42.0
児童(生徒)の作品を記録し、成長を実感させる場面。	19.2	6.2	6.6	5.2	2.3	7.7	9.5
授業の効率化を図る場面。	57.4	49.9	36.2	46.8	54.2	68.0	45.0
児童(生徒)がそれぞれの考えや意見を伝え合って理解や思考を深める場面。	32.5	14.3	10.7	12.1	20.8	21.0	6.5
児童(生徒)が情報を収集したり選択したりする場面。	60.4	21.4	28.1	29.5	13.0	24.9	14.5
児童(生徒)が自分の考えを文章や図・表などにまとめたり、分かりやすく発表したりする場面。	24.4	14.0	16.8	12.1	12.0	18.2	11.0
児童(生徒)が繰り返し学習したり練習したりして、知識の定着や技能の習熟を図る場面。	19.6	11.3	7.7	4.6	11.1	12.7	19.5
活用していない。	1.2	12.6	18.4	11.6	17.1	2.2	12.0

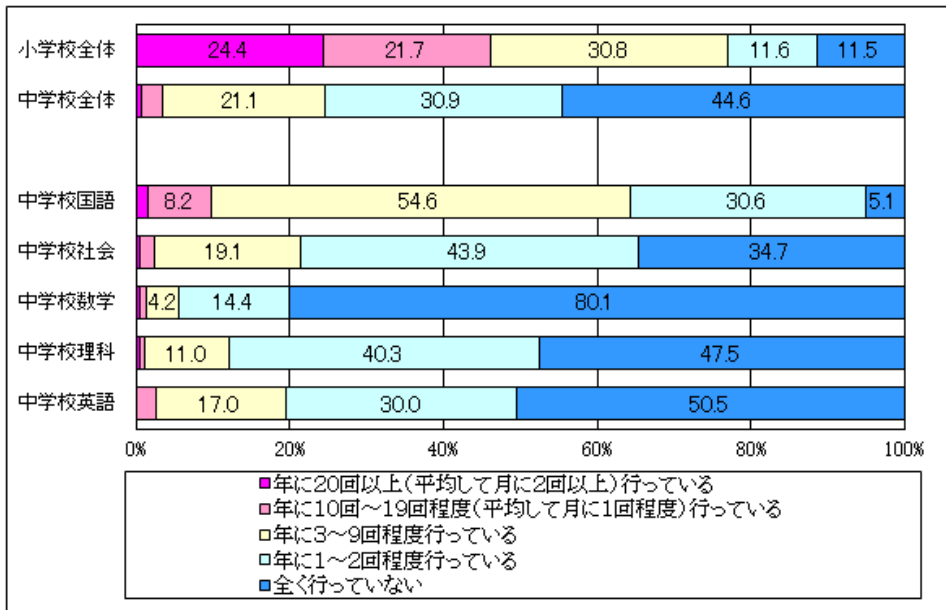






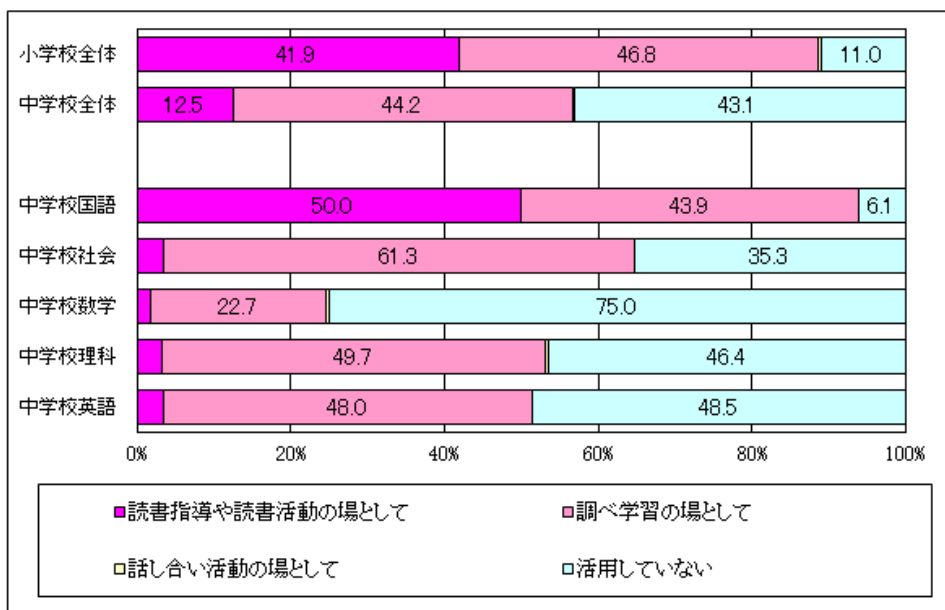
(11) 学校図書館を活用した授業を行っていますか。

	小学校全体	中学校全体	中学校国語	中学校社会	中学校数学	中学校理科	中学校英語
年に20回以上(平均して月に2回以上)行っている	24.4	0.6	1.5	0.6	0.5	0.6	0.0
年に10回～19回程度(平均して月に1回程度)行っている	21.7	2.8	8.2	1.7	0.9	0.6	2.5
年に3～9回程度行っている	30.8	21.1	54.6	19.1	4.2	11.0	17.0
年に1～2回程度行っている	11.6	30.9	30.6	43.9	14.4	40.3	30.0
全く行っていない	11.5	44.6	5.1	34.7	80.1	47.5	50.5



(12) 授業では、学校図書館を主にどのように活用していますか。

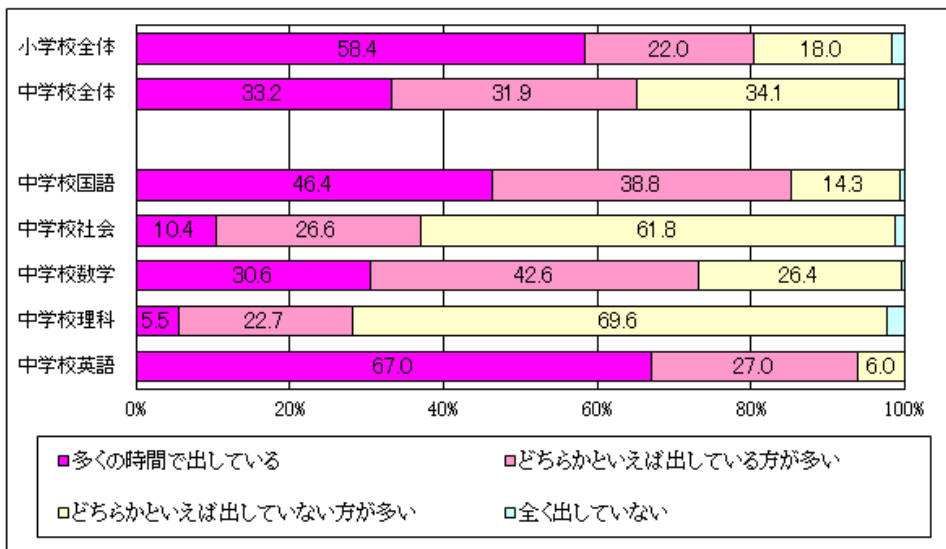
	小学校 全体	中学校 全体	中学校 国語	中学校 社会	中学校 数学	中学校 理科	中学校 英語
読書指導や読書活動の場として	41.9	12.5	50.0	3.5	1.9	3.3	3.5
調べ学習の場として	46.8	44.2	43.9	61.3	22.7	49.7	48.0
話し合い活動の場として	0.3	0.2	0.0	0.0	0.5	0.6	0.0
活用していない	11.0	43.1	6.1	35.3	75.0	46.4	48.5



家庭学習への関与状況

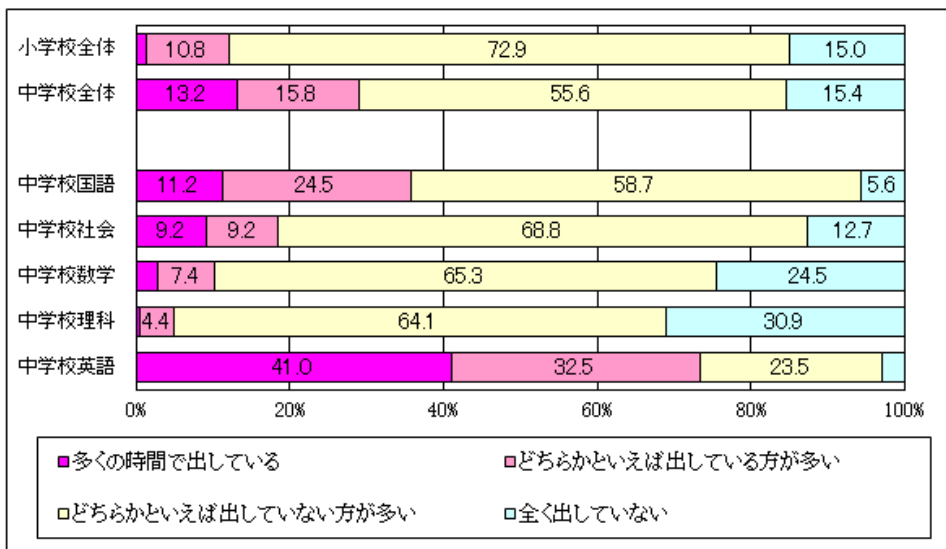
(2) 宿題を出していますか。

	小学校全体	中学校全体	中学校国語	中学校社会	中学校数学	中学校理科	中学校英語
多くの時間を出している	58.4	33.2	46.4	10.4	30.6	5.5	67.0
どちらかといえば出している方が多い	22.0	31.9	38.8	26.6	42.6	22.7	27.0
どちらかといえば出していない方が多い	18.0	34.1	14.3	61.8	26.4	69.6	6.0
全く出していない	1.6	0.8	0.5	1.2	0.5	2.2	0.0



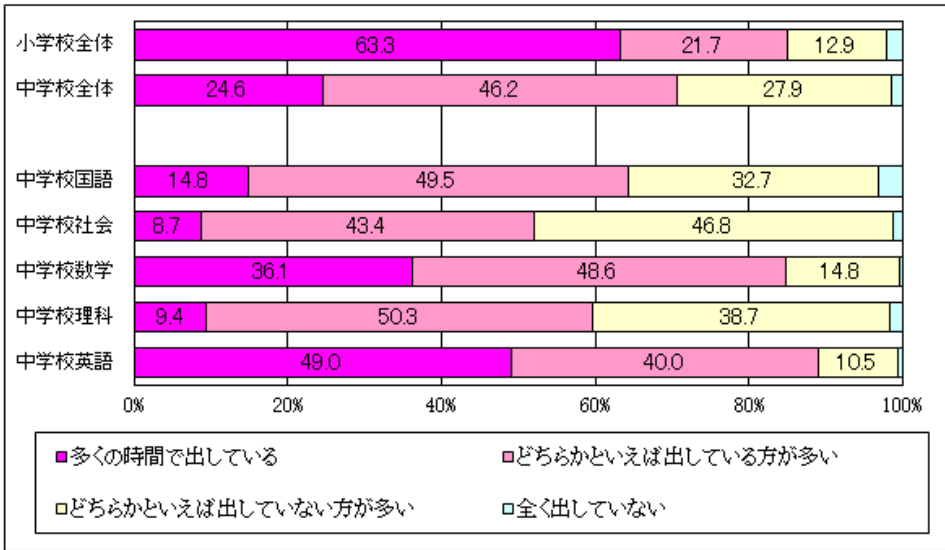
(3) 予習的な内容の宿題を出していますか。

	小学校全体	中学校全体	中学校国語	中学校社会	中学校数学	中学校理科	中学校英語
多くの時間を出している	1.3	13.2	11.2	9.2	2.8	0.6	41.0
どちらかといえば出している方が多い	10.8	15.8	24.5	9.2	7.4	4.4	32.5
どちらかといえば出していない方が多い	72.9	55.6	58.7	68.8	65.3	64.1	23.5
全く出していない	15.0	15.4	5.6	12.7	24.5	30.9	3.0



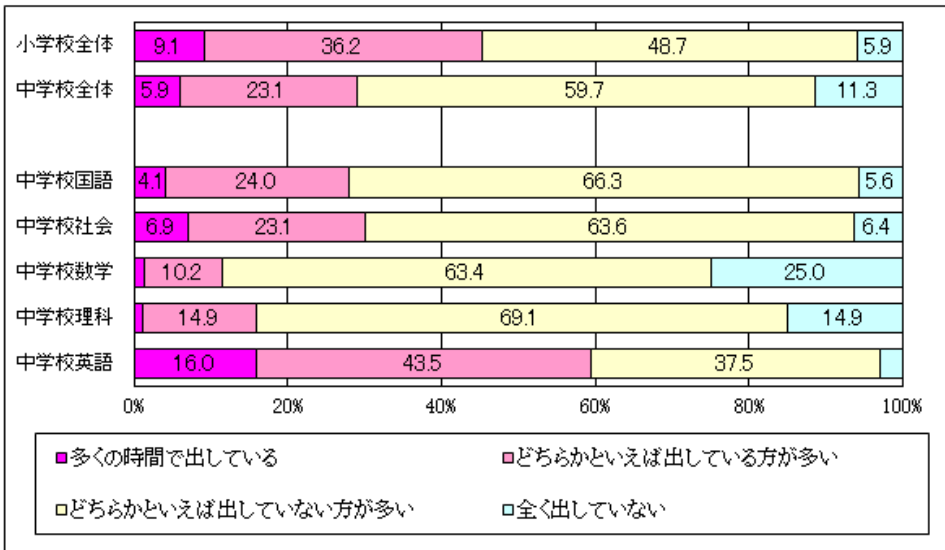
(4) 復習的な内容の宿題を出していますか。

	小学校 全体	中学校 全体	中学校 国語	中学校 社会	中学校 数学	中学校 理科	中学校 英語
多くの時間で出している	63.3	24.6	14.8	8.7	36.1	9.4	49.0
どちらかといえば出している方が多い	21.7	46.2	49.5	43.4	48.6	50.3	40.0
どちらかといえば出していない方が多い	12.9	27.9	32.7	46.8	14.8	38.7	10.5
全く出していない	2.1	1.4	3.1	1.2	0.5	1.7	0.5



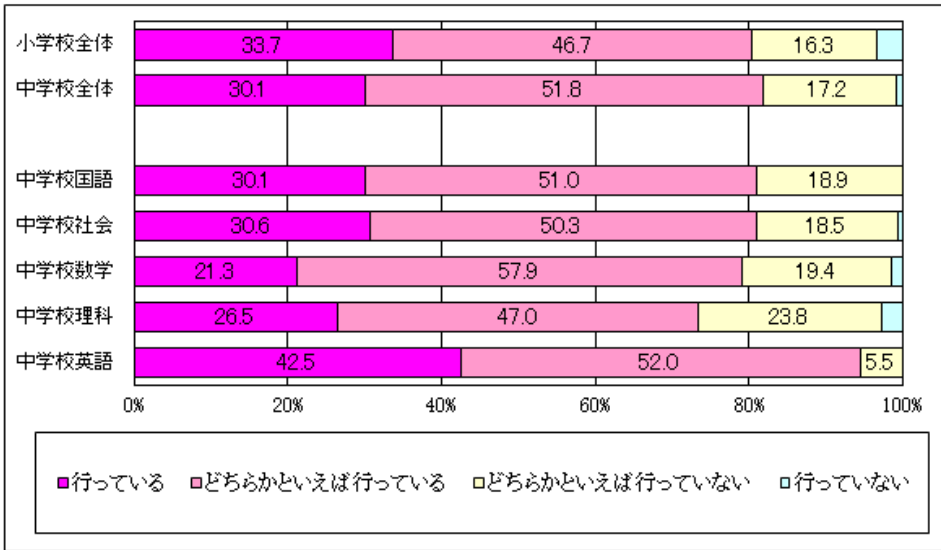
(5) 調べたり文章を書いたりする内容の宿題を出していますか。

	小学校 全体	中学校 全体	中学校 国語	中学校 社会	中学校 数学	中学校 理科	中学校 英語
多くの時間で出している	9.1	5.9	4.1	6.9	1.4	1.1	16.0
どちらかといえば出している方が多い	36.2	23.1	24.0	23.1	10.2	14.9	43.5
どちらかといえば出していない方が多い	48.7	59.7	66.3	63.6	63.4	69.1	37.5
全く出していない	5.9	11.3	5.6	6.4	25.0	14.9	3.0



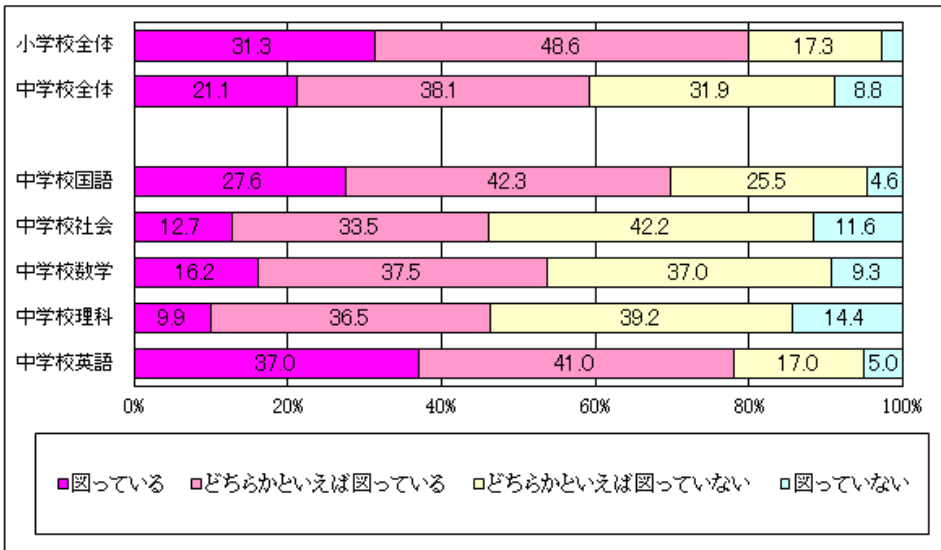
(6) 家庭での学習方法について、具体例を挙げながら指導していますか。

	小学校 全体	中学校 全体	中学校 国語	中学校 社会	中学校 数学	中学校 理科	中学校 英語
行っている	33.7	30.1	30.1	30.6	21.3	26.5	42.5
どちらかといえば行っている	46.7	51.8	51.0	50.9	57.9	47.0	52.0
どちらかといえば行っていない	16.3	17.2	18.9	18.5	19.4	23.8	5.5
行っていない	3.2	0.9	0.0	0.6	1.4	2.8	0.0



(7) 宿題の出し方について、校内の教職員で共通理解を図っていますか。

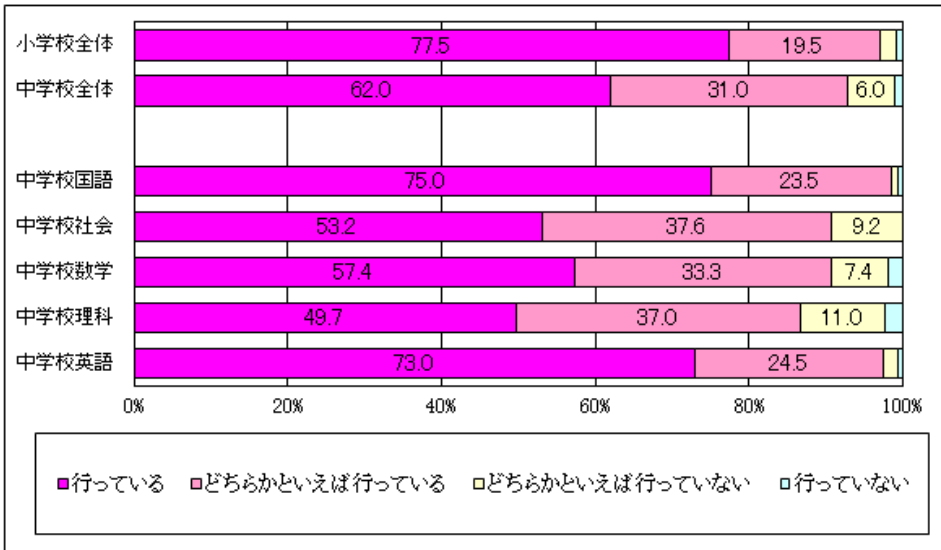
	小学校 全体	中学校 全体	中学校 国語	中学校 社会	中学校 数学	中学校 理科	中学校 英語
図っている	31.3	21.1	27.6	12.7	16.2	9.9	37.0
どちらかといえば図っている	48.6	38.1	42.3	33.5	37.5	36.5	41.0
どちらかといえば図っていない	17.3	31.9	25.5	42.2	37.0	39.2	17.0
図っていない	2.7	8.8	4.6	11.6	9.3	14.4	5.0



(8) 児童に出した宿題(長期休業期間中の課題を除きます。)について、評価・指導を行い返却していますか。(小学校)

(8) 生徒に出した宿題(長期休業期間中の課題を除きます。)について、評価・指導を行い返却していますか。(中学校)

	小学校 全体	中学校 全体	中学校 国語	中学校 社会	中学校 数学	中学校 理科	中学校 英語
行っている	77.5	62.0	75.0	53.2	57.4	49.7	73.0
どちらかといえば行っている	19.5	31.0	23.5	37.6	33.3	37.0	24.5
どちらかといえば行っていない	2.2	6.0	1.0	9.2	7.4	11.0	2.0
行っていない	0.7	1.0	0.5	0.0	1.9	2.2	0.5

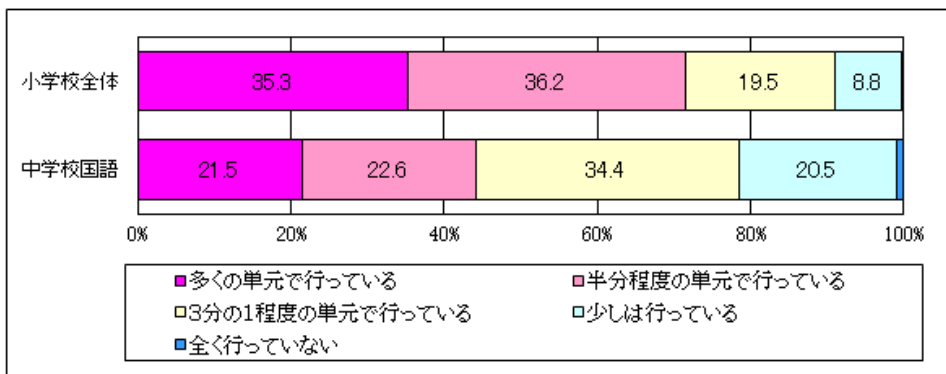


教科の特性に応じた指導法の工夫

(22) 国語で、目的に応じて、話したり聞いたりしたことを基に、自分の考えをもつ活動を取り入れた授業を行っていますか。(小学校)

(22) 国語で、目的や場面に応じて、話したり聞いたりしたことを基に、自分の考えをまとめる活動を取り入れた授業を行っていますか。(中学校)

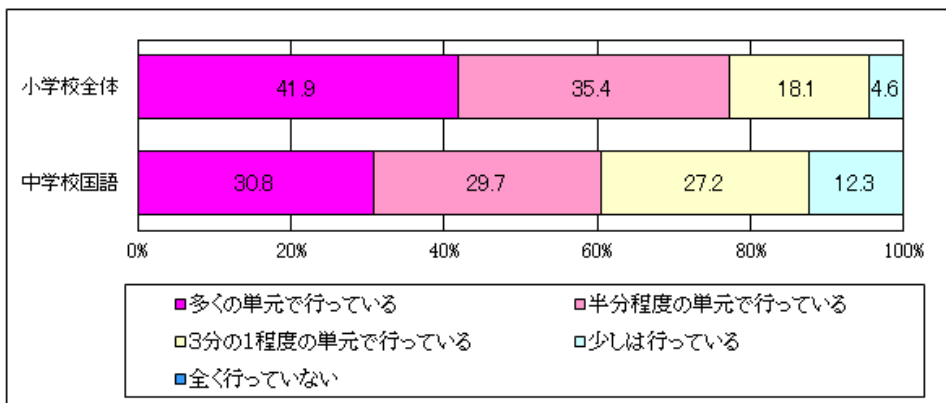
	小学校 全体	中学校 国語
多くの単元で行っている	35.3	21.5
半分程度の単元で行っている	36.2	22.6
3分の1程度の単元で行っている	19.5	34.4
少しは行っている	8.8	20.5
全く行っていない	0.2	1.0



(23) 国語で、目的に応じて、自分の考えを書いて表現する活動を取り入れた授業を行っていますか。(小学校)

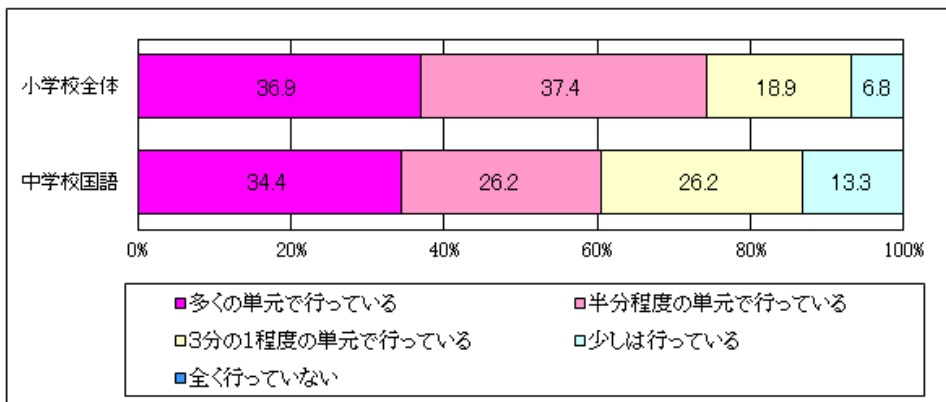
(23) 国語で、目的や意図に応じて、自分の思いや考えを書いて表現する活動を取り入れた授業を行っていますか。(中学校)

	小学校 全体	中学校 国語
多くの単元で行っている	41.9	30.8
半分程度の単元で行っている	35.4	29.7
3分の1程度の単元で行っている	18.1	27.2
少しは行っている	4.6	12.3
全く行っていない	0.0	0.0



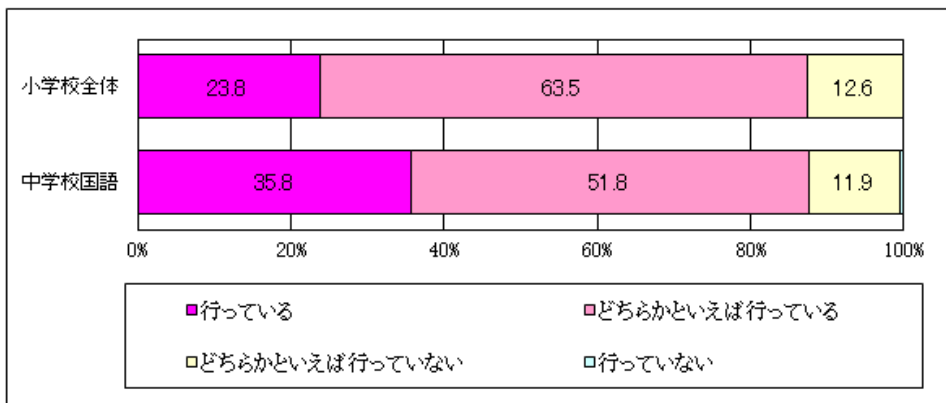
- (24) 国語で、目的に応じて、文章の内容や表現の仕方について読み、それについての自分の考えをもつ活動を取り入れた授業を行っていますか。(小学校)
- (24) 国語で、目的や意図に応じて、文章の内容や表現の仕方について読み、それについての自分の考えをもつ活動を取り入れた授業を行っていますか。(中学校)

	小学校 全体	中学校 国語
多くの単元で行っている	36.9	34.4
半分程度の単元で行っている	37.4	26.2
3分の1程度の単元で行っている	18.9	26.2
少しは行っている	6.8	13.3
全く行っていない	0.0	0.0



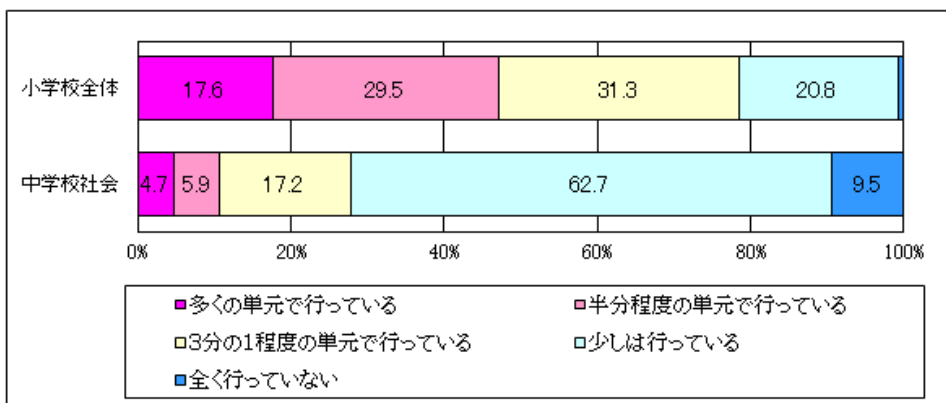
- (25) 国語で、言葉の特徴やきまり、文字など授業で学んだことを、日常生活に生かすことができるような指導を行っていますか。(小学校)
- (25) 国語で、言葉の特徴やきまり、漢字など授業で学んだことを、日常生活に生かすことができるような指導を行っていますか。(中学校)

	小学校 全体	中学校 国語
行っている	23.8	35.8
どちらかといえば行っている	63.5	51.8
どちらかといえば行っていない	12.6	11.9
行っていない	0.1	0.5



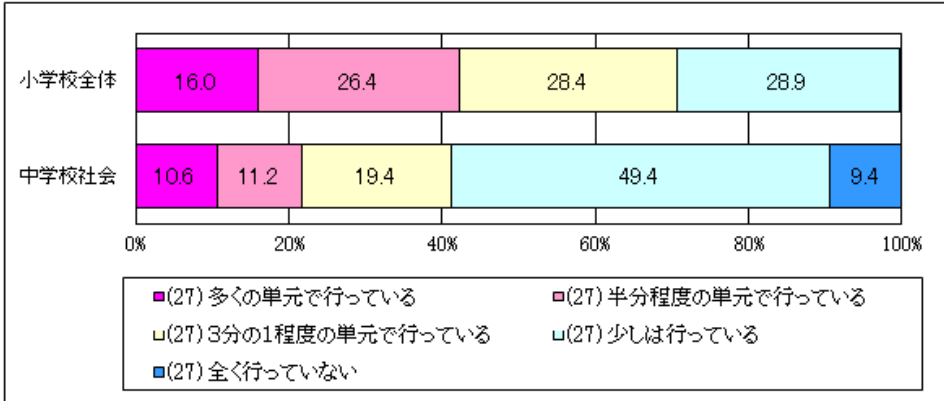
- (26) 社会で、児童が資料などから読み取ったことを基に、新聞のような形式でノートや応用紙にまとめる活動を取り入れた授業を行っていますか。(小学校)
- (26) 社会で、生徒が資料などから読み取ったことを基に、新聞やレポートのような形式でノートや応用紙にまとめる活動を取り入れた授業を行っていますか。(中学校)

	小学校 全体	中学校 社会
多くの単元で行っている	17.6	4.7
半分程度の単元で行っている	29.5	5.9
3分の1程度の単元で行っている	31.3	17.2
少しは行っている	20.8	62.7
全く行っていない	0.8	9.5



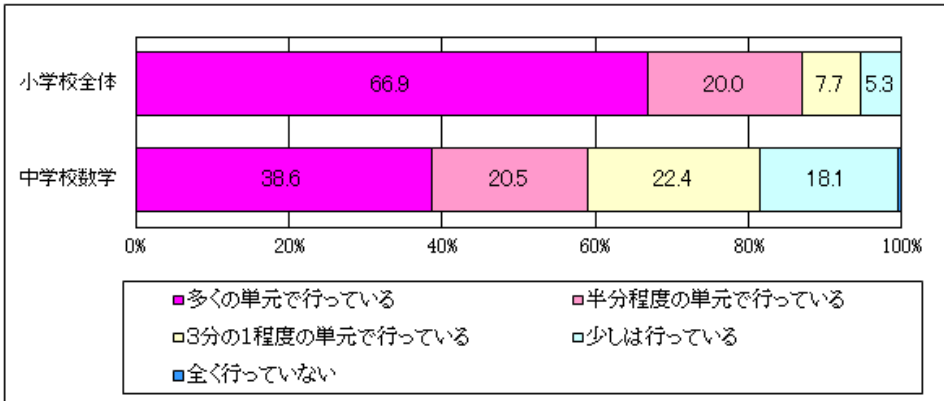
- (27) 社会で、児童が資料などから読み取ったことを基にして考えたことを、話し合う活動を取り入れた授業を行っていますか。(小学校)
- (27) 社会で、生徒が資料などから読み取ったことを基にして考えたことを、話し合う(討論)活動を取り入れた授業を行っていますか。(中学校)

	小学校 全体	中学校 社会
多くの単元で行っている	16.0	10.6
半分程度の単元で行っている	26.4	11.2
3分の1程度の単元で行っている	28.4	19.4
少しは行っている	28.9	49.4
全く行っていない	0.4	9.4



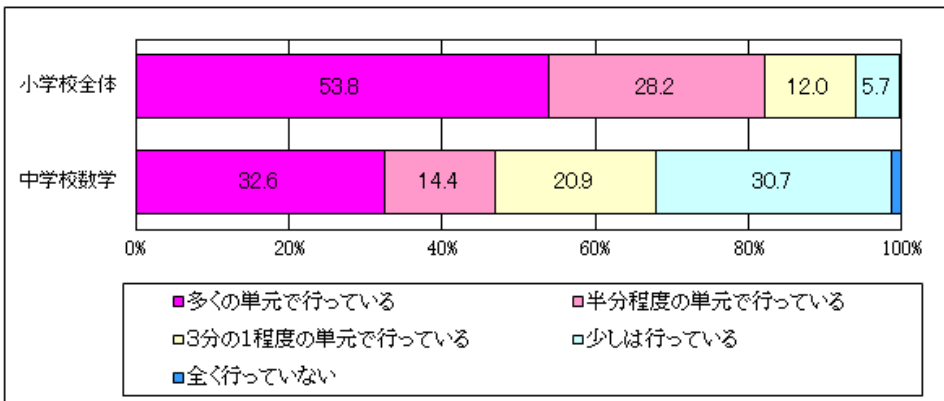
- (28) 算数で、児童が問題について、目的意識をもって、具体物や言葉、数、式、図、表、グラフなどを用いて考え、自分の考えをもつ活動を取り入れた授業を行っていますか。(小学校)
- (28) 数学で、生徒が問題について、目的意識をもって、具体物や言葉、数、式、図、表、グラフなどを用いて考え、自分の考えをもつ活動を取り入れた授業を行っていますか。(中学校)

	小学校 全体	中学校 数学
多くの単元で行っている	66.9	38.6
半分程度の単元で行っている	20.0	20.5
3分の1程度の単元で行っている	7.7	22.4
少しは行っている	5.3	18.1
全く行っていない	0.1	0.5



- (29) 算数で、児童が問題について、様々な考えを出し合い、話し合っていくような活動を取り入れた授業を行っていますか。(小学校)
- (29) 数学で、生徒が問題について、様々な考えを出し合い、話し合っていくような活動を取り入れた授業を行っていますか。(中学校)

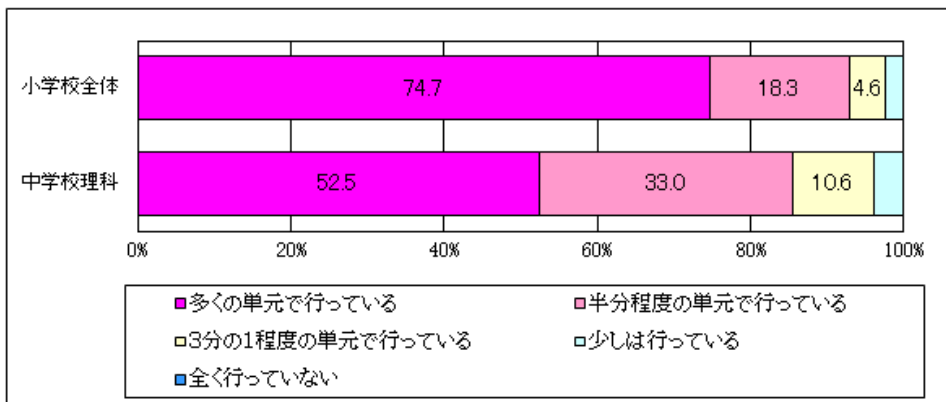
	小学校 全体	中学校 数学
多くの単元で行っている	53.8	32.6
半分程度の単元で行っている	28.2	14.4
3分の1程度の単元で行っている	12.0	20.9
少しは行っている	5.7	30.7
全く行っていない	0.3	1.4



(30) 理科で、児童がどのような結果が予想されるかの見通しをもち、観察や実験をするような授業を行っていますか。(小学校)

(30) 理科で、生徒がどのような結果が予想されるかの見通しをもち、観察や実験をするような授業を行っていますか。(中学校)

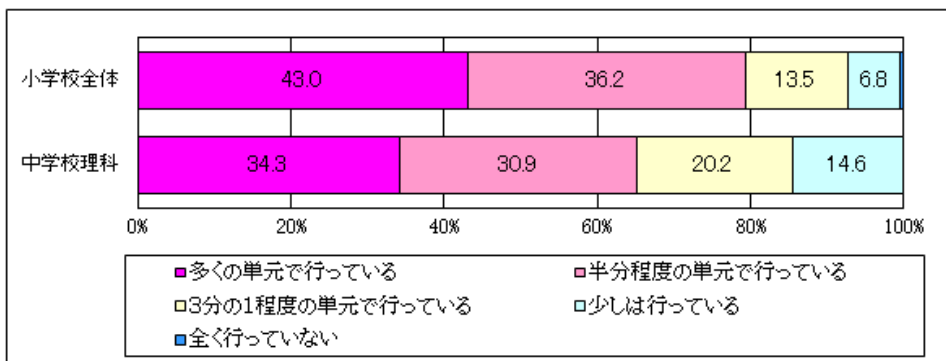
	小学校 全体	中学校 理科
多くの単元で行っている	74.7	52.5
半分程度の単元で行っている	18.3	33.0
3分の1程度の単元で行っている	4.6	10.6
少しは行っている	2.3	3.9
全く行っていない	0.2	0.0



(31) 理科で、実験結果やまとめの発表において、児童がお互いにいろいろな考えを出し合い、検討し合うような授業を行っていますか。(小学校)

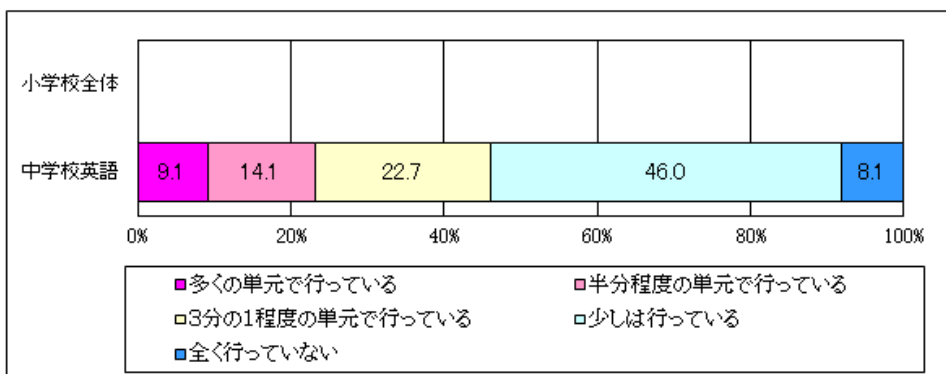
(31) 理科で、実験結果やまとめの発表において、生徒がお互いにいろいろな考えを出し合い、検討し合うような授業を行っていますか。(中学校)

	小学校 全体	中学校 理科
多くの単元で行っている	43.0	34.3
半分程度の単元で行っている	36.2	30.9
3分の1程度の単元で行っている	13.5	20.2
少しは行っている	6.8	14.6
全く行っていない	0.5	0.0



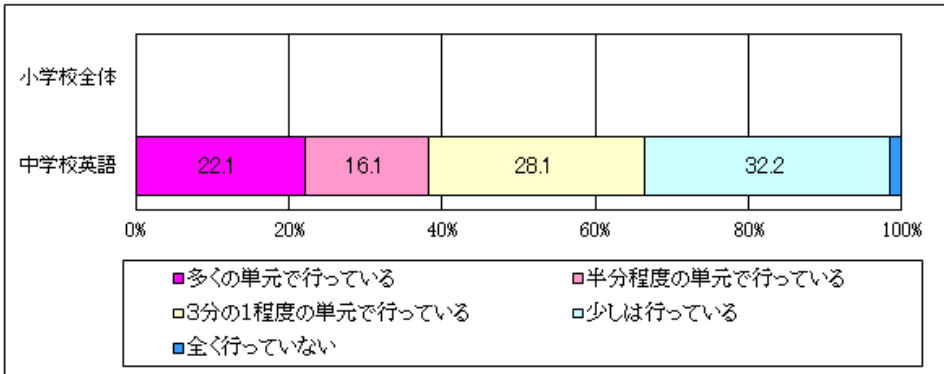
(32) 英語で、与えられたテーマについて、簡単なスピーチをする活動を取り入れた授業を行っていますか。(中学校)

	小学校 全体	中学校 英語
多くの単元で行っている		9.1
半分程度の単元で行っている		14.1
3分の1程度の単元で行っている		22.7
少しは行っている		46.0
全く行っていない		8.1



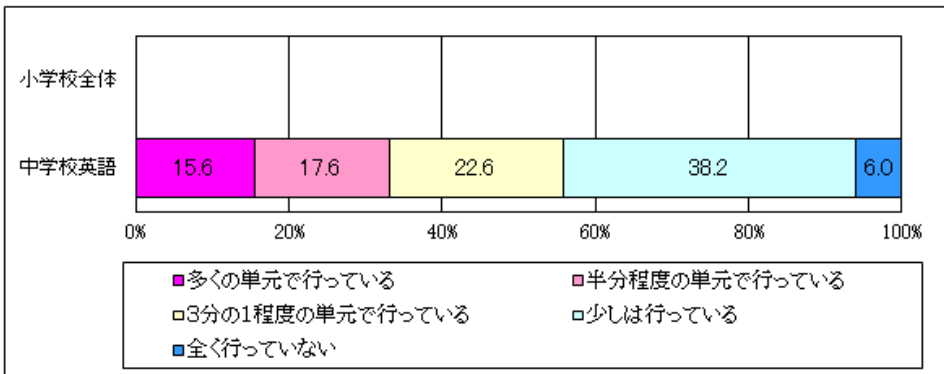
(33) 英語で、身近な話題について、自分の考えや気持ちなどを3～5文程度の英文で書く活動を取り入れた授業を行っていますか。(中学校)

	小学校 全体	中学校 英語
多くの単元で行っている		22.1
半分程度の単元で行っている		16.1
3分の1程度の単元で行っている		28.1
少しは行っている		32.2
全く行っていない		1.5



(34) 英語で、単に内容を理解するだけでなく、目的をもって読んだり、読んだ後に感想や質問などを出し合ったりする活動を取り入れた授業を行っていますか。(中学校)

	小学校 全体	中学校 英語
多くの単元で行っている		15.6
半分程度の単元で行っている		17.6
3分の1程度の単元で行っている		22.6
少しは行っている		38.2
全く行っていない		6.0

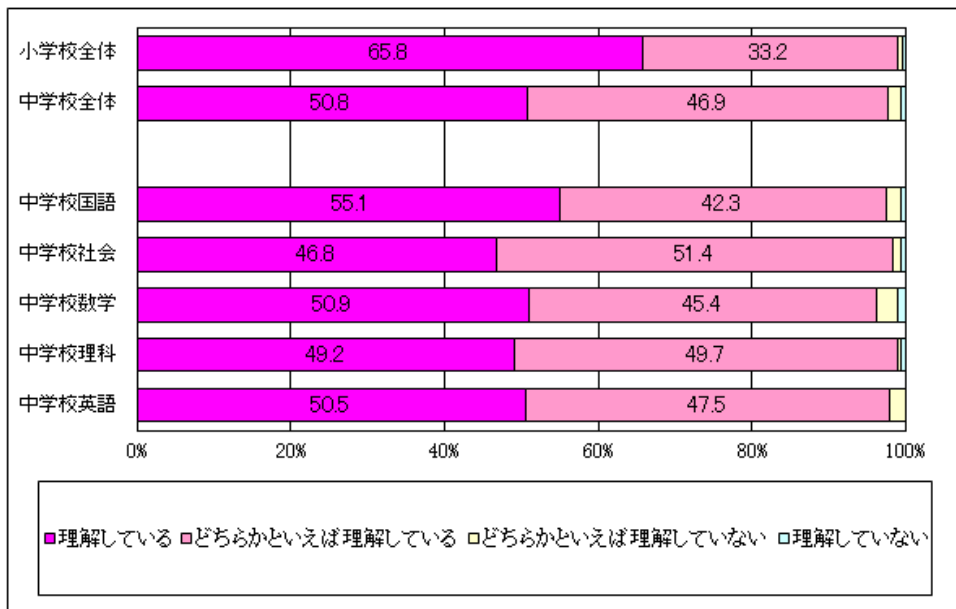


学校組織マネジメントに対する意識

(32) あなたは、学力向上や生徒指導など教育活動の具体的な内容についての学校の方針を理解していますか。(小学校)

(35) あなたは、学力向上や生徒指導など教育活動の具体的な内容についての学校の方針を理解していますか。(中学校)

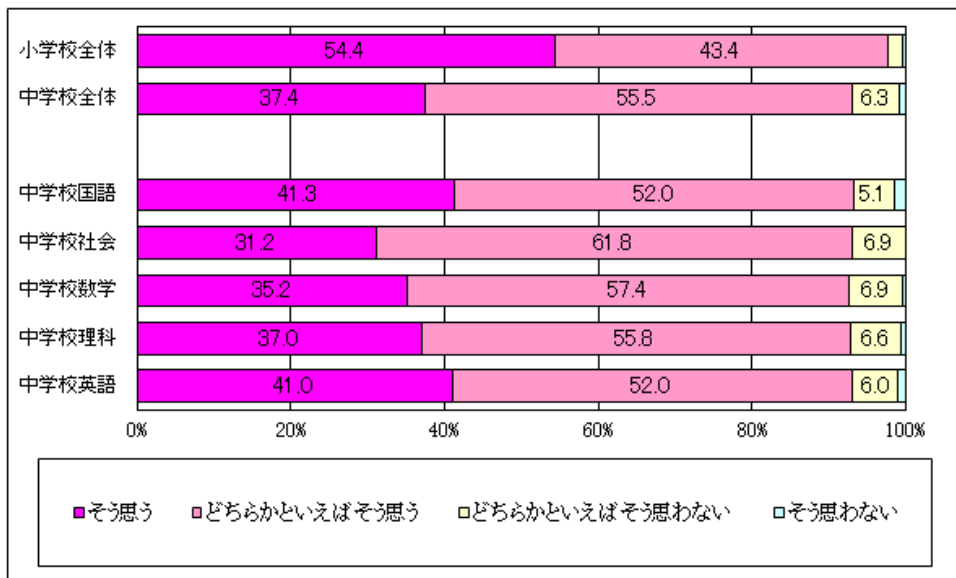
	小学校 全体	中学校 全体	中学校 国語	中学校 社会	中学校 数学	中学校 理科	中学校 英語
理解している	65.8	50.8	55.1	46.8	50.9	49.2	50.5
どちらかといえば理解している	33.2	46.9	42.3	51.4	45.4	49.7	47.5
どちらかといえば理解していない	0.7	1.8	2.0	1.2	2.8	0.6	2.0
理解していない	0.3	0.5	0.5	0.6	0.9	0.6	0.0



(33) あなたの学校では、教育活動の方針や具体的な内容について、学校全体で共通理解が図られていると思いますか。(小学校)

(36) あなたの学校では、教育活動の方針や具体的な内容について、学校全体で共通理解が図られていると思いますか。(中学校)

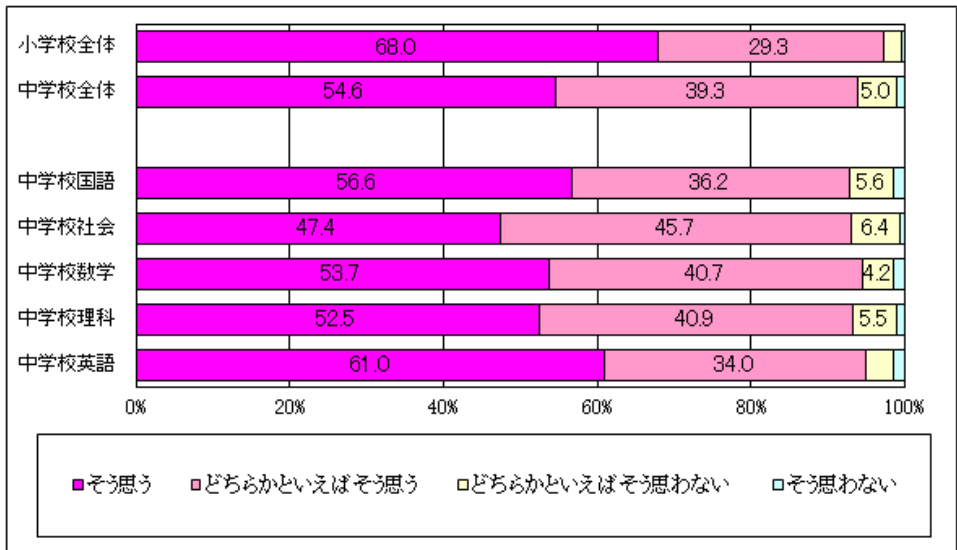
	小学校 全体	中学校 全体	中学校 国語	中学校 社会	中学校 数学	中学校 理科	中学校 英語
そう思う	54.4	37.4	41.3	31.2	35.2	37.0	41.0
どちらかといえばそう思う	43.4	55.5	52.0	61.8	57.4	55.8	52.0
どちらかといえばそう思わない	1.8	6.3	5.1	6.9	6.9	6.6	6.0
そう思わない	0.4	0.7	1.5	0.0	0.5	0.6	1.0



(34) あなたの学校では、指導の在り方や課題などについて、気軽に話し合える雰囲気がありますか。(小学校)

(37) あなたの学校では、指導の在り方や課題などについて、気軽に話し合える雰囲気がありますか。(中学校)

	小学校 全体	中学校 全体	中学校 国語	中学校 社会	中学校 数学	中学校 理科	中学校 英語
そう思う	68.0	54.6	56.6	47.4	53.7	52.5	61.0
どちらかといえばそう思う	29.3	39.3	36.2	45.7	40.7	40.9	34.0
どちらかといえばそう思わない	2.4	5.0	5.6	6.4	4.2	5.5	3.5
そう思わない	0.3	1.1	1.5	0.6	1.4	1.1	1.5



最終更新日:2013-10-21

平成25年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > Ⅲ 各教科の調査結果の分析 > 小学校国語

Ⅲ 各教科の調査結果の分析

※ 中学1年生の調査については、小学6年生の学習内容としているため、小学校の項で分析している。

小学校国語

文章の様式や条件に合わせて自分の考えを確かに表現できる学習活動の工夫

小学5年生では、「話す・聞く能力」「言語についての知識・理解・技能」の評価の観点で、「おおむね達成」の基準を上回った。小学6年生では、「言語についての知識・理解・技能」の評価の観点で、「おおむね達成」の基準を上回った。中学1年生では、全ての評価の観点で、「おおむね達成」の基準を上回った。しかし、小学5年生、小学6年生共に、「様式や条件に合わせて書くこと」「目的に応じて資料を読み、分かったことを的確に書くこと」「文章を読んで考えたことを様式に合わせてまとめること」に課題が見られた。また、「言語についての知識・理解・技能」においては、小学5年生では「ローマ字の書き」に、小学5年生、小学6年生、中学1年生共に「漢字の書き」に課題が見られた。今後は、「書くこと」「読むこと」において、文章の様式や条件に合わせて自分の考えを確かに表現できる学習活動の工夫を、「言語についての知識・理解・技能」においては、漢字やローマ字の定着を図る学習指導の工夫をする必要がある。

小学6年で実施した全国学力・学習状況調査を活用した調査については、以下のように記す。

- 主として「知識」に関する問題 → 「国語A」
- 主として「活用」に関する問題 → 「国語B」

国語科においては、評価の観点と内容・領域が重なるという教科の特質上、以下のように記す。

- 国語への関心・意欲・態度 → 「関心・意欲・態度」(小学6年生のみ設定)
- 話す・聞く能力 → 「話す・聞く」
- 書く能力 → 「書く」
- 読む能力 → 「読む」
- 言語についての知識・理解・技能 → 「知識・理解・技能」

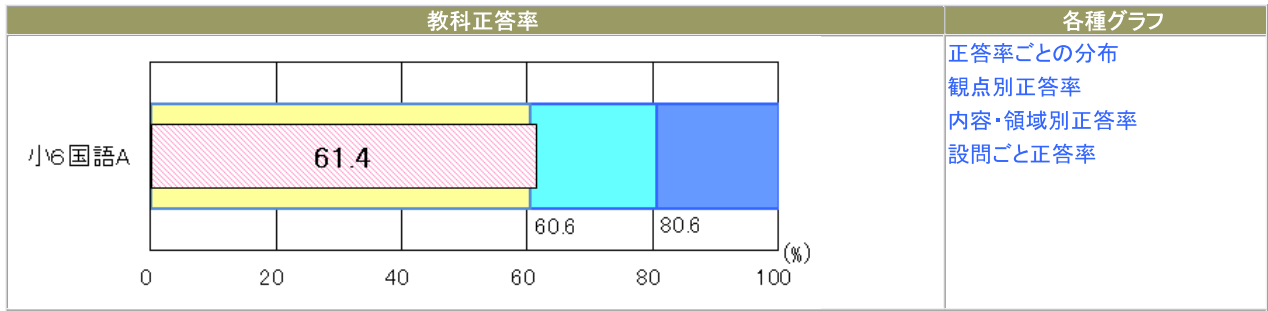
ア 結果の概要

各学年ごとに教科の正答率について到達基準との比較を示す。

(凡例) :要努力(おおむね達成の基準を下回る) :おおむね達成 :十分達成

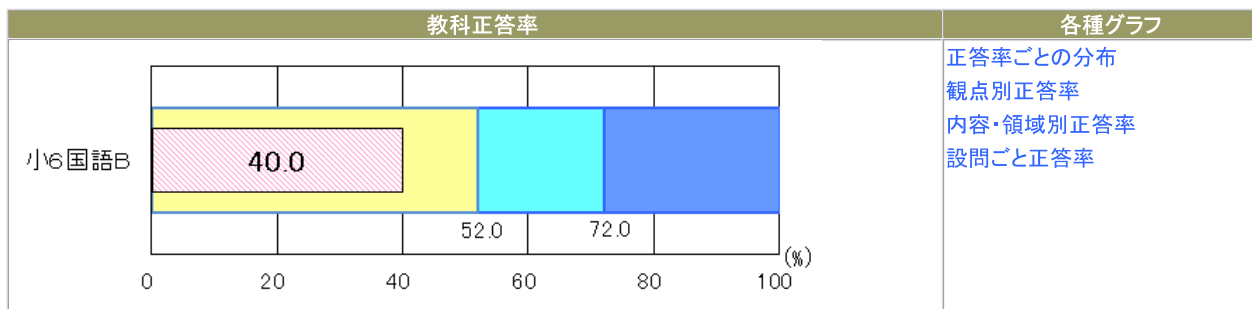
(ア) 教科及び設問ごと正答率





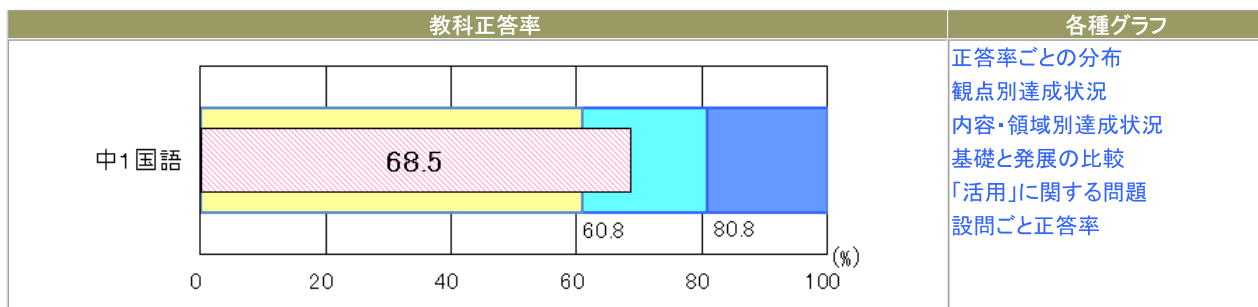
小6国語A 設問ごと正答率

大問	小問	出題のねらい	問題形式	正答率	無解答率	期待正答率 十分達成	期待正答率 おおむね達成
1	一(1)		短答	99.1	0.3	85	65
	一(2)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む	短答	78.6	1.4	80	60
	一(3)		短答	74.4	1.6	80	60
	二(1)		短答	74.9	3.5	85	65
	二(2)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く	短答	48.0	7.4	85	65
	二(3)		短答	55.4	18.1	80	60
2	一	ことわざの意味を理解する	選択	74.3	0.6	85	65
	二		選択	85.9	0.6	80	60
3	一	文の定義を理解する	短答	30.1	18.1	85	65
	二(1)	文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く	短答	17.8	9.3	80	60
	二(2)	接続語「だから」のもつ働きを理解する	選択	82.6	2.9	80	60
4	ア		短答	51.3	10.8	80	60
	イ	目的に応じて資料を読み、分かったことを的確に書く	短答	56.3	15.9	80	60
	ウ		記述	41.9	17.4	70	50
5	ア	広告を読み、編集の特徴を捉える	選択	62.1	6.2	80	60
	イ		選択	74.5	6.7	80	60
6	アイ	俳句の情景を捉える	選択	51.6	9.7	75	55
7		スピーチの表現を工夫する	選択	46.5	15.4	80	60



小6国語B 設問ごと正答率

大問	小問	出題のねらい	問題形式	正答率	無解答率	期待正答率 十分達成	期待正答率 おおむね達成
1	一	相手の立場や状況を感じ取って聞く	選択	77.0	0.6	75	55
	二	話し手の意図を捉えながら聞き、適切に助言をする	選択	44.0	0.7	75	55
	三	話し手の意図を捉えながら聞き、効果的に助言をする	記述	43.2	7.9	70	50
2	一	目的や意図に応じ、必要な内容を適切に書き加える	短答	51.3	3.6	75	55
	二	目的や意図に応じ、必要な内容を適切に引用して書く	短答	22.5	12.0	70	50
	三	目的や意図に応じ、複数の内容を関係付けながら自分の考えを具体的に書く	記述	15.3	17.5	65	45
3	一ア	2人の推薦文を比べて読み、推薦している対象や理由を捉える	短答	44.8	14.6	75	55
	一イ		短答	32.0	27.1	70	50
	一ウ		短答	21.3	28.9	70	50
	二	2人の推薦文を比べて読み、読み方の違いを捉える	選択	48.3	11.1	75	55



中1国語 設問ごと正答率							
大問	小問	出題のねらい	問題形式	正答率	無解答率	期待正答率 十分達成	期待正答率 おおむね達成
1	一	相手の話の目的や意図を考えて、自分の意見と比べながら聞く	選択	87.8	0.0	85	65
	二	事柄が明確に伝わるように工夫しながら、適切な言葉遣いで話す	選択	91.7	0.1	85	65
	三	話合いがまとまるように、参加者の発言を整理する	記述	49.4	4.2	75	55
	四	互いの立場や意図をはっきりさせて、話合いを計画に沿って進めていく	選択	40.6	0.4	80	60
	五	目的や意図に応じて、場に応じた適切な言葉遣いで話す	記述	55.9	2.9	65	45
2	一	意見文に説得力をもたせるために事例を挙げて書く	選択	84.5	0.3	85	65
	二	意見文の文章構成を考えて書く	選択	62.3	0.4	80	60
	三	強調する時に使う言葉を考えて書く	選択	91.8	0.3	85	65
	四	自分の考えが伝わるように資料を取り入れて書く	選択	85.0	1.0	85	65
	五	目的に応じて自分の考えを書く	記述	67.8	6.2	70	50
3	一	登場人物の相互関係や心情についての様子を捉える	選択	53.0	0.4	80	60
	二	登場人物の相互関係や場面についての描写を捉える	短答	24.9	6.3	75	55
	三	登場人物の内面にある深い心情を捉える	選択	71.2	0.7	80	60
4	一	文章に書かれている内容を的確に読み取る	記述	88.2	3.6	80	60
	二	文章に書かれている事実と意見を読み取る	選択	77.3	1.7	85	65
	三	文章を読んで考えたことを、様式に合わせてまとめる	記述	51.3	10.1	70	50
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読み)「敬(うやま)う」	短答	85.0	3.4	85	65
	一2	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読み)「誤(あやま)り」	短答	80.8	4.3	85	65
	一3	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読み)「審(ふる)う」	短答	83.5	3.6	85	65
	一4	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「風潮(ふうちょう)」	短答	71.3	7.5	80	60
	一5	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「安否(あんび)」	短答	68.1	5.6	80	60
	二1	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読み)「支(ささ)える」	短答	77.0	15.4	85	65
	二2	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの同訓異字)「延(の)ばす」	短答	57.2	11.9	85	65
	二3	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの同訓異字)「絶(た)つ」	短答	21.5	28.4	80	60
	二4	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「故障(こしょう)」	短答	57.9	13.6	80	60
	二5	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「姿勢(せいせい)」	短答	48.4	16.0	80	60
	三①	語句の構成に注意して正しい仮名遣いをする「じ」	選択	81.6	2.7	85	65
	三②	語句の構成に注意して正しい仮名遣いをする「づ」	選択	90.7	2.7	85	65
	四	和語・漢語・外来語の意味を理解し、区別する	選択	65.8	3.4	80	60
	五	漢字の由来について理解し、区別する	選択	66.6	3.7	80	60
	六	俳句の内容の大体を知る	選択	85.6	3.5	85	65

(イ) 評価の観点別正答率

①小学5年生

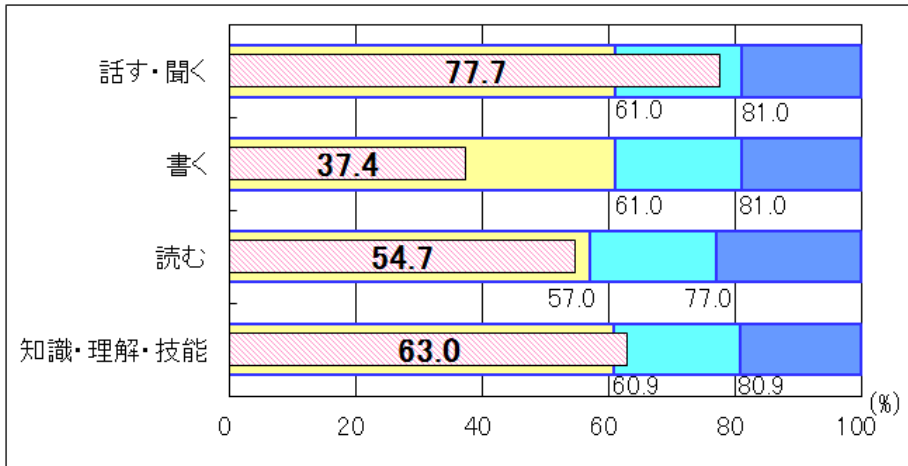


図1 H25年度(小学5年生国語)評価の観点別正答率

「話す・聞く」「知識・理解・技能」は、「おおむね達成」の基準を上回った。「書く」「読む」は、「おおむね達成」の基準を下回った。特に、「書く」は、「おおむね達成」の基準を23.6ポイント下回り、「手紙の構成を理解し、後付を書くこと」や「相手や目的に応じて、必要な事柄を調べること」「伝えたいことが明確に伝わるように様式に合わせて書くこと」に課題が見られた。

②小学6年生A

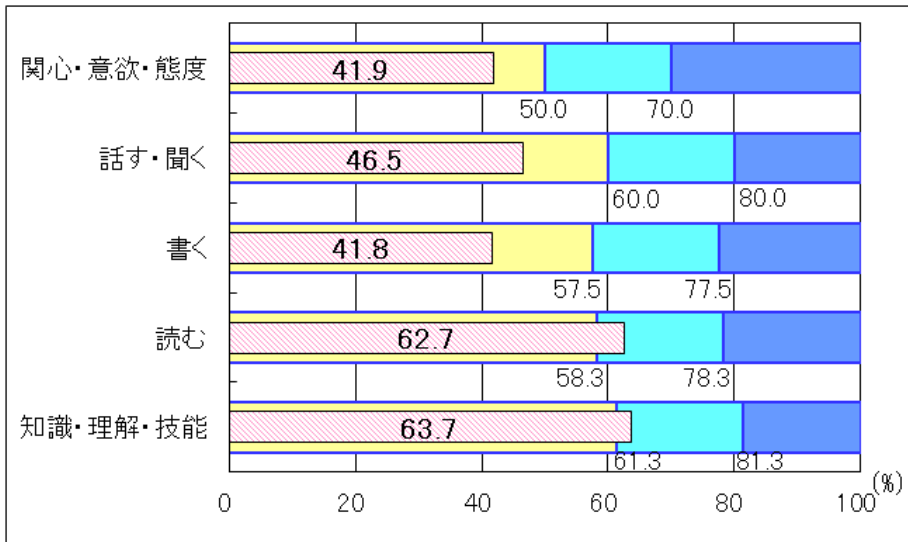


図2 H25年度(小学6年生国語A)評価の観点別正答率

「読む」「知識・理解・技能」は、「おおむね達成」の基準を上回った。「話す・聞く」は、「おおむね達成」の基準を13.5ポイント、「書く」は、「おおむね達成」の基準を15.7ポイント下回った。「書く」観点については、「文と文の意味のつながりを考えながら接続語を使って内容を分けて書くこと」や「目的に応じて資料を読み、分かったことを的確に書くこと」に課題が見られた。

③小学6年生国語B

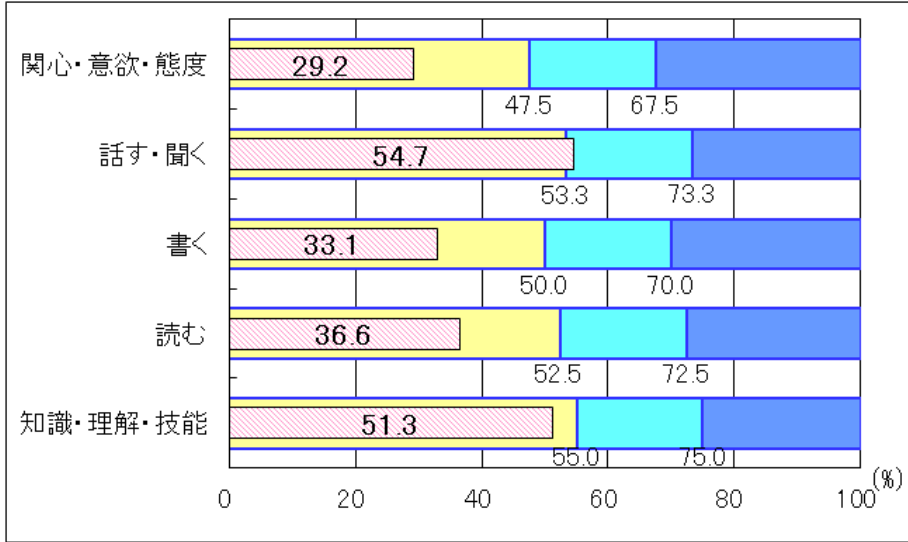


図3 H25年度(小学6年生国語B)評価の観点別正答率

「話す・聞く」は、「おおむね達成」の基準を上回った。「書く」は、「おおむね達成」の基準を16.9ポイント、「読む」は、「おおむね達成」の基準を15.9ポイント、「知識・理解・技能」は、「おおむね達成」の基準を3.7ポイント下回った。「書く」は、「目的や意図に応じ、複数の内容を関連付けながら自分の考えを書くこと」「目的や意図に応じ、必要な内容を適切に引用して書くこと」に、「読む」は、「推薦文を比べて読み、推薦している対象や理由を捉えること」に課題が見られた。

④中学1年生

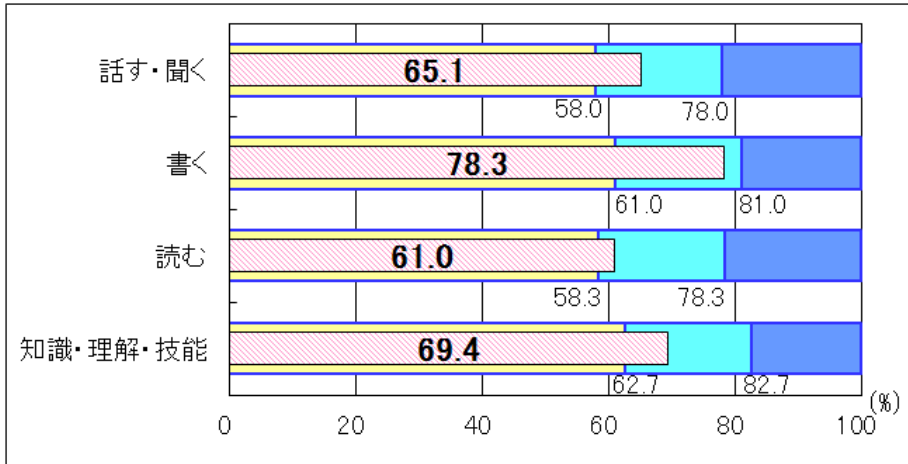


図4 H25年度(中学1年生国語)評価の観点別正答率

全ての観点において「おおむね達成」の基準を上回った。「話す・聞く」は7.1ポイント、「書く」は17.3ポイント、「読む」は2.7ポイント、「知識・理解・技能」は6.7ポイント、「おおむね達成」の基準をそれぞれ上回った。「読む」では、「登場人物の相互関係や場面についての描写を捉えること」や「文章読んで考えたことを様式に合わせてまとめること」や、「話す・聞く」の「互いの意見や意図をはっきりさせて、話合いを計画に沿って進めていくこと」に課題が見られた。

(ウ) 内容・領域別正答率

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」については、評価の観点と項目が同じであるため、本項目では「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の「漢字の読み」「漢字の書き」「語句に関する知識」について分析する。

①小学5年生

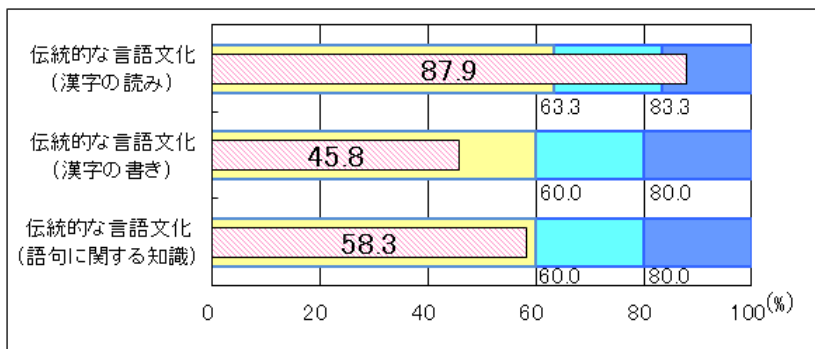


図5 H25年度(小学5年生国語)言語事項の内容・領域別の正答率

「漢字の読み」については、「十分達成」の基準を4.6ポイント上回った。「漢字の書き」では、「おおむね達成」の基準を14.2ポイント下回り、無解答率も高かった。「語句に関する知識」では、「おおむね達成」の基準を1.7ポイント下回った。「語句に関する知識」では、ローマ字を読んだり書いたりすることに課題が見られた。

②中学1年生

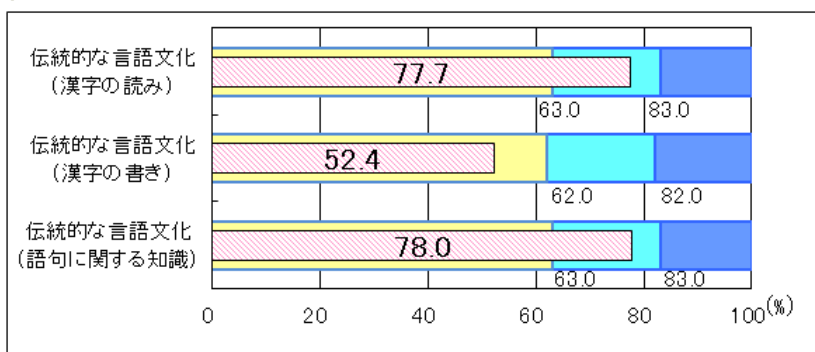


図6 H25年度(中学1年生国語)言語事項の内容・領域別の正答率

「漢字の読み」については、「おおむね達成」の基準を14.7ポイント、「語句に関する知識」では、「おおむね達成」の基準を15.0ポイント上回った。「漢字の書き」では、「おおむね達成」の基準を9.6ポイント下回り、無解答率も高かった。

イ 経年比較

(凡例) : 要努力(おおむね達成の基準を下回る) : おおむね達成 : 十分達成

「書くこと」「読むこと」について、平成24年度、平成25年度において小学5年生同一学年を取り上げ、分析を行う。中学1年生でも、「書くこと」「読むこと」について、平成24年度、平成25年度において中学1年生同一学年を取り上げ、分析を行う。さらに、同一児童生徒の変容を把握するために、平成23年度小学5年生と平成25年度中学1年生同一児童生徒を取り上げ、分析を行う。

(ア) 同一学年児童生徒の経年比較

①小学5年生の「書くこと」の経年比較

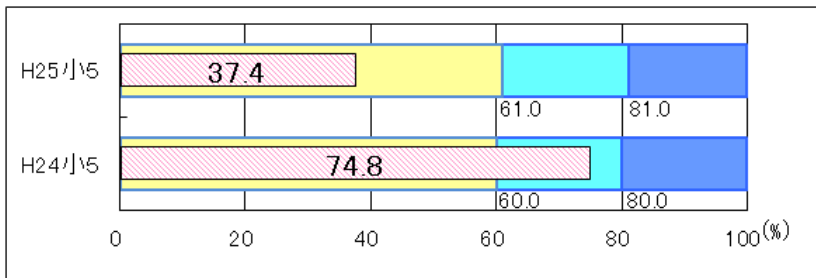


図7 H24・25年度(小学校5年生)「書くこと」の正答率の経年比較

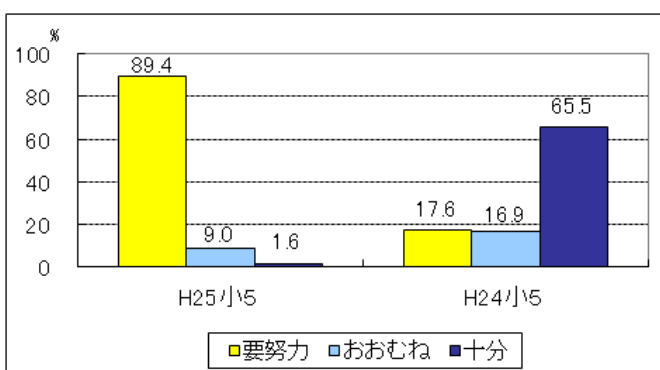


図8 H24・25年度(小学校5年生)「書くこと」の到達度分布の経年比較

正答率の経年変化を見ると、平成24年度の正答率は「おおむね達成」の基準を14.8ポイント上回ったが、平成25年度は、「おおむね達成」の基準を23.6ポイント下回った(図7)。到達度分布の経年変化を見ると、平成24年度に比べ、平成25年度は「十分達成」「おおむね達成」の割合が減り、「要努力」の割合が増えた(図8)。25年度は、平成24年度と同様、条件に合わせて書くことの課題と、加えて、文章の様式に合わせて書くことにも課題が見られた。

②小学5年生の「読むこと」の経年比較

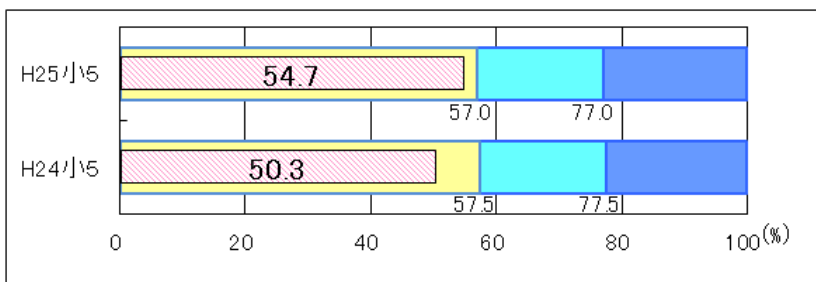


図9 H24・25年度(小学校5年生)「読むこと」の正答率の経年比較

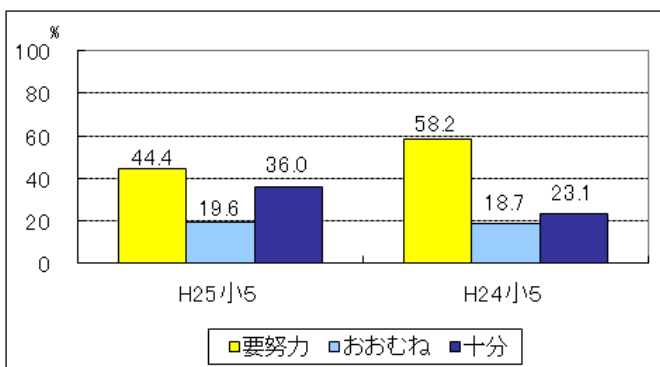


図10 H24・25年度(小学5年生)「読むこと」の到達度分布の経年比較

正答率の経年変化を見ると、平成24年度の正答率は「おおむね達成」の基準を7.2ポイント、平成25年度は2.3ポイント下回った(図9)。到達度分布の経年変化を見ると、平成24年度に比べて平成25年度は「要努力」の割合が減り、「十分達成」の割合が増えた(図10)。

(イ) ③中学1年生の「書くこと」の経年比較

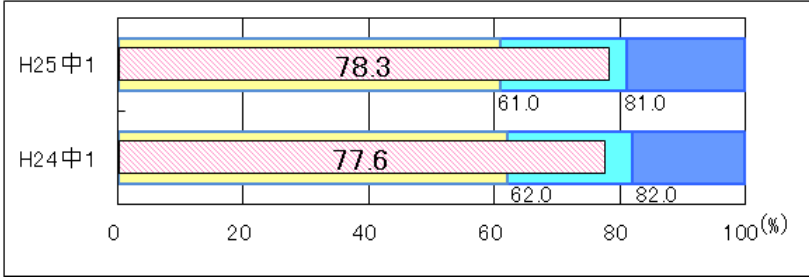


図11 H24・25年度(中学1年生)「書くこと」の正答率の経年比較

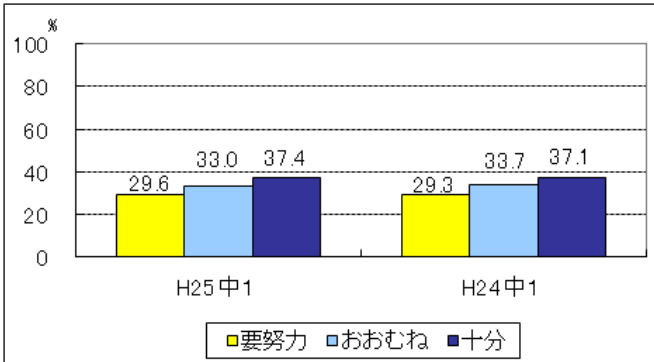


図12 H24・25年度(中学1年生)「書くこと」の到達度分布の経年比較

正答率の経年変化を見ると、平成24年度の正答率は「おおむね達成」の基準を15.6ポイント、平成25年度は17.3ポイント上回った(図11)。到達度分布の経年変化を見ると、平成24年度と平成25年度に大きな変化は見られなかった(図12)。

④中学1年生の「読むこと」の経年比較

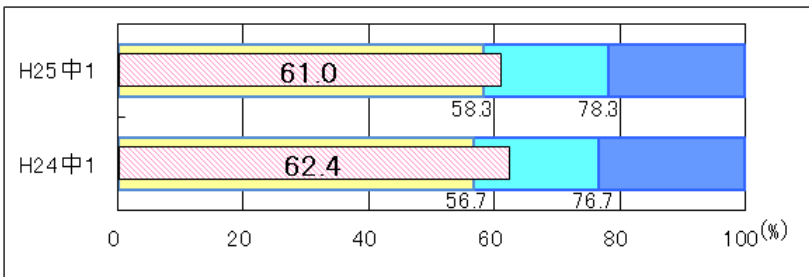


図13 H24・25年度(中学1年生)「読むこと」の正答率の経年比較

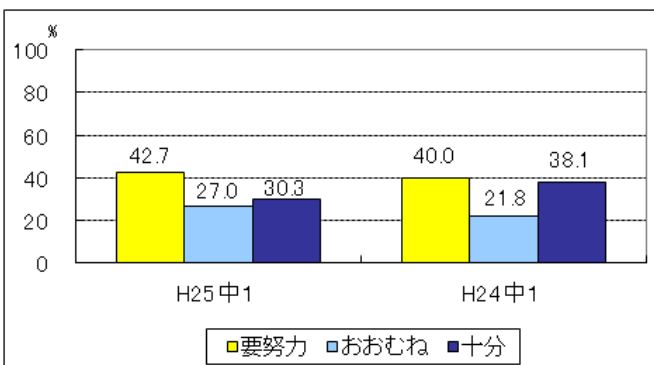


図14 H24・25年度(中学1年生)「読むこと」の到達度分布の経年比較

正答率の経年変化を見ると、平成24年度の正答率は「おおむね達成」の基準を5.7ポイント、平成25年度は2.7ポイント上回った(図13)。到達度分布の経年変化を見ると、平成24年度に比べ、平成25年度は、「十分達成」の割合が減り「要努力」の割合が増えた(図14)。平成24年と同様、読み取ったことを基に条件に合わせて書くことに課題が見られた。

H25中学1年生とH23小学5年生(同一児童生徒)の経年比較

①「書くこと」の経年比較

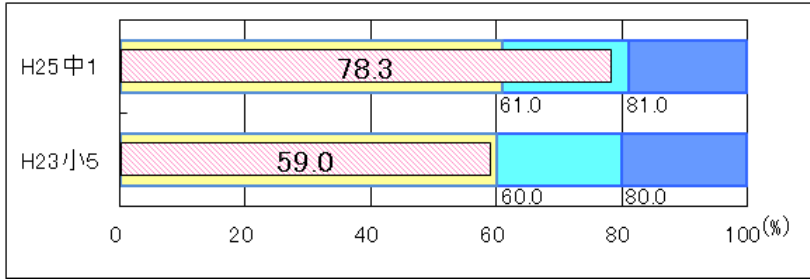


図15 H23年度(小学5年生)、H25年度(中学1年生)「書くこと」の正答率の経年比較

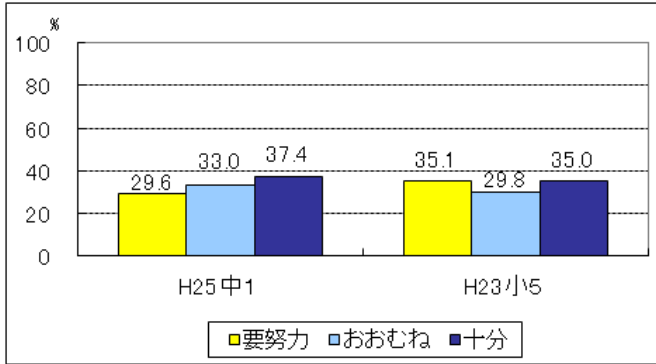


図16 H23年度(小学5年生)、H25年度(中学1年生)「書くこと」の到達度分布の経年比較

同一児童生徒の「書くこと」正答率の経年比較を見ると、平成23年度はおおむね達成を1.0ポイント下回っていたが、平成25年度は、おおむね達成を17.3ポイント上回った(図15)。到達度分布の経年比較を見ると、「十分達成」「おおむね達成」の割合が増え、「要努力」の割合が減った(図16)。平成23年度と同様に、条件に合わせて自分の考えを書くことに課題が見られた。

②「読むこと」の経年比較

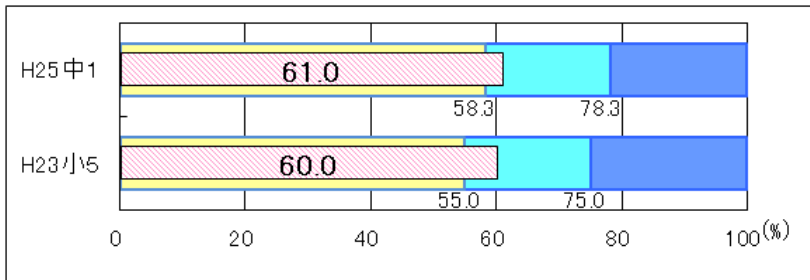


図17 H23年度(小学5年生)、H25年度(中学1年生)「読むこと」の正答率の経年比較

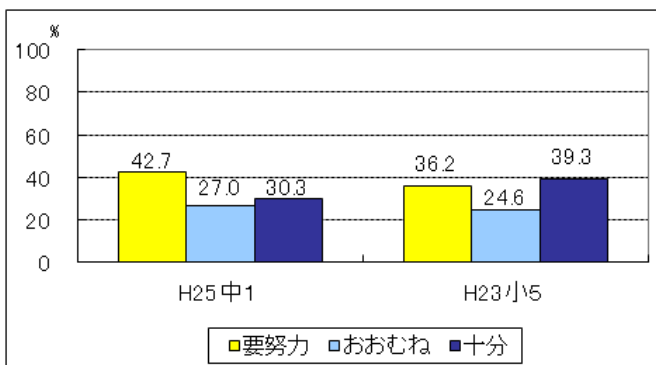


図18 H23年度(小学5年生)、H25年度(中学1年生)「読むこと」の到達度分布の経年比較

同一児童生徒の「読むこと」正答率の経年比較を見ると、平成23年度はおおむね達成を5.0ポイント上回っていたが、平成25年度は、おおむね達成を2.7ポイント上回った(図17)。到達度分布の経年比較を見ると、「要努力」「おおむね達成」の割合が増え、「十分達成」の割合が減った(図18)。

ウ 設問ごとに見た傾向と指導改善の手立て

平成25年度の調査結果を受け、「書くこと」「読むこと」の主に正答率が「おおむね達成」の期待正答率に対して低い問題、無解答率が高い問題について分析する。

傾向1 「書くこと」における様式の知識に課題がある

[小学5年生 大問2の一及び大問2の三]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問2一	封筒の宛て名や住所などを正しい位置に書く (選択式)	「宛先」「宛名」「差出人の住所」「差出人の名前」を書く位置を選択する。	46.9	1.1	85.0	65.0
問2三	手紙の構成を理解し、後付けを書く (選択式)	「日付」「宛名」「差出人の名前」を書く位置を選択する。	16.7	2.0	80.0	60.0

○ 解答状況

問2一の問題は、「おおむね達成」の期待正答率65.0に対し、正答率は46.9であり、18.1ポイント下回った。問2三の問題は、「おおむね達成」の期待正答率60.0に対し、正答率は16.7であり、43.3ポイント下回った。これらの設問は、封筒の表裏の住所と名前の書き方、手紙の後付の書き方を理解し、様式に合わせて、「宛先」「宛名」「差出人の名前」「日付」等の書く位置を選択するものであったが、様式の知識が十分身に付いていなかったと考えられる。

○ 指導改善の手立て

日常生活の中で、児童が手紙(年賀状・案内状・招待状・お礼の手紙など)を書く機会は多くない。よって、学んだ様式を活用する力を定着させるためには、様々な場面で、繰り返し活用させるようにすることが重要である。具体的には、次のような指導が効果的である。

- ①手紙の書き方を学習する際には、「宛名の書き方」「手紙の決まり」について特徴をまとめた手引きを作成し、児童が視覚的に理解しやすくいつでも活用できるようにする。
- ②手紙の目的(案内・お礼・お願い・質問)によって、伝えなければならない内容が異なることを理解させるために、単元と他教科・他領域等とを関連させ、様々な用途の手紙を書かせるようにする。
- ③単元を季節の行事などと関連付けることができるように、カリキュラムを工夫する。

傾向2 「書くこと」「読むこと」において、目的や条件に合わせて自分の考えをまとめる力に課題がある

[小学5年生 大問2の五]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問2五	伝えたいことが明確に 伝わるように様式に合 わせて書く (記述式)	手紙の書き方を参考に して、条件に合わせて 手紙を書く。	33.2	17.0	70.0	50.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率50.0に対し、正答率は33.2であり、16.8ポイント下回った。無解答率は17.0であった。【お願いの書き方】の内容を基に、手紙の中に正しい内容を書くものであった。書くときの条件は、①丁寧な言葉を用いて書くこと、②見学する日にちと人数を伝え、相手の都合を尋ねる文とすること、③20字以上40字以内で書くことの3点であるが、丁寧な言葉を使って相手の都合を尋ねる文に書き表すことが難しかったのではないかと推察される。

○ 指導改善の手立て

様々な条件に合わせて書く学習を積み重ねることで、書き慣れ、経験を生かしながら、書くことに前向きに取り組むことができるようになる。具体的には、次のような指導が考えられる。

- ①スキルタイムなどの活動として、相手や目的、様式や字数などの条件に合わせて書くという活動を、計画的に行う。
- ②書いたことが条件に合っているか、チェックできるようなチェックリストなどを作成し活用させる。
- ③書いたものを児童同士で交流し合わせ、互いの表現の参考になるようにする。

[小学5年生 大問4三]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問4三	文章の内容を踏まえ、 様式に合わせてまとめ る (記述式)	条件に合わせて、新聞 の中のクイズを書く。	38.1	17.4	70.0	50.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率50.0に対し、正答率は38.1であり、11.9ポイント下回った。無解答率は17.4であった。この設問は、【新聞】の中のクイズコーナーに、条件に合わせてクイズを書く問題である。書くときの条件は、①「マイマイカブリ」とクイズの対象の名前を入れて書くこと、②1文で書くこと、③1問目と同じ書き方で書くことの3点であるが、百科事典の資料の文章と、クイズの答えの文章を関係付けながら、どんなことを問うクイズにするかを判断しなければならない。複数の文章を関係付けて読み、問う内容を明らかにした上で、更に条件に合わせて書くことが難しかったのではないかと推察される。

○ 指導改善の手立て

複数の資料を関係付けて自分の考えを整理していく学習活動を行うことが大切である。具体的には、次のような指導が効果的である。

- ①複数の資料を比べて読み、情報を整理する学習活動を仕組む。
- ②モデルとなる表現を提示し、まねて書いたり、書き換えたりする学習を授業に取り入れる。
- ③書いたことが条件に合っているか、チェックできるようなチェックリストなどを作成し活用させる。

[中学1年生 大問4の三]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
H25 問4三	文章を読んで考えたことを、様式に合わせてまとめる (記述式)	筆者の意見を読み、自分の考えを条件に合わせて書く。	51.3	10.1	70.0	50.0
H24 問4三	書かれている意見について、自分の考えをまとめる (記述式)	二人の意見文を読み、自分の考えを条件に合わせて書く。	76.2	4.4	70.0	50.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率50.0に対し、正答率は51.3であり、1.3ポイント上回った。しかし、平成24年度の類似した設問と比較してみると、正答率は、24.9ポイント下がり、無解答率は5.7ポイント増えた。いずれも、文章を読んで自分の考えをまとめ、様式に合わせて書くものであるが、平成24年度は、賛成した理由を意見文の内容を基にして書くものであったのに対し、平成25年度は、文章に書かれていることを基にして具体的な解決策を書くものであった。書かれた内容と自分の生活を関係付けて考えをまとめることが難しかったのではないかと推察される。

○ 指導改善の手立て

文章に書かれていることと自分の生活を関連付け、自分の考えをまとめる学習指導を意図的に行うことが大切である。具体的には、次のような指導が効果的である。

- ①事実と意見を区別しながら読ませる。
- ②複数の文章を比べ、類似点や相違点を考えながら読ませる。
- ③自分の考えの根拠を明確にしながら、自分の考えを文章にまとめさせる。
- ④「字数」「キーワード」「内容」などの条件を踏まえて文章を書く活動を多く取り入れる。

傾向3 「漢字の書き」や「ローマ字の読み書き」に課題がある。

[小学5年生 大問5の二の3 及び 中学1年生 大問5の二の3]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
小5 問5二3	文脈に即して漢字を正しく 書く (短答式)	電子キキを買う。→機器	15.2	31.3	80.0	60.0
中1 問5二3	文脈に即して漢字を正しく 書く (短答式)	付き合いをたつ。→絶	21.5	28.4	80.0	60.0

○ 解答状況

小学5年生の間5二3は、「おおむね達成」の期待正答率60.0に対し、正答率は15.2であり、44.8ポイント下回った。また、無解答率は31.3であった。中学1年生の間5二3は、「おおむね達成」の期待正答率60.0に対し、正答率は21.5であり、38.5ポイント下回った。また、無解答率は28.4であった。いずれの学年とも、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の漢字に関しては、「漢字の読み」に比べて「漢字の書き」の正答率が低く、無解答率も高い傾向にあり、漢字を書く力に課題が見られた。

○ 指導改善の手立て

漢字の読みとともに、繰り返し練習したり、日常生活で積極的に使用することが大切である。具体的には、次のような指導が効果的である。

- ① 作文を書くときに、学習した漢字を使って書くことを奨励し、間違いやすい漢字や画数が多く覚えにくい漢字は、教室に掲示するなどして、目にする機会を多くする。
- ② 他教科等で出てきた漢字についても積極的に書かせるようにする。
- ③ 児童の生活の中であまり使用しない漢字などは、言葉の意味や使い方を関連付けるなどして書かせる。

[小学5年生 大問5の三①]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
小5 問5三①	ローマ字で書く (短答式)	うま→uma	43.9	18.5	80.0	60.0

○ 解説状況

「おおむね達成」の期待正答率60.0に対し、正答率は43.9であり、16.1ポイント下回った。無解答率は18.5であった。ローマ字の学習の定着が十分できていないと考えられる。

○ 指導改善の手立て

ローマ字は、道路や駅の案内板に書かれている地名、スポーツ選手のユニフォームに書かれている名前など、日常生活の中で目にする機会が多い。また、児童にとっては、授業でパソコンを使用することが増え、ローマ字でキーボード入力する機会も増えてきている。ところが、ローマ字の指導は、授業時数としては4、5時間程度となっており、読み書きの定着が難しい。そこで、授業の中では、ローマ字が使用されている場面(スポーツ選手のユニフォーム・道路や駅の案内板など)を想起し合いながらローマ字に対する興味付けをし、生活の中で進んで読もうとする態度を育てることが大切であろう。ローマ字の指導は3年生に位置付けられているが、小学4年生以上でも継続して指導し、定着を図りたい。具体的には、次のような指導が効果的である。

- ① 母音と子音のきまりを確かめ、身の回りのものの名前をローマ字で書く練習をさせる。
- ② 濁音、拗音、長音、促音、撥音の表記のきまりを確かめ、それらを含む身の回りのものの名前をローマ字で書く練習をさせる。
- ③ 児童にローマ字表を持たせ、必要に応じて確認したり練習したりできるようにする。
- ④ コンピュータを使用するとき、ローマ字入力で練習させる。
- ⑤ 駅の案内板やスポーツ選手のユニフォームをデザインさせるなど、楽しく生活につながるような学習を通してローマ字に親しませる。

エ これからの指導に向けて

今回の調査によって、次の3点に課題があることが分かった。1つ目は、「書くこと」において、文章の様式を理解すること、2つ目は、「書くこと」「読むこと」において、目的や条件に合わせて自分の考えをまとめること、3つ目は、「漢字の書き」や「ローマ字の読み書き」である。これらの課題を解決するためには、文章の様式や条件に合わせて自分の考えを確かに表現できるような学習活動を一層充実させることが大切である。特に、以下のことを意識して、これからの指導改善を図っていくことが重要であると考えられる。

(ア) 言語活動の特性を理解し、指導事項に最適な言語活動を吟味する

学習指導要領解説の国語編に、指導事項は例示されているような言語活動を通して指導するものとされ、それぞれの領域において、発達段階に応じた言語活動例が明記されている。これらの言語活動例を効果的に設定し指導していくことが大切である。そのためには、教師が、それぞれの言語活動の特性を理解しておくことが大切である。その上で、授業を計画する際に、指導事項と児童の実態、言語活動の特性の3つを照らし合わせ、指導事項を身に付けさせるのに適した言語活動であるかを吟味する必要がある。そして、教師自身が、授業の中で行う「お礼の手紙」や「リーフレット」、「本の帯」といった言語活動での具体例を示したり、「手引き書」等を用いて活動の手順を示したりしていくことで、学習への見通しをもたせ、必要な知識や技能を身に付けさせながら授業を進めていくことが望ましい。具体的な授業プラン等については、佐賀県教育センターホームページを参考にしてほしい。

「使える！分かる！力が付く！小学校国語科学習指導の提案」URL

http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h24/01%20sho_kokugo/index.html

(イ) 単元を貫く言語活動の中で、条件に合わせて考えをまとめさせる活動を工夫し、確かに表現する力の向上をねらう

学習課題を決定する際には、児童が具体的なゴールをイメージし主体的に学習できる課題を設定する。目的意識・相手意識をもたせ、一定の条件の中で、考えを表現させるような状況を作ることが重要である。例えば、『『平和』についての意見文を書こう』という単元を設定したとする。「事実と意見を区別して書く」能力を身に付けさせることがねらいであれば、条件として①意見の根拠となる事実を入れること②原稿用紙2枚半以上3枚以内で書くこと③意見を強調する表現を使って書くことなどを提示して書かせる。また、「本の紹介ポスターを書こう」という単元を設定したとする。「自分の感想を伝えるための引用や要約をする」能力を身に付けさせることがねらいであれば、条件として①20字以上30字以内にまとめること②自分の感想のもとになるキーワードを書くことなどを提示して書かせる。このように、目的に応じて必然的な条件に合わせて表現する活動を工夫することが大切である。

(ウ) 他領域・他教科の中で、国語で学んだ知識・技能を活用させる場をつくる

国語の授業で学習したことが、日常生活で役に立つことを児童に実感させるために、他教科・他領域と関連付けて指導することが望ましい。それぞれのカリキュラムを見直し、工夫して位置付けることが必要になってくる場合も考えられる。教師自身が、次のようなことを理解しておく必要がある。

- ①身に付けた力が他の単元のどこにつながっていくのか、次学年のどの学習に役立つのか
- ②他領域・他教科でどう生きてくるのか
- ③日常生活のどのような場面で必要となるのか

また、上記のことを意識して関連付けた指導をすることが大切である。例えば、次のようなことが考えられる。

・「読むこと」「書くこと」や「読むこと」「話すこと・聞くこと」の複合単元を仕組む。

(例)「読んで考えたことを意見文に書く」「読んだ感想をブックトークで伝える」

・国語の単元と学校行事を関連させる。

(例)「平和のとりにてを築く」を読み、平和について考えたことを平和集会で発表する。

・国語と他教科を関連させる。

(例)新聞の書き方を学び、社会で調べたことを新聞に書く。

・国語と他領域を関連させる。

(例)お願いの手紙の書き方を学び、総合的な学習の時間にお世話になる人へお願いの手紙を書く。

(エ) 朝の時間や家庭学習の中で、反復的な学習をさせる

基礎的・基本的な知識・技能は、繰り返し使うことで定着していくものが多い。漢字やローマ字の習得についても、様々な場面で繰り返し使うことを意識して、意図的に学習に取り入れていくことが望ましい。例えば、朝の時間に「漢字やローマ字の書き取りタイム」を設けたり、家庭学習のメニューに「漢字を使った短文作り」「熟語集め」「身の回りのローマ字探し」などを出したりする。漢字やローマ字の読み書きの力を定着することができるアイデアを職員間で共有し、学校全体で取り組むことがより効果的であると考えられる。

(オ) 教師の意識調査から

「教科の特性に応じた指導法の工夫」に関する教師の意識調査の結果を見ると、授業改善を行っている学校が多くあることが分かる。

(22)「国語で、目的に応じて、話したり聞いたりしたことを基に、自分の考えをまとめる活動を取り入れた授業を行っていますか。」という問いでは、「多くの単元で行っている」「半分程度行っている」と答えた教師が71.5%、(23)「国語で、目的に応じて、自分の思いや考えを書いて表現する活動を取り入れた授業を行っていますか。」という問いでは、「多くの単元で行っている」「半分程度行っている」と答えた教師が77.3%、さらに、(24)「国語で、目的に応じて、文章の内容や表現の仕方に注意して読み、それについての自分の考えをもつ活動を取り入れた授業を行っていますか。」という問いでは、「多くの単元で行っている」「半分程度行っている」と答えた教師が74.3%あり、このことから、それぞれの領域で、自分の考えをもつ力を身に付けさせる学習指導が積極的に行われていることが伺える。しかし、結果としては、全ての学年で「自分の考えを書く」設問について「おおむね達成」を下回り、課題が見られた。よって、今後も指導を継続していくことが必要であると考えられる。

このような授業の工夫改善を行うことが、児童の課題解決につながっていくものと考えられる。

オ 授業実践に参考となるリンク



授業に役立つ実践研究



授業・自己研修・校内研修のための資料集

最終更新日:2013-10-21

平成25年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > Ⅲ 各教科の調査結果の分析 > 小学校社会

Ⅲ 各教科の調査結果の分析

※中学1年生の調査については、小学6年生の学習内容としているため、小学校の項で分析している。

小学校社会

知識の確実な定着と社会的な思考・判断・表現を育成する授業づくり

小学5年生では全ての評価の観点で「おおむね達成」の基準を上回った。しかし、小学6年生、中学1年生の「社会的事象についての知識・理解」「社会的な思考・判断・表現」は「おおむね達成」の基準を下回った。設問ごとに見ると、全ての学年で「社会的な思考・判断・表現」の「社会的な問題について考えたり、解決策を論述したりすること」、「社会的事象の特色や関連、意味・意義について解釈したり説明したりすること」について課題が見られた。今後の指導に当たっては、基礎的・基本的な知識を確実に身に付けさせ、それらを活用して課題を解決する思考力・判断力・表現力を育成するための指導の工夫が必要である。

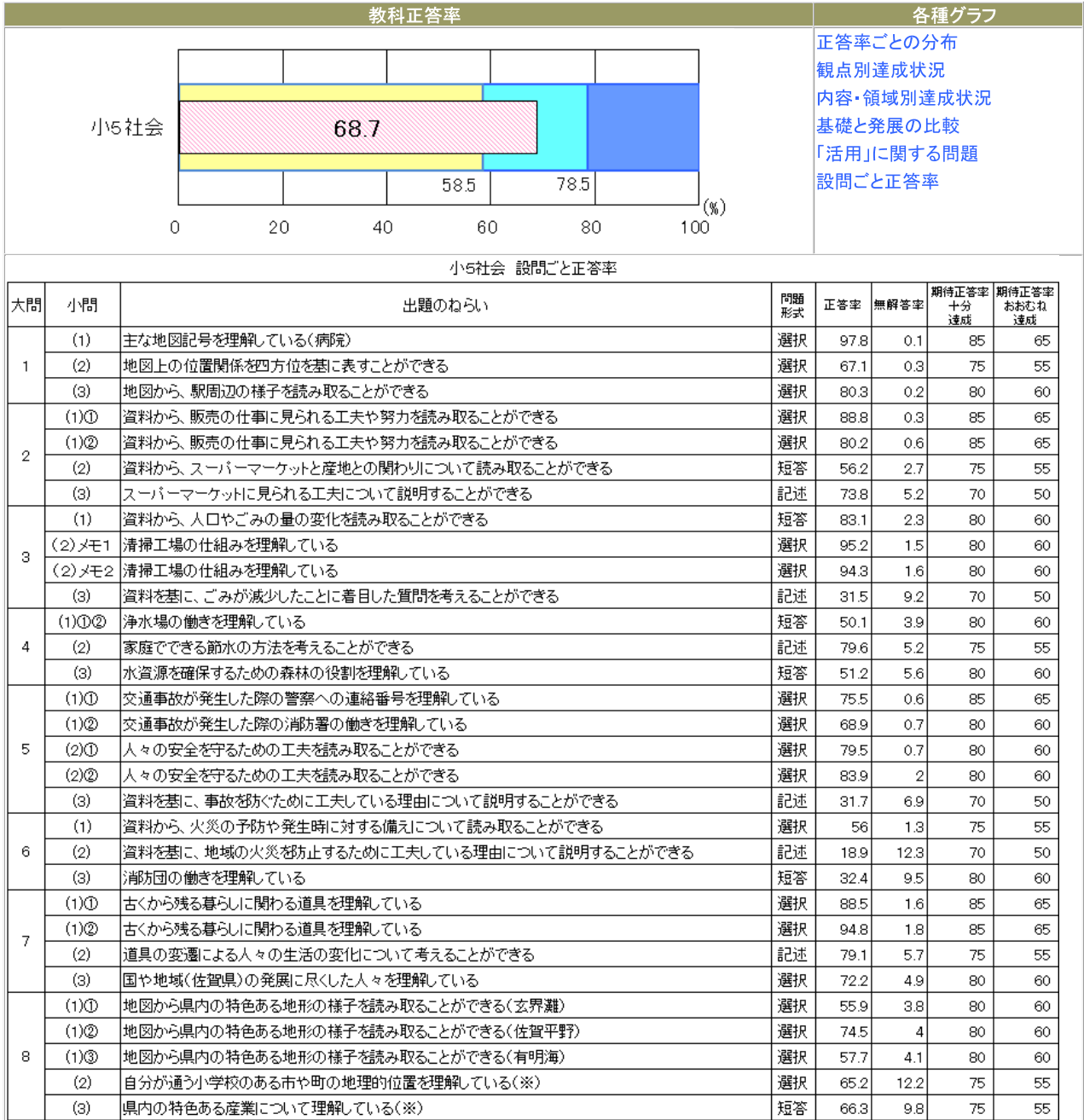
この後、評価の観点については、以下のように記す。

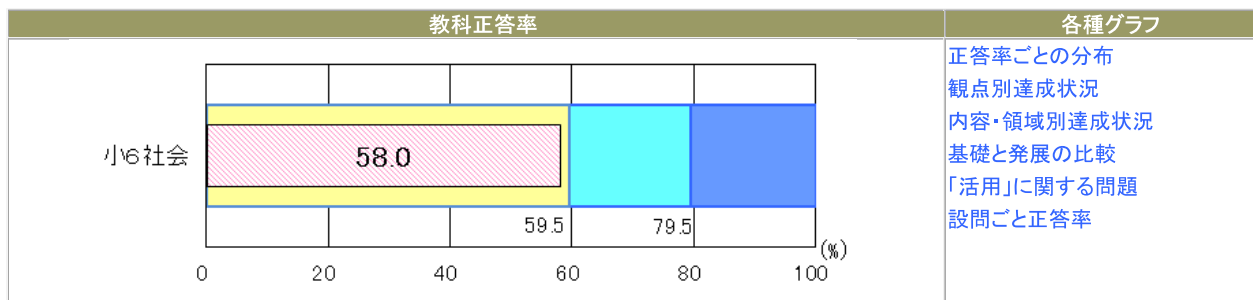
- | | | |
|-------------------|---|------------|
| ○社会的な事象への関心・意欲・態度 | → | 本調査では設定なし |
| ○社会的な思考・判断・表現 | → | 「思考・判断・表現」 |
| ○観察・資料活用の技能 | → | 「技能」 |
| ○社会的事象についての知識・理解 | → | 「知識・理解」 |

ア 結果の概要

(凡例) :要努力(おおむね達成の基準を下回る) :おおむね達成 :十分達成

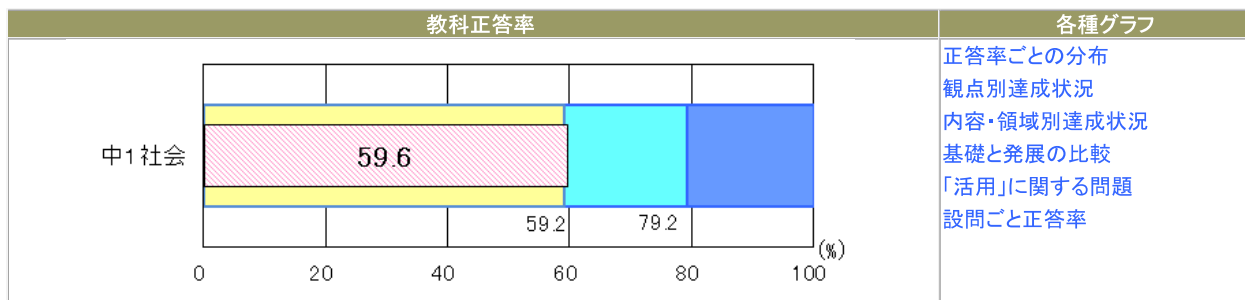
(ア) 教科及び設問ごと正答率





小6社会 設問ごと正答率

大問	小問	出題のねらい	問題形式	正答率	無解答率	期待正答率 十分達成	期待正答率 おおむね達成
1	(1)	米づくりの盛んな都道府県を資料から読み取ることができる	選択	79.6	0.1	85	65
	(2)	米づくりの作業について理解している	選択	84.7	0.0	85	65
	(3)	資料を基に、米づくりの作業時間に着目した質問を考えることができる	記述	49.9	8.6	75	55
2	(1)①	水産資源保護のための200海里水域を理解している	短答	60.9	8.9	80	60
	(1)②	グラフから、日本の遠洋漁業の生産量やその変化を読み取ることができる	短答	63.2	5.1	80	60
	(2)	資料を基に、養殖業が増えている理由を説明することができる	記述	24.1	11.7	70	50
3	(1)	自給率が最も低い食料を読み取ることができる	短答	94.0	0.9	85	65
	(2)	資料を基に、日本の食料が輸入に依存していることの問題点について説明することができる	記述	33.7	5.0	70	50
4	(1)	工業地帯の位置と名称を理解している	選択	53.5	0.6	80	60
	(2)①	工業地域が海沿いに広がっている理由を理解している	短答	62.5	5.0	80	60
	(2)②	工業生産が盛んな地域が太平洋ベルト地帯であることを理解している	短答	35.7	11.2	80	60
	(3)	資料から、大工場と中小工場の特色を読み取ることができる	短答	27.4	5.4	75	55
5	(1)①	自動車の生産工程について理解している	選択	73.3	0.4	85	65
	(1)②	自動車の生産工程について理解している	選択	82.4	0.4	80	60
	(2)	自動車の関連工場について理解している	短答	33.4	8.5	80	60
	(3)①	資料から、自動車産業に従事している人々の工夫を読み取ることができる	選択	95.9	0.8	85	65
	(3)②	資料から、自動車産業に従事している人々の工夫を読み取ることができる	選択	94.9	0.7	85	65
	(4)	資料を基に、輸送方法と輸送費の関係について説明することができる	記述	28.4	5.5	70	50
6	(1)①②③	メディアの特色について理解している	選択	93.4	0.7	85	65
	(2)	新聞をつくる際の工夫を理解している	短答	46.6	5.0	80	60
7	(1)	日本の位置を理解している	選択	56.2	1.1	85	65
	(2)	資料から、日本の国土の範囲を読み取ることができる	短答	47.4	8.0	80	60
	(3)	北方領土について理解している	短答	18.9	14.9	85	65
	(4)	資料を基に、暖かい地方と寒い地方の暮らしの工夫の共通点について説明することができる	記述	51.0	11.8	70	50
8	(1)	水俣病が発生した場所を理解している	選択	47.1	2.7	80	60
	(2)	資料から、公害の苦情件数の変化について読み取ることができる	選択	52.9	2.5	75	55
9	(1)	資料から、日本の林業の問題点を読み取ることができる	記述	62.8	10.7	75	55
	(2)	世界遺産である白神山地について理解している	選択	70.1	3.2	80	60



中1社会 設問ごと正答率

大問	小問	出題のねらい	問題形式	正答率	無解答率	期待正答率 十分達成	期待正答率 おおむね達成
1	(1)	農耕が始まったころの農具について理解している	選択	88.1	0.1	85	65
	(2)	渡来人が日本にもち込んだ知識や技術を理解している	選択	51.9	0.2	80	60
	(3)	農耕が始まったことによる人々の生活の変化を理解している	記述	81.9	2.3	80	60
2	(1)	東大寺の大仏づくりに協力した行基を理解している	短答	44.2	11.4	80	60
	(2)	資料を基に、日本と大陸が交流していたことを考えることができる	記述	14.6	21.7	70	50
3	(1)①②	御恩と奉公の関係について理解している	短答	45.5	13.5	80	60
	(2)	元寇のときの執権が北条時宗であることを理解している	選択	67.4	1.1	80	60
	(3)	畳や障子、ふすまが使われている作りが書院造であることを理解している	短答	47.8	14.4	80	60
4	(1)	織田信長について理解している	短答	91.8	1.9	85	65
	(2)	資料から、検地の様子について読み取ることができる	選択	91.9	0.4	80	60
	(3)	資料から、江戸幕府が開かれた場所について読み取ることができる	選択	70.0	0.6	85	65
	(4)	資料を基に、江戸幕府が参勤交代を制度化した理由を説明することができる	記述	35.7	24.8	65	45
5	(1)	蘭学を盛んにした杉田玄白を理解している	短答	77.2	10.4	80	60
	(2)	資料から、解体新書に関係がある内容を読み取ることができる	選択	96.0	0.5	85	65
	(3)	本居宣長が完成させた国学を理解している	選択	78.2	0.7	80	60
6	(1)	明治政府が行った徴兵令について理解している	短答	20.7	36.6	80	60
	(2)	資料を基に、地租改正に対する農民の不満の理由を説明することができる	記述	28.3	17.3	70	50
7	(1)	不平等条約の内容について理解している	記述	27.7	25.1	80	60
	(2)	大日本帝国憲法の制定に重要な役割を果たした伊藤博文を理解している	短答	35.9	26.5	80	60
	(3)	国際社会で活躍した日本人について理解している	選択	68.1	1.0	80	60
8	(1)	資料から、満州の場所を読み取ることができる	選択	39.7	1.3	80	60
	(2)	資料を基に、戦時中に疎開が行われた理由について説明することができる	記述	45.7	9.1	75	55
9	(1)	資料から、公共施設の計画から建設までの過程を読み取ることができる	選択	61.5	1.1	80	60
	(2)	立法、行政、司法の働きを理解している	選択	44.6	1.2	80	60
	(3)	様々な人々のことを考慮した公民館づくりのアイデアについて考えることができる	記述	69.2	5.3	70	50
10	(1)	資料から、平和主義について読み取ることができる	選択	92.5	0.9	85	65
	(2)	資料から、国民の権利について読み取ることができる	選択	84.7	0.9	80	60
11	(1)①②	資料から、日本と中国の結び付きについて読み取ることができる	選択	73.4	1.4	80	60
	(2)①②	資料から、日本と貿易の面で関係が深い国を読み取ることができる	選択	67.8	1.7	75	55
12	(1)	国際連合憲章について理解している	選択	92.0	1.4	85	65
	(2)	青年海外協力隊について理解している	短答	14.5	23.4	80	60

(イ) 評価の観点別正答率

①小学5年生

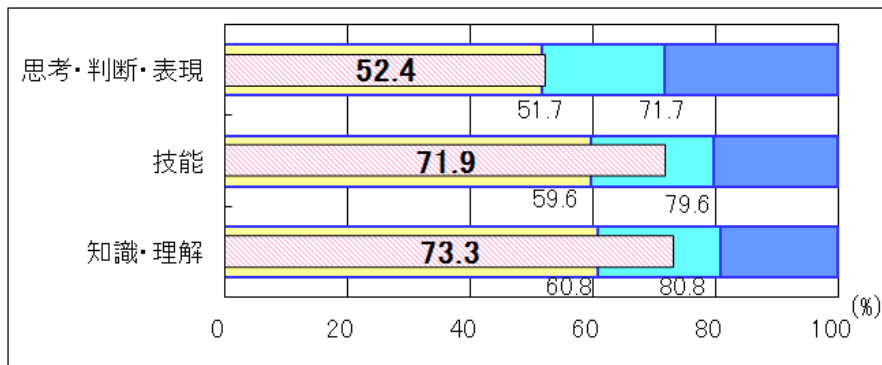


図1 H25年度(小学5年生社会)評価の観点別正答率

全ての観点において「おおむね達成」の基準を上回った。「知識・理解」は「おおむね達成」の基準を12.5ポイントが上回ったが、「国や地域の発展に尽くした人々を理解すること」については人物と業績を結び付けて理解することに課題が見られた。「技能」は「おおむね達成」の基準を12.3ポイント上回ったが、「資料から、火災の予防や発生時の備えについて読み取ること」については火事の予防のための備えについて読み取ること課題が見られた。

②小学6年生

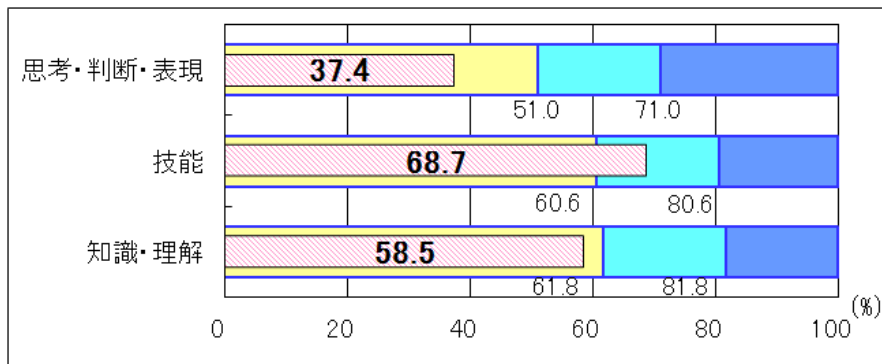


図2 H25年度(小学6年生社会)評価の観点別正答率

「技能」の観点は、「おおむね達成」の基準を上回った。しかし、「知識・理解」と「思考・判断・表現」については、「おおむね達成」の基準を下回った。「知識・理解」については、「国土の様子について理解すること」について課題が見られた。「思考・判断・表現」については、社会状況と事実を関連付けて理解できていないために、社会的事象についての説明や解釈ができなかったことが考えられる。

③中学1年生

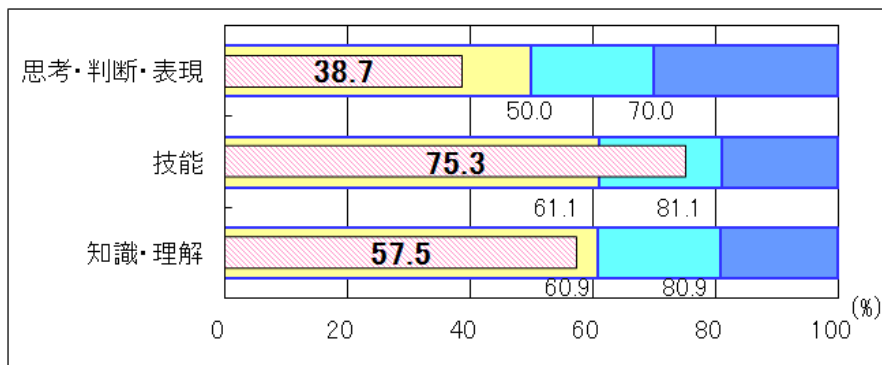


図3 H25年度(中学1年生社会)評価の観点別正答率

「技能」の観点は、「おおむね達成」の基準を上回った。しかし、「知識・理解」と「思考・判断・表現」については、「おおむね達成」の基準を下回った。「知識・理解」については、歴史的事象の名称、人物の名称について正しく記述することに課題が見られた。「思考・判断・表現」については、歴史的事象の意味や価値を歴史的背景を十分に踏まえて理解できていないために、歴史的事象の説明や解釈ができなかったと考えられる。

(ウ) 内容・領域別正答率

①小学5年生

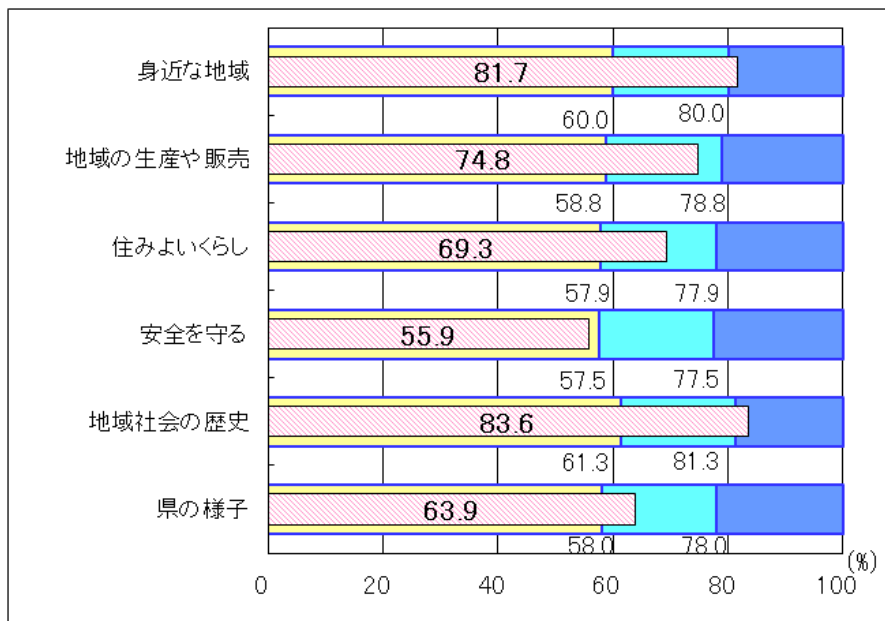


図4 H25年度(小学5年生社会)内容・領域別正答率

小学5年生では「身近な地域」、「地域社会の歴史」が「十分達成」の基準を上回った。しかし、「安全を守る」は「おおむね達成」の基準を1.6ポイント下回った。消防署や消防団の働きについて理解すること、事故を防ぐための工夫について説明することなどに課題が見られた。

②小学6年生

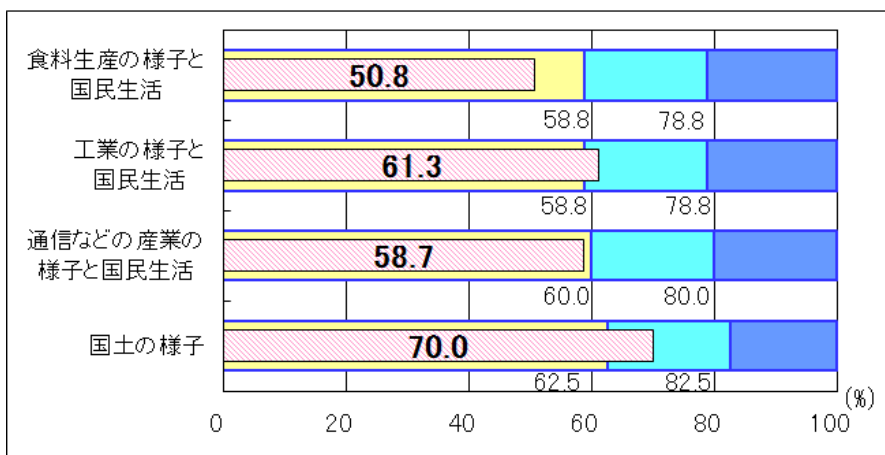


図5 H25年度(小学6年生社会)内容・領域別正答率

小学6年生では「工業の生活と国民生活」、「国土の様子」が「おおむね達成」の基準を上回った。しかし、「食料生産の様子と国民生活」は、「おおむね達成」の基準を8.0ポイント下回った。食料生産に関する仕事の工夫について理解すること、養殖業が増えている理由について説明したり、日本の食料生産の問題について説明したりすることに課題が見られた。

③ 中学1年生

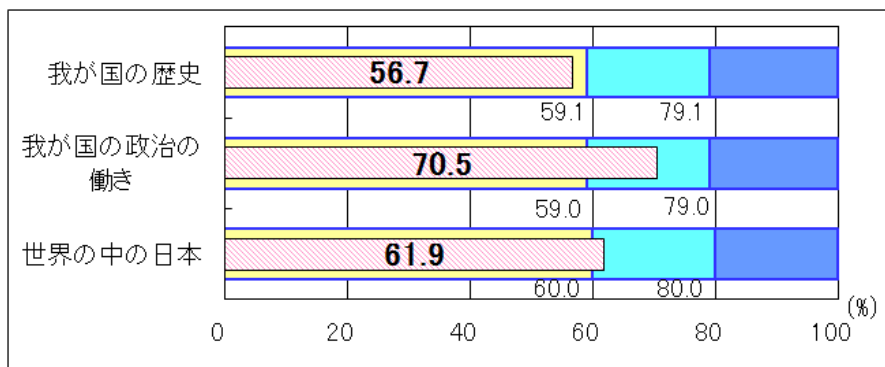


図6 H25年度(中学1年生社会)内容・領域別正答率

中学1年生では「我が国の政治の働き」、「世界の中の日本」が「おおむね達成」の基準を上回った。「我が国の歴史」は、「おおむね達成」の基準を2.4ポイント下回った。歴史的事象の名称や人物の名称などを理解すること、また、参勤交代を制度化させる理由について説明したり、地租改正に対する農民の不満について説明したりすることについては課題が見られた。

イ 経年比較

(凡例) : 要努力(おおむね達成の基準を下回る) : おおむね達成 : 十分達成

これまでに示した結果を受け、(ア)では、「おおむね達成」の基準を下回った小学6年生の「知識・理解」の観点について、同一学年の経年比較を行う。(イ)では、中学1年生の「知識・理解」の観点について、児童の変容を見るために同一学年の経年比較を行う。(ウ)では、平成24年度の課題を受け、「活用」に関する問題について、指導が図られたかを見るために同一児童の比較を行う。さらに、「活用」に関する問題について社会的な問題について考えたり、解決策を論述したりする設問(以下、「論述」と表記)と社会的事象の特色や関連、意味・意義について解釈したり説明したりする設問(以下、「説明・解釈」と表記)に分けて同一学年の経年比較を行う。

(ア) 小学6年生の「知識・理解」の観点についての経年比較(同一学年)

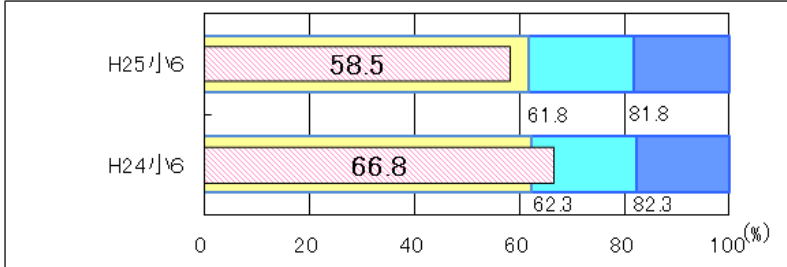


図7 H24・H25年度(小学6年生)「知識・理解」の正答率の経年比較

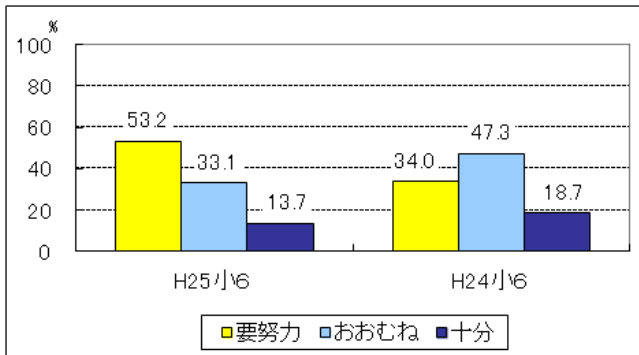


図8 H24・H25年度(小学6年生)「知識・理解」の到達度分布の経年比較

平成24年度の調査では「知識・理解」が「おおむね達成」の基準を上回っていたが、平成25年度の調査では「おおむね達成」の基準を下回った。さらに、到達度分布(図8)を見ると、「十分達成」と「おおむね達成」の割合が減少し、「要努力」の割合は増加しており課題となっている。その原因の一つとして社会的事象についての知識の定着が不十分であることが考えられる。特に、北方領土や水俣病が発生した場所などの地理的内容の知識の定着については課題があり、社会的事象を関連付けて理解できていないことがうかがえる。

(イ) 中学1年生の「知識・理解」の観点についての経年比較(同一学年)

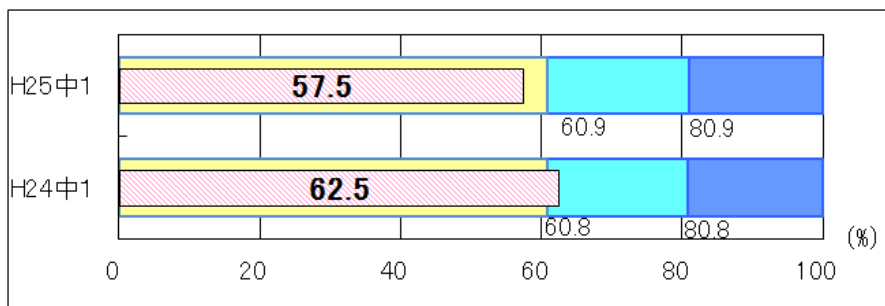


図9 H23・H24・H25年度(中学1年生)「知識・理解」の正答率の経年比較

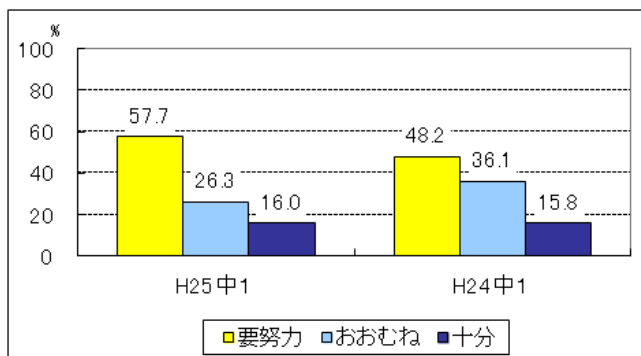


図10 H23・H24・H25年度(中学1年生)「知識・理解」の到達度分布の経年比較

「知識・理解」について、平成24年度は「おおむね達成」の基準を上回っていたが、平成25年度は「おおむね達成」の基準を下回った。さらに、到達度分布を見ると、「要努力」の割合は9.5ポイント増加していることは課題である(図10)。その原因の1つとして歴史的事象に関する知識の定着が不十分であることが考えられる。昨年度も課題として挙げているが、今年度も明治時代以降の学習内容の理解について課題がある。登場する人物が多く、歴史的背景が国内に留まらず外国との関係にまで及んでおり、複雑になっているために理解しづらいことが考えられる。

(ウ) 「活用」に関する問題についての経年比較(同一学年)

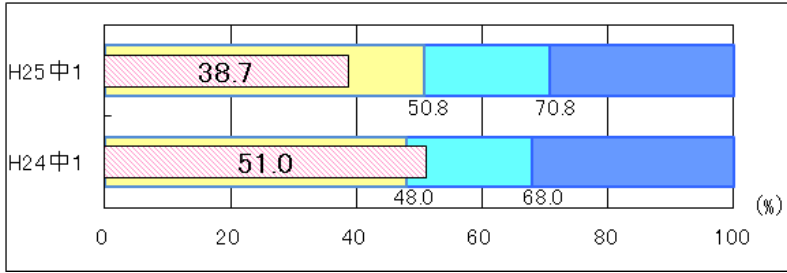


図11 H24・H25年度(中学1年生)「活用」に関する問題の正答率の経年比較

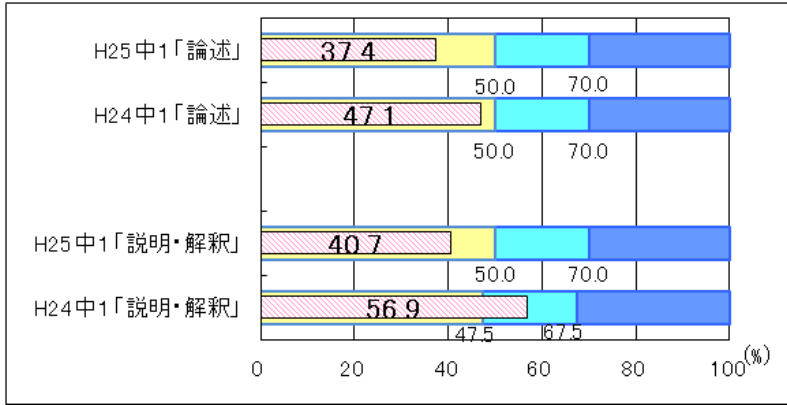


図12 H24・H25年度(中学1年生)「活用」に関する問題の設問内容ごとの正答率の経年比較

「活用」に関する問題については、平成24年度は「おおむね達成」の基準を3.0ポイント上回っている。しかし、平成25年度は「おおむね達成」の基準を12.1ポイント下回る結果となった。そこで、「活用」に関する問題を図12のように「論述」と「説明・解釈」に分け、分析する。平成25年度の「論述」の正答率は「おおむね達成」の基準を12.6ポイント下回った。「論述」には社会的な問題について解決策を考えていく問題が出題されている。社会的な問題についての自分の意見をもったり、考えを表現したりする力が不十分であると考えられる。平成24年度の「説明・解釈」の正答率は「おおむね達成」の基準を上回った。しかし、平成25年度は「おおむね達成」の基準を9.3ポイント下回った。「説明・解釈」には歴史的事象と歴史的背景との関連について考えていく問題が出題されている。年表や資料から情報を読み取り、それを基に歴史的事象の意味や意義について考えていく力が身に付いていないと考えられる。

ウ 設問ごとに見た傾向と指導法改善の手立て

平成25年度の結果の概要を踏まえ、傾向1では「社会的事象に関する知識の定着」について、傾向2では「歴史的事象に関する知識の定着」について設問レベルで分析する。また、経年比較を踏まえ、傾向3では「社会的な問題について論述したり、社会的事象や歴史的事象の意味を説明したりすること」について設問レベルで分析する。

傾向1 **社会的事象に関する知識の定着に課題がある。**

[小学5年生大問4(3)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問4(3)	水資源を確保するための森林の役割を理解している (短答式)	資料を基にして、森林のはたらきについて記述する。	51.2	5.6	80.0	60.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率60.0に対し、正答率は51.2であり、「おおむね達成」の基準を8.8ポイント下回った。資料から情報を読み取り、森林と水資源の関連について理解できていない児童が多かったために正答率が低くなったと考えられる。

○ 指導改善の手立て

飲料水を確保し、安定供給を図るためにはダムや浄水場の建設だけでなく、雨水を蓄える働きがある森林の保全も計画的に行われている。これらの事象を関連させて理解させる指導が大切である。

[小学5年生大問6(3)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問6(3)	消防団のはたらきを理解している (短答式)	火事が起きた時に消防署と協力して消火したり、防火の呼びかけをしたりしている地域の団体の名称を書く。	32.4	9.5	80.0	60.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率60.0に対して、正答率は32.4であり、「おおむね達成」の基準を27.6ポイント下回った。ガス会社や水道局など特徴ある機関と比べると、消防団は組織が地域の人々で構成されていることや活動が見えづらいため、児童にとって違いを捉えにくいことが考えられる。また、身近な地域で消防団の活動を見ることができない児童にとっては、実感を伴った理解がしづらいことが考えられる。

○ 指導改善の手立て

災害や事故の防止のために関係機関は地域の人々と協力して取り組んでいる。火災の場合は、消防署を中心に様々な機関や地域の人々が協力する仕組みが整えられている。その1つとして消防団の組織がある。そのことを確実に理解させた上で、火事に関わる関係機関を理解できるように指導していく必要がある。具体的には、消防団員から話を聞いたり、その活動の様子を視聴覚資料で調べたりする活動を取り入れることも考えられる。

[小学6年生大問7(3)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問7(3)	北方領土について理解している (短答式)	北海道の北東部にあり、今はロシア連邦が占領している領土の名前を書く。	18.9	14.9	85.0	65.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率65.0に対して、正答率は18.9であり、「おおむね達成」の基準を46.1ポイント下回った。日本の国土の範囲については東端が南鳥島、南端が沖ノ鳥島などを資料から読み取ることではできている。しかし、択捉島、国後島、歯舞群島、色丹島をまとめた名称について理解している児童は少ないことが考えられる。

○ 指導改善の手立て

我が国の国土を学習する際には、我が国の領土の北端、南端、東端、西端などの島、日本列島の周りの海を取り上げ、地図帳や地球儀などで具体的に調べていく活動が効果的である。その際、北方領土の問題についてはロシア連邦が不法に占拠し、我が国はその返還を求めていることなどについてもニュースや新聞等を活用しながら指導していくことも大切である。

傾向2 **歴史的事象に関する知識の定着に課題がある。**

[中学1年生大問6(1)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問6(1)	明治政府が行った徴兵令について理解している (短答式)	明治政府が行った強い軍隊を作るための政策の名前を書く。	20.7	36.6	80.0	60.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率60.0に対して、正答率は20.7であり、「おおむね達成」の基準を39.3ポイント下回った。明治政府が富国強兵を行った歴史的背景と、個々の政策の関連付けが理解できていない児童が多かったためであると考えられる。

○ 指導改善の手立て

明治時代は富国強兵を目指して様々な政策を行った。その代表が徴兵令、地租改正、官営工場の建設である。これらの政策は、互いに密接に関わり合っている。そのため、富国強兵を上位概念として徴兵令、地租改正、官営工場の建設を下位概念として理解させた上でそれぞれの政策の内容を理解させていくことが大切である。また、デジタルコンテンツや資料集を活用して明治時代の時代背景を捉えさせて考えさせていくことも効果的であると考えられる。

[中学1年生大問7(1)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問7(1)	不平等条約の内容について理解している (記述式)	江戸幕府がアメリカなどと結んだ不平等な条約の内容について記述する。	27.7	25.1	80.0	60.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率60.0に対して、正答率は27.7であり、「おおむね達成」の基準を32.3ポイント下回った。江戸幕府が幕末にアメリカなどの国々と不平等条約を結んだことについては理解しているが、不平等条約の内容や不平等な条約を結ばなければならなかった理由についてまで理解している児童が少なかったと考えられる。

○ 指導改善の手立て

不平等条約の内容には2つある。第1は、関税自主権が認められていないこと、第2は、領事裁判権を認めることである。それらを理解するためには、不平等条約によって起こった社会の混乱を理解させておくことが大切となる。例えば、関税自主権が認められていないことで日本の産業が大打撃を受けたこと、領事裁判権を認めたことによってノルマントン号事件のような納得できない裁判結果を受け入れなければならなかったことなどである。このように、不平等条約の内容と不平等であるが故に起こった出来事を関連付けて理解させる指導が大切となってくる。

[中学1年生大問7(2)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問7(2)	大日本帝国憲法の制定に重要な役割を果たした伊藤博文を理解している (短答式)	大日本帝国憲法の制定に重要な役割を果たした人物の名前を書く。	35.9	26.5	80.0	60.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率が60.0に対して、正答率は35.9であり、「おおむね達成」の基準を24.1ポイント下回った。伊藤博文と伊藤博文の業績を関連付けて理解されていなかったことが原因として考えられる。同じように大問2(1)の東大寺の大仏づくりに協力した人物に関する問題や大問3(3)の畳や障子、ふすまが使われている作りに関する問題についても課題が見られた。人物の名称や歴史的事象の名称、政策名などの知識が断片的なものとなっており、十分な定着がなされていないことが考えられる。

○ 指導改善の手立て

歴史学習においては学習指導要領で42人の人物を取り上げることが示されている。そのうち明治時代以降に活躍した人物は10人を超えている。さらに、明治時代以降の人物、あるいは人物の業績を理解するには、歴史的背景と切り離すことはできない。そのため、人物や業績だけを取り上げて学習を行うのではなく、歴史的背景と人物や業績を関連付けて考えていくことができる指導を行う必要がある。

傾向3 **社会的な問題について論述したり、社会的現象や歴史的現象の意味を説明したりすることに課題がある。**

[小学5年生大問5(3)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問5(3)	資料を基に、事故を防ぐために工夫している理由について説明することができる (記述式)	自動車がスピードを出せないようにするための道路が商店街や学校の近くに作られている理由について考え、記述する。	31.7	6.9	70.0	50.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率50.0に対して、正答率は31.7であり、「おおむね達成」の基準を18.3ポイント下回った。資料からスピードを出さないための工夫が、学校や商店街の近くにあることについては読み取ることはできている。しかし、そのことと学校や商店街には人が多く、自動車がスピードを出すと危険な場所であることを関連付けることができなかつたことが考えられる。

○ 指導改善の手立て

事故を防ぐ工夫は様々な場所で行われている。指導においては、なぜその場所で事故を防ぐ工夫が行われているのかについて考えることができるような工夫を行う必要がある。また、具体的に地域における事故を防ぐ工夫が施された場所を調べていく活動も考えられる。

[小学6年生大問3(2)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問3(2)	資料を基に、日本の食料が輸入に依存していることの問題点について説明することができる (記述式)	食料を外国からの輸入に頼ることで起こる問題について考え、記述する。	33.7	5.0	70.0	50.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率50.0に対して、正答率は33.7であり、「おおむね達成」の基準を16.3ポイント下回った。話し合い活動などを通して、食料を輸入に頼っている日本では、輸入がストップすると食料が不足することについては理解していると考えられる。しかし、そのことと世界の人口の変化、耕地面積の変化に関する資料とを関連付けることができなかつたことが考えられる。

○ 指導改善の手立て

資料を基に、世界の人口増加と耕地面積との関係に着目させ、今まで以上に食料が必要になることに気付かせることが大切である。それを踏まえ食料を輸入に頼る日本の問題点について考えさせていく指導が大切となってくる。食料不足が起きた事例を挙げて問題点を考えさせていくことも効果的である。

[中学1年生大問4(4)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問4(4)	資料を基に、江戸幕府が参勤交代を制度化した理由を説明することができる (記述式)	江戸幕府が大名に参勤交代を義務付けた理由を考えて記述する。	35.7	24.8	65.0	45.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率45.0に対して、正答率は35.7であり、「おおむね達成」の基準を9.3ポイント下回った。「大名が守るべききまり(武家諸法度)」と「当時の佐賀藩の予算」の2つの資料と歴史的背景とを関連付けながら、参勤交代の制度を義務付けた理由を考えることが難しかったためと考えられる。

○ 指導改善の手立て

大名が守るべききまりの資料からは、江戸幕府が大名の力を抑えようとしたことを、「当時の佐賀藩の予算」の資料からは、藩の予算の半分以上が参勤交代に関わる費用となっていたことを読み取らせることが大切である。安土桃山時代から江戸時代への時代の流れを踏まえながら、江戸幕府が目指した政治の在り方について考えることができるような指導をしていく必要がある。

エ これからの指導に向けて

本調査では、「社会的事象、歴史的事象に関する知識の定着」と「社会的な問題について論述したり、社会的事象や歴史的事象の意味を説明したりすること」に課題があることが分かった。学習指導要領においては、社会的な見方や考え方を養い、そこで身に付けた知識、概念や技能などを活用し、よりよい社会の形成に参画する資質や能力につなげていくことが求められている。そのためにも、思考力・判断力・表現力の基盤となる知識の定着を確実に図ることが大切である。

(ア) 社会的事象や歴史的事象に関する知識を定着させるための指導の工夫

知識は、1つ1つ断片的に取り扱うのではなく、関係付けて理解させていくことが大切である。また、「消防団」や「北方領土」などの用語は確実に指導し、意味を理解させた上で定着させるべきものである。そこで、まずは、問題解決的な学習の中で、スーパーマーケットや浄水場などの見学や地域の特徴的な事象の観察などの体験活動を充実させたり効果的な資料の提示をしたりすることで、これまでの経験や既習事項と結び付けながら知識を習得させるような手立てが必要である。さらに、社会的事象の特色や関連、意味などについて考えたり話し合ったりする学習の場を設定する手立ても必要となってくる。そうすることで、理解を深めると共に知識の定着を図ることもつながると考えられる。そのため、授業では単に暗記をさせていくだけでは不十分である。学習の流れの中から児童に必然性をもって取り組ませて理解させ、知識を定着させていくことも必要である。

(イ) 社会的な問題について論述したり、社会的事象や歴史的事象の意味を説明したりすることについての指導の工夫

社会的な問題について論述させるためには、児童に意見をもたせていく指導を行う必要がある。意見をもたせるためには、第1に社会的な問題が起きている原因や背景について理解させる手立てが必要である。具体的には社会的な問題について対立する意見を出して考えさせたり、社会的な問題について書かれてある新聞記事を活用して考えさせたりすることが考えられる。第2に社会的な問題について解決策を考えさせる手立てが必要である。具体的には社会的な問題について討論を行い意思決定をさせていくことが考えられる。社会的事象や歴史的事象の意味を説明させるためには、事象を1つ1つ断片的に学習させるのではなく、それらを関連させながら学習させていくことが大切となっていく。よって、事象を関連付けて学習させる指導の工夫が必要となってくる。例えば、歴史学習においては取り上げられている人物の歴史的背景を明らかにし、その歴史的背景に基づいて政策を実行していったなど事象を関連付けていくような指導が考えられる。

(ウ) 「思考力・判断力・表現力」を高めるための評価の工夫

国立教育政策研究所から『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』が示された。この資料では実際の指導における「社会的な思考・判断・表現」を評価する際の評価規準が単元ごとに示されている。具体的な判定基準をどのように設定するか、活動の記録を基にどのように評価していくかということについて考えていくことは大切なことである。特に、設定した判定基準ではどのような状況を「おおむね満足できる」状況(B)とするのかについて明らかにすることは重要である。例えば、「〇〇を活性化させるプランについて述べなさい」という課題に対しては、活性化させるプランとその理由を記述していれば「おおむね満足できる」状況(B)と判定基準を設定することで、目指すべき児童の姿を具体的にイメージして授業に臨むことができると考えられる。

《参考資料》

国立教育政策研究所 『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 小学校社会』 平成23年11月

○ 教師意識調査の結果より

教師意識調査(27)において「社会で、児童が資料などから読み取ったことを基にして考えたことを、話し合う活動を取り入れた授業を行っていますか。」という質問に対して、「多くの単元で行っている」と回答した教師の割合は16.0%、「半分程度の単元で行っている」と回答した教師の割合は26.4%であり、合わせると42.4%である。平成24年度の同じ設問では、「多くの単元で行っている」と回答した教師の割合は14.3%、「半分程度の単元で行っている」と回答した教師の割合は27.4%であり、合わせると41.7%である。これらを踏まえると、言語活動を取り入れる指導が意識され、社会科において自分の考えを説明し、表現する話し合い活動に取り組むことができていると考えられる。話し合い活動は思考力・判断力・表現力を育成することにつながっていくと考えられる。よって、今後も社会科において話し合い活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を育成していく取組が大切である。

オ 授業実践に参考となるリンク



平成25年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > Ⅲ 各教科の調査結果の分析 > 小学校算数

Ⅲ 各教科の調査結果の分析

※ 中学1年生の調査については、小学6年生の学習内容としているため、小学校の項で分析している。

小学校算数

知識・技能の定着を図り、筋道を立てて考え、表現する力を育てる授業づくり

「数学的な考え方」、「数量や図形についての技能」、「数量や図形についての知識・理解」の評価の観点別正答率において、「おおむね達成」の基準を上回った。小学6年生の主として「知識」に関する問題の「数量や図形についての技能」、小学6年生の主として「活用」に関する問題の「数量や図形についての知識・理解」、中学1年生の「数量や図形についての知識・理解」の評価の観点においては、「十分達成」の基準を上回った。しかし、「『活用』に関する問題」の正答率では、小学5年生と中学1年生が「おおむね達成」の基準を共に下回っている。授業において算数的活動を充実させ、数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるとともに、思考力・判断力・表現力を高めることが必要である。

小学6年で実施した全国学力・学習状況調査を活用した調査については、以下のように記す。

- 主として「知識」に関する問題 → 「算数A」
- 主として「活用」に関する問題 → 「算数B」

評価の観点については、以下のように記す。

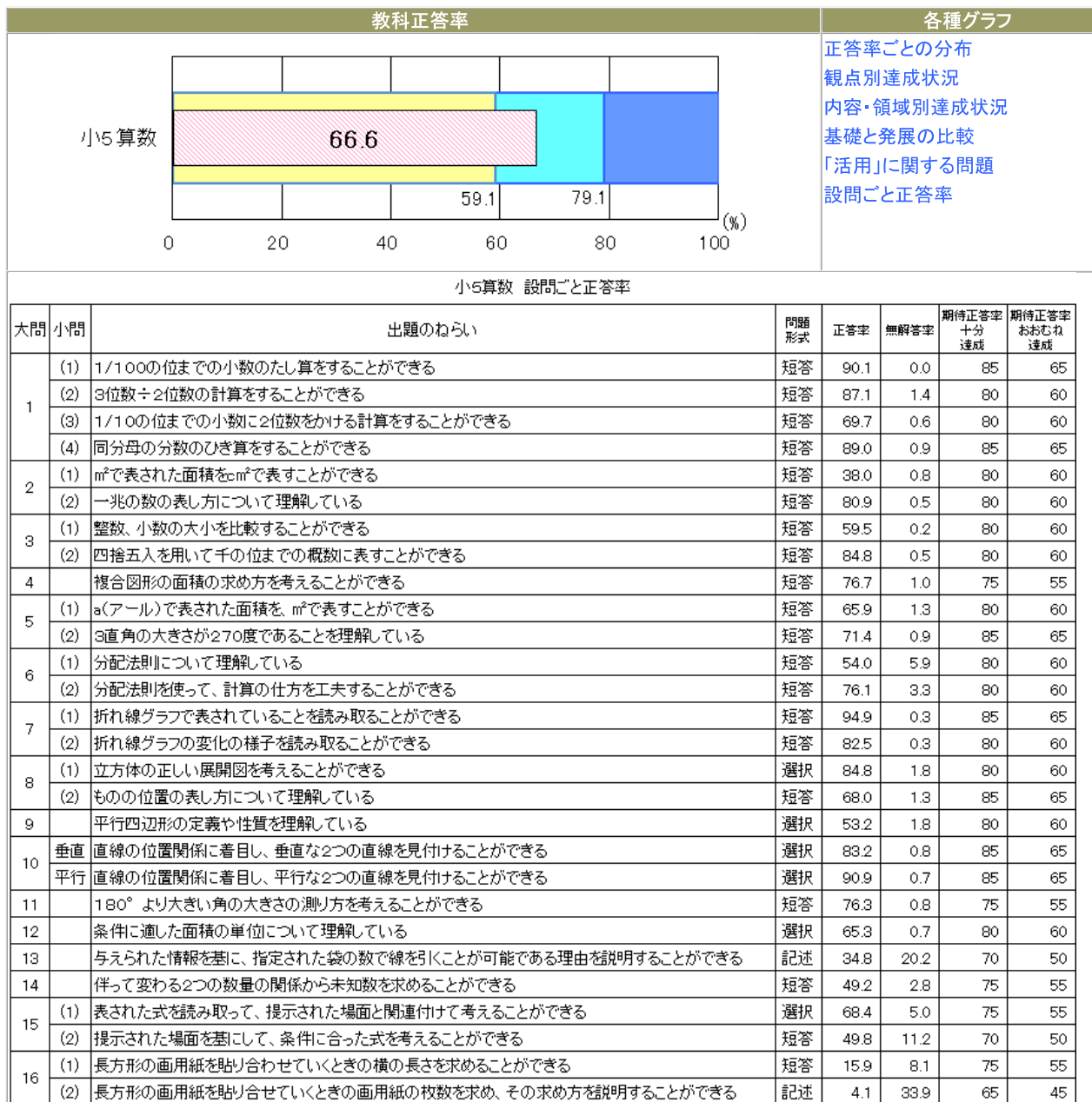
- 算数への関心・意欲・態度 → 本調査では設定なし
- 数学的な考え方 → 「考え方」
- 数量や図形についての技能 → 「技能」
- 数量や図形についての知識・理解 → 「知識・理解」

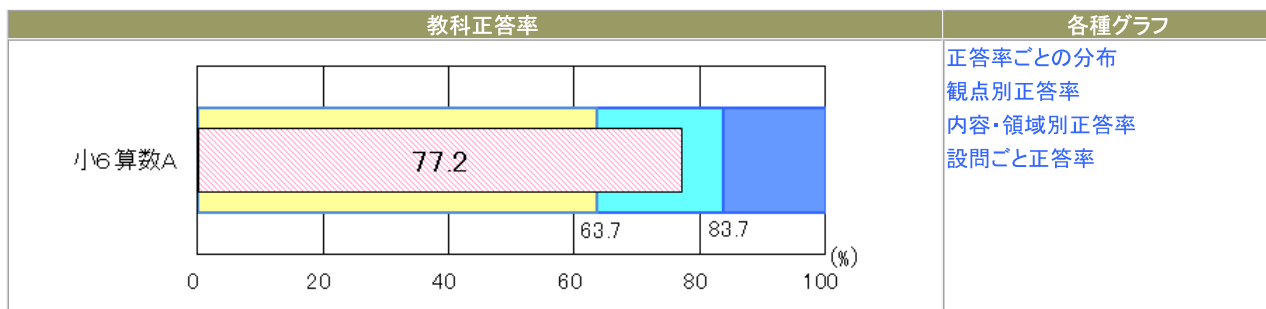
ア 結果の概要

各学年ごとに教科の正答率について到達基準との比較を示す。

(凡例) :要努力(おおむね達成の基準を下回る) :おおむね達成 :十分達成

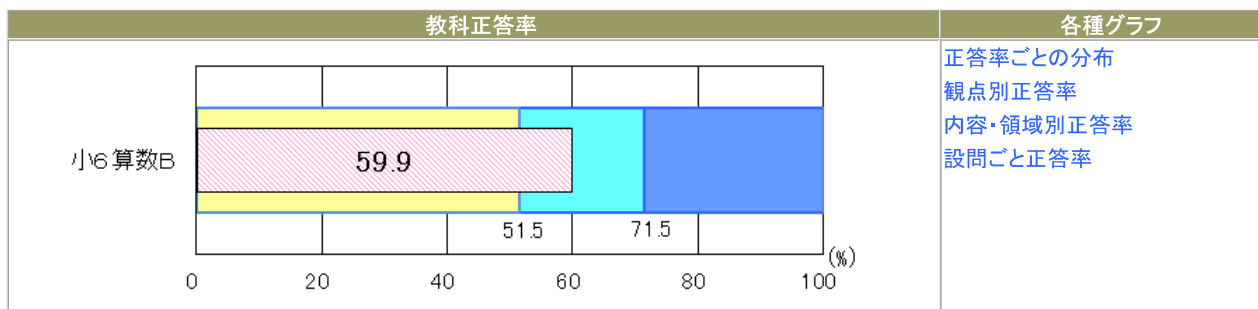
(ア) 教科及び設問ごと正答率





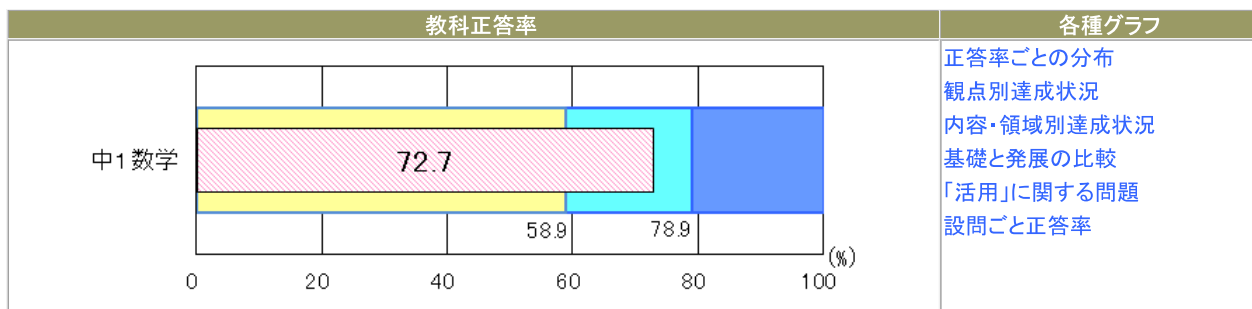
小6算数A 設問ごと正答率

大問	小問	出題のねらい	問題形式	正答率	無解答率	期待正答率 十分達成	期待正答率 おおむね達成
1	(1)	繰り下がりのある減法の計算をすることができる	短答	88.1	0.1	85	65
	(2)	小数の加法の計算をすることができる	短答	68.7	0.1	85	65
	(3)	小数の乗法の計算をすることができる	短答	85.7	0.1	85	65
	(4)	商が小数になる除法の計算をすることができる	短答	88.6	0.7	85	65
	(5)	く)を用いた整数の計算をすることができる	短答	94.6	0.4	85	65
	(6)	同分母の分数の加法の計算をすることができる	短答	85.8	1.2	85	65
	(7)	乗数が整数である場合の分数の乗法の計算をすることができる	短答	91.5	0.6	85	65
2		示された位までの概数にする際、一つ下の位の数を四捨五入して処理する方法について理解している	選択	60.8	1.2	80	60
3		余りのある除法の場面において、被除数を求める式について理解している	選択	70.1	1.2	80	60
4		単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解している	選択	50.5	0.5	80	60
5	(1)	曲線部分の長さを測定する際に用いる適切な計器を理解している	選択	97.8	0.2	85	65
	(2)	1a(1アール)の面積と等しい正方形の一边の長さを理解している	選択	53.0	0.6	85	65
	(3)	台形の面積の求め方を理解している	短答	77.5	1.0	85	65
6		三角形ABCと合同な三角形をかくために必要な条件を理解している	選択	60.2	0.6	80	60
7	(1)	円柱について、見取図の高さと展開図の側面の辺の長さとは対応していることを理解している	短答	90.8	1.1	85	65
	(2)	円柱について、底面の円周の長さとは展開図の側面の辺の長さとは対応していることを理解している	短答	65.2	3.4	80	60
8	(1)	割合が50%のとき、基準量と比較量の大きさの関係を理解している	選択	73.8	1.4	85	65
	(2)	割合が100%を超えるとき、基準量と比較量の大きさの関係を理解している	選択	76.7	2.0	85	65
9		棒の長さで最小目盛りに着目して、数値が最も大きい項目とその数値を読み取ることができる	短答	87.4	2.0	85	65



小6算数B 設問ごと正答率

大問	小問	出題のねらい	問題形式	正答率	無解答率	期待正答率 十分達成	期待正答率 おおむね達成
1	(1)	情報を整理し、筋道を立てて考え、三つの条件全てに当てはまる乗り物を判断することができる	短答	49.2	1.9	70	50
	(2)	三つの買い方の中から最も安くなる買い方を選択し、その選択が正しい理由を記述できる	記述	58.6	0.8	70	50
2	(1)	示された平均を求める式から、その計算の結果が何を求めているのかについて理解している	短答	53.8	1.9	70	50
	(2)	飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を選択することができる	選択	76.4	0.7	75	55
	(3)	表から数値を適切に取り出して、二つの数量の関係が比例の関係ではないことを記述できる	記述	44.0	14.8	65	45
3	(1)	図に示された分割の仕方とその説明とを対応させることができる	選択	86.9	0.5	75	55
	(2)	示された分け方で二つの三角形の面積が等しくなることを記述できる	記述	52.9	12.1	70	50
	(3)	長方形と台形の分割の仕方を比べて、台形の場合は4等分にならないわけを選択することができる	選択	53.2	2.8	70	50
4	(1)	単位量当たりの大きさなどに着目して、二つの数量の関係の求め方を記述できる	記述	40.8	10.8	70	50
	(2)	示された情報から二つの要素の意味を解釈し、ものの位置を特定することができる	短答	91.9	2.1	80	60
	(3)	示された式に数値を当てはめて計算し、計算の結果の大小を基に判断することができる	短答	48.9	6.3	70	50
5	(1)	棒グラフと折れ線グラフの両方が示されたグラフから、必要な情報を読み取ることができる	選択	75.3	4.6	80	60
	(2)	割合が同じで基準量が増えているときの比較量の大小を判断し、その判断の理由を記述できる	記述	46.9	8.9	65	45



中1数学 設問ごと正答率

大問	小問	出題のねらい	問題形式	正答率	無解答率	期待正答率 十分達成	期待正答率 おおむね達成
1	(1)	被乗数、乗数が共に真分数の乗法の計算ができる	短答	95.7	0.2	85	65
	(2)	被乗数が帯分数、乗数が真分数の乗法の計算ができる	短答	93.1	0.4	85	65
	(3)	被除数が真分数、除数が仮分数の除法の計算ができる	短答	92.7	0.5	80	60
	(4)	整数、真分数及び小数を含んだ乗除の混合計算ができる	短答	83.5	1.4	75	55
2	(1)	数量の関係を数直線に表すことができる	短答	56.1	4.1	75	55
	(2)	数量の関係を適切に捉え、式を考えることができる	短答	52.3	8.3	70	50
3	(1)	逆数を求めることができる	短答	96.8	0.7	85	65
	(2)	除数が分数や小数である除法において、被除数と商の大きさとの関係について考えることができる	選択	79.2	0.7	80	60
	(3)	分数についても分配法則の式が成り立つことを理解している	短答	73.3	1.6	75	55
4	(1)	カードの並べ方について、何通りの場合があるかを考えることができる	短答	59.1	0.5	80	60
	(2)	比の考え方を用いて、長方形の横の長さを求めることができる	短答	59.7	3.0	75	55
5	(1)	伴って変わる2つの数量の関係から、当てはまる値を求めて表を完成することができる	短答	79.0	0.8	80	60
	(2)	数量の関係から、反比例の関係を式に表すことができる	短答	69.7	1.7	80	60
6	(1)	速さと時間から長さを求めることができる	短答	83.8	1.6	85	65
	(2)	メートル法の単位の仕組みを基に、mLで表されたかさねを用いて表すことができる	短答	60.8	2.0	80	60
	(3)	時間と長さから速さを求めることができる	短答	89.4	1.7	85	65
7	(1)	円の面積の求め方を理解している	選択	81.8	0.5	85	65
	(2)	三角柱の体積を求めることができる	短答	59.5	2.1	80	60
8	(1)	線対称な図形の対称の軸について理解している	選択	89.3	0.9	85	65
	(2)	線対称な図形における対応する点の位置関係を理解している	選択	96.7	0.5	85	65
	(3)	線対称の意味について理解している	短答	68.9	6.1	85	65
9		点対称な図形について理解している	選択	80.6	0.4	80	60
10		拡大図について理解している	短答	88.5	0.4	80	60
11		1つの頂点に集まる辺の長さの比を一定にしていた縮図について、辺の長さを考えることができる	短答	85.8	0.9	75	55
12		既習の図形の面積の求め方を基に、正方形の中の図形の面積を考えることができる	短答	47.0	6.4	75	55
13		必要な情報を使い、比例の関係から条件に合った数量を考えることができる	短答	48.1	7.3	70	50
14		角柱の体積を求める公式を使って条件に合った水の量を求め、その求め方を説明することができる	記述	34.7	21.2	65	45
15		条件に合ったピザの大きさについて、分数の除法と関連付けて説明することができる	記述	31.8	22.9	70	50

(イ) 評価の観点別正答率

①小学5年生

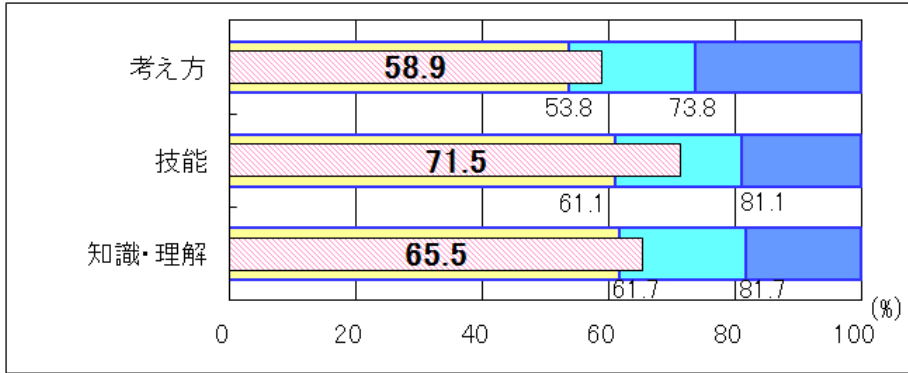


図1 H25年度(小学5年生算数)評価の観点別正答率

「考え方」「技能」「知識・理解」の全ての観点で「おおむね達成」の基準を上回った。しかし、課題として次の2点が挙げられる。

- 「考え方」において、与えられた情報を基に、考えた理由を説明する力。
- 「知識・理解」において、平行四辺形の定義や性質の理解。

②小学6年生

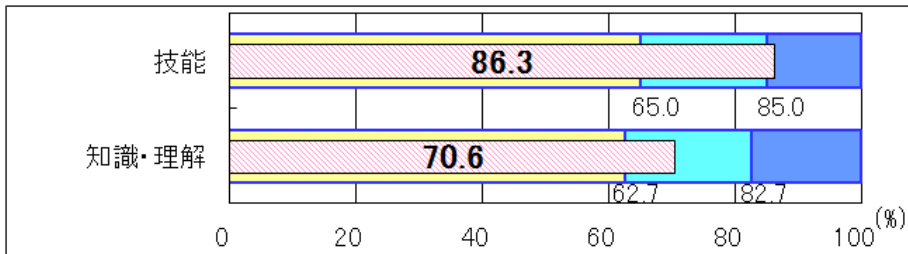


図2 H25年度(小学6年生算数A)評価の観点別正答率

「技能」は、「十分達成」の到達基準85.0を1.3ポイント上回り、「知識・理解」は、「おおむね達成」の到達基準62.7を7.9ポイント上回った。「技能」においては、四則演算を行う設問の中に、その正答率が90.0を越えている設問もあった。しかし、「知識・理解」における課題として、次の2点が挙げられる。

- 単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味の理解。
- 1a(1アール)の面積と等しい正方形の一辺の長さの理解。

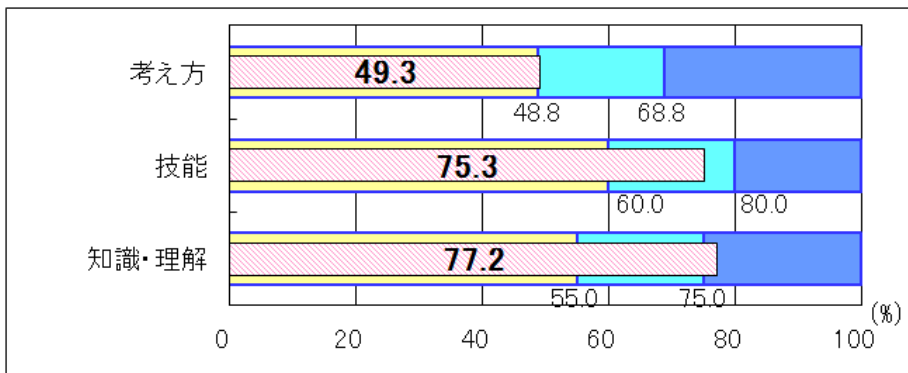


図3 H25年度(小学6年生算数B)評価の観点別正答率

「考え方」「技能」では、「おおむね達成」の基準を上回り、「知識・理解」では、「十分達成」の到達基準75.0を2.2ポイント上回った。しかし、「考え方」における課題として、次の2点が挙げられる。

- 単位量当たりの大きさなどに着目して、2つの数量の関係の求め方を説明する力。
- 表から数値を適切に取り出して、2つの数量の関係が比例の関係ではないことを説明する力。

課題として、次の2点が挙げられる。

- 既習の図形の求め方を基に、正方形の中の図形の面積を考える力。
- 条件に合ったピザの大きさについて、式と図を関連付けて説明する力。

③中学1年生

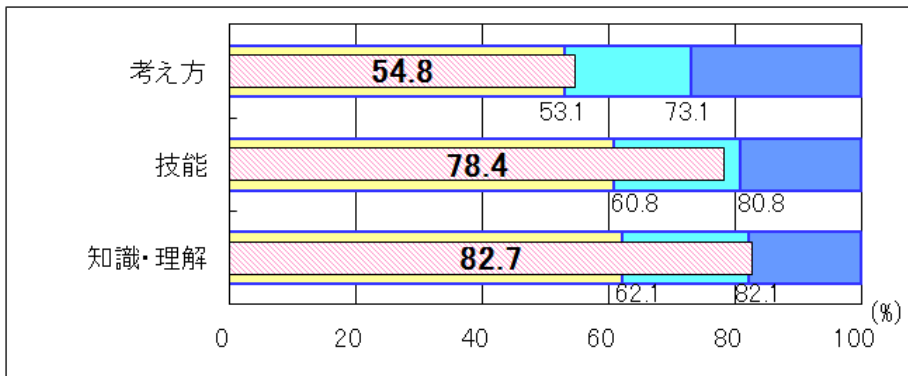


図4 H25年度(中学1年生数学)評価の観点別正答率

「考え方」「技能」では、「おおむね達成」の基準を上回り、「知識・理解」では、「十分達成」の到達基準82.1を0.6ポイント上回った。「考え方」における

内容・領域別正答率

内容・領域別正答率においては、「量と測定」「図形」では全ての学年において「おおむね達成」の基準を上回る結果であった。小学6年生算数Bと中学1年生数学における「図形」では、「十分達成」の基準を上回る結果となった。一方、「数と計算」においては、小学6年生算数Bにおいて「おおむね達成」の到達基準50.0を0.5ポイント下回り、「数量関係」では、小学5年生において「おおむね達成」の到達基準56.1を1.1ポイント下回った。

①小学5年生

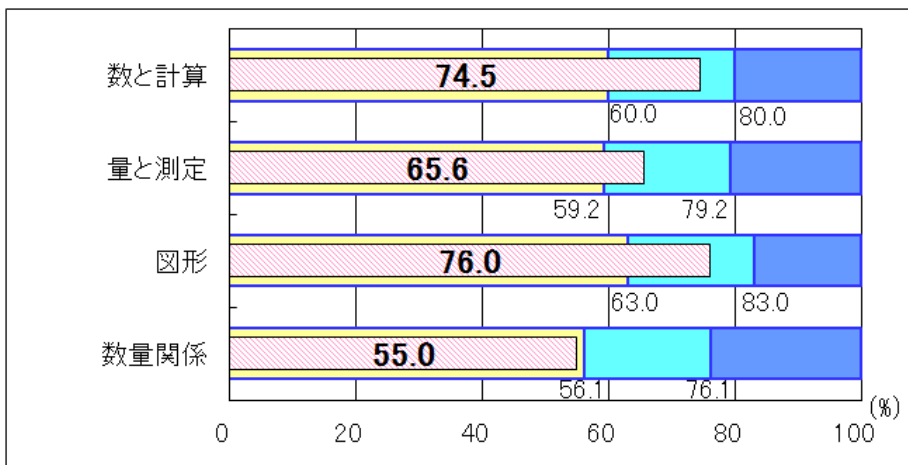


図5 H25年度(小学5年生算数)内容・領域別正答率

「数と計算」「量と測定」「図形」では、「おおむね達成」の基準を上回る結果であったが、「数量関係」においては、「おおむね達成」の到達基準56.1を1.1ポイント下回った。「考え方」における課題として、次のことが挙げられる。

- 長方形の画用紙を貼り合わせていくときの画用紙の枚数を求め、その求め方を説明する力。

(ウ)

②小学6年生

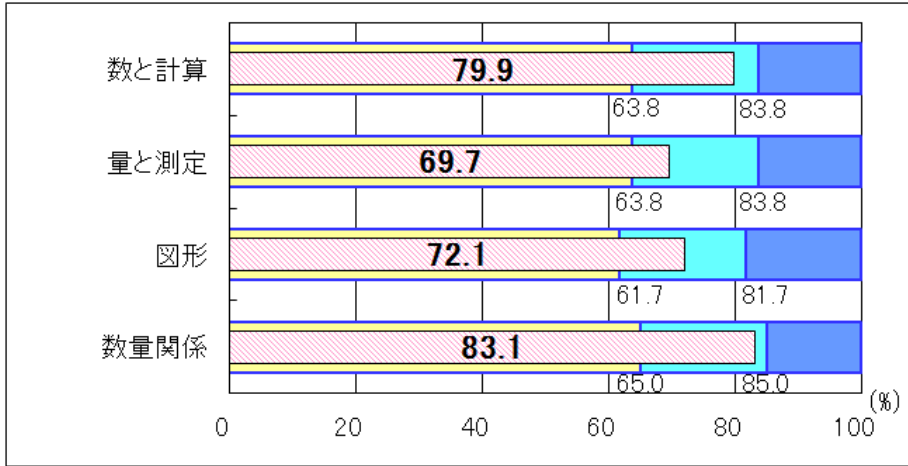


図6 H25年度(小学6年生算数A)内容・領域別正答率

全ての領域で、「おおむね達成」の基準を上回る結果であった。「数量関係」においては、()を使って整数の計算をする設問は、「十分達成」の期待正答率85.0を9.6ポイント上回る結果であった。「量と測定」における課題として、次のことが挙げられる。

- 単位量当たりの大きさを求める式についての理解。

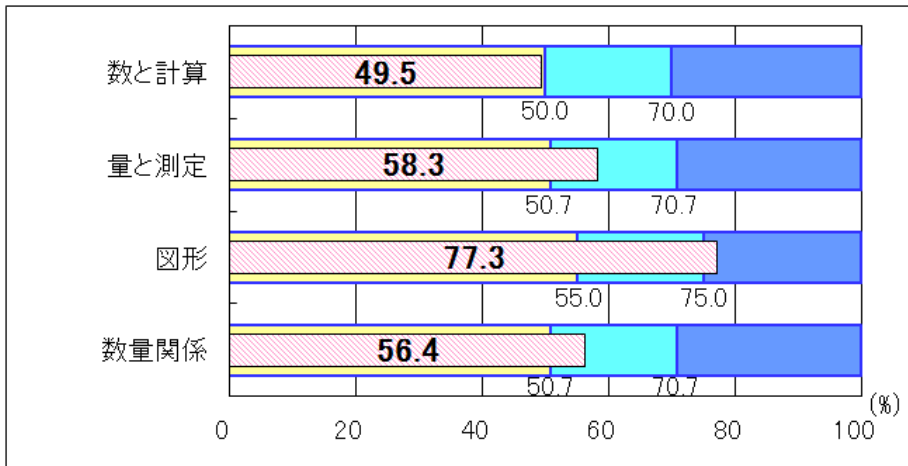


図7 H25年度(小学6年生算数B)内容・領域別正答率

「量と測定」「数量関係」においては、「おおむね達成」の基準を上回り、「図形」では、「十分達成」の到達基準75.0を2.3ポイント上回る結果であった。しかし、「数と計算」においては、「おおむね達成」の到達基準50.0を0.5ポイント下回る結果となった。「数と計算」における課題として、次のことが挙げられる。

- 3つの買い方の中から最も安くなる買い方を選択し、その選択が正しい理由を説明する力。

③中学1年生

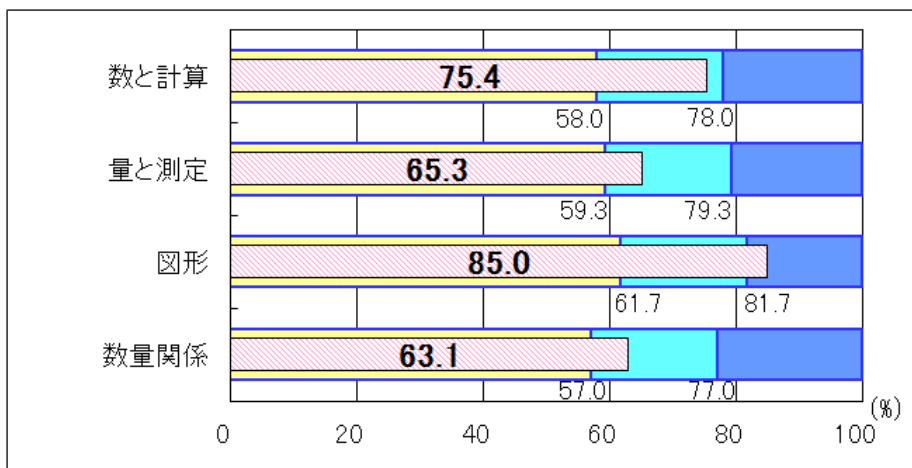


図8 H25年度(中学1年生数学)内容・領域別正答率

全ての領域で、「おおむね達成」の基準を上回り、「図形」においては、「十分達成」の到達基準81.7を3.3ポイント上回る結果であった。「量と測定」における課題として、次のことが挙げられる。

○角柱の体積を求める公式を使って、条件に合った水の量を求め、その求め方を説明する力。

イ 経年比較

(凡例) :要努力(おおむね達成の基準を下回る) :おおむね達成 :十分達成

知識・技能の定着の状況を把握するために「基礎的・基本的問題」における正答率を比較し、考察する。また、筋道を立てて考え、表現する力の定着の状況を把握するために、平成24年度に課題として挙げられていた「活用」における問題の正答率を比較し、考察する。小学6年生については、「基礎的・基本的問題」における正答率は算数Aで比較し、「活用」における問題の正答率は算数Bで比較する。

(ア) 「基礎的・基本的問題」の経年比較

①小学5年生

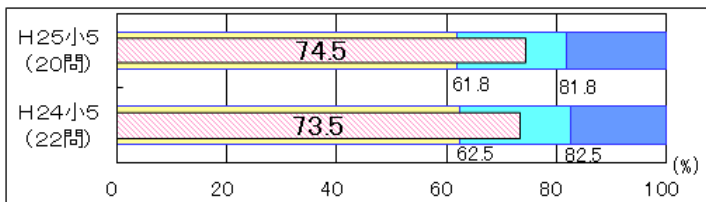


図9 H24・H25年度(小学5年生算数)「基礎的・基本的問題」の正答率の経年比較

「基礎的・基本的問題」の正答率については、平成24年度の正答率は73.5で、「おおむね達成」の到達基準62.5を11.0ポイント上回っていた。平成25年度の正答率は74.5で、「おおむね達成」の到達基準61.8を12.7ポイント上回った。内容・領域別に見てみると、平成25年度は「数と計算」の1/100の位までの小数のたし算をする設問において、「十分達成」の期待正答率を上回った。しかし、「量と測定」のm²で表された面積をcm²で表す設問において、「おおむね達成」の期待正答率を下回った。

②小学6年生算数A

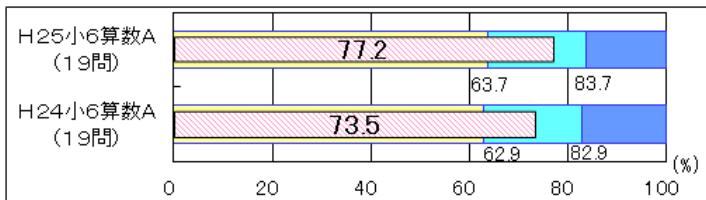


図10 H24・H25年度(小学6年生算数A)「基礎的・基本的問題」の正答率の経年比較

「基礎的・基本的問題」の正答率については、平成24年度の正答率は73.5で、「おおむね達成」の到達基準62.9を10.6ポイント上回っていた。平成25年度の正答率は77.2で、「おおむね達成」の到達基準63.7を13.5ポイント上回った。内容・領域別に見てみると、平成25年度は「数量関係」の()を用いた整数の計算をする設問において、「十分達成」の期待正答率を上回った。しかし、「量と測定」の1a(1アール)と等しい面積になる正方形の一辺の長さを求める設問において、「おおむね達成」の期待正答率を下回った。

③中学1年生

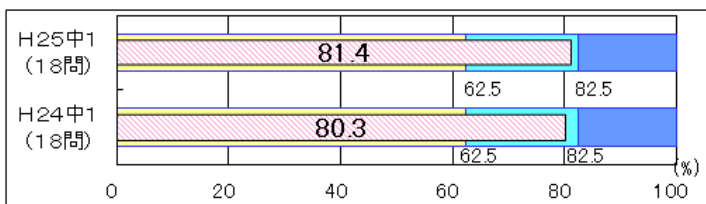


図11 H24・H25年度(中学1年生数学)「基礎的・基本的問題」の正答率の経年比較

「基礎的・基本的問題」の正答率については、平成24年度の正答率は80.3で、「おおむね達成」の到達基準62.5を17.8ポイント上回っていた。平成25年度の正答率は81.4で、「おおむね達成」の到達基準62.5を18.9ポイント上回った。平成24年度と比較すると正答率は1.1ポイント上回っている。内容・領域別に見てみると、平成25年度は、「図形」において線対称な図形における対応する点の位置関係の理解を問う設問と「数と計算」の逆数を求める設問において、「十分達成」の期待正答率を上回った。しかし、「量と測定」の三角柱の体積を求める設問において、「おおむね達成」の期待正答率を下回った。

(イ) 「活用」に関する問題の経年比較

①小学5年生

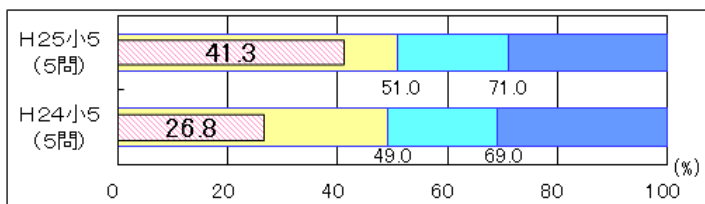


図12 H24・H25年度(小学5年生算数)「活用」に関する問題の正答率の経年比較

「活用」に関する問題の正答率については、平成24年度の正答率は26.8で、「おむね達成」の到達基準49.0を22.8ポイント下回っていた。また、平成25年度の正答率は41.3で、「おむね達成」の到達基準51.0を9.7ポイント下回った。平成24年度と同様に、「活用」に関する問題においては課題が見られる。内容・領域別に見てみると、平成25年度は「数と計算」において与えられた情報を基に、指定された袋の数で線を引くことが可能である理由を説明する設問、「数量関係」においては長方形の画用紙を貼り合わせていくときの横の長さを求める設問において、「おむね達成」の期待正答率を下回った。

②小学6年生算数B

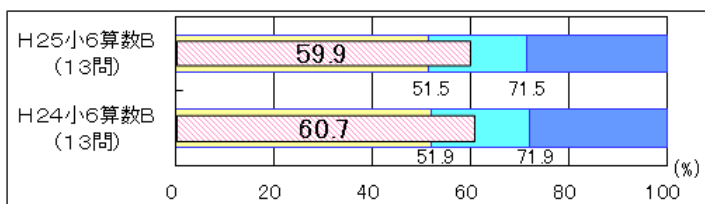


図13 H24・H25年度(小学6年生算数B)「活用」に関する問題の正答率の経年比較

「活用」に関する問題の正答率については、平成24年度の正答率は60.7で、「おむね達成」の到達基準51.9を8.8ポイント上回っていた。また、平成25年度の正答率は59.9で、「おむね達成」の到達基準51.5を8.4ポイント上回った。内容・領域別に見てみると、平成25年度は「数と計算」と「量と測定」において単位量当たりの大きさなどに着目して、2つの数量の関係の求め方を記述する設問、「数量関係」において示された式に数値を当てはめて計算し、計算の結果の大小を基に判断する設問において、「おむね達成」の期待正答率を下回った。

③中学1年生

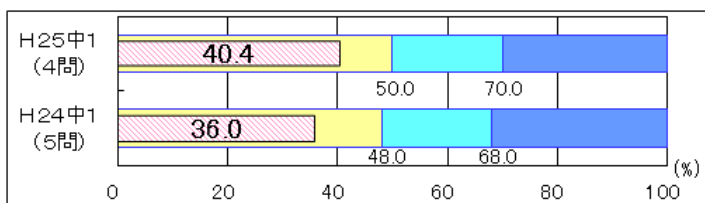


図14 H24・H25年度(中学1年生数学)「活用」に関する問題の正答率の経年比較

「活用」に関する問題の正答率については、平成24年度の正答率は36.0で、「おむね達成」の到達基準48.0を12.0ポイント下回っていた。また、平成25年度の正答率は40.4で、「おむね達成」の到達基準50.0を9.6ポイント下回った。平成24年度と同様に、「活用」に関する問題においては課題が見られる。内容・領域別に見てみると、平成25年度は「数と計算」においては条件に合ったピザの大きさについて、式と図を関連付けて説明する設問、「量と測定」においては角柱の体積を求める公式を使って条件に合った水の量を求め、その求め方を説明する設問、「数量関係」においては必要な情報を使い、比例の関係から条件に合った数量を考える設問において「おむね達成」の期待正答率を下回った。

ウ 設問ごとに見た傾向と指導改善の手立て

「基礎的・基本的な知識・技能の定着」と「数学的な思考力・判断力・表現力の育成」の2つの視点から、平成25年度の調査で、正答率が「おおむね達成」の期待正答率を下回った主な設問について考察する。

傾向1 **基礎的・基本的問題の中で、「量と測定」の学習内容の定着に課題がある。**

[小学5年生 大問2の(1)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問2(1)	m^2 で表された面積を cm^2 で表すことができる。 (短答式)	$1m^2$ を cm^2 の単位に換算する。	38.0	0.8	80.0	60.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率60.0に対して、正答率は38.0であり、22.0ポイント下回った。 $1m=100cm$ であることや、 $1m^2$ は、1辺が1mの正方形の面積であることの理解が図れていないこと、 100×100 の計算ができなかったことなどが要因であると考えられる。

○ 指導改善の手立て

指導に当たっては、まず、 $1m=100cm$ であることを理解させ、 $1m^2$ は、1辺が100cmの正方形の面積であることを確認する。その上で、模造紙を使って面積が $1m^2$ である正方形を作ったり、出来上がったその正方形と面積が $1cm^2$ である正方形を比べたりする活動を通して、面積の量感を育てることが大切である。

[小学6年生算数A 大問4]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	問題の概要	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問4	単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解している。 (短答式)	AとBの2つのシートの混み具合を比べる式の意味について、正しいものを選ぶ。	50.5	0.5	80.0	60.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率60.0に対して、正答率は50.5であり、9.5ポイント下回った。示された表の中の情報と単位量当たりの大きさを求める式とを適切に対応させることができなかったことが要因であると考えられる。

○ 指導改善の手立て

指導に当たっては、2つの量のどちらを単位量とするかによって、混み具合は数値が大きい方が混んでいる場合と、数値が小さい方が混んでいる場合があるので、数値の意味を理解して判断できるようにさせる。その際、問題場面を図に表させ、単位量当たりの大きさを求める式と図とを対応させて考える活動を積極的に取り入れることが大切である。

[中学1年生 大問7の(2)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問7(2)	三角柱の体積を求めることができる。 (短答式)	角柱の体積を求める公式を使って、三角柱の体積を求める。	59.5	2.1	80.0	60.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率60.0に対して、正答率は59.5であり、0.5ポイント下回った。この設問では、底面となる直角三角形の10cmの斜辺が余計となる。このため縦4cm、横10cmの長方形を底面と考えてしまい、「直角三角形が底面である」と正しく捉えられなかったことが要因であると考えられる。

○ 指導改善の手立て

指導に当たっては、角柱の体積を求める公式の確実な定着を図る必要がある。その際に、直方体や立方体の体積の求め方を基にして角柱の場合の体積の求め方を考えさせることが大切である。具体的には、底面から高さを1cmとり、そこで切った立体の体積を考えさせ、その体積を高さの分だけ倍にする考えを用いて体積を導き出させる。このため、角柱の底面がどこであるのかを把握させる必要がある。そこで、授業では立体模型を使って底面を探し出す活動を取り入れることが大切である。

傾向2 基礎的・基本的な知識・技能を活用することに課題がある。

[小学5年生 大問16の(1)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問16(1)	長方形の画用紙を貼り合わせていくときの横の長さを求めることができる。 (短答式)	3枚の長方形の画用紙を横一列に貼り合わせるとき、のりしろを差し引いて考え、全体の横の長さを求める。	15.9	8.1	75.0	55.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率55.0に対して、正答率は15.9であり、39.1ポイント下回った。画用紙を横一列に貼り合わせるときに、のりしろの長さを全体から引いて考えることができなかったことが要因として考えられる。

○ 指導改善の手立て

指導に当たっては、画用紙が1枚の場合、2枚の場合、3枚の場合と、具体物を使って、実際に操作させたり、既に分かっていることを図にかきこませたりする活動を取り入れ、変わり方のきまりを見付けさせていくことが大切である。その上で、このような活動を通して見付けたきまりをノートに書かせたり、友達と説明し合ったりさせることで、見付けたきまりを整理し、明確にさせていくことが大切である。

[小学5年生 大問16の(2)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問16(2)	長方形の画用紙を貼り合わせていくときの画用紙の枚数を求め、その求め方を説明することができる。 (記述式)	長方形の画用紙を横一列に貼り合わせてできる長方形の縦と横の長さを基に、何枚の画用紙を貼り合わせたらかを求める。	4.1	33.9	65.0	45.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率45.0に対して、正答率は4.1であり、40.9ポイント下回った。問題文と示された図から問題場面を把握することや伴って変わる2つの数量の関係を適切に捉えることができなかったことが要因であると考えられる。

○ 指導改善の手立て

指導に当たっては、伴って変わる2つの数量について、操作活動や表に表すなどの活動を通して見付けた変わり方のきまりを活用して、問題解決に取り組ませることが大切である。また、学んだことや見付けたきまりを学習に活用する態度を育成することも大切である。

[小学6年生算数B 大問4の(1)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	問題の概要	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問4(1)	単位量当たりの大きさなどに着目して、二つの数量の関係の求め方を記述できる。 (記述式)	ワールドカップ後の1試合当たりの観客数が、ワールドカップ前の1試合当たりの観客数の約何倍になるのかを求める方法と答えを書く。	40.8	10.8	70.0	50.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率50.0に対して、正答率は40.8であり、9.2ポイント下回った。単位量当たりの大きさの考えに着目して、筋道を立てて考えることができなかったことが要因として考えられる。

○ 指導改善の手立て

指導に当たっては、筋道を立てて考え、表現させるために、式だけで考えを表現させるのではなく、言葉で立式した根拠を書かせることで、何を求めようとしているのかを明確にさせることが大切である。また、単位量当たりの大きさの学習では、2つの数量のうち、その一方をそろえることによって比べることができることに重点をおいて指導に当たる必要がある。

[中学1年生 大問14]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問14	角柱の体積を求める公式を使って条件に合った水の量を求め、その求め方を説明することができる。 (記述式)	角柱の体積を求める公式を使って条件に合った水の量を求め、それが容器の体積の何倍になっているのかを記述する。	34.7	21.2	65.0	45.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率45.0に対して、正答率は34.7であり、10.3ポイント下回った。直方体の水そうで、高さが4cm上がることで増える水の体積を求めることができなかつたり、増える水の体積が容器の体積の何倍になっているのかということまで考えを進めることができなかつたりしたことが要因であると考えられる。

○ 指導改善の手立て

この設問は、既に入っている水の体積は考慮する必要がない設問である。指導に当たっては、既に分かっていることを図にかきこませ、問題解決に向けての方法の見通しをもたせる指導が大切である。具体的には、まず、高さが4cm上がることによって増える水の体積を求めればよいことに気付かせる。次に、それが容器の体積の何倍になっているのかを考えさせる。このように、順序よく考え、見通しをもって問題解決に当たる態度を育成することが大切である。

[中学1年生 大問15]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問15	条件に合ったピザの大きさについて、分数の除法と関連付けて説明することができる。 (記述式)	同じ大きさのピザ2枚を3等分するときの、一人分のピザの大きさの求め方を式や言葉で記述する。	31.8	22.9	70.0	50.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率50.0に対して、正答率は31.8であり、18.2ポイント下回った。言葉と図を基に、式の意味を読み取ることができなかつたことが要因として考えられる。

○ 指導改善の手立て

指導に当たっては、式の意味を読み取らせるために、式と図を関連付けて考える活動を仕組むことが大切である。問題場面を捉えさせる際には、設問の中の情報を基に、自分なりに図に表させることが有効である。そして、その図を基にして、式の意味を説明させることで、筋道を立てて考えたことを表現し、説明する力を育成することが大切である。

エ これからの指導に向けて

今回の調査によって、知識・技能の定着と筋道を立てて考え、表現する力に課題があることが分かった。知識・技能の定着を図るためには、授業や家庭学習において、計算練習をさせることはもちろんであるが、算数の用語の意味を理解させ、考えたことを式だけでなく言葉や図や表も使って表現する力の定着も図る必要がある。また、筋道を立てて考え、表現する力の育成においては、特に、式から読み取ったことを言葉や図や表を関連付けて説明する力が十分に育っていないことが課題として考えられる。また、基礎的・基本的な知識・技能を活用する力にも課題が見られた。そこで、これからの指導に向けて、教師意識調査結果を踏まえつつ、次の4点に留意しながら授業に取り組んでいくことが大切であると考えられる。

(ア) 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。

基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るためには、授業の始めに前時の内容を振り返ったり、家庭学習として学習用プリントを配布したりする際に、児童が正しい計算方法を身に付け、算数の用語を理解できているかを個別に確認しておくことが大切である。誤った計算方法を覚えた児童が、家庭学習で多くの練習問題を解けば、誤った計算方法が定着してしまうことになる。このようなことを防ぐために、授業の終末において、児童に練習問題を解かせる際には、教師がたとえ1問であっても、全児童が正しい計算方法を身に付けているかどうかや算数の用語を理解できているかどうかを確認することが大変重要である。単元によっては、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る学習用プリント(基本問題)が、佐賀県教育センターのWebページからダウンロードできるので、授業や家庭学習で使う学習用プリントとして利用してほしい。

(イ) 考えたことを式だけでなく言葉や図や表も使って表現する活動を取り入れる。

課題解決の過程においては、式だけでなく、言葉や図や表も使って考えを表現させることが大切である。指導に当たっては、既に分かっていることを基に、考えたことを式だけでなく、言葉や図や表も使って表す活動を取り入れる。言葉や図や表を使って考えを表現させる際には、以下のようなことを大切にしたい。

言葉	言葉を使うよさは、順序立てて考えを表現できることである。また、何を求めようとしているのかを明確にすることができる。式だけでは表現できない立式の根拠や式の意味を表現させていくことが大切である。
図	図を使うよさは、問題場面を把握しやすくすることである。算数で扱う図については、テープ図、線分図、関係図、面積図など多くの種類がある。これらの図は、かき方の指導を行わずしてかけるようになるものではない。発達段階に応じて、それらの図を順序よくかくための適切な指導が必要である。
表	表を使うよさは、複雑な数量の関係を簡潔に表すことができることである。関数の考えを必要とする単元においては、表に表すことで変わり方のきまりを見付けやすくすることができる。表をかかせる際には、伴って変わる2つの数量に着目させることが大切である。

以上のことから、式だけでなく、言葉や図や表も使って考えを表現することのよさを実感させるような指導を行うことで、筋道を立てて考えを表現する力の育成が期待できる。

(ウ) 式から読み取ったことを言葉や図や表を関連付けて説明する活動を取り入れる。

児童にとって、立式の根拠や式の意味を読み取ることは、非常に難しいことである。そこで、立式の根拠や式の意味を捉えさせるためには、式と言葉や図や表を関連付けて考えさせることが有効である。指導に当たっては、考え方が複数ある問題において、小集団や学級全体で考えさせる際に、式のみを取り上げてその意味を説明する活動を仕組むことは効果的である。その際、立式の根拠や式の意味について、式と言葉や図や表を関連付けながら説明するよう指導することが大切である。このような活動を通して、立式の根拠や式の意味を筋道を立てて説明する力が育つと考える。

○ 教師意識調査結果から

教師意識調査(28)の「算数で、児童が問題について、目的意識をもって、具体物や言葉、数、式、図、表、グラフなどを用いて考え、自分の考えをもつ活動を取り入れた授業を行っていますか」の質問に対して、「多くの単元で行っている」「半分程度の単元で行っている」と回答した教師の割合は、合わせて86.9%であった。佐賀県内の算数の授業で、約9割の教師が、半分以上の単元において上記の活動を取り入れていることが分かる。この活動においては、上記(イ)、(ウ)の視点をもって指導に当たることが大切である。式と言葉や図や表を使って考えを表現し、それらを関連付けて考えることで根拠を明らかにできるよさを児童に実感させることが、この活動を一層充実したものにすると考える。

(エ) 算数の学習や日常の事象において、基礎的・基本的な知識・技能を活用する課題の設定をする。

児童が、算数の授業で身に付けた基礎的・基本的な知識・技能を活用して、算数の学習や日常の事象における課題を解決することは、算数を学ぶよさを実感することへとつながる。そこで、算数の学習においては、本時の学習がどのような既習事項と関連しているかを児童に捉えさせることが大切である。そのためには、これまでに児童は何を学び、何を学んでいないのかを明らかにし、系統性を踏まえて指導していく必要がある。また、児童が学んだことを振り返りやすくように掲示物の工夫をしたり、見やすく整理されたノートモデルを示したりすることも有効である。単元末や学期末では、学んだことが身の回りの生活場面においてどのように使われているかを探る活動を取り入れ、算数の学習内容と日常の事象を関連させることが大切である。算数の学習内容と日常の事象を関連付けた発展的な問題を積極的に取り入れることは、基礎的・基本的な知識・技能を活用する力の育成に効果的だと考える。その際、単元によっては、数学的な思考力・判断力・表現力を育む学習用プリント(数学的な思考力・判断力・表現力を育む問題)が、佐賀県教育センターのWebページからダウンロードできるので、指導のポイントを参考にして、活用してほしい。

オ 授業実践に参考となるリンク



授業に役立つ実践研究



授業・自己研修・校内研修のための資料集

最終更新日:2013-10-21

平成25年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > Ⅲ 各教科の調査結果の分析 > 小学校理科

Ⅲ 各教科の調査結果の分析

※中学1年生の調査については、小学6年生の学習内容としているため、小学校の項で分析している。

小学校理科

学習の目的をもたせ、観察・実験を構想し、考えを表現させる授業を

評価の観点別正答率では、小学5年生の「自然事象についての知識・理解」と小学6年生の「科学的な思考・表現」、中学1年生の「科学的な思考・表現」「自然事象についての知識・理解」においては「おおむね達成」の基準を上回ったが、その他は下回る結果となった。今後は、児童に学習の目的を明確にもたせ、それを解決させるためにはどのような観察・実験を行うのか考えさせる必要がある。その上で観察・実験の予想や計画、考察の場などで自分の考えをもち、友達と交流するような言語活動や学習した内容と身の回りの自然事象との関連を図るような学習活動が必要である。

この後、評価の観点については、以下のように記す。

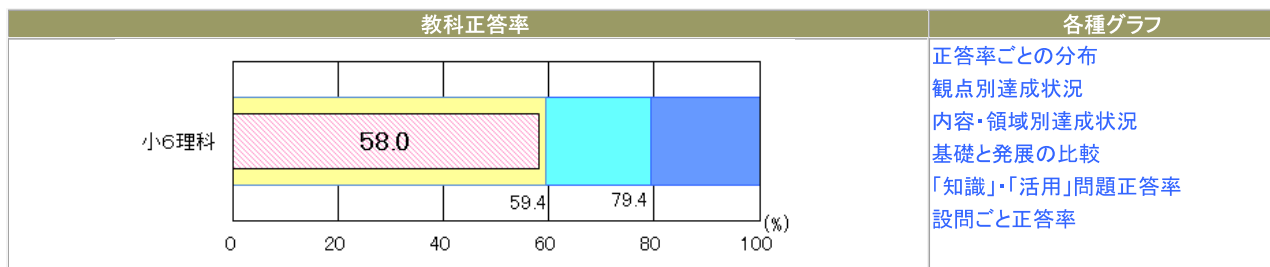
- | | | |
|-----------------|---|-----------|
| ○自然事象への関心・意欲・態度 | → | 本調査では設定なし |
| ○科学的な思考・表現 | → | 「思考・表現」 |
| ○観察・実験の技能 | → | 「技能」 |
| ○自然事象についての知識・理解 | → | 「知識・理解」 |

ア 結果の概要

(凡例) 要努力(おおむね達成の基準を下回る) おおむね達成 十分達成

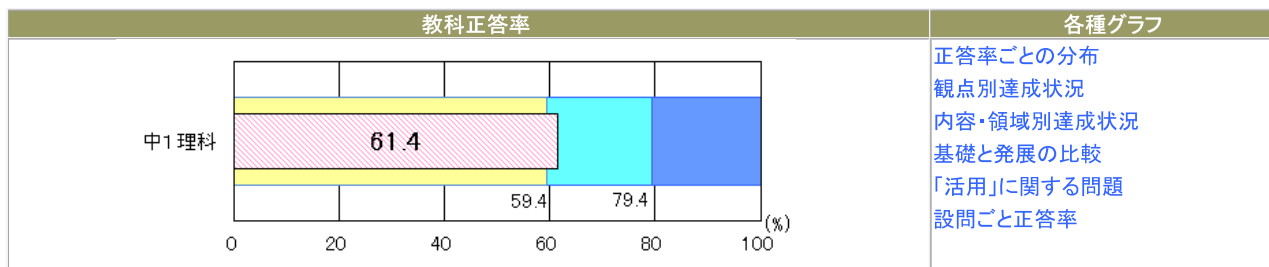
(ア) 教科及び設問毎正答率

		教科正答率		各種グラフ			
				正答率ごとの分布 観点別達成状況 内容・領域別達成状況 基礎と発展の比較 「活用」に関する問題 設問ごと正答率			
小学理科 設問ごと正答率							
大問	小問	出題のねらい	問題形式	正答率	無解答率	期待正答率 十分達成	期待正答率 おおむね達成
1	(1)①	容器に閉じ込めた空気を押し縮める実験をすることができる	選択	56.1	0.2	85	65
	(1)②	閉じ込めた空気を押し縮めると体積は小さくなるが、元に戻ろうとして手ごたえが大きくなることを理解している	選択	83.0	0.2	85	65
	(2)	空気と水を一緒に閉じ込めたとき、閉じ込めた空気は押し縮められるが、水は押しても体積は変わらないことを説明することができる	選択記述	54.2	2.7	75	55
2	(1)	星の並びから、冬の代表的な星座であるオリオン座であることを理解している	短答	94.5	1.5	85	65
	(2)	星は、明るさによって分けられていることを理解している	選択	82.2	0.8	85	65
	(3)	星座の方位を、方位磁針によって調べることができる	選択短答	38.2	1.4	80	60
	(4)	方位を調べる道具の名前を理解している	短答	93.4	2.1	85	65
3	(1)	腕を伸ばすときの筋肉の様子を理解している	選択	36.5	0.2	80	60
	(2)	骨と骨のつなぎ目で、体を曲げることができるところを関節ということを理解している	短答	92.7	1.7	85	65
	(3)	ウサギの骨の様子を理解している	選択	97.7	0.3	80	60
4	(1)	金属は、温めると体積が膨張し、冷やすと収縮することを理解している	選択	91.7	0.6	85	65
	(2)	水を温めると体積が膨張することを基に、実験の結果を考え、その理由を説明することができる	選択記述	16.2	6.2	75	55
	(3)①	くぼみのあるボールに湯を掛けると元の大きさに戻ること、気体の体積の変化とを関係付けて説明することができる	記述	66.1	5.0	75	55
	(3)②	再びボールにくぼみができたことを、湯を掛けることをやめたことと気体の体積の変化とを関係付けて説明することができる	記述	60.2	6.0	70	50
	(4)	体積の変化が大きい順に、空気、水、金属であることを理解している	選択	61.1	1.0	80	60
5	(1)①	金属の温まり方を見るための実験をすることができる。(※)	記述	34.3	5.9	80	60
	(1)②	金属は、熱したところから順に温まることを理解している	選択	73.4	1.2	80	60
	(2)	水は、温められると上方に移動することを基に、試験管の水の一番上の水温が最も高くなることを説明することができる	記述	43.8	8.3	75	55
	(3)	空気の温まり方について理解している	選択	72.6	1.3	80	60
6	(1)	水が冷やされて氷に変わる様子を見るための実験をすることができる	選択	92.4	0.7	80	60
	(2)	水は0℃になると凍り始め、全部の水が氷になると温度がさらに下がることを理解している	選択	68.9	1.3	85	65
	(3)	氷の表面が盛り上がったことと、水が氷になると体積が増えることを関係付けて説明することができる	記述	46.0	7.6	70	50
7	(1)	生き物の季節ごとの活動や成長の様子を理解している	選択	58.3	1.5	80	60
	(2)	サクラの開花日が遅れる理由を、サクラの開花と気温とを関係付けて説明することができる	記述	68.9	8.2	75	55
8	(1)	百葉箱という装置の名前を理解している。(※)	短答	72.6	10.3	80	60
	(2)	天気によって1日の気温の変化の仕方に違いがあることを基に、雨の日の気温の変化を説明することができる	選択記述	46.3	3.2	75	55
9		空気中の水蒸気が水に変わることを、温度と関係付けて説明することができる	記述	38.0	8.2	70	50
10	(1)①	並列つなぎという言葉を理解している	短答	55.5	5.4	80	60
	(1)②	並列つなぎの回路を作ることができる	短答	65.8	7.7	80	60
	(1)③	乾電池1個のときと並列つなぎにしたときの電流の大きさと流れる向きを考えることができる	選択	58.2	5.5	80	60
	(2)①	電気を通す物を使ってスイッチを作ることができる	選択	81.9	4.9	85	65
	(2)②	電気を通したり、通さなかったりすることができるスイッチを考えることができる	選択	28.3	5.6	75.0	55.0
			(※)正答率の経年変化を見るため、平成24年度に引き続き再出題				



小6理科 設問ごと正答率

大問	小問	出題のねらい	問題形式	正答率	無解答率	期待正答率十分達成	期待正答率おおむね達成
1	(1)	雲画像と実際の天気とを関係付けて考えることができる	選択	92.8	0.1	80	60
	(2)	台風が天気及ぼす影響の主な特徴を理解している	選択	67.9	0.1	80	60
2	(1)	インゲン豆の発芽の条件を調べる比較実験を計画することができる	記述	45.9	2.7	80	60
	(2)	インゲン豆の種子の部位の役割を理解している	選択	61.9	0.3	80	60
	(3)	発芽するときや発芽してしばらくの間でんぷんを使うことを基に、子葉がいぼんだ理由を説明することができる	記述	50.9	9.0	75	55
3	(1)	発芽したインゲン豆の成長に肥料が必要かを調べる実験を計画することができる	選択	85.8	0.2	80	60
	(2)	発芽したインゲン豆の成長に日光が必要かを調べる実験を計画することができる	選択	84.8	0.2	80	60
	(3)	発芽したインゲン豆が、条件の違いによってどのように成長していくかを考えることができる	選択	74.2	0.4	80	60
	(4)	インゲン豆が成長するために必要な条件を基に、ウキクサが盛んに成長する条件を考えることができる	記述	37.9	10.8	75	55
4	(1)	メダカの稚魚の成長に必要な養分が、腹の中にあることを理解している	短答	60.9	1.4	85	65
	(2)	メダカのオスの特徴を理解している	選択 短答	67.6	0.6	80	60
	(3)①	対物レンズを正しく選ぶことができる	選択 短答	65.0	5.8	85	65
	(3)②	ピントを正しく調整することができる	選択 短答	33.7	9.0	85	65
5	(1)①	羊水の名称を理解している	短答	63.7	9.0	85	65
	(1)②	へその緒の名称と、その役割を理解している	選択 短答	23.5	1.1	80	60
	(2)①	受精卵が成長し子どもが生まれることを理解している	短答	12.4	7.0	80	60
	(2)②	生命の連続性について理解している	短答	76.4	5.0	80	60
6	(1)	アサガオの花の部位の名称を理解している	短答	86.9	1.3	85	65
	(2)	アサガオの結実の条件を確かめる実験を分析し、Bのアサガオに実ができた理由を説明することができる	記述	47.4	7.4	70	50
7	(1)	川の内側と外側とで流れの速さが違うことを理解している	選択	84.4	1.1	85	65
	(2)	川底の形を、川の流れの速さと浸食作用、運搬作用を関係付けて説明することができる	記述	65.3	5.7	75	55
	(3)	洪水を防ぐためのスーパー堤防の工夫を理解している	選択	65.5	1.3	80	60
8	(1)	電流の大きさが変わらないつなぎ方の名称を理解している	短答	56.5	4.5	80	60
	(2)	並列つなぎの回路を作ることができる	短答	18.4	7.4	80	60
	(3)	電磁石の磁力の変化の条件を理解している	短答	32.3	6.2	80	60
	(4)	クレーンの役割と電磁石の性質とを関係付けて説明することができる	記述	33.1	9.0	70	50
9	(1)	メスシリンダーの名称を理解している	短答	63.3	12.6	85	65
	(2)	食塩を溶かす前と溶かした後の質量を正しく量ることができる	記述	62.5	7.7	80	60
	(3)㉞	海水をろ過する理由を考えることができる	記述	49.2	12.2	70	50
	(3)㉟	ろ過した海水を熱する理由を考えることができる	記述	27.2	12.0	70	50
10	(1)	実験の結果から、10往復の平均時間や1往復の時間を求めることができる	短答	68.8	6.0	80	60
	(2)	条件を制御した実験計画から実験結果を考えることができる	選択	73.3	6.9	80	60
	(3)	ふりこが往復する時間の変化の要素を理解している	選択	75.1	8.3	80	60



中1理科 設問ごと正答率

大問	小問	出題のねらい	問題形式	正答率	無解答率	期待正答率十分達成	期待正答率おおむね達成
1	(1)	石灰水の性質を理解している	短答	81.4	2.8	85	65
	(2)	検知管の名称を理解している	短答	32.9	26.9	80	60
	(3)	ものを燃やした後の空気の様子を理解している	選択	42.1	0.4	80	60
2	(1)	肺の働きを基に、酸素を最も多く含む血液が流れている場所を考えることができる	選択	53.9	0.6	75	55
	(2)かん臓	肝臓の働きを理解している	選択	68.3	0.5	80	60
	(2)じん臓	腎臓の働きを理解している	選択	74.6	0.6	80	60
	(3)	食べ物の通り道を、消化管ということを理解している	短答	32.9	13.7	85	65
3	(4)	光合成の働きを基に、酸素がなくなる理由を説明することができる	記述	72.8	5.7	75	55
	(1)	液性によるリトマス紙の色の変化を理解している	短答	61.9	2.2	85	65
	(2)	水溶液と金属の反応を基に、水溶液を特定する実験をすることができる	短答	57.8	4.6	80	60
4	(3)	水溶液の性質を基に、水溶液を特定する実験をすることができる	選択	37.1	0.9	80	60
	(1)	ヨウ素液を使ってでんぷんの有無を調べることができることを理解している	短答	72.8	9.9	85	65
	(2)	条件を整えて実験をすることができる	記述	22.7	11.1	80	60
5	(3)	葉いでんぷんがないことを確かめるための手立てを取ることができる	選択	63.6	1.3	80	60
	(1)	支点、力点、作用点について理解している	選択	91.1	0.4	85	65
	(2)	てこの性質を、身の回りにある物に応用して考えることができる	選択記述	61.7	1.4	70	50
6	(1)	てこがつり合うときの規則性を理解している	短答	90.3	0.4	85	65
	(2)	てこがつり合うときの規則性を考えることができる	選択	76.8	1.4	70	50
7	(1)	小さな生物が枯れ葉を分解していることを基に、地面にある枯れ葉が増えない理由を考えることができる	選択	81.6	0.6	75	55
	(2)	食物連鎖の根底に植物があることを基に、肉食動物が生きていけない理由を説明することができる	記述	53.4	3.8	75	55
	(3)	地球上の水の循環の仕組みを基に、川の水がなくなる理由を説明することができる	記述	69.0	5.7	70	50
8	(1)	月の見え方を調べるモデル実験をすることができる	選択記述	83.7	0.9	80	60
	(2)	太陽と月との位置関係を基に、月の見え方を考えることができる	選択	52.2	1.0	75	55
	(3)	太陽と月との位置関係と月の見え方を基に、和歌に歌われている月の見え方を考えることができる	選択	38.2	1.4	70	50
9	(1)①	コンデンサという蓄電するための器具の名称を理解している	短答	60.9	16.7	85	65
	(1)②	手回し発電機とコンデンサとを正しくつなぐことができる	短答	73.7	3.1	80	60
	(2)	豆電球と発光ダイオードのつなぎ方の違いを理解している	短答	30.8	2.5	80	60
10	(1)	地中にある古生物の遺骸や生活の痕跡を化石ということを理解している	短答	91.6	4.0	85	65
	(2)ア	泥岩の名称を理解している	短答	58.3	13.7	85	65
	(2)イ	砂岩の名称を理解している	短答	77.9	8.6	85	65
	(2)ウ	礫岩の名称を理解している	短答	55.6	12.6	85	65
11		電熱線の太さと発熱量の関係を説明することができる	選択記述	46.7	12.7	70	50

(イ) 評価の観点別正答率

①小学5年生

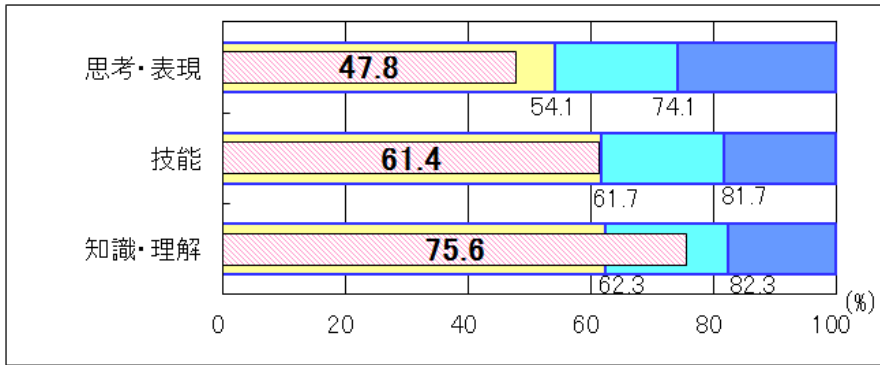


図1 H25年度(小学5年生理科)評価の観点別正答率

「知識・理解」は13.3ポイント「おおむね達成」の基準を上回った。「技能」は0.3ポイント、「思考・表現」は6.3ポイントそれぞれ「おおむね達成」の基準を下回った。学習したことを基に事象の説明をしたり、学んだことと事象を関係付けて説明したりすることに課題が見られた。

②小学6年生

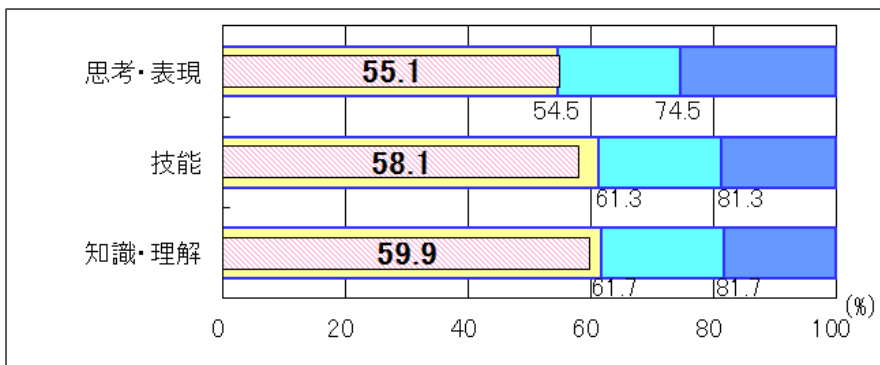


図2 H25年度(小学6年生理科)評価の観点別正答率

「思考・表現」は0.6ポイント「おおむね達成」の基準を上回った。「知識・理解」は1.8ポイント、「技能」は3.1ポイントそれぞれ「おおむね達成」の基準を下回った。へその緒の名称や実験の計画、顕微鏡のピント調整など基本的な知識や観察・実験の技能に課題が見られた。

③中学1年生

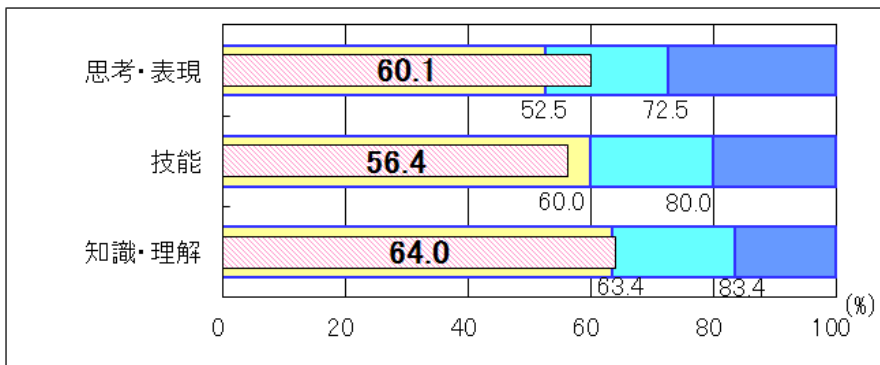


図3 H25年度(中学1年生理科)評価の観点別正答率

「思考・表現」は7.6ポイント、「知識・理解」は0.6ポイントそれぞれ「おおむね達成」の基準を上回った。「技能」は3.6ポイント「おおむね達成」の基準を下回った。条件を制御して行う実験や、水溶液の特定をする実験について課題が見られた。

(ウ) 内容・領域別正答率

①小学5年生

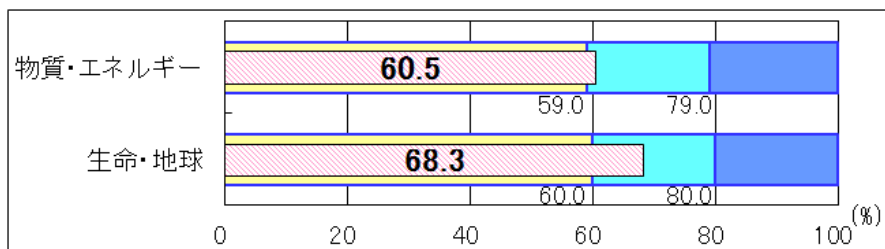


図4 H25年度(小学5年生理科)内容・領域別正答率

「生命・地球」は8.3ポイント、「物質とエネルギー」は1.5ポイントそれぞれの「おおむね達成」の基準を上回った。「物質・エネルギー」では、金属、水、空気と温度による体積変化や熱の伝わり方に課題が見られた。

②小学6年生

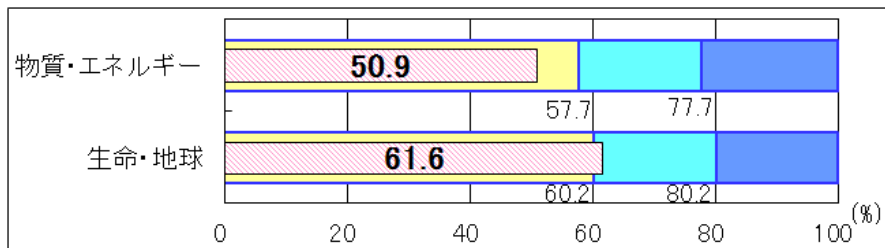


図5 H25年度(小学6年生理科)評価の内容・領域別正答率

「物質・エネルギー」は、6.8ポイント「おおむね達成」の基準を下回っている。「生命・地球」は、1.4ポイント「おおむね達成」の基準を上回っている。「物質・エネルギー」は電磁石の性質、もののとけ方、「生命・地球」では、生命のつながりについて課題が見られた。

③中学1年生

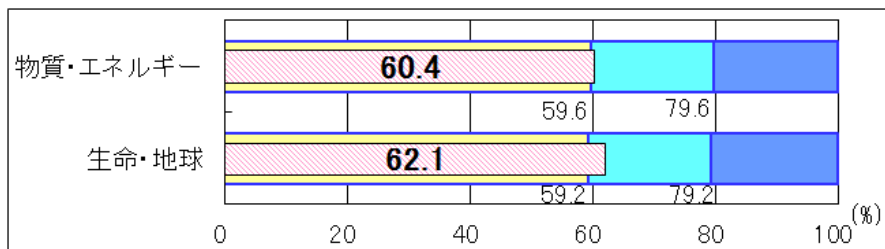


図6 H25年度(中学1年生理科)評価の内容・領域別正答率

「物質とエネルギー」「生命・地球」は共に「おおむね達成」の基準を上回っている。「生命・地球」では、月と太陽や土地のつくりと変化に課題が見られた。

イ 経年比較

(凡例) □:要努力(おおむね達成の基準を下回る) □:おおむね達成 □:十分達成

評価の観点別に見ていくと、「技能」はどの学年においても「おおむね達成」の基準を下回った。そこで、平成24年度の小学5年生と平成25年度の小学6年生を取り上げ、「観察・実験の技能」に関する経年比較を行い分析することとする。また、平成24年度の問題から、同一問題を出題している観察・実験の技能を問う問題について分析する。

学習指導要領では、理科学習において科学的な見方や考え方の育成に重点をおいていることから「思考・表現」と「活用」に関する問題の経年比較を行う。

(ア) 「技能」の経年比較

①平成24年度小学5年生と平成25年度小学6年生(同一児童)

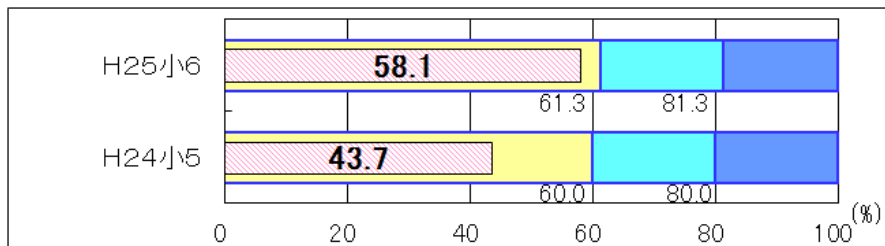


図7 H24・H25年度(小学校理科)「技能」正答率の経年比較

平成24年度の小学5年生では、「おおむね達成」の到達基準60.0に対して、正答率は43.7で16.3ポイント下回る結果であった。平成25年度の小学6年生は「おおむね達成」の到達基準61.3に対して、正答率は58.1ポイントで3.2ポイント下回った。これを到達度分布で比べてみると図8のようになる。

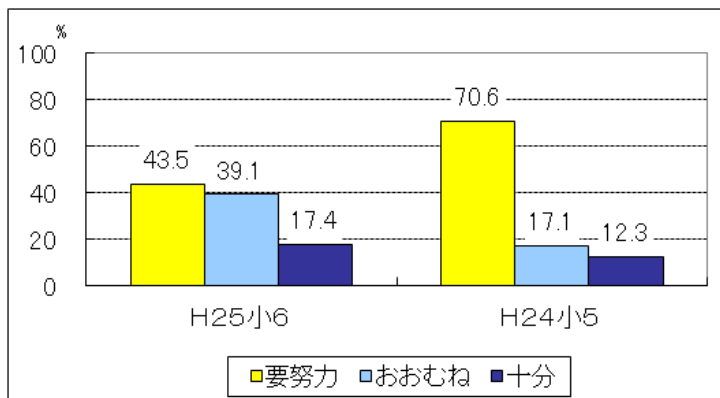


図8 H24年度小学5年生とH25年度小学6年生「技能」の到達度分布

平成24年度に比べて平成25年度は「十分達成」の割合は5.1ポイント、「おおむね達成」の割合は22.0ポイント増加している。平成25年度の小学6年生の「技能」の問題についてみてみると、種子の発芽を確かめるために条件制御をする実験、顕微鏡の使い方や電子天秤での質量の量り取り方などが出題されている。小学5年生で身に付けさせる力である、条件を制御する力が身に付きつつあると考えられる。高学年の観察・実験はグループ実験になりがちであるが、ペア実験や一人一実験を取り入れていただいていると思われる。しかし、「おおむね達成」の基準に届いていないことから、今後も継続的な取組が必要である。

②平成24年度中学1年生と平成25年度中学1年生(同一学年)

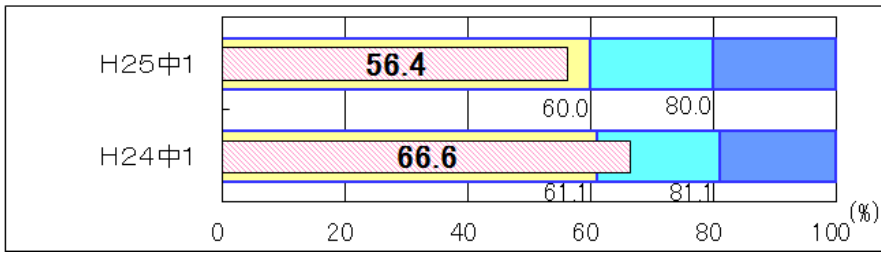


図9 H24・H25年度中学1年生(中学校理科)「技能」正答率の経年比較

平成24年度の中学1年生では、「おおむね達成」の到達基準61.1%に対して、正答率は66.6で5.5ポイント上回る結果であった。平成25年度の小学6年生は「おおむね達成」の到達基準60.0%に対し正答率は56.4で3.6ポイント下回った。これを、到達度分布で比べてみると図10のようになる。

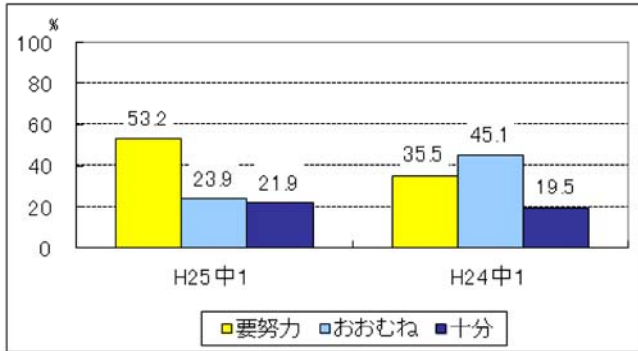


図10 H24・H25年度の中学1年(同学年)の「技能」の到達度分布の経年比較

平成24年度に比べて平成25年度は「十分達成」の割合は2.4ポイントで増加しているが、「おおむね達成」の割合は20.2ポイント減少している。「要努力」の割合が17.7ポイント増加し、課題が見られる。平成24年度は、実験を行うための条件について問う問題に関して課題が見られたが、平成25年度も同様の傾向が見られた。平成25年度の問題では、「植物の葉に日光が当たるとでんぷんができることを調べるための前提条件」を問う問題や「水溶液を特定するための方法」である。「なぜそのようにするのか」「正しい結果を導き出すためにはどの条件を揃え、どの条件を揃えるのか」ということを考えさせる時間が十分に確保できていないことが理由の1つとして挙げられる。

③平成24年度と平成25年度小学5年生の(同一問題)の経年比較

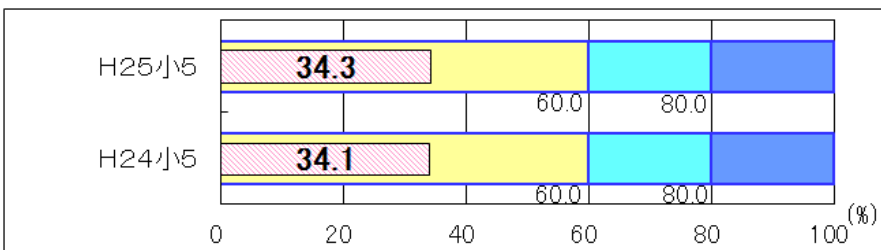


図11 H24・H25年度小学5年生(同学年)の「技能」(同一問題)の経年比較

「おおむね達成」の基準に平成24年度は、25.9ポイント下回る34.1、平成25年度は25.7ポイント下回る34.3であった。金属の棒の温まり方を見る問題では、平成25年度は平成24年度を0.2ポイント上回ったが、「おおむね達成」の到達基準に届いておらず課題が残る結果となった。金属の棒の上に「ろう」を乗せ、アルコールランプで熱し、金属の温まり方を調べる実験についての問題だった。金属の棒がアルコールランプで熱せられ温まっていく様子は視覚的には分かりにくい。それを見えるようにするのが「ろう」である。なぜ「ろう」を乗せるのか、温まり方が見えるようにするためにはどうすればよいのかなどと児童に考えさせることが大切である。

(イ) 「思考力・表現力」の経年比較

①平成24年度と平成25年度小学5年生(同一学年)

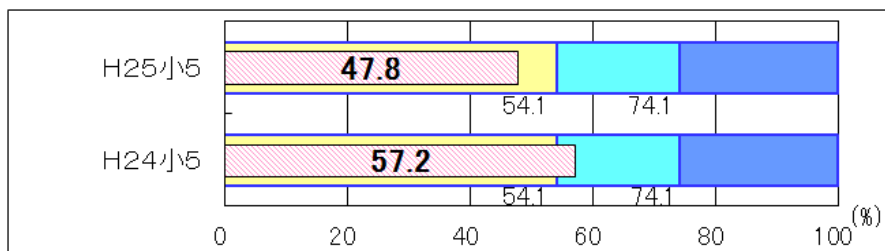


図12 H24・H25年度(小学5年生理科)「思考・表現」の正答率の経年比較

平成24年度の小学5年生では、「おおむね達成」の到達基準54.1に対して、それを3.1ポイント上回る57.2であった。平成25年度の小学5年生は「おおむね達成」の到達基準54.1に対して6.3ポイント下回る47.8であった。これを到達度分布で比べてみると図13のようになる。

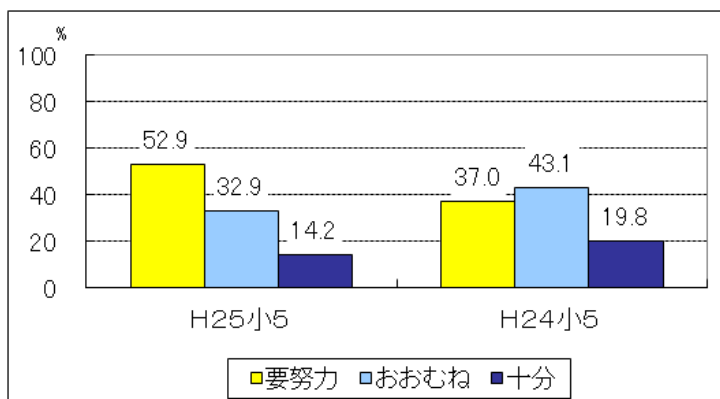


図13 H24・H25年度小学5年生(同学年)の「思考・表現」の到達度分布

平成24年度に比べて平成25年度は「十分達成」の割合は5.6ポイント減少し、「おおむね達成」の割合は10.2ポイント減少している。平成24年度は自然の事象と学んだ知識を関係付けて説明することに課題が見られたが、平成25年度は、観察・実験の結果について学んだ知識を使って説明することに課題が見られた。平成25年度の小学5年生の「思考・表現」の問題について見てみると、「空気と水を一緒に閉じ込め、押し縮めた時のそれぞれの体積変化についての説明」、「水は温められると上方に移動することをもとに試験管の水は1番上の温度が高くなることを説明すること」などがあつた。前者は空気と水を押し縮めた時の体積変化については理解しているが、それを組み合わせで考えたときに、「水も少しぐらい縮むのではないか」と考えたのではないかと考えられる。後者の実験はサーモテープを使って行われることが多い。サーモテープの色の変化により、水の温度変化を知ることができるが、サーモテープの色が変わったこと(実験結果)と、水は温まると上の方に上がり、上の方にあつた冷たい水が下の方に下がることを繰り返して温まっていくこと(結論)がつながっていないためではないかと思われる。

(ウ) 「活用」に関する問題の経年比較

①平成24年度小学5年生と平成25年度小学6年生(同一児童)

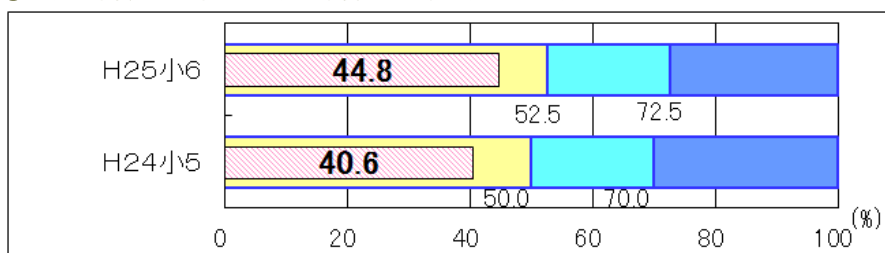


図14 H24年度小学5年生とH25年度小学6年生(同一児童)「活用」に関する問題の正答率の経年比較

平成24年度の小学5年生では、「おおむね達成」の到達基準50.0に対して、正答率は40.6で9.4ポイント下回った。平成25年度の小学6年生は「おおむね達成」の到達基準52.5に対して正答率は44.8で7.7ポイント下回った。共に「おおむね達成」の基準には届いていない。平成24年度、平成25年度共に身近な自然の事象について、学んだ知識を使って説明することに課題が見られた。平成25年度の小学6年生の「活用」の問題について見てみると、「アサガオの結実の条件を確かめる実験を分析すること」、「海水から塩を取り出すためにろ過した海水を熱する理由」などがあつた。前者はアサガオは受粉すると結実することを確かめる実験で、結実するしないはずのものが結実した理由を述べるものだった。意図的に受粉させなくても、昆虫を介して受粉することまで思考できなかったと思われる。後者は、海水から塩を取り出すためにろ過し、水分を蒸発させることで、塩を取り出すことができる。授業ではホウ酸やカリウムミョウバンを使って実験を行う。授業で学んだことを問題の設定場面に適用できなかったと考えられる。

ウ 設問ごとに見た傾向と指導改善の手立て

平成25年度調査結果を受け、観察・実験の「技能」の定着の面から「技能」について分析する。また、自らの考えを表現する点や学習指導要領にて重点の1つとなっている実社会・実生活との関連を重視する内容を充実させる点から「思考・表現」、「知識・技能の活用」について分析する

傾向1 **学習問題に沿う観察・実験の計画をしたり、実験方法について考えたりすることに課題がある。**

[小学5年生 大問5(1)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問5(1)	金属のあたまり方を見るための実験をすることができる (記述式)	金属の棒のあたまり方を見る実験では金属の棒にろうを乗せるが、なぜろうを乗せるのかを説明する。	34.3	5.9	80.0	60.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率60.0に対して、正答率は34.3であり26.7ポイント下回った。無解答率は5.9であった。金属が温まっていく様子は直接目で見るができない。金属の温まり方を目に見えるようにすることを児童が意識できているかがポイントである。実際に実験をして、現象は理解するが、どうしてその実験をするのか、どうしてその素材を使うのかということを理解して観察・実験をしていないことが正答率の低さにつながったと思われる。

○ 指導改善の手立て

普段の観察・実験の中で実験方法を教師側から提示してしまっていないだろうか。金属棒の温まり方を調べるのであれば、児童に「フライパンを上から見ていてどこからどのように温まっていくか見えないよね。金属棒の温まり方も目に見えないね。では、金属棒が温まっていく様子を目に見えるようにするにはどうすればよいだろう。」と児童と一緒に実験計画を立てていくことが大切であると考えられる。実験の方法を考えることによって、興味や関心が更に高まり、最後まで追究する姿につながると考えられる。また、実験中に「どうしてろうを使うのかな」などの実験計画を振り返るような声掛けをすれば、ろうが溶ける様子を見ること、金属の棒の温まり方を見ることにつながるといふことに気付くのではないかと考えられる。

[小学6年生 大問2(1)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問2(1)	インゲンマメの発芽の条件を調べる比較実験をすることができる。 (記述式)	植物の発芽について、一つは冷蔵庫に入れるが、もう一つは室内の箱の中に入れる理由を説明する。	45.9	2.7	80.0	60.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率60.0に対して、正答率は45.9であり14.1ポイント下回った。無解答率は2.7であった。植物の発芽について実験を行う場合は、変化させる要因と変化させない要因といった条件を制御して観察・実験を計画的に進めさせることが大切である。水や空気を要因とする実験計画は児童にとって分かりやすいものである。それに対して温度を要因として考えていく場合、異なる条件は温度だけであり、そろえる条件はそのほか全てである。児童は温度を下げるために冷蔵庫に入れることは理解することができるだろうが、冷蔵庫を開けてしまうと中は暗いことまでは思いつかないのではないだろうか。光という要因をそろえるために箱に入れることは理解できていないと考えられる。

○ 指導改善の手立て

小学5年生で育てる問題解決の能力として自然の事物・現象の変化や働きをそれらに関わる条件に目を向けながら調べるのが学習指導要領に挙げられている。植物の発芽の単元は年間で最初に位置する。そのため、児童に条件を制御する力は育っていないことが予想される。条件制御については変化させる要因と変化させない要因について児童と教師が一つ一つ丁寧に確認しながら考えていかねばならない。また制御した条件をいつでも見ることができるように掲示をしたり、種子の近くに条件を張り出したりすることで常に確認ができるようにすることが大切であると考えられる。その後の単元でも繰り返し条件制御を意識した授業を仕組んでいけば、児童に条件を制御する力が身に付くと考えられる。

傾向2 自然の事象・現象の解釈し、学んだ知識を活用して考えを述べることに課題がある。

[小学5年生 大問9]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問9	空気中の水蒸気が水に変わ ることを、温度と関係付け て説明することができる。 (記述式)	冷やしていたペットボトルを 外に出すと、ペットボトルの 表面で、空気中の水蒸気が 冷やされて水になることを 「水蒸気」という言葉を使っ て説明することができる。	38.0	8.2	70.0	50.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率50.0に対して、正答率は38.0であり12.0ポイント下回った。無解答率は8.2であった。夏に冷たい飲み物を飲んでいると、コップやペットボトルなどの外側がくもったり、水滴が付いたりすることはほとんどの児童が目にしてしていることである。小学4年生の「すがたを変える水」の単元で、コップの中に冷たい水を入れ、コップの表面に結露してできる水を観察している。しかし、児童は水が目に見えない水蒸気となり、空気中にある状態がイメージできていないのではないだろうか。さらに、空気中に浮かぶ水蒸気が露点に達したために水に戻ったこともイメージできていないのではないかと考えられる。

○ 指導改善の手立て

児童にとって冷たい水を入れたコップの表面に水滴が付くことは、目に見えることなので理解しやすい。しかし、空気中に水蒸気があることやそれが冷やされて水になっていく様子は目に見えない。そこで、教師は水が水面や地表から蒸発している様子や空気中の水蒸気が冷やされて水になる様子をモデル図で描かせたい。モデル図に描き、それを説明することで空気中の水蒸気について具体的なイメージをもつことができるだろう。また、それぞれのモデル図をもち寄り交流することで、友達の考えに疑問を抱いたり、なるほどと感じたりするだろう。そのような活動を通して、児童が科学的な思考力・表現力を身に付けることができると考える。

[小学6年生 大問3(4)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問3(4)	インゲンマメが成長するた めに必要な条件を基に、ウ キクサが盛んに成長する条 件を考えることができる。 (記述式)	観察池にあるウキクサは梅 雨があけると盛んに成長す ることを、植物の成長の学 習を基に説明することがで きる。	37.9	10.8	75.0	55.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率55.0に対して、正答率は37.9であり17.1ポイント下回った。無解答率も10.8であった。インゲンマメを使って植物の成長について学習をしていく。植物の成長に必要な要因一つ一つについては理解できていると思われる。しかし、実際の自然では、そのうちのいくつもの要因が重なって成立している。問題文にある、観察池(他から栄養分が流れてこないこと)、梅雨が明ける(雨が少なくなり日射量が増えること)が読み取れず、学習したことと関係付けて考えることができなかったと思われる。

○ 指導改善の手立て

インゲンマメで植物の成長に必要な条件について学習を進めていくが、単元が終わる頃に「インゲンマメが成長するために必要な条件」から「植物が成長するために必要な条件」と一般化ができていだろうか。一般化というと難しい感じがするが、教科書には野菜を育てるための工夫として、ポリエチレンの覆いをして光を当てないことで雑草の成長を阻害することや畝をつくることで野菜には光が当たり、雑草には光が当たりにくいために育ちにくいことが掲載されている。杉の高木が立ち並ぶ林では、光が届かないために次の世代の木が育ちにくいなどの自然事象を例に出して理由を考えさせるなど学んだことを身の回りの自然に戻して考えさせることが大切だと考える。

[中学1年生 大問8(3)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問8(3)	太陽と月との位置関係を基 に和歌に歌われている月の 見え方を考えることができ る。 (選択式)	「東の野にかぎるひの立 つ見えて かへり見すれば 月傾きむ」の歌で読まれて いる月の形を4つの選択肢 から選ぶことができる。	33.2	1.4	70.0	50.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率50.0に対して、正答率は33.2であり16.8ポイント下回った。無解答率は1.4であった。月と太陽の学習では、月と太陽の位置関係により地球から見える月の形が変わることを学ぶ。和歌の訳には、東の野に太陽が見え始めたときに西の方に沈みかけた月が見えたとある。つまり、東に太陽が見え西に月が見える状態であるから、太陽と月は180度の位置関係にある。和歌からこのような状況が想像できなかったと考えられる。

○ 指導改善の手立て

「生命・地球」領域の学習は、生物・地学分野の諸現象について観察やモデルなどを通して探究することに重点を置き、進めて行く。太陽と月の学習は、月の形は太陽と月の位置関係によって変わること学習する。上弦の月や下弦の月など昼間に見えている月であれば実際に観察し、記録をすることができる。月の出る時刻が遅くなると観察することが困難となる。そこで、太陽と月の位置関係と月の形の関係を探るべくモデル実験となる。ライトを太陽、ポールを月に見立てたモデル実験がよく行われているが、モデル実験をし、結果から結論を導き出すだけになっていないだろうか。モデル実験の結果を考察し、結論付けていくことはもちろん大切なことであるが、モデル実験の結果と実際に観察した月の形と関係付けた考察をさせたい。モデル実験と自然事象をつなげることで児童の思考も深まり、理解も進むと考える。

傾向3 科学的用語の定着に課題がある。

[小学6年生 大問5 (1)②]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問5(1) ②	へそのおの名称とその役割 を理解している (短答式・選択式)	母親の胎盤と胎児をつない でいるものを答え、その役 割を4つの選択肢から選ぶ ことができる。	23.5	1.1	80.0	60.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率60.0に対して、正答率は23.5であり36.5ポイント下回った。無解答率は1.1であった。「へその緒」という言葉は、児童にとってみれば難しい言葉ではない。しかし、学習する以前に「へそのう」と誤認識していて、その誤認識を直すことができなかつたと考えられる。また、「へその緒」の役割として正しくないものを選ぶという答え方が正答率を下げた原因とも考えられる。

○ 指導改善の手立て

児童は小学4年生までの日常生活の中でもへそのおという言葉を目にする機会があつたと思われる。しかし、話言葉として出てくることがほとんどであり、理科の授業で文字言語としてはっきり認識すると思われる。そこで、児童にへそのおは「へその緒」と表記することを伝える。「へその緒」の「緒」は①糸や紐など細長いもの②魂をつなぐものという意味があることを伝える。つまり「へその緒」は母体と胎児をつなぐ大切なもの「緒」であることを印象付けるのである。加えて、へそのおという言葉は何度も書き表させたい。

[小学5年生]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
H25 問8(1)	百葉箱という器具の名 前を知っている。 (短答式)	写真をみて百葉箱とい う言葉を答える。	72.6	10.3	80.0	60.0
H24 問3(1)			61.4	16.3		

○ 解答状況

平成25年度の「おおむね達成」の期待正答率60.0に対して、正答率は72.6であり、12.6ポイント上回った。しかし、無解答率は10.3であった。百葉箱はどの学校にも設置されているが、授業で取り扱う時間が限られているので使うことができる言葉としては身に付いていないと思われる。

○ 指導改善の手立て

小学4年生の学習では、一年間を通して季節と生き物の学習をしていく。それぞれの季節で動物の活動や植物の成長を観察していく。動物や植物の観察を記録するシートに日付、天気、気温、調べる対象等を記録していく。その際に必ず百葉箱を利用するようにしたい。動物や植物が実際に生きている条件と同じ外の気温を測ることも動物の活動や植物の成長と気温が関係していることにつながってくるだろう。年間を通して百葉箱を使って気温を測ることで自ずと用語も定着すると思われる。そのためには百葉箱を使える状態にしておくことも大切である。

エ これからの指導に向けて

今回の調査によって、「技能」はどの学年においても「おおむね達成」の基準を下回り、課題が見られた。これは、学習問題に沿う観察・実験の計画を立てることができなかつたり、観察・実験を行う意味を理解できていなかつたりすることに起因していると思われる。また、「思考・表現」においても平成24年度と比較すると、どの学年においても下回る結果が出ている。特に、自然の事物・現象を解釈し、学んだ知識を活用して自分の考えを述べることに課題があることが分かった。これらの課題を解決していくために次の4つを意識してこれからの指導に取り組むことが大切である。

(ア) 観察・実験の計画を立てたり、実験で使う素材について考えたりすること

理科の授業では、「事象提示」「学習問題」「予想」「観察・実験」「結果の整理」「考察」「結論」と授業が流れていく。学習過程で、実験の計画についてはどのように行われているだろうか。教師側から「今日の実験は〇〇です。△△を使って実験します」と一方的に提示していないだろうか。例えば、小学4年生の金属の温まり方の実験であれば「金属が温まっていく様子は目に見えないからどうすればよいか」と児童に問い掛ける。すると、児童は熱が加わると目に見える形で変化するものを考えるだろう。おそらく児童の考えとしては、バターやマーガリン、氷、ろう、ラードなどが出てくるだろう。教師は、児童の計画を生かした実験をさせてもよいし、「その中で、理科室にありそうなものは」と児童とのやりとりでまずと実験計画を立てることもできる。また、同じ授業でも教科書の実験を教師側から提案しても「どうしてろうを金属の上に置くのか」と児童に問いかけることで、金属の熱伝導の様子が目に見えるようにするためであることに気付かせることができる。ろうは温めると溶けるということを知らない児童も多いかもしれない。単元に入る前に、ロウソクに火を灯して、ろうが溶けるようすを観察させるなど、実験前にレディネス調整をすることも考えられる。平成24年度の全国学力・学習状況調査に「知識・技能」を活用する問題の視点として「構想」が挙げられている。構想とは、身に付けた知識・技能を用いて、他の場面や他の文脈において、問題点を把握し解決の方法を構想したり、問題の解決を想定したりすることができることとあり、観察・実験の計画を立てることを日頃から行っておけば、新たな問題場面で知識・技能を活用した構想をすることができると思う。

「物質・エネルギー」での実験や「生命・地球」の観察などの学習では、対象や目的に応じて観察器具の適切な操作方法を身に付けさせる授業の工夫が必要である。自然の事象について、観察・実験などを通して、対象や目的に応じて意図的に技能を習得させるようにすることが大切である。

(イ) 日常生活と関連を図った問題解決に取り組ませること

学習と日常生活と関連を図るためには、児童が生活の事象から問題を見だし、それを解決していこうとする態度をもたせることが大切である。例えば、6年生の「てこのはたらき」では、重いものをてこを使い支点から力点までの距離が変わると手応えが変わることから学習に入る。その後、支点、力点、作用点の関係を学ぶ。最後に実験用てこを使い、どのような条件になったときに釣り合うのかと学習が進んでいく。私たちの周りには、てこを利用したものがたくさんある。釘抜き(パール)、はさみ、栓抜きなどがそれに当たる。てこの規則性について学習した後、身の回りのてこを使った道具について説明させたり、児童に見付けさせたりする。また、身の回りのてこを使った道具を準備し、実際に体験し、体験したことを基にてこを利用した道具を説明させる。このようにすれば、学びと日常生活や自然事象が関係付けられ実感を持った理解になると考える。このように、常に教師は日常生活と学習との関連を意識した学習指導を行うことが大切である。理科で学習した内容を日常生活の様々な場面で生かし、理科を学ぶ意義や有用性を感じることができる授業を行いたい。

(ウ) 思考と表現を結ぶ言語活動の充実を図ること

言語活動の充実の観点から表現活動は大切である。言語は知的活動(論理や思考)だけでなく、コミュニケーションや感性・情緒の基盤でもある。つまり、理科の学習で観察・実験とともに言語活動は外せないものである。授業場面で考えると、児童が事象に対してどのように考えるのか、どのように解決しようとしているのか、なぜそう思うのかなどの考えを表現させる場が必要である。児童に考えを表現させる場は、①事象提示、②学習問題の作成、③観察・実験の記録、④考察、⑤学んだことを使って自然事象を説明するなどが考えられる。児童は自分では分かっているつもりでも、実際に書いたり友達に説明したり、説明を聞いたりすることで、「自分の分かっている点」「曖昧な点」「間違っていた点」などを整理する。それらを自覚し、再思考することで探究的な学習活動がより充実したものになると考えられる。また、比較や分類、関係付けといった考えるための技法、帰納的な考え方や演繹的な考え方などを活用して説明させたい。観察・実験の結果を整理し、考察したり科学概念を使用して考えたり説明したりしたことを言語化したり、図や絵などを用いて表現したりして自分の考えを顕在化させる授業の工夫が必要である。

(エ)全国学力・学習状況調査「知識・技能」の活用に関する4つの視点を参考にした授業づくりをすること

平成24年度に全国学力・学習状況調査が行われた。全国学力・学習状況調査や国立教育政策研究所の解説資料は今後の理科学習を進めていく上での大きな示唆だと考えられる。

全国学力・学習状況調査は、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題で構成されている。主として「活用」に関する問題では、理科の学習で学んだ知識・技能が実際の自然の中で成り立っていることを捉えたり、日常生活の中で役立てられていることを確かめたりすることができることを問うてある。学習で学んだ知識・技能を活用して考えることの大切さが示されていると言える。

学習で身につけた知識・技能を活用する問題の視点として次の4つが挙げられている。

「適用」…理科で学んだ自然の事物・現象の性質や働き、規則性などに関する知識・技能を、実際の自然や日常生活などに当てはめて用いること。平成25年度佐賀県小・中学校学習状況調査では、「空気中の水が冷たいペットボトルの表面で冷やされて水滴が付くこと」や「インゲンマメの成長する条件から、浮き草が増える条件を考える」が当たる。

「分析」…自然の事物・現象に関する様々な情報及び観察・実験の結果などについて、その要因や根拠を考察し説明することができること。平成25年度佐賀県小・中学校学習状況調査では、「アサガオの結実の条件を考え、確かめる実験を分析し、Bのアサガオに実ができた理由を説明する」が当たる。

「構想」…身に付けた知識・技能を用いて、他の場面や他の文脈において問題点を把握し、解決の方法を構想したり問題の解決を想定したりすることができること。平成25年度佐賀県小・中学校学習状況調査では小学6年生の「発芽したインゲンマメが、条件の違いによってどのように成長していくかを考えることができる」が当たる。

「改善」…身に付けた知識・技能を用いて、自分の考えを証拠や理由に立脚しながら主張したり、他者の考えを認識し、多様な観点からその妥当性や信頼性を吟味したりすることなどにより、批判的に捉え自分の考えを改善できること。平成25年度佐賀県小・中学校学習状況調査では、問題としては該当がないが、「食塩を溶かす前と溶かした後の全体の重さ」について話し合いをしている場面がそれに当たる。

理科の授業は、「知識・理解」、「技能」の習得だけで修めるのではなく、学んだ「知識・技能」を活用する力が大切である。「知識・技能」を活用するために、4つの視点をもった授業づくりをしていくことが必要だと考えられる。

佐賀県教育センターでは、平成25年度も理科授業改善サポートチームによる公開授業研究会を計画している。「知識・技能」の活用や科学的な思考力・表現力を高める言語活動を中心に据えた授業づくりを学ぶことができる。平成24年度の実践例や平成25年度の公開授業研究会を参考にされたい。今年度からは、観察・実験講習会も計画しているので、活用してほしい。

○ 教師意識調査結果より

教師意識調査(31)の「理科で、実験結果やまとめの発表において、児童がお互いにいろいろな考えを出し合い、検討するような授業を行っていますか。」という質問に対して、「多くの単元で行っている」と回答した教師の割合は、43.0%である。実験の結果を発表させ、結果から分かることを自分の力で思考し、それを説明し伝え合い自分の考えを修正し、科学の決まりに迫っていくことが大切である。上記は結果の考察に当たるが、友達との話し合いの中で自分の考え方を批判的に捉え自分の考えを改善していくことになる。また、その時間に学んだことを使っている自然事象を見付けたり説明したりすることで知識を活用するようになるだろうし、実感を伴った理解につながっていくだろう。

オ 授業実践に参考となるリンク



最終更新日: 2013-10-21

平成25年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > Ⅲ 各教科の調査結果の分析 > 中学校国語

Ⅲ 各教科の調査結果の分析

※ 中学1年生の調査については、小学6年生の学習内容としているため、小学校の項で分析している。

中学校国語

「書くこと」「読むこと」を関連付けた指導を充実させる授業づくり

中学2年生、中学3年生共に、全ての評価の観点において、「おおむね達成」の基準を上回った。しかし、「書くこと」「読むこと」の評価の観点に課題が見られた。設問ごとに見ていくと、「書くこと」においては、書いた文章を読み返し、読みやすく分かりやすい文章にすること、「読むこと」においては、文章を読んで要旨を捉え記述することに課題が見られた。このことを踏まえ、「書くこと」と「読むこと」を関連付けた指導を充実させる必要がある。

中学3年で実施した全国学力・学習状況調査を活用した調査については、以下のように記す。

- 主として「知識」に関する問題 → 「国語A」
- 主として「活用」に関する問題 → 「国語B」

国語科においては、評価の観点と内容・領域が重なるという教科の特質上、以下のように記す。

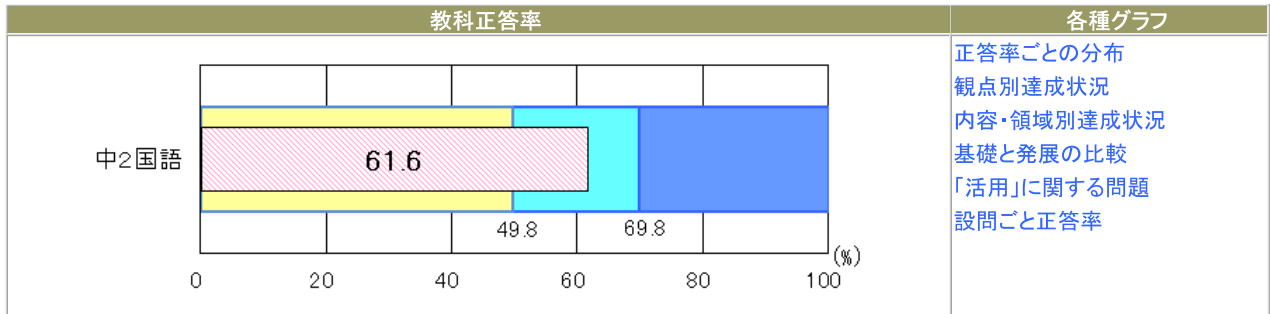
- 国語への関心・意欲・態度 → 「関心・意欲・態度」(中学3年生のみ設定)
- 話す・聞く能力 → 「話す・聞く」
- 書く能力 → 「書く」
- 読む能力 → 「読む」
- 言語についての知識・理解・技能 → 「知識・理解・技能」

ア 結果の概要

各学年ごとに教科の正答率について到達基準との比較を示す。

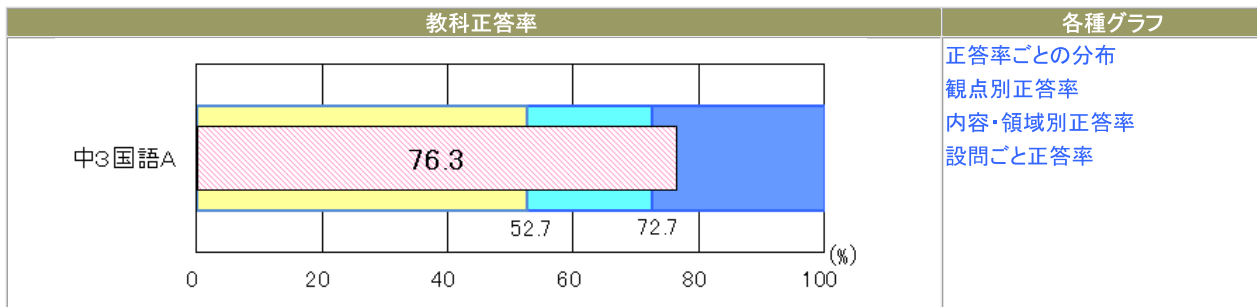
(凡例) : 要努力(おおむね達成の基準を下回る) : おおむね達成 : 十分達成

(ア) 教科及び設問ごと正答率



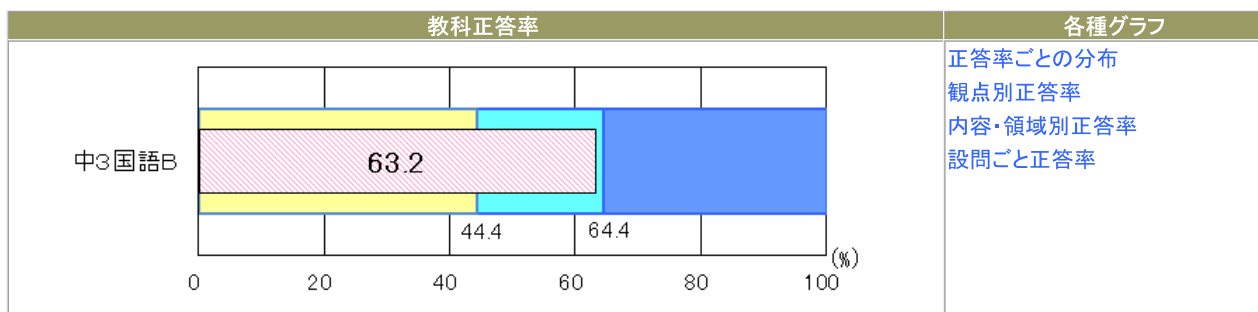
中2国語 設問ごと正答率

大問	小問	出題のねらい	問題形式	正答率	無解答率	期待正答率 十分達成	期待正答率 おおむね達成
1	一	話合いの話題や方向を捉えて的確に話す	選択	67.2	0.3	75	55
	二	相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話す	記述	66.7	5.3	70	50
	三	言葉の調子や間の取り方についての知識を生かして話す	選択	89.3	0.8	75	55
	四	全体と部分との関係に注意して話を構成して話す	記述	38.8	14.1	65	45
	五	話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをまとめる	記述	75.4	12.5	60	40
2	一	書いた文章を読み返し、語句の用法を確かめて、読みやすく分かりやすい文章にする	短答	49.8	4.0	75	55
	二	項目の役割を考えて、文章の構成を考える	選択	78.6	1.0	70	50
	三	伝えたい事実や事柄について、根拠を明確にして書く	記述	50.2	4.2	65	45
3	一	書いた文章を読み返し、語句の用法を確かめて、読みやすく分かりやすい文章にする	短答	50.8	11.9	75	55
	二	書いた文章を読み返し、語句の用法を確かめて、読みやすく分かりやすい文章にする	記述	72.6	7.0	60	40
4	一	比喩、擬人法という表現の仕方を理解している	短答	63.6	17.5	70	50
	二	文脈の中における語句の意味を的確に捉え、理解する	短答	20.2	8.2	75	55
	三	文章の展開に即して内容を捉え、理解する	短答	67.7	7.3	75	55
5	一	文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要旨を捉える	選択	48.6	2.7	70	50
	二	文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、共感したり、疑問をもったり、批判したりする	記述	62.0	20.7	60	40
6	一1	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「操縦」	短答	95.1	1.2	75	55
	一2	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「敬う」	短答	81.0	3.9	75	55
	一3	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「基幹」	短答	88.1	4.1	75	55
	一4	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「取捨」同音の繰り返しによる読みの漢字	短答	51.8	10.2	70	50
	一5	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「育む」	短答	67.6	5.5	70	50
	二1	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「遺跡」他教科との関連(社会)	短答	52.3	14.3	70	50
	二2	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「困る」	短答	73.1	14.0	70	50
	二3	文脈に即して漢字を正しく書く(同訓異字の書き分け)「留まる」	短答	32.2	25.7	70	50
	二4	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「拝む」	短答	28.8	39.1	70	50
	二5	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「展覧」	短答	45.2	17.8	70	50
	三	文脈の中で語句や語彙を正しく使う(故事成語)	記述	35.9	28.3	65	45
	四	文脈の中で語句や語彙を正しく使う(文節の働き)	選択	45.7	2.9	65	45
	五1	文脈の中で語句や語彙を正しく使う(形容動詞の適切な用法)	選択	75.0	1.7	70	50
	五2	文脈の中で語句や語彙を正しく使う(同音異字の使い分け)	選択	76.5	1.6	70	50
	五3	文脈の中で語句や語彙を正しく使う(同訓異字の使い分け)	選択	96.9	1.6	70	50



中3国語A 設問ごと正答率

大問	小問	出題のねらい	問題形式	正答率	無解答率	期待正答率 十分達成	期待正答率 おおむね達成
1	一	話し合いの方向を捉えて司会の役割を果たす	選択	91.0	0.1	75	55
	二		選択	54.0	0.1	70	50
2	一	描写に注意して読み、内容を理解する	選択	74.3	0.1	75	55
	二	描写の効果を考え、内容を理解する	選択	84.2	0.1	70	50
3	一	書いた文章を読み返し、目的に応じた表現に直す	選択	57.8	0.3	75	55
	二	文の接続に注意し、伝えたい事柄を明確にして書く	短答	53.6	5.9	60	40
4	一	文章の表現の特徴を捉える	選択	85.2	0.1	75	55
	二	目的に応じて必要な情報を読み取る	選択	68.6	0.1	70	50
5	一	文脈の中における語句の意味を理解する	選択	86.1	0.2	75	55
	二	文章の展開に即して内容を捉える	選択	73.7	0.2	70	50
6	一	話すための材料を多様な方法で集める	選択	83.3	0.5	70	50
	二	論理的な構成や展開を考えて話す	選択	79.3	0.5	70	50
7	一	伝えたい事柄を明確にして書く	短答	72.7	3.9	70	50
	二	段落の役割を考えて文章を構成する	選択	73.6	0.8	70	50
8	一1		短答	93.1	2.1	75	55
	一2	文脈に即して漢字を正しく書く	短答	70.2	10.1	70	50
	一3		短答	73.9	12.6	75	55
	二1		短答	93.5	1.9	75	55
	二2	文脈に即して漢字を正しく読む	短答	71.4	2.8	75	55
	二3		短答	91.9	1.5	75	55
	三ア		選択	47.5	0.8	70	50
	三イ		選択	56.8	0.4	75	55
	三ウ		選択	97.1	0.3	75	55
	三エ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	選択	85.0	0.5	75	55
	三オ		選択	77.6	0.5	75	55
	三カ		選択	91.0	0.6	75	55
	四	漢字の楷書と行書との違いを理解して書く	短答	96.0	1.3	75	55
	五1	敬語の働きについて理解する	選択	70.8	0.6	75	55
	五2	文脈の中で敬語を適切に使う	選択	89.5	0.6	70	50
	六	修飾語と被修飾語の照応について理解する	選択	68.8	0.8	75	55
	七1	比喩を用いた表現について理解する	短答	49.8	3.0	70	50
七2	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む	短答	81.2	4.7	75	55	



中3国語B 設問ごと正答率

大問	小問	出題のねらい	問題形式	正答率	無解答率	期待正答率 十分達成	期待正答率 おおむね達成
1	一	段落相互の関係を理解し、文章の展開を捉える	選択	69.6	0.2	65	45
	二	図と文章との関係を捉える	選択	60.2	0.2	70	50
	三	課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える	記述	59.0	4.6	60	40
2	一	文章の展開に即して内容を捉える	短答	77.0	2.2	75	55
	二	表現の仕方に注意して読み、その効果を考える	選択	73.1	0.5	65	45
	三	文章の内容について、根拠を明確にして自分の考えを書く	記述	54.6	11.3	60	40
3	一	文章の構成や表現の特徴を捉える	選択	58.2	0.7	65	45
	二	情報を関連させて読む	選択	68.6	0.9	65	45
	三	漢字の特徴を捉えて、自分の考えを具体的に書く	記述	49.1	10.3	55	35

(イ) 評価の観点別正答率

①中学2年生

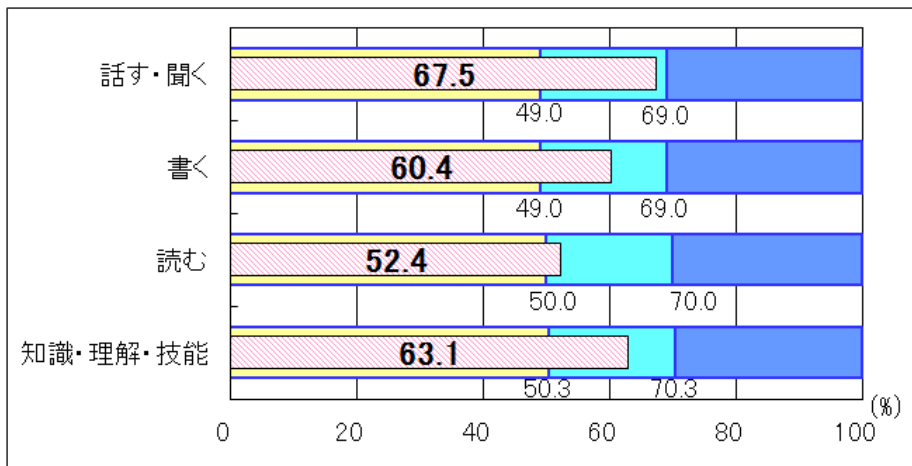


図1 H25年度(中学2年生国語)評価の観点別正答率

全ての観点で「おおむね達成」の基準を上回った。「読む」においては到達基準50.0を2.4ポイント上回った。

②国語A

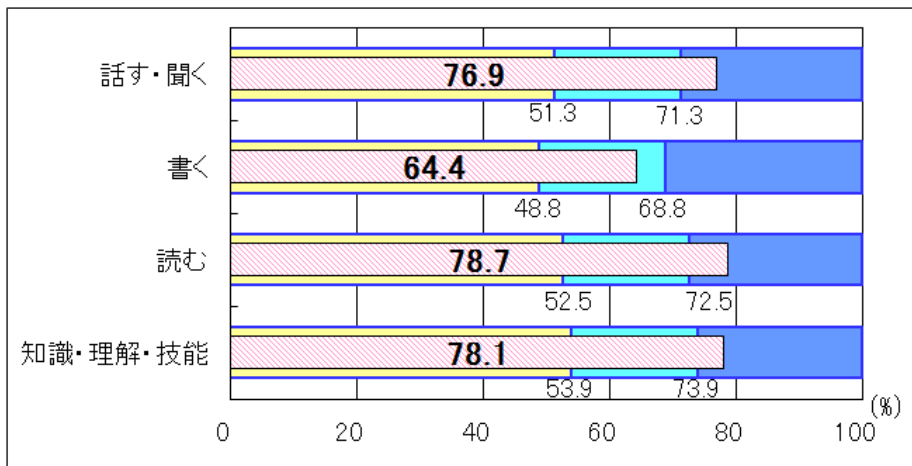


図2 H25年度(国語A)評価の観点別正答率

「書く」は「十分達成」の到達基準68.8に対して4.4ポイント下回った。「出された意見を整理して、設定の理由を適切に書く」が「おおむね達成」の基準を下回った。目的が明らかになっているものについての書く能力はある程度定着しているが、目的を判断しながら選んだり書いたりすることに課題が見られた。

③国語B

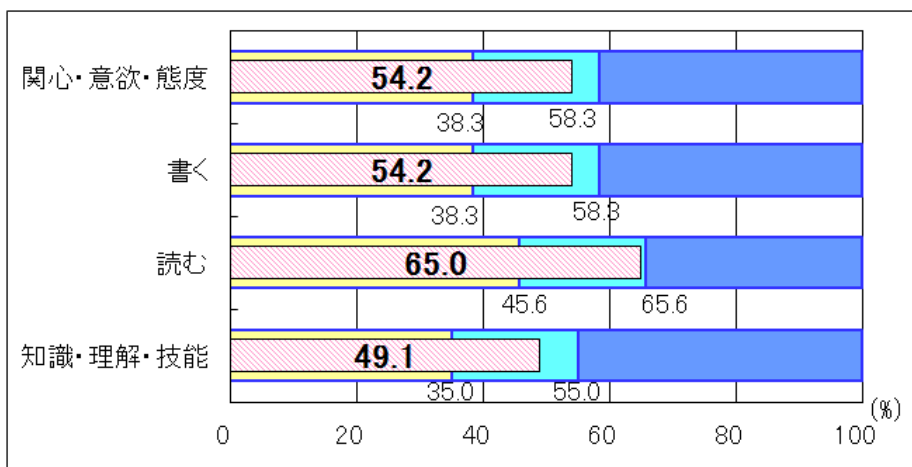


図3 H25年度(国語B)評価の観点別正答率

全ての観点で「おおむね達成」の基準を上回った。特に「読む」においては到達基準45.6に対して19.4ポイント上回った。「知識・理解・技能」は、「十分達成」の到達基準55.0に対して5.9ポイント下回った。

(ウ) 内容・領域別正答率

①中学2年生

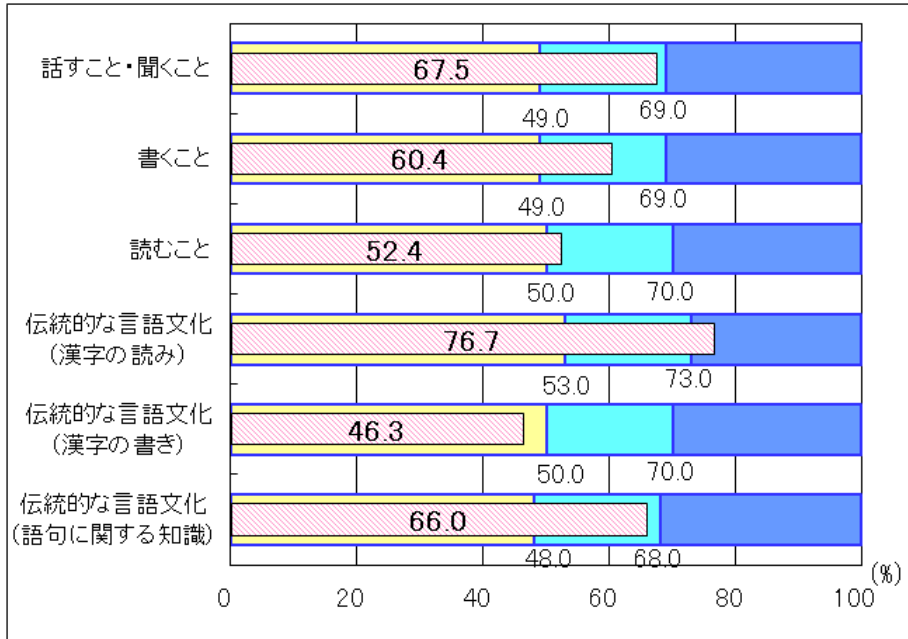


図4 H25年度(中学2年生国語)内容領域別正答率

「伝統的な言語文化(漢字の書き)」は「おおむね達成」の到達基準50.0に対して、3.7ポイント下回った。他の内容・領域は全て「おおむね達成」の基準を上回っていた。特に、漢字の書きに課題が見られた。

②国語A

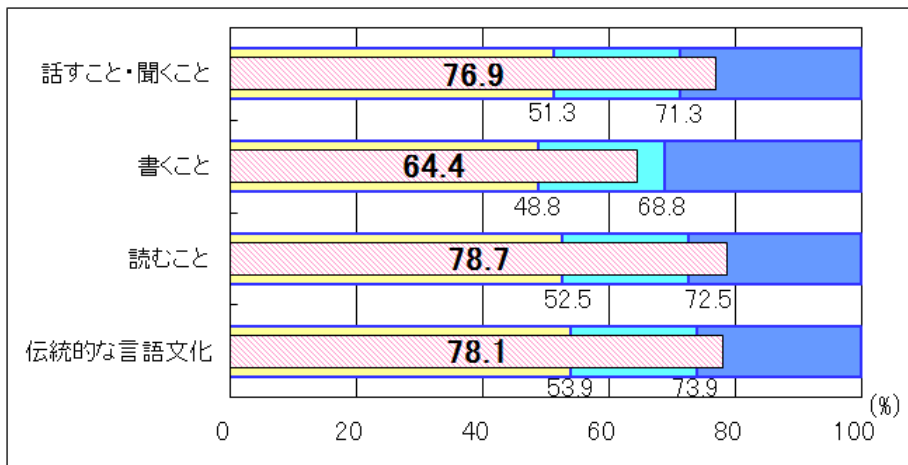


図5 H25年度(国語A)内容領域別正答率

「話すこと・聞くこと」「読むこと」と「伝統的な言語文化」については、「十分達成」の基準を上回った。しかし、国語Aの「書くこと」については、「おおむね達成」の基準を上回っているものの、「十分達成」の基準を4.4ポイント下回っていた。特に、記述を伴うものは正答率が下がり、無解答率も高くなっていた。

③国語B

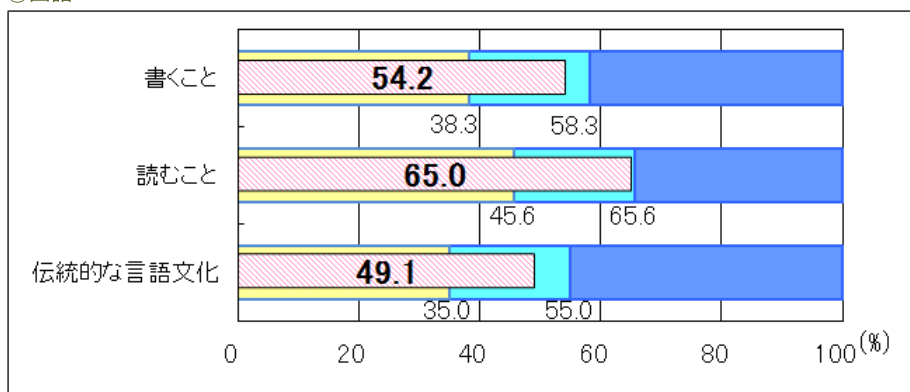


図6 H25年度(国語B)内容領域別正答率

国語Bの「書くこと」は「おおむね達成」の基準を上回っているものの、「十分達成」の基準より4.1ポイント下回っていた。100字前後で答える問いが2題あり無解答率が高く、課題が見られた。書くことが苦手だということもあるが、中でも自分の考えを形成して書く問いでは無解答率が高くなっていた。

イ 経年比較

(凡例) □: 要努力(おおむね達成の基準を下回る) □: おおむね達成 □: 十分達成

平成24年度の課題であった「書くこと」「読むこと」について変容を考察するために、同一学年の経年比較を行う。また、「伝統的な言語文化(漢字の書き)」について平成25年度は他の領域・内容に比べて正答率が低い。そこで、平成24年度と平成25年度の同一学年の経年比較と同出題趣旨の傾向を取り上げ、分析を行う。

(ア) 「書くこと」に関する問題についての経年比較(同一学年比較)

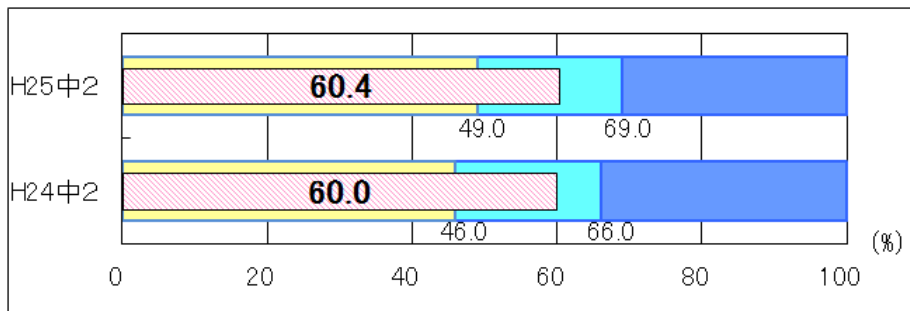


図7 H24年度(中学2年生)H25年度(中学2年生)「書くこと」の内容・領域正答率の経年比較

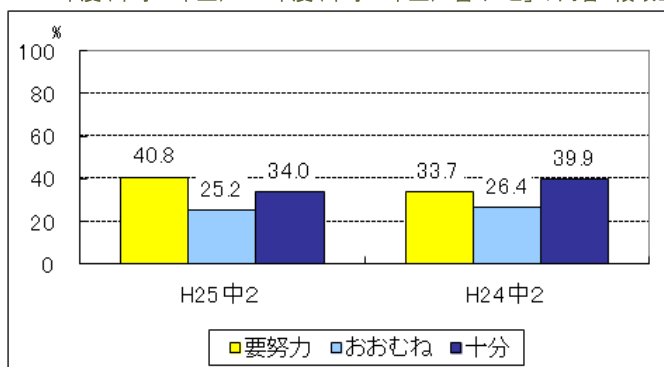


図8 H24年度(中学2年生)H25年度(中学2年生)「書くこと」の到達度分布の経年比較

内容・領域正答率の経年比較を見てみると、平成24年度は「おおむね到達」の基準を14.0ポイント、平成25年度は「おおむね達成」の基準を11.4ポイント上回り、大きな変化は見られなかった。しかし、到達度分布において経年比較をしてみると「十分達成」の割合が平成24年度では39.9%であったのに対し、平成25年度は34.0%と5.9ポイント減少している。また、「要努力」の割合が平成24年度では33.7%であったのに対し、平成25年度では40.8%と7.1ポイント増加している(図8)。平成24年度と同様に「相手や目的に合わせて分かりやすく書く」ことに課題が見られた。

(イ) 「読むこと」に関する問題についての経年比較(同一学年比較)

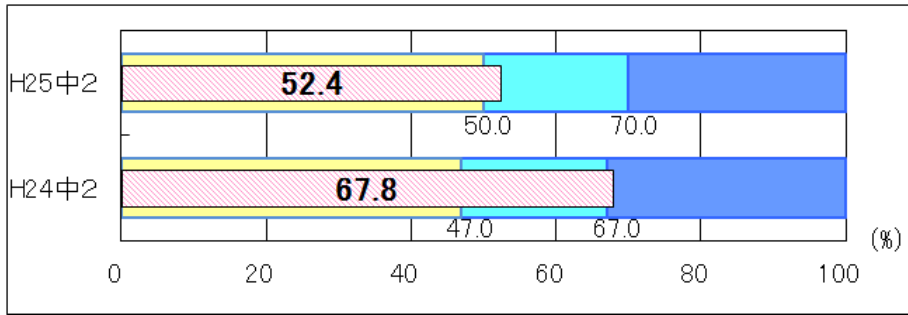


図9 H24年度(中学2年生)H25年度(中学2年生)「読むこと」の内容・領域正答率の経年比較

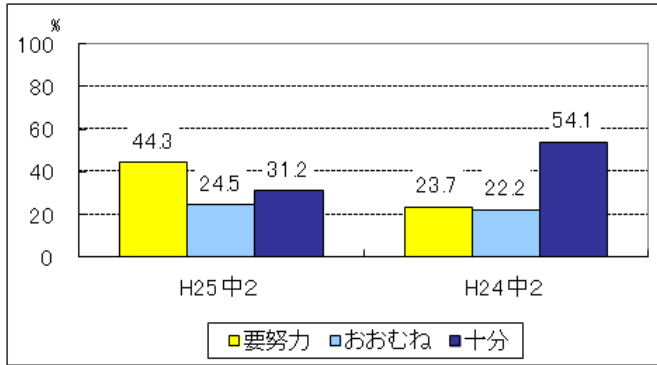


図10 H24年度(中学2年生)H25年度(中学2年生)「読むこと」の到達度分布の経年比較

図9の内容・領域正答率の経年比較を見てみると、平成24年度は「おおむね到達」の基準を20.8ポイント上回っているが、平成25年度は「おおむね達成」の基準を2.4ポイント上回っている。さらに、到達度分布において経年比較を行ってみると、「十分達成」の割合が、平成24年度は54.1%であったのに対し、平成25年度は31.2%と22.9ポイント減少している。また、平成24年度は「要努力」の割合が23.7%であったのに対し、平成25年度では「要努力」の割合が44.3%と20.6ポイント増加している(図10)。平成25年度は、特に「文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要旨を捉える」ことに課題が見られた。

(ウ) 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(漢字の書き)」に関する問題についての経年比較(同一学年比較)

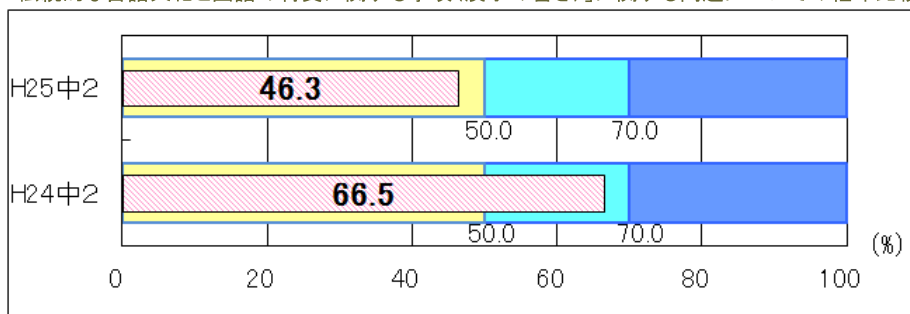


図11 H24年度(中学2年生)H25年度(中学2年生)「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(漢字の書き)」の内容・領域正答率の経年比較

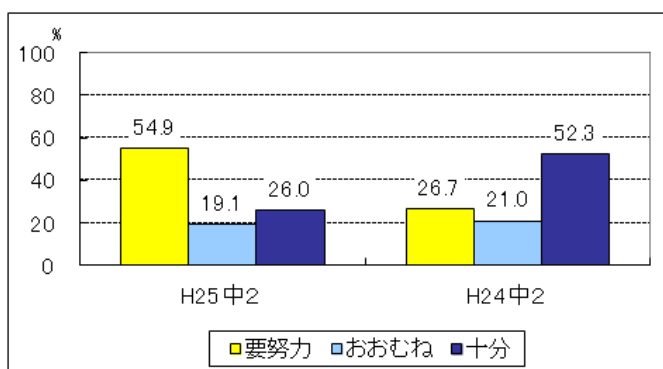


図12 H24年度(中学2年生)H25年度(中学2年生)「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(漢字の書き)」の到達度分布の経年比較

内容・領域正答率において経年比較を行った。平成24年度は、「おおむね達成」の基準を16.5ポイント上回っていたが、平成25年度は「おおむね達成」の基準を3.7ポイント下回った(図11)。さらに、到達度分布において経年比較を行った。平成24年度は「十分達成」の割合が52.3%であったのに対し、平成25年度では「十分達成」の割合が26.0%と26.3ポイント減少していた。平成24年度は「要努力」の割合が26.7%であったのに対し、平成25年度では「要努力」割合が54.9%と28.2ポイント増加している(図12)。

表1 (平成24年度 伝統的な言語文化「漢字の書き」)

大問	小問	出題のねらい	正答率	無解答率	期待正答率 十分達成	期待正答率 おおむね達成
4	二1	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「拾う」	70.0	5.7	70	50
	二2	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「貿易」	82.8	6.5	70	50
	二3	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「異なる」	75.2	13.9	70	50
	二4	文脈に即して漢字を正しく書く(同訓異字の書き分け)「空ける」	47.2	20.7	70	50
	二5	文脈に即して漢字を正しく書く(同訓異字の書き分け)「謝る」	57.3	14.7	70	50

表2 (平成25年度 伝統的な言語文化「漢字の書き」)

大問	小問	出題のねらい	正答率	無解答率	期待正答率 十分達成	期待正答率 おおむね達成
6	二1	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「遺跡」他教科との関連(社会)	52.3	14.3	70	50
	二2	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「困る」	73.1	14.0	70	50
	二3	文脈に即して漢字を正しく書く(同訓異字の書き分け)「留まる」	32.2	25.7	70	50
	二4	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「拜む」	28.8	39.1	70	50
	二5	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「展覧」	45.2	17.8	70	50

平成24年度と平成25年度の伝統的な言語文化「漢字の書き」の経年比較してみると、平成25年度は平成24年度と比べて「漢字の書き」の無解答率が全体的に高くなっている。また、2年連続して「訓読みの漢字」「同訓異字の書き分け」に課題があった。平成25年度は、日常生活での使用頻度が少なく、小学校高学年での新出漢字の定着に課題が見られた。

ウ 設問ごとに見た傾向と指導改善の手立て

上記の「ア結果の概要」「イ経年変化」から、「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化(漢字の書き)」の3つの内容・領域を取り上げ、正答率が低かった設問や無解答率が高かった設問について、分析を行うこととする。このことでより詳細に課題を把握し、具体的な改善の手立てについて探ることにした。

傾向1 文章を推敲することに課題がある。

[中学2年生 大問3一]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問3一	書いた文章を読み返し、語句の用法を確かめて、読みやすく分かりやすい文章にする。 (記述式)	文末表現が適切でないところを見付け、五字以内で抜き出す。	50.8	11.9	75.0	55.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率55.0に対して、正答率50.8であり、4.2ポイント下回った。文章中から文末表現が適切ではないところを五字以内で抜き出すことを答えとして求められていることから、常体・敬体の知識としての理解に課題があると考えられる。

○ 指導改善の手立て

推敲については、次のことに注意して指導したい。

- ・文章の敬体と常体についての文法上のきまりを確認すること
- ・時と場、相手、文章の目的に応じて、敬体と常体の使い分けを確認すること
- ・書いた文章を読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめる作業を、普段から書いた後にはさせること
- ・文章を書いた後には、必ず読みやすく分かりやすい文章になるように推敲をさせること

また、自分で推敲をした後に、更に交流の時間を設ける。その時間でそれぞれが書いた文章を互いに読み合い、自分の表現の参考にさせるなどの指導が必要である。

[中学2年生 大問2一]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問2一	書いた文章を読み返し、語句の用法を確かめて、読みやすく分かりやすい文章にする。 (短答式)	「適当な大きさ」という表現を、分かりやすく別の表現に書き換え、十字以内で答える。	49.8	4.0	75.0	55.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率55.0に対して、正答率49.8であり、5.2ポイント下回った。書いた文章を読み返し、写真や文中の情報を読み取り、分かりやすい表現に書き換えることを求められていることから、条件に合った文章の書き換えに課題があると考えられる。

○ 指導改善の手立て

文章を書いたときは、読み返し、表記や語句の用法を確かめたり、読みやすく分かりやすい文章に書き換えたりすることが大切である。指導に当たっては、普段からこのような推敲の作業を習慣付けたい。また、単語や短文でも別の言い方で表現する練習を繰り返すことで語彙への関心や表現力を高める学習活動を取り入れることが効果的であると考えられる。

傾向2 **文章に表れている書き手のものの見方や考え方について、自分の考えをもつことに課題が見られる。**

[中学2年生大問5二]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問5二	文章に表れているものの見方や考え方を捉え、共感したり、疑問をもったり、批判したりする。 (記述式)	新聞記事に対する鈴木さんの意見について、3つの条件に合わせて自分の考えを書く。	62.0	20.7	60.0	40.0

○ 解答状況

「十分達成」の期待正答率60.0に対して、正答率62.0であり、2.0ポイント上回った。しかし、無解答率は20.7と高い。新聞記事に対する意見について、3つの条件に合わせて自分の考えを書くことを求められていることから、まずは文章を読み取り、それに対する意見について、自分の立場を明らかにして条件に合わせて文章を書くことに課題があると考えられる。

○ 指導改善の手立て

文章を読む際には、文章に表れている書き手のものの見方や考え方に共感すること、疑問をもつこと、批判することなどを通して、新たなものの見方や考え方を発見したり、様々な視点から物事について考えられるようになったりするなど、読み手としてのものの見方や考え方を広げていくことが大切である。そのため、文章を読んで、感じたことや考えたことを具体的に書く学習活動を取り入れることは有効であると思われる。

傾向3 **漢字の書き取りに関する知識に課題が見られる。**

[中学2年生大問6二3, 大問6二4]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
H25 問6二3	文脈に即して漢字を正しく書く。 (短答式)	同訓異字の書き分け「留まる」を漢字で書く。	32.2	25.7	70.0	50.0
H25 問6二4		訓読みの漢字「拝む」を漢字で書く。	28.8	39.1		

○ 解答状況

同訓異字の書き分け「留まる」の設問では、「おおむね達成」の期待正答率50.0に対して、正答率は32.2であり、17.8ポイント下回っている。訓読みの漢字「拝む」の設問では、「おおむね達成」の期待正答率50.0に対して、正答率は28.8であり、21.2ポイント下回っている。更には無解答率が高い。日常的に触れている漢字については読みも書きもよくできている。ただし、日常的に触れる機会が少ないものは意味が分かりづらく、読み書きできないことが多く課題である。

○ 指導改善の手立て

普段から文章の中で、漢字を読んだり書いたりする機会を増やし、定着を図るようにすることが求められる。

- ・漢字は読み、書きを確実にできるようにした上で、使いこなす指導をする。
- ・漢字の指導では、単に形だけではなく、意味や成り立ち、部首などを確認したり、語や語句、語彙指導と一体的に指導をする。
- ・漢字を文脈の中で使えるような指導をする。

エ これからの指導に向けて

本調査で明らかになったことは、平成24年度課題であった「書くこと」「読むこと」について、中学3年生は平成25年度は平成24年度より指導改善が図られたものの、中学2年生は「書くこと」「読むこと」について知識・技能を活用するという点で課題が残っている。また、「伝統的な言語文化(漢字の書き)」では語彙力の定着という点で課題が残っている。そのため、以下の点を意識しながら指導改善を図っていくことが大切である。

(ア)書くこと

「書くこと」は、自分の考えを思いのまま書くだけではなく、考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて書くことが大切である。また、書く際には資料を読み取り、分析したり、情報を整理し活用したりする能力も必要である。そのため授業では、読み取った情報を根拠として、自分の立場を明確にして意見を書くことや、条件に合った文章を書く学習活動を行うことが大切である。読むことの学習に書く活動を取り入れることで、書く力を身に付けさせたい。

(イ)読むこと

文章を読み、内容や要旨を的確に捉えることや、読み取ったことから自分の考えをもったり、語句の意味や文脈の中で思考力や想像力を働かせて文章を読み取ったりする学習活動を継続的に行っていくことが大切である。指導に当たっては、「読むこと」と「書くこと」を関連付けて学習できるような指導の工夫が必要である。例えば、以下のような学習活動が考えられる。

- ・読み取った知識を作文に活かして書く
- ・文章から筆者のものの見方や考え方を読み取り、根拠を明確にして自分の考えをまとめる
- ・読書後に紹介文を書き、互いに自分の表現に役立てたり、ものの見方や考え方を深める

(ウ)伝統的な言語文化

情報化社会の中で、今まで本や百科事典を開かないと出会うことがなかった語彙に、日常生活で目にしたり耳で聞く機会が増えた。一方、文字を書く機会が減り、筆順や語形に注意して正確に書いたり、文脈に即して書いたりすることができなくなっている。文字に触れる機会を極力設け、語彙力を身に付けさせる必要がある。語彙力を身に付けさせるために、以下のような学習活動が考えられる。

- ・日常生活や学習の中で意味や使い方が分からない言葉があったときは、積極的に辞書を引く
- ・語彙を増やすため読書や新聞を読むなど、普段から文章に触れる機会をもつ
- ・漢字を文脈の中で使えるように、「書くこと」や「読むこと」の学習と一体的に学習する
- ・取り立て指導で漢字の筆順や意味、文の中での漢字の使用例を詳しく学ぶ

(エ)「教師意識調査」より

教師意識調査(15)「レポートや作文など書いて表現する活動を取り入れた授業を行っていますか。」という問いに対して、「多くの単元で行っている」「半分程度の単元で行っている」と答えた中学校国語科の教師の割合が53.5%である。また、(16)「発表や話し合い活動など表現し、考えを広げたり深めたりする活動を取り入れた授業を行っていますか」という問いに対して、「多くの単元で行っている」「半分程度の単元で行っている」と答えた中学校国語科の教師の割合が50.5%であった。半数ほどの国語科の教師が、書く能力や話し合う能力を身に付けさせる授業を行っていることが分かる。その結果「話すこと・聞くこと」「書くこと」の、知識を生かして解く問いでは「おおむね達成」を全て超えている。また、(23)「国語で、目的や意図に応じて、自分の思いや考えを書いて表現する活動を取り入れた授業を行っていますか。」という問いでも「多くの単元で行っている」「半分程度行っている」と答えた中学校国語科の教師の割合が60.5%であり、それぞれの領域単位では充実した指導が行われていることがうかがえる。

ただし、(22)「国語で、目的や場面に応じて、話したり聞いたりしたことを基に、自分の考えをまとめる活動を取り入れた授業を行っていますか。」という問いでは、「多くの単元で行っている」「半分程度行っている」と答えた中学校国語科の教師の割合が44.1%であったことから、今後「聞いたことを書く」「読んだことを書く」など「書くこと」を「読むこと」や「話すこと・聞くこと」と関連付けた指導が必要となる。

オ 授業実践に参考となるリンク



最終更新日:2013-10-21

平成25年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > III 各教科の調査結果の分析 > 中学校社会

III 各教科の調査結果の分析

※中学1年生の調査については、小学6年生の学習内容としているため、小学校の項で分析している。

中学校社会

社会的事象の理解を深め、思考力・判断力・表現力の育成を図る授業の工夫

評価の観点における観点別正答率において、中学2年生では、「資料活用の技能」と「社会的事象についての知識・理解」は、「おおむね達成」の基準を上回ったが、「社会的な思考・判断・表現」は「おおむね達成」の基準を下回った。中学3年生では、「社会的な思考・判断・表現」と「資料活用の技能」は、「おおむね達成」の基準を上回ったが、「社会的事象についての知識・理解」は「おおむね達成」の基準を下回った。中学2年生、中学3年生共に、社会的事象に関わる知識、概念を習得することと、社会的事象について、資料から読み取ったことや自分で解釈したことを説明することに課題が見られた。この課題を解決するために、社会的事象の理解を深めさせ、思考力・判断力・表現力の育成を図る授業の工夫が必要である。

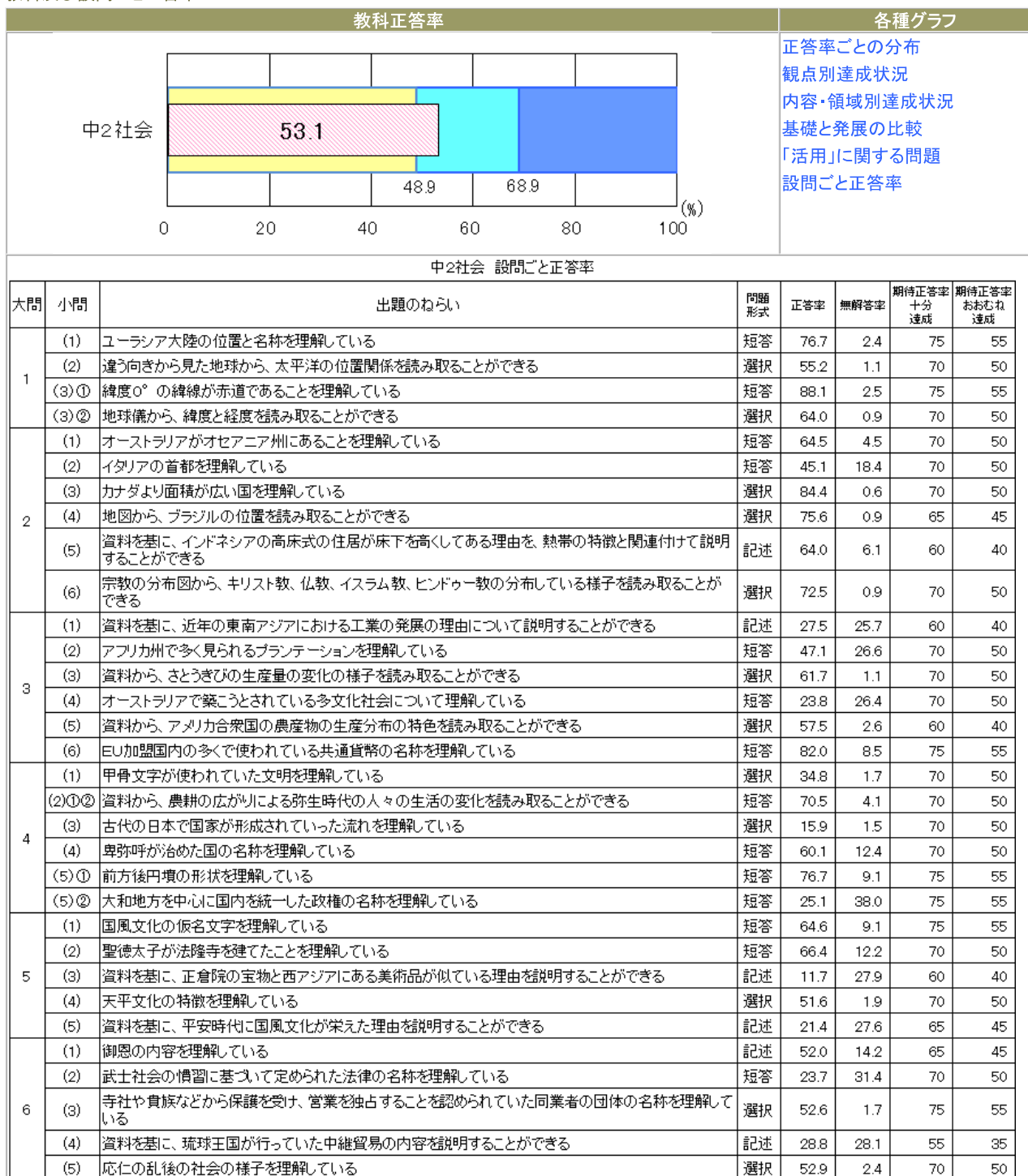
この後、評価の観点については、以下のように記す。

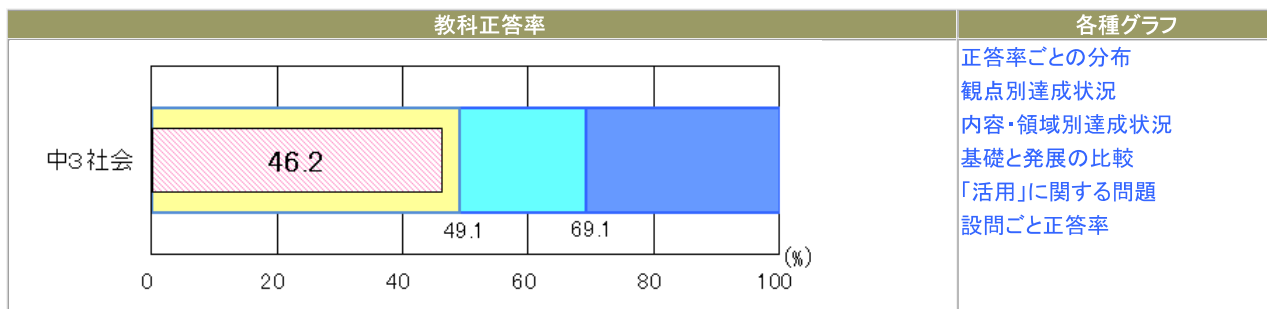
- | | | |
|-------------------|---|------------|
| ○社会的な事象への関心・意欲・態度 | → | 本調査では設定なし |
| ○社会的な思考・判断・表現 | → | 「思考・判断・表現」 |
| ○資料活用の技能 | → | 「技能」 |
| ○社会的事象についての知識・理解 | → | 「知識・理解」 |

ア 結果の概要

(凡例) ■:要努力(おおむね達成の基準を下回る) ■:おおむね達成 ■:十分達成

(ア) 教科及び設問ごと正答率





中3社会 設問ごと正答率

大問	小問	出題のねらい	問題形式	正答率	無解答率	期待正答率 十分達成	期待正答率 おおむね達成
1	(1)①②	北方領土である国後島と択捉島の名称と位置を理解している	短答	21.8	24.9	75	55
	(2)	資料を基に、日本政府が沖ノ鳥島の護岸工事を行った理由を考えることができる	選択	72.7	1.5	65	45
	(3)	資料から、アルゼンチンの現地時間を読み取ることができる	短答	26.6	12.8	65	45
	(4)①	黒潮が暖流であることと流れている範囲を理解している	選択 短答	46.9	4.2	75	55
	(4)②	潮目(潮境)の特徴を理解している	選択	65.1	0.9	70	50
	(4)③	三陸海岸と九十九島が、リアス海岸であることを理解している	短答	72.8	16.3	75	55
2	(1)	資料から、世界の人口の変化の様子を読み取ることができる	選択	64.3	0.9	65	45
	(2)①②	資料から、我が国の男女別年齢別人口構成の変化を読み取ることができる	短答	85.7	3.7	70	50
	(3)	太平洋ベルトの変容について理解している	選択	36.8	1.6	70	50
	(4)	資料を基に、日本企業が海外に進出する理由を説明することができる	記述	26.7	21.0	60	40
	(5)	資料から、海上輸送と航空輸送の特色を読み取ることができる	選択	77.0	1.6	70	50
3	(1)	中部地方の地域区分を理解している	短答	29.2	15.3	75	55
	(2)	長野県の自然環境や気候の特色と農業との関連を説明することができる	記述	33.2	17.0	60	40
	(3)①	品種改良を理解している	短答	44.2	15.8	75	55
	(3)②	資料を基に、新潟県魚沼市で水田単作が行われている理由を説明することができる	記述	51.3	17.4	60	40
4	(4)	資料から、中部地方の工業生産の特色を読み取ることができる	選択	64.7	2.4	70	50
	(1)	織田信長が鉄砲を使って武田勝頼を破った戦いが長篠の戦いであることを理解している	短答	44.8	8.0	70	50
	(2)	楽市・楽座について理解している	選択	57.4	1.2	70	50
	(3)	兵農分離政策について理解している	短答	31.4	35.4	70	50
	(4)	資料から、朝鮮出兵の拠点となった名護屋城が築かれた位置を読み取ることができる	選択	49.6	2.0	70	50
	(5)	朱印船貿易について理解している	短答	31.1	20.3	70	50
5	(6)	江戸幕府の大名の配置の特徴とその理由を説明することができる	記述	46.0	22.4	65	45
	(1)	イギリスの産業革命による社会の変化の様子を理解している	選択	37.7	1.5	70	50
	(2)	欧米諸国における市民革命の中で成立した民主政治に関する宣言文について理解している	選択	42.9	1.3	70	50
6	(3)	資料を基に、インドの大反乱にかかわった人々がもっていたイギリスに対する不満について説明することができる	記述	33.8	29.1	60	40
	(1)	伊藤博文について理解している	短答	42.6	15.0	70	50
	(2)	西南戦争を理解している	短答	54.6	15.4	75	55
	(3)	国会期成同盟後の動きを理解している	選択	35.3	3.3	75	55
6	(4)	近代国家体制の確立の流れを理解している	選択	14.8	2.7	70	50

(イ) 評価の観点別正答率

① 中学2年生

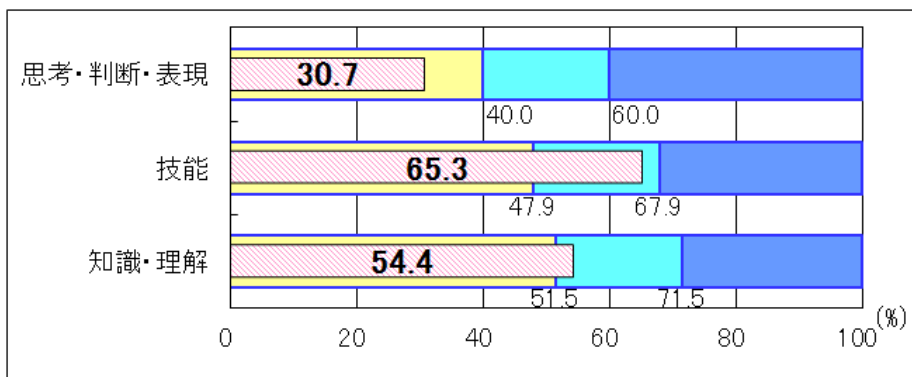


図1 H25年度(中学2年生社会)評価の観点別正答率

「技能」は「おおむね達成」の基準を17.4ポイント上回った。「知識・理解」は、「おおむね達成」の基準を2.9ポイント上回った。「思考・判断・表現」は、「おおむね達成」の基準を9.3ポイント下回った。「知識・理解」については、問われている社会的事象を短答式で答える設問において、無解答率が高いものがあり課題が見られた。「思考・判断・表現」については、社会的事象の特色や事象間の関連を説明する設問において課題が見られた。社会的事象について、多面的・多角的に考察できなかったり、考察した結果を表現できなかったりしたことが原因として考えられる。

② 中学3年生

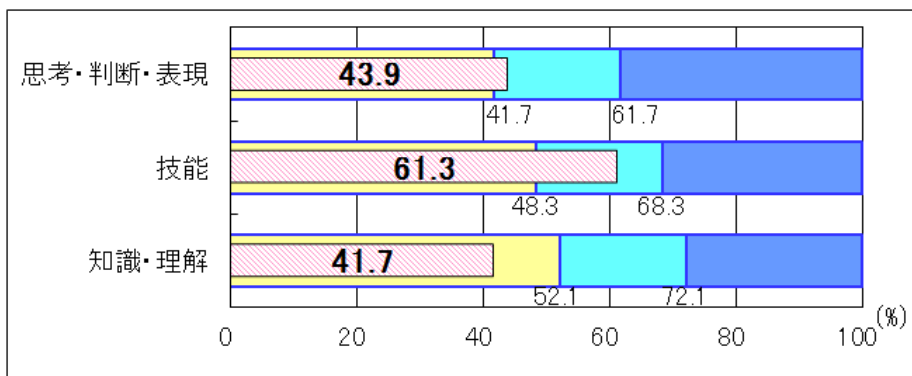


図2 H25年度(中学3年生社会)評価の観点別正答率

「技能」は「おおむね達成」の基準を17.0ポイント上回った。「思考・判断・表現」は、「おおむね達成」の基準を2.2ポイント上回った。「知識・理解」は「おおむね達成」の基準を10.4ポイント下回った。「思考・判断・表現」については、資料から読み取ったことや、自分で解釈したことを文章で記述する設問において、無解答率が高いものがあり課題が見られた。「知識・理解」については、問われている社会的事象に関わる知識、概念を短答式で答える設問において課題が見られた。社会的事象の内容を理解するための用語の定着が不十分だったことが原因として考えられる。

(ウ) 内容・領域別正答率

① 中学2年生

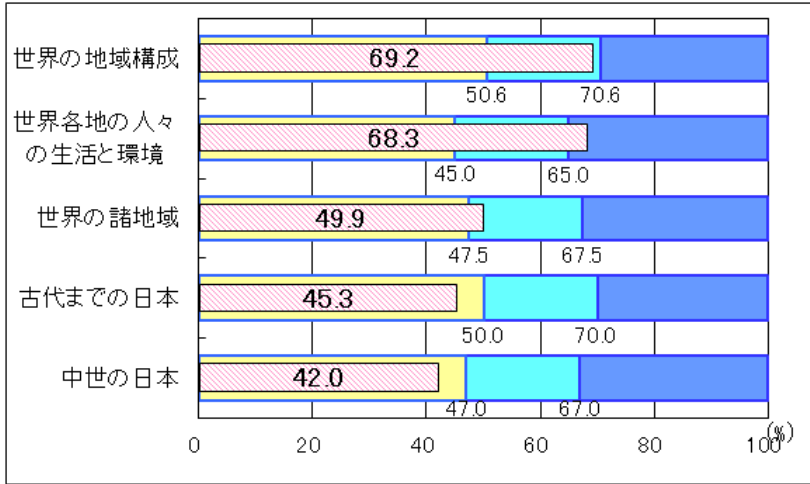


図3 H25年度(中学2年生社会)内容・領域別正答率

地理的分野の「世界各地の人々の生活と環境」は「十分達成」の基準を3.3ポイント上回り、「世界の地域構成」「世界の諸地域」は「おおむね達成」の基準をそれぞれ1.4ポイント、2.4ポイント上回った。歴史的分野ではそれぞれの内容・領域において「おおむね達成」の基準を下回った。「古代までの日本」については、古代の日本で成立した飛鳥文化、天平文化、国風文化の特色や、それぞれの文化が成立した時代の歴史的背景についての理解が不十分であったことが原因として考えられる。「中世の日本」についても、鎌倉時代の社会の成り立ちや仕組みについての理解が不十分であったことが原因として考えられる。

② 中学3年生

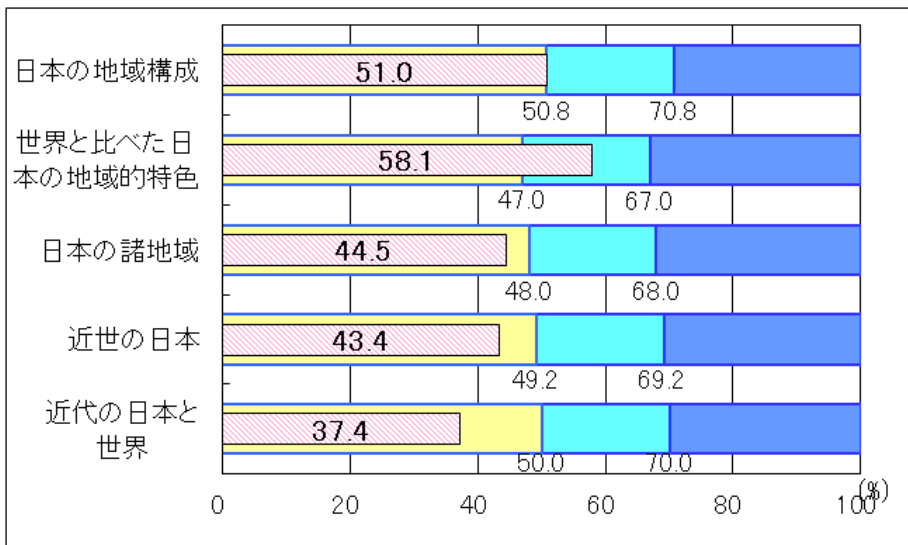


図4 H25年度(中学3年生社会)内容・領域別正答率

地理的分野では「日本の地域構成」と「世界と比べた日本の地域的特色」は「おおむね達成」の基準をそれぞれ0.2ポイント、11.1ポイント上回った。「日本の諸地域」は「おおむね達成」の基準を3.5ポイント下回った。「日本の諸地域」では、中部地方の産業に関する事象や地域的特色についての理解が不十分だったことが原因として考えられる。歴史的分野ではそれぞれの内容・領域において、「おおむね達成」の基準を下回った。「近代の日本と世界」については、世界の近代化を背景に近代国家を形成していった日本の動きについての理解が不十分であったことが原因として考えられる。

イ 経年比較

(凡例) : 要努力(おおむね達成の基準を下回る) : おおむね達成 : 十分達成

中学2年生においては、平成24年度に課題として挙げられた「思考・判断・表現」について、変容を考察するために、平成24年度と平成25年度の同一学年の経年比較を行う。中学3年生においては、平成24年度に課題として挙げられた「知識・理解」について、学習内容の定着の状況を見るために、平成24年度と平成25年度の同一生徒の経年比較を行う。

(ア) 中学2年生の「思考・判断・表現」についての経年比較(同一学年)

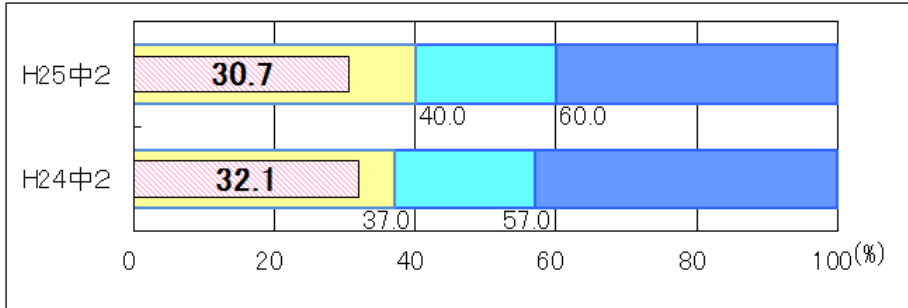


図5 H25年度(中学2年生社会)、H24年度(中学2年生社会)「思考・判断・表現(H24年度は「思考・判断」)」の正答率の経年比較

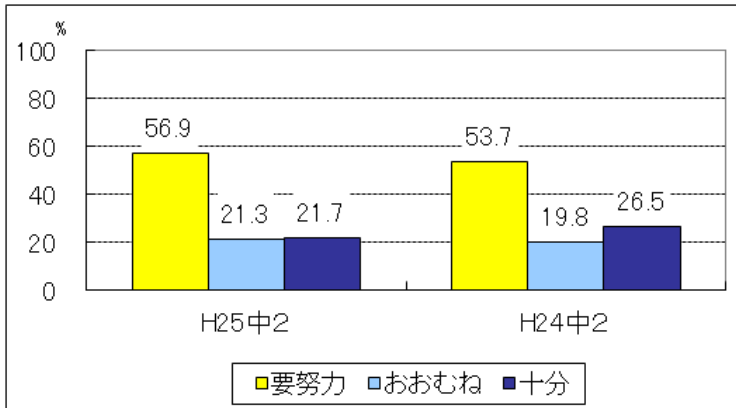


図6 H24・25年度(中学2年生社会)「思考・判断・表現(H24年度は「思考・判断」)」の到達度分布の経年比較

図5より、平成24年度の正答率は32.1で「おおむね達成」の基準を4.9ポイント下回った。平成25年度の正答率は30.7で「おおむね達成」の基準を9.3ポイント下回った。

図6より、平成24年度と平成25年度の到達度分布を比較してみると、「十分達成」の割合が4.8ポイント減少し、「おおむね達成」の割合は1.5ポイント、「要努力」の割合は3.2ポイント増加している。平成24年度に引き続き、社会的事象の特色や事象間の関連を説明することに課題が見られた。

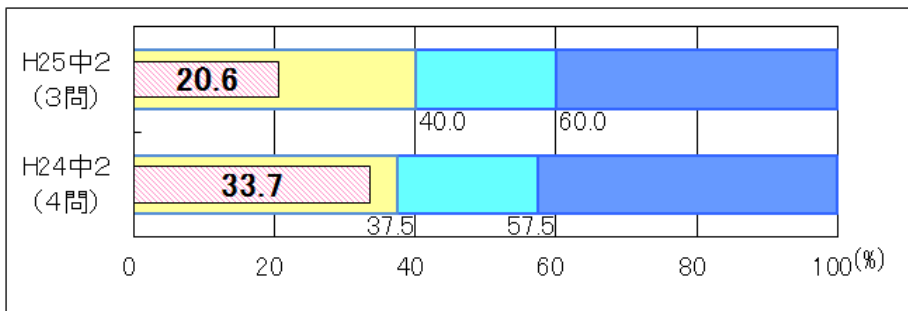


図7 H24・25年度(中学2年生社会)歴史的分野の「思考・判断・表現(H24年度は「思考・判断」)」の到達度分布の経年比較

図7より、平成24年度の正答率は33.7で「おおむね達成」の基準を3.8ポイント下回った。平成25年度の正答率は20.6で「おおむね達成」の基準を19.4ポイント下回った。

歴史的事象について、既習の知識や資料から読み取った内容を踏まえて、事実を説明したり、自分で解釈したりしたことに課題が見られた。

(イ) 中学3年生の「知識・理解」についての経年比較(同一生徒)

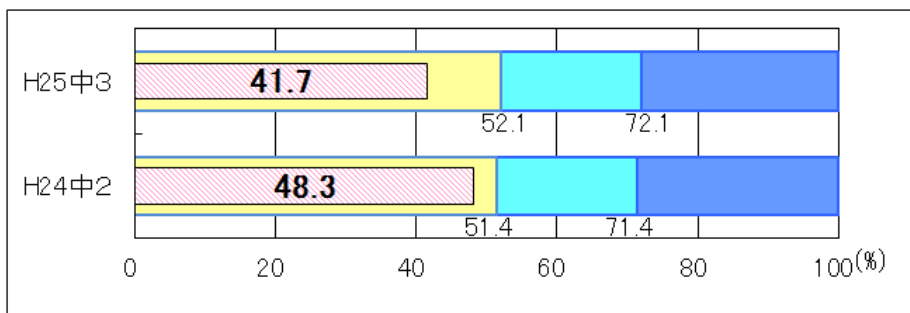


図8 H24年度(中学2年生社会)、H25年度(中学3年生社会)「知識・理解」の正答率の経年比較

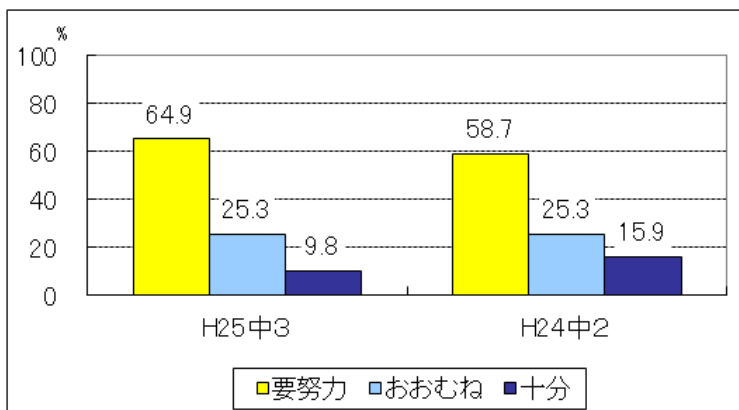


図9 H24年度(中学2年生社会)、H25年度(中学2年生社会)「知識・理解」の正答率の経年比較

図8より、平成24年度の正答率は48.3で「おおむね達成」の基準を3.1ポイント下回った。平成25年度の正答率は41.7で、「おおむね達成」の基準を10.4ポイント下回った。

図9より、平成24年度と平成25年度の到達度分布を比較してみると、「十分達成」の割合が6.1ポイント減少し、「要努力」の割合は6.2ポイント増加している。平成24年度と同様に、歴史的事象の理解や歴史的事象の内容を理解するために必要となる用語の定着に課題が見られた。

ウ 設問ごとに見た傾向と指導法改善の手立て

上記の「ア結果の概要」と「イ経年比較」から、中学2年生、中学3年生共に「思考・判断・表現」「知識・理解」に課題があることが分かった。そこで、中学2年生、中学3年生共に「社会的事象に関わる知識、概念の習得に関する問題」「社会的事象について、資料から読み取ったことや自分で解釈したことを説明する問題」について、分析することとする。

傾向1 **社会的事象に関わる知識、概念の習得に課題がある**

[中学2年生 大問3(4)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問3(4)	オーストラリアで築こうとされている多文化社会について理解している (短答式)	資料を参考にして、他の国の民族の様々な文化や生活習慣を尊重し、共存を目指そうとするオーストラリアの「多文化社会」を答える。	23.8	26.4	70.0	50.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率50.0に対して、正答率は23.8であり、26.2ポイント下回った。また、無解答率が26.4と他の設問に比べると高かった。設問に記してある説明や写真から、他の国や他の民族の文化や生活習慣を尊重し、共存を図ろうとする社会を答える問題である。多文化社会がどのような社会であるのか、また、どのような社会的な背景の基に形成されていったかが理解できていなかったことが原因として考えられる。

○ 指導改善の手立て

まず、オーストラリアでは、18世紀の後半はヨーロッパ州からの移民が多かったが、20世紀後半以降はヨーロッパ州以外からの移民も増えてきたことを捉えさせる。次に、オーストラリアの原住民であるアボリジニーが独自の文化や生活習慣をもっていることを捉えさせる。その上で、様々な地域からの移民や原住民が共存し、それぞれの文化や生活習慣を尊重していこうとするオーストラリアの多文化社会について理解を深めさせることが必要だと考えられる。

[中学2年生 大問6(2)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問6(2)	武士社会の慣習に基づいて定められた法律の名称を理解している 短答式	武士社会の慣習に基づいて、1232年に執権北条泰時によって定められた「御成敗式目」を答える。	23.7	31.4	70.0	50.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率50.0に対して、正答率は23.7であり、26.3ポイント下回った。また、無解答率が31.4と他の設問に比べると高かった。この問題は、武士社会の慣習に基づいて定められた法律を答える問題である。御成敗式目が制定された年代や定めた人物、当時の社会の仕組みなどが理解できていなかったことが原因として考えられる。

○ 指導改善の手立て

まず、鎌倉幕府が開かれ、将軍と御家人を中心とする封建社会が築かれたことで、武士社会が成立したことを理解させる。次に、武士の生活を、資料などを基に捉えさせながら、武士社会が安定していったことを理解させる。そして、武士社会の慣習を基にした御成敗式目が制定されたことで、更に武士社会が安定し、将軍と御家人の封建的な関係が強められたことを捉えさせることが大切であると考えられる。

[中学3年生 大問1(1)①②]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問1(1) ①②	北方領土である国後島と択捉島の名称と位置を理解している (短答式)	資料に示されている北方領土である「国後島」と「択捉島」を答える。	21.8	24.9	75.0	55.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率55.0に対して、正答率は21.8であり、33.2ポイント下回った。また、無解答率が24.9と他の設問に比べると高かった。この問題は、地図に示した北方領土である国後島と択捉島の名称を答える問題である。北方領土について、地図を活用した位置や名称の理解が不十分だったことが原因として考えられる。

○ 指導改善の手立て

地図上で北方領土の位置や名称を確認するだけではなく、日本や北海道の白地図に実際に北方領土を描かせるという作業的な学習を取り入れたり、複数の資料から北方領土が我が国固有の領土であることやロシア連邦に対して返還を求めていることなどを読み取らせたりすることにより、我が国の領土・領域について理解を深めさせることが大切であると考えられる。

[中学3年生 大問4(3)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問4(3)	兵農分離政策について理解 している (短答式)	検地や資料に示してある刀狩令 によりおしすすめられた「兵農分 離政策」を答える。	31.4	35.4	70.0	50.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率50.0に対して、正答率は31.4であり、18.6ポイント下回った。また、無解答率が35.4と他の設問に比べると高かった。この問題は、検地と刀狩を合わせた政策を答える問題である。

検地や刀狩が行われた背景として、武士と農民の身分的な役割を区別するということがあったことが理解できていなかったことが原因として考えられる。

○ 指導改善の手立て

検地や刀狩は豊臣秀吉による統一事業で、これらの政策により武士と農民の分離が急速に進められた。検地や刀狩が行われる前の社会の様子と、実施後の社会の様子を比べさせることによって社会の変容を捉えさせ、兵農分離政策の意義を考えさせる学習などから、時代の流れを大観させることが大切であると考えられる。

傾向2 **社会的事象について、資料から読み取ったことや自分で解釈したことを説明することに課題がある。**

[中学2年生 大問3(1)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問3(1)	資料を基に、近年の東南アジアにおける工業の発展の理由について説明することができる (記述式)	東南アジアの国々の輸出品の変化を示したグラフから、これらの国々で工業が発展した理由を、条件に合わせて説明する。	27.5	25.7	60.0	40.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率40.0に対して、正答率は27.5であり、12.5ポイント下回った。また、無解答率が25.7と他の設問に比べると高かった。この問題は、東南アジアの国々の輸出品の変化を示したグラフから、東南アジアの国々で工業が発展した理由を説明する問題である。

資料から、東南アジアの国々で近年機械類が生産され、外国に輸出されている割合が多くなっていることが読み取れる。その背景に、外国企業が豊富な労働力や安い人件費を求めて東南アジアの国々に進出していることがあることを学習している。これら2つのことを関連付けて考えることと、条件に合わせて適切に記述することができなかったことが原因として考えられる。

○ 指導改善の手立て

年代別の輸出货量や工業製品の生産量を示した統計資料を比べさせたり、東南アジアに進出した日本企業の写真などを見せたりすることで、東南アジアの工業の変化や向上の様子を捉えさせる。東南アジアの工業が変化した背景に外国企業の進出が影響を与えていることがあることを学習した上で、「外国の企業がなぜ東南アジアの国々に進出したのか」をテーマとして、調べたことを基に、その理由を考えさせることによって、東南アジアの工業の特色や外国企業との関係性を捉えさせることが大切であると考えられる。

[中学2年生 大問5(3)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問5(3)	資料を基に、正倉院の宝物と西アジアにある美術品が似ている理由を説明することができる (記述式)	東西の交通を示した資料と中国と日本の交流の様子を示した資料から、正倉院に保管されていた宝物が、ペルシアで見つかった美術品と似ている理由を説明する。	11.7	27.9	60.0	40.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率40.0に対して、正答率は11.7であり、28.3ポイント下回った。また、無解答率が27.9と他の設問に比べると高かった。この問題は、奈良時代に西アジアの都市から唐を東西に結んだ交通路を示した資料と、唐と日本の交流の様子を示した資料から、正倉院に保管されていた宝物とペルシアで見つかった美術品とが似ている理由を説明する問題である。

資料から西アジアの都市と唐がシルクロードなどの交通路を経て交流していたことや日本が唐に遣唐使を送っていたことを読み取ったり、2つの資料を関連付けさせながら、西アジアの都市と日本とが間接的に結び付いていたことを考えることができなかったことが原因であると考えられる。

○ 指導改善の手立て

正倉院の宝物の写真資料を見ながら、その宝物の中には、奈良時代の日本には見られなかった文化があることに気付かせる。そして、正倉院の宝物と似たものが、西アジアでも発見されていることから、その理由を資料を基に、考察させる。西アジアとアジアを結ぶ交通路から、西アジアと唐の間に交流があったことや、中国と日本の交流の歴史を示した年表から、中国と日本が積極的に交流していたことを捉えさせ、理由を考えさせることが大切であると考えられる。

[中学3年生 大問5(3)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問5(3)	資料を基に、インドの大反乱に加わった人々がもっていたイギリスに対する不満について説明することができる (記述式)	イギリスとインドの貿易の変化と1820年代以降のインドの社会の変化から、インドの大反乱に加わった人々が、イギリスに対してもっていた不満を考え、説明する。	33.8	29.1	60.0	40.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率40.0に対して、正答率は33.8であり、6.2ポイント下回った。また、無解答率が29.1と他の設問に比べると高かった。この問題はイギリスがインドに進出し、インドの綿織物市場を支配したことから、インドの大反乱に加わった人々のイギリスに対する不満を、資料から読み取り、説明する問題である。

資料から、イギリスのインドへの進出により、インド国内の綿織物産業が衰退したこと、インドの人々が失業や貧困のために苦しんだことを読み取り、インドの産業構造へ与えた影響とインドの人々の生活への影響を関連付けて説明することができなかったことが原因として考えられる。

○ 指導改善の手立て

まず、イギリスのインドへの進出が、産業革命の成功による市場の開拓のためだったことを理解させる。次に、イギリスがインドへ進出した影響で、インドの主産業であった綿織物産業が衰退したことや、インドの人々が失業や貧困のために苦しんだことを理解させる。そして、それらを背景として、インドの人々がイギリスに対する不満を募らせ、インドの大反乱が起こり、インド全土に広がっていったことを理解させることが必要であると考えられる。

エ これからの指導に向けて

本調査では、社会的事象に関わる知識、概念を習得すること、社会的事象について資料から読み取ったことや自分で解釈したことを説明することに課題があることが分かった。学習指導要領には、主体的に生き、公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力を育成するために、基礎的・基本的な知識、概念や技能を習得させ、思考力・判断力・表現力を確実に育む学習を重視することが必要であることが示してある。そこで、社会的事象の理解を深めさせ、思考力・判断力・表現力の育成を図るために、以下のことについて留意したい。

(ア) 社会的事象の理解を深めさせるために

① 習得させる知識、概念の明確化

○ 指導計画の中に、習得させる知識、概念を明記する。

○ 授業の導入段階で学習のめあてとともに、習得させる知識、概念をキーワードとして提示する。

② 知識、概念を習得させる指導の工夫

○ 資料等の活用や作業的、体験的な学習からつかんだ事実を基に、社会的事象の関連性を考えさせたり、説明させたりする。

○ コンピュータを使って調べたことや、地図、新聞、読み物、統計などの資料から読み取った情報を活用させる。

○ 授業の前後に小テストなどを実施し、反復的な学習を設定する。

(イ) 思考力・判断力・表現力の育成を図るために

① 社会的事象について説明させる活動

社会的事象の特色や意味について考えさせたことをワークシートに記述させたり、プレゼンテーション資料にまとめさせ発表させたりするなどの手立てが考えられる。

○ 考えられる授業展開例

・ 地理的分野の「世界各地の人々の生活と環境」の学習では、地図や雨温図から読み取らせた世界の気候の分布や特色と世界各地で見られる人々の生活との関連性について考えさせたことを、ワークシートに記述させる。

・ 歴史的分野の「古代までの日本」の学習では、正倉院にある天平文化の宝物と西アジアで発見された美術品に共通点について考えさせたことを、プレゼンテーション資料にまとめさせ発表させる。

・ 公民的分野の「私たちが生きる現代社会と文化」の学習では、日本の人口構成の変容と現代の社会生活の変化との関連性について考えさせたことを、レポートにまとめさせる。

② 学習課題について話し合わせる活動。

授業の中で設定した学習課題に対して、自分で考えさせたことを意見交換させたり、討論させたりするなどの手立てが考えられる。

○ 考えられる授業展開例

・ 地理的分野の「日本の諸地域」の学習では、持続可能な社会の構築や環境保全への取り組みの重要性について考えさせるために、身近に起こっている環境問題を取り上げ、その解決策について協議させる。

・ 歴史的分野の「開国とその影響」の学習では、開国後の日本の変容や社会的な影響について考えさせるために、「日本は開国すべきかしないべきか」を論題に討論させる。

・ 公民的分野の「民主政治と政治参加」の学習では、選挙の意義について理解を深めさせるために、国民の政治参加に関わる問題を取り上げ、解決策を考えさせ、意見交換をさせる。

(ウ) 教師意識調査の結果より

教師意識調査(27)の「社会で、生徒が資料などから読み取ったことを基にして考えたことを、話し合う(討論)活動を取り入れた授業を行っていますか。」という質問に対して、「多くの単元で行っている」と回答した教師の割合は、10.6%で、「半分程度の単元で行っている」と回答した教師の割合は11.2%で、合わせると21.8%である。これは、平成24年度の教師意識調査の同じ質問において「多くの単元で行っている」「半分程度の単元で行っている」のいずれかに回答した教師の割合の合計である19.0%を、2.8ポイント上回る結果となった。その背景には、学習指導要領の改訂によって、言語活動を授業に取り入れることで思考力・判断力・表現力の育成を図ろうとする教師の意識の高まりがあることが考えられる。今後このような授業を一層重視することは、思考力・判断力・表現力の育成の観点からも有効であると考えられる。

オ 授業実践に参考となるリンク



最終更新日: 2013-10-21

平成25年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > Ⅲ 各教科の調査結果の分析 > 中学校数学

Ⅲ 各教科の調査結果の分析

※ 中学1年生の調査については、小学6年生の学習内容としているため、小学校の項で分析している。

中学校数学

基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、数学的な見方や考え方を育てるために

中学2年生、中学3年生において、評価の観点の「数学的な技能」と「数量や図形などについての知識・理解」については共に「おおむね達成」の基準を上回ったが、「数学的な見方や考え方」については共に「おおむね達成」の基準を下回った。設問ごとに見ると中学2年生、中学3年生の主として「活用」に関する問題の「数学的な見方や考え方」の事柄が成り立つ理由や問題解決の方法について説明することに課題が見られた。今後の指導に当たっては、数学的活動を充実させ、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、数学的な表現を用いて事柄の成り立つ理由や問題解決の方法を的確に説明するなどの数学的な見方や考え方を育てる必要がある。

中学3年で実施した全国学力・学習状況調査を活用した調査については、以下のように記す。

- 主として「知識」に関する問題 → 「数学A」
- 主として「活用」に関する問題 → 「数学B」

この後、評価の観点については、以下のように記す。

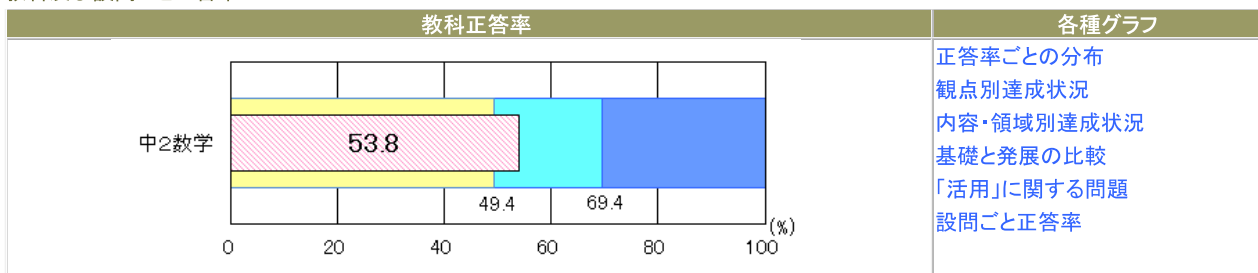
- 数学への関心・意欲・態度 → 本調査では設定なし
- 数学的な見方や考え方 → 「見方や考え方」
- 数学的な技能 → 「技能」
- 数量や図形などについての知識・理解 → 「知識・理解」

ア 結果の概要

各学年ごとに教科全体の正答率について到達基準との比較を示す。

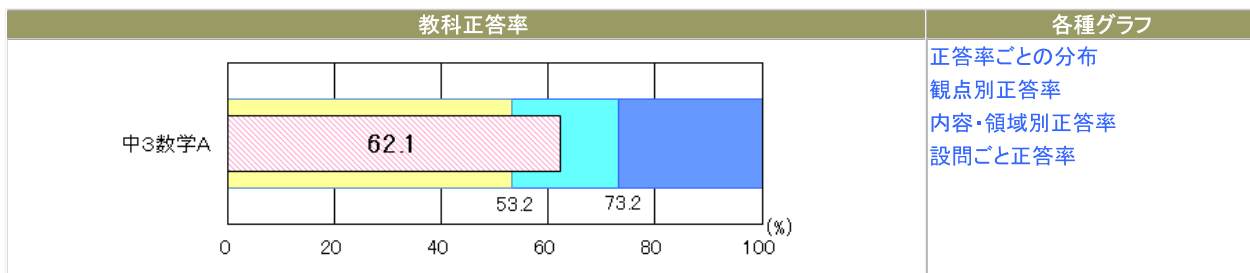
(凡例) :要努力(おおむね達成の基準を下回る) :おおむね達成 :十分達成

(ア) 教科及び設問ごと正答率



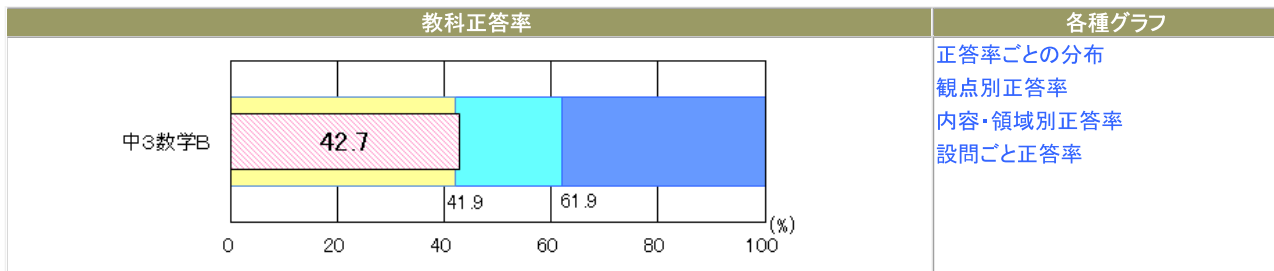
中2数学 設問ごと正答率

大問	小問	出題のねらい	問題形式	正答率	無解答率	期待正答率 十分達成	期待正答率 おおむね達成
1	(1)	正の数・負の数の加減の計算をすることができる	短答	93.6	0.4	75	55
	(2)	指数を含んだ数の計算をすることができる	短答	70.8	0.8	70	50
	(3)	分配法則を用いた文字の式の計算をすることができる	短答	61.9	3.9	70	50
2	(1)	絶対値について理解している	短答	46.1	8.1	70	50
	(2)	文字式に数を代入して式の値を求めることができる	短答	60.6	5.5	70	50
	(3)①	一元一次方程式を解くことができる	短答	76.2	4.7	75	55
	(3)②	分数の一元一次方程式を解くことができる	短答	52.0	15.1	70	50
3	(3)③	比例式を解くことができる	短答	80.1	7.2	75	55
		文字を用いた不等式から、数量関係の大小関係を読み取り、説明することができる	記述	62.5	9.6	65	45
4	(1)	与えられた方程式の中の文字の意味について理解している	選択	65.0	1.7	65	45
	(2)	与えられた情報から数量の関係を見だし、方程式をつくることができる	短答	12.1	13.5	55	35
5	(1)	球の体積を求めることができる	短答	17.8	15.6	70	50
	(2)①	対称移動について理解している	短答	71.9	3.5	75	55
	(2)②	平行移動について理解している	短答	70.6	3.7	75	55
	(3)	角の二等分線の作図をすることができる	短答	75.0	9.4	75	55
6	(4)	おじれの位置にある直線の位置関係について理解している	短答	61.5	5.0	70	50
		垂直二等分線の作図の方法を具体的な場面で活用することができる	短答	71.1	4.9	65	45
7		円錐の展開図を基に、扇形の弧の長さや中心角の関係を利用して求め、その求め方を説明することができる	記述	15.9	34.0	55	35
8	(1)	回転体の意味を理解している	選択	75.6	2.2	75	55
	(2)	見取図、投影図がどのような空間図形を表しているかを読み取ることができる	選択	84.3	1.8	75	55
9	(1)	比例の関係をグラフに表すことができる	短答	64.2	8.6	75	55
	(2)	比例定数の意味を理解している	選択	42.8	5.1	70	50
	(3)	比例のグラフ上にある点の座標を求めることができる	短答	32.2	23.3	70	50
	(4)	反比例の関係を表すグラフの特徴を理解している	選択	77.1	3.6	75	55
10	(1)	与えられた情報から、 x と y の関係を表す式を考えることができる	短答	23.8	18.8	65	45
	(2)①	与えられた情報から、 x と y の関係を表に表すことができる	短答	64.3	16.5	70	50
	(2)②	与えられた情報を基に、 x と y の関係が反比例であることを説明することができる	選択記述	23.6	23.3	55	35
11	(1)	範囲について理解している	短答	20.3	14.3	75	55
	(2)	最頻値について理解している	短答	39.6	14.0	75	55
12	(1)	与えられた数値を有効数字で表すことができる	選択	32.1	4.9	65	45
	(2)	度数分布表を利用した平均値の求め方について理解している	選択	54.1	6.3	70	50
13		資料の傾向を捉えることができる	選択	23.8	7.1	60	40



中3数学A 設問ごと正答率

大問	小問	出題のねらい	問題形式	正答率	無解答率	期待正答率 十分達成	期待正答率 おおむね達成
1	(1)	分数の乗法の計算ができる	短答	80.7	2.1	75	55
	(2)	() を含む正の数と負の数の計算ができる	短答	86.5	0.8	75	55
	(3)	数の集合と四則計算の可能性について理解している	選択	74.6	0.3	75	55
	(4)	正の数と負の数の意味を、実生活の場面に結び付けて理解している	短答	61.6	5.2	75	55
2	(1)	整式の加法と減法の計算ができる	短答	80.8	1.9	70	50
	(2)	与えられた文字式の意味を、具体的な事象の中で読み取ることができる	選択	65.6	0.3	75	55
	(3)	数量の関係や法則などを文字式で表すことができる	短答	28.2	17.7	75	55
	(4)	等式のある文字について解く際に用いられている等式の性質を理解している	選択	72.8	0.6	75	55
3	(1)	簡単な一元一次方程式を解くことができる	短答	73.7	5.9	70	50
	(2)	二元一次方程式の解の意味を理解している	選択	74.7	1.0	75	55
	(3)	具体的な事象における数量の関係を捉え、連立二元一次方程式をつくることができる	短答	85.6	8.2	75	55
4	(1)	与えられた図形の拡大図をかくことができる	短答	89.3	1.6	75	55
	(2)	角の二等分線の作図の方法を、図形の対称性に着目して見直すことができる	選択	43.5	0.9	70	50
	(3)	回転移動の意味を理解している	短答	55.4	3.5	75	55
5	(1)	空間における2直線の位置関係を理解している	選択	54.3	0.9	75	55
	(2)	見取図、投影図から空間図形を読み取ることができる	選択	81.5	0.5	75	55
	(3)	球の体積を、球がぴったり入る円柱の体積との関係から理解している	選択	48.6	0.6	70	50
6	(1)	1組の平行線に直線が交わってできる角の性質を理解している	選択	76.7	1.1	70	50
	(2)	多角形の外角の意味を理解している	短答	55.7	6.0	75	55
7	(1)	証明を読み、根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している	選択	75.4	0.8	75	55
	(2)	図形の性質や条件を、記号を用いて表すことができる	短答	63.8	16.4	75	55
	(3)	平行四辺形になるための条件を理解している	選択	47.7	1.0	75	55
8		証明の必要性と意味を理解している	選択	61.3	1.0	70	50
9		関数の意味を理解している	選択	15.2	1.3	70	50
10	(1)	座標平面上にある点の位置を、2つの数の組で表すことができる	短答	78.2	4.4	75	55
	(2)	比例定数がaである比例の式は $y = ax$ で表されることを理解している	選択	63.6	1.1	75	55
	(3)	比例の表とグラフの関係を理解している	選択	49.5	1.6	75	55
	(4)	反比例の式から、グラフをかくことができる	短答	76.7	6.7	75	55
11	(1)	一次関数の式について、xの値に対応するyの値を求めることができる	短答	77.8	8.7	75	55
	(2)	一次関数の表から、変化の割合を求めることができる	短答	40.1	24.0	70	50
12		具体的な事象から、xとyの関係を $y = ax + b$ の式で表すことができる	短答	51.6	17.3	70	50
13		二元一次方程式のグラフの特徴を理解している	選択	69.0	1.8	70	50
14	(1)	平均値の意味を理解している	選択	75.9	2.1	70	50
	(2)	ヒストグラムから相対度数を求めることができる	短答	19.0	23.6	70	50
15	(1)	確率の意味を理解している	選択	31.0	3.0	75	55
	(2)	簡単な場合について確率を求めることができる	短答	49.6	14.1	70	50



中3数学B 設問ごと正答率

大問	小問	出題のねらい	問題形式	正答率	無解答率	期待正答率十分達成	期待正答率おおむね達成
1	(1)	与えられた情報を言葉で表された式に基づいて処理することができる	短答	53.2	6.3	65	45
	(2)	言葉で表された式の数学的な意味を考え、事象を式の意味に即して解釈することができる	短答	30.5	20.5	60	40
	(3)	事象を式の意味に即して解釈し、その結果を数学的な表現を用いて説明することができる	記述	31.7	16.1	55	35
2	(1)	事柄が成り立つ理由を、示された方針に基づいて説明することができる	記述	37.7	24.8	60	40
	(2)	発展的に考え、予想した事柄を説明することができる	記述	36.8	35.2	60	40
3	(1)	与えられた表から情報を適切に選択し、処理することができる	短答	71.4	4.1	70	50
	(2)	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	記述	28.0	36.9	60	40
	(3)	事象を理想化・単純化して、事柄を数学的に捉え、他の事象との関係を考えることができる	選択	26.0	2.4	60	40
4	(1)	方針に基づいて証明することができる	記述	39.5	23.6	55	35
	(2)	証明の方針を立てることができる	選択	52.1	2.1	60	40
5	(1)	資料から必要な情報を適切に読み取ることができる	短答	66.7	11.3	70	50
	(2)	資料の傾向を的確に捉え、事柄の特徴を数学的に説明することができる	記述	38.7	44.8	60	40
	(3)	事象を数学的に解釈することができる	選択	30.9	2.3	60	40
6	(1)	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	短答	53.6	6.5	75	55
	(2)	数学的な結果を事象に即して解釈することができる	選択	56.2	2.3	65	45
	(3)	事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明することができる	記述	29.7	42.0	55	35

(イ) 評価の観点別正答率

中学2年生

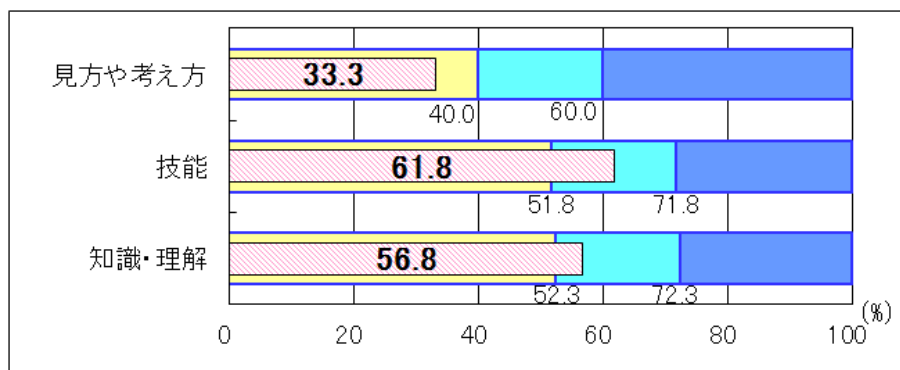


図1 H25年度(中学2年生数学)評価の観点別正答率

「技能」については、「おおむね達成」の基準を10.0ポイント上回ったが、「球の体積を求めること」や「比例のグラフ上の点の座標を求めること」には課題が見られた。「知識・理解」についても、「おおむね達成」の基準を4.5ポイント上回ったが、「絶対値や範囲、最頻値などの用語に関すること」や「比例定数の意味に関すること」には課題が見られた。「見方や考え方」については、「おおむね達成」の基準を6.7ポイント下回り、特に「与えられた情報から数量の関係を見だし、方程式をつくること」「円錐の展開図を基に、扇形の弧の長さや中心角の求め方を説明すること」「与えられた情報を基に、 x と y の関係が反比例であることを説明すること」などの設問の正答率で「おおむね達成」の基準を10.0ポイント以上下回っていた。

中学3年生

①A問題

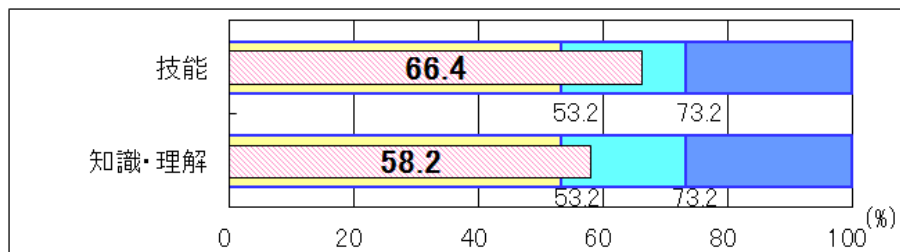


図2 H25年度(中学3年生数学A)評価の観点別正答率

中学2年生と同様に、「技能」と「知識・理解」は共に「おおむね達成」の基準を上回った。しかしながら、「技能」については、「数量の関係や法則を文字式で表すこと」や「変化の割合、相対度数、確率を求めること」に課題が見られた。「知識・理解」については、「角の二等分線の作図の方法を、図形の対称性に着目して見直すこと」や「関数や確率の意味に関すること」に課題が見られた。

②B問題

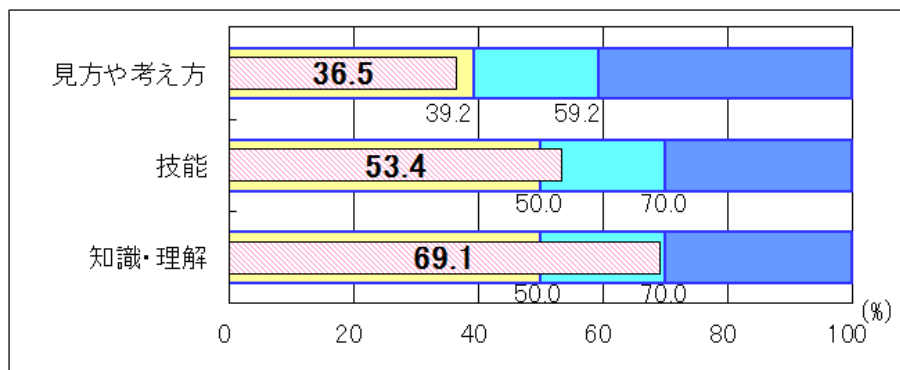


図3 H25年度(中学3年生数学B)評価の観点別正答率

中学2年生と同様に、「技能」と「知識・理解」は共に「おおむね達成」の基準を上回ったが、「見方や考え方」は「おおむね達成」の基準を2.7ポイント下回った。「見方や考え方」については、「結果を数学的な表現を用いて説明すること」「事柄が成り立つ理由を説明すること」「問題解決の方法を説明すること」などの数学的な表現を用いて説明することに課題が見られた。「技能」については、「問題場面における考察の対象を明確に捉えること」に課題が見られた。

(ウ) 内容・領域別正答率
 中学2年生

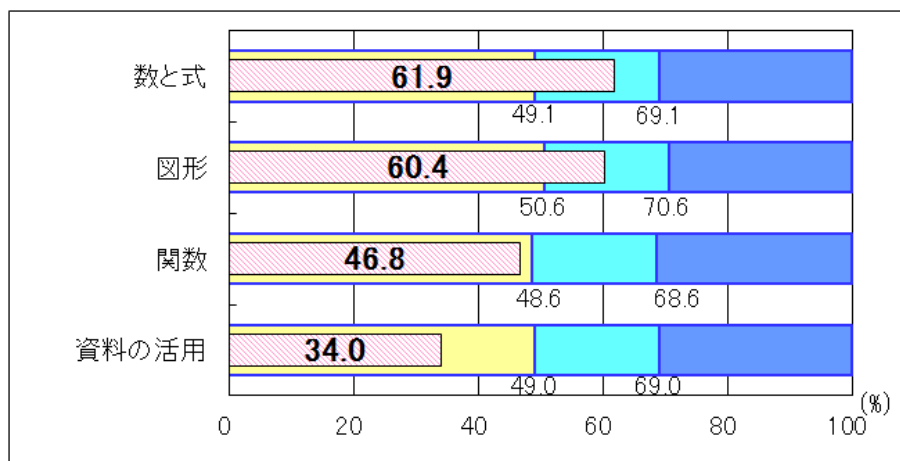


図4 H25年度(中学2年生数学)内容・領域別正答率

「数と式」については、「おおむね達成」の基準を12.8ポイント上回ったが、「絶対値に関すること」や「与えられた情報から数量の関係を見だし、方程式をつくること」に課題が見られた。「図形」については、「おおむね達成」の基準を9.8ポイント上回ったが、「球の体積を求めること」や「円錐の展開図を基に、扇形の弧の長さや中心角の求め方を説明すること」に課題が見られた。「関数」については、「比例のグラフ上にある点の座標を求めること」や「反比例であることを説明すること」などの設問で正答率が「おおむね達成」の基準を10.0ポイント以上下回った。また、「資料の活用」については、「資料の傾向を捉えること」や「範囲や最頻値の用語に関すること」などの設問でも正答率が「おおむね達成」の基準を10.0ポイント以上下回っていた。

中学3年生

①数学A

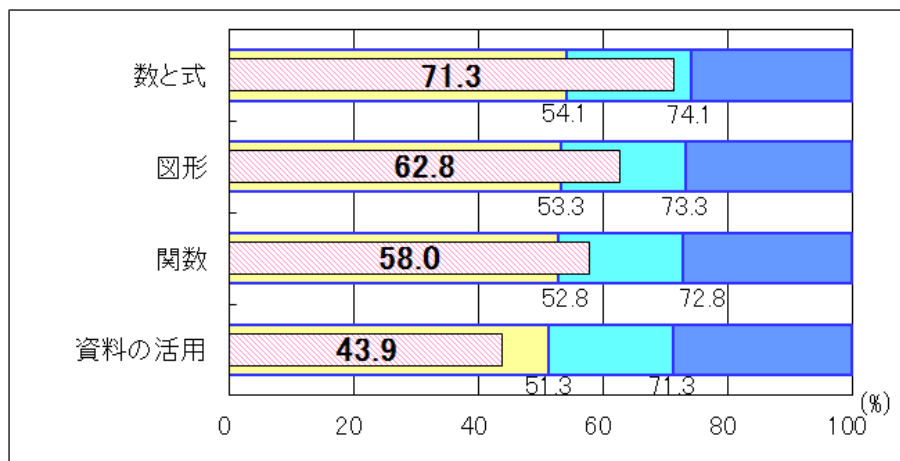


図5 H25年度(中学3年生数学A)内容・領域別正答率

「数と式」については、「おおむね達成」の基準を17.2ポイント上回ったが、「数量の関係や法則などを文字式で表すこと」に課題が見られた。「図形」についても、「おおむね達成」の基準を9.5ポイント上回ったが、「角の二等分線の作図の方法を、図形の対称性に着目して見直すこと」や「球と円柱の体積の比較に関すること」に課題が見られた。「関数」についても、「おおむね達成」の基準を5.2ポイント上回ったが、「関数の意味に関すること」や「一次関数の表から、変化の割合を求めること」に課題が見られた。「資料の活用」については、「おおむね達成」の基準を7.4ポイント下回り、「相対度数や確率を求めること」や「確率の意味に関すること」に課題が見られた。

②数学B

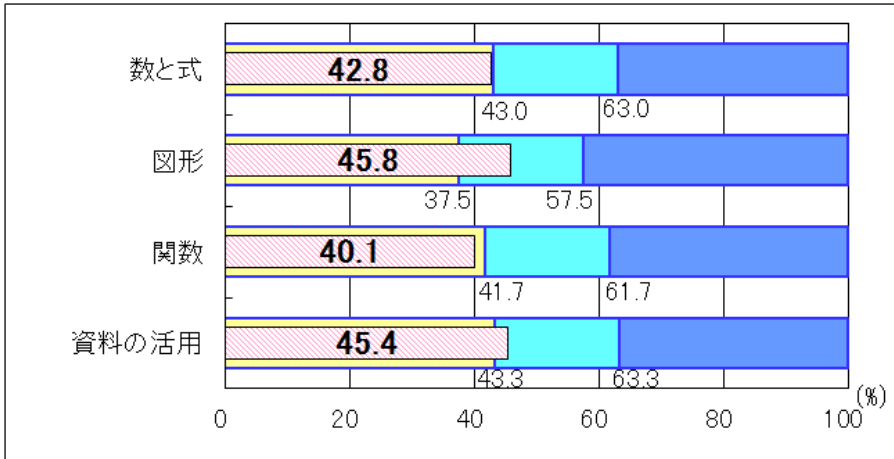


図6 H25年度(中学3年生数学B)内容・領域別正答率

「図形」については、「おおむね達成」の基準を8.3ポイント、「資料の活用」については2.1ポイント上回った。「資料の活用」については、「資料の傾向を的確に捉え、事柄の特徴を数学的に説明すること」に課題が見られた。「数と式」「関数」については、共に「おおむね達成」の基準を下回った。「数と式」では、「事柄が成り立つ理由を説明すること」の2つの設問の無解答率が24.8と42.0で、「予想した事柄を説明すること」の設問の無解答率は35.2であった。「関数」では、「問題解決の方法を説明すること」の設問の無解答率は36.9であった。

イ 経年比較

(凡例) □:要努力(おおむね達成の基準を下回る) □:おおむね達成 □:十分達成

中学2年生では、平成24年度の課題であった「基礎的・基本的な問題」と「活用」に関する問題についての変容を考察するために、同一学年の経年比較を行った。中学3年生では、数学Aについては「基礎的・基本的な問題」、数学Bについては記述式の設定問を中心に変容を考察するために、同一学年の経年比較を行った。

(ア) 「基礎的・基本的な問題」の経年比較(同一学年)
 中学2年生

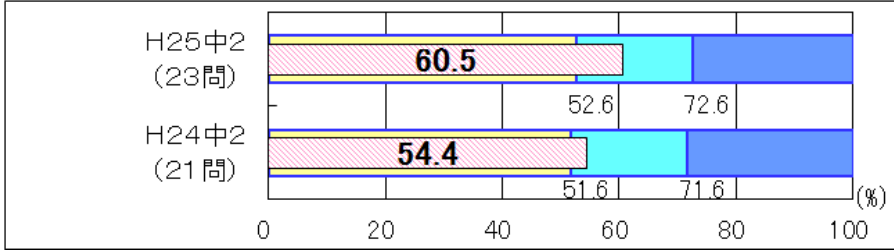


図7 H24・H25年度(中学2年生数学)「基礎的・基本的な問題」の正答率の経年比較

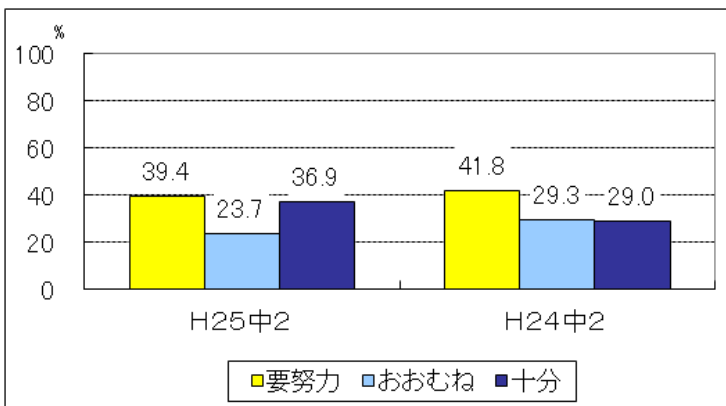


図8 H24・H25年度(中学2年生数学)「知識・理解」の到達度分布の経年比較

「基礎的・基本的な問題」については、「おおむね達成」の基準を1として、正答率を算出した値と比較すると、平成25年度は平成24年度よりも上回る結果となった(図7)。「知識・理解」について、平成25年度と平成24年度を到達度分布で比較すると、「十分達成」の基準を上回っている生徒の割合は7.9ポイント増加し、「要努力」の生徒の割合は2.4ポイント減少した(図8)。しかしながら、「グラフ上の点の座標に関すること」や「絶対値や最頻値などの用語に関すること」などの知識の定着に平成24年度同様課題が見られる結果となった。

中学3年生数学A問題

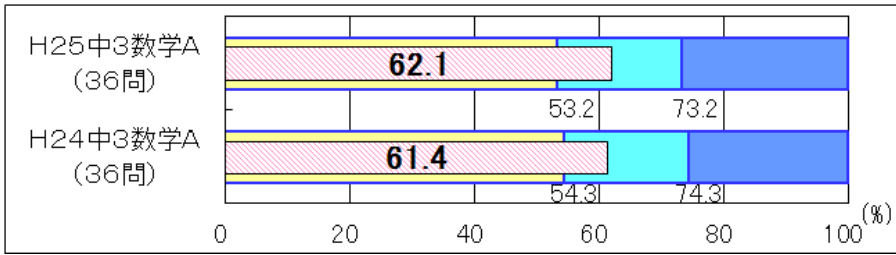


図9 H24・H25年度(中学3年生数学A)の正答率の経年比較

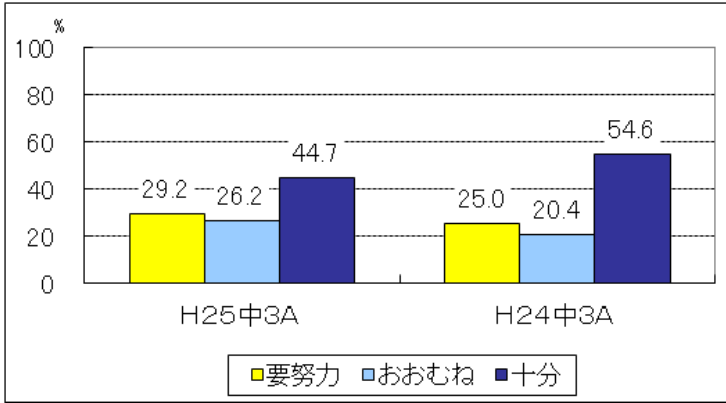


図10 H24年度「数学的な表現・処理」とH25年度「技能」の到達度分布の経年比較
(中学3年生数学A)

「基礎的・基本的な問題」については、「おおむね達成」の基準や「十分達成」の基準が異なるために、単純に比較することはできないが、正答率で上回る結果となった(図9)。「技能」について、平成25年度と平成24年度の到達度分布で比較すると、「十分達成」の基準を上回っている生徒の割合は9.9ポイント減少し、「要努力」の生徒の割合も4.2ポイント増加している。「数量の関係や法則などを文字式で表すこと」「変化の割合を求めること」「確率を求めること」などの技能を身に付けることに課題が見られた。

(イ) 「活用」に関する問題の経年比較(同一学年)

中学2年生

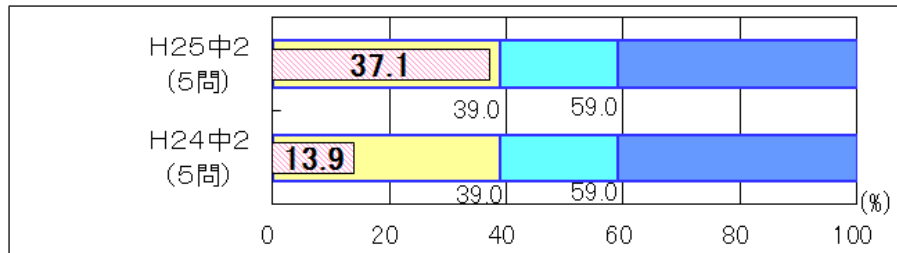


図11 H24・H25年度(中学校数学)「活用」に関する問題の正答率の経年比較

「活用」に関する問題については、「おおむね達成」の基準及び「十分達成」の基準も等しかったため、比較を行った。平成24年度と比べると、正答率が23.2ポイント上回っている。表1は与えられた情報を基に、数学的な表現を用いて説明するなどの言葉や数を使って説明する設問について比較したものである。また、表2は、数量の関係を見だし、一元一次方程式をつくる設問について比較したものである。

表1 H24・H25年度(中学2年生数学)記述式の設問の正答率・無解答率の経年比較

	主な出題内容	正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
H25	不等式を読み取り、説明する	62.5	9.6	65.0	45.0
	弧の長さや中心角の求め方を説明する	15.9	34.0	55.0	35.0
	反比例であることを説明する	23.6	23.3	55.0	35.0
	平均	34.0	22.3	58.3	38.3
H24	不等式を読み取り、説明する	22.1	20.2	60.0	40.0
	問題解決の方法について説明する	15.0	46.4	60.0	40.0
	比例であることを説明する	20.8	48.5	60.0	40.0
	平均	19.3	38.4	60.0	40.0

表2 H23・H24・H25年度(中学2年生数学)数量の関係を見だし、一元一次方程式をつくる設問の正答率・無解答率の経年比較

	出題方法	正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
H25	短答式	12.1	13.5	55	35
H24	短答式	6.1	14.0	60	40
H23	短答式	3.7	52.0	55	35

表1、表2より、与えられた情報を基に、数学的な表現を用いて説明するなどの記述式の設問や数量の関係を見だし、一元一次方程式をつくる設問などの正答率は平成24年度より上回っているが、これまで同様に課題が残る結果となった。

「活用」に関する問題の経年比較(同一学年)

中学3年生

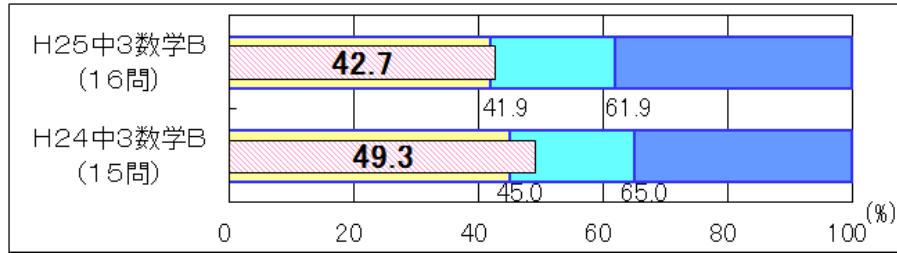


図12 H24・H25年度(中学3年生数学「B問題」)の正答率の経年比較

数学Bについては、「おおむね達成」の基準及び「十分達成」の基準が異なるために、単純に比較することはできないが、平成25年度も平成24年度も「おおむね達成」の基準を上回っているが、「おおむね達成」の基準を1として正答率を算出して比較すると、平成25年度は平成24年度を下回る結果となった。

表3については、判断した根拠や事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明するなどの記述式の設定問について比較したものである。

表3 H24・H25年度(中学3年生数学B)記述式の設定問の正答率・無解答率の経年比較

	主な出題内容	正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
H25	事象を式の意味に即して解釈し、その結果を数学的な表現を用いて説明することができる	31.7	16.1	55	35
	事柄が成り立つ理由を、示された方針に基づいて説明することができる	37.7	24.8	60	40
	発展的に考え、予想した事柄を説明することができる	36.8	35.2	60	40
	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	28.0	36.9	60	40
	方針に基づいて証明することができる	39.5	23.6	55	35
	資料の傾向を的確に捉え、事柄の特徴を数学的に説明することができる	38.7	44.8	60	40
	事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明することができる	29.7	42.0	55	35
	平均	34.6	31.9	57.9	37.9
H24	軌道の長さの差を求める計算を解釈し、数学的な表現を用いて説明することができる	13.4	19.2	60	40
	事柄が成り立つ理由を示された方針に基づいて説明することができる	37.6	26.9	60	40
	発展的に考え、予想した事柄を説明することができる	54.5	23	65	45
	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる	47.9	9.6	60	40
	筋道を立てて考え、証明することができる	44.6	22.3	60	40
	問題解決の方法を数学的に説明することができる	24.8	41.0	60	40
	問題解決を振り返って、数量の関係を数学的に解釈し、関係が成り立つ理由を説明することができる	25.2	23.7	60	40
	平均	35.4	23.7	60.7	40.7

※太字・塗りつぶしの項目は、正答率が「おおむね達成」の基準を下回った設問

「おおむね達成」の基準と「十分達成」の基準が異なるために、単純に比較することはできないが、記述式の平均正答率は平成24年度と比較すると、0.8ポイント下がり、無解答率は8.2ポイント上がる結果となった。また、「おおむね達成」の基準を下回る設問の数も平成24年度より増える結果となった。中学2年生同様に「事柄が成り立つ理由を説明すること」や「問題解決の方法を数学的な表現を用いて説明すること」などの記述式の設定問については、平成24年度に引き続き課題を残す結果となった。

ウ 設問ごとに見た傾向と指導改善の手立て

上記の「ア結果の概要」と「イ経年比較」から、特定の基礎的・基本的な知識・技能に関する学習内容、数学的な表現を用いて説明するなどの記述式の学習内容に課題が見られた。これらのことを踏まえて、設問ごとに分析を行うことで、課題をより詳細に把握し、具体的な改善策や方策を提示した。

傾向1 特定の基礎的・基本的な知識・技能に関する学習内容に課題がある。

[中学2年生 大問4]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問4(2)	与えられた情報から数量の関係を見だし、一元一次方程式をつくることのできる (短答式)	線分図を基に、一元一次方程式をつくる。	12.1	13.5	55.0	35.0

○ 解答状況

問4(2)は「おおむね達成」の期待正答率35.0に対して、正答率が12.1で、22.9ポイント下回った。線分図を基に、数量の関係を見だし、一元一次方程式をつくることに課題があると考えられる。

○ 指導改善の手立て

問題の中の数量やその関係から2通りに表される数量を見だし、文字を用いた式で表すことができるようにすることが大切である。そのため、言葉の式や線分図等を利用して数量の関係を把握したり、式を基にして数量の関係を読み取ったりする活動を設定することが必要であるとする。これらの活動を通して、数量の関係を把握し、文字を用いた式を等号で結ぶことで一元一次方程式をつくることのできるようにしたいと考える。この大問では、一元一次方程式をつくる際に、合計の距離について着目する場合と走る合計の人数に着目する場合が考えられる。このように、2つの考え方で一元一次方程式をつくらせるような学習活動を取り入れることが大切であるとする。

[中学2年生 大問9、大問10]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問9(3)	比例のグラフ上にある点の座標を求めることのできる (短答式)	点(2, -6)を通る比例のグラフ上の点で、x座標が-4である、y座標を求める。	32.2	23.3	70.0	50.0
問10(1)	与えられた情報から、xとyの関係を表す式を考えることのできる (短答式)	歯数が36の歯車Aと歯数が12の歯車Bで、歯車Aをx回転させたときの歯車Bの回転数をy回転して式に表す。	23.8	18.8	65.0	45.0

○ 解答状況

問9(3)は「おおむね達成」の期待正答率50.0に対して、正答率が32.2で、17.8ポイント下回り、問10(1)は「おおむね達成」の期待正答率45.0に対して、正答率が23.8で、21.2ポイント下回った。比例のグラフ上のx座標とy座標の値の組を求めることや身近な事象を数学的に捉え、比例の式に表すことに課題があると考えられる。

○ 指導改善の手立て

比例の式から、グラフをかいた後に、グラフ上にある点のx座標とy座標の値の組がその比例の式を満たすことを、具体的な数値を用いて確認するような学習活動を取り入れる必要があるとする。また、グラフ上にない点について、x座標やy座標の値の組がその比例の式を満たさないことも確認できるようにすることも必要であるとする。日常生活における事象を数理的に考察するために、具体的な数値を用いて、2つの数量の関係について変化や対応の様子を表に表したり、式に表したりする活動が大切である。さらに、観察、操作や実験などの活動に基づいて、2つの数量の関係の変化や対応の様子について表、式、グラフを相互に関連付けて考察する活動を取り入れる必要があるとする。

[中学2年生 大問11、大問12、大問13]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問11(1)	範囲について理解している (短答式)	15名の借りた本の冊数を調べ、範囲を求める。	20.3	14.3	75.0	55.0
問11(2)	最頻値について理解している (短答式)	15名の借りた本の冊数を調べ、最頻値を求める。	39.6	14.0	75.0	55.0
問12(1)	与えられた数値を有効数字で表すことができる (選択式)	品物の重さで、有効数字をはっきりさせた表し方を選択する。	32.1	4.9	65.0	45.0
問13	資料の傾向を捉えることができる (選択式)	度数分布表や度数分布多角形を見て資料の傾向を読み取る。	23.8	7.1	60.0	40.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率は、問11(1)(2)は50.0、問12(1)は45.0、問13は40.0であったが、正答率は、問11(1)は20.3、問11(2)は39.6、問12(1)は32.1、問13は23.8と全て下回った。範囲、最頻値や有効数字などの用語に関することと度数分布表や度数分布多角形の見方などの知識の確実な習得に課題があると考えられる。

○ 指導改善の手立て

日常生活を題材とした問題などを取り上げ、それを解決するために必要な資料を収集し、ヒストグラムや度数分布多角形を作成したり代表値を求めたりして資料の傾向を捉え、その結果を基に説明するという一連の活動を取り入れることが大切である。ヒストグラムや度数分布多角形を作成する際に、インターネットなどを利用して資料を収集することも効果的であるとする。資料の傾向を読み取らせるためには、目的に応じて資料を収集して整理し、中央値、平均値や最頻値などの代表値の必要性和意味を理解したり、資料から代表値を求めたりする学習活動を取り入れる必要があるとする。その際、ヒストグラムの分布が非対称であったり、大きくかけ離れた値があったりすると、平均値は大きく影響を受けるが、中央値や最頻値には影響が出にくいことを確認したり、資料をヒストグラムや度数分布表に整理して代表値を求めたりする学習活動を取り入れることが必要であるとする。数学の用語などの知識については、他者のヒストグラムの特徴についての説明を聞きながら、範囲、最頻値、中央値、平均値などのうち、どの用語の意味を用いたほうがより分かりやすいかを考えることでより理解を深めることもできると考える。

[中学3年生数学A 大問2]

○ 問題の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	問題の概要	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問2(3)	数量の関係や法則などを文字式で表すことができる (短答式)	a mの重さがb gの針金の1 mの重さを、a、bを用いた式で表す。	28.2	17.7	75.0	55.0

○ 解答状況

問2(3)は「おおむね達成」の期待正答率55.0に対して、正答率は28.2で、26.8ポイント下回った。針金の重さが長さに比例する関係を捉えることに課題があると考ええる。

○ 指導改善の手立て

数量の関係や法則などを文字を用いた式で表すことは、事象における数量やその関係を一般的に把握したり、形式的に処理を行ったりする際に重要であると考ええる。そのため、この設問においては、針金の重さが長さに比例する関係であることを捉えさせ、比例式で解決させるようにする必要があると考ええる。また、文字を具体的な数値に置き換えて考えることができるようにすることも必要であると考ええる。

[中学3年生数学A 大問11]

○ 問題の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	問題の概要	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問11(2)	一次関数の表から、変化の割合を求めることができる (短答式)	一次関数の表から変化の割合を求める。	40.1	24.0	70.0	50.0

○ 解答状況

問11(2)は「おおむね達成」の期待正答率50.0に対して、正答率は40.1で、9.9ポイント下回った。一次関数の表から、対応する値を選択し、変化の割合を求めることについての知識・技能の習得に課題があると考えられる。

○ 指導改善の手立て

関数の変化の割合はxの増加量に対するyの増加量の割合であり、一次関数においてはその値が常に一定であることを理解させることが大切である。一次関数の変化の割合を求めることができるようにするためには、表でx、yの変化の様子を調べ、変化の割合について理解を深めるようにする必要がある。その際具体的な数値を挙げて、xの増加量やyの増加量を調べ、どの場合でも変化の割合は一定であることを確認したり、一次関数の式で、xの係数と一致していることを確認したりする活動が重要であるとする。また、一次関数の表から変化の割合を求めたり、変化の割合を基にして表に表されていない値を求めたりするなどの学習活動が重要であるとする。

[中学3年生数学A 大問15]

○ 問題の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	問題の概要	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問15(1)	確率の意味を理解している (選択式)	1枚の硬貨を多数回投げたときの表が出る相対度数の変化の様子について、正しい記述を選ぶ。	31.0	3.0	75.0	55.0
問15(2)	簡単な場合について確率を求めることができる (短答式)	大小2つのさいころを同時に投げるとき、出る目が両方とも1となる確率を求める。	49.6	14.1	70.0	50.0

○ 解答状況

問題15(1)は「おおむね達成」の期待正答率55.0に対して、正答率は31.0で、19.0ポイント下回り、問15(2)は期待正答率50.0に対して、正答率は49.6で、0.4ポイント下回った。ある試行を多数回繰り返したとき、全体の試行回数に対するある事象の起こる回数の割合は、ある一定の値に近づくということを理解できていないと考えられる。また、起こり得る場合を樹形図や二次元の表などを利用して整理し、確率を求めることに課題があると考えられる。

○ 指導改善の手立て

確率の意味については、観察や実験などを通して、ある試行を多数回繰り返したときに、ある事象が起こる回数の全体に対する割合が近づいていく値であることを実感を伴って理解できるようにすることが大切である。観察、操作や実験などの具体的な活動を行う際は、答えや解決方法の見通しについて予想をする活動が重要であるとする。予想したことを確かめたり、見直したりする活動を通して、実感を伴って理解できるようにしたいとする。場合の数を求めるためには、ある視点を決めて、数え忘れや重なりがないように、起こり得る全ての場合を数えることが大切である。そのため、思い付いたまま起こり得る場合を挙げるのではなく、樹形図や二次元の表を用いて起こり得る全ての場合を順序よく数え上げ、問題の条件を基に整理できるようにすることが大切であるとする。

傾向2 事柄が成り立つ理由や問題解決の方法を数学的な表現を用いて説明することなどの記述式の学習内容に課題がある。

[中学2年生 大問7]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問7	円錐の展開図を基に、扇形の弧の長さや中心角の関係を利用して求め、その求め方を説明することができる (記述式)	底面の半径が20cmになるように、扇形の中心角や半径の求め方を説明する。	15.9	34.0	55.0	35.0

○ 解答状況

問7は「おおむね達成」の期待正答率35.0に対して、正答率は15.9で、19.1ポイント下回った。円錐の底面の半径とその円錐の展開図の扇形の中心角や半径を関連付けて考えることに課題があると考えられる。

○ 指導改善の手立て

円錐の展開図では、その見取図の側面に当たる部分が扇形であることや、底面の円周と扇形の弧の長さが等しいことなど、見取図と展開図の特徴やそれらの関係について関連付けて理解できるようにすることが大切である。そのため、展開図から円錐を実際に組み立て、底面と側面の対応する部分について考察するなどの場面を設定する必要があると考える。円や扇形の学習においては、扇形を円の一部として捉え、弧の長さや面積がその中心角の大きさに比例することを理解できるようにすることが大切である。その考え方を基にして、比例式や方程式を利用した解法などに取り組むことで、数学的な見方や考え方を育てることができると考える。

[中学2年生 大問10]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問10(2) ㉔	与えられた情報を基に、 x と y の関係が反比例であることを説明することができる (記述式)	表を基に、反比例である理由を説明する。	23.6	23.3	55.0	35.0

○ 解答状況

問10(2)㉔は「おおむね達成」の期待正答率35.0に対して、正答率は23.6で、11.4ポイント下回った。反比例の変化や対応の特徴について、表から値を読み取り、式に表して事柄が成り立つ理由を説明することに課題があると考えられる。

○ 指導改善の手立て

反比例では、表、式、グラフを相互に関連付けて、伴って変わる2つの数量の変化や対応を観察し、その特徴を見い出して説明する学習活動を取り入れる必要があると考える。反比例の意味については、対応する x と y の値の積が一定であることや、その値が比例定数と等しくなること、 x の値を2倍、3倍、4倍…とすると、 y の値は $1/2$ 倍、 $1/3$ 倍、 $1/4$ 倍…となることなどを、表と式を関連付けて説明できるようにすることが大切である。その際、対応する x と y の値を $y=a/x$ に代入し、比例定数を求め、反比例の式を求めることができるようにすることも大切であると考えられる。

[中学3年生数学B 大問2]

○ 問題の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	問題の概要	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問2(2)	発展的に考え、予想した事柄を説明することができる (記述式)	2けたの自然数と、その数の十の位の数と一の位の数を入れ替えた数の和について予想した事柄を表現する。	36.8	35.2	60.0	40.0

○ 解答状況

問2(2)は「おおむね達成」の期待正答率40.0に対して、正答率は36.8で、3.2ポイント下回った。2けたの自然数と、その数の十の位の数と一の位の数を入れ替えた数の差が9の倍数になることを基に、2けたの自然数と、その数の十の位の数と一の位の数を入れ替えた数の和のように条件を変えて発展的に考え、予想した事柄を説明することに課題があると考えられる。

○ 指導改善の手立て

発展的に考え、予想することができるようにするために、問題を解決した後、条件を変える視点などを示し、生徒自らが新たな事柄を見いだすような学習活動を取り入れる必要があると考えられる。また、見いだした事柄を数学的な表現を用いて説明する活動を取り入れることも大切である。条件を変えて発展的に考えさせる際に、条件を変える前の内容について振り返って考えるような機会を設定し、条件を変える前に振り返って考えることの必要性を実感できるようにすることも重要であると考えられる。

[中学3年生数学B 大問3]

○ 問題の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	問題の概要	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問3(2)	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる (短答式)	与えられた表やグラフを用いて、水温が80℃になるまでにかかる時間を求める方法を説明する。	28.0	36.9	60.0	40.0

○ 解答状況

問3(2)は「おおむね達成」の期待正答率40.0に対して、正答率は28.0で、12.0ポイント下回った。事象を数学的に解釈し、表、式、グラフなどを利用して、問題解決の方法を数学的に説明することに課題があると考えられる。

○ 指導改善の手立て

与えられた表やグラフを用いて、データでは与えられていない温度に対応する時間を推測する方法を説明する設問で、事象を数学的に解釈して、問題解決の方法を説明することが求められている。そのため、日常的な事象を形式的に処理して考えることや事象の変化や対応の様子を一次関数とみなして考える学習活動が大切であると考えられる。変化や対応の様子を捉える際には、これまでに学習した内容を基に、変化の割合が一定であることやグラフ上の点の並びを見て一次関数として考えることに気付くような場面を設定することも大切であると考えられる。一次関数 $y = ax + b$ として考える際に、 x の値とそれに対応する y の値がそれぞれ何を表しているかを把握させ、 x の値や y の値を式に代入して対応する値を求めたり、変化の割合を利用して求めたりする際に、どのようにして求めるのかという問題解決の方法まで説明する学習活動を取り入れることが重要であると考えられる。

エ これからの指導に向けて

今回の調査において明らかになったことは、「文字を用いて式に表すこと」「表、式、グラフの関連に関すること」「中央値、最頻値などの代表値、相対度数、確率を求めること」などの基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせることと「事象の中から数量の関係を読み取って、方程式をつくること」「事柄が成り立つ理由を説明すること」「事柄を調べる方法や手順を説明すること」などの数学的な見方や考え方を育てることに課題があることが分かった。そのため、これからの指導に向けて、以下の3点に留意しながら指導改善を図っていく必要があると考える。

(ア) 日常生活の事象を数理的に考察する学習活動の充実

日常生活の事象を数理的に考察する力を高める必要がある。そのために、日常生活の事象を定式化して数学的に考察する場面の設定をする必要があると考える。日常生活の事象と数学を結び付けて考察したり処理したりする活動を通して、数学を利用することの意義を実感させたり、既習の知識・技能、数学的な見方や考え方などの必要性を実感させたりすることが大切であると考え。

(イ) 観察、操作や実験などの具体的な活動の充実

事象を観察して法則を見付けたり、具体的な操作や実験を試行錯誤し数学的な内容を帰納的に考えたりするなどして、数や図形の性質を見いだす学習活動を充実させる必要があると考える。観察、操作や実験など具体的な活動において、予想を立ててその予想を記述し、それを確かめたり、その誤りに気付いて予想を見直したりする活動を取り入れることが大切であると考え。また、条件を変えて発展的に考え、予想する場合には、条件を変える前の学習内容に振り返って考えることができるようにすることも大切であると考え。既習の数学と結び付けたり、自分なりの方法で見いだしたりしていくような学習活動を取り入れていくことで、既習の数学の大切さに気付かせ、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせたいと考える。

(ウ) 説明し伝え合う学習活動の充実

生徒が学んだ数学を活用して考えたり判断したりすることをよりよく行うことができるよう、言葉や数、式、図、表、グラフなどの数学的な表現を用いて、論理的に考察し、表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりする学習活動の充実させることが大切である。自分の考えを整理したり、表現を工夫したりして、相手に的確に分かりやすく伝えることで数学的な表現力が高まると考える。また、自分の考えをもち、説明し伝え合うことで、一人では気付かなかった新しい視点をもつことにもつながると考える。そのために、自分の考えを記述する場面を設定し、それを基に話し合ったり発表したりする活動を通して、数学的な用語を適切に用いた表し方を身に付けさせたい。数学的な表現を用いて説明する活動として、見いだした事柄や事実を説明すること、事柄を調べる方法や手順を説明すること、事柄が成り立つ理由を説明することの3つの場面を設定し、これらの活動を計画的・継続的に取り入れることによって数学的な見方や考え方を育てていきたいと考える。

○ 教師意識調査の結果より

教師意識調査(29)の「数学で、生徒が問題について、様々な考え方を出し合い、話し合っていくような活動を取り入れた授業を行っていますか。」という質問に対して、「多くの単元で行っている」と回答した教師の割合は、32.6%である。自分の考えを深めたり、新しい視点をもったりするためには、自分の考えを説明し伝え合う学習活動を充実させることが重要であると考え。そこで、1時間の授業の中で、ペアやグループで話し合っ課題を解決するような場面を設定し、上記(ウ)の3つの数学的な表現を用いて説明する活動を充実させたいと考える。様々な考え方を出し合い、話し合っていくような活動を積み重ねることで、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ったり、数学的な見方や考え方を育てたりしていきたいと考える。

オ 授業実践に参考となるリンク



最終更新日：2013-10-21

平成25年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > Ⅲ 各教科の調査結果の分析 > 中学校理科

Ⅲ 各教科の調査結果の分析

※中学1年生の調査については、小学6年生の学習内容としているため、小学校の項で分析している。

中学校理科

観察・実験を中心とした授業の中で、指導と評価の一体化を図る理科授業

中学2年生では、評価の観点の全てにおいて、「おおむね達成」の基準を下回った。中学3年生では、「知識・理解」において、「おおむね達成」の基準を上回ったが、「思考・表現」、「技能」においては、「おおむね達成」の基準を下回った。また、「活用」を問う問題においては中学2年生、中学3年生ともに課題が見られた。今後は、観察・実験の充実を図るとともに、生徒の現状を的確に把握するための評価方法や評価によって得られた情報をどのように生徒にフィードバックするかを考えながら指導を工夫していく必要がある。

この後、評価の観点については、以下のよう記す。

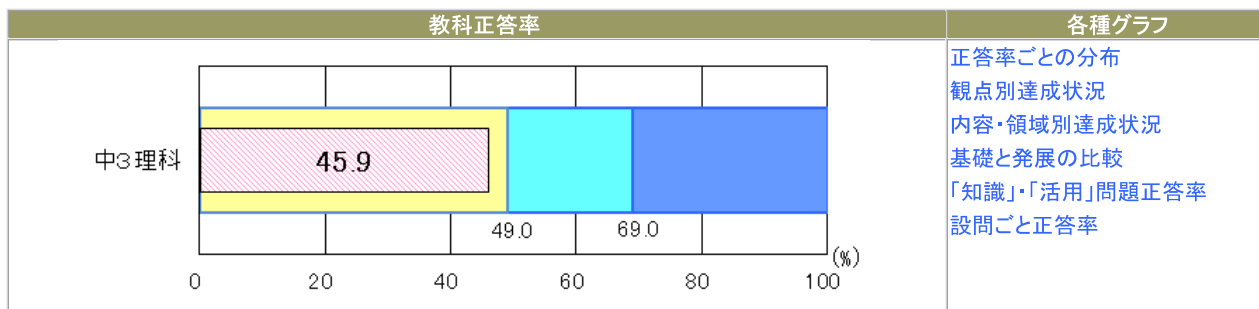
- | | | |
|-----------------|---|-----------|
| ○自然事象への関心・意欲・態度 | → | 本調査では設定なし |
| ○科学的な思考・表現 | → | 「思考・表現」 |
| ○観察実験の技能 | → | 「技能」 |
| ○自然事象についての知識・理解 | → | 「知識・理解」 |

ア 結果の概要

(凡例) :要努力(おおむね達成の基準を下回る) :おおむね達成 :十分達成

(ア) 教科及び設問ごと正答率

		教科正答率		各種グラフ			
中2理科				正答率ごとの分布 観点別達成状況 内容・領域別達成状況 基礎と発展の比較 「活用」に関する問題 設問ごと正答率			
中2理科 設問ごと正答率							
大問	小問	出題のねらい	問題形式	正答率	無解答率	期待正答率 十分達成	期待正答率 おおむね達成
1	(1)	アブラナの花のつくりを理解している	短答	61.2	7.4	75	55
	(2)	被子植物の花のつくりの特徴を理解している	記述	54.0	13.4	70	50
	(3)	胚珠の数を基に種子の数を考えることができる	短答	24.5	6.6	70	50
	(4)	マツの種子の特徴から、種子の運ばれ方を考えることができる	選択	70.6	0.4	65	45
2	(1)	蒸散量を調べる実験を正しく行うことができる	短答	69.1	7.9	75	55
	(2)	蒸散について理解している	短答	48.4	8.5	75	55
	(3)	表を基に、蒸散による水の減少量を考えることができる	短答	14.8	8.9	65	45
	(4)	表を基に、蒸散による水の減少量の違いを気孔の数と関連付けて説明することができる	記述	50.3	10.7	65	45
3	(1)	金属と非金属の性質について理解している	選択	60.7	1.8	70	50
	(2)	上皿てんびんを正しく使うことができる	選択	46.5	1.0	75	55
	(3)	メスシリンダーの目盛りを読み取ることができる	短答	33.3	1.5	75	55
	(4)	質量と体積を基に、密度を求める方法を理解している	短答	55.7	9.5	70	50
	(5)	水が氷に浮いている理由を、密度と関連付けて説明することができる	記述	59.8	12.2	60	40
4	(1)	融点を調べる実験を安全に行うことができる	記述	65.0	6.4	75	55
	(2)	融点について理解している	短答	38.3	18.2	75	55
	(3)	パルミチン酸が固体から液体になるときの状態について理解している	選択	41.8	1.2	70	50
	(4)	質量と融点の関係から、パルミチン酸の温度変化の様子を考えることができる	選択	37.0	1.9	65	45
5	(1)	弾性力について理解している	短答	36.4	13.5	75	55
	(2)	実験結果を基に、グラフを作成することができる	短答	54.1	6.9	70	50
	(3)	月面上での重力の大きさを基に、ばねののびを考えることができる	短答	25.5	20.4	65	45
6		弦の長さによる音の高さの違いを、振動数と関連付けて説明することができる	記述	52.1	10.3	60	40
7	(1)	震央について理解している	短答	59.3	13.9	75	55
	(2)	地震の規模を表わす単位を理解している	短答	69.8	9.8	75	55
	(3)	表を基に、S波が伝わる速さを考えることができる	短答	35.6	26.0	70	50
	(4)	緊急地震速報の効果を、震源からの距離と地震波の到達時間とを関連付けて説明することができる	記述	29.0	25.9	60	40
8	(1)	砂岩と泥岩の粒の大きさが異なることを理解している	短答	51.5	9.4	70	50
	(2)	砂岩に含まれる粒が、流水の働きで丸みを帯びることを理解している	記述	63.1	12.0	70	50
	(3)	示相化石について理解している	選択 短答	17.1	8.4	70	50
	(4)	柱状図を基に、土地の変化を考えることができる	短答	52.4	14.5	65	45



中3理科 設問ごと正答率

大問	小問	出題のねらい	問題形式	正答率	無解答率	期待正答率 十分達成	期待正答率 おおむね達成
1	(1)	石灰水の変化から、発生した気体が何という物質であるかを理解している	短答	77.1	5.2	70	50
	(2)	酸化銅と炭を反応させたときの色の変化を理解している	選択	57.4	0.6	70	50
	(3)	酸化銅を還元する実験を、正しく行うことができる	記述	69.4	5.6	70	50
	(4)	化学変化を化学反応式で表すことができる	短答	16.9	34.1	70	50
2	(1)	実験結果を基に、グラフを作成することができる	短答	29.7	16.1	70	50
	(2)	表やグラフを基に、化合する銅と酸素の質量比を考えることができる	短答	50.4	7.1	65	45
	(3)	表やグラフを基に、未反応の銅の質量を考えることができる	短答	6.9	11.4	60	40
	(4)	かいろが冷えた原因を、鉄と反応する酸素と関連付けて説明することができる	記述	40.8	8.9	65	45
3	(1)	消化酵素の働きについて理解している	短答	33.9	14.8	75	55
	(2)	ペネシクト液を正しく使用することができる	選択	42.4	1.0	75	55
	(3)	実験結果を基に、デンプンが分解されてできた物質の存在を考えることができる	選択	51.2	1.1	65	45
	(4)	実験結果を基に、デンプンの存在を考えることができる	選択	71.7	1.5	65	45
	(5)	実験結果を基に、だ液のはたらきを説明することができる	記述	23.5	26.5	60	40
4	(1)	脊椎動物の特徴を理解している	短答	87.0	4.8	75	55
	(2)	変温動物の特徴を理解している	短答	76.9	5.9	75	55
	(3)ア	無脊椎動物であるトノサマバッタの特徴を理解している	選択	54.9	1.2	70	50
	(3)イ	ハチュウ類であるトカゲの特徴を理解している	選択	45.4	1.3	70	50
	(4)	ホニュー類の特徴を理解している	短答	67.8	11.0	75	55
	(5)	親まで育つものの割合が少ない動物とその理由を説明することができる	選択 記述	57.9	10.0	65	45
5	(1)	電源装置や電流計などを用いて、回路をつくることができる	短答	35.3	8.3	70	50
	(2)	電流計を使って、電流を測定することができる	短答	21.3	5.4	75	55
	(3)	表を基に、電熱線に流れる電流の大きさを考えることができる	短答	41.5	16.0	65	45
	(4)	電流と電圧の大きさから抵抗の大きさを求める方法を理解している	短答	36.5	24.7	70	50
6	(1)A	電流の向きを基に、電流が磁界から受ける力の向きが逆になることを考えることができる	選択	57.1	6.3	65	45
	(1)B	磁界の向きを基に、電流が磁界から受ける力の向きが逆になることを考えることができる	選択	58.0	7.0	65	45
	(2)	整流子の働きを基に、モーターが回転し続ける理由を説明することができる	記述	14.7	40.6	60	40
	(3)	モーターの回転を速くする方法を理解している	選択	72.0	3.7	70	50
7	(1)	乾湿計を使って、湿度を調べることができる	短答	60.7	7.9	75	55
	(2)①	雲量の量り方を理解している	短答	44.1	20.3	75	55
	(2)②	風向、風力、天気を記号を使って表わすことができる	短答	10.5	9.2	70	50
	(3)	グラフを基に、晴れの日の気温と湿度の関係を説明することができる	記述	60.1	19.6	70	50
8	(1)	冬の気圧配置の特徴と気圧配置に影響を与えている気団を理解している	選択 短答	27.9	8.9	75	55
	(2)	等圧線の間隔と風の強さの関係を理解している	選択 記述	34.9	10.1	70	50
	(3)	資料を基に、冬の日本海側で太平洋側に比べて雪が多く降る理由を説明することができる	記述	24.9	22.4	60	40

(イ) 評価の観点別正答率

① 中学2年生

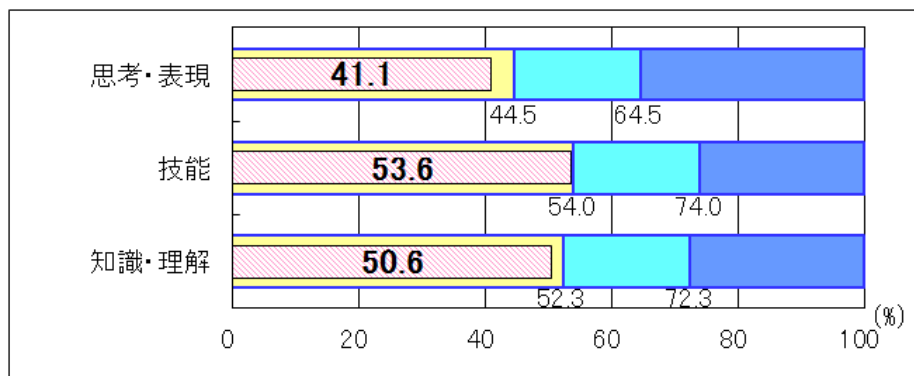


図1 H25年度(中学2年生理科)評価の観点別正答率

中学2年生では、全ての観点において、「おおむね達成」の基準を下回った。「思考・表現」においては、「おおむね達成」の基準を3.4ポイント下回った。胚珠の数を基にマツの種子の数を考える問題や実験結果を基に蒸散量を考える問題など、計算を伴う問題の正答率が「おおむね達成」の基準を10.0ポイント以上下回ったためと考えられる。

② 中学3年生

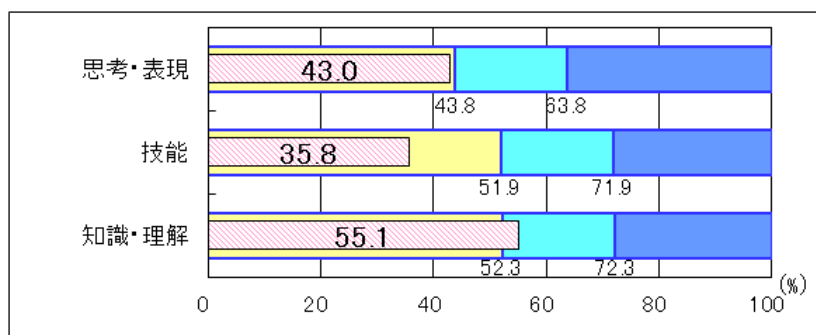


図2 H25年度(中学3年生理科)評価の観点別正答率

中学3年生では、「知識・理解」において、「おおむね達成」の基準を2.8ポイント上回ったが、「思考・表現」、「技能」は、「おおむね達成」の基準を下回った。「技能」においては、化学反応式で表す問題や、風向、風力、天気を記号で表す問題の正答率が「おおむね達成」の基準を10.0ポイント以上下回ったためと考えられる。

(ウ) 内容・領域別正答率

① 中学2年生

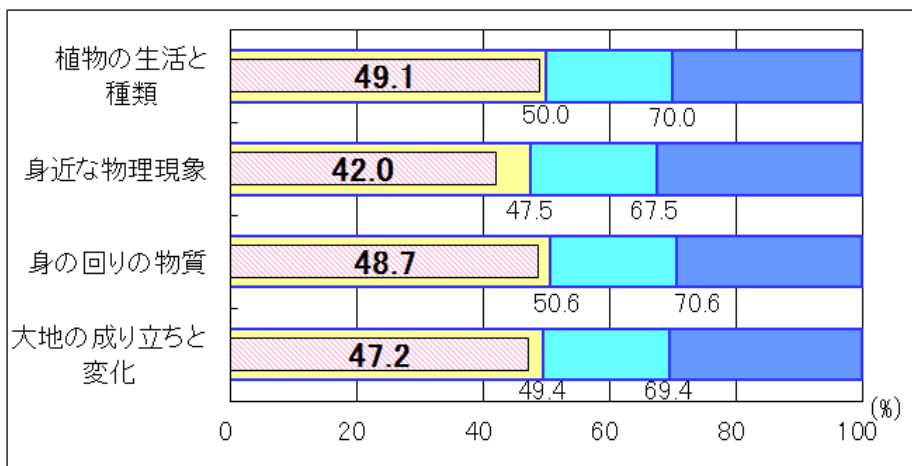


図3 H25年度(中学2年生理科)内容・領域別正答率

中学2年生では、全ての内容・領域において「おおむね達成」の基準を下回った。特に「身近な物理現象」においては、「おおむね達成」の基準を5.5ポイント下回った。弾性力についての理解を問う問題や面上でのばねの伸びを考える問題の正答率が、「おおむね達成」の基準を15.0ポイント以上下回ったためと考えられる。

② 中学3年生

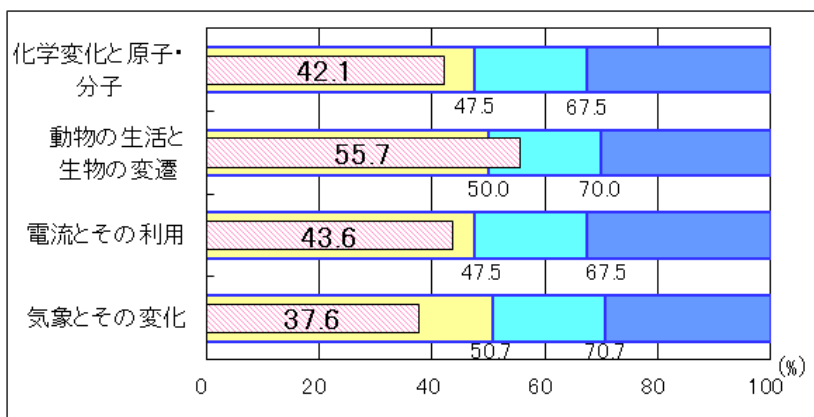


図4 H25年度(中学3年生理科)内容・領域別正答率

中学3年生では、「動物の生活と生物の変遷」において、「おおむね達成」の基準を5.7ポイント上回ったが、それ以外の内容・領域においては、「おおむね達成」の基準を下回った。特に「気象とその変化」においては、「おおむね達成」の基準13.1ポイント下回った。「気象とその変化」における7問の出題に対して、5問の正答率が「おおむね達成」の基準を10.0ポイント以上下回ったためと考えられる。

イ 経年比較

(凡例) ■: 要努力(おおむね達成の基準を下回る) ■: おおむね達成 ■: 十分達成

平成24年度に課題が見られた「技能」、平成23年度から平成24年度にかけて課題が見られた「思考・表現」について、中学2年生で同一学年の経年比較を行った。また、平成24年度全国調査において課題が見られた「活用」に関する問題について、中学2年生と中学3年生で同一学年の経年比較を行うこととした。

(ア) 「技能」の経年比較

①H25中学2年生とH24中学2年生

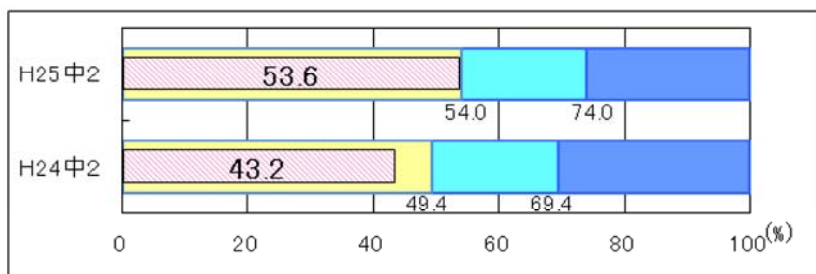


図5 H25年度(中学2年生理科)、H24年度(中学2年生理科)「技能」に関する問題の正答率の経年比較

平成24年度は「おおむね達成」の基準を6.2ポイント下回っているのに対し、平成25年度は「おおむね達成」の基準を0.4ポイント下回った。平成24年度と比較すると、正答率は上がっているが、「おおむね達成」の基準には到達しておらず、技能の定着が図られていない状況であると考えられる。平成24年度は、作図する技能の定着に課題が見られたのに対し、平成25年度は、値を正確に読み取る技能やグラフを作成する技能の定着に課題が見られた。

(イ) 「思考・表現」の経年比較

①H25中学2年生とH24中学2年生

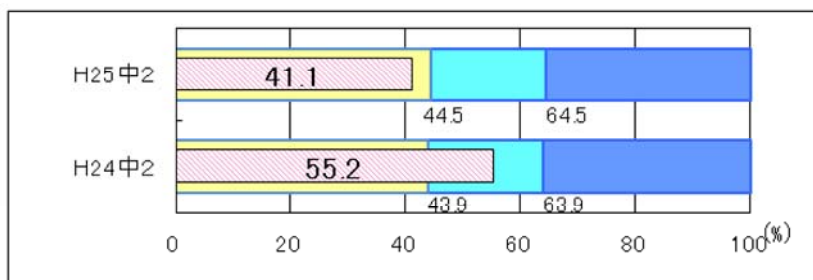


図6 H25年度(中学2年生理科)、H24年度(中学2年生理科)「思考・表現」に関する問題の正答率の経年比較

平成24年度は「おおむね達成」の基準を11.3ポイント上回っているのに対し、平成25年度は「おおむね達成」の基準を3.4ポイント下回った。平成24年度は、表やグラフ、資料などを基にして考えることができていたのに対し、平成25年度は、数値を操作しながら考えることに課題が見られた。

(ウ) 「活用」に関する問題の経年比較

①H25中学2年生とH24中学2年生

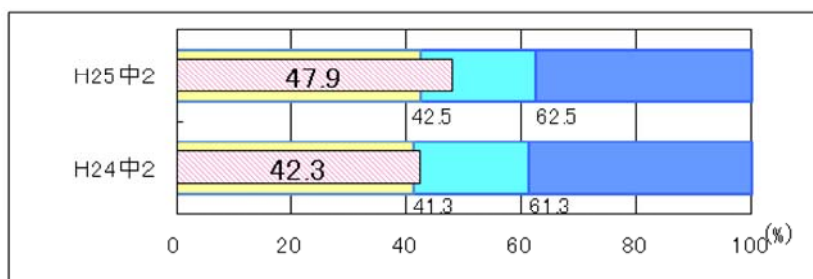


図7 H25年度(中学2年生理科)、H24年度(中学2年生理科)「活用」に関する問題の正答率の経年比較

平成24年度は「おおむね達成」の基準を1.0ポイント上回っていたのに対し、平成25年度では「おおむね達成」の基準を5.4ポイント上回った。平成24年度と同様に、日常生活の場面において、基礎的・基本的な知識・技能を活用することに課題が見られた。

②H25中学3年生とH24中学3年生

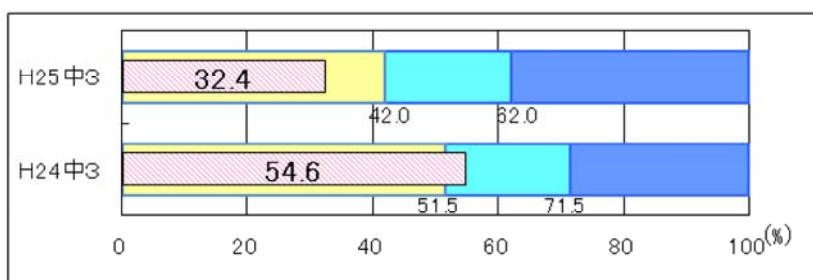


図8 H25年度(中学3年生理科)、H24年度(中学3年生理科)「活用」に関する問題の正答率の経年比較

平成24年度は「おおむね達成」の基準を3.1ポイント上回っているのに対し、平成25年度は「おおむね達成」の基準を9.6ポイント下回った。平成24年度は、日常生活の場面において、基礎的・基本的な知識・技能を活用することに課題が見られたのに対し、平成25年度は、日常生活の場面において、基礎的・基本的な知識・技能を活用することに加え、基礎的・基本的な知識・技能を活用して観察・実験の結果などを分析・解釈し、自分の言葉で説明することにも課題が見られた。

ウ 設問ごとに見た傾向と指導改善の手立て

平成25年度の調査で、課題が見られた「技能」、「思考・表現」、「活用」に関する問題の中で、「おおむね達成」の基準を10ポイント以上下回っていた問題について、更に分析を行った。

傾向1 **昨年度同様、基礎的・基本的な技能の定着に課題**

[中学2年生 大問3の(3)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問3(3)	メスシリンダーの目盛りを読み取ることができる。 (短答式)	水と物質Aが入ったメスシリンダーの体積を量む。	33.3	1.5	75.0	55.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率55.0に対して、正答率は33.3であり、21.7ポイント下回った。誤答の原因として、最小目盛りの10分の1まで目分量で読むことができなかったことが考えられる。

○ 指導改善の手立て

メスシリンダーを使って体積を測定する際、できるだけ多くのものを測定させることで、技能の定着を図りたい。また、体積を測定させるだけでなく、測定した値を用いて課題を解決していくような活動などを取り入れることも大切であると考ええる。

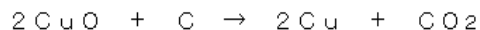
[中学3年生 大問1の(4)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問1(4)	化学変化を化学反応式で表すことができる。 (短答式)	酸化銅と炭の粉末を混ぜ合わせて加熱したときの化学変化を化学反応式で表す。	16.9	34.1	70.0	50.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率50.0に対して、正答率は16.9であり、33.1ポイント下回った。正答は、



となるが、「→」を「＝」で表したり、「→」の左右で原子の数が異なっていたりしたなど、化学反応式の表し方の定着が十分でなかったことが考えられる。

○ 指導改善の手立て

化学反応式で表す際には、決まった表し方のルールが存在する。ルールに従った表し方を定着させるためには、授業で取り扱う化学変化の実験において、化学反応式で表す活動まで取り組ませるなど、繰り返した学習が必要であると考ええる。併せて、「→」の意味や原子の数を合わせる意味なども考えさせることで、定着を図っていきたい。

[中学校3年生 大問7の(2)②]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問7(2) ②	風向、風力、天気を記号を使って表わすことができる。 (短答式)	ある地点の風向、風力、天気を記号で表す。	10.5	9.2	70.0	50.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率50.0に対して、正答率は10.5であり、39.5ポイント下回った。誤答の原因として、風力の表し方や天気を表す記号を十分に理解していなかったことが考えられる。

○ 指導改善の手立て

気象を記号を使って表す際にも決まった表し方のルールが存在する。授業のはじめに、その日の気象を記号で表す活動を取り入れるなど、できるだけ繰り返し行わせることで、定着を図っていきたい。

傾向2 **実験結果から得られた値を基に考えることに課題**

[中学2年生 大問2の(3)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問2(3)	表を基に、蒸散による水の減少量を考えることができる。 (短答式)	蒸散量を調べた実験結果を基に、植物全体の蒸散量を求める。	14.8	8.9	65.0	45.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率45.0に対して、正答率は14.8であり、30.2ポイント下回った。誤答の原因として、結果が何を意味しているのか、実験結果をまとめた表からどのようなことが言えるのかを十分に分析・解釈できなかったことが考えられる。

○ 指導改善の手立て

実験結果からどのようなことが言えるのかを考えさせる活動は、考察として日々取り組ませていると考えられる。その際、実験の目的は何か、得られた結果は何を意味しているのかをなどを確認した上で、考察を行わせることが必要であると考えられる。

[中学2年生 大問7の(3)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問7(3)	表を基に、S波が伝わる速さを考えることができる。 (短答式)	震源からの距離、P波が届くまでの時間、S波が届くまでの時間をまとめた表を基に、S波が伝わる速さを求める。	35.6	26.0	70.0	50.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率50.0に対して、正答率は35.6であり、14.4ポイント下回った。誤答の原因として、大問2の(3)と同様、距離と時間の関係を示した表を十分に分析・解釈できなかったことが考えられる。また、速さの求め方を理解していなかったことも原因として考えられる。

○ 指導改善の手立て

地震は、プレートや断層の動きなどが関係するスケールの大きな現象であるため、理科室などで地震を再現することは難しい。そのため授業では、まず地震に対するイメージをもたせることが大切だと考える。その際、動画などを活用しながら効果的に生徒のイメージづくりを支援していくなどの工夫が考えられる。地震に対するイメージをもたせた上で、地震に関する様々なデータを情報として取り扱い、データを基に地震の特徴を考えさせていくような活動が必要であると考えられる。

[中学3年生 大問2の(3)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問2(3)	表やグラフを基に、未反応の銅の質量を考えることができる。 (短答式)	表やグラフを基に、銅2.40gを加熱して2.80gになったときの未反応の銅の質量を求める。	6.9	11.4	60.0	40.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率40.0に対して、正答率は6.9であり、33.1ポイント下回った。誤答の原因として、化合する物質の質量比は一定であるという定比例の法則に対する理解が不十分であったことが考えられる。

○ 指導改善の手立て

銅と酸素が化合するときの質量比は4:1である。授業では、完全に化合させることに注意しながら実験を行わせるが、このような実験に加え、完全に化合しない場合に質量はどうなるのか、完全に化合させた後に更に加熱を続けると質量はどうなるのかなども考えさせながら、定比例の法則に対する理解を深めさせていきたい。

傾向3 日常生活や社会の特定の場面において、基礎的・基本的な知識・技能を活用することに課題

[中学2年生 大問7の(4)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問7(4)	緊急地震速報の効果を、震源からの距離と地震波の到達時間とを関連付けて説明することができる。 (記述式)	緊急地震速報が、震源からある程度遠い場所であれば効果が期待できない理由を「距離」、「時間」の2つの語句を使って説明する。	29.0	25.9	60.0	40.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率40.0に対して、正答率は29.0であり、11.0ポイント下回った。誤答の原因として、緊急地震速報が地震のどのような特徴を利用しているかを十分に理解していなかったことが考える。

○ 指導改善の手立て

緊急地震速報は、地震によって生じるP波とS波の速度が異なるという特徴を利用したものである。緊急地震速報などのように、学習内容と日常生活、科学技術とのつながりを考えさせる際は、学習した内容のどの部分がどのように生かされているのかを考えさせながら指導していくことが大切であると考ええる。

[中学3年生 大問8の(3)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問8(3)	資料を基に、冬の日本海側で太平洋側に比べて雪が多く降る理由を説明することができる。 (記述式)	資料を基に、冬の日本海側が太平洋側に比べて雪が多く降る理由を説明する。	24.9	22.4	60.0	40.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率40.0に対して、正答率は24.9であり、15.1ポイント下回った。誤答の原因として、与えられた資料の中にある図や文章から必要な情報を取り出し、適切に関連付けることができなかつたことが考えられる。

○ 指導改善の手立て

生徒が考えていることを文章で書かせたり、口頭で説明させたりすることが大切であると考ええる。このような活動に取り組むことで、生徒の考えが整理され、次の考えへと進むことができると考える。生徒に考えさせたことを表現させる活動の充実を図る必要があると考ええる。

エ これからの指導に向けて

今回の調査では、中学2年生、中学3年生共に、「思考・表現」、「技能」、「活用」を問う問題において課題が見られた。これらにおいては、平成24年度でも課題が見られたため、指導に当たっては、平成24年度に各学校で工夫した指導を継続して行うことが必要であると考ええる。

また、理科の授業では、観察・実験を行わせることが多い。そのため、観察・実験の指導を工夫することが、今回の調査で見られた課題を改善することにつながると考える。その際、生徒の現状を的確に把握しフィードバックするなど、指導と評価の一体化を図ることも大切である。

これらのことを踏まえ、特に次の3つのことを大切にしながら、これからの指導に取り組むことが重要であると考ええる。

(ア) 観察・実験の中で取り混ぜる言語活動を工夫する

話を聞いたり、教科書を読んだりして、生徒が「分かった」と言っても、説明させてみるとできない場合がある。このような「分かったつもり」でいる生徒を、「分かった」という段階まで高めるためには、言語活動を充実させることが大切であると考ええる。例えば、観察・実験結果を基に生徒が考えたことを記述させたり、発表で説明させたりすることで、生徒は自分が考えを整理することができる。また、生徒が表現したものは、生徒の活動を評価し、フィードバックするための重要な手掛かりを与えてくれると考ええる。特に生徒が記述したものは、形として残るため、その後の具体的な指導も行いやすいと考える。

○教師意識調査の結果より

教師意識調査(15)「レポートや作文など書いて表現する活動を取り入れた授業を行っていますか」という設問に対し、「多くの単元で行っている」「半分程度の単元で行っている」と回答した中学校理科の教師の割合が20.4%となっており、書いて表現する活動が十分に行われていない現状が考えられる。そのため、「書く活動をどのように取り入れるか」という視点をもちながら言語活動を工夫していく必要もあると考える。

言語活動に取り組ませる際には、言語活動を通して、どのような思考力、判断力、表現力を高めたいのか、生徒のどのような現状を把握したいのかを明確にした上で取り組ませていきたい。

(イ) 知的好奇心を喚起するような学習問題、教材、指導方法を工夫する

担当する学年や学級に「要努力」の生徒がいた場合、このような生徒は、自分の学習が思うように進まないため、学習に対する意欲はそれほど高くないと考えられる。「要努力」の生徒には、まず理科の不思議さ、おもしろさなどを体感させることを通して、学習に対し前向きに取り組もうとする態度を育てていきたい。授業の導入で生徒が「あれ??」、「どうして?」と思うような演示実験を取り入れたり、日常生活の中から学習問題を設定したり、ICT機器などを活用したりしながら、生徒の知的好奇心を喚起していきたい。

(ウ) 生徒へのフィードバックを考えながら適切な評価を実施し、指導と評価の一体化を図る

授業を進める中で、生徒の現状を的確に把握することが必要である。そのためには、日々の授業の中で、生徒の現状を把握するための評価方法を工夫することが必要であると考ええる。特に基礎的・基本的な知識・技能については、思考する基盤となるため、定着については、取り扱うごとに評価を行っていききたい。その際、評価によって把握した生徒の現状を、どのように生徒に伝え、フィードバックし、その後の指導に生かしていくのかを考えることが大切である。授業中における生徒の現状把握を丁寧に行い、「できた」、「できていない」ということを生徒に伝えるだけでなく、どこが不十分なのか、どのようにすれば克服できるのかなど、きめ細かい指導を心掛けることが大切である。また、一定期間後にも評価を行い、確実に定着しているかどうかを把握し、その現状に応じて指導を加えていくことも大切である。

上記(ア)、(イ)の工夫については、理科授業改善サポートチームの活動として、佐賀県教育センターホームページに掲載しているので参考にしてほしい。

[理科授業改善サポートチームURL]

<http://www.saga-ed.jp/chouken/rikasaport/risapotop.html>

オ 授業実践に参考となるリンク



最終更新日：2013-10-21

平成25年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

[Web報告書もくじ](#) > [Ⅲ 各教科の調査結果の分析](#) > 中学校英語

Ⅲ 各教科の調査結果の分析

中学校英語

言語材料の理解や練習と、言語を使用する活動のバランスを考えた授業づくり

全ての評価の観点において、「おおむね達成」の基準を上回った。しかし、複数の情報を組み合わせたり図表と結び付けたりした上で判断し、答えを導き出すのに課題が見られた。また、「書くこと」においては、テーマに合わせたまとまりのある英語の文章は書けるようになってきたものの、基本的な文の構造の理解が不十分で、文を正しく書くことに課題が見られた。今後は、多様な談話形式の音声を聞かせたり文章を読ませたりすることと、文の構造に気付かせる言語活動に繰り返し取り組ませる指導などが必要となる。

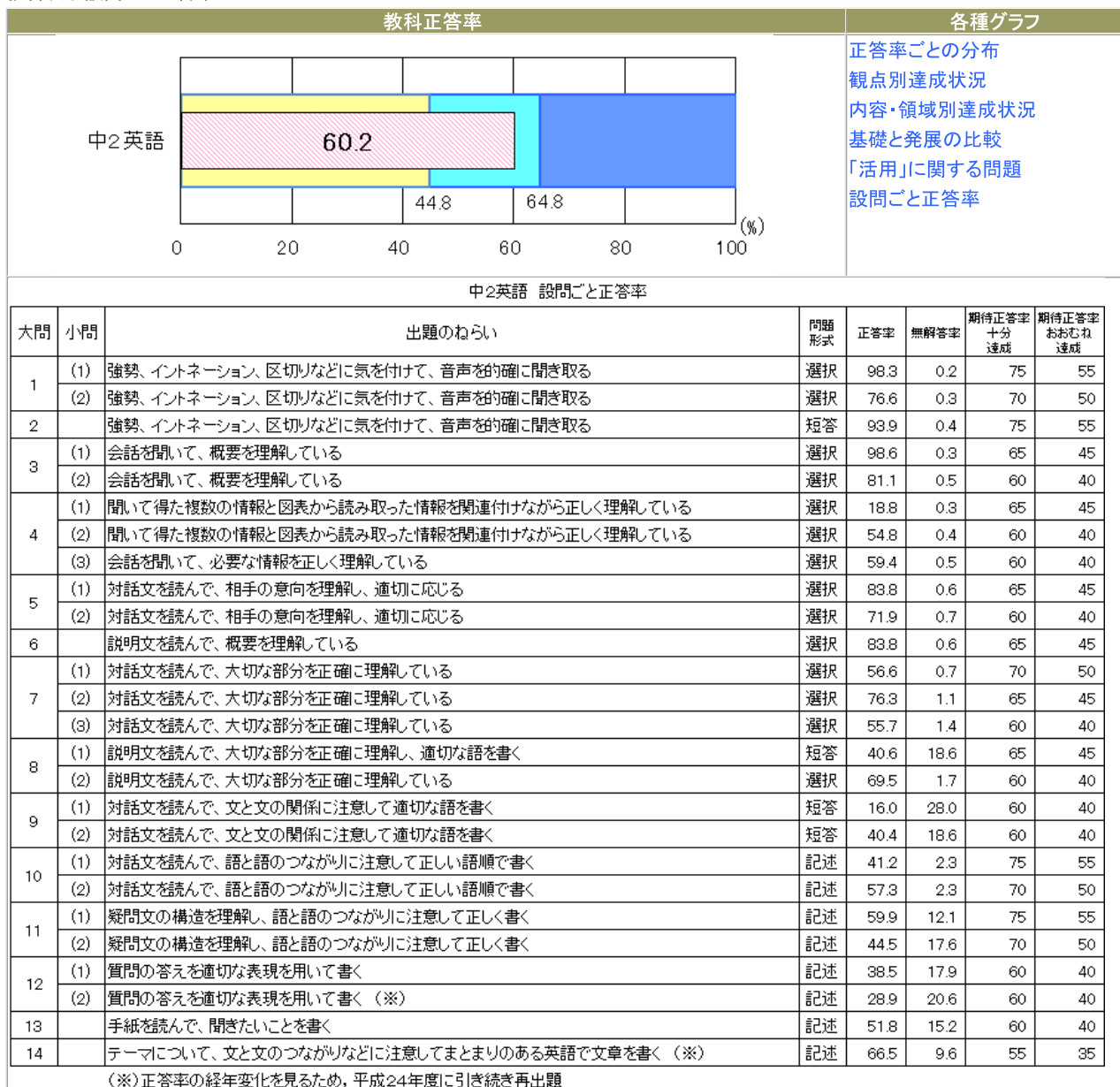
この後、評価の観点については、以下のように記す。

- | | | |
|----------------------|---|-----------|
| ○コミュニケーションへの関心・意欲・態度 | → | 本調査では設定なし |
| ○表現の能力 | → | 「表現」 |
| ○理解の能力 | → | 「理解」 |
| ○言語や文化についての知識・理解 | → | 「言語・文化」 |

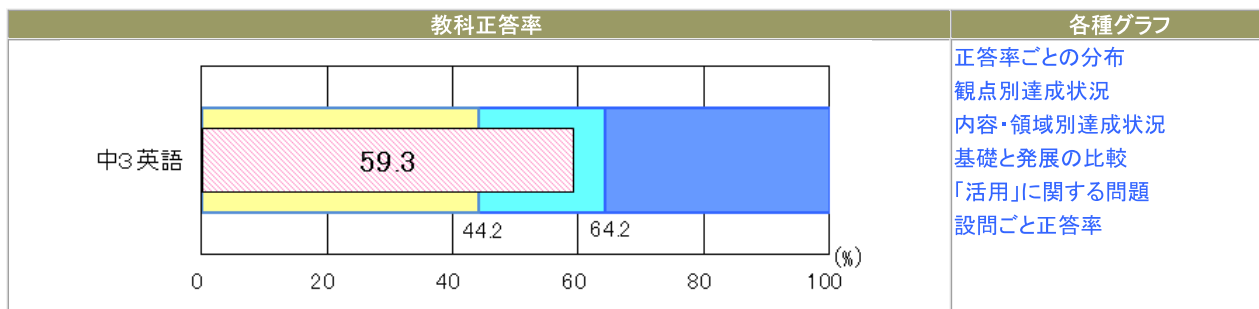
ア 結果の概要

(凡例) : 要努力(おおむね達成の基準を下回る) : おおむね達成 : 十分達成

(ア) 教科及び設問ごと正答率



(※)正答率の経年変化を見るため、平成24年度に引き続き再出題



中3英語 設問ごと正答率

大問	小問	出題のねらい	問題形式	正答率	無解答率	期待正答率 十分達成	期待正答率 おおむね達成
1	(1)	強勢、イントネーション、区切りなどに気を付けて、音声を的確に聞き取る	選択	88.5	0.3	75	55
	(2)	聞いて得た情報とグラフや図表から読み取った情報を関連付けながら正しく理解している	選択	91.5	0.3	65	45
	(3)	聞いて得た情報とグラフや図表から読み取った情報を関連付けながら正しく理解している	選択	92.0	0.3	60	40
2	(1)	会話を聞いて、適切に応じる	選択	57.5	0.4	65	45
	(2)	会話を聞いて、適切に応じる	選択	70.8	0.4	65	45
3	(1)	対話を聞いて、必要な情報を正しく理解している	選択	90.2	0.3	65	45
	(2)	対話を聞いて、複数の必要な情報を関連付けながら正しく理解している	選択	38.9	0.3	60	40
4		聞いて得た複数の情報と図表から読み取った情報を関連付けながら正しく理解している	選択	36.2	0.6	60	40
5		対話文を読んで、概要を理解している	選択	71.7	0.5	60	40
6	(1)	説明文を読んで、大切な部分を正確に理解している	選択	10.1	0.8	60	40
	(2)	説明文を読んで、大切な部分を正確に理解している	記述	24.7	20.9	60	40
7	(1)	対話文を読んで、大切な部分を正確に理解している	選択	74.5	0.8	65	45
	(2)	対話文を読んで、大切な部分を正確に理解している	選択	57.4	0.9	60	40
	(3)	対話文を読んで、大切な部分を正確に理解している	選択	63.5	1.2	60	40
8	(1)	対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く	記述	69.0	1.6	75	55
	(2)	対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く	記述	73.4	2.0	70	50
	(3)	対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く	記述	63.6	1.9	70	50
9	(1)	文と文の関係に注意して文章を書く	選択	57.2	0.7	65	45
	(2)	文と文の関係に注意して文章を書く	選択	63.8	0.9	60	40
10	(1)	質問の答えを適切な表現を用いて書く	記述	78.7	5.7	65	45
	(2)	質問の答えを適切な表現を用いて書く	記述	34.3	11.3	65	45
	(3)	質問の答えを適切な表現を用いて書く	記述	46.3	13.3	60	40
11	(1)	疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書く	記述	61.4	16.2	75	55
	(2)	疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書く	記述	29.6	20.1	75	55
12		電子メールを読んで、自分が伝えたいことを書く	記述	50.7	16.2	55	35
13		テーマについて、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある英語で文章を書く	記述	46.1	13.9	55	35

(イ) 評価の観点別正答率

①中学2年生

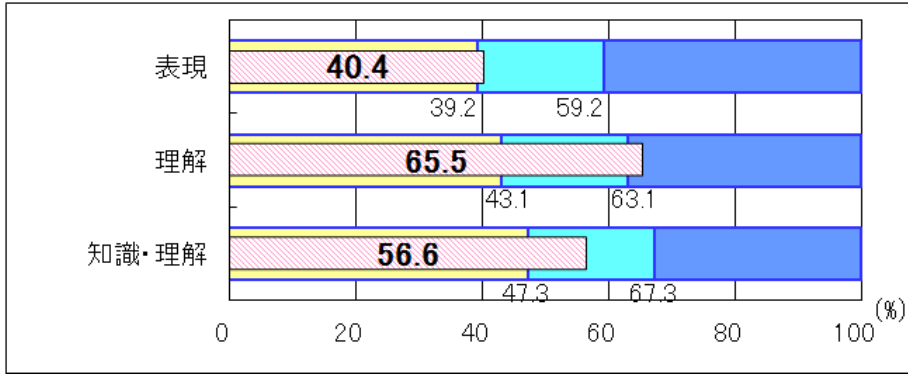


図1 H25年度(中学2年生英語)評価の観点別正答率

全ての観点で「おおむね達成」の基準を上回った。特に、「理解」については「十分達成」の基準を上回っており、会話を聞いたり説明文を読んだりして概要をつかむことはできていると考えられる。しかし、聞いて得た情報(例えば中学2年生大問4(1)の会話での情報と時間割を関連付けて今日は何曜日か考える問題など)と図表を関連付けて理解し、判断する力は、十分には身に付いていないと考えられる。

②中学3年生

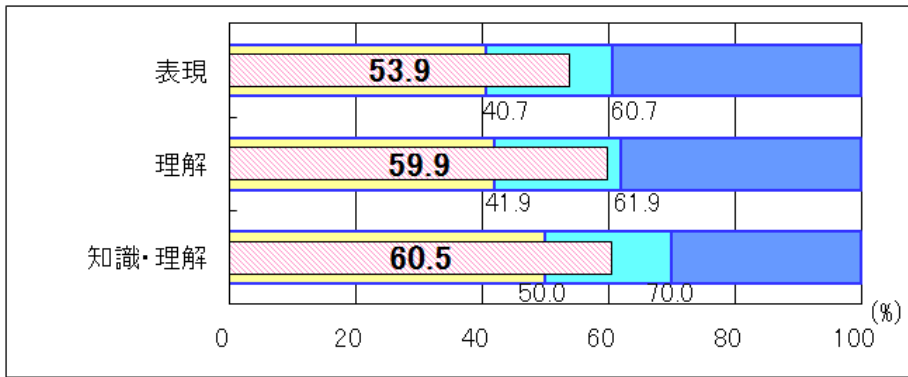


図2 H25年度(中学3年生英語)評価の観点別正答率

全ての観点で「おおむね達成」の基準を上回った。しかし、聞いて得た情報(例えば中学3年生大問4の、会話での情報と上映スケジュールを結び付けてどれを見るか考える問題や、大問6での説明文の情報とグラフを関連付けて答えを導き出す問題など)と図表を関連付けて理解し、判断する力は、十分には身に付いていないと考えられる。

(ウ) 内容・領域別正答率

①中学2年生

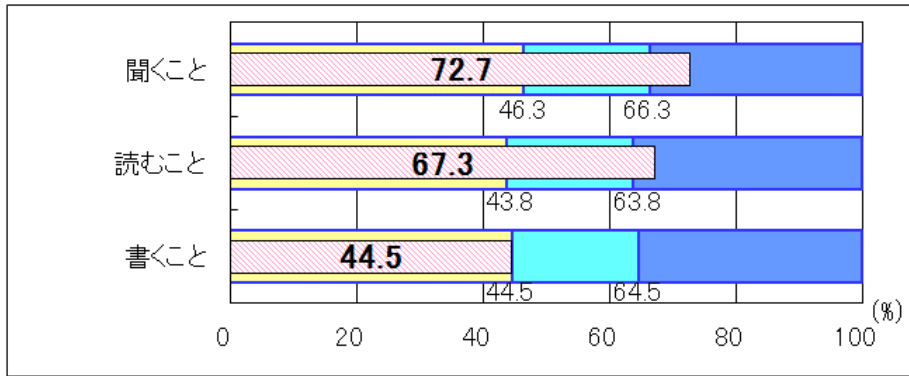


図3 H25年度(中学2年生英語)内容・領域別正答率

「聞くこと」及び「読むこと」については、「十分達成」の基準を、それぞれ6.4ポイント、3.5ポイント上回り、良好だった。ただし、どちらの領域においても、概要をつかんでいるものの、複数の情報を関連付けて理解し、判断する力には課題がある。また、「書くこと」においては、目的やテーマに応じてまとまりのある英語の文章を書く力は身に付いているが、一般動詞を含む文を疑問文に書き換えるといった基本的な文の構造の理解が十分でないと考えられる。

②中学3年生

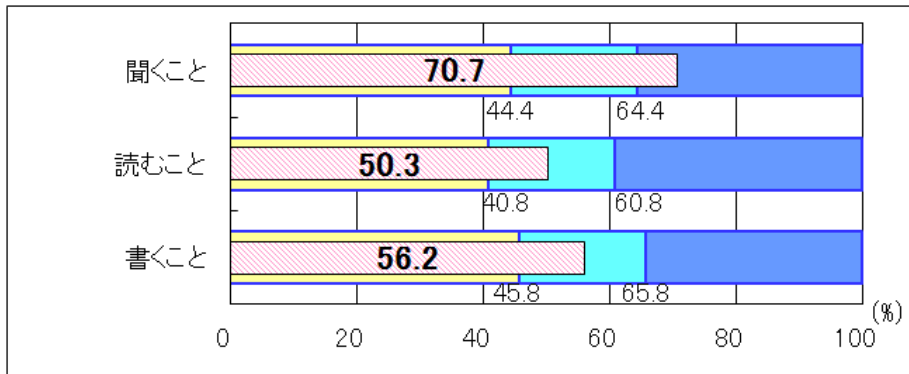


図4 H25年度(中学3年生英語)内容・領域別正答率

「聞くこと」については、「十分達成」の基準を、6.3ポイント上回り、良好だった。ただし、概要をつかんでいるものの、複数の情報を関連付けて理解し、判断する力には課題がある。このことは「読むこと」の領域においても同様のことが言える。また、「書くこと」においては、目的やテーマに応じてまとまりのある英語の文章を書く力は身に付いているが、一般動詞を含む文を疑問文に書き換えるといった基本的な文の構造の理解が十分でないと考えられる。

イ 経年比較

(凡例) ■: 要努力(おおむね達成の基準を下回る) ■: おおむね達成 ■: 十分達成

定着に差が出やすい「書くこと」の領域について、同一学年の経年比較(平成24年度中学3年生と平成25年度中学3年生)及び同一生徒の経年比較(平成24年度中学2年生と平成25年度中学3年生)を行い、到達度分布の変容を分析した。さらに、具体的な問題で変容を分析するために、まとまった英語の文章を書く力を見る問題、読んだ文章に簡単な英語で質問する問題及び指示に従って簡単な英文を書く問題で経年比較を行った。

(ア) 「書くこと」の領域での経年比較

① 同一学年経年比較

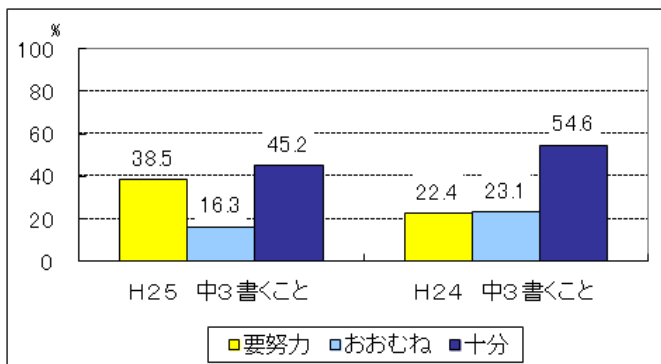


図5 H25年度(中学3年生)、H24年度(中学3年生)の「書くこと」の内容・領域別の到達度分布の経年比較

「要努力」の割合に注目すると、平成25年度の「要努力」の割合は平成24年度よりも16.1ポイント増加している。平成25年度と平成24年度のまとまりのある英語の文章を書くことについて見てみると、無解答率に大きな差はない。このことから、書きたいことはあるものの、それを表現するための文の構造の理解が十分でないために、正しい文を書けないのではないかと考えられる。

②同一生徒経年比較

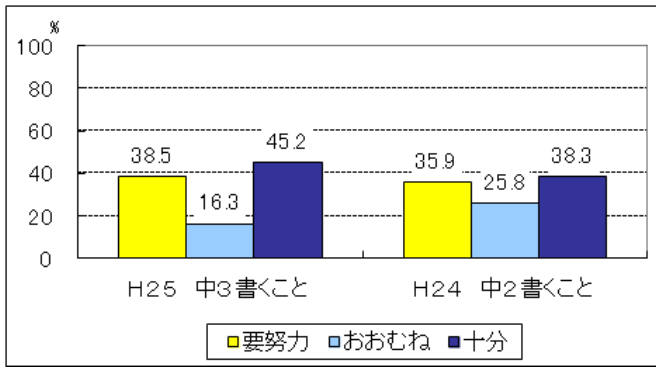


図6 H25年度(中学3年生)、H24年度(中学2年生)の「書くこと」の内容・領域別の到達度分布の経年比較

平成25年度の「要努力」の割合は前年度よりも2.6ポイント、「十分達成」は6.9ポイント増加している。ここでは、基礎的・基本的な知識・技能が定着しているかどうかのポイントになっていると考えられる。中学2年生で書く活動の指導が充実して、ある程度の量の英作文には慣れてきたものの、文の構造の理解が不十分なままの生徒と、書く活動を通して文の構造が定着している生徒の二極化の傾向がうかがえる。

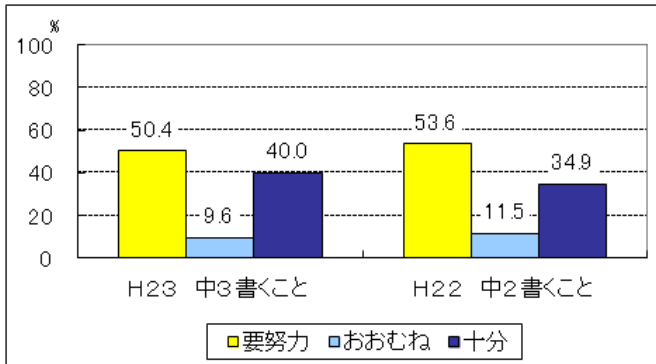


図7 H23年度(中学3年生)、H22年度(中学2年生)「書くこと」の内容・領域別の到達度分布の経年比較

平成23年度の中学2年生の「要努力」が50.4%で、平成22年度の「要努力」の中学3年生は53.6%だった。図6と図7の比較を通して「書くこと」を苦手とする生徒の割合の増減はあるものの、学年が上がるにつれて得意とする生徒が増えているということが分かる。中学3年生の同一学年経年比較と同一生徒経年比較を通して、学年が上がるにつれて「書くこと」に慣れてきている、つまり、「書くこと」に対する継続的な指導が行われていることがうかがえる。同時に、学年が上がるにつれて二極化するという傾向が、平成25年度で再び見られ始めたとも言える。

(イ) 設問ごとの経年比較

①まとまった内容の文章を書く力を見る問題

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
H25 問14 中2	テーマについて、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある英語で文章を書く。 (記述式)	「私の好きなことや人物」というテーマで3文以上の紹介文を書く。	66.5	9.6	55.0	35.0
H24 問11 中2			60.1	10.7		

図8 H25年度(中学2年生の問14)、H24年度(中学2年生の問11)正答率の経年比較

平成24・25年度の正答率がそれぞれ60.1、66.5、また、無解答率がそれぞれ10.7、9.6という結果から、まとまりのある英語の文章を書く力は身に付いてきており、書く意欲も上がってきたと考えられる。

②質問を読んで、自分のことを簡単な英語で書く問題

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
H25 問12(1) 中2	質問の答えを適切な表現を用いて書く。 (記述式)	自分が先週末にしたことを適切な表現を用いて書く。	38.5	17.9	60.0	40.0
H23 問9(2) 中2			41.6	16.5		

図9 H25年度(中学2年生の問12(1))、H23年度(中学2年生の問9(2))正答率の経年比較

正答率が3.1ポイント減り、無解答率が1.4ポイント増えている。さらに、H25年度は、「おおむね達成」の基準を下回っている。この設問で用いる過去形は、1年生最後から2年生最初にかけて学習する内容である。依然として、過去形の定着が十分ではないのが分かる。

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
H25 問10(1) 中3	質問の答えを適切な表現を用いて書く。 (記述式)	canを使った質問に対して自分自身の答えを書くことができる。	78.7	5.7	65.0	45.0
H24 問9(1) 中3			78.4	8.9		

図10 H25年度(中学3年生の問10(1))、H24年度(中学3年生の問9(1))正答率の経年比較

平成24・25年度ともに「十分達成」の基準を上回っている。無解答率も10.0を下回っており、他の記述式問題よりも低い。簡単な質問に簡単な答えを書く力は付いていると考えられる。

③英語の質問に簡単な英語で答える問題

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
H25 問12(2) 中2	質問の答えを適切な表現を用いて書く。 (記述式)	"What do you do after dinner?"に答えを英文で書く。	28.9	20.6	60.0	40.0
H24 問10(3) 中2			34.3	26.2		

図11 H25年度(中学2年生の問12(2))、H24年度(中学2年生の問10(3))正答率の経年比較

平成24・25年度ともに「おおむね達成」の基準を下回っている。しかし、平成24年度と比較して無解答率は減少している。書く意欲は上がってきているが、疑問詞を含む質問に対する答え方には依然として課題が残ると言える。

④指示に従って英文を書き換える問題

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
H25 問11(1) 中2	疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書く。 (記述式)	日本語の指示に従い、be動詞を含む英文を書き換える。	59.9	12.1	75.0	55.0
H25 問11(1) 中3			61.4	16.2		
H25 問11(2) 中2	疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書く。 (記述式)	日本語の指示に従い、一般動詞を含む英文を書き換える。	44.5	17.6	70.0	50.0
H25 問11(2) 中3			29.6	20.1	75.0	55.0

図12 H25年度(中学2年生の問11(1)(2))、H25年度(中学3年生の問11(1)(2))正答率の比較

中学2年生、中学3年生とも、(1)be動詞を含む文を疑問文に書き換える問題、(2)一般動詞を含む文を疑問文に書き換える問題であり、中学2年生は現在形、中学3年生は過去形についての問題である。中学2年生、中学3年生ともにbe動詞を含む疑問文の書き換えは「おおむね達成」を上回っているが、一般動詞については、中学2年生、中学3年生共に、「おおむね達成」を下回っている。特に、3年生については正答率が29.6であり、無解答率が、大問12、13のまとまりのある英語で文章を書く問題より高いという結果が出た。

これらの結果から、「書くこと」については、まとまりのある英語の文章や、簡単な英問英答をする力は身に付いてきたと考えられるが、一般動詞を含む文を疑問文にしたり、疑問詞で始まる質問に回答したりという基礎的・基本的な知識・技能に課題が残ると言える。定着が難しいと考えられる過去形については少し詳しく考察してみる。文法事項には習得順序があり、中でも、3人称単数現在の(s)や規則動詞過去形は習得が遅いとされている。教科書の文法事項の配列を見ると、これらは1年生後半で取り扱われる。加えて、3年間で学習する疑問詞のほとんどが、この時期に取り扱われる。この時期に生徒に掛かる負担が、英語学習に影響を及ぼしているのではないかと考えられる興味深い報告がベネッセの調査によってなされている。それによると、2年生終わり頃に英語が苦手だと感じている生徒の実に8割が、この中学1年後半から中学1年の終わりまでに苦手と感じるようになったと回答している。以上のことから、経年比較の結果において課題となった文法事項については、1年生の学習内容であっても定着が困難なものがあることを踏まえておきたい。そのため、この時期の生徒の状況をよく観察して、繰り返し使わせたり、安心して学習が進めていけるような声掛けをしたりするなどして、自信をもたせたい。定着が困難であるからこそ1年生での取扱いだけで終わることなく、3年間で繰り返し指導し、定着を図る必要がある。

ウ 設問ごとに見た傾向と指導改善の手立て

平成25年度の調査で、「聞いて得た情報と図表から読み取った情報を関連付けながら正しく理解している」、「説明文を読んで、大切な部分を正確に理解し、適切な語を書く」及び「説明文を読んで、大切な部分を正確に理解している」ことについて分析を行った。

傾向1 **聞いて得た複数の情報と図表から読み取った情報を関連付けながら正しく理解する力に課題がある。**

[中学2年生 大問4]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
大問4 (1)	聞いて得た複数の情報と図表から読み取った情報を関連付けながら正しく理解している。 (選択式)	時間割についての話から今日は何曜日か判断する。	18.8	0.3	65.0	45.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率45.0に対して県正答率18.8で26.2ポイント下回っている。対話文の最後の「We have it on Friday, too.」の全体を理解して今日は火曜日と判断しなければならないが、「Friday」を捉えて金曜日と答えたのではないかと考えられる。

○ 指導改善の手立て

リスニングのプロセスは、音声をもととして把握する知覚、②英語形式(語句・節・文など)として把握する認知、③英語形式を基に話し手が伝えようとした内容を把握する理解の3段階で構成されると言われる。ここで正答を得るには③の段階に至る必要がある。前述した誤答例であれば②の段階での部分的な把握であると考えられる。生徒の誤答例を確認して、どの段階に課題があるのかを分析した上で、実態に応じて段階を追った手立てを打つ必要がある。その段階とは、聞いて分かる語彙を増やす段階、多様な談話形式の英文を聞かせる段階及び目的意識をもって聞かせる段階などである。

以下が、「聞くこと」の段階的な指導の具体例である。

まずは、聞いて分かる語を増やすために、単語の発音指導を文字→音声ではなく、音声→文字の順番で行う方法がある。また、チャンツなどを取り入れて、基本的な強勢や語と語の連結による音変化を意識させる方法もある。このように、普段から音声と文字の関係を示すことで、区切りのない音の連続が英語形式として把握できるようにさせたい。

次の段階としては、駅のアナウンス、インタビュー、対話など多様なジャンルの英語を聞かせることが必要である。それぞれの場面における談話形式、使われる特有の表現などがあるからである。

さらに、必要とする情報を目的意識をもって聞き取る活動も必要となる。例えば、駅や空港のアナウンスでは、目的地と時間とプラットフォームやゲートの番号を聞き取れるようにするといった聞き取りのポイントを示すことが大切である。

以上のように、区切りのない音の連続の中から英語形式としてイメージできるものを増やすこと、談話形式に応じた特有の表現に慣れさせること、さらに、場面にに応じて聞き取りのポイントを示すことなどの指導を段階的に行っていきたい。

[中学3年生 大問4]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
大問4	聞いて得た複数の情報と図表から読み取った情報を関連付けながら正しく理解している。 (選択式)	映画館の前での対話を聞いて、2人がどの映画を見ようとしているか判断する。	36.2	0.6	60.0	40.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率40.0に対して県正答率36.2で3.8ポイント下回っている。時間と場所の情報を同時に処理しながら聞き取っていかなければならないこと、さらに図表から読み取れる情報を組み合わせて判断しなければならないことで、正答率が上がらなかったのではないかと考えられる。

○ 指導改善の手立て

まとまった量の英文を聞いて話し手が伝えたいことを理解するためには、メモを取りながら聞く必要が出てくる。これは、「書くこと」の指導事項にも挙げられており、日常生活においてもよく行われていることである。前述した談話形式で考えれば、映画館の前での対話であるので、時間を聞き取ることが必要になってくる。授業の中では、多様な談話形式の英語を聞かせるとともに、それに応じた聞き取りのポイントを示す必要がある。同時にメモの取り方の指導も行いたい。

傾向2 **説明文を読んで、大切な部分を正確に理解し、適切な語を書く力に課題がある。**

[中学2年生 大問8(1)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
大問8 (1)	説明文を読んで、大切な部分を正確に理解し、適切な語を書く。 (短答式)	説明文を読んで内容を理解し、“FAMILY”とつづる。	40.6	18.6	65.0	45.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率45.0に対して県正答率40.6で4.4ポイント下回っている。無解答率が18.6である。説明文の一部を読んで、その内容を表す語を書く問題で、内容が理解できずに書けなかったのか、内容は理解できたが“FAMILY”を正しく書けなかったのか、二通りの状況が考えられる。ここでは無解答率の状況から、前者の状況の生徒が多かったのではないかと考えられる。

○ 指導改善の手立て

ここでは、前述した生徒の解答時の状況から、「読むこと」と「書くこと」の指導を分けて考えてみる。

1. 「読むこと」の指導の具体例

まずは、語彙指導レベルの活動として英英辞書による単語の説明を利用する方法がある。具体的には、英英辞書の説明を平易な英語に書き直して提示し、それを読んだ上で単語を選ばせる。電子黒板を用いてゲーム形式で行ったり、ワークシートを用いて個別に取り組みせたり、生徒の状況に応じて提示を工夫したい。

次に、文章の要約レベルの指導がある。初見の文章にタイトルを付ける活動である。まとまった文章にタイトルを付けるためには書かれた内容の中心となる事柄を的確に読み取る必要がある。普段の授業の中では、次のような手順で行う活動例がある。

- ① 生徒は英文を読み、「キーワード」を探す。
- ② クラス全体で「キーワード」を確認する。
- ③ 「キーワード」を基に、「タイトルを作成」する。
- ④ 作成したタイトルをクラスで発表し、最もふさわしいものを選ぶ。

以上のような手順で、生徒の習熟状況に応じて、ペアやグループでの確認を取り入れるなどして取り組みせたい。

2. 「書くこと」の指導の具体例

“FAMILY”を正しく書けなかった生徒への手立てとしては、フォニックスを取り入れたい。

- ① ある程度の語彙を学習した段階で、既習語を分類して、フォニックス・ルールを導入する。
- ② 新出単語導入時に、フォニックス・ルールを基に発音をさせてみる(文字→音声)。
- ③ 新出単語導入時に、音声を聞いてフォニックス・ルールを基に綴りを起こさせる(音声→文字)。
- ④ 未習語を教師が発音し、生徒に単語を綴らせ、ペアで確認をさせて辞書を引かせる。

以上のような活動を段階的に取り入れ、1回で終わることなく継続した指導を行っていききたい。1年生には丁寧な指導を心掛け、学年が上がるにつれて自力で②や③及び辞書活用ができていけるように指導をしていきたい。そのため、1回の指導に時間を掛け過ぎることなく、少しずつ、3年間通して何度も繰り返すことで定着を図りたい。

なお、この問題の解答において、大文字と小文字が混在していた場合は、正しく書き分けることができていない状況なので、そのための手立てを打つ必要がある。

傾向3 説明文を読んで、大切な部分を正確に理解し、適切な語を書く力に課題がある。

[中学3年 大問6(1)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
大問6 (1)	説明文を読んで、大切な部分を正確に理解している。 (選択式)	説明文の情報とグラフから読み取った情報を関連付けて判断する。	10.1	0.8	60.0	40.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率40.0に対して県正答率は10.1で29.1ポイント下回っている。読み取った内容とグラフの情報を結び付けて、その上で簡単な計算をする必要があり、思考力を要する。生徒がどの段階でつまづいたのかを分析する必要がある。

○ 指導改善の手立て

読解においては、挿絵や写真などの視覚的な情報を活用することで学習者の背景知識が活性化され、より深い理解が促される。このことから、次のような指導が考えられる。

- ・説明文を読む指導をする際に、グラフを含む視覚的な情報を組み合わせる。
- ・グラフから読み取れることを考えさせ、関連した文がどこに書かれているかを探し出す。

このように複数の情報を結び付けて内容理解を深めていく言語活動を普段から行っていくことが大切であると考えられる。

[中学3年 大問6(2)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
大問6 (2)	説明文を読んで、大切な部分を正確に理解している。 (選択式)	下線部が指す内容を具体的に日本語で書く。	24.7	20.9	60.0	40.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率40.0に対して県正答率は24.7で15.3ポイント下回っている。書き手の意見の直後にある具体例を2つ書かなければならない。正答にならなかった要因にはいくつかの状況が考えられる。具体例となっている英文が探し出せない、英文が探し出せても日本語で説明できない、あるいは下線部の英文そのものを日本語にしているものなどである。

○ 指導改善の手立て

読むことにおいては、大まかな流れをつかみながら読み取ったり、特に中心となる事柄など大切な部分を捉えて的確に読み取ったりする必要がある。指導に当たっては、文章全体の構成や、パラグラフごとの関連性及び手がかりとなる語句や表現などに着目させるような発問やワークシートの工夫などが必要となる。

エ これからの指導に向けて

今回の結果を教師意識調査も踏まえた上で、成果と課題について考察してみることにする。

まずは、成果について考えてみる。

教師意識調査から見てくる佐賀県の英語教師像は次のような姿である。教科部会で協力して指導法について話し合ったり、毎時間、毎週の課題を課して評価・返却に努めたりするなど、生徒の学力向上のため日々奮闘している様子が浮かんでくる。とりわけ、その努力の成果が如実に表れたのが「書くこと」の領域の「活用」に関する問題である。自分の伝えたいことをまとまりのある英語で書く力は、平成23年度までずっと課題とされてきた。ここに改善が見られるということは「書くこと」の指導が充実してきた証拠である。関連して教師意識調査を見てみると、(15)「レポートや作文など書いて表現する活動」は、「多くの単元で行っている」「半分程度の単元で行っている」「3分の1程度の単元で行っている」と回答した中学校英語教師の割合は66.5%、「少しは行っている」と回答した教師まで含めると98.5%の割合で実践が行われている。以上のことから、「書くこと」の領域における課題への取組が全県下で行われたことが成果として表れていると考えられる。

次に、課題について考えてみる。

今回の結果は、「聞くこと」、「読むこと」については「活用」に関する問題に、「書くこと」については「基礎的・基本的な知識・技能」に関する問題に課題が見られた。このことを踏まえて、具体的には次の点に留意して指導を行いたい。

言語材料の理解や練習と、言語を使用する活動はバランスよく取り入れ、フィードバックを適切に行う

(ア)3年間→1年間→1学期間→1単元→1時間という逆向き設計による授業計画を立てる。

3年間を通して英語の目標を達成するためには、各学年ごとの目標を適切に設定する必要がある。さらに、各学期の目標、各単元の目標、1時間の授業の目標というように、逆算して目標を設定していく。各学期の目標として、スピーチやインタビューなどのプロジェクト活動を取り入れて理解、練習した言語材料を使用する場面を与えたい。目標の設定においては、生徒にある程度の負荷を与えることが大切である。また、成功体験につなげるためには、十分な練習量を確保したい。こうした言語材料の理解、練習と使用のバランスは、学年や習熟状況に応じて考えていくことが大切である。

(イ)Teacher Talkを充実させる。

普通の授業においては、Teacher Talkを充実させたい。聞くことの技能の向上につながることで、既習事項を意図的に使用することで言語材料の定着につながるなどが期待できるからである。新出単語の導入や生徒とのやり取りを英語で行えば聞く必然性が生まれ、教科書本文についての発問を英語で行えば複数の情報を結び付けて理解し、判断する必然性が生まれる。これらの活動を繰り返す過程を通して、英語を頭から理解していく力が付いていく。また、既習事項に何度も触れることで定着が促されると考えられる。英語を英語として理解していくためには普段から適切な速さで話される英語に慣れておく必要がある。高校での英語の授業につなげていくためにも段階を追って教師の英語の使用量を増やしていきたい。ここでも学年や習熟状況に合わせて、日本語と英語のバランスを考えていきたい。

(ウ)思考を深める場面を増やす。

教師意識調査(10)「ICT機器を授業のどのような場面で活用していますか。」によると、中学校英語科においてICT機器が授業の中で活用されるのは、「生徒の興味・関心を高めたり、課題を明確につかませたりする場面」がもっとも多く80.0%、次いで「授業の効率化を図る場面」や「生徒の知識の定着を図る場面」が45.0%、42.0%となっている。一方、「生徒がそれぞれの考えや意見を伝え合って理解や思考を深める場面」での活用は、6.5%である。このことから、基本本文を提示したり効率よく練習量を確保する目的で活用されていることが考えられる。しかし、本文内容の理解を深めるために、背景知識を活性化する資料を提示したり、それらの資料から言えることを考えさせたりする目的で活用される場面が比較的少ないのではないかと考えられる。今回課題とされているのは、聞いたり読んだりした情報と図表から読み取った複数の情報を結び付けて理解することである。そのため、本文読解においてICT機器を活用して、グラフ、挿絵及び写真などを組み合わせて提示して、英語で説明したり発問したりすることは、前述した課題への手立ての1つとなり得るのではないかと考えられる。

(エ)フィードバックを適切に行う。

- ・「話すこと」や「書くこと」の活動を通して、生徒のつまずきを知る。

話したり書いたりするといった言語を使用する場面を与えることで、定着が十分でない言語材料が見えてくる。生徒がどこでつまずいているかを分析し、発音と綴りとを関連付けて指導したり、関連のある文法事項などはまとまりをもって整理したりするなど、状況に合わせてフィードバックを適切に行いたい。文法事項によっては定着が困難なものがある。単なる説明では言語の習得を図ることはできない。1回の指導で終わることなく、既習事項と未習事項を関連付けながらスパイラルに何度も繰り返し指導することが大切である。特に、課題となっている過去形については、時制として整理することで理解を深めさせたい。

- ・優れた英文はモデル文として紹介する。

表現活動を行う過程で、秀逸な英文が生まれてくる。スキルとしてのすばらしさや、自分の考えや気持ちを何とか表現しようとしている姿勢のすばらしさに会う場面がある。それらは、タイミングを逃すことなく学年全体で共有したい。称賛することで個人の意欲が向上し、モデル文が示されることで全体の利益にもつながる。さらに、次の学年のために残すことで、全体の表現力が一層豊かになっていくことが期待される。

最後に、児童生徒意識調査から見えてくる生徒の英語の授業に対する捉え方について述べる。

(20)「英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。」と考えている中学2年生は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合を合わせると87.1%である。今日のグローバル社会において、将来英語を使用する場面を想定している生徒は9割近くに上ることが分かる。つまり、将来英語が必要になってくると考えているのは、英語が得意な生徒だけではないということが言える。教室には、英語が得意な生徒、どちらでもない生徒、苦手な生徒がいる。その習熟状況に応じて、打つべき手立てが違ってくる。それぞれの生徒がどこでつまずいているのかを分析して、全体で指導できることと個別に指導すべきことを考えていきたい。生徒のつまずきを知る手がかりとして、問題構成表を参照されたい。ここには出題のねらいと学習指導要領の内容及び問題分類が示されている。その上で何が課題であるかを洗い出し、指導改善につなげたい。今回「書くこと」の領域で再び二極化の傾向が見られ始めた。特に苦手な生徒においては、「書くこと」のみならず、全ての領域においてどの段階でつまずいているのかを分析し、基礎的・基本的な知識・技能の定着に力を入れたい。また、得意な生徒については、その時間の目標が達成できたら次の段階の活動に取り組めるように準備をしておきたい。より難易度の高いことに取り組むことで、生徒は自信をもち、更なる学習意欲につながっていく。以上のように、教室の中でそれぞれの習熟の状況にある生徒への手立てを考えた授業づくりをしていくことが大切である。

3年間を通して教室で身に付けたコミュニケーション能力の基礎が、生徒の将来において、様々な分野や場面で生かされることを思い描きながら授業づくりを行っていきたい。

《引用文献》

- 1) 文部科学省 『中学校学習指導要領解説 外国語編』平成20年9月 p.20 開隆堂

《参考文献》

- ・ 伊東 治己 『コミュニケーションのための効果的な4技能の指導』2013年6・7月号 日本英語検定協会
- ・ 北原 延晃 『英語授業の幹を作る本 上巻』2010年3月 株式会社ベネッセコーポレーション
- ・ 卯城 祐司 『英語リーディングの科学』2009年 研究社
- ・ 斎藤 栄二 『英語授業レベルアップの基礎』1996年 大修館
- ・ Benesse教育総合研究所 http://benesse.jp/berd/center/open/report/chu_eigo/seito_soku/soku_07.html#zu2_4

オ 授業実践に参考となるリンク



授業に役立つ実践研究



授業・自己研修・校内研修のための資料集

最終更新日:2013-10-21

平成25年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ> IV 意識調査結果の分析

IV 意識調査結果の分析

児童生徒意識調査結果の分析に当たって

1 分析の方針

児童生徒意識調査の分析に当たっては「学校生活」「学習動機」「学習活動(教科全般)」「家庭学習」「生活習慣等」というカテゴリーに分けて分析を行った。なお、カテゴリーについては、第I章の「6 調査内容」及び後述する「3 意識調査質問項目の構成」にある質問項目の構成に基づいて分けている。

それぞれの設問については、

- ① 今回の調査に見られるおおまかな傾向
- ② 小学5年から中学3年までの5学年を通じた比較
- ③ 同一学年での定点比較(昨年度の小学6年と今年度の小学6年というような比較)
- ④ 回答状況と平均正答率との関連

という観点から調査結果の分析を行った。

2 分析に当たって留意した点

- (1) 分析の対象となるデータについては、「回答状況と平均正答率との関連」を見る関係上、各学年において全教科(小学5年、小学6年は4教科、中学1年は4教科、中学2年、中学3年は5教科)のペーパーテストを受検した児童生徒のデータを、有効回答としている。各学年の有効回答者数と有効回答者率は、下記のとおりである。

	有効回答者数	全回答者数	有効回答者率
小学5年	7,708人	7,996人	96.4%
小学6年	7,982人	8,334人	95.8%
中学1年	7,938人	8,161人	97.3%
中学2年	7,699人	8,051人	95.6%
中学3年	7,465人	7,813人	95.5%

- (2) 本章で記述する「平均正答率」については、有効回答者の全教科(小学5年、小学6年は4教科、中学1年は4教科、中学2年、3年は5教科)の平均正答率を用いた。
- (3) 「回答状況と平均正答率との関連」についての記述については、それぞれの回答選択肢を選択した児童生徒全員の正答率の平均を求めて比較した。選択肢の回答状況によりそれぞれの回答選択肢を選択した児童生徒数は異なるため、児童生徒数が極めて少ない回答選択肢については、その正答率を比較することが適切でない場合も考えられる。このような場合については、その旨を文中に記した。

3 意識調査質問項目の構成

ア 質問項目の構成

- (ア) 学校生活
- (イ) 学習動機
- (ウ) 学習活動(教科全般)
- (エ) 学習活動(各教科)
- (オ) 家庭学習
- (カ) 生活習慣等

質問項目とそれぞれの設問との関係は以下の表のとおりである。

※ 小学校第6学年、中学校第3学年は全国調査の質問紙調査を実施。

質問項目		小学校 [全46問]	中学校 [全49問]
(ア) 学校生活		1・2・3・4	1・2・3・4
(イ) 学習動機		5・18(ア・イ・ウ・エ)・ 20(ア・イ・ウ・エ)・35・ 36	5・18(ア・イ・ウ・エ・ オ)・20(ア・イ・ウ・エ・ オ)・38・39 ※18(オ)・20(オ)は中2のみ
(ウ) 学習活動 (教科全般)		15・16・17・37	15・16・17・40
(エ) 学習活動 (各教科)	国語	19ア・22・23・24・25	19ア・22・23・24・25
	社会	19イ・26・27・28	19イ・26・27・28
	算数 数学	19ウ・29・30・31	19ウ・29・30・31
	理科	19エ・32・33・34	19エ・32・33・34
	英語		19オ・35・36・37 ※中2のみ
(オ) 家庭学習		6・7・8・9・10・11・ 12・13・14	6・7・8・9・10・11・ 12・13・14
(カ) 生活習慣等		21・38・39・40・41・42・ 43・44・45・46	21・41・42・43・44・45・ 46・47・48・49

イ 質問の意図

(ア) 学校生活

学校生活の楽しさ、好きな授業の有無などについて問うことにより、児童生徒の学校生活の実態を把握する。

(イ) 学習動機

勉強に対する興味や有用性、将来の夢や目標の有無について問うことにより、学習動機の高さについての実態を把握する。

(ウ) 学習活動(教科全般)

自分の考えを発表する機会や児童生徒の間で話し合う活動の頻度、自分の考えの表現に対する抵抗感について問うことにより、児童生徒の学習活動全般の実態について把握する。また、電子黒板などのICTを活用した授業の分かりやすさと利用状況を問うことにより、その効果と利活用の状況を把握する。

(エ) 学習活動(各教科)

各教科の内容の理解度についての自己評価、各教科の特性に応じた学習内容や学習方法についての児童生徒の興味・関心・意欲・態度について問うことにより、それぞれの教科についての学習活動の実態について把握する。

(オ) 家庭学習

授業以外の勉強時間や勉強の内容、塾や家庭教師の有無など児童生徒の学習方法全般について問うことにより、児童生徒の家庭学習の実態について把握する。

(カ) 生活習慣等

読書時間、テレビやゲームなどの時間、就寝時刻、朝食や家の手伝いの頻度、地域における行事などへの参加の頻度などについて問うことにより、児童生徒の家庭における生活習慣の実態について把握する。

教師意識調査結果の分析に当たって

1 分析の方針

教師意識調査の分析に当たっては、第 I 章の調査内容の中で述べた質問項目の構成から「教科全般における指導法の工夫」「学習環境の活用」「家庭学習への関与状況」「学校組織マネジメントに対する意識」というカテゴリーに分けて、分析を行った。

それぞれの設問については、

① 今回の調査に見られる全体的な傾向

② 学校スコアによるグループ比較

という観点から調査結果の分析を行った。

2 分析に当たって留意した点

- (1) 分析の対象となるデータについては、昨年度、小学校第4学年、小学校第5学年、小学校第6学年、中学校第1学年、中学校第2学年を担当した教師の2月調査での回答を用いている。回答者数は、下記のとおりである。

	回答者数
小学校	1203人
中学校	962人

- (2) 教師意識調査の回答選択肢を指導の頻度や内容に応じて点数化し、各学校の有効回答者の平均を求めたものを学校スコアとしている。詳細は第 I 章の [註](#) を参照していただきたい。
- (3) 指導状況の違いを明らかにするために、各設問ごとに小、中学校の学校スコア上位四分の一の学校群をAグループ、下位四分の一の学校群をBグループとして、グループにおける平均正答率の状況を比較した。基本的にAグループがその指導が多く行われている(又は、意識が高い)学校群、Bグループがその指導があまり行われていない(又は、意識があまり高くない)学校群となっている。

3 意識調査質問項目の構成

ア 質問項目の構成

カテゴリ	小学校	中学校
(ア) 家庭学習への関与状況	設問2～8	設問2～8
(イ) 学習環境の活用	設問9～12	設問9～12
(ウ) 教科等全般における指導法の工夫	設問13～16 設問18～21	設問13～16 設問18～21
(エ) 教科の特性に応じた指導法の工夫	設問17 設問22～31	設問17 設問22～34
(オ) 学校組織マネジメントに対する意識	設問32～34	設問35～37

イ 質問の意図

(ア) 家庭学習への関与状況

宿題を出している頻度や出している宿題の内容(予習的宿題・復習的宿題など)、宿題に関する指導状況について問うことにより、家庭学習への関与状況を把握する。

(イ) 学習環境の活用

授業におけるICT機器の活用頻度や活用場面、学校図書館の活用頻度とその活用内容を把握する。

(ウ) 教科等全般における指導法の工夫

発展的な課題を取り入れた授業の実施状況、理解が十分でない児童生徒に対する授業外での対応状況、書いて表現する活動や話し合い活動を取り入れた授業の実施(教科の授業・総合的な学習の時間)、身に付けさせたい力を意識した総合的な学習の時間の指導、学習方法についての指導状況、学習形態の工夫、目標や評価規準を明確にした授業の実施について問うことにより、発展的学習・補充的指導・表現力の育成、総合的な学習の時間の指導、学習方法の指導、学習形態の工夫、目標を明確にした指導などの状況を把握する。

(エ) 教科の特性に応じた指導法の工夫

国語における言語活動、読書指導、社会における調査学習を生かした発表・討論、算数・数学における算数(数学)的活動、問題解決的な学習、理科における見通しをもった観察や実験とそのまとめ、英語におけるコミュニケーション能力を高める指導や書く活動などについて問うことにより、各教科の特性に応じた指導法の工夫の状況を把握する。

(オ) 学校組織マネジメントに対する意識

教育活動方針の理解、方針や内容についての共通理解、職員間の雰囲気について問うことにより、学校組織マネジメントが児童生徒の正答率や児童生徒の学習に対する意識に及ぼす影響を把握する。

最終更新日：2013-6-27

平成25年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

[Web報告書もくじ](#) > IV 児童生徒意識調査結果の分析

児童生徒意識調査結果の分析

[児童生徒意識調査結果の分析に関わる全てのグラフ](#)

1 学校生活

- 学校生活に楽しさを感じている児童生徒の割合は、どの学年においても9割を上回っていた。また、学校に行くことに楽しさを感じている児童生徒の割合は、8割を上回っていた。学校生活や学校に行くことに楽しさを感じている児童生徒ほど平均正答率は高くなっていた。[図1][図2][図3]
- 友達と会うことに楽しさを感じている児童生徒の割合は、全ての学年において9割を上回っており、楽しさを感じている児童生徒ほど平均正答率は高くなっていた。[図4][図5]
- 学校の授業の中で、好きな授業があると感じている児童生徒の割合は、小学5年が最も高く、学年が上がるに従って、その割合は低くなっていた。好きな授業がある児童生徒ほど平均正答率は高くなっていた。[図6][図7]

ここでは、児童生徒の学校生活について、学校生活の楽しさと全教科平均正答率との関連から分析を行った。

ア 「学校での生活は楽しい」「学校に行くのは楽しい」について

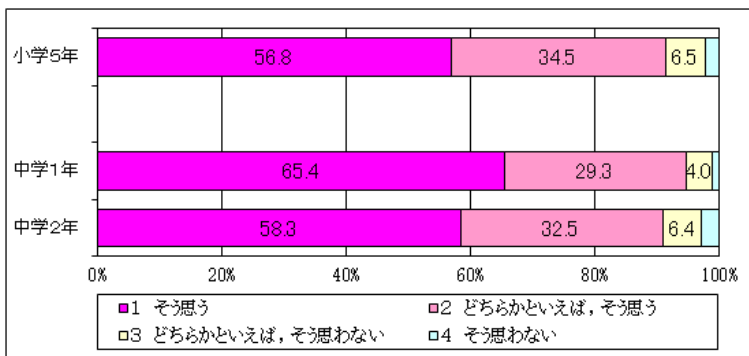


図1 「学校での生活は楽しい」の回答の割合

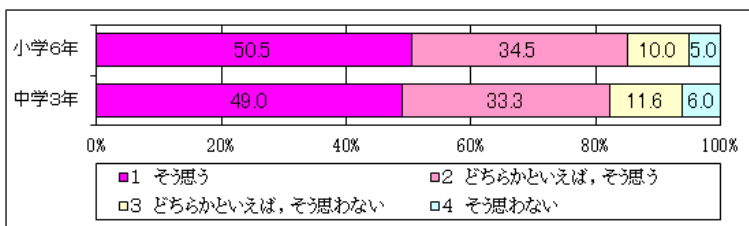


図2 「学校に行くのは楽しい」の回答の割合

佐賀県が実施した意識調査の設問「学校での生活は楽しい」において、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した児童生徒の割合は、小学5年91.3%、中学1年94.7%、中学2年90.8%となり、どの学年も9割を上回る結果となった。国が実施した意識調査の設問「学校に行くのは楽しい」において「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した児童生徒の割合は、小学6年85.0%、中学3年82.3%となり、どちらの学年も8割を上回る結果となった。特に、中学1年では94.7%と最も高い割合となった。【図1】【図2】

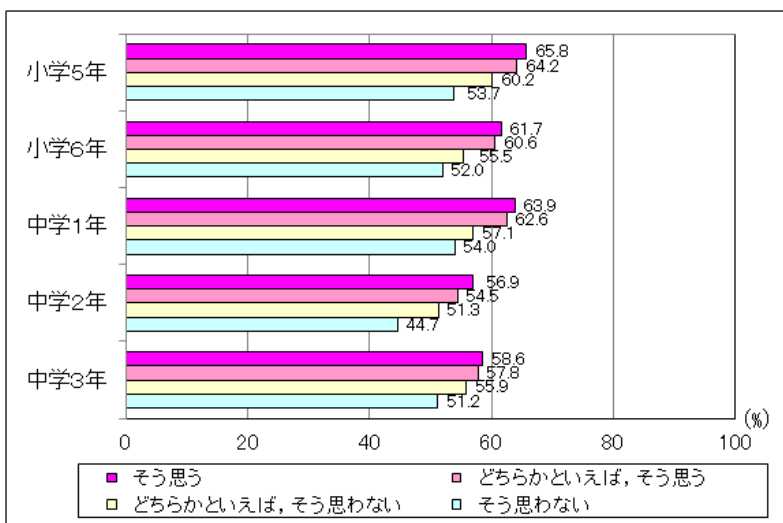


図3 「学校での生活は楽しい」「学校に行くのは楽しい」の回答状況と正答率

回答状況と全教科平均正答率との関連を見ると、全ての学年において、「そう思う」と回答した児童生徒の平均正答率が最も高くなっている。「学校での生活は楽しい」「学校に行くのは楽しい」と回答した児童生徒ほど、平均正答率が高くなっている。【図3】

イ 「友達に会うのは楽しい」について

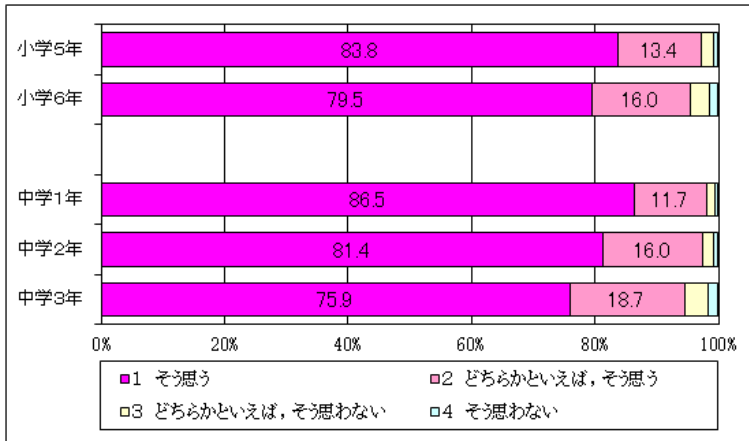


図4 「友達に会うのは楽しい」の回答の割合

「思う」「どちらかといえば、思う」と回答した児童生徒の割合は、小学5年97.2%、小学6年95.5%、中学1年98.2%、中学2年97.4%、中学3年94.6%となり、全ての学年で9割を上回る結果となった。特に、中学1年では98.2%と最も高い割合であった。[図4]

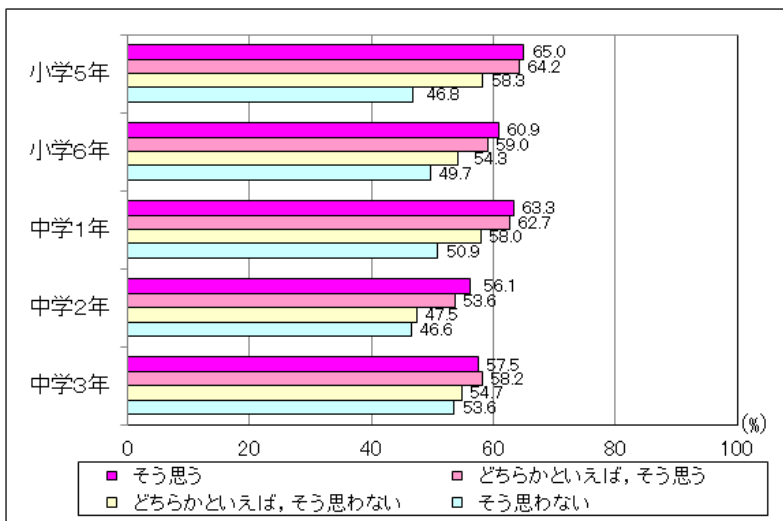


図5 「友達に会うのは楽しい」の回答状況と正答率

回答状況と全教科平均正答率との関連を見ると、小学5年から中学2年までにおいては「思う」と回答した児童生徒の平均正答率が最も高くなっている。中学3年においては「どちらかといえば、思う」と回答した生徒の平均正答率が最も高くなっている。全ての学年において、友達に会うことに楽しさを感じている児童生徒の方が、楽しさを感じていない児童生徒より平均正答率が高くなっている。[図5]

ウ 「好きな授業がある」について

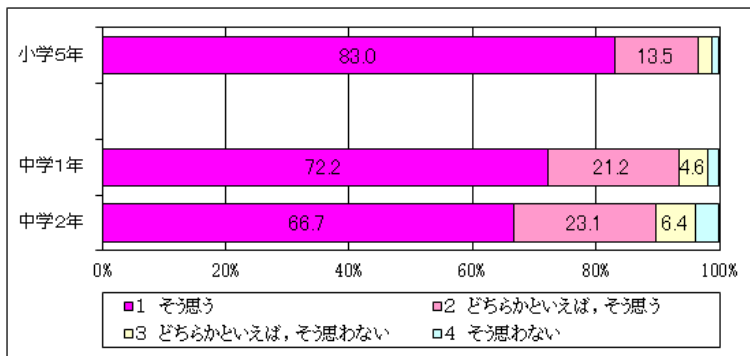


図6 「好きな授業がある」の回答の割合

佐賀県が実施した意識調査の設問「好きな授業がある」において、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した児童生徒の割合は、小学5年96.5%、中学1年93.4%、中学2年89.8%となり、学年が上がるにつれてその割合が低くなっている。[図6]

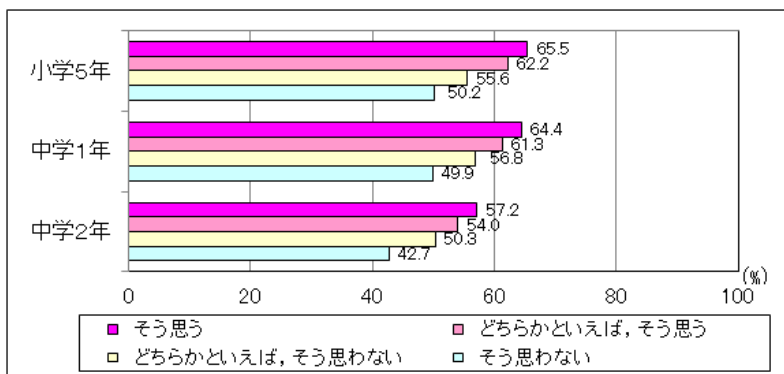


図7 「好きな授業がある」の回答状況と正答率

回答状況と全教科平均正答率との関連を見ると、どの学年においても「そう思う」と回答した児童生徒の平均正答率が最も高くなっている。小学5年と中学1年、中学2年において「そう思う」と回答した児童生徒の平均正答率と「そう思わない」と回答した児童生徒の平均正答率とを比べると14.5ポイント以上の差が見られた。

[図7]

○ これからの指導に向けて

支持的風土から安心して学習に取り組める環境づくりを

「友達に会うのは楽しい」では、全ての学年において「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した児童生徒の割合は、9割を上回り、平均正答率も高くなっていた。このことから、友達関係と学力の定着については関連があると考えられる。友達同士が、互いに認め合ったり励まし合ったりすることは、安心して学習に取り組める環境へとつながる。この安心して学習に取り組める環境が、学習者同士で互いの考えを安心して伝え合うことにつながるのではないかと考える。安心して考えを伝え合うことは、安心して学び合うことであり、学力の向上へとつながっていくのではないかと考える。そのため、学級経営を基盤とした授業づくりが大切である。

達成感や有用感が感じられる授業づくりを

佐賀県が実施した意識調査にある「好きな授業がある」について「そう思う」と回答した児童生徒の平均正答率が最も高くなっており、好きな授業がある児童生徒ほど平均正答率は高くなっていた。このことから、好きな授業があることと学力の定着については関連があると考えられる。授業が好きになるきっかけは児童生徒によって様々である。授業の中で「分かった」「できた」といった達成感を味わわせたり、学んだことを他教科や生活場面に生かすような授業を仕組むことで学んだことを生かせるという有用感を感じさせたりするような授業づくりが大切である。特に、達成感においては、できる限り児童生徒の実態に応じてスモールステップを設定し、「分かった喜び」や「できた喜び」を味わわせていくことが大切になる。

最終更新日：2013-10-21

平成25年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

[Web報告書もくじ](#) > IV 児童生徒意識調査結果の分析

児童生徒意識調査結果の分析

[児童生徒意識調査結果の分析に関わる全てのグラフ](#)

2 学習動機

- 全ての学年において、国語や算数、数学の勉強が好きと感じている児童生徒ほど平均正答率は高くなっており、「当てはまらない」と回答した児童生徒の平均正答率よりも9.0ポイント以上の差があった。[図2][図6]
- 小学校、及び中学校において、国語や算数、数学の勉強に対して有用感を感じている児童生徒の割合は、学年が上がるにつれて低くなっていた。[図3][図7]

ここでは、学習への動機について、全ての学年において調査が実施された国語と算数、数学に対する意識と全教科平均正答率との関連から分析を行った。

ア 「国語の勉強は好きだ」について

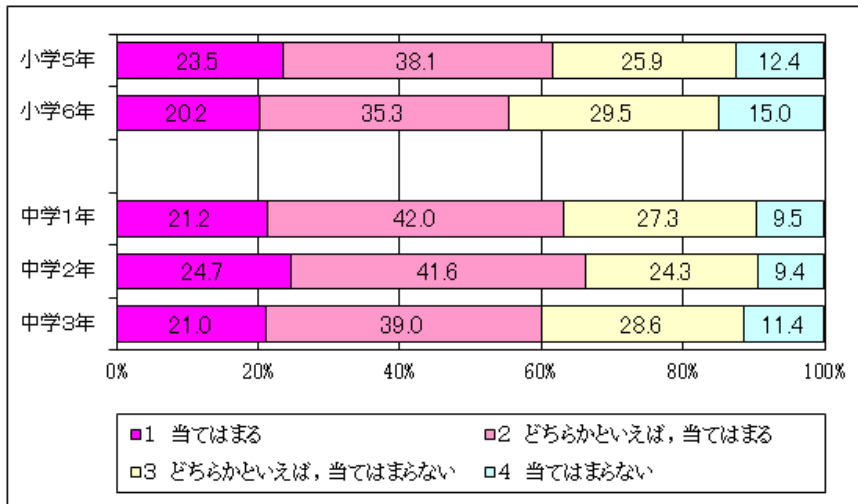


図1 「国語の勉強は好きだ」の回答の割合

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学5年61.6%、小学6年55.5%、中学1年63.2%、中学2年66.3%、中学3年60.0%であった。全体では、中学2年で最も高い割合を示していた。校種別に見ると、小学6年と中学3年とが最も低い割合を示していた。〔図1〕

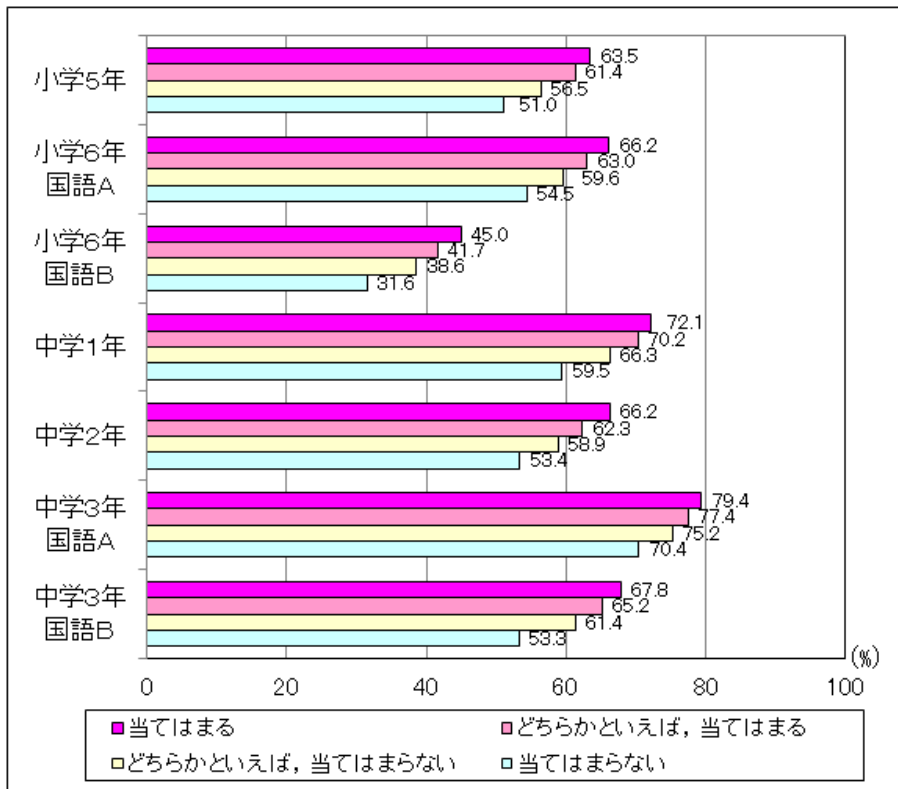


図2 「国語の勉強は好きだ」の回答状況と国語の平均正答率

回答状況と国語の平均正答率との関連を見ると、全ての学年で「当てはまる」と回答した児童生徒の平均正答率が最も高くなっている。「当てはまる」と回答した児童生徒の平均正答率と「当てはまらない」と回答した児童生徒の平均正答率の差を見ると、全ての学年で9.0ポイント以上の差があった。特に、小学6年の国語Bで13.4ポイント、中学3年の国語Bで14.5ポイントであり、他の学年に比べて差が大きかった。〔図2〕

イ 「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」について

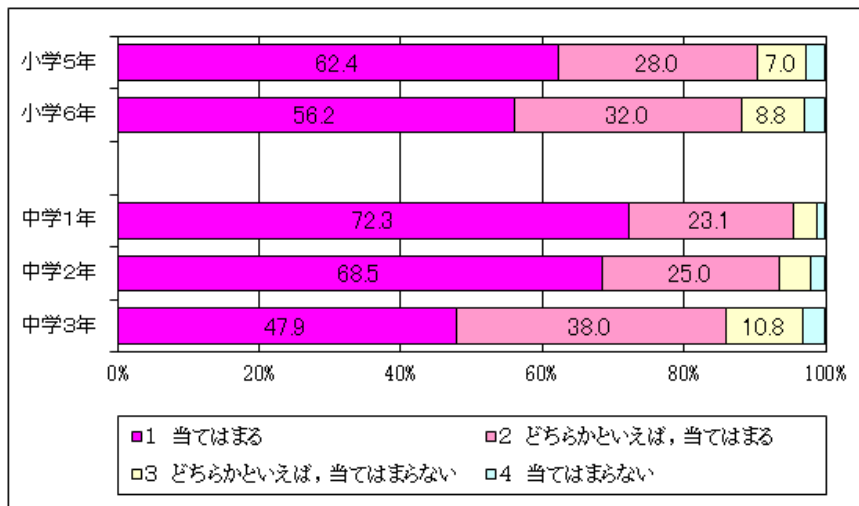


図3 「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」の回答の割合

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学5年90.4%、小学6年88.2%、中学1年95.4%、中学2年93.5%、中学3年85.9%であった。特に、中学1年において95%を上回る割合を示していた。校種別に見ると、学年が上がるにつれて「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合は低くなっている。〔図3〕

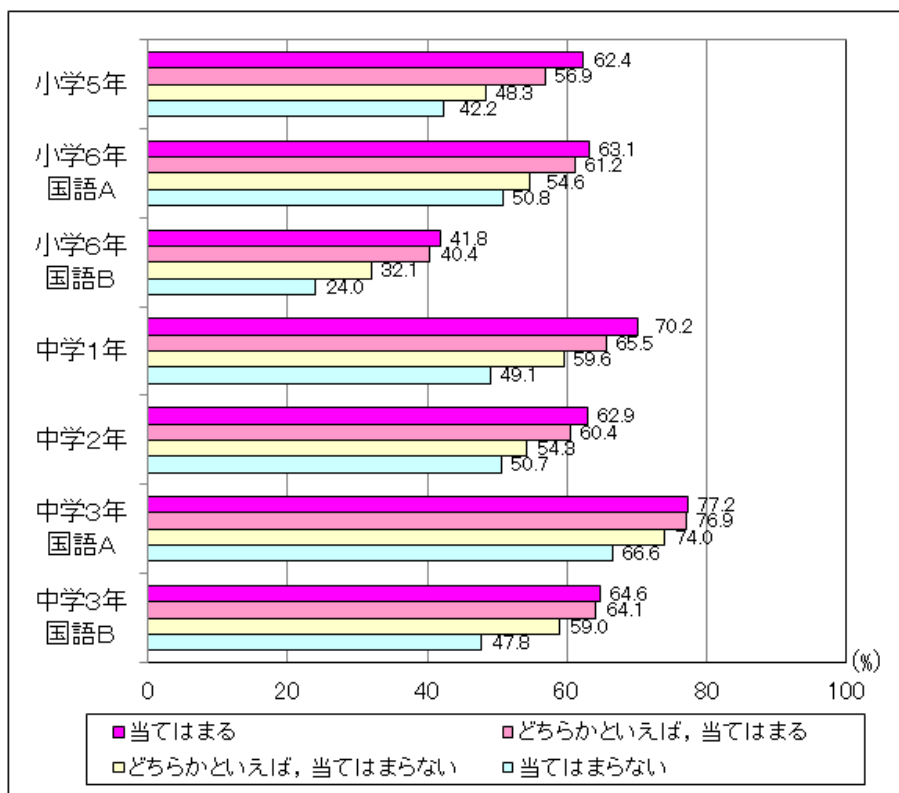


図4 「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」の回答状況と国語の平均正答率

回答状況と国語の平均正答率との関連を見ると、全ての学年で「当てはまる」と回答した児童生徒の平均正答率が最も高くなっている。「当てはまる」と回答した児童生徒の平均正答率と「当てはまらない」と回答した児童生徒の平均正答率の差を見ると、全ての学年で10.0ポイント以上の差があった。特に、小学5年と中学1年の国語は20.0ポイント以上の差があり、他の学年に比べて差が大きかった。〔図4〕

ウ 「算数(数学)の勉強は好きだ」について

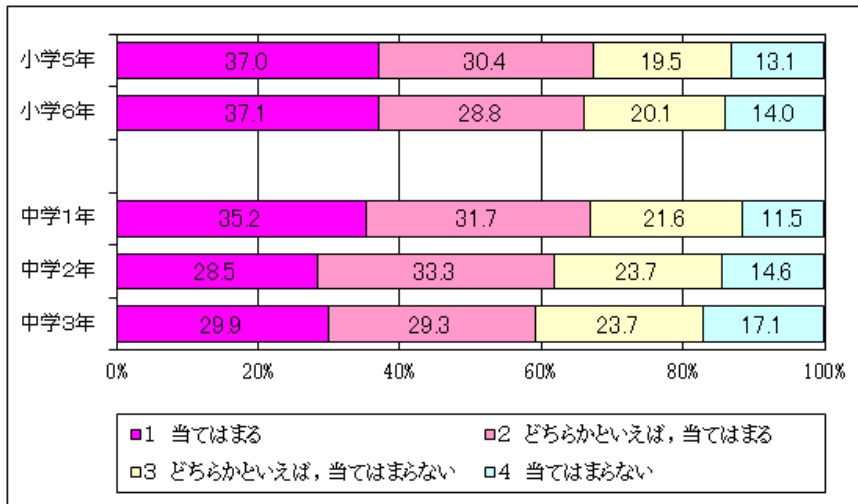


図5 「算数(数学)の勉強は好きだ」の回答の割合

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学5年67.4%、小学6年65.9%、中学1年66.9%、中学2年61.8%、中学3年59.2%であった。校種別に見ると、学年が上がるにつれて「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合は低くなっている。[図5]

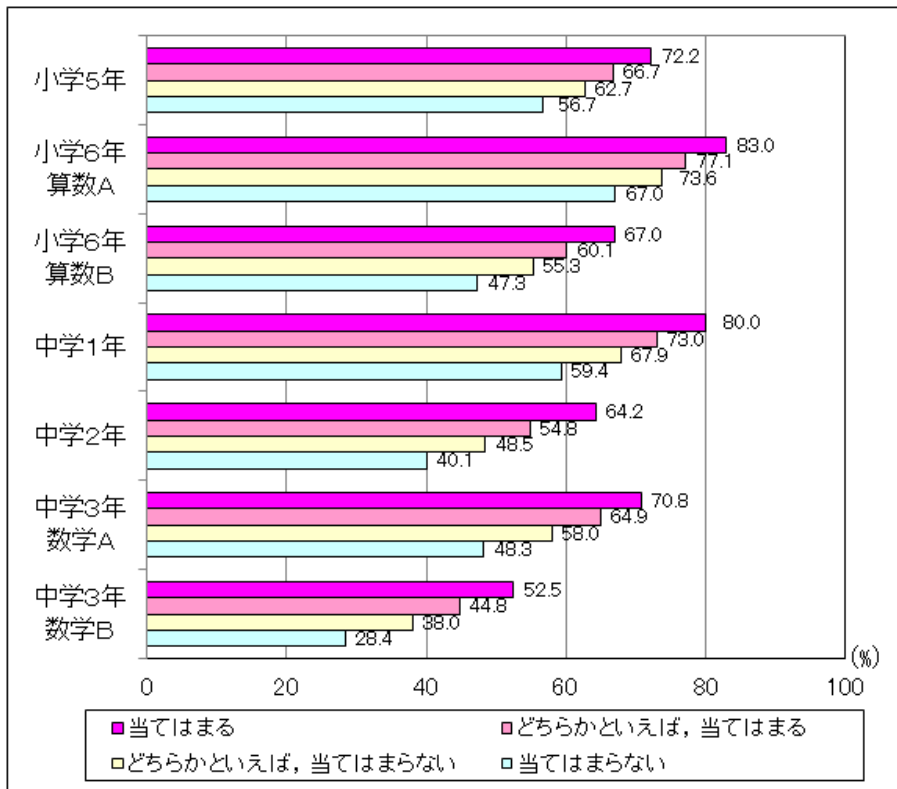


図6 「算数(数学)の勉強は好きだ」の回答状況と算数(数学)の平均正答率

回答状況と算数(数学)の平均正答率との関連を見ると、全ての学年で「当てはまる」と回答した児童生徒の平均正答率が最も高くなっている。「当てはまる」と回答した児童生徒の平均正答率と「当てはまらない」と回答した児童生徒の平均正答率の差を校種別に見ると、小学校では15.5ポイント以上、中学校では20.6ポイント以上の差があった。[図6]

エ 「算数(数学)の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つ」について

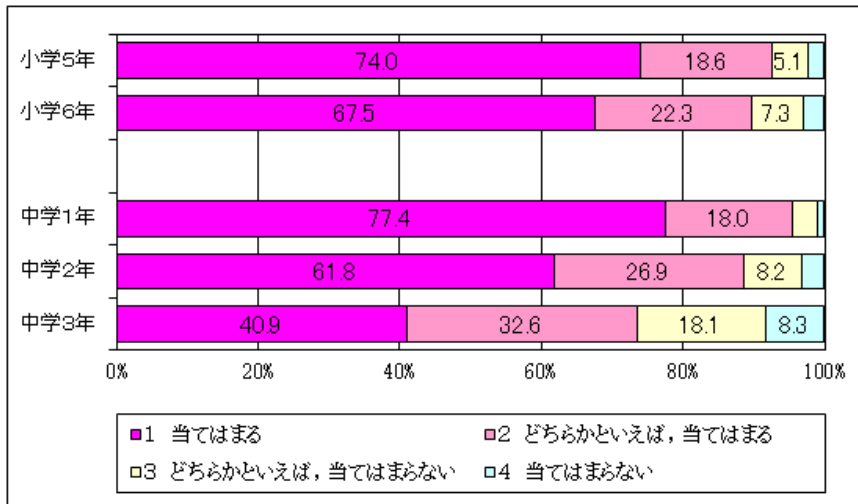


図7 「算数(数学)の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つ」の回答の割合

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学5年92.6%、小学6年89.8%、中学1年95.4%、中学2年88.7%、中学3年73.5%であった。校種別に見ると、学年が上がるにつれて「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合は低くなっている。[図7]

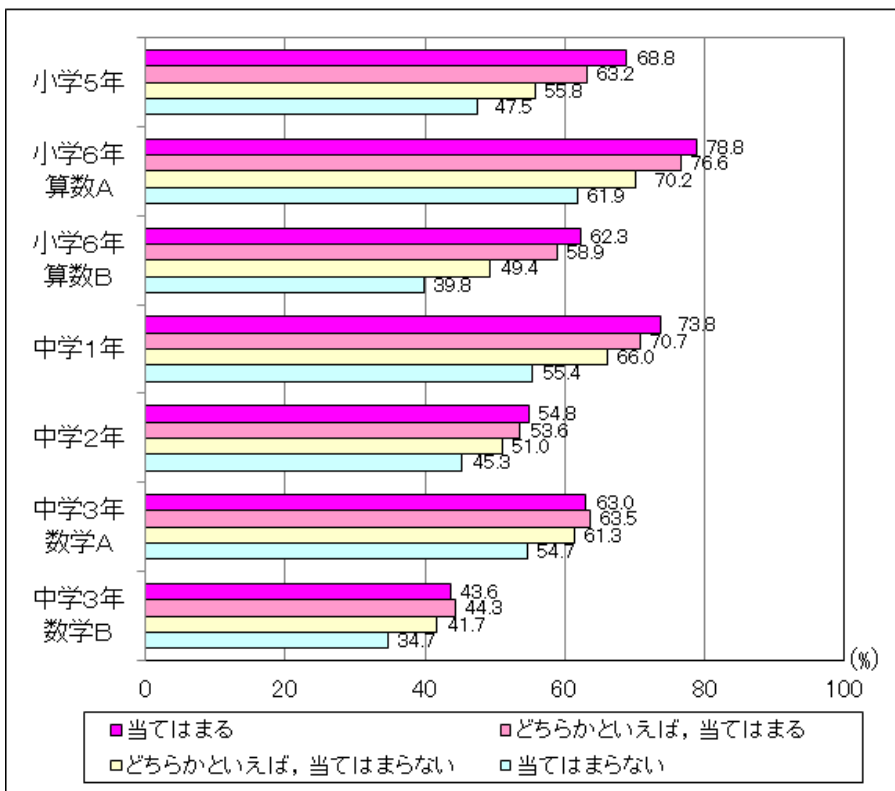


図8 「算数(数学)の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つ」の回答状況と算数(数学)の平均正答率

回答状況と算数(数学)の平均正答率との関連を見ると、小学5年から中学2年までにおいては「当てはまる」と回答した児童生徒の平均正答率が最も高くなっている。中学3年においては「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の平均正答率が最も高くなっている。全ての学年において、学習したことの有用感を感じている児童生徒の方が、有用感を感じていない児童生徒より平均正答率が高くなっている。[図8]

○ これからの指導に向けて

他教科や日常生活とのつながりを意識させる授業づくりを

各教科の学習が好きになる理由は、児童生徒によって様々である。好きになる理由の1つに、各教科の学習が「他教科や日常生活に生かせる」「将来役立つ」などの有用感がある。この有用感は、児童生徒にとって学習する必然性となり、学習に対する意欲へとつながっていくと考える。そこで、学習課題(学習問題)を日常生活から設定したり、他教科において学習した内容を生かさせるような声かけをしたりすることで、学習したことが他教科や日常生活と結び付いていることを意識付けることが大切である。単元の終末では、日常生活に結び付くような学習を仕組むことで学習した内容を日常生活の中で生かしていこうとする意欲をもたせていくことも大切である。

最終更新日:2013-10-21

平成25年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > IV 児童生徒意識調査結果の分析

児童生徒意識調査結果の分析

[児童生徒意識調査結果の分析に関わる全てのグラフ](#)

3 学習活動(教科全般)

- 普段の授業で自分の考えを発表する機会は、平成23年度からの経年で比較すると年々増加しており、発表する機会が与えられている児童生徒ほど、全教科平均正答率は高くなっていた。[図1][図2]
- 学校の授業などで自分の考えを表現することに対して難しいと感じている児童生徒は、平成23年度からの経年で比較すると年々減少しており、表現することに難しさを感じている児童生徒ほど、全教科平均正答率は低くなっていた。[図3][図4]

ここでは、教科全般における学習活動について、自分の考えを発表する機会と自分の考えを表現することに対する意識の変容を平成23年度からの調査結果と比較し、分析を行った。また、平成25年度の調査結果と全教科平均正答率との関連からも分析を行った。

ア 「普段の授業では、自分の考えを発表する機会があたえられていると思う」についての経年比較(同一学年)

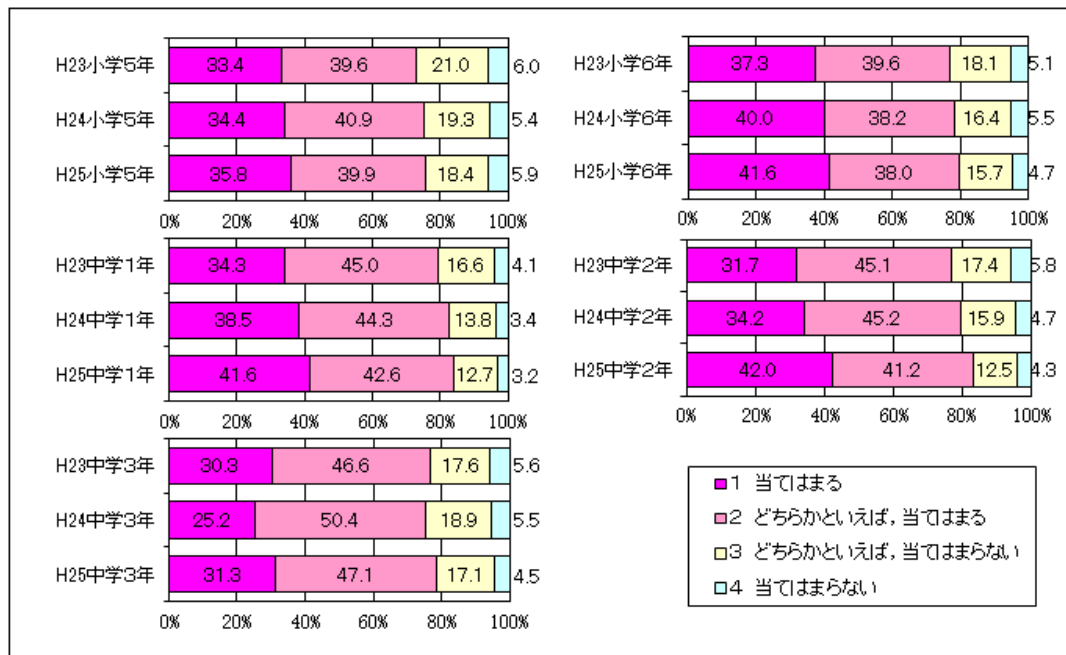


図1 「普段の授業では、自分の考えを発表する機会があたえられていると思う」の回答の割合の経年比較

平成25年度の調査において「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学5年75.7%、小学6年79.6%、中学1年84.2%、中学2年83.2%、中学3年78.4%となり、全ての学年において7割を上回る結果となった。同一学年において「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合を、平成23年度からの経年で比較すると、小学5年から中学2年までは徐々に高くなっている。中学3年においては、平成23年度と比べると1.5ポイント高くなっている。[図1]

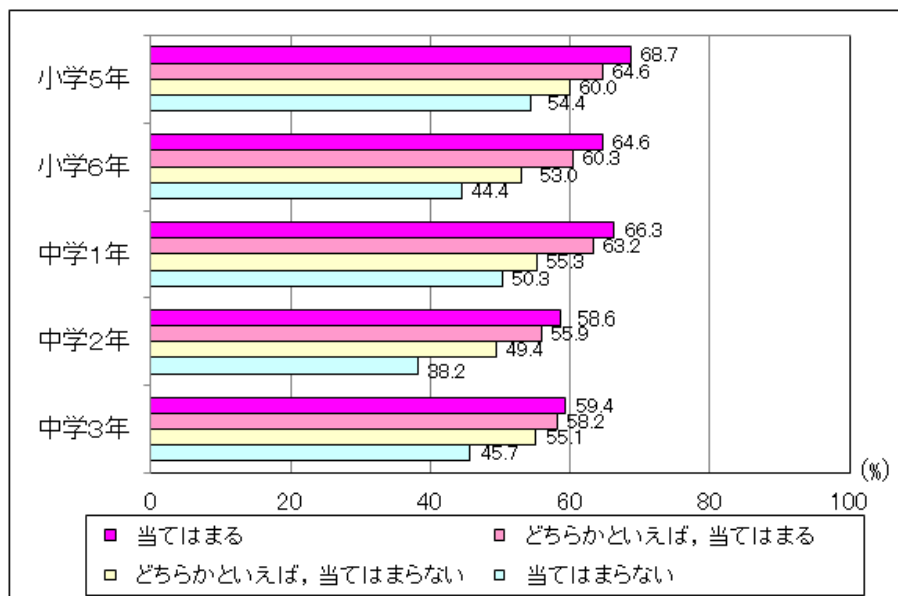


図2 「普段の授業では、自分の考えを発表する機会があたえられていると思う」の回答状況と全教科平均正答率(平成25年度)

回答状況と全教科平均正答率との関連を見ると、全ての学年において「当てはまる」と回答した児童生徒の平均正答率が最も高くなっている。「当てはまる」と回答した児童生徒の平均正答率と「当てはまらない」と回答した児童生徒の平均正答率とを比較すると、全ての学年において10.0ポイント以上の差があった。[図2]

イ 「学校の授業などで、自分の考えをほかの人に説明したり、文章に書いたりするのは難しい」についての経年比較(同一学年)

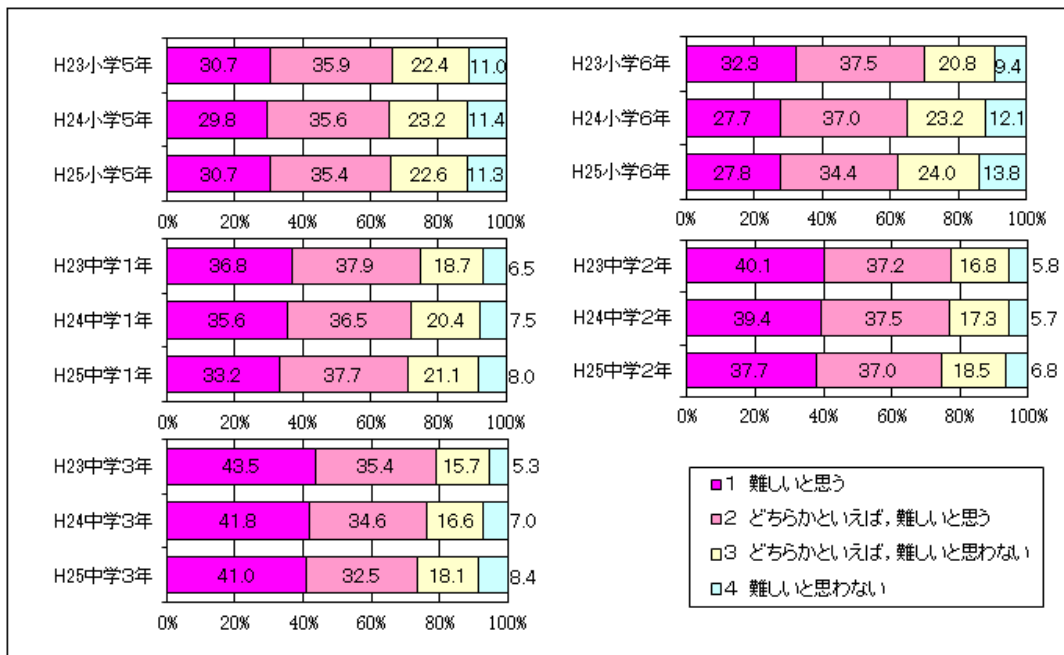


図3 「学校の授業などで、自分の考えをほかの人に説明したり、文章に書いたりするのは難しい」の回答の割合の経年比較

平成25年度の調査において「難しいと思う」「どちらかといえば、難しいと思う」と回答した児童生徒の割合は、小学5年66.1%、小学6年62.2%、中学1年70.9%、中学2年74.7%、中学3年73.5%となっている。同一学年において「難しいと思う」「どちらかといえば、難しいと思う」と回答した児童生徒の割合を、平成23年度からの経年で比較すると、小学6年から中学3年までは年々低くなってきており、難しさを感じる児童生徒が少なくなっていることがうかがえる。小学5年においては、変化が見られなかった。[図3]

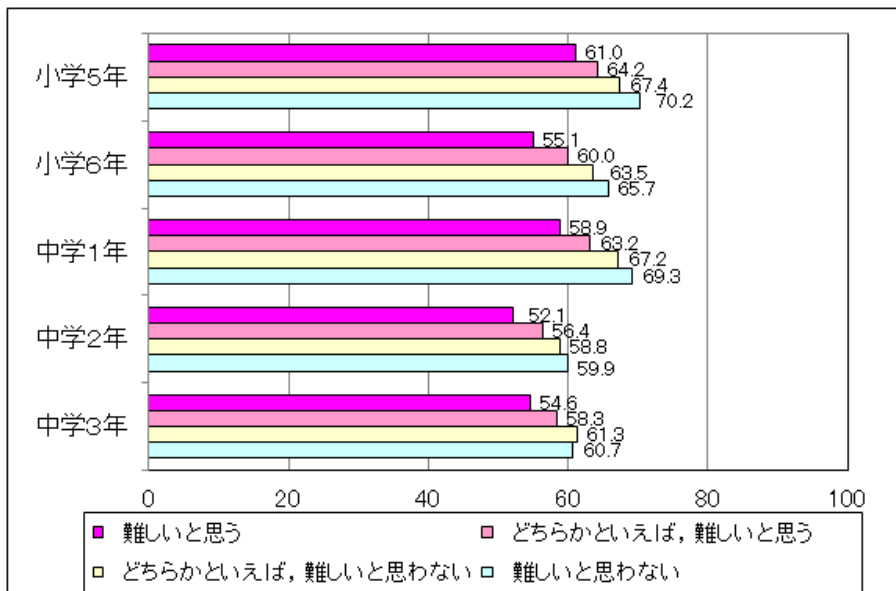


図4 「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのは難しい」の回答状況と全教科平均正答率(平成25年度)

回答状況と全教科平均正答率との関連を見ると、「難しいと思う」と回答した児童生徒の平均正答率が最も低くなっており、小学5年から中学3年までにおいては、難しさを感じている児童生徒より感じていない児童生徒の方の平均正答率が高くなる結果であった。[図4]

○ これからの指導に向けて

自分の考えと他者の考えを比較する場の設定を

普段の授業の中で、児童生徒が自分の考えを発表する機会は、年々増加してきていることがうかがえた。自分の考えを発表し交流する活動は、自分の考えと他者の考えとを比較する活動であり、児童生徒の思考力・判断力・表現力等を育成していく上で大切な活動である。考えを発表する場では、聞き手に相似点や相違点を考えながら聞かせたり、発表者に相似点や相違点を示しながら発表させたりするなどの工夫も大切である。

自分の考えを記述する活動を

自分の考えを表現することへの抵抗感は、年々和らいできていることがうかがえた。このことから、自分の考えを表現するための指導改善が図られてきたことがうかがえる。しかしながら、依然として小学校においては6割を上回る割合で、中学校においては7割を上回る割合で自分の考えを表現することに対して難しさを感じている。

そこで、自分の考えを文章に書いて表現する活動に着目したい。自分の考えを文章に書いて表現する活動は、自分の考えを整理することにつながるだけでなく、自分の考えを明確にする効果も期待できる。そればかりでなく、文章に書き表したことで、自分の考えを他の人に説明もしやすくなるを考える。自分の考えを発表させる際や、学級またはグループで考えを交流させる際には、まず自分の考えを文章に書かせた上で行うことが効果的ではないかと考える。そのためにも、自分の考えを書き表すための指導を丁寧にしていくことが大切である。

最終更新日:2013-10-21

平成25年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ> IV 児童生徒意識調査結果の分析

児童生徒意識調査結果の分析

児童生徒意識調査結果の分析に関わる全てのグラフ

4 家庭学習

- 1日あたりの学習時間について、小学校では、1時間以上学習している児童の割合が年々高くなっており、中学校では、中学1年と中学3年とで2時間以上学習している生徒の割合が年々高くなっていった。[図1]
- 自分で計画を立てて勉強する児童生徒の割合に大きな変化は見られないが、計画を立てて勉強する児童生徒ほど、全教科平均正答率は高くなっていった。[図3][図4]

ここでは、家庭での学習状況について、普段の学習時間と計画的な学習の変容を平成23年度からの調査結果と比較し、分析を行った。また、平成25年度の調査結果と全教科平均正答率との関連からも分析を行った。学校の宿題については、平成25年度の回答の割合と全教科平均正答率との関連から分析を行った。

ア 「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」についての経年比較(同一学年)

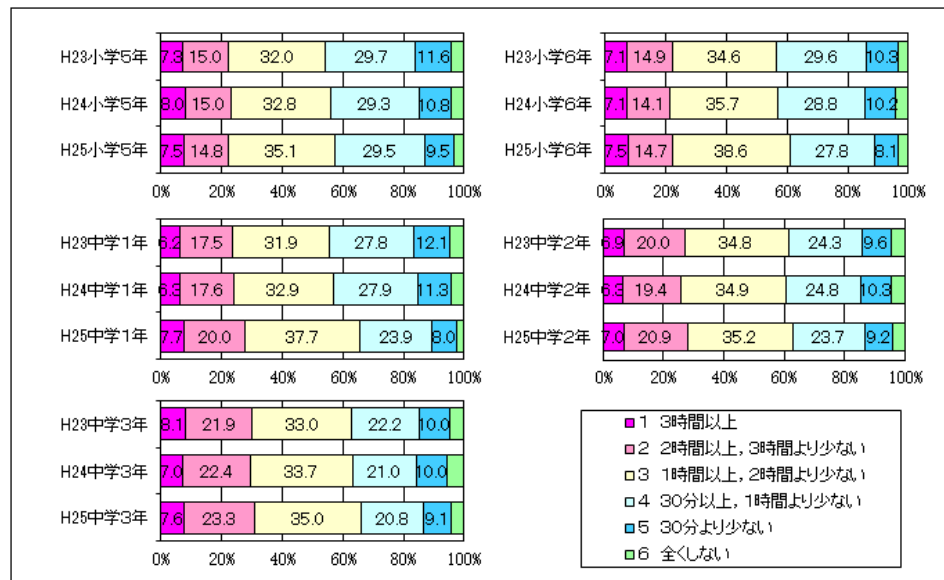


図1 「学校の授業時間以外に、普段、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」の回答の割合の経年比較

平成25年度の調査を見ると、全ての学年において「1時間以上、2時間より少ない」と回答した児童生徒の割合が最も高く、35%を上回っていた。同一学年において、1時間より少ないと回答した児童生徒の割合を、平成23年度からの経年で比較すると、全ての学年において、学校の授業以外での学習時間は増加してきている。[図1]

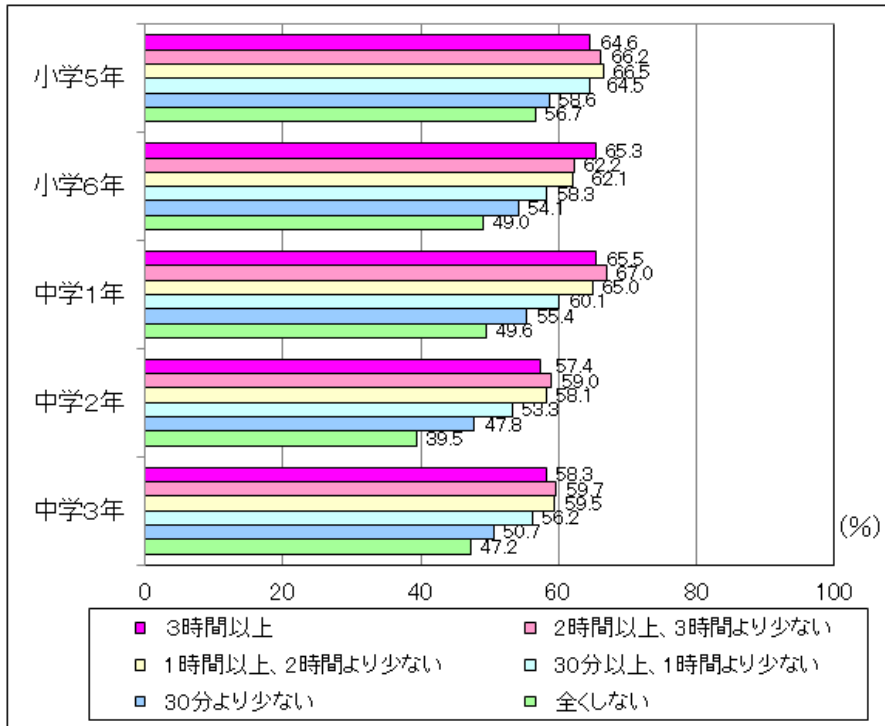


図2 「学校の授業時間以外に、普段、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」の回答状況と度全教科平均正答率(平成25年度)

回答状況と全教科平均正答率との関連を見ると、全ての学年において、1時間以上学習している児童生徒の平均正答率の方が、1時間より少ない時間学習している児童生徒の平均正答率よりも高い正答率であった。1時間以上学習していると回答した児童生徒の平均正答率を選択肢ごとに見てみると、時間が長いほど平均正答率が高いとは言えない結果であった。[図2]

イ 「自分で計画を立てて勉強している」についての経年比較(同一学年)

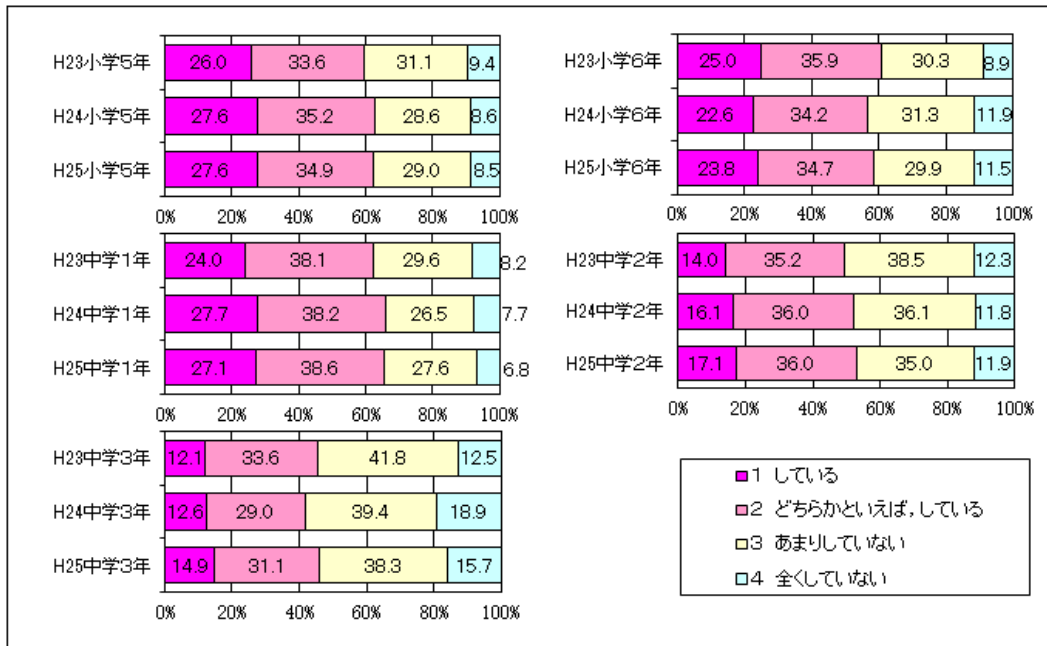


図3 「自分で計画を立てて勉強している」の回答の割合の経年比較

平成25年度の調査において「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の割合は、小学5年62.5%、小学6年58.5%、中学1年65.7%、中学2年53.1%、中学3年46.0%であり、中学2年生が最も高い割合であった。同一学年において「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の割合を、平成23年度からの経年で比較すると、全ての学年においてははっきりとした傾向は見られなかったが、中学2年においてその割合は徐々に高くなっていった。[図3]

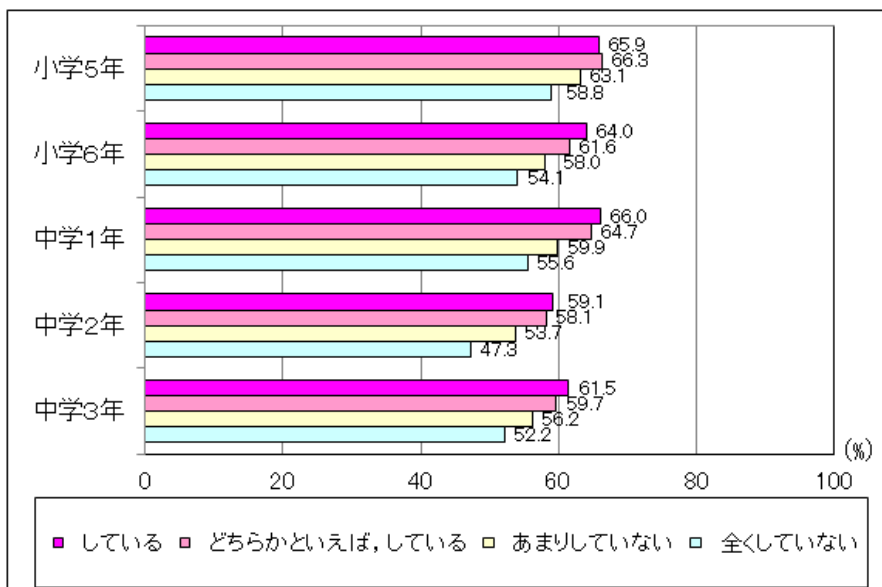


図4 「自分で計画を立てて勉強している」の回答状況と全教科平均正答率(平成25年度)

回答状況と全教科平均正答率との関連をみると、小学6年から中学3年までにおいて「している」と回答している児童生徒の平均正答率が最も高くなっていった。小学5年においては、自分で計画を立てて勉強している児童の平均正答率の方が、計画を立てて勉強していない児童の平均正答率に比べて高くなっていった。「している」と回答した児童生徒の平均正答率と、「全くしていない」と回答した児童生徒の平均正答率との差を見ると、全ての学年において7.0ポイント以上の差があった。特に、中学2年では、11.8ポイントあり最も大きかった。

[図4]

○ これからの指導に向けて

家庭との連携を図り、家庭学習の定着を

普段、学校の授業以外に学習している時間について、平成23年度からの経年で比較すると、小学校では、1時間以上勉強している児童の割合は年々高くなっていった。中学校において2時間以上勉強している生徒の割合は、どの学年も平成23年度と比較して高い割合であった。一方、学習時間と全教科平均正答率との関連を見ると、長い時間勉強している児童生徒が必ずしも平均正答率が高いとは限らない結果となった。学校によっては、年度当初に家庭学習について記した手引きを配付し、学習の時間や学習への取り組み方、学習の内容等を示しながら家庭学習の定着に取り組んでいる。その際、学習への取り組み方について「テレビを消して」や「机の回りを整理して」など学習に集中できる環境作りを示している学校もある。このような取組は、児童生徒が集中して学習に取り組む上で大切なことと考える。今後も、家庭での学習環境にも目を向け、家庭と連携を図りながら指導していくことが大切である。

家庭学習への意識を定着させるためには、年度当初に示すだけでなく、定期的に意識付けを図る必要がある。意識付けを図る方法の1つとして、児童生徒やその保護者を対象とした意識調査を行うことが考えられる。意識調査を定期的に行っていくことで、児童生徒に家庭学習の状況を振り返らせながら意識の定着を図るだけでなく、その保護者に対しても家庭での児童生徒の学習状況について考えてもらう機会としたい。

家庭での過ごし方に計画性を

計画的に勉強を進めている児童生徒の割合を平成23年度からの経年で比較すると、はっきりとした傾向は見られなかったものの、全教科平均正答率を見ると、計画的に勉強を進めている児童生徒ほど平均正答率が高くなっていった。このことから、学習時間を延ばすことも大切であるが、限られた時間をどのように活用していくかについて児童生徒に考えさせることも大切であるとする。1日の過ごし方や1週間の過ごし方について考えさせる時間を学校または家庭で確保し、計画的な過ごし方を意識させ、効率のよい学習習慣を身に付けさせることが大切である。

最終更新日：2013-10-21

平成25年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ> IV 児童生徒意識調査結果の分析

IV 児童生徒意識調査結果の分析

児童生徒意識調査結果の分析に関わる全てのグラフ

5 生活習慣等

- 読書をする時間は、学年が上がるに従って短くなっており、平成23年度からの経年で比較してもはっきりとした傾向は見られなかった。[図1]
- 普段テレビ等を視聴する時間は、平成23年度からの経年で比較をすると、小学5年、中学1年、中学2年、中学3年において2時間以上視聴している児童生徒の割合が年々低下していた。[図3]
- 普段テレビゲームを1時間以上する児童生徒の割合は、全ての学年で5割を下回っていたが、その割合は、平成23年度と比較して高くなっていた。テレビゲームをする時間が長い児童生徒ほど平均正答率は低くなっていた。[図5][図6]

ここでは、家庭での生活習慣について、読書をする時間やテレビを見る時間、ゲームをする時間といった家庭での過ごし方を平成23年度からの調査結果と比較し、分析を行った。また、平成25年度の調査結果と全教科平均正答率との関連からも分析を行った。

ア 「家や図書館で、普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)」についての経年比較(同一学年)

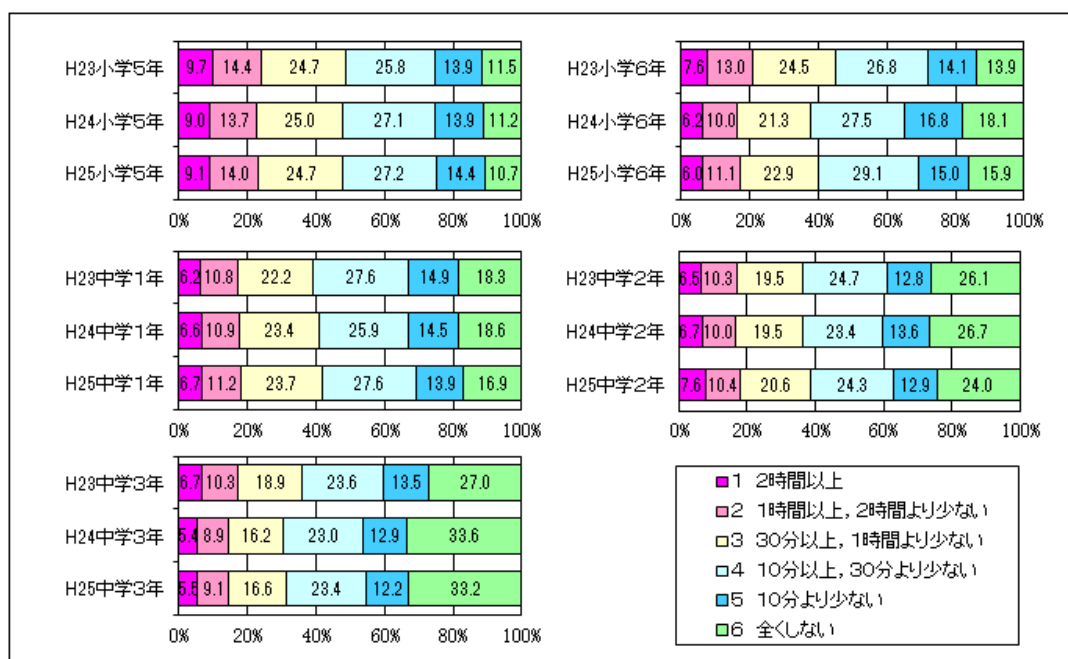


図1 「家や図書館で、普段、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか」の回答の割合の経年比較

平成25年度の調査を見ると、全ての学年において「10分以上、30分より少ない」と回答した児童生徒の割合が最も高かった。「全くしない」と回答した児童生徒の割合を見ると、学年が上がるに従ってその割合は高くなっていた。特に、中学3年においては33.2%と最も高くなっていた。平成23年度からの経年で比較すると、全ての学年においてはっきりとした傾向は見られなかったが、学年が上がるにつれて読書をする時間が減る傾向にあることには変わりなかった。[図1]

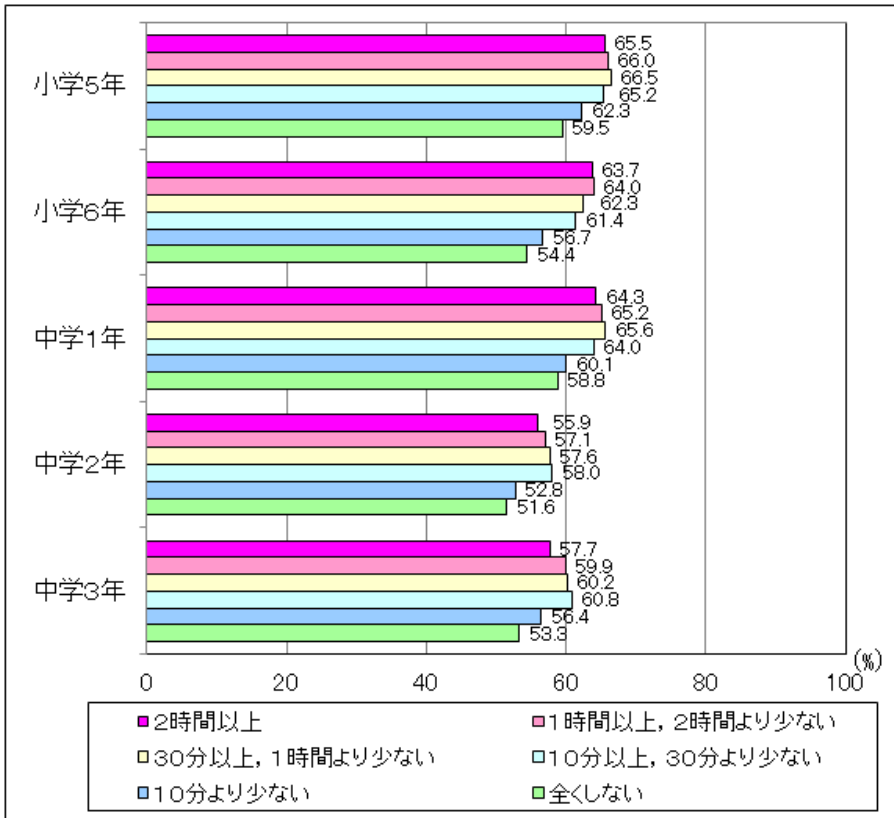


図2 「家や図書館で、普段、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか」の回答状況と全教科平均正答率(平成25年度)

回答状況と全教科平均正答率との関連を見ると、10分以上読書している児童生徒の平均正答率の方が、10分より少ない時間読書をしている、または全く読書をしていない児童生徒の平均正答率よりも高い結果となった。10分以上読書している児童生徒の平均正答率を選択肢別に見ると、はっきりとした傾向は見られなかった。[図2]

イ 「普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか」についての経年比較(同一学年)

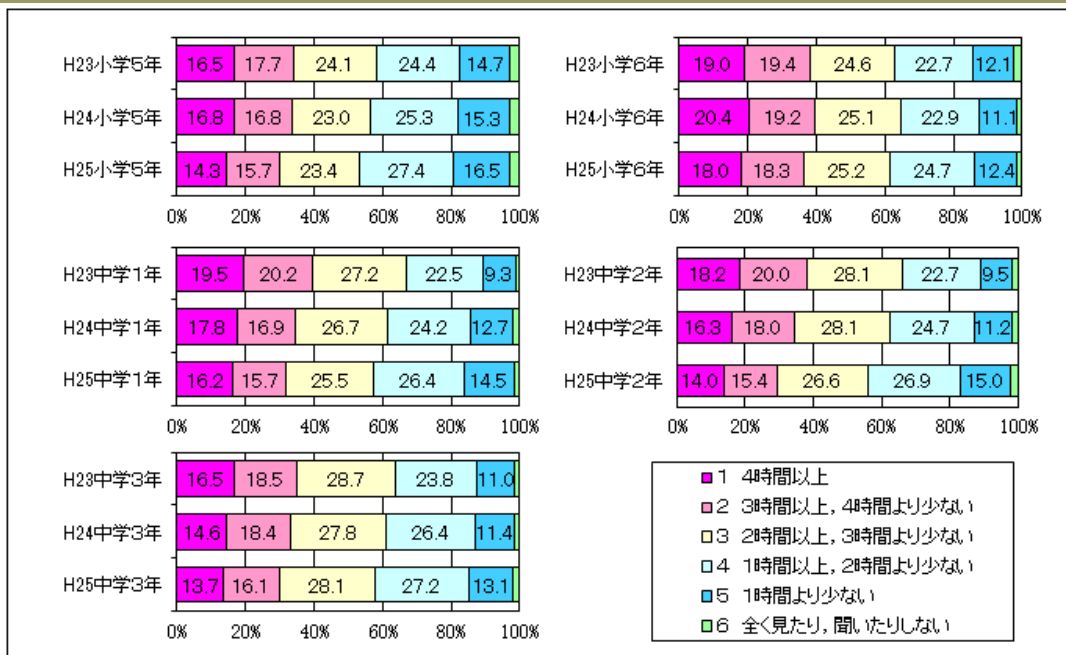


図3 「普段、1日あたりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか」の回答の割合の経年比較

平成25年度の調査結果を見ると、小学5年と中学1年、中学2年では「1時間以上、2時間より少ない」と回答した児童生徒の割合が最も高く、小学5年27.4%、中学1年26.4%、中学2年26.9%であった。小学6年と中学3年では「2時間以上、3時間より少ない」と回答した児童生徒の割合が最も高く、小学6年25.2%、中学3年28.1%であった。平成23年度からの経年で比較すると、小学5年、中学1年、中学2年、中学3年において、1時間以上テレビやビデオ、DVDを視聴している児童生徒の割合が低くなってきた。小学6年においては、1時間以上視聴している児童の割合は、平成24年度と比較して0.6ポイント下回る結果であり、2時間以上視聴している児童の割合を見ると、3年間で最も低い割合であった。[図3]

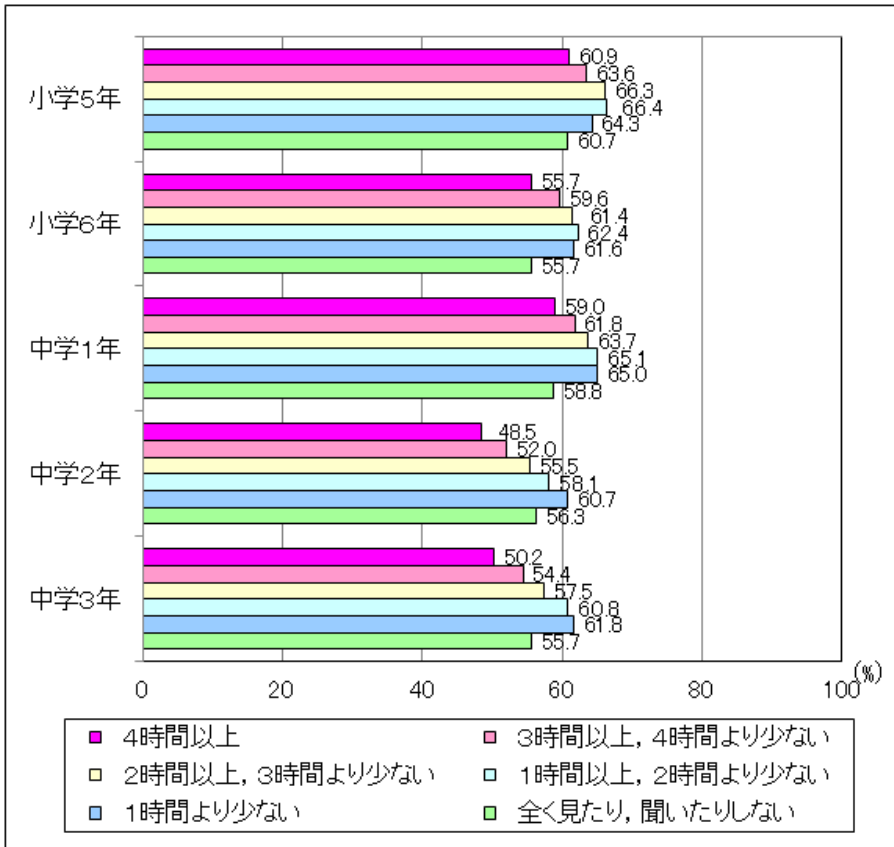


図4 「普段、1日あたりどれぐらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか」の回答状況と全教科平均正答率(平成25年度)

回答状況と全教科平均正答率との関連を見ると、小学校では、「1時間以上、2時間より少ない」と回答した児童の平均正答率が高くなっていた。中学校では、「2時間以上、3時間より少ない」と回答した生徒の平均正答率が高くなっていた。また、小学校、中学校共に、「4時間以上」「全く見たり、聞いたりしていない」と回答した児童生徒の平均正答率が低くなっていた。

[図4]

ウ 「普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲームをふくみます。)をしますか」について

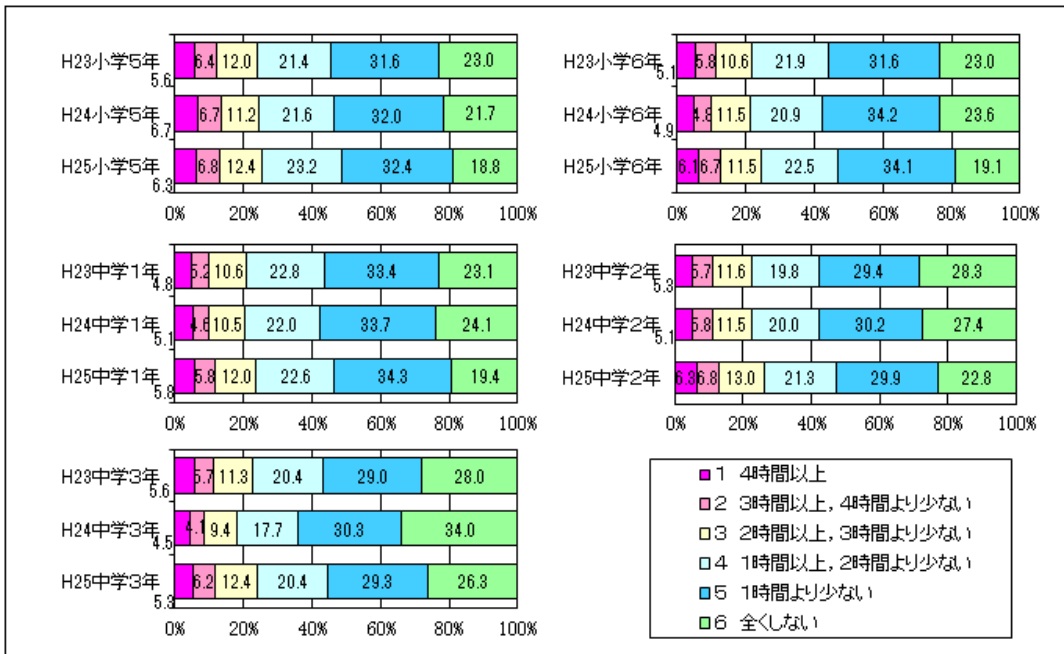


図5 「普段、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか」の回答の割合の経年比較

平成25年度の調査結果を見ると、全ての学年において「1時間より少ない」と回答している児童生徒の割合が最も高く、小学5年32.4%、小学6年34.1%、中学1年34.3%、中学2年29.9%、中学3年29.3%となっており、小学校、中学校ともに、学年が上がるとテレビゲームをする時間が減少する結果であった。同一学年において、「1時間より少ない」「全くしない」と回答した児童生徒の割合を、平成23年度からの経年で比較すると、小学5年と中学2年において徐々に低くなってきていた。小学6年と中学1年、中学3年においては、平成23年度と比べて低くなっており、3年間の中で最も低い割合であった。[図5]

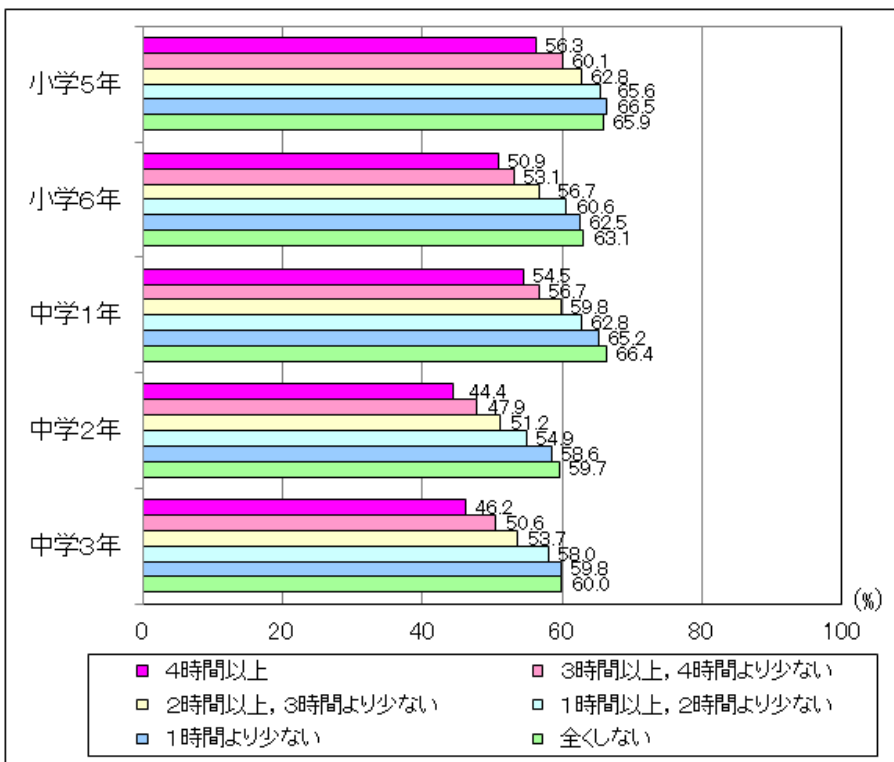


図6 「普段、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか」の回答状況と全教科平均正答率(平成25年度)

回答状況と全教科平均正答率との関連を見ると、小学5年では、「1時間より少ない」と回答した児童の平均正答率が最も高く66.5であった。他の学年では、「全くしない」と回答した児童生徒の平均正答率が最も高く、小学6年63.1、中学1年66.4、中学2年59.7、中学3年60.0であった。全ての学年においてテレビゲームをする時間が長くなるにしたがって、平均正答率は低くなっていった。[図6]

○ 今後の指導に向けて

学校、家庭、地域が一体となって読書をする習慣を

平成22年12月に国立教育政策研究所から公表された「PISA2009の課題を受けた今後の取組」の中で、「子どもの読書活動の推進」として「家庭、地域、学校における取組の一体的推進」を掲げている。そこで、学校以外での読書の時間と全教科平均正答率との関連を見てみると、10分以上読書をしている児童生徒の平均正答率の方が10分より少ない時間読書をしている児童生徒、または、全く読書をしていない児童生徒の平均正答率よりも高い正答率であった。このことから、適度な時間、読書をすることが学力の向上によい影響を与えていることがうかがえる。しかしながら、平成23年度からの経年比較を見ると、どの学年においても読書をする時間が短くなる傾向がうかがえた。家庭での読書活動については、これまでも「親子で読書」や「家読(家庭での読書)」といった家庭と連携を図った学校独自の取組を行ってきた。これからもこのような取組を継続しつつ、地域で行われる読み聞かせ活動を紹介したり、読み聞かせボランティアを活用したりするなど、家庭や地域とより一層連携を図りながら読書をする習慣を身に付けさせることが大切である。

家庭との連携を図り、計画的な過ごし方を

テレビ等を視聴する時間と全教科平均正答率との関連を見ると、「1時間以上、2時間より少ない」と回答した児童生徒の平均正答率が高くなっていた。テレビゲームをする時間については、平成23年度からの経年で見ると、1時間以上テレビゲームをしている児童生徒の割合は、3年間の中で最も低くなっていた。テレビゲームをする時間が長くなるほど、平均正答率は低くなっており4時間以上テレビゲームをしている児童生徒と全くテレビゲームをしない児童生徒の平均正答率を比べると、全ての学年で9.0ポイント以上の差があった。家庭での過ごし方についても学習と同様に、計画性をもたせる必要がある。学校外での過ごし方について計画を立てさせることで、児童生徒にこれまでの過ごし方を振り返らせると共に、家庭でのよりよい過ごし方について考えさせることも大切である。

最終更新日: 2013-10-21

平成25年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ> IV 教師意識調査結果の分析

教師意識調査結果の分析

[教師意識調査の全てのグラフ\(Ⅱ 教師像共通グラフへ\)](#)

1 教科全般における指導法の工夫

- 小学校、中学校共に、レポートや作文、発表や話し合いなどの言語活動を取り入れる教師の割合が高くなってきている。[図1、図3]
- 小学校、中学校共に、日常の授業や指導などにおいてPDCAサイクルを意識し、単元における学習目標や評価基準を明確にしたり、目標を達成するために必要な教材や学習活動を指導計画に取り入れたりしている教師の割合が高くなってきている。[図5、図6]

ここでは、教科全般における指導法の工夫について、書いて表現する活動を取り入れた授業、考えを交流する活動を取り入れた授業、指導と評価を一体とした授業、PDCAサイクルを踏まえた実践の実施状況について分析する。

なお、学校スコアによるグループ比較においては、小学校、中学校の最高学年である小学6年生と中学3年生の結果を基に比較することとする。

ア 「レポートや作文など書いて表現する活動を取り入れた授業を行っていますか」について

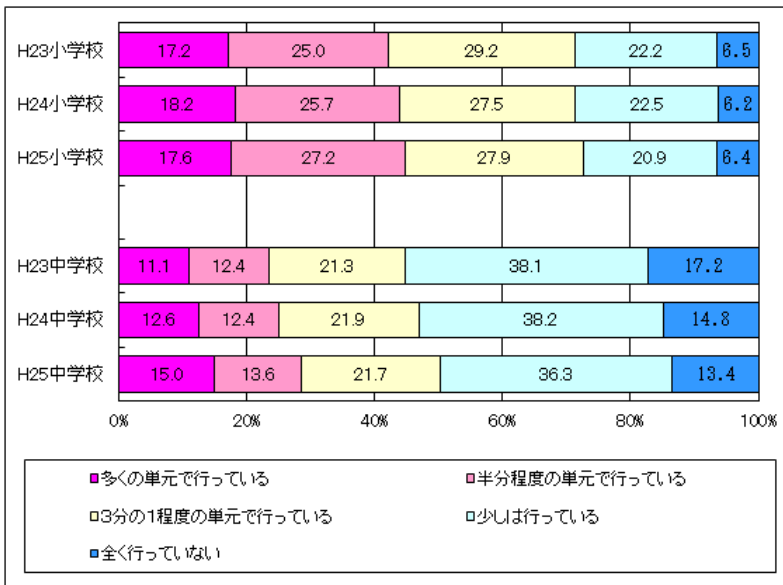


図1 「レポートや作文など書いて表現する活動を取り入れた授業を行っていますか」の回答の割合(経年比較)

平成25年度の結果を見ると、「多くの単元で行っている」「半分程度の単元で行っている」と回答した小学校教師の割合は44.8%であり、同じ回答をした中学校教師の割合は28.6%である。

経年で比較すると、小学校、中学校共に、「多くの単元で行っている」「半分程度の単元で行っている」と回答した教師の割合は増加している。特に、中学校においては「多くの単元で行っている」と回答した教師の割合が、平成23年度から平成25年度にかけて5.1ポイント増加している。[図1]

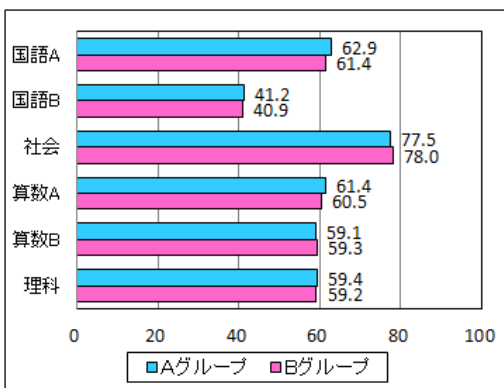


図2-1 書いて表現する活動を取り入れた授業の頻度と教科別平均正答率(小学6年生)

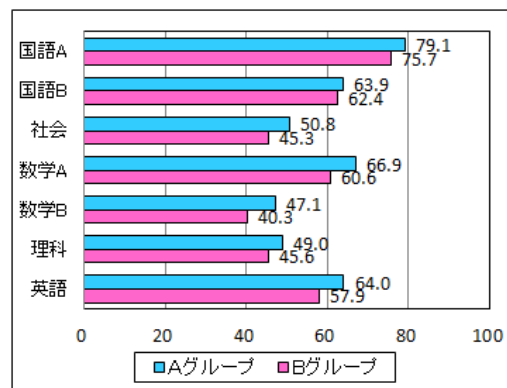


図2-2 書いて表現する活動を取り入れた授業の頻度と教科別平均正答率(中学3年生)

この設問においてAグループとBグループの教科別平均正答率を比較すると、小学校では、6教科中4教科においてAグループの平均正答率がBグループの平均正答率よりも高くなっている。中学校では、全ての教科においてAグループの平均正答率が高くなっている。特に、中学校では、数学A・数学Bと英語においては、6.0ポイント以上回る結果となった。[図2-1][図2-2]

イ 「発表や話し合い活動など表現し、考えを広げたり深めたりする活動を取り入れた授業を行っていますか」について

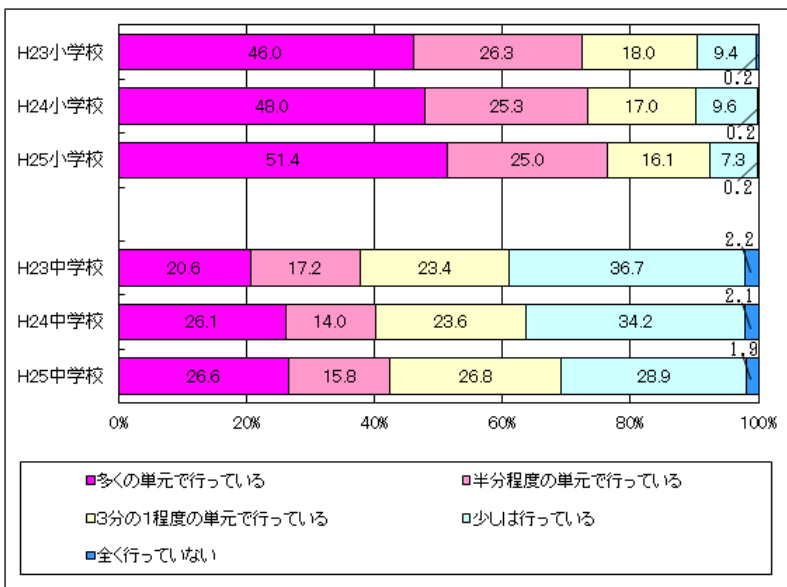


図3 「発表や話し合い活動など表現し、考えを広げたり深めたりする活動を取り入れた授業を行っていますか」の回答の割合(経年比較)

平成25年度の結果を見ると、「多くの単元で行っている」「半分程度の単元で行っている」と回答をした小学校教師の割合は76.4%である。これに対し、同じ回答をした中学校教師の割合は42.4%である。

経年で比較すると、小学校、中学校共に、「多くの単元で行っている」「半分程度の単元で行っている」と回答した教師の割合は増加している。特に、中学校においては、「多くの単元で行っている」と回答した教師の割合は、平成23年度から平成25年度にかけて、6.0ポイント増加している。小学校、中学校共に学習活動において、発表や話し合い活動などの言語活動の場を設定する傾向がある。【図3】

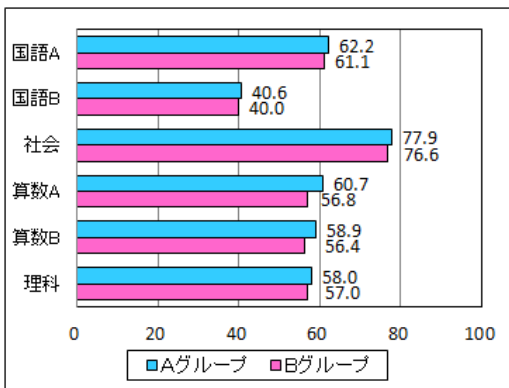


図4-1 考えを交流する活動を取り入れた授業を行っている頻度と教科別平均正答率 (小学6年生)

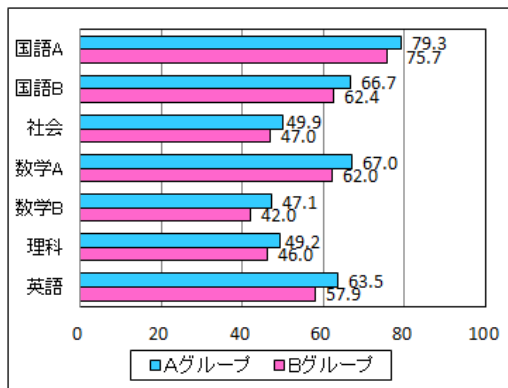


図4-2 考えを交流する活動を取り入れた授業を行っている頻度と教科別平均正答率 (中学3年生)

この設問においてAグループとBグループの教科別平均正答率を比較すると、小学校、中学校ともに、全ての教科においてAグループの平均正答率が高くなっている。【図4-1】【図4-2】

ウ 「単元における学習目標や評価規準を明確にした上で、その目標を達成するために必要な教材や学習活動を指導計画に取り入れて指導を行っていますか」について

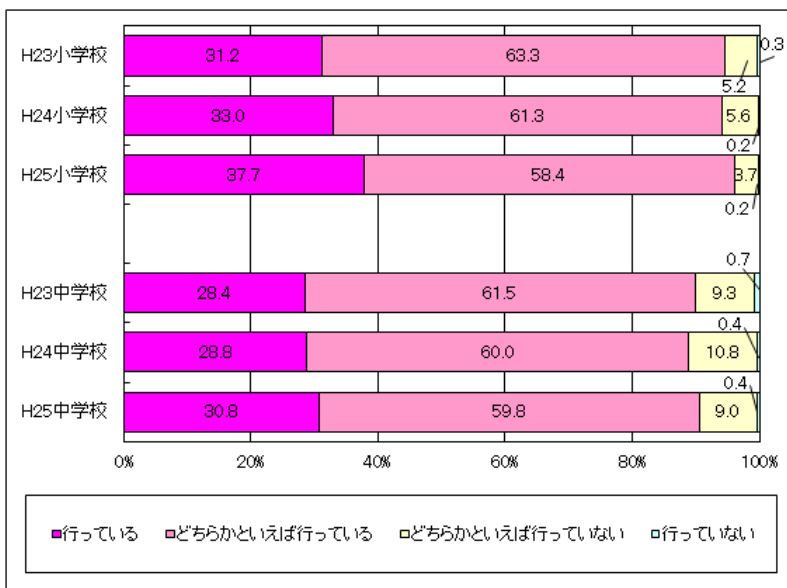


図5 「単元における学習目標や評価規準を明確にした上で、その目標を達成するために必要な教材や学習活動を指導計画に取り入れて指導を行っていますか」の回答の割合(経年比較)

平成25年度の結果を見ると、「多くの単元で行っている」「半分程度の単元で行っている」と回答をした小学校教師の割合は96.1%であり、同じ回答をした中学校教師の割合は90.6%である。

経年で比較すると、小学校、中学校共に、「多くの単元で行っている」と回答した教師の割合が増加している。[図5]

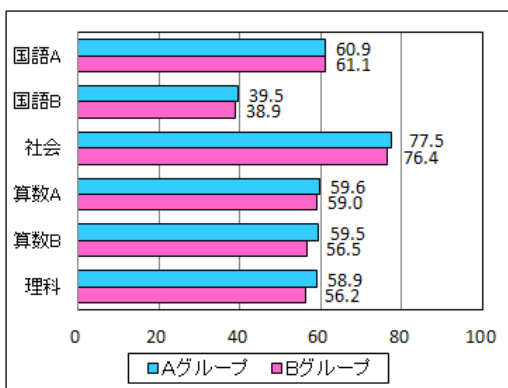


図6-1 指導と評価を一体とした授業の頻度と教科別平均正答率(小学6年生)

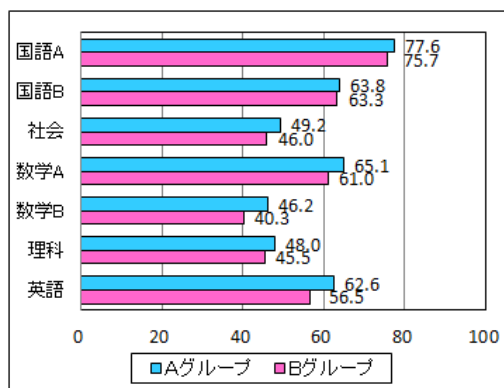


図6-2 指導と評価を一体とした授業の頻度と教科別平均正答率(中学3年生)

この設問においてAグループとBグループの教科別平均正答率を比較すると、小学校では、6教科中5教科でAグループの平均正答率が高くなっている。中学校では、全ての教科においてAグループの平均正答率が高くなっている。[図6-1][図6-2]

エ 「日常の授業や単元等の指導、学校における教育活動において、PDCAサイクル(計画→実施→評価→改善)を踏まえた実践を行っていますか」について

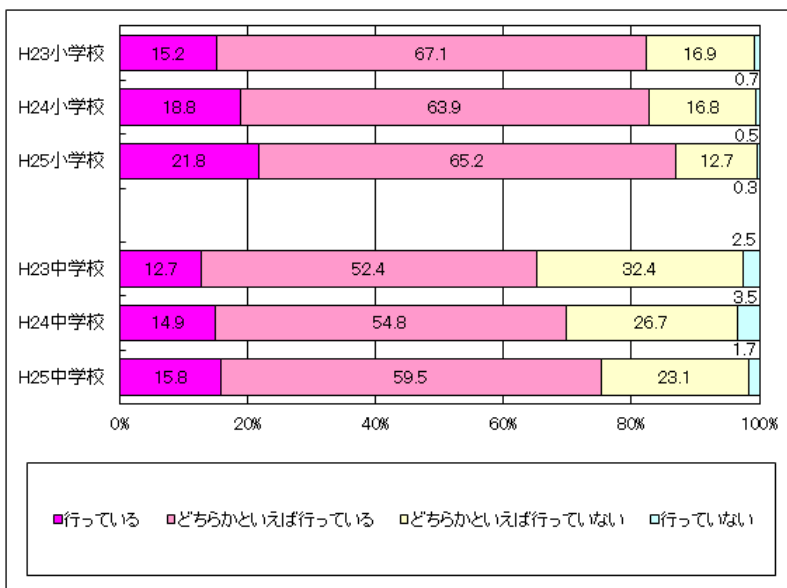


図7 「日常の授業や単元等の指導、学校における教育活動において、PDCAサイクル(計画→実施→評価→改善)を踏まえた実践を行っていますか」の回答の割合(経年比較)

平成25年度の結果を見ると、「行っている」「どちらかといえば行っている」と回答した小学校教師の割合は87.0%であり、同じ回答をした中学校教師の割合は75.3%である。

経年で比較すると、小学校、中学校共に、「行っている」「どちらかといえば行っている」と回答した教師の割合が増加する傾向が見られる。

[図7]

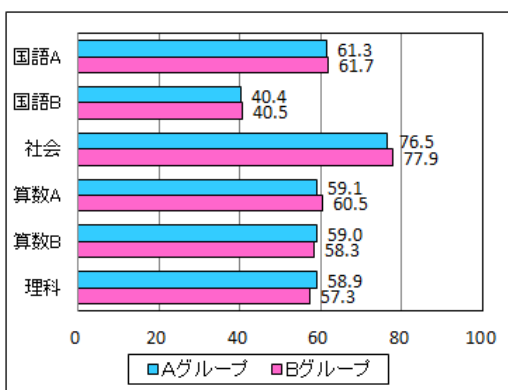


図8-1 PDCAサイクルを踏まえた実践をしている頻度と教科別平均正答率(小学6年生)

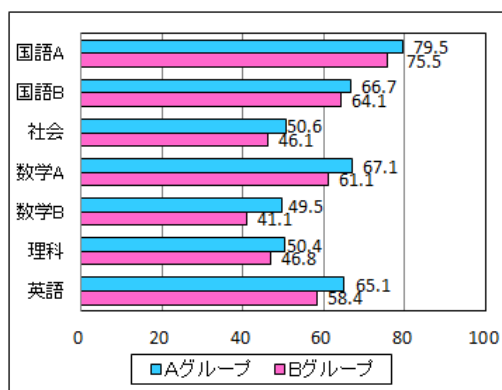


図8-2 PDCAサイクルを踏まえた実践をしている頻度と教科別平均正答率(中学3年生)

この設問においてAグループとBグループの教科別平均正答率を比較すると、小学校では、大きな違いは見られない。中学校では、全ての教科においてAグループの平均正答率が高くなっている。特に、中学校では、数学A・数学Bと英語においては、6.0ポイント以上回る結果となった。[図8-1][図8-2]

○ これからの指導に向けて

PDCAサイクルを踏まえた指導と評価の一体化

今回の調査結果から、各教科の指導に当たって、PDCAサイクルを踏まえた指導と評価の一体化が、学力の定着と向上に効果的であることがうかがえた。指導と評価の一体化によって、学習指導のねらいを明確にし、授業実践、学習評価をすることで、児童生徒一人一人の学習状況を把握でき、その後の指導の工夫、改善や個に応じた指導の充実が図られたからだと考える。

まず、指導計画の作成においては、生徒に身に付けさせたい学習内容から学習目標を設定することが重要である。また、学習目標の設定とともに、学習目標の到達度を評価するための評価規準の設定や評価規準に対応した評価方法・評価基準を準備しておくことで、評価方法の妥当性、信頼性が高まり、授業実践においても指導と評価を着実に実施することができるものと考えられる。

次に、作成した指導計画に基づく授業実践においては、学習目標を達成するために必要な教材を選択したり、学習活動を取り入れたりして授業を展開することが重要である。学習活動については、今回の調査結果から、レポートや作文、発表、話し合いなどの言語活動を充実させることが、効果的であることが読み取れた。言語活動を充実させることで、基礎的・基本的な知識及び技能の定着や思考力・判断力・表現力の育成が図られるからだと考えられる。

そして、学習評価については、児童生徒の学習意欲を喚起する視点から、学習の成果だけでなく学習の過程を一層重視していくことが大切である。児童生徒のよさや進歩の状況などを積極的に評価し、児童生徒がどれだけ成長したかを評価していくことが大切である。また、評価方法については、観察、ノート、ワークシート、作品、ペーパーテストなど様々な方法が考えられるが、評価の観点や評価の場面などにおいて児童生徒の学習状況を的確に評価できる方法を選択していくことが重要である。

最後に、児童生徒の学習評価の結果は、一人一人の学習状況を把握するだけでなく、児童生徒の形成的な評価として、評価後の指導に役立てることが、児童生徒の更なる学力の定着と向上につながることも重要である。また、指導の改善や工夫に生かし、教師が指導の過程や評価方法を見直すことにより、更に効果的な指導が行えるように、工夫や改善を図らなければならない。

最終更新日:2013-10-21

平成25年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

[Web報告書もくじ](#) > IV 教師意識調査結果の分析

教師意識調査結果の分析

[教師意識調査の全てのグラフ\(Ⅱ 教師像共通グラフへ\)](#)

2 学習環境の活用

- ICT機器を授業で活用する頻度は、小学校の方が中学校に比べて高いことがうかがえた。[図1]
- 授業においてICT機器を活用している場面には、小学校と中学校とで共通点が見られた。[図2-1][図2-2]
- 学校図書館を授業で活用する頻度は、小中学校に違いが見られた。[図3]

この節では、授業におけるICT機器と学校図書館の活用頻度や活用場面について分析する。
なお、学校図書館を活用した授業については、経年比較をし、分析する。

ア 「ICT機器を活用した授業を行っていますか(本調査におけるICT機器とは、コンピュータ、プロジェクター、電子黒板、実物投影機、書画カメラ、タブレットPC、デジタルビデオカメラなどを指します)」について

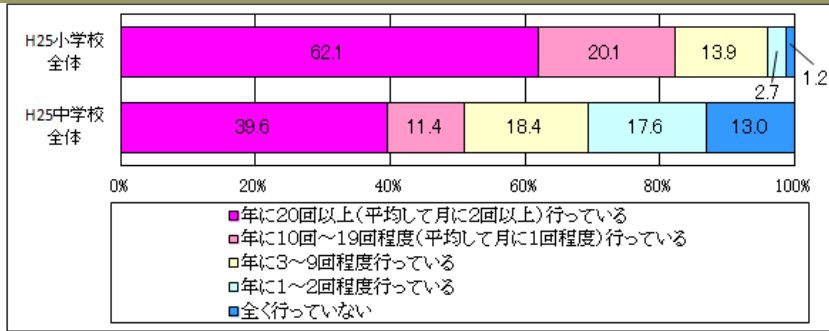


図1 ICT機器を活用した授業を行っている割合

平成25年度の結果を見てみると、「年に20回以上(平均して月に2回以上)行っている」「年に10回から19回程度(平均して月1回程度)行っている」と回答をした小学校教師の割合は、82.2%であり、同じ回答をした中学校教師の割合は51.0%である。これに対し、「年に1～2回程度行っている」「全く行っていない」と回答した小学校教師の割合は、3.9%であり、同じ回答をした中学校教師の割合は30.6%である。このことから、中学校では、小学校と比べて、ICT機器を活用した授業があまり行われていない傾向が見られる。[図1]

イ 「ICT機器を授業のどのような場面で活用していますか(複数回答可)」について

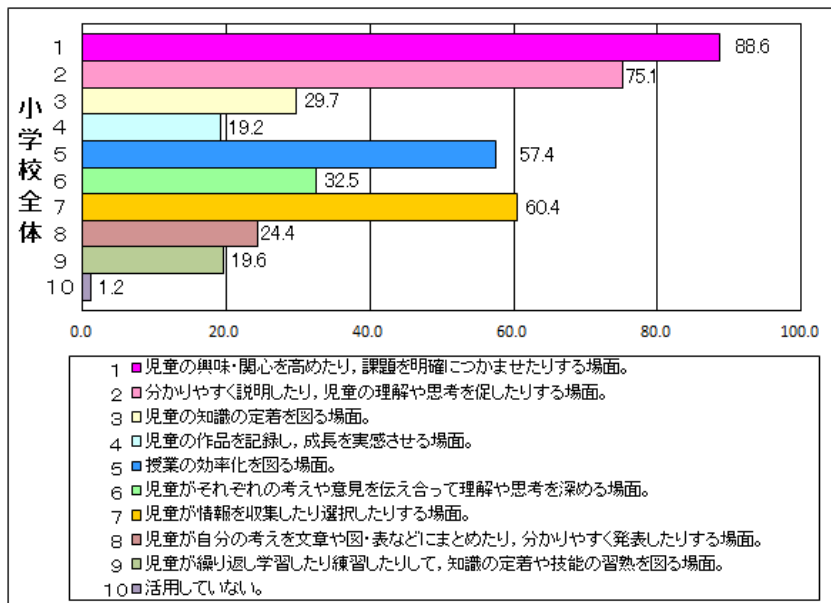


図2-1 「ICT機器を授業のどのような場面で活用していますか(複数回答可)」の回答の割合

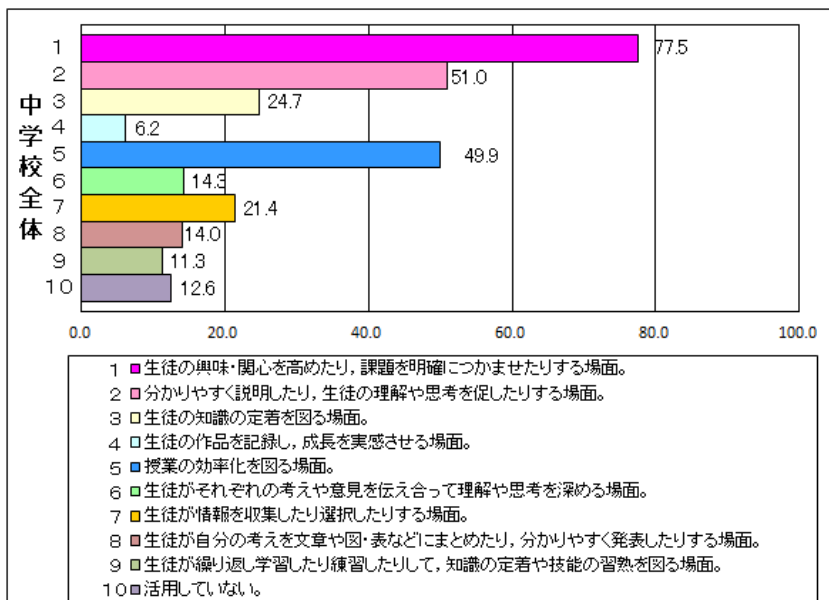


図2-2 「ICT機器を授業のどのような場面で活用していますか(複数回答可)」の回答の割合

小学校と中学校の両方とも、ICT機器を活用する頻度が最も多い場面は、「児童・生徒の興味・関心を高めたり、課題を明確につかませたりする場面」であり、次に頻度が高いのは、「分かりやすく説明したり、児童・生徒の理解や思考を促したりする場面」であった。また、授業でICT機器を活用していると回答したものの中では、小学校・中学校ともに「児童・生徒の作品を記録し、成長を実感させる場面」でICT機器を活用する割合が最も少なかった。[図2-1、図2-2]

ウ 「学校図書館を活用した授業を行っていますか」について

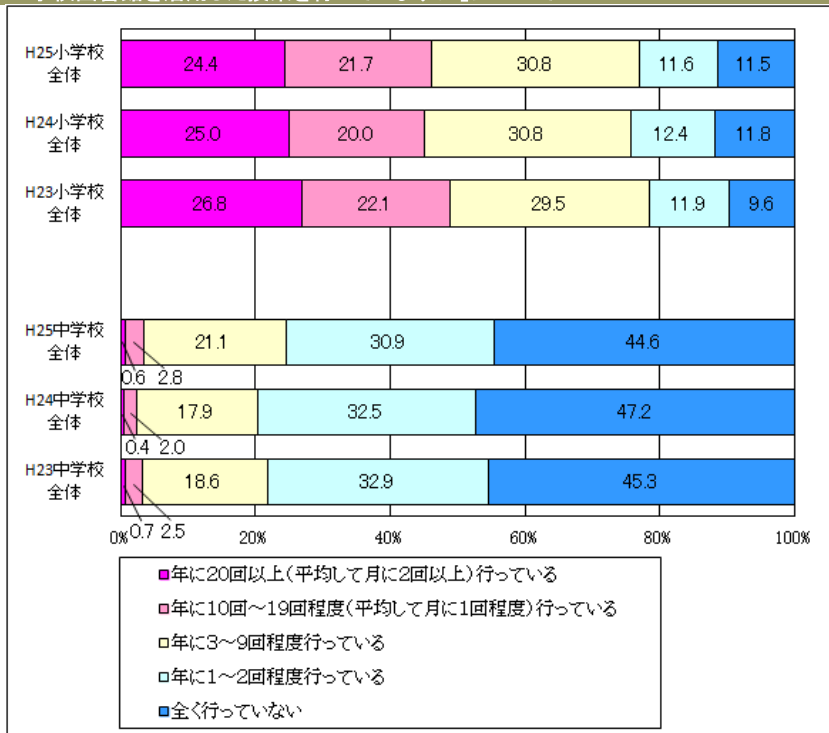


図3 「学校図書館を活用した授業を行っていますか」の回答の割合(経年比較)

平成25年度の結果を見てみると、「年に20回以上(平均して月に2回以上)行っている」「年に10回から19回程度(平均して月1回程度)行っている」と回答した小学校教師の割合は、46.1%であり、同じ回答をした中学校教師の割合は3.4%である。これに対し、「年に1～2回程度行っている」「全く行っていない」と回答した小学校教師の割合は、23.1%であり、同じ回答をした中学校教師の割合は75.5%である。このことから、中学校では、小学校と比べて、学校図書館を活用した授業があまり行われていない傾向が見られる。平成23年度、平成24年度の結果を見てみると、同様の傾向が見られる。小学校、中学校共に、学校図書館を活用した授業に対する教師の意識に大きな変化は見られない。[図3]

エ 「授業では、学校図書館を主にどのように活用していますか」について

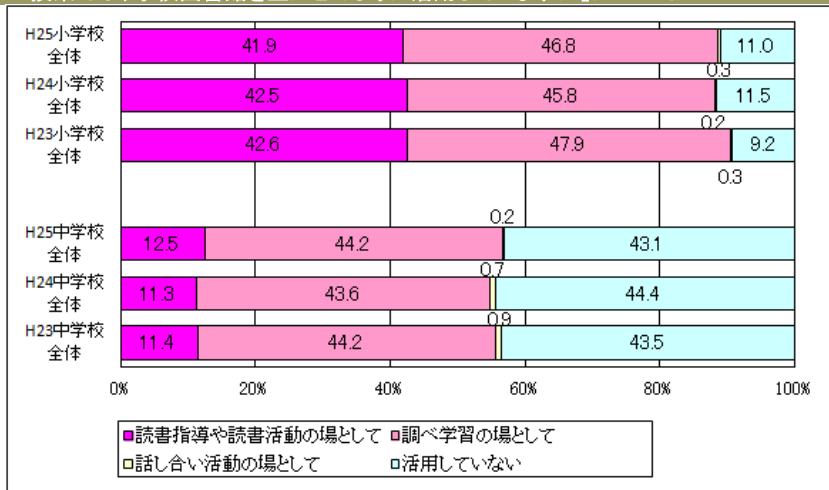


図4 「学校図書館を活用した授業を行っていますか」の回答の割合(経年比較)

平成25年度の結果を見てみると、学校図書館を活用していると回答した教師の中では、小学校、中学校共に「調べ学習の場として」と回答した教師の割合が46.8%、44.2%と最も高くなっている。次いで、小学校、中学校共に「読書指導や読書活動の場として」と回答した教師の割合が41.9%、12.5%となっている。平成23年度、平成24年度の結果を見てみると、同様の傾向が見られる。このことから、小学校、中学校共に、平成23年度から平成25年度にかけて、授業において学校図書館を活用する場面に対する教師の意識に大きな変化は見られない。[図4]

○ これからの指導に向けて

ICT機器や学校図書館を活用した授業づくりを

平成24年度同様、平成25年度佐賀県教育の基本方針において、ICT利活用教育の推進が掲げられている。ICT機器は、コンピュータ教室だけではなく、普通教室や特別教室、学校図書館、体育館など様々な場所で活用できる。ICT機器には、コンピュータ、プロジェクター、電子黒板、実物投影機、書画カメラ、タブレットPC、デジタルビデオカメラなどが含まれ、その特性に応じた活用をする必要がある。文部科学省が作成した、『学力向上 ICT活用指導ハンドブック』(委嘱：一般財団法人コンピュータ教育開発センター)で述べられているICT機器を活用する主な利点は次の通りである。

- ①写真や図表を大きく提示して指示を明確にすることができる
- ②見せながら話して、分かりやすく説明やまとめをすることができる
- ③身近に感じる教材を使って関心や意欲を高めることができる
- ④学習教材やソフトウェアで知識や技能を定着することができる
- ⑤インターネットを使って最新情報を収集したり、その便利な機能を利用したりすることができる[※1]

学校図書館の機能には、主に児童生徒の「読書センター」としての機能と、児童生徒の「学習・情報センター」としての機能の2点が挙げられる。特に、「学習・情報センター」としての機能については、以下の4点の充実を図ることでその効果を高めることができると考える。

- ①学校図書館で、図書やその他の資料を使って授業を行うなど、教科等の日常的な指導において活用される。
- ②教室での授業で学んだことを確かめ、広げ、深める、資料を集めて、読み取り、自分の考えをまとめて発表するなど、児童生徒の主体的な学習活動を支援する。
- ③図書や新聞、インターネット等のデジタル情報など多様なメディアを提供して、資料の探し方・集め方・選び方や記録の取り方、比較検討、情報のまとめ方等を学ばせる授業の展開に寄与する。更に、司書教諭によるこれらメディアを活用した利用指導等の取組を通じ、情報活用能力を高めるための授業を自ら企画・実施する。利用指導等の取組を通じ、情報の探し方・資料の使い方を教える。
- ④児童生徒が学習に使用する資料や、児童生徒による学習の成果物などを蓄積し、活用できるようにする。[※2]

以上のことから、ICT機器や学校図書館を有効に活用した授業づくりを推進していくことで、児童生徒の意欲的な学習活動を支援するとともに、各教科における知識・理解の定着、思考力・判断力・表現力等の向上、また、情報の収集・選択・活用能力の向上を図ることが大切である。

《参考文献》

- ※1 一般財団法人コンピュータ教育開発センター 『学力向上 ICT指導ハンドブック』 平成20年
<http://www.cec.or.jp/monbu/report/handbook.pdf>

《引用文献》

- ※2 子どもの読書サポーターズ会議 『これからの学校図書館の活用の在り方等について(報告)』 平成21年3月
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/dokusho/meeting/_icsFiles/afieldfile/2009/05/08/1236373_1.pdf

最終更新日：2013-10-21

平成25年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ>IV 教師意識調査結果の分析

教師意識調査結果の分析

教師意識調査の全てのグラフ(II 教師像共通グラフへ)

3 家庭学習への関与状況

- 宿題の出し方について共通理解を図ることが、児童生徒の学力向上により影響を与えることがうかがえた。[図2-1][図2-2]
- 出した宿題に対して評価し、必要に応じて指導していく方が、児童生徒の学力向上につながるがうかがえた。[図4-1][図4-2]

ここでは、家庭学習への関与の状況を、職員間での共通理解と、宿題提出後の評価及び指導の状況から分析する。なお、学校スコアによるグループ比較においては、小学校、中学校の最高学年である小学6年生と中学3年生の結果を基に比較することとする。

ア 「宿題の出し方について、校内の教職員で共通理解を図っていますか」について

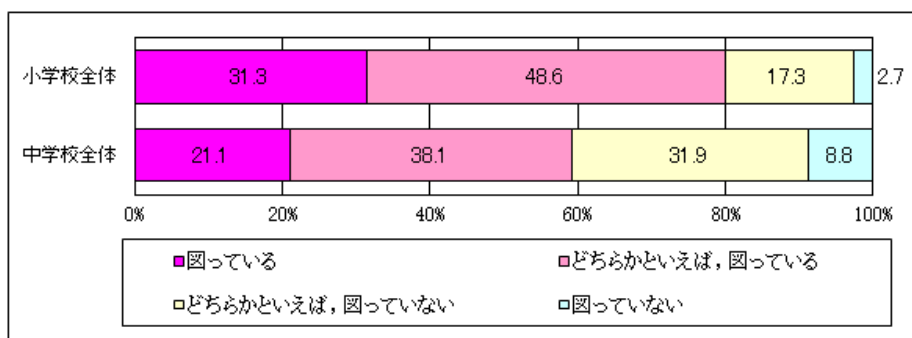


図1 「宿題の出し方について、校内の教職員で共通理解を図っていますか」の回答の割合

「図っている」「どちらかといえば、図っている」と回答した小学校教師の割合は79.9%、中学校教師の割合は59.2%であった。小学校の方が中学校に比べて共通理解を図っている割合が高い。[図1]

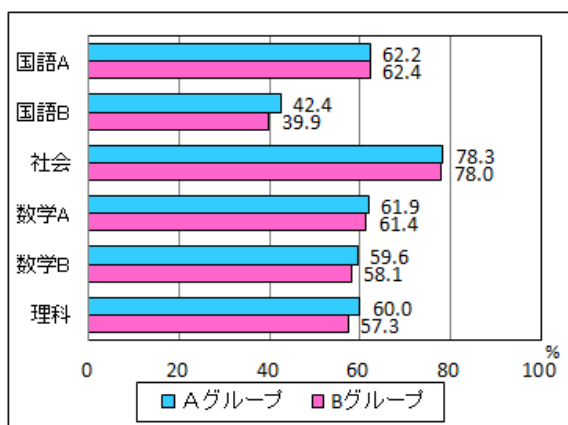


図2-1 宿題の出し方に対する共通理解と教科別平均正答率(小学6年生)

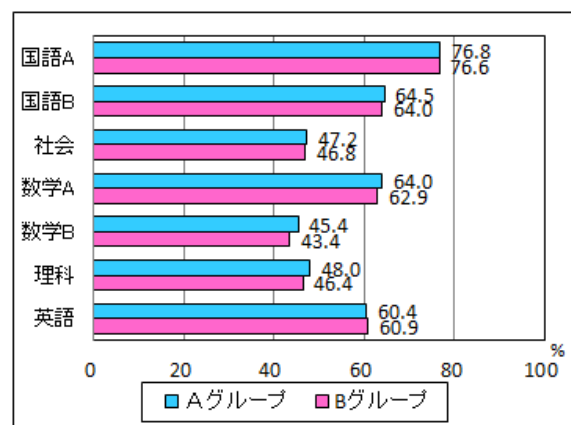


図2-2 宿題の出し方に対する共通理解と教科別平均正答率(中学3年生)

この設問においてAグループとBグループの教科別平均正答率を比較すると、小学校、中学校共に明らかな特徴は見られないものの、小学校においては全ての教科で、中学校においても7教科中5教科においてAグループが高い結果となった。宿題の出し方について教職員間で共通理解を図っている学校ほど、平均正答率が高くなる傾向が見られた。[図2-1][図2-2]

イ 「児童・生徒に出した宿題について、評価・指導を行い返却していますか」について

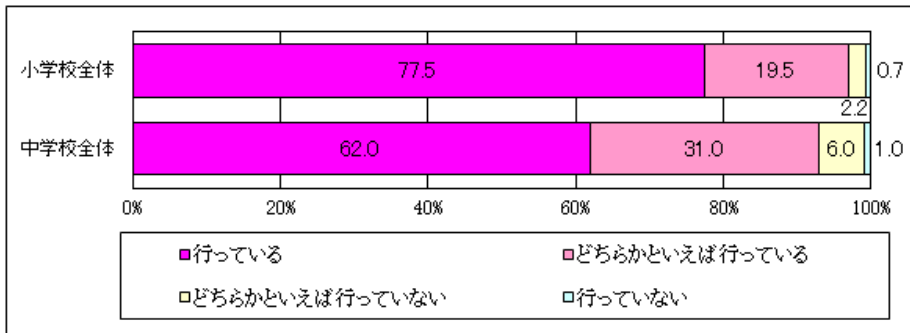


図3 「児童・生徒に出した宿題について、評価・指導を行い返却していますか」の回答の割合

「行っている」「どちらかといえば、行っている」と回答した小学校教師の割合は97.0%、中学校教師の割合は93.0%であった。小学校、中学校共に9割を上回る結果であった。出した宿題に対する評価・指導への意識の高さがうかがえる。【図3】

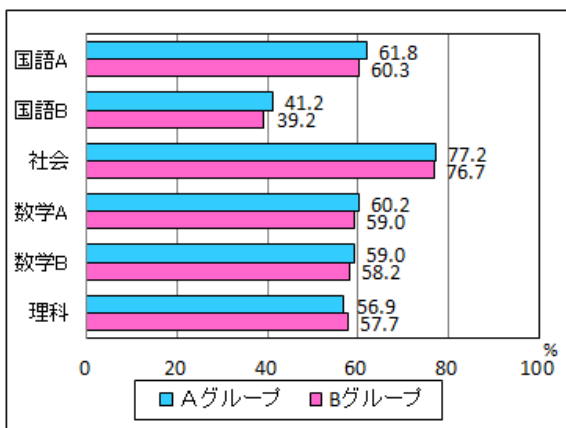


図4-1 出した宿題に対する評価・指導と教科別平均正答率(小学6年生)

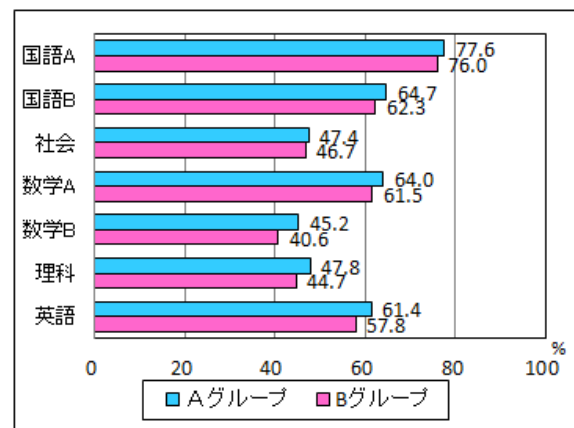


図4-2 出した宿題に対する評価・指導と教科別平均正答率(中学3年生)

この設問においてAグループとBグループの教科別平均正答率を比較すると、小学校では6教科中5教科において、中学校では全ての教科においてAグループが上回っていた。特に、中学校の数学Bで4.6ポイント高くなっていた。【図4-1】【図4-2】

○ これからの指導に向けて

家庭学習の充実を図るために、教職員間の共通理解と宿題への評価と指導を

家庭学習の充実は、学力の向上を図るためにも大切であり、家庭との連携が必要となってくる。そのため、学校によっては、学校独自に家庭学習に対する手引きを作成し、家庭学習の重要性や家庭での学習方法などについて示している。手引きに示されている内容について教職員間で共通理解を図ることはもちろんのこと、宿題の出し方や内容等についても、小学校では学年間、中学校では教科担当間で共通理解を図っていくことが大切となってくる。例えば、宿題の出し方や内容については、教科のスキルの内容だけでなく、思考や判断、表現を伴う内容の宿題も合わせて出すなど、学校で課題となる内容をどのように出していくかについて共通理解を図ることで、一部の取組とせず、学年、または教科の取組としていくことが大切である。

また、宿題については、評価とそれに対する指導が必要となる。宿題を評価し指導して返却する割合が高い学校ほど正答率は高くなっていた。このことから宿題については評価し、内容の定着が不十分であれば、それに応じて適切な指導を行うことが望ましいと言える。しかしながら、教師が宿題の評価をしていく時間も限られており、十分な評価をしていくことができない状況も考えられる。そのような場合は、担任と教科担当者や級外とで連携を図りながら評価と指導に当たったり、児童生徒に自己評価をさせた後に提出させたりするなどの工夫をしていくことが考えられる。また、宿題の採点についてボランティアを募り、その方々に依頼することが考えられる。ボランティアの方と連携を図りながら、児童生徒の宿題の取組状況や学習した内容の定着状況を把握していくことも有効な方法と考えられる。

最終更新日：2013-10-21

平成25年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ>IV 教師意識調査結果の分析

教師意識調査結果の分析

教師意識調査の全てのグラフ(II 教師像共通グラフへ)

4 学校組織マネジメントに対する意識

- 教育活動の具体的な内容について共通理解が図られていると回答したり、気軽に話し合える雰囲気があると回答したりした教師の割合は増加する傾向が見られた。[図1、図3]
- 教師の目的の共有化と教師間の連携や協力体制が充実している学校ほど、正答率が高くなる傾向がみられた。[図2-1、図2-2、図4-1、図4-2]

ここでは、学校組織マネジメントに対する意識について、教育活動方針の理解、方針や内容についての共通理解、職員間の雰囲気の状況から分析する。

なお、学校スコアによるグループ比較においては、小学校5年生と中学2年生の結果を基に考察することとする。

ア 「あなたは、学力向上や生徒指導など教育活動の具体的な内容についての学校の方針を理解していますか」について

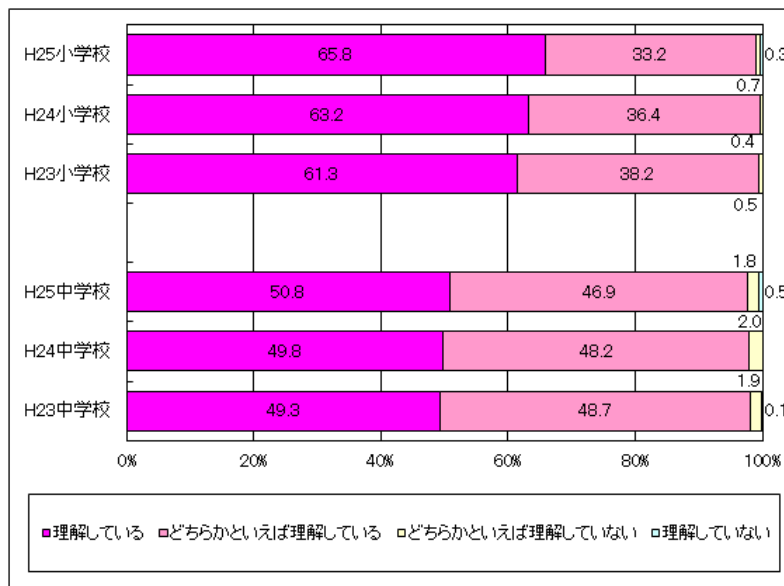


図1 学力向上や生徒指導など学校方針を理解している割合(経年比較)

平成25年度の調査結果において、学力向上や生徒指導など教育活動の具体的な学校方針について「理解している」「どちらかといえば理解している」と回答した教師に割合は、小学校が99.0%、中学校が97.7%であった。小学校と中学校を比較してみると、「理解している」と回答した割合は中学校が小学校より15ポイント上回っている。経年比較で見ると、「理解している」と回答した教師の割合は小学校、中学校共に増加している。[図1]

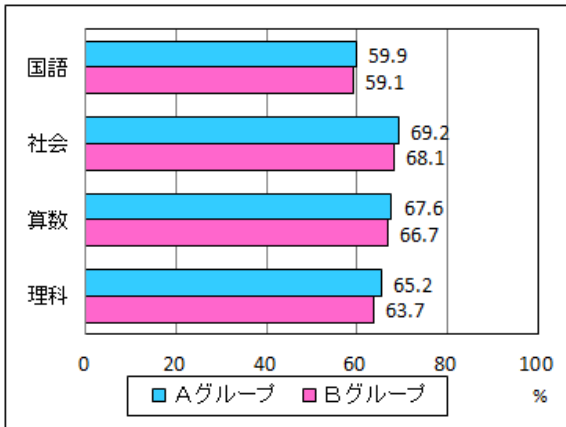


図2-1 学力向上や生徒指導など学校の方針に対する理解度と教科別平均正答率(小学5年生)

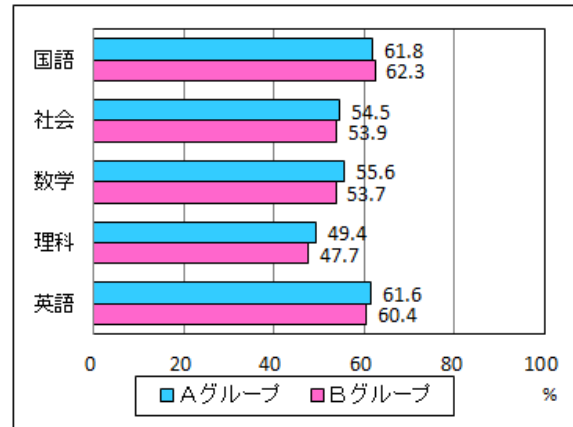


図2-2 学力向上や生徒指導など学校の方針に対する理解度と教科別平均正答率(中学2年生)

この設問で、**Aグループ**と**Bグループ**の教科別平均正答率を比較すると、小学校においては、Aグループが全ての教科においてBグループの平均正答率を上回っている。中学校においては、Aグループの社会、数学、理科、英語の4教科がBグループの平均正答率を上回っている。[[図2-1](#)][[図2-2](#)]

イ「あなたの学校では、教育活動の方針や具体的な内容について、学校全体で共通理解が図られていると思いますか」について

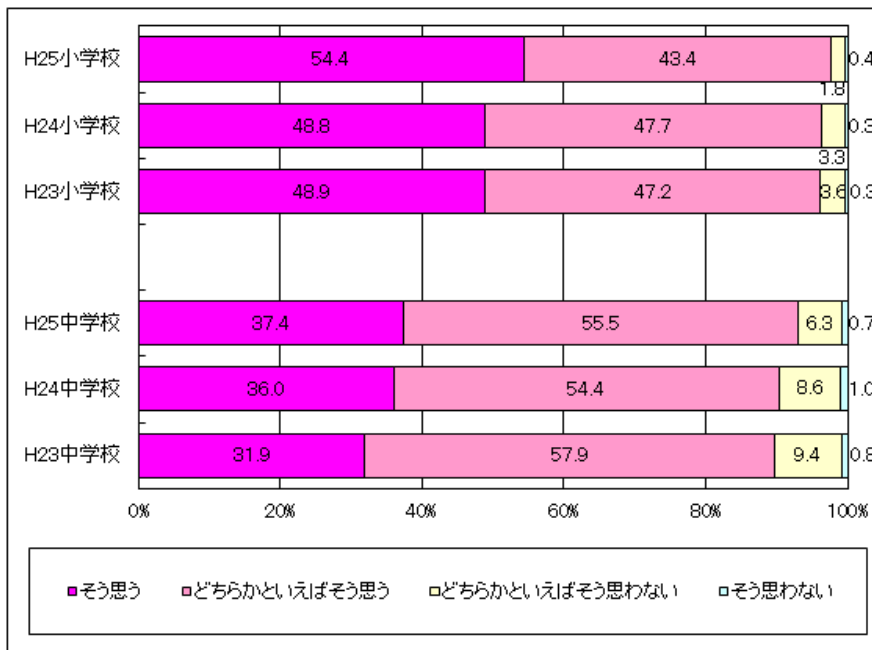


図3 教育活動の方針や具体的な内容についての共通理解が図られている割合(経年比較)

平成25年度の調査結果によると、学校全体で共通理解が図られているかについて「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した教師の割合は、小学校が97.8%、中学校が92.9%であった。小学校と中学校を比較してみると、「そう思う」と回答した割合は、小学校が中学校を17.0ポイント上回っている。経年比較でみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、平成23年度から年々増加している。[図3]

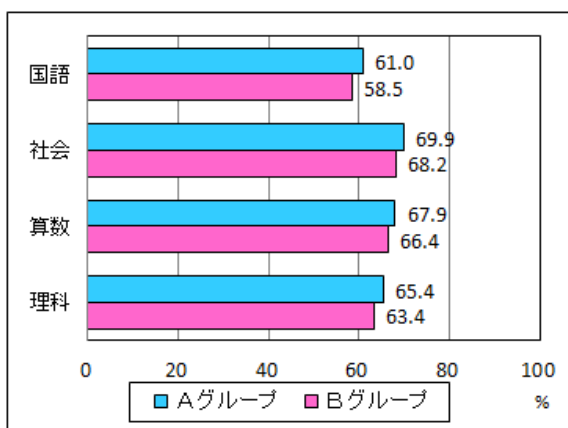


図4-1 学力向上や生徒指導など学校の方針に対する理解度と教科別平均正答率(小学5年生)

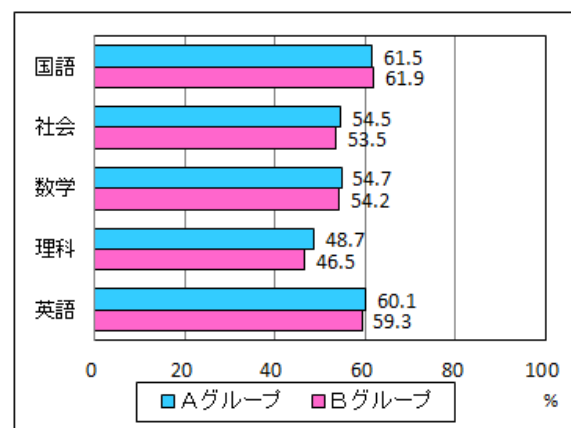


図4-2 学力向上や生徒指導など学校の方針に対する理解度と教科別平均正答率(中学2年生)

この設問で、AグループとBグループの教科別平均正答率を比較すると、小学校においては、Aグループが全ての教科でBグループの平均正答率を上回っている。中学校においては、Aグループの社会、数学、理科、英語でBグループの平均正答率を上回っている。[図4-1][図4-2]

○ これからの指導に向けて

学校組織マネジメントに対する意識との関連

学力向上や生徒指導などの指導に当たる場合は、学校全体で指導の具体的な内容について共通理解を図ることが大切である。今回の調査から見ても、教師の目的の共有化と教師間の連携や協力体制が充実している学校ほど、正答率が高くなる傾向であった。今後、小学校、中学校共に学校組織マネジメントを充実させ、学力向上や生徒指導の具体的な内容について共通理解を図り、1つの目的に向かって全教師が共通した指導を行うことができるようにしたいと考える。

最終更新日:2013-10-21

平成25年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

[Web報告書もくじ](#) > V まとめ

V まとめ ～「2つの課題」の改善へ向けて～

1 学習指導要領における「言語活動の充実」について

今、私たちが生きる社会は、数年先のことが予測できないほど変化のうねりに富み、そしてその変化のスピードは急速に進んでいる。その変化への対応を迫られる次世代の子どもたちに求められる能力や資質。それは、幅広い知識と柔軟な思考力に基づいて判断することや、他者と切磋琢磨しつつ異なる文化や歴史に立脚する人々との共存を図ることなどであり、変化に対応する能力や資質がこれまで以上に一層求められている。そして、これらを如何に具現化するかということから、平成19年に学校教育法の改正という形で法律上、次のように規定された。

学校教育法第30条の第2項

前項の場合においては、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

この第2項に含まれる、いわゆる学力の重要な「3つの要素」及び学習指導要領の改訂の7つの基本的な考え方を踏まえ、充実すべき重要事項の1つとして「言語活動の充実」が示された。この「言語活動の充実」とは、各教科等において思考力、判断力、表現力等を育む観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語環境を整え、言語活動の充実を図ることに配慮することとされている。

文部科学省は、学校への周知徹底を計るべく、学習指導要領解説書及び言語活動の充実に関する指導事例集を刊行し、解説や具体を例示することで学校現場への浸透を図っている。この2つの中で「言語活動の充実」として、国語科においては、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」のそれぞれに記録、要約、説明、論述といった言語活動を例示し、言語に関する能力を育成する中核的教科としての役割を明らかにしている。また、国語科以外の各教科等においても、教科等の特質に応じた言語活動の充実について、それぞれの教科で実施する学習活動の中で、具体的にどのように言語活動を充実させるかということを示している。

平成20年に公示された学習指導要領は、その内容の一部(算数・数学及び理科)は授業時数の増加の前倒しも含め、平成21年度に先行して実施された。

その翌年実施された平成22年度全国学力・学習状況調査では、その結果として、概要の中で「資料や情報に基づいて自分の考えや感想を明確に記述すること、日常的な事象について、筋道を立てて考え、数学的に表現することなど、思考力・判断力・表現力等といった『活用』に関する記述式問題を中心に課題が見られた。さらに、『知識』に関する問題においても引き続き課題が見られるなど、知識を活用する力を育成することと合わせ、基礎的・基本的な知識・技能も定着させることが重要である」※1と示された。この状況については、平成22年度に実施した佐賀県小・中学校学習状況調査の結果においても同様のことが明らかとなっている。

学習指導要領の一部が先行実施されたものの、そのねらいであった思考力・判断力・表現力等を育むには至っていないと示されたその翌年、平成23年度に小学校、更に、平成24年度に中学校が現行の学習指導要領に完全実施となった。

2 「2つの課題」

平成25年度の全国学力・学習状況調査(以下、全国調査)は、小学校及び中学校における学習指導要領の完全実施後、初の悉皆調査であった。佐賀県では、これを活用した佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査(以下、県調査)を実施した。

県調査の各教科の調査結果において、平成24年度の全国調査(抽出調査)結果で国立教育政策研究所が示した2つの課題が、平成25年度においてもほとんどの教科で未だ解決されていない状況であるということが明らかとなった。

「要努力」に位置する児童生徒の増加という課題

この2つの課題のうち、1つ目は成績下位層の生徒の割合が多いということである。これは全国に比べ佐賀県の場合は、より顕著であり、「平成25年度 全国学力・学習状況調査【都道府県別】集計結果」佐賀県版資料※2で示されている正答数分布グラフにおいて、小学校、中学校共に全国の公立学校の分布状況と比べ、成績下位層の割合が高いという状況であった。また「平成24年度 全国学力・学習状況調査【都道府県別】集計結果」佐賀県版資料※3においても同様の結果であったことから、2年連続の課題となっていることが分かる。

県調査においてもこの課題は明らかになっており、平成24年度の県調査から設定している修正エーベル法を用いた到達基準を基に、平成24年度と平成25年度の県調査の各教科を比較すると、小学校で10教科中7教科、中学校では16教科中11教科において、要努力の範囲に属する児童生徒の割合が増加していることが分かった。つまり、各学年の多くの教科において、何らかのつまずきが見られる児童生徒がここ数年増加する傾向にあるということである。

「解釈・考察し、説明すること」や自分の考えや意図を記述することに関する課題

先に述べた2つの課題のうち、2つ目は、「解釈・考察し、説明すること」や自分の考えや意図を記述することに関する課題である。各教科の正答率と意識調査のクロス集計の結果を見ても、自分の考えや意図を記述する設問に対し、解答していない児童生徒の正答率が低いことが分かる。これも小学校及び中学校共通の課題である。これは平成25年度だけでなく、平成24年度に行われた県調査においても「条件に合わせながら自分の考えを記述することなど、説明や表現、応用や活用については、全教科に共通した課題」であり、改善できていない。

3 「2つの課題」の改善に向けて

児童生徒の思考力・判断力・表現力等を育む観点から、学習指導要領に示された「言語活動の充実」であるが、平成24年度の県調査並びに全国調査で課題とされた「2つの課題」は、平成25年度の調査においてもいまだ解決されたとはいいがたい状況だと考えられる。

1つ目の課題として前述した『『要努力』に位置する児童生徒の増加という課題』についてであるが、到達基準で示す「要努力」に位置する児童生徒の状況は、楽観視できるものではない。教科の特性上、前年度の学習内容を踏まえた上で理解できる知識や内容なども多い。次年度に課題を繰り越すことなく、その学年で取り扱う内容はその年度のうちに着実を図る手立てを取ってほしい。もし、前学年の内容の着実を図られていない児童生徒がいる場合は、個別に対応するなどできるだけ早期に対策を行う必要がある。

また、2つ目の課題として示した『『解釈・考察し、説明すること』や自分の考えや意図を記述することに関する課題』についてであるが、これについては、学年や教科によってその原因や状況が異なる可能性がある。記述式の設問において、解答を書いていない状況であったとしても、この「解答しなかった理由」は、大きく次の3つのケースが考えられる。

- ① 解答しようとしたが、問題が難しくて解答できなかった。
- ② 解答を文章で書く設問であったため、解答しようと思わなかった。
- ③ 解答する時間が足りなかった。

また、上記①のように「問題が難しい」ということで結果的に解答しなかった場合、次の4つのケースが理由として考えられる。

- ① 問題文に書かれている意味が分からなかったので解答しなかった。
- ② 問題文の意味は分かったが、何を書いてよいか分からなかったので解答しなかった。
- ③ 問題文の意味は分かり、何を書いてよいかは分かったが、考えがまとまらなかったため解答しなかった。
- ④ 何を書いてよいかということの考えはまとまったが、解答に自信がなかったため解答しなかった。

記述式の設問において、何も書いていないことを単に無解答と捉えるにとどめるのではなく、上記の理由を念頭に指導に当たることが重要である。

最後に、報告書で示したデータ等は集団の状況を表しているものである。そして、その集団の要素は一人一人の児童生徒である。解決の手立てについては、授業における一斉指導等、集団に対して行えるものもあれば、個別指導でしか行えないものもあるだろう。

それぞれの教科の特性や、校種、各学校の状況などが異なることから、速効性のある効果的な解決策というものは見いだすことは難しい。しかし、この状況を放置してよいということにはならない。PDCAサイクルに基づいて、できる限り早く各学校で詳細な分析を行い、児童生徒一人一人に関する状況把握と、それを基にした教科や学級における個別対応、補充的学習などを通して、早急に対応してほしい。

《引用文献》

※1 平成22年度 全国学力・学習状況調査 調査結果のポイント

http://www.nier.go.jp/10chousakekkahoukoku/10_point.pdf

※2 平成25年度 全国学力・学習状況調査【都道府県別】集計結果 佐賀県版

http://www.nier.go.jp/13chousakekkahoukoku/data/area/41_saga/index.html

※3 平成24年度 全国学力・学習状況調査【都道府県別】集計結果 佐賀県版

http://www.nier.go.jp/12chousakekkahoukoku/todoufuken_shuukeikekka/41_saga.htm

《参考文献》

言語活動の充実に関する基本的な考え方

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/genngo/1306118.htm

最終更新日:2013-10-21